F 49 三ツ木東原C遺跡
D 57 上落合七輿遺跡

－毛野国白石丘陵公園外周道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査－

２０２１

群馬県藤岡市教育委員会

F 49 三ツ木東原C遺跡
D 57 上落合七輿遺跡

－毛野国白石丘陵公園外周道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査－

２０２１

群馬県藤岡市教育委員会

序

藤岡市には、旧石器時代から近代にいたるまで数多くの遺跡が残されています。中でも国史跡である白石稲荷山古墳や七輿山古墳に代表される古墳、中世の関東管領の居城であった平井城跡などの城跡、そして世界文化遺産に登録された国史跡の高山社跡を始めとした養蚕文化など、市内には著名な史跡・遺跡があり、これらは藤岡地域の歴史を語る上で欠くことのできない資産です。これらの遺跡を保護・保存しながら、未来へのまちづくりに活用することが文化財行政に求められている重要な課題であります。

本報告書は、三ツ木地区および上落合地区の毛野国白石丘陵公園整備事業に伴って平成 30 年度に実施した三ツ木東原Ｃ遺跡・上落合七輿遺跡の発掘調査結果を報告するものです。本遺跡では、旧石器時代の遺跡、縄文時代の住居跡、及び古墳時代から平安時代までの古代の住居跡などが見つかっています。これらは藤岡の先史時代・古代を考える上で非常に重要な資料であると考えられます。この成果を広く公開することによって、本報告書が藤岡地域の歴史をより深く理解するための一助となれば幸いに存じます。

最後に、埋蔵文化財発掘調査にご協力いただいた関係諸機関の方々、並びに市民の皆様のご理解とご協力に厚くお礼申し上げます。

令和３年３月

藤岡市教育委員会
教育長　田中　政文

例　言

1．本報告書は、平成 30 年度に実施された毛野国白石丘陵公園外周道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2．調査は、藤岡市都市建設部都市施設課の委託を受け、藤岡市教育委員会の指導・監督のもと、有限会社毛野考古学研究所が実施した。

3．発掘調査・整理調査の要項は次のとおりである。

［三ツ木東原Ｃ遺跡］

遺　跡　所　在　地：群馬県藤岡市白石・三ツ木地内
遺　跡　略　称　：F49
発 掘 調 査 期 間：平成 30 年 7 月 18 日～平成 31 年 3 月 25 日
整 理 調 査 期 間：令和 2 年 6 月 16 日～令和 3 年 2 月 26 日

［上落合七輿遺跡］

遺　跡　所　在　地：群馬県藤岡市上落合地内
遺　跡　略　称　：D57
発 掘 調 査 期 間：平成 30 年 7 月 18 日～平成 31 年 3 月 25 日
整 理 調 査 期 間：令和 2 年 6 月 16 日～令和 3 年 2 月 26 日

4．発掘調査は三ツ木東原Ｃ遺跡は小此木真理・髙橋清文・春里桃子（㈲毛野考古学研究所）、上落合七輿遺跡は小此木・山本千春（同）・春里が担当し、遺構測量・空撮は小出拓磨・石塚伸輝（同）が行った。

5．整理調査は常深尚・髙橋・春里・志村哲・有山径世・和久裕昭・山本・宮本久子・渡辺博子（㈲毛野考古学研究所）が担当した。本書の編集は常深が行った。原稿執筆は、第Ⅰ章を井上勉（藤岡市教育委員会）、第Ⅱ・Ⅴ章を山本、第Ⅲ章を春里、第Ⅳ章第 4 節 1・第 6 節 9・第Ⅵ章 2 を髙橋、第Ⅳ章第 5 節 1・第Ⅵ章 3 を志村、その他を常深が担当した。また、遺物写真撮影は常深が担当し、遺物実測は志村・和久・常深・土井道昭（㈲毛野考古学研究所）が担当した。自然科学分析は、三ツ木東原Ｃ遺跡のテフラ分析を早田勉氏（㈱火山灰考古学研究所）、上落合七輿遺跡のテフラ・重軽鉱物・珪藻化石・植物珪酸体分析をパリノ・サーヴェイ㈱に依頼し、それぞれの成果を第Ⅳ章第 7 節、第Ⅴ章第 6 節に掲載した。なお旧石器時代の石器の整理全般にわたって、軽部達也氏（藤岡市教育委員会文化財保護課長）に多大なご指導を頂いた。

6．調査に関わる資料は、一括して藤岡市教育委員会が保管している。

7．調査組織

教育委員会

教育長	田中　政文
教育部長	御供　英宏（平成 30 年度）、塚本　良（令和 2 年度）
文化財保護課長	軽部　達也
埋蔵文化財係長	井上　勉
事務担当	文挟健太郎
調査担当（三ツ木東原Ｃ遺跡）	小此木　真理・髙橋　清文・春里　桃子（有限会社毛野考古学研究所）
調査担当（上落合七輿遺跡）	小此木　真理・山本　千春・春里　桃子（有限会社毛野考古学研究所）

都市建設部

都市建設部長	田島　恒夫（平成 30 年度）、根岸　実（令和 2 年度）
都市施設課長	小林　直樹
都市施設係長	堀越　丞（平成 30 年度）、塚本　真詞（令和 2 年度）
事務担当	松本　拓也

8．発掘調査・整理作業に関わった方々は、下記のとおりである。（五十音順・敬称略）

【発掘調査】

赤見公一　秋山文男　天田眞由美　市川英一　稲田康夫　井上正三　今井志郎　入山孝司　上原美淑
大竹努　岡庭秋男　荻野俊　織田秀雄　金井美由紀　川端勝　菊池噢　菊池文男　岸ふじ江　北野進二
木村茂　木村知里　久保安美　小金澤均　小暮崇靖　小関泰洋　小林平　小林正和　齋藤勝　桜井豊
佐藤昭二　佐藤闕雄　佐藤秀子　篠崎英男　清水孝子　清水隆二　鈴木武　須永明　須永一輝　関通世
武井みち子　永井述史　橋元裕児　蓮沼利夫　星雄二　正木祐子　松井昭光　松井勝　松本明雄　松本幸男
三原昭夫　山田重雄　山田久志　山本勇　吉田豊信　四ツ柳亘

【整理調査】

阿原智子　池内麻美　石川陽子　石原理久子　磯洋子　内田恵美子　大塚規子　鬼形敦子　小野澤絹子
閑野一枝　合田幸子　下條真美代　須藤朋子　瀬尾則子　武士久美子　竹中美保子　永島美和子　半澤利江
日沖美奈子　深谷道子　桝田光代　山口昌子　吉村光恵

9．発掘調査の実施から報告書刊行に至る間、以下の方々に御指導・御協力を賜った。記して感謝の意を表したい。（順不同・敬称略）

阿久澤智和　岩崎泰一　小原俊行　角張憲子　栗島義明　小菅将夫　城倉正祥　進藤瑞生　須藤隆司
関口博幸　芹澤清八　早田勉　大工原豊　田辺凌基　津島秀章　戸塚瞬翼　外山政子　長崎潤一
前原豊　山崎芳春

凡　例

1．本書で用いた座標は世界測地系第Ⅳ系である。方位は真北、水平水準は海抜高である。

2．遺構は、種別を示す以下の記号と番号の組合せで標記した。

Ｊ：竪穴住居跡（縄文）　Ｈ：竪穴住居跡（古墳～平安）　Ｂ：掘立柱建物跡　Ｔ：竪穴状遺構
Ｍ：溝状遺構　Ｄ：土坑　Ｐ：ピット　ＳＵ：隧道状遺構　ＳＣ：石器集中地点

3．本文の遺構計測値及び遺物観察表の法量では、推定値を（　）、残存値を〈　〉で示した。

4．土層・遺物の色調は『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄著　財団法人日本色彩研究所）を使用した。
挿図中の網掛けは次のとおりである。

遺　構：被熱範囲

遺　物：磨面　灰釉　内黒　被熱　ガジリ　剥離

5．旧石器石材については、以下の略号を使用した。

An：安山岩　BAn：黒色安山岩　BSh：黒色頁岩　HSh：硬質頁岩　Sh：頁岩　Ob…黒曜石　Ch：チャート
RCh：赤チャート　WCh：白チャート　HMd：硬質泥岩　Sc：結晶片岩　SS：砂岩　GS：流紋岩　Ag：瑪瑙

6．旧石器時代の遺物分布図では、以下の記号を使用した。

器種別　▲：ナイフ形石器・台形様石器　◇：両面調整石器　★：スクレイパー　☆：使用痕を有する剥片
◎：二次調整痕を有する剥片　▸：縦長剥片　⦿：敲石　▣：台石　□：石核・残核
■：石核調整・打面作成剥片　▽：作業面調整・再生剥片　●：剥片　● ：砕片

石材別　●：黒色安山岩　◎：安山岩　■：黒色頁岩　□：硬質頁岩　▸：頁岩　☆：チャート
★：黒曜石　⦿：メノウ　▲：結晶片岩　◇：砂岩　▼：硬質泥岩　▽：緑色岩

目　次

序
例　言
凡　例
目　次
第Ⅰ章　調査に至る経緯 …… 1
第Ⅱ章　調査の方法と経過 …… 1
　第１節　調査の方法 …… 1
　第２節　調査の経過 …… 2
第Ⅲ章　遺跡の環境 …… 5
　第１節　地理的環境 …… 5
　第２節　歴史的環境 …… 6
第Ⅳ章　三ツ木東原Ｃ遺跡 …… 13
　第１節　調査の概要 …… 13
　第２節　基本層序 …… 13
　第３節　旧石器時代 …… 14
　　1.　第１文化層 …… 14
　　2.　第２文化層 …… 14
　第４節　縄文時代 …… 112
　　1.　竪穴住居跡 …… 112
　　2.　土　坑 …… 129
　　3.　ピット …… 139
　　4.　遺構外出土遺物 …… 146
　第５節　古墳時代 …… 151
　　1.　竪穴住居跡 …… 151
　　2.　遺構外出土遺物 …… 192
　第６節　奈良時代以降 …… 193
　　1.　竪穴住居跡 …… 193
　　2.　掘立柱建物跡 …… 198
　　3.　柵・ピット …… 199
　　4.　土　坑 …… 204
　　5.　土坑列 …… 221
　　6.　井戸跡 …… 227
　　7.　竪穴状遺構 …… 229
　　8.　溝 …… 230
　　9.　埋没谷・隧道状遺構 …… 230
　　10.　遺構外出土遺物 …… 237

第７節　自然科学分析 …… 238
1.　テフラ分析 …… 238
第Ⅴ章　上落合七輿遺跡 …… 245
第１節　調査の概要 …… 245
第２節　基本層序 …… 245
第３節　縄文時代 …… 258
1.　遺構外出土遺物 …… 258
第４節　古墳時代 …… 261
1.　竪穴住居跡 …… 261
2.　溝 …… 264
3.　遺構外出土遺物 …… 265
第５節　平安時代以降 …… 267
1.　竪穴住居跡 …… 267
2.　柵列 …… 270
3.　土坑 …… 272
4.　溝 …… 274
5.　ピット …… 275
6.　水田跡 …… 278
7.　遺構外出土遺物 …… 278
第６節　自然科学分析 …… 279
第Ⅵ章　総　括 …… 297
写真図版
報告書抄録
奥　付

挿図目次

第１図　調査位置図 …… 2
第２図　グリッド設定図 …… 4
第３図　周辺の地形 …… 5
第４図　周辺の遺跡 …… 7
第５図　基本層序図……13
第６図　旧石器調査トレンチ位置図 ……14
第７図　第１文化層 2a トレンチ遺物分布図 …15
第８図　第２文化層ブロック位置図 ……16
第９図　石器集中地点全体図・ブロック配置図 …19
第10図　石器集中地点 SC-2 ブロック配置図（器種別）……21
第11図　石器集中地点 SC-2 ブロック配置図（石材別）……23
第12図　石器集中地点 SC-2 接合関係図 ……25
第13図　石器集中地点 SC-1・3・4 接合関係図……27
第14図　1 ブロック遺物分布図①　……29
第15図　1 ブロック遺物分布図②　……30
第16図　1 ブロック出土石器　……31
第17図　2・3 ブロック遺物分布図①　……32
第18図　2・3 ブロック遺物分布図②　……33
第19図　3・5・8 ブロック出土石器　……34
第20図　4・5 ブロック遺物分布図①　……35
第21図　4・5 ブロック遺物分布図②　……36
第22図　4 ブロック出土石器　……37
第23図　6 ブロック遺物分布図①　……38
第24図　6 ブロック遺物分布図②　……39
第25図　6 ブロック出土石器……40
第26図　7 ブロック遺物分布図①……41
第27図　7 ブロック遺物分布図②　……42
第28図　7 ブロック出土石器①　……43
第29図　7 ブロック出土石器②　……44
第30図　7 ブロック出土石器③　……45
第31図　8 ブロック遺物分布図①　……45
第32図　8 ブロック遺物分布図②　……46
第33図　9 ブロック出土石器　……46
第34図　9 ブロック遺物分布図①　……47
第35図　9 ブロック遺物分布図②　……48
第36図　接合資料 1 遺物分布図　……49
第37図　接合資料 1 実測図　……49
第38図　接合資料 2 遺物分布図　……51
第39図　接合資料 2 実測図　……51
第40図　接合資料 3 遺物分布図　……53
第41図　接合資料 3 実測図①　……53
第42図　接合資料 3 実測図②　……54
第43図　接合資料 4 遺物分布図　……54
第44図　接合資料 4 実測図　……55
第45図　接合資料 5 遺物分布図　……56
第46図　接合資料 5 実測図　……57
第47図　接合資料 6 遺物分布図　……58
第48図　接合資料 6 実測図　……58
第49図　接合資料 7 遺物分布図　……59
第50図　接合資料 7 実測図　……59
第51図　接合資料 8 遺物分布図　……60
第52図　接合資料 8 実測図　……60
第53図　接合資料 9 遺物分布図　……61
第54図　接合資料 9 実測図　……61
第55図　接合資料 10 遺物分布図 ……62
第56図　接合資料 10 実測図 ……63
第57図　接合資料 11 遺物分布図 ……64
第58図　接合資料 11 実測図 ……64
第59図　接合資料 12 遺物分布図 ……65
第60図　接合資料 12 実測図 ……65
第61図　接合資料 13 遺物分布図 ……66
第62図　接合資料 14 遺物分布図 ……66
第63図　接合資料 13 実測図 ……67
第64図　接合資料 14 実測図 ……67
第65図　接合資料 15 遺物分布図 ……68
第66図　接合資料 15 実測図① ……68
第67図　接合資料 15 実測図② ……69
第68図　接合資料 16 遺物分布図 ……69
第69図　接合資料 16 実測図 ……70
第70図　接合資料 17 遺物分布図 ……71
第71図　接合資料 17 実測図① ……72
第72図　接合資料 17 実測図② ……73
第73図　接合資料 18 遺物分布図 ……74
第74図　接合資料 18 実測図① ……74

第75図　接合資料 18 実測図② ……75
第76図　接合資料 18 実測図③ ……76
第77図　接合資料 19 遺物分布図 ……76
第78図　接合資料 19 実測図 ……77
第79図　接合資料 20 実測図 ……78
第80図　接合資料 20 遺物分布図 ……79
第81図　接合資料 21 遺物分布図 ……79
第82図　接合資料 21 実測図 ……80
第83図　ブロック外出土石器実測図 ……81
第84図　調査区全体図（縄文時代以降）… 100
第85図　遺構位置図①（縄文時代以降）… 101
第86図　遺構位置図②（縄文時代以降）… 102
第87図　遺構位置図③（縄文時代以降）… 103
第88図　遺構位置図④（縄文時代以降）… 104
第89図　遺構位置図⑤（縄文時代以降）… 105
第90図　遺構位置図⑥（縄文時代以降）… 106
第91図　遺構位置図⑦（縄文時代以降）… 107
第92図　遺構位置図⑧（縄文時代以降）… 108
第93図　遺構位置図⑨（縄文時代以降）… 109
第94図　遺構位置図⑩（縄文時代以降）… 110
第95図　遺構位置図⑪（縄文時代以降）… 111
第96図　Ｊ－１号住居跡遺物実測図①　… 112
第97図　Ｊ－１号住居跡遺構図①　…… 113
第98図　Ｊ－１号住居跡遺構図②　…… 114
第99図　Ｊ－１号住居跡遺構図③　…… 115
第100図　Ｊ－１号住居跡遺物実測図② … 116
第101図　Ｊ－１号住居跡遺物実測図③ … 117
第102図　Ｊ－２号住居跡遺物実測図 …… 118
第103図　Ｊ－２号住居跡遺構図 …… 119
第104図　Ｊ－３号住居跡遺構図① …… 121
第105図　Ｊ－３号住居跡遺構図② …… 122
第106図　Ｊ－３号住居跡遺構図③ …… 123
第107図　Ｊ－３号住居跡遺物実測図① … 123
第108図　Ｊ－３号住居跡遺物実測図② … 124
第109図　Ｊ－３号住居跡遺物実測図③ … 125
第110図　Ｊ－３号住居跡遺物実測図④ … 126
第111図　Ｊ－３号住居跡遺物実測図⑤ … 127
第112図　Ｄ－２・10・11・12 号土坑遺構図… 130
第113図　Ｄ-13・15b・16・20・21 号土坑遺構図… 131
第114図　Ｄ-22・23・43・52・54 号土坑遺構図… 133
第115図　Ｄ-56・61・64・69 号土坑遺構図… 135
第116図　Ｄ-86・87・88 号土坑遺構図 … 136
第117図　Ｄ-２・10・11・12・21・54・56 号土坑遺物実測図 … 137
第118図　Ｄ-20・22・23・43・61・64・69 号土坑遺物実測図 … 138
第119図　Ｄ-69・86・88 号土坑、Ｐ-37 号ピット遺物実測図 … 139
第120図　Ｄ-20・22 号土坑遺物実測図 … 140
第121図　Ｄ-22 号土坑遺物実測図 …… 141
第122図　Ｄ-86 号土坑遺物実測図 …… 142
第123図　縄文時代遺構外遺物実測図① … 146
第124図　縄文時代遺構外遺物実測図② … 147
第125図　縄文時代遺構外遺物実測図③ … 148
第126図　縄文時代遺構外遺物実測図④ … 149
第127図　Ｈ－１号住居跡遺構図 …… 151
第128図　Ｈ－１号住居跡遺物実測図 …… 152
第129図　Ｈ－３号住居跡遺構図① …… 153
第130図　Ｈ－３号住居跡遺構図② …… 154
第131図　Ｈ－３号住居跡遺構図③ …… 155
第132図　Ｈ－３号住居跡遺物実測図① … 156
第133図　Ｈ－３号住居跡遺物実測図② … 157
第134図　Ｈ－３号住居跡遺物実測図③ … 158
第135図　Ｈ－５号住居跡遺構図 …… 161
第136図　Ｈ－５号住居跡遺物実測図 …… 161
第137図　Ｈ－６号住居跡遺構図 …… 163
第138図　Ｈ－６号住居跡遺物実測図 …… 164
第139図　Ｈ－７号住居跡遺構図 …… 165
第140図　Ｈ－７号住居跡遺物実測図 …… 165
第141図　Ｈ－８号住居跡遺構図① …… 167
第142図　Ｈ－８号住居跡遺構図② …… 168
第143図　Ｈ－８ａ号住居跡遺物実測図 … 169
第144図　Ｈ－９号住居跡遺構図 …… 171
第145図　Ｈ－９号住居跡遺物実測図 …… 172
第146図　Ｈ-10 号住居跡遺物実測図 …… 173
第147図　Ｈ-10 号住居跡遺構図 …… 174
第148図　Ｈ-11 号住居跡遺構図 …… 175
第149図　Ｈ-11 号住居跡遺物実測図 …… 176
第150図　Ｈ-12 号住居跡遺構図① …… 177
第151図　Ｈ-12 号住居跡遺構図② …… 178
第152図　Ｈ-12 号住居跡遺構図③ …… 179

第153図　Ｈ-12 号住居跡遺構図④ …… 180
第154図　Ｈ-12 号住居跡遺物実測図① … 181
第155図　Ｈ-12 号住居跡遺物実測図② … 182
第156図　Ｈ-13 号住居跡遺構図 …… 184
第157図　Ｈ-13 号住居跡遺物実測図 …… 184
第158図　Ｈ-14 号住居跡遺構図① …… 185
第159図　Ｈ-14 号住居跡遺構図② …… 186
第160図　Ｈ-15 号住居跡遺物実測図 …… 187
第161図　Ｈ-15 号住居跡遺構図 …… 188
第162図　Ｈ-16 号住居跡遺構図① …… 190
第163図　Ｈ-16 号住居跡遺構図② …… 191
第164図　Ｈ-16 号住居跡遺物実測図 …… 191
第165図　古墳時代遺構外遺物実測図 …… 192
第166図　Ｈ－２号住居跡遺構図 …… 193
第167図　Ｈ－４号住居跡遺構図 …… 194
第168図　Ｈ－４号住居跡遺物実測図① … 195
第169図　Ｈ－４号住居跡遺物実測図② … 196
第170図　Ｈ-19 号住居跡遺構図 …… 197
第171図　Ｈ-19 号住居跡遺物実測図 …… 197
第172図　Ｂ－１号掘立柱建物跡遺構図 … 198
第173図　１号柵・２号柵遺構図 …… 199
第174図　Ｄ－１・３・４・５号土坑遺構図 … 205
第175図　Ｄ-７・８・９・14・15a 号土坑遺構図… 206
第176図　Ｄ-17・18・19・24・25 号土坑遺構図… 207
第177図　Ｄ-26・27・28 号土坑遺構図 … 209
第178図　Ｄ-29・30・31・32・42・50 号土坑遺構図… 211
第179図　Ｄ-33・34・35・36・38・39 号土坑遺構図… 213
第180図　Ｄ-37・40・41・48 号土坑遺構図… 215
第181図　Ｄ-44・45・46・47・51・53・55 号土坑遺構図 … 217
第182図　Ｄ-49・70・72・76 号土坑遺構図 … 218
第183図　Ｄ-71・77・78・79・80 号土坑遺構図 … 219
第184図　Ｄ-81・82・89 号土坑遺構図 … 220
第185図　Ｄ-17・37・48 号土坑遺物実測図 … 222
第186図　Ｄ-57・58・59・60・63・65・66・67 号土坑遺構図 … 224
第187図　Ｄ-68・73・74・75 号土坑遺構図 … 225
第188図　Ｄ-58・60・65 号土坑遺物実測図 … 226
第189図　Ｄ－６号土坑遺物実測図 …… 227
第190図　Ｄ－６号土坑遺構図 …… 228
第191図　Ｔ－１号竪穴状遺構遺構図 …… 229
第192図　Ｍ－１号溝遺構図① …… 230
第193図　Ｍ－１号溝遺構図② …… 231
第194図　Ｍ－２・３号溝遺構図 …… 232
第195図　Ｍ－１号溝遺物実測図 …… 233
第196図　埋没谷遺構図 …… 234
第197図　ＳＵ－１号隧道状遺構遺構図① … 235
第198図　ＳＵ－１号隧道状遺構遺構図② … 236
第199図　奈良時代以降遺構外遺物実測図 … 237
第200図　土層柱状図 …… 243
第201図　テフラ分析写真 …… 244
第202図　基本層序 …… 245
第203図　調査区全体図 …… 246
第204図　遺構位置図① …… 247
第205図　遺構位置図② …… 248
第206図　遺構位置図③ …… 249
第207図　遺構位置図④ …… 250
第208図　遺構位置図⑤ …… 251
第209図　遺構位置図⑥ …… 252
第210図　遺構位置図⑦ …… 253
第211図　遺構位置図⑧ …… 254
第212図　遺構位置図⑨ …… 255
第213図　遺構位置図⑩ …… 256
第214図　遺構位置図⑪ …… 257
第215図　縄文時代遺構外遺物実測図① … 258
第216図　縄文時代遺構外遺物実測図② … 259
第217図　Ｈ－１号住居跡遺物実測図 …… 261
第218図　Ｈ－１号住居跡遺構図 …… 262
第219図　Ｈ－２号住居跡遺構図・遺物実測図 … 263
第220図　Ｍ－１号溝遺構図 …… 264
第221図　Ｍ－１号溝遺物実測図 …… 265
第222図　古墳時代遺構外遺物実測図① … 265
第223図　古墳時代遺構外遺物実測図② … 266
第224図　Ｈ－３号住居跡遺構図・遺物実測図 … 267
第225図　Ｈ－４号住居跡遺構図 …… 268
第226図　Ｈ－４号住居跡遺物実測図 …… 269
第227図　１号柵列遺構図 …… 270
第228図　２号柵列遺構図 …… 271
第229図　３号柵列遺構図 …… 271
第230図　４号柵列遺構図 …… 272

第231図　Ｄ－１号土坑遺構図 …… 272
第232図　Ｄ－２号土坑遺構図 …… 272
第233図　Ｄ－３・５・６号土坑遺構図 … 273
第234図　Ｄ－７号土坑遺構図 …… 273
第235図　Ｄ－８号土坑遺構図 …… 274
第236図　Ｍ－２号溝遺構図 …… 274
第237図　Ｐ-65 号ピット遺物実測図 …… 277
第238図　水田範囲想定図 …… 278
第239図　平安時代遺構外遺物実測図 …… 278
第240図　溝状遺構の試料採取位置（上：西面、下：東面）… 280
第241図　トレンチ 15 の試料採取位置　… 281
第242図　溝状遺構直下粘土層重軽鉱物組成… 285
第243図　主要珪藻化石群集の層位分布 … 287
第244図　トレンチ15における植物珪酸体含量の層位的変化 … 289
第245図　テフラ …… 294
第246図　重軽鉱物 …… 295
第247図　植物珪酸体 …… 295
第248図　珪藻化石 …… 296
第249図　ブロックの配置 …… 297
第250図　縄文時代の主要遺構（三ツ木東原Ｃ遺跡）… 299
第251図　Ｈ-12 号住居跡空間利用図 …… 300
第252図　七輿山古墳・上落合遺跡 土層断面図 … 302
第253図　七輿山古墳 兆域模式図 …… 303
第254図　七輿山古墳 外堤拡大図 …… 303
第255図　平安時代~中世の主要遺構（三ツ木東原Ｃ遺跡）… 305

挿表目次

第１表　周辺遺跡一覧表①　……10
第２表　周辺遺跡一覧表②　……11
第３表　周辺遺跡一覧表③　……12
第４表　第１文化層出土石器器種組成表　…15
第５表　第１文化層出土石器石材組成表　…15
第６表　第２文化層ブロック別器種組成表 …17
第７表　第２文化層ブロック別石材組成表 …17
第８表　第２文化層ブロック別器種法量（平均値）…18
第９表　第２文化層石材別石器組成表　……18
第10表　第１文化層出土石器計測表①　……82
第11表　第１文化層出土石器計測表②　……83
第12表　第２文化層出土石器計測表①　……84
第13表　第２文化層出土石器計測表②　……85
第14表　第２文化層出土石器計測表③　……86
第15表　第２文化層出土石器計測表④　……87
第16表　第２文化層出土石器計測表⑤　……88
第17表　第２文化層出土石器計測表⑥　……89
第18表　第２文化層出土石器計測表⑦　……90
第19表　第２文化層出土石器計測表⑧　……91
第20表　第２文化層出土石器計測表⑨　……92
第21表　第２文化層出土石器計測表⑩　……93
第22表　第２文化層出土石器計測表⑪　……94
第23表　第２文化層出土石器計測表⑫　……95
第24表　第２文化層出土石器計測表⑬　……96
第25表　第２文化層出土石器計測表⑭　……97
第26表　第２文化層出土石器計測表⑮　……98
第27表　第２文化層出土石器計測表⑯　……99
第28表　Ｊ－１号住居跡出土遺物観察表① … 117
第29表　Ｊ－１号住居跡出土遺物観察表② … 118
第30表　Ｊ－２号住居跡出土遺物観察表 … 120
第31表　Ｊ－３号住居跡出土遺物観察表① … 128
第32表　Ｊ－３号住居跡出土遺物観察表② … 129
第33表　Ｄ－２号土坑出土遺物観察表　… 143
第34表　Ｄ-10 号土坑出土遺物観察表　… 143
第35表　Ｄ-11 号土坑出土遺物観察表　… 143
第36表　Ｄ-12 号土坑出土遺物観察表　… 143
第37表　Ｄ-20 号土坑出土遺物観察表　… 143
第38表　Ｄ-21 号土坑出土遺物観察表　… 143
第39表　Ｄ-22 号土坑出土遺物観察表① … 143
第40表　Ｄ-22 号土坑出土遺物観察表② … 144
第41表　Ｄ-23 号土坑出土遺物観察表　… 144
第42表　Ｄ-43 号土坑出土遺物観察表　… 144
第43表　Ｄ-54 号土坑出土遺物観察表　… 144
第44表　Ｄ-56 号土坑出土遺物観察表　… 144
第45表　Ｄ-61 号土坑出土遺物観察表　… 144
第46表　Ｄ-64 号土坑出土遺物観察表　… 145
第47表　Ｄ-69 号土坑出土遺物観察表　… 145
第48表　Ｄ-86 号土坑出土遺物観察表　… 145
第49表　Ｄ-88 号土坑出土遺物観察表　… 145
第50表　Ｐ-37 号ピット出土遺物観察表 … 145

第51表　縄文時代遺構外出土遺物観察表① … 149
第52表　縄文時代遺構外出土遺物観察表② … 150
第53表　Ｈ－１号住居跡出土遺物観察表 … 152
第54表　Ｈ－３号住居跡出土遺物観察表① … 159
第55表　Ｈ－３号住居跡出土遺物観察表② … 160
第56表　Ｈ－５号住居跡出土遺物観察表 … 162
第57表　Ｈ－６号住居跡出土遺物観察表 … 163
第58表　Ｈ－７号住居跡出土遺物観察表 … 166
第59表　Ｈ－８a号住居跡出土遺物観察表① … 169
第60表　Ｈ－８a号住居跡出土遺物観察表② … 170
第61表　Ｈ－９号住居跡出土遺物観察表① … 172
第62表　Ｈ－９号住居跡出土遺物観察表② … 173
第63表　Ｈ-10 号住居跡出土遺物観察表 … 175
第64表　Ｈ-11 号住居跡出土遺物観察表 … 176
第65表　Ｈ-12 号住居跡出土遺物観察表① … 181
第66表　Ｈ-12 号住居跡出土遺物観察表② … 183
第67表　Ｈ-13 号住居跡出土遺物観察表 … 184
第68表　Ｈ-14 号住居跡出土遺物観察表 … 187
第69表　Ｈ-15 号住居跡出土遺物観察表 … 189
第70表　Ｈ-16 号住居跡出土遺物観察表① … 191
第71表　Ｈ-16 号住居跡出土遺物観察表② … 192
第72表　古墳時代遺構外出土遺物観察表 … 193
第73表　Ｈ－２号住居跡出土遺物観察表 … 194
第74表　Ｈ－４号住居跡出土遺物観察表 … 196
第75表　Ｈ-19 号住居跡出土遺物観察表 … 197
第76表　ピット一覧表① …… 200
第77表　ピット一覧表② …… 201
第78表　ピット一覧表③ …… 202
第79表　ピット一覧表④ …… 203
第80表　Ｄ-17 号土坑出土遺物観察表 … 222
第81表　Ｄ-37 号土坑出土遺物観察表 … 222
第82表　Ｄ-48 号土坑出土遺物観察表 … 222
第83表　Ｄ-58 号土坑出土遺物観察表 … 227
第84表　Ｄ-60 号土坑出土遺物観察表 … 227
第85表　Ｄ-65 号土坑出土遺物観察表 … 227
第86表　Ｄ－６号土坑出土遺物観察表① … 228
第87表　Ｄ－６号土坑出土遺物観察表② … 229
第88表　Ｍ－１号溝出土遺物観察表 …… 233
第89表　奈良時代以降遺構外出土遺物観察表 … 237
第90表　テフラ検出分析結果 …… 242
第91表　火山ガラス比分析結果 …… 242
第92表　屈折率測定結果 …… 242
第93表　縄文時代遺構外出土遺物観察表① … 260
第94表　縄文時代遺構外出土遺物観察表② … 261
第95表　Ｈ－１号住居跡出土遺物観察表 … 262
第96表　Ｈ－２号住居跡出土遺物観察表 … 263
第97表　Ｍ－１号溝出土遺物観察表 …… 265
第98表　古墳時代遺構外出土遺物観察表 … 266
第99表　Ｈ－３号住居跡出土遺物観察表 … 267
第100表 Ｈ－４号住居跡出土遺物観察表 … 270
第101表 ピット一覧表① …… 275
第102表 ピット一覧表② …… 276
第103表 ピット一覧表③ …… 277
第104表 Ｐ-65 号ピット出土遺物観察表 … 277
第105表 平安時代遺構外出土遺物観察表 … 278
第106表 テフラ分析結果 …… 284
第107表 溝状遺構直下粘土層の重軽鉱物分析結果 … 284
第108表 珪藻分析結果 …… 286
第109表 植物珪酸体含量 …… 289
第110表 藤岡市内の間仕切り住居一覧表 … 300

写真図版目次

【三ツ木東原Ｃ遺跡】
PL. １　調査区全景（西から、旧石器時代の調査）
　　調査区遠景（西から、縄文時代以降の調査）
PL. ２　旧石器時代調査区近景（西から、SC-1・2・3）
　　旧石器時代調査区南壁断面及び石器出土状況（北から、SC-3）
PL. ３　出土石器／出土石器
PL. ４　出土石器／石器接合資料
PL. ５　Ｊ－１号住居跡全景（南東から）
　　Ｊ－１号住居跡炉跡全景（東から）
PL. ６　Ｊ－３号住居跡全景（東から）
PL. ７　ＳＣ－１石器出土状況（北から）
　　ＳＣ－１北壁断面（南から）
　　ＳＣ-１石器出土状況（北西から、３ブロック）
　　ＳＣ－１石器出土状況（北西から）
　　ＳＣ－１石器出土状況（北西から）
PL. ８　ＳＣ－２石器出土状況（西から）

ＳＣ－２石器出土状況(北から、４ブロック)
ＳＣ－２石器出土状況(北から、６ブロック)
ＳＣ－２石器出土状況(北から、７・８ブロック)
ＳＣ－２石器出土状況(北から、７ブロック)
PL. 9　ＳＣ－２石器出土状況(南から、４・５ブロック)
ＳＣ－２炭化物出土状況(東から、５ブロック)
ＳＣ－２台石出土状況(南から、No. 357)
ＳＣ－２台石出土状況(東から、４ブロック、No. 356)
ＳＣ－２台石出土状況(南東から、６ブロック、No. 354・355)
ＳＣ－２台石出土状況(東から、７ブロックNo. 360)
ＳＣ－２台石出土状況(西から、７ブロックNo. 359)
ＳＣ－２石器出土状況(北西から、５ブロックNo. 051)
PL. 10　ＳＣ－３石器出土状況(北から、９ブロック)
ＳＣ－３石器出土状況(北西から、９ブロック)
ＳＣ－３石器出土状況（北から）
ＳＣ－３石器出土状況（北から）
ＳＣ－３石器出土状況（北から）
PL. 11　ＳＣ－４石器出土状況(北から、１ブロック)
２ａトレンチ石器出土状況（南から）
PL. 12　Ｊ－１号住居跡全景（西から）
Ｊ－１号住居跡掘り方全景（北から）
PL. 13　Ｊ－２号住居跡全景（北東から）
Ｊ－２号住居跡炉跡検出状況（西から）
PL. 14　Ｊ－３号住居跡全景（北東から）
Ｊ－３号住居跡上層遺物出土状況（北から）
Ｊ－３号住居跡中層遺物出土状況（東から）
Ｊ－３号住居跡下層遺物出土状況（東から）
Ｊ－３号住居跡掘り方全景（東から）
PL. 15　Ｄ－２号土坑全景（北から）
Ｄ－16 号土坑全景（東から）
Ｄ－43 号土坑全景（南から）
Ｄ－12 号土坑全景（北東から）
Ｄ－12 号土坑遺物出土状況（北西から）
Ｄ－15 ｂ号土坑全景（北西から）
Ｄ－20 号土坑遺物出土状況（西から）
Ｄ－21 号土坑遺物出土状況（東から）
PL. 16　Ｄ－22 号土坑全景（南から）
Ｄ－22 号土坑遺物出土状況（東から）
Ｄ－23 号土坑全景（北西から）
Ｄ－23 号土坑遺物出土状況（北西から）
Ｄ－52 号土坑全景（西から）
Ｄ－54 号土坑全景（東から）
Ｄ－56 号土坑遺物出土状況（西から）
Ｄ－64 号土坑全景（北から）
PL. 17　Ｄ－64 号土坑遺物出土状況（北から）
Ｄ－69 号土坑遺物出土状況（東から）
Ｄ－86 号土坑全景（南から）
Ｄ－88 号土坑全景（南東から）
Ｄ－86 号土坑遺物出土状況（南から）
PL. 18　Ｈ－１号住居跡全景（北西から）
Ｈ－３号住居跡全景（西から）
PL. 19　Ｈ－３号住居跡遺物出土状況（西から）
Ｈ－３号住居跡カマド遺物出土状況(西から)
Ｈ－３号住居跡旧カマド遺物出土状況(東から)
Ｈ－３号住居跡貯蔵穴全景（西から）
Ｈ－３号住居跡掘り方全景（西から）
PL. 20　Ｈ－５号住居跡全景（北から）
Ｈ－６号住居跡全景（北から）
Ｈ－６号住居跡遺物出土状況(北西から)
Ｈ－７号住居跡遺物出土状況(南東から)
Ｈ－７号住居跡遺物出土状況（北から）
PL. 21　Ｈ－８号住居跡全景（西から）
Ｈ－８号住居跡カマド全景（西から）
Ｈ－８ｂ号住居跡全景（西から）
Ｈ－８号住居跡Ｄ－２・３全景(南から)
Ｈ－８号住居跡掘り方全景（西から）
PL. 22　Ｈ－９号住居跡遺物出土状況（北から）
Ｈ－９号住居跡掘り方全景（西から）
Ｈ-10 号住居跡遺物出土状況(北西から)
Ｈ-11 号住居跡全景（南東から）
Ｈ-12 号住居跡全景（南東から）
PL. 23　Ｈ-12 号住居跡遺物出土状況（南から）
Ｈ-12 号住居跡カマド遺物出土状況(南から)
PL. 24　Ｈ-12 号住居跡掘り方全景（南から）
Ｈ-12 号住居跡遺物出土状況(北西から)
Ｈ-12 号住居跡カマド全景（南から）
Ｈ-12 号住居跡Ｐ－５遺物出土状況(南から)
Ｈ-14 号住居跡全景（東から）
PL. 25　Ｈ-13 号住居跡全景（東から）
Ｈ-14 号住居跡遺物出土状況（南から）
Ｈ-15 号住居跡Ｐ－２根石出土状況(北から)
Ｈ-15 号住居跡掘り方全景（北から）
Ｈ-15 号住居跡遺物出土状況（東から）
PL. 26　Ｈ-16 号住居跡全景（西から）
Ｈ-16 号住居跡掘り方全景（西から）
Ｈ-16 号住居跡掘り方遺物出土状況(南東から)

Ｈ-19 号住居跡全景（北から）
Ｄ－６号土坑土層断面（南から）
Ｄ－６号土坑全景（北から）
PL. 27　Ｈ－２号住居跡全景（北から）
Ｈ－４号住居跡全景（北から）
Ｈ－４号住居跡遺物出土状況（西から）
Ｈ－４号住居跡炉跡全景（北から）
PL. 28　土坑列全景（空撮、上が北）
土坑列Ｄ-58 号土坑全景（東から）
土坑列Ｄ-59 号土坑全景（東から）
土坑列Ｄ-65 号土坑全景（東から）
土坑列Ｄ-67 号土坑全景（東から）
PL. 29　土坑列全景（北から）
土坑列Ｄ-60 号土坑土層断面（東から）
土坑列Ｄ-63 号土坑土層断面（東から）
土坑列Ｄ-67 号土坑土層断面（南から）
土坑列Ｄ-73 号土坑土層断面（南から）
PL. 30　ＳＵ－１号隧道状遺構全景（東から）
ＳＵ－１号隧道状遺構全景（北から）
PL. 31　ＳＵ－１号隧道状遺構近景（西から）
ＳＵ－１号隧道状遺構出入り口(北から)
ＳＵ－１号隧道状遺構土層断面(北から)
ＳＵ－１号隧道状遺構土層断面(北から)
埋没谷及びＳＵ-１号隧道状遺構全景(北東から)
PL. 32　Ｍ－１号溝全景（東から）
Ｍ－１号溝全景（西から）
Ｍ－１号溝土層断面（北から）
Ｍ－１号溝土層断面（東から）
【上落合七輿遺跡】
PL. 33　調査区全景（南西から）
１・２区全景（北から）
PL. 34　１・２区遠景（南から）
１区南側全景（北から）
PL. 35　１区南側遠景（北東から）
１区南側遠景（西から）
PL. 36　１区北側～２区南側全景（東から）
１区北側水田跡全景（東から）
２区全景（東から）
２区南側全景（東から）
PL. 37　２・３区遠景（西から）
２区北側～３区全景（南東から）
PL. 38　３区北側全景（西から）
１区６号トレンチ全景（南西から）
１区 10 号トレンチ全景（南西から）
１区 11 号トレンチ遺物出土状況(北から)
１区５号トレンチ断面（東から）
２区 18 号トレンチ断面（東から）
PL. 39　Ｈ－１号住居跡全景（西から）
Ｈ-１号住居跡カマド遺物出土状況(西から)
Ｈ－１号住居跡掘り方全景（西から）
Ｈ-１号住居跡カマド掘り方全景(西から)
PL. 40　Ｈ－２号住居跡遺物出土状況（西から）
Ｈ－２号住居跡掘り方全景（西から）
Ｍ－１号溝全景（南西から）
PL. 41　Ｍ－１号溝全景（北西から）
Ｍ－１号溝断面（東から）
Ｍ－１号溝断面（西から）
PL. 42　Ｈ－３号住居跡全景（東から）
Ｈ－３号住居跡断面（北西から）
Ｈ－３号住居跡掘り方全景（西から）
Ｈ－４号住居跡遺物出土状況（西から）
PL. 43　Ｈ－４号住居跡全景（西から）
Ｈ－４号住居跡カマド全景（西から）
Ｈ－４号住居跡貯蔵穴全景（西から）
Ｈ-４号住居跡カマド掘り方全景(西から)
Ｈ－４号住居跡掘り方全景（西から）
PL. 44　１区水田跡全景（南東から）
１区水田跡断面（南から）
Ｄ－２号土坑全景（西から）
Ｄ－６号土坑全景（南から）
Ｄ－７号土坑全景（東から）
１区ピット列全景（北西から）
【三ツ木東原Ｃ遺跡】
PL. 45　１・３・４・５ブロック出土石器
PL. 46　６・７ブロック出土石器
PL. 47　７ブロック出土石器
PL. 48　８・９ブロック出土石器、接合資料１・2
PL. 49　接合資料3･4･12
PL. 50　接合資料5
PL. 51　接合資料10･11
PL. 52　接合資料13･19
PL. 53　接合資料17
PL. 54　接合資料17
PL. 55　接合資料14･20
PL. 56　接合資料15･21
PL. 57　接合資料6･16、ブロック外出土石器

PL.58　接合資料7･8･9
PL.59　接合資料18
PL.60　Ｊ－１号住居跡出土遺物
PL.61　Ｊ－２・３号住居跡出土遺物
PL.62　Ｊ－３号住居跡出土遺物
PL.63　Ｊ－１・２号住居跡出土遺物
PL.64　Ｊ－３号住居跡出土遺物
PL.65　D-12･20号土坑出土遺物
PL.66　D－２･10･11･20･21･22･23･43･61･64･69号土坑、P-37号ピット、遺構外出土遺物
PL.67　D-64･69･86･88号土坑出土遺物
PL.68　D-20･22･86号土坑出土遺物
PL.69　D-21･54･56号土坑出土遺物、遺構外出土遺物
PL.70　遺構外出土遺物
PL.71　Ｊ-１・３号住居跡出土遺物、遺構外出土遺物
PL.72　Ｈ－１・３号住居跡出土遺物
PL.73　Ｈ－１・３・５・６号住居跡出土遺物
PL.74　Ｈ－３号住居跡出土遺物
PL.75　Ｈ－１・３号住居跡出土遺物
PL.76　Ｈ－３・５号住居跡出土遺物
PL.77　Ｈ－５・６号住居跡出土遺物
PL.78　Ｈ－６・７・10・11・13・14・15号住居跡出土遺物
PL.79　Ｈ－６・７・８号住居跡出土遺物
PL.80　Ｈ－８・９号住居跡出土遺物
PL.81　Ｈ-10・11・12号住居跡出土遺物
PL.82　Ｈ-12号住居跡出土遺物
PL.83　Ｈ-12号住居跡出土遺物
PL.84　Ｈ-13・15・16号住居跡出土遺物
PL.85　Ｈ-16号住居跡出土遺物、遺構外出土遺物
PL.86　D－６号土坑出土遺物
PL.87　Ｈ－４・19号住居跡出土遺物
PL.88　Ｈ－２・４・19号住居跡出土遺物、Ｄ-48・58・60・65号土坑出土遺物、Ｍ－１号溝出土遺物、遺構外出土遺物
PL.89　Ｄ-17・37号土坑出土遺物、Ｍ－１号溝出土遺物
PL.90　遺構外出土遺物
【上落合七輿遺跡】
PL.91　遺構外出土遺物
PL.92　遺構外出土遺物
PL.93　Ｈ－１・２・３号住居跡出土遺物、Ｍ－１号溝出土遺物、遺構外出土遺物
PL.94　Ｈ－４号住居跡出土遺物、Ｐ-65号ピット出土遺物
PL.95　遺構外出土遺物

第Ⅰ章　調査に至る経緯

三ツ木東原Ｃ遺跡・上落合七輿遺跡の発掘調査は、毛野国白石丘陵公園外周道路建設工事に伴い、平成 30 年 7 月 18 日から同 31 年 3 月 25 日にかけて実施された。

平成 27 年 8 月 11 日に藤岡市都市計画課より毛野国白石丘陵公園外周道路新設工事について文化財保護法第 94 条通知が提出されたことを受けて、文化財保護課で平成 28 年 1 月 26 日から 2 月 5 日にかけて試掘調査を行った結果、遺跡の存在が確認されたため、工事に先立って「発掘調査」を平成 28 年 3 月 31 日付藤教文発第 367 号により指導した。

発掘調査については担当課と協議を続け、群馬県登録民間発掘調査組織に委託して発掘調査に臨むことになった。平成 30 年 6 月 19 日付で藤岡市長新井雅博と有限会社毛野考古学研究所との間で埋蔵文化財発掘調査業務委託契約が締結され、同日に藤岡市教育委員会を加えた三者協定を締結、また文化財保護法第 92 条の届出が有限会社毛野考古学研究所より提出され、藤岡市教育委員会から群馬県教育委員会へ進達した。その後、群馬県教育委員会より「文化財保護法」「群馬県埋蔵文化財発掘調査取り扱い基準」「群馬県埋蔵文化財発掘調査基準」を遵守するよう通知が出されたため、調査組織へ伝達し、発掘調査の実施となった。

なお、発掘調査開始時には、遺跡名を「F49 三ツ木東原Ｃ遺跡」として台地上の三ツ木地区をⅠ区、台地下の上落合地区をⅡ区として調査を進めていたが、三ツ木地区と上落合地区との間に地形・遺跡の断絶があることから、上落合地区については新たに「D57 上落合七輿遺跡」と呼称することとなった。

第Ⅱ章　調査の方法と経過

第１節　調査の方法

現地における発掘調査は、藤岡市教育委員会による試掘調査結果に基づき、重機で表土等を掘削した後、人力による遺構精査を行った。遺構の掘削はジョレン･移植ゴテなどの掘削用具にて行った。遺構の掘り下げにあたっては、遺物の出土状態に留意すると共に、土層観察用のベルトを残し、遺構の埋没状態を確認した。記録作業は測量および写真撮影で対応し、作業の進捗状況に応じて適宜行った。遺構の写真撮影及び実測図作成については、埋没土の堆積状態、完掘状態の各局面を記録した。測量杭は日本測地系（国家座標Ⅸ系）に基づき設置した。位置表示の基準となるグリッド杭はＸ＝ 29480、Ｙ＝－ 71540 を起点とした。４ｍ四方のグリッドを基本単位とし南北方向は 100 ｍ毎に大文字のＡ・Ｂ・Ｃ…と付し、100 ｍの間は北から４ｍ毎に小文字のａ・ｂ・ｃ…ｙと付した。東西方向は４ｍ毎に１・２・３…と通し番号で呼称し、Ａａ－１グリッドのように呼称した。平面測量はトータルステーション、断面測量は基準点からの測り込みによって行った。写真撮影には、35㎜判のフィルムカメラ（モノクロ･リバーサル）、デジタルカメラ（NikonD3400）を使用し、航空写真はドローン（DJIFC300C）で行った。なお、現地調査では現況で使用されている道路や畑、国指定史跡七輿山古墳の散策路に面していることに鑑み、周辺への発掘調査実施の周知化、安全柵・注意喚起の看板・常夜灯の設置など出来得る限りの安全対策を講じた。

整理作業・報告書作成にあたっては、出土遺物は洗浄・注記の後、遺構毎に接合作業を行った。遺物の接合にはセメダインＣ、補強・復元にはエポキシ系樹脂を使用し、デジタル一眼レフカメラ（NikonD850）で撮影した。写真撮影後は実測、デジタルトレースを実施した。遺構図は修正を加えた第二次原図を作成し、デジタルト

レースを行った。デジタルトレースにはAdobe　Illustrator　CS6を用い、これらの挿図及び入稿用のデータはAdobe InDesign CS6を用いて編集した。

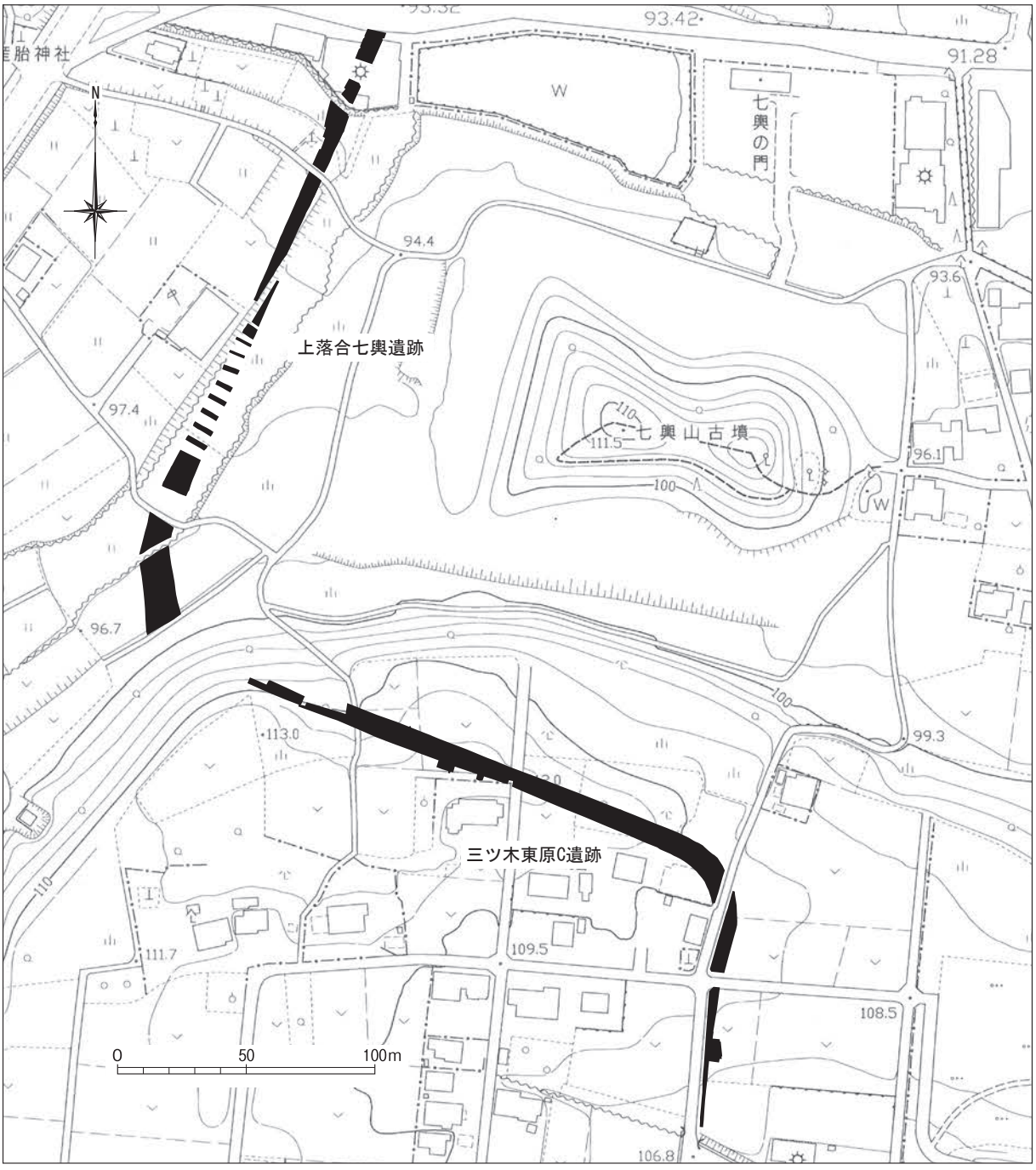
第２節　調査の経過

【発掘調査】

三ツ木東原Ｃ遺跡（平成30年７月～平成31年３月）

７月　18日：調査区位置確認作業開始。除草作業開始。31日：調査区位置確認作業終了。除草作業終了。

８月　20日：２区の竹林範囲伐採作業（重機）開始。トイレ搬入。22日：現場事務所（プレハブ）搬入。23日：現場事務所（プレハブ）電気工事。25日：２区の竹林範囲伐採作業終了。27日：除草器材等搬入。28日：



第１図　調査位置図

調査区設定。２区１面の表土除去（重機）開始。30 日：２区１面の表土除去終了。

９月　４日：発掘器材搬入。５日：作業員による作業開始。安全柵設置・環境整備。２区１面の遺構確認作業開始。７日：２区西端から遺構調査開始。28 日：台風対策。

10月　４日:２区１面の遺構確認作業終了。12 日:排土置場への安全柵設置。15 日:１区の表土除去（重機）開始。１区の遺構確認作業開始。19 日：１区の表土除去終了。

11月　18 日：調査員２名体制による調査開始。20 日：１区の遺構確認作業終了。

12月　８日:１区・２区１面の空中写真撮影実施。13 日:藤岡市教育委員会による１区・２区１面の現場終了検査。25 日：年末年始の長期休業に対応した排土の安全柵強化。

１月　７日:調査員交代。旧石器時代試掘トレンチ調査開始。21 日:１区の埋め戻し。２区東側２面（縄文時代対象）の確認。22 日：旧石器時代調査時の排土搬出通路造成を兼ねた２区東側の埋め戻し開始。旧石器時代試掘トレンチ調査終了。23 日：２区東側の埋め戻し終了。24 日：夏期の繁茂する樹木により掘削を避けていた２区西端埋没谷部分の表土除去（重機）。25 日:２区西側３面（旧石器時代調査区）の表土除去。28 日:埋没谷部分の調査開始。２区西側３面の調査開始。

２月　８日：埋没谷部分の調査終了。藤岡市教育委員会による埋没谷部分の現場終了検査。15 日：自然科学分析土壌採取（火山灰考古学研究所）。

３月　11 日：２区西側３面（旧石器時代調査区）の空中写真撮影準備。12 日：２区西側３面の空中写真撮影実施。13 日：２区西側３面の調査区拡張（重機）。３区の表土除去（重機）開始・終了。15 日：遺構調査・旧石器時代調査の終了。藤岡市教育委員会による２区西側３面・３区の現場終了検査。16 日：２・３区の埋め戻し（重機）開始。18 日:安全柵撤去開始。器材撤収開始。21 日:２・３区の埋め戻し終了。22 日:安全柵撤去終了。25 日：現場事務所（プレハブ）・トイレ搬出。器材撤収終了。

上落合七輿遺跡（平成 31 年１月～平成 31 年３月）

１月　７日：２区南側より重機による表土掘削を開始する。安全柵の設置は作業の進捗状況に応じ順次行う。16・23 日：２区基準点測量。17 日：２区の表土掘削を終了する。21 日：１区南側の遺構調査を開始する。25 日：３区は工事用の砂利置き場となっていたため境界杭と合わせ現地確認をする。30 日：１区南側の空撮及び完了検査を実施する。31 日：３区に重機を搬入し、砂利を借用地へ移動。一部の木柵を撤去。

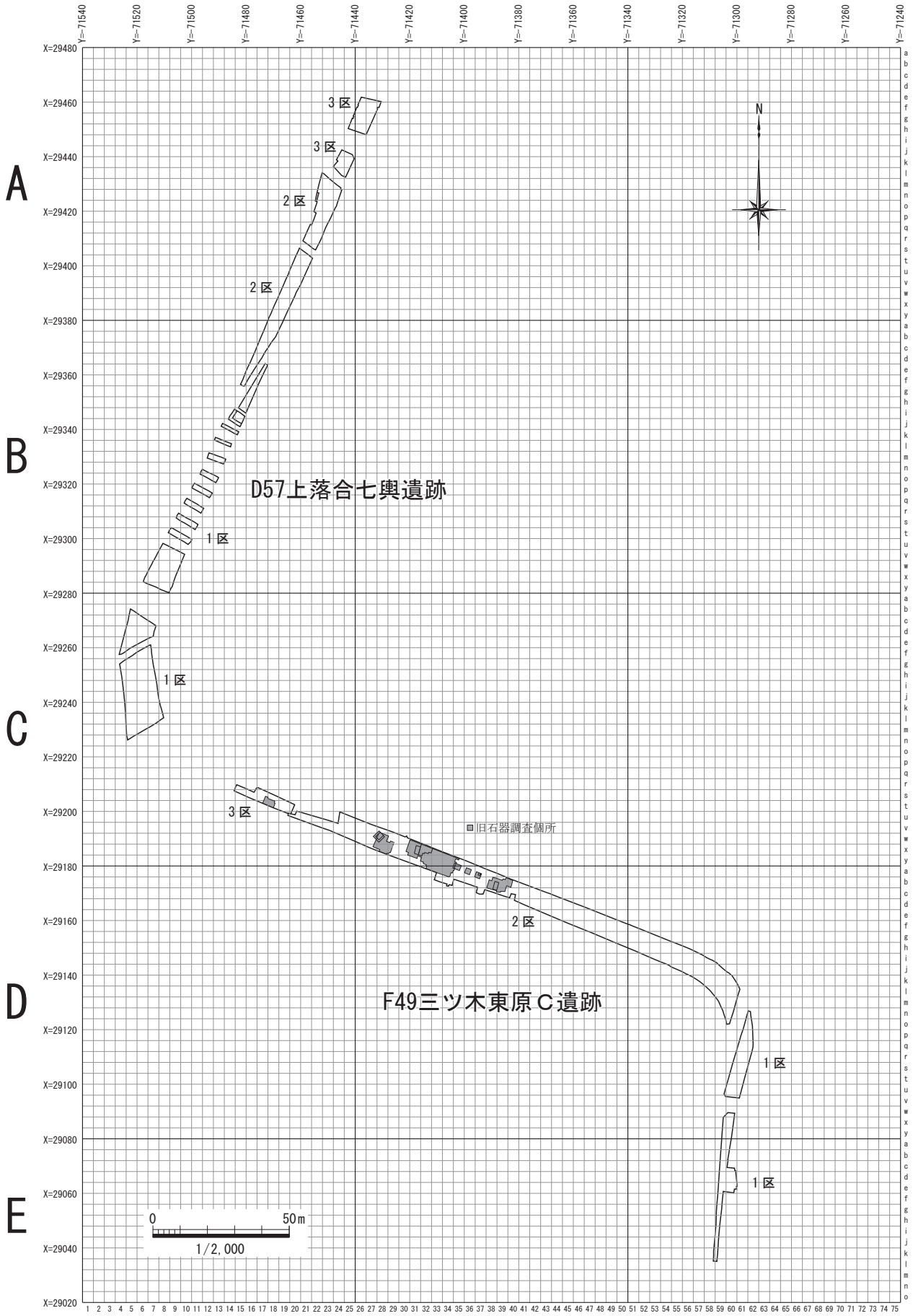
２月　１日:３区南側の重機掘削を開始する。調査当初は廃土置場の関係上、反転返しでの調査方針であったが、工場跡地であったこともあり、廃材を含む埋土が現地表面より２ｍを超えて堆積し、地山面は湧水する灰褐色砂質土層であったため、藤岡市教育委員会による指導の下、安全管理等を考慮し、記録作業をもって３区南側の調査は終了することとなった。同区北側についても同様の状況であったため、記録作業を行って調査を終了した。６日：３区の重機による埋め戻しを実施する。借用地に移動した砂利を３区へ移動。借用地の整地を行い、重機を搬出した。７日：１区北側のトレンチ調査を行う（～ 13 日）。14 日：２区の遺構調査を開始する。19 日：１区北側低地内に堆積する土壌のテフラ分析に使用するサンプル採取を行う。26 日：１区北側・２区の空撮を実施。27 日：１区北側・２区の完了検査を実施。

３月　１日：発掘器材の撤収。５日：１・２区の重機による埋め戻しを実施する。12 日：重機による埋め戻しを終了する。現地における全行程を終了する。

【整理調査】

（令和２年６月～令和３年２月）

出土遺物の整理、発掘調査報告書の作成を行う。


Y=71540
Y=71520
Y=71500
Y=71480
Y=71460
Y=71440
Y=71420
Y=71400
Y=71380
Y=71360
Y=71340
Y=71320
Y=71300
Y=71280
Y=71260
Y=71240
X=29480
X=29460
X=29440
X=29420
X=29400
X=29380
X=29360
X=29340
X=29320
X=29300
X=29280
X=29260
X=29240
X=29220
X=29200
X=29180
X=29160
X=29140
X=29120
X=29100
X=29080
X=29060
X=29040
X=29020
A
B
C
D
E
N
3区
3区
2区
2区
1区
1区
D57上落合七輿遺跡
3区
旧石器調査個所
2区
F49三ツ木東原C遺跡
1区
1区
0
50m
1/2,000

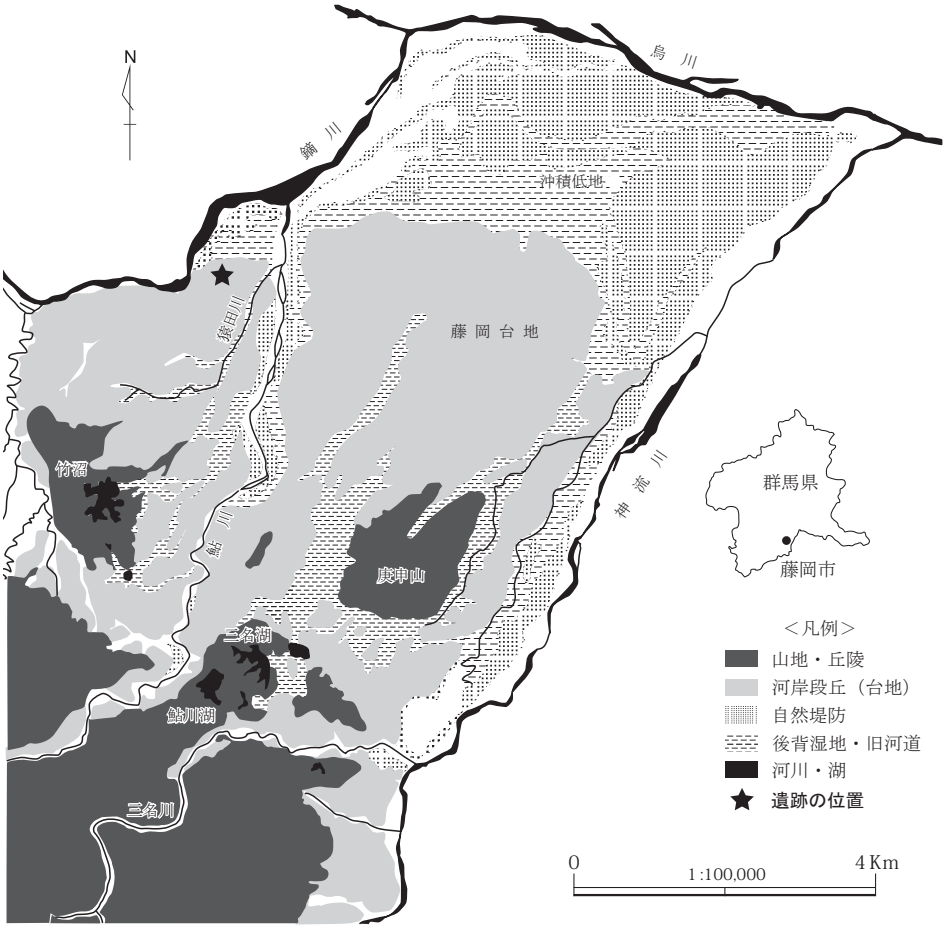
第２図　グリッド設定図

第Ⅲ章　遺跡の環境

第１節　地理的環境

本遺跡が所在する藤岡市は、群馬県南部に位置し、市域の北半部が関東平野の北西端、南半部が関東山地の北縁にあたる。また市域の北半部は河川に囲まれる形となっており、北側では烏川や鏑川が高崎市との市境をなし、東側では、神流川が埼玉県との県境となっている。市域北半部の地形は、烏川・鏑川・神流川の各流域に沿って広がる低地・微高地と、神流川と鮎川の間に発達した藤岡台地に分けられる。藤岡台地は、神流川と鮎川によって形成された扇状地が開析され段丘化することで台地となったものである。さらに藤岡台地の西側では、鮎川や鏑川によって発達した河岸段丘による地形が広がり、市域南半部を占める山地へと続いている。市域南半部では、赤久縄山や西御荷鉾山、東御荷鉾山などの山々が連なり、起伏に富んだ地形をなしている。

三ツ木東原Ｃ遺跡・上落合七輿遺跡は、鮎川左岸の河岸段丘に立地し、この段丘面は２段に分けられる。上位段丘は本遺跡の約 1.2 ㎞北東にある鏑川と鮎川の合流点付近から南西方向に形成され、高崎市吉井町の黒熊地域へと続いている。また、複数の小支谷に開析されており、本遺跡の南側には東西方向の谷が存在するほか、三



第３図　周辺の地形

ツ木東原C遺跡の調査でも埋没谷の存在が明らかとなっている。一方で下位段丘は前述の合流点付近から両河川沿いに展開している。さらに、本遺跡の約400m北東では鮎川とその支流である猿田川が合流し、猿田川流域には、上位段丘崖に沿って狭い帯状の低地帯が形成されている。

三ツ木東原C遺跡は、上位段丘面北側の縁辺付近に位置し、段丘面の北側及び西側は下位段丘に至る段丘崖となっている。同遺跡の調査区は、段丘面上の平坦面から谷地形へと至る緩斜面で構成され、標高は約107～111ｍを測る。

一方、上落合七輿遺跡は、下位段丘面に位置し、標高は約92～97mを測る。同遺跡の調査区は、南側が上位段丘へと至る段丘崖の裾にあたり、そこから下った調査区中央付近では南西から北東方向に小支谷が開析している。また、北側は谷地形から下位段丘面へと至る緩斜面にまたがる形となっており、こうした地形の状況が各時代における遺構の分布に反映されている。

第２節　歴史的環境

本遺跡（第４図１）が立地する鮎川左岸における生活の営みは藤岡市内でも古くから始まり、旧石器時代からその歴史を辿ることができる。本遺跡の調査では、主に旧石器時代から中世に至るまでの遺構が確認されており、以下、周辺遺跡の調査を踏まえて各時代の状況を概観する。

旧石器時代の遺跡や遺物は、本遺跡が立地する鮎川左岸の段丘上で広く確認されており、白石北原遺跡(9)ではAT層下位の石器群が検出されている。同遺跡は、本遺跡の約200ｍ南に立地し、谷を挟んで北側に位置する本遺跡や三ツ木東原B遺跡(3)の調査で確認されたAT層下位の石器群との関係が注目される。また、三ツ木東原遺跡(6)、白石中郷遺跡(36)、上落合上野遺跡(14)、緑埜上郷遺跡(48)、竹沼遺跡(52)、島遺跡(53)で当該期の石器が出土・採集されており、鮎川左岸における遺跡の分布状況を示している。このほか、藤岡台地中央付近に位置する独立丘陵上では、藤岡北山遺跡(66)でAs-BP層上位の石器とAT層下位の石器群、藤岡北山B遺跡(67)でAT層上位～下位の石器群がそれぞれ調査されている。

縄文時代草創期や早期の遺跡は、遺物の出土を含めて例が少なく、本遺跡周辺では藤岡北山遺跡(66)で早期の撚糸文系土器、東原遺跡(4)で早期の押型文土器が出土している。その後、前期になると、前時代から生活が営まれた独立丘陵上や鮎川左岸の段丘上のほか、鮎川右岸の微高地や藤岡台地上でも集落が確認され、中期から後期にかけてはさらに広がりをみせるようになる。前期の集落としては、白石根岸遺跡(40)、滝下遺跡(79)、滝遺跡(26)、猿田遺跡(19)が挙げられ、藤岡北山B遺跡(67)では後期までの継続性が認められる。中期の集落としては、竹沼遺跡(52)、西原遺跡(102)、藤岡北山遺跡(66)があり、さらに中期末葉から後期前葉にかけては中大塚縄文時代敷石住居跡(72)、白石大御堂遺跡(39)、上落合上野遺跡(14)、上栗須寺前遺跡群(97)、薬師裏遺跡(103)、高崎市田端遺跡(108)などで柄鏡形を含む敷石住居跡が検出されている。また本遺跡周辺では、白石北原遺跡(9)で部分的ではあるものの環状集落が確認されており、中期末葉から後期初頭のまとまった集落跡として把握される。後期から晩期は藤岡台地北端から低地にかけて立地する谷地遺跡や中栗須滝川Ⅱ遺跡で集落が確認されているほか、鮎川左岸ではシモ田遺跡(42)で土坑状の遺構が検出されている。

弥生時代の遺跡は、藤岡台地や河岸段丘周辺の低地や微高地に位置する傾向があるが、藤岡市内の調査例は少ない。代表的な遺跡としては沖Ⅱ遺跡が挙げられ、再葬墓とみられる弥生時代初頭の土器埋設土坑群が検出されている。また集落は、本遺跡周辺の上落合岡遺跡(15)で中期を含む住居跡２軒が、竹沼遺跡(52)で後期の住居跡１軒が報告されているが、その様相や分布の広がりは未だ明らかでない。このほか、白石大御堂遺跡(39)では、縄文時代晩期から弥生時代初頭にかけての土器が出土し、その中に群馬県内では類例が少ない遠賀川系の

第４図　周辺の遺跡

壺形土器が含まれる点は特筆される。

古墳時代前期の遺跡は、藤岡市域においては小規模かつ分散的な傾向があり、神流川左岸のほか、本遺跡周辺では藤岡台地の縁辺部や鮎川左岸の微高地を中心に立地する。集落は、上落合岡遺跡（15）、上落合岡B遺跡（16）、上落合上野遺跡（14）、竹沼遺跡（52）で確認されているが、古墳に関しては例が少なく、藤岡市域で初めて造られるようになるのは、4世紀後半から末葉の三本木地域であるとされている。中期になると、集落は鮎川左岸の段丘上にも広がりをみせるが、前期同様に数は少なく、その様相や周辺に存在する古墳との関係は明らかでない。上落合岡遺跡（15）で前期からの継続性が認められるほか、滝遺跡（26）、竹沼遺跡（52）、緑埜水押遺跡（45）、緑埜上郷遺跡（48）、猿田遺跡（19）でも調査されている。また当該期には、鮎川左岸や藤岡台地で古墳が造られるようになり、主要な古墳として、5世紀前半では白石稲荷山古墳（28）や十二天塚古墳（29）、十二天塚北古墳（30）、5世紀後半では舟形石棺を有したとされる宗永寺裏東塚古墳（11）が挙げられる。白石稲荷山古墳（28）は、東西２つの礫槨を主体部とする墳丘長155mの前方後円墳（註１）であり、滑石製模造品や、仿製鏡、家形埴輪などを特色とする豊富な遺物が出土した。また、5世紀前半から7世紀末まで造営された白石古墳群（ア）を構成する首長墓として藤岡市域のみならず、利根川以西の西毛地域一帯で影響力を示したと考えられている。後期になると、古墳や古墳群の数は著しく増加し、本遺跡が立地する鮎川左岸の段丘上では白石古墳群（ア）や緑埜古墳群（イ）、鮎川右岸では、鮎川古墳群（エ）や東平井古墳群（ウ）、藤岡台地上では篠塚古墳群（オ）や上栗須古墳群（カ）などが展開する。本遺跡が含まれる白石古墳群（ア）では、6世紀前半に首長墓として七輿山古墳（10）が出現するほか、６世紀後半には円頭大刀・単鳳環頭大刀を出土した平井地区1号古墳（7）や、単龍環頭大刀・金銅製馬具飾金具を出土した皇子塚古墳（8）などが築造された。特に七輿山古墳（10）は、三重の堀を巡らせる墳丘長150mの前方後円墳（註２）であり、古墳の墳形や円筒埴輪の特徴から、畿内地域との関係が想定されている。一方で集落も、古墳群に対応して広がりをみせる。鮎川左岸では、上落合岡遺跡（15）や上落合上野遺跡（14）、上落合岡B遺跡（16）、緑埜上郷遺跡（48）、竹沼遺跡（52）で10軒～50軒ほどのまとまった集落が確認されている。また、白石古墳群中（ア）に位置する本遺跡周辺の状況をみると、本遺跡や三ツ木東原遺跡（6）、三ツ木東原B遺跡（3）で、後期古墳に隣接してほぼ同時期の集落が確認されている点が特徴として挙げられる。これに対して鮎川右岸や藤岡台地上では、滝前遺跡（74）や滝前E遺跡（77）、原屋敷遺跡・原屋敷B遺跡（86）、上栗須A遺跡（96）などが当該期の集落として挙げられる。さらに、生産に関連する遺構として、竹沼遺跡（52）で滑石製品製作工房跡が複数検出されたほか、猿田川沿いの段丘斜面に位置する猿田Ⅱ遺跡（20）で6世紀代を中心に操業した埴輪窯跡4基や灰原が調査され、周辺地域の古墳に埴輪を供給していたと推定されている。

奈良･平安時代になると文献史料の側面からも、藤岡市域の歴史を知ることができる。平安時代の承平年間（931年～937年）に編さんされた『倭名類聚抄』によると、大化の改新（645年）以降、律令制下の上野国では14の郡が存在したとされ、このうち藤岡市周辺は緑野郡に属する。「緑野」の名称については、『日本書紀』の安閑天皇２年（532年）に緑野屯倉がおかれたという記録に見ることができ、緑野屯倉は、当時の社会において軍事的・政治的拠点となっていたと考えられている。また、文献史料と考古資料を結びつけるものとして、本遺跡周辺には上野三碑の1つである山ノ上碑及び山ノ上古墳（114）が存在し、律令制が施行された古墳時代終末期から奈良時代における歴史の一端を今に伝えている。一方で考古資料にみる奈良・平安時代は、集落が古墳時代からさらに増加の傾向を示し、鮎川及び鏑川の段丘上や河川沿いの微高地、藤岡台地で広く調査されている。とりわけ顕著であるのが、現市街地周辺にあたる藤岡台地北側であり、上栗須遺跡（95）や上栗須A遺跡（96）、上栗須寺前遺跡群（97）の例が示すように、７世紀後半から奈良・平安時代にかけて集落の数が大きく増加する。また、

上栗須遺跡（95）で富本銭が出土したほか、上栗須A遺跡（96）で倉庫群と想定される布掘りや溝を伴う掘立柱建物跡群、中栗須邸前遺跡で布掘り総柱の掘立柱建物跡が検出され、この地域一帯が官衙的な性格を有していたと想定されている（伊藤2018、友廣2020）。一方で、本遺跡が立地する鮎川左岸では、古墳時代後期と比べ集落の規模が縮小する傾向がみられる。上落合岡遺跡（15）、上落合上野遺跡（14）で古墳時代から平安時代までの継続性が認められ、上落合岡遺跡（15）では、倉庫として機能したとみられる布掘りや溝を伴う掘立柱建物跡が検出された点が藤岡台地北側の状況と対応する。また、東原遺跡（4）、東原Ⅱ遺跡（5）、緑埜押出シB遺跡（47）で平安時代の集落が確認されている。このほか、鮎川右岸の稲荷屋敷遺跡（81）で平安時代の集落が、鏑川左岸の山名柳沢遺跡（112）、山名戸矢遺跡（109）、山名原口Ⅰ遺跡（110）、田端遺跡（108）で奈良時代から平安時代の集落がまとまった規模で検出されている。生産に関連するものとしては、上落合岡遺跡（15）や上落合岡B遺跡（16）、稲荷屋敷遺跡（81）、原屋敷遺跡・原屋敷B遺跡（86）などで製鉄・鍛冶関連の遺構が検出されている。また、河川沿いや藤岡台地北側の低地に位置する上落合岡B遺跡（16）、猿田川水田址遺跡（22）、緑埜地区水田址遺跡（43）、緑埜遺跡群（44）、緑埜上郷遺跡（48）、白石根岸遺跡（40）、小野地区水田址遺跡（106）などで平安時代の水田跡が検出され、このうち緑埜地区水田址遺跡（43）、緑埜遺跡群（44）では水田跡と併存する形で平安時代の畠跡が確認されている。さらに、古くから粘土の産地として知られる藤岡市域南部の山地や丘陵地帯では、下日野・金井窯址群や竹沼窯址群などで須恵器や瓦の窯跡が調査されている。

中世は、律令制の崩壊後、各地の荘園領主や有力豪族が武士団をつくり台頭した時代であり、その痕跡は城館跡をはじめとして各所にみられる。藤岡市域の地方武士団では、鎌倉時代から室町時代にかけて高山氏とその分流である小林氏が権勢を振った。その後、室町時代になると、藤岡市域には関東管領山内上杉氏の居城である平井城がつくられ、動堂城（I）や中大塚城（G）をはじめとする多くの城館がその支堡であると想定されている。さらに発掘調査でも当該期の遺構が確認され、白石大御堂遺跡（39）では臨池伽藍形式の中世寺院跡と園池遺構、薬師原遺跡（41）では円光寺に関連するとみられる掘立柱建物跡やピット列などが検出されている。また、上栗須寺前遺跡群（97）、本動堂屋敷前遺跡（98）、原屋敷・原屋敷B遺跡（86）で方形区画の堀跡や柱穴などが確認され、城館跡であると考えられている。

（註１）墳丘長は、早稲田大学東アジア都域・シルクロード考古学研究所2019『地中レーダー探査による結果』を出典とする。
（註２）墳丘長は、早稲田大学東アジア都域・シルクロード考古学研究所2020『群馬県藤岡市七輿山古墳の測量・GPR調査』を出典とする。

第１表　周辺遺跡一覧表①

№.	遺跡名	主な時代・遺構・遺物	主な文献
1	**三ツ木東原C遺跡**	旧石器時代AT層序の石器群、As-YP層下位の砕石集中、縄文時代後期集落（柄鏡形敷石住居跡を含む）、古墳時代後期集落、奈良・平安時代集落・土坑列、中世溝(館の堀跡ヵ)、古代～中世隧道状遺構	本報告
2	**上落合七輿遺跡**	古墳時代後期集落、平安時代集落、平安時代～As-B以降水田跡、平安時代以前溝状遺構、近世以降溝状遺構	本報告
3	三ツ木東原B遺跡	旧石器時代AT層下位の石器群（環状ブロック群）、縄文時代土坑・巣穴状遺構、古墳時代後期集落・後期古墳、平安時代集落（鍛冶遺構）	藤岡市教育委員会2021『三ツ木東原Ｂ遺跡』
4	東原遺跡	後期・終末期古墳、平安時代集落、縄文早期の押型文土器が出土	藤岡市史編さん委員会(編)1993『藤岡市史資料編　原始・古代・中世』
5	東原Ⅱ遺跡	奈良・平安時代集落、中世土坑	藤岡市史編さん委員会(編)1993『藤岡市史資料編　原始・古代・中世』
6	三ツ木東原遺跡	縄文時代前期以降土坑、古墳時代後期集落、後期～終末期古墳、旧石器時代As-BP層直上で台石出土	群馬県藤岡市教育委員会2008『三ツ木東原遺跡』、藤岡市史編さん委員会(編)1993『藤岡市史資料編　原始・古代・中世』
7	平井地区1号古墳	6世紀後半の円墳。主体部は横穴式石室。単鳳環頭大刀・円頭大刀出土。	群馬県藤岡市教育委員会1993『平井地区1号古墳』、群馬県藤岡市教育委員会2016『平井地区1号古墳』
8	皇子塚古墳	6世紀後半の円墳。主体部は複室構造の横穴式石室。単龍環頭大刀、金銅製馬具飾金具出土。	群馬県藤岡市教育委員会2015『皇子塚古墳』
9	白石北原遺跡	旧石器時代AT層下位の石器群、縄文時代中期末～後期初頭の環状集落（一部）・埋設土器・集石遺構・遺物集中	群馬県藤岡市教育委員会2012『白石北原遺跡(旧石器時代編)』、群馬県藤岡市教育委員会2015『白石北原遺跡(縄文時代編１)』
10	七輿山古墳	6世紀前半の前方後円墳で白石古墳群七輿山支群の盟主的な古墳。三段築成で三重の堀を有する。七条突帯の大型普通円筒埴輪が出土。	群埋文2010『七輿山古墳』、藤岡市史編さん委員会(編)1993『藤岡市史資料編　原始・古代・中世』
11	宗永寺裏東塚古墳	5世紀後半～6世紀初頭の前方後円墳。主体部は舟形石棺と推定。	藤岡市史編さん委員会(編)1993『藤岡市史資料編　原始・古代・中世』
12	伊勢塚古墳	7世紀前半の円墳。主体部は模様積の横穴式石室。	藤岡市史編さん委員会(編)1993『藤岡市史資料編　原始・古代・中世』
13	鍋塚古墳	6世紀後半の円墳。主体部は横穴式石室と推定。白石古墳群猿田支群の盟主的な古墳。	藤岡市史編さん委員会(編)1993『藤岡市史資料編　原始・古代・中世』
14	上落合上野遺跡	縄文時代中期・後期集落・配石遺構、弥生時代末～古墳時代前期・後期集落・掘立柱建物跡、奈良時代集落・平安時代集落、旧石器時代細石刃石核削片・スクレイパー出土	群馬県藤岡市教育委員会2003『D49上落合上野遺跡』
15	上落合岡遺跡	弥生時代中期以降集落・竪穴状遺構、古墳時代前期・中期・後期集落・後期～終末期古墳、奈良・平安時代集落・掘立・小鍛冶遺構、As-B以前畠跡、As-B以降集石・溝状遺構、近世溝状遺構	群馬県藤岡市教育委員会2004『上落合岡遺跡《本文編》』
16	上落合岡B遺跡	古墳時代前期・後期集落、平安時代集落・鍛冶遺構・水田跡、近世溝状遺構	群馬県藤岡市教育委員会2001『上落合岡B遺跡』
17	上落合城山遺跡	古墳時代後期集落・後期古墳、中世井戸跡	群馬県藤岡市教育委員会2002『上落合城山遺跡・白石稲荷原遺跡・猿田川水田址遺跡』
18	上落合猿田遺跡	後期古墳、平安時代溝状遺構	群馬県藤岡市教育委員会1993『市内遺跡Ⅰ』
19	猿田遺跡	縄文時代前期～中期初頭集落・後期土坑、古墳時代中期集落・古墳	藤岡市史編さん委員会(編)1993『藤岡市史資料編　原始・古代・中世』
20	猿田Ⅱ遺跡	古墳時代後期埴輪窯跡・灰原・土坑群、前方後円墳周溝カ	杉山晋作・日高慎・志村哲・萩原禎・伝田郁夫・山田俊輔・今村峯雄・辻誠一郎2004「猿田Ⅱ遺跡の調査」『国立歴史民俗博物館研究報告』第120集　国立歴史民俗博物館
21	猿田Ⅲ遺跡	古墳周溝、奈良時代以降溝状遺構・土坑	群馬県藤岡市教育委員会2014『年報(30)』
22	猿田川水田址遺跡	平安時代水田跡、古墳～平安時代溝状遺構、旧河川跡	群馬県藤岡市教育委員会2002『上落合城山遺跡・白石稲荷原遺跡・猿田川水田址遺跡』
23	白石洞遺跡	古墳時代後期集落、As-A以降溝、土坑	群馬県藤岡市教育委員会2007『年報(23)』
24	白石稲荷原遺跡	平安時代溝状遺構	群馬県藤岡市教育委員会2002『上落合城山遺跡・白石稲荷原遺跡・猿田川水田址遺跡』
25	下郷古墳群A地点	後期～終末期古墳(市指定史跡堀越塚古墳を含む白石古墳群下郷支群の調査)	群馬県藤岡市教育委員会1994『年報(9)』
26	滝遺跡	縄文時代前期集落・竪穴状遺構、古墳時代中期・後期集落・後期古墳、平安時代溝状遺構、中近世溝状遺構・井戸跡、近世屋敷跡	群馬県藤岡市教育委員会1999『F27滝遺跡』
27	滝B遺跡	中近世溝状遺構、土坑	群馬県藤岡市教育委員会2000『F27b滝B遺跡・F32白石前原遺跡』
28	白石稲荷山古墳	5世紀前半の前方後円墳。三段築成で主体部には東西2つの礫槨を有する。家形埴輪、滑石製模造品、小型の仿製鏡などが出土。	藤岡市史編さん委員会(編)1993『藤岡市史資料編　原始・古代・中世』
29	十二天塚古墳	5世紀前半の長方形を呈する古墳。主体部は竪穴式の礫槨と推定。	藤岡市史編さん委員会(編)1993『藤岡市史資料編　原始・古代・中世』
30	十二天塚北古墳	5世紀前半の方形を呈する古墳。主体部は竪穴式の礫槨と推定。紡錘車・勾玉・管玉・臼玉などが出土。	藤岡市史編さん委員会(編)1993『藤岡市史資料編　原始・古代・中世』
31	二子山古墳	6世紀後半の前方後円墳。主体部は横穴式石室。白石古墳群下郷支群の盟主的な古墳。頭椎大刀、方頭大刀、刀装具、馬具、乳文鏡、渦文鏡などが出土。	藤岡市史編さん委員会(編)1993『藤岡市史資料編　原始・古代・中世』
32	萩原塚古墳	6世紀後半と推定される前方後円墳。主体部は自然石乱石積の横穴式石室。白石古墳群下郷支群の盟主的な古墳。銀製圭頭大刀、甲小札、銅製鈴が出土したと伝わる。	藤岡市史編さん委員会(編)1993『藤岡市史資料編　原始・古代・中世』
33	喜蔵塚古墳	7世紀末葉の方墳と推定。主体部は截石切組積の横穴式石室。	藤岡市史編さん委員会(編)1993『藤岡市史資料編　原始・古代・中世』
34	白石上郷遺跡	奈良時代集落、近世溝状遺構・土坑・柵列を伴う溝状遺構	群馬県藤岡市教育委員会1995『年報(1)』
35	白石上郷Ⅱ遺跡	ピット・土坑(屋敷跡の痕跡ヵ)	群馬県藤岡市教育委員会2005『年報(21)』
36	白石中郷遺跡	旧石器時代槍先形尖頭器が表採	藤岡市史編さん委員会(編)1993『藤岡市史資料編　原始・古代・中世』
37	白石前原遺跡	As-A降下以前畠跡	群馬県藤岡市教育委員会2000『F27b滝B遺跡・F32白石前原遺跡』
38	大御堂遺跡	縄文時代晩期埋設土器、As-B以降掘立柱建物跡・溝状遺構、As-A以降掘立柱建物跡	群馬県藤岡市教育委員会1987『F2緑埜地区遺跡群Ⅱ』
39	白石大御堂遺跡	縄文中期集落（柄鏡形敷石住居跡含む）、古墳時代後期集落・古墳周溝状遺構ヵ、平安時代集落、中世寺院跡・園池遺構・土坑墓・火葬墓・配石墓、中近世道路跡(鎌倉街道ヵ)・掘立柱建物跡・館跡・溝状遺構、近世畠、旧石器時代～縄文時代草創期の木葉形槍先形尖頭器・弥生時代初頭遠賀川系壺形土器	群埋文1991『白石大御堂遺跡』
40	白石根岸遺跡	縄文時代前期集落、奈良・平安時代集落・平安時代水田跡	群埋文1994『多比良平野遺跡・白石根岸遺跡』
41	薬師原遺跡	縄文中期～後期集落・埋設土器、古墳時代中期集落、後期古墳、中世掘立柱建物跡・ピット列・溝状遺構(円光寺に関連ヵ)	群馬県藤岡市教育委員会1985『F9薬師原遺跡』、藤岡市史編さん委員会(編)1993『藤岡市史資料編　原始・古代・中世』
42	シモ田遺跡	縄文時代晩期土坑状遺構	群馬県藤岡市教育委員会1986『F2緑埜地区遺跡群Ⅰ』
43	緑埜地区水田址遺跡	平安時代水田跡・畝状遺構(畠跡)・溝状遺構、As-B以降溝状遺構・畝状遺構(畠跡)、As-A以降畝状遺構(畠跡)・溝状遺構	群馬県藤岡市教育委員会1987『F2緑埜地区遺跡群Ⅱ』
44	緑埜遺跡群	平安時代水田跡・畠跡、As-B以降道路跡（鎌倉街道）・石敷遺構、As-A以前畠跡	群埋文1997『緑埜遺跡群・緑埜上郷遺跡・竹沼遺跡』
45	緑埜水押遺跡	古墳時代中期集落・溝状遺構、平安時代土坑	群馬県藤岡市教育委員会1986『F2緑埜地区遺跡群Ⅰ』

第２表　周辺遺跡一覧表②

No.	遺跡名	主な時代・遺構・遺物	主な文献
46	緑埜押出シ遺跡	縄文時代後期土坑、平安時代集落・掘立柱建物跡	群馬県藤岡市教育委員会1986『F2緑埜地区遺跡群Ⅰ』
47	緑埜押出シB遺跡	古墳時代後期集落、平安時代集落、中世集石墓	群馬県藤岡市教育委員会2001『F30緑埜押出シB遺跡』
48	緑埜上郷遺跡	古墳時代中期・後期集落、平安時代水田跡・溝状遺構、近世溝状遺構・屋敷跡、旧石器時代AT層序からリタッチドフレイクの剥片が出土	群馬県藤岡市教育委員会1986『F2緑埜地区遺跡群Ⅰ』、群埋文1997『緑埜遺跡群・緑埜上郷遺跡・竹沼遺跡』
49	緑埜中郷遺跡	縄文時代中期土坑	群馬県藤岡市教育委員会1986『F2緑埜地区遺跡群Ⅰ』
50	鍛冶谷戸遺跡	縄文時代後期土坑墓、配石墓	群馬県藤岡市教育委員会1986『F2緑埜地区遺跡群Ⅰ』
51	鍛冶谷戸B遺跡	古墳時代後期～平安時代集落・竪穴状遺構、古墳、中世集石墓・溝状遺構	群馬県藤岡市教育委員会1999『年報(14)』
52	竹沼遺跡	縄文時代中期集落、弥生時代後期集落、古墳時代前期・中期・後期集落、奈良・平安時代集落、古墳時代後期の滑石製品製作工房跡が検出、旧石器時代の掻器を含む石器が出土	群馬県藤岡市教育委員会1978『F1竹沼遺跡』、群埋文1997『緑埜遺跡群・緑埜上郷遺跡・竹沼遺跡』
53	島遺跡	古墳時代後期集落・土坑、旧石器時代ナイフ形石器出土	群馬県藤岡市教育委員会1986『F2緑埜地区遺跡群Ⅰ』
54	中里遺跡	古墳時代末～奈良時代集落、平安時代集落	群馬県藤岡市教育委員会1986『F2緑埜地区遺跡群Ⅰ』
55	大工ケ谷戸遺跡	縄文時代前期・中期土坑・竪穴状遺構、古墳時代後期集落、奈良・平安時代集落	群馬県藤岡市教育委員会1986『F2緑埜地区遺跡群Ⅰ』
56	五領遺跡	縄文時代前期土器出土	群馬県藤岡市教育委員会1986『F2緑埜地区遺跡群Ⅰ』
57	西平井島遺跡	古墳時代後期集落、平安時代集落、中世竪穴状遺構・墓坑、中近世溝状遺構	群馬県教育委員会・群馬県藤岡市教育委員会1997『西平井島遺跡・西平井天神遺跡・西平井八幡遺跡・竹沼窯址群切通シ窯址』
58	時沢遺跡	奈良時代溝状遺構、古墳時代土坑	群馬県藤岡市教育委員会2000『年報(15)』
59	鮎川藤ノ木遺跡	奈良・平安時代集落・溝状遺構、近世以降道路跡、漆紙文書付着の須恵器坏が出土	群埋文2007『上大塚南原遺跡・鮎川藤ノ木遺跡』
60	鮎川藤ノ木B遺跡	平安時代集落・竪穴状遺構、中世井戸跡・溝状遺構・畝状遺構・土坑(火葬跡)等	群馬県藤岡市教育委員会2009『年報(25)』
61	鮎川藤ノ木C遺跡	奈良時代集落、平安時代集落、As-B以降竪穴状遺構・溝状遺構・畝状遺構、中世墓地跡	群馬県藤岡市教育委員会2013『F44鮎川藤ノ木C遺跡』
62	上大塚南原遺跡	奈良・平安時代集落・竪穴状遺構・溝状遺構、近世以降畠跡、As-A災害復旧溝群	群埋文2007『上大塚南原遺跡・鮎川藤ノ木遺跡』
63	上大塚水押遺跡	As-B以前の水田跡ヵ、As-A以前の水田跡ヵ、溝状遺構	群馬県藤岡市教育委員会2007『年報(23)』
64	上大塚駒形遺跡	近代以降溝状遺構	群馬県藤岡市教育委員会2000『年報(15)』
65	出口遺跡	平安時代溝状遺構(旧河川跡ヵ)、土坑	群馬県藤岡市教育委員会1994『年報(9)』
66	藤岡北山遺跡	旧石器時代As-BP上層で単独石器・AT層下位の石器群、縄文中期集落・溝状遺構・後期集落、縄文時代早期の撚糸文土器や弥生時代後期の磨製石鏃出土	藤岡市史編さん委員会(編)1993『藤岡市史資料編　原始・古代・中世』
67	藤岡北山B遺跡	旧石器時代AT層上位～下位の石器群、縄文時代前期集落・中期集落・後期集落・集石遺構、平安時代集落(小鍛冶遺構)、近世墓坑	群馬県藤岡市教育委員会1995『藤岡北山B遺跡』
68	中大塚的場遺跡	中世以降ピット・土坑	群馬県藤岡市教育委員会1994『年報(9)』
69	中大塚遺跡	奈良・平安時代集落・掘立柱建物跡、As-B以降道路跡・竪穴状遺構・溝状遺構・掘立柱建物跡	群埋文1989『上栗須遺跡・下大塚遺跡・中大塚遺跡《本文編》』
70	中大塚市海道遺跡	奈良・平安時代掘立柱建物跡、As-B以降道路跡、中世以降井戸跡	群馬県藤岡市教育委員会2001『年報(16)』
71	中大塚塚越遺跡	古墳周溝、古墳時代後期～平安時代集落・竪穴状遺構(鍛冶炉検出)、古墳時代～中世溝状遺構	群馬県藤岡市教育委員会2001『年報(16)』
72	中大塚縄文時代敷石住居跡	縄文中期集落、埋設土器	藤岡市史編さん委員会(編)1993『藤岡市史資料編　原始・古代・中世』
73	中大塚宮西遺跡	古墳時代後期集落、中世溝状遺構	群馬県藤岡市教育委員会1998『年報(13)』
74	滝前遺跡	縄文早期～後期包含層、古墳時代中期方形周溝状遺構墓・後期集落、平安時代集落・掘立柱建物跡・畠跡・竪穴状遺構・小鍛冶遺構検出	山武考古学研究所1988『群馬県藤岡市滝前・滝下遺跡発掘調査報告書』
75	滝前C遺跡	古墳時代後期集落、平安時代以降畝状遺構(畠跡)、中世溝状遺構	群埋文1997『滝前C遺跡・稲荷屋敷遺跡』
76	滝前D遺跡	古墳時代溝状遺構、平安時代以降溝状遺構・土坑	群馬県藤岡市教育委員会1999『D27滝下B遺跡・D35滝前D遺跡・D34道下B遺跡』
77	滝前E遺跡	古墳時代後期集落、奈良・平安時代集落	群馬県藤岡市教育委員会2000『年報(15)』
78	道下B遺跡	古墳時代後期～奈良時代祭祀遺構(土器集積)、奈良時代集落	群馬県藤岡市教育委員会1999『D27滝下B遺跡・D35滝前D遺跡・D34道下B遺跡』
79	滝下遺跡	縄文時代前期集落、古墳時代後期集落、中期古墳	山武考古学研究所1988『群馬県藤岡市滝前・滝下遺跡発掘調査報告書』
80	滝下遺跡B遺跡	縄文時代前期土坑・中期集石土坑、古墳時代後期集落、平安時代以降溝状遺構・土坑	群馬県藤岡市教育委員会1999『D27滝下B遺跡・D35滝前D遺跡・D34道下B遺跡』
81	稲荷屋敷遺跡	縄文時代後期埋設土器、平安時代集落・製錬炉・鍛冶遺構・溝状遺構・掘立柱建物跡、As-B以降畝状遺構、中世溝状遺構・井戸跡・土坑墓、近世溝状遺構・土坑墓、平安時代の溝より和鏡が出土	群埋文1997『滝前C遺跡・稲荷屋敷遺跡』
82	稲荷屋敷B遺跡	平安時代集落	群馬県藤岡市教育委員会1995『年報(10)』
83	稲荷屋敷C遺跡	縄文時代中期集落・土坑・埋設土器、平安時代集落・土坑	群馬県藤岡市教育委員会1995『年報(11)』
84	新堀遺跡	平安時代集落、溝状遺構	群馬県藤岡市教育委員会1985『年報(1)』
85	新堀Ⅱ遺跡	奈良～平安時代溝状遺構(平安時代の遺物多量出土、用水路ヵ)	群馬県藤岡市教育委員会2019『年報(34)』
86	原屋敷遺跡・原屋敷B遺跡	古墳時代後期集落、平安時代集落・製鉄炉を含む製鉄関連遺構、中世館跡に伴う一辺が約60mの薬研状堀跡・火葬墓を含む墓坑	群馬県藤岡市教育委員会1994『市内遺跡Ⅱ』、群馬県藤岡市教育委員会1995『年報(10)』
87	下大塚別所遺跡	縄文時代中期土坑、古墳時代溝状遺構、平安時代溝状遺構・旧河川跡	群馬県藤岡市教育委員会1994『年報(9)』
88	下大塚遺跡	奈良・平安時代集落・掘立柱建物跡(布掘りを含む)・溝状遺構・井戸跡・土器集積遺構、溝状遺構から重弧文宇瓦が出土	群埋文1989『上栗須遺跡・下大塚遺跡・中大塚遺跡《本文編》』、藤岡市史編さん委員会(編)1993『藤岡市史資料編　原始・古代・中世』
89	藤岡境遺跡	奈良時代集落、平安時代集落	群馬県藤岡市教育委員会1985『年報(1)』
90	藤岡境B遺跡	平安時代集落・溝状遺構	群馬県藤岡市教育委員会1999『年報(14)』
91	藤岡境C遺跡	奈良・平安時代集落	群馬県藤岡市教育委員会2004『C47藤岡境C遺跡』

第３表　周辺遺跡一覧表③

No.	遺跡名	主な時代・遺構・遺物	主な文献
92	藤岡境D遺跡	奈良・平安時代集落	群馬県藤岡市教育委員会2001『年報(16)』
93	藤岡境Ⅲ遺跡	奈良・平安時代集落	群馬県藤岡市教育委員会2001『年報(16)』
94	岡の西遺跡	平安時代集落	藤岡市史編さん委員会(編)1993『藤岡市史資料編　原始・古代・中世』
95	上栗須遺跡	古墳時代中期方形周溝墓、中期・後期古墳、奈良・平安時代集落・掘立柱建物跡・溝状遺構、As-B以降溝状遺構、近世墓坑群、富本銭出土	群埋文1989『上栗須遺跡・下大塚遺跡・中大塚遺跡《本文編》』
96	上栗須A遺跡	古墳時代後期～平安時代末集落、古墳時代～中世掘立柱建物跡(奈良・平安時代の倉庫群と推定される布掘りや溝を伴う掘立柱建物跡を含む)・竪穴状遺構・井戸跡・溝状遺構・土坑	群馬県藤岡市教育委員会2002『上栗須A遺跡』
97	上栗須寺前遺跡群	縄文時代中期～後期集落、古墳時代中期～後期古墳、奈良・平安時代集落・掘立柱建物跡、As-B以降水田カ、中世方形区画溝・柵列、密教法具の銅製火舎香炉出土	群埋文1992『上栗須寺前遺跡群Ⅰ』、群埋文1994『上栗須寺前遺跡群Ⅱ』、群埋文1996『上栗須寺前遺跡群Ⅲ』
98	本動堂屋敷前遺跡	中世方形区画遺構(館跡と推定)・土坑墓、近世溝状遺構	群馬県藤岡市教育委員会1999『年報(14)』
99	北原遺跡	奈良・平安時代集落	藤岡市史編さん委員会(編)1993『藤岡市史資料編　原始・古代・中世』
100	篠塚塚越遺跡	古墳時代後期集落・終末期古墳(篠塚古墳群に含む)、平安時代以降火葬墓・土坑墓・井戸跡・溝状遺構	群馬県藤岡市教育委員会1999『年報(14)』
101	下木戸遺跡	奈良時代集落、平安時代集落・掘立柱建物跡・溝状遺構	群馬県藤岡市教育委員会1994『年報(9)』
102	西原遺跡	縄文時代中期集落・土坑、平安時代集落・溝状遺構	藤岡市史編さん委員会(編)1993『藤岡市史資料編　原始・古代・中世』
103	薬師裏遺跡	縄文時代前期土坑・後期集落(敷石住居跡含む)・配石遺構	藤岡市史編さん委員会(編)1993『藤岡市史資料編　原始・古代・中世』
104	薬師裏B遺跡	縄文時代前期～中期炉跡・土器集中・配石遺構・集石遺構	群馬県藤岡市教育委員会1992『C18薬師裏B遺跡・小野地区水田址遺跡』
105	薬師裏D遺跡	縄文時代、古墳時代、平安時代の土坑・ピット(掘立柱建物跡含む)	群馬県藤岡市教育委員会1995『年報(10)』
106	小野地区水田址遺跡	平安時代水田跡・畝状遺構・溝状遺構、As-B以降溝状遺構、近世以降溝状遺構・旧河川跡	群馬県藤岡市教育委員会1982『C4小野地区遺跡群発掘調査報告書』、群馬県藤岡市教育委員会1992『C18薬師裏B遺跡・小野地区水田址遺跡』
107	中Ⅰ遺跡	平安時代溝状遺構(遺物多量出土、自然流路ヵ)等	群埋文1983『森遺跡・中Ⅰ遺跡・中Ⅱ遺跡』
108	田端遺跡	縄文時代後期集落(敷石住居跡)、古墳時代後期中心の集落・掘立柱建物跡・集石遺構、奈良時代掘立柱建物跡・洪水層下水田跡、奈良・平安時代集落・集石遺構・製鉄関連遺構・溝状遺構、平安時代の住居跡から瓦が多く出土	群埋文1988『田端遺跡』
109	山名戸矢遺跡	縄文時代後期集落、古墳時代後期集落、奈良・平安時代集落(灰釉陶器多量・緑釉陶器出土)、中世集石遺構・溝状遺構、近世～近代溝状遺構	高崎市遺跡調査会1993『山名戸矢遺跡』
110	山名原口Ⅰ遺跡	後期古墳、奈良・平安時代集落、中世竪穴状遺構、As-A以前畠跡	群馬県高崎市教育委員会1990『山名原口Ⅰ遺跡』
111	山名原口2遺跡	後期古墳	高崎市教育委員会1991『山名原口2遺跡』
112	山名柳沢遺跡	縄文前期集落、終末期古墳、平安時代集落、中世溝と堀で囲まれた郭(館跡)・掘立柱建物跡、近世土坑墓	高崎市遺跡調査会1998『山名柳沢遺跡』
113	山名伊勢塚古墳	6世紀後半の前方後円墳。主体部は横穴式石室。山名古墳群の盟主的な古墳。胴丸式桂甲や馬具類が出土した。	専修大学文学部考古学研究室2008『山名伊勢塚古墳』
114	山ノ上古墳	7世紀中頃の円墳。主体部は横穴式石室。被葬者の墓碑として681年に山ノ上碑が建てられた。	高崎市編さん委員会(編)2003『新編高崎市史　通史編1原始古代』
ア	白石古墳群	鮎川左岸・鏑川右岸段丘上に立地する5世紀前半から7世紀末の古墳群。七輿山支群・猿田支群・稲荷山支群・下郷支群に分けられる。6基の前方後円墳を含む264基の古墳で構成され、80基ほど現存。	藤岡市史編さん委員会(編)2000『藤岡市史通史編　原始・古代・中世』
イ	緑埜古墳群	鮎川左岸に立地する6世紀～7世紀代の古墳群。1基の前方後円墳を含む27基の古墳で構成され、2～3基が現存。	
ウ	東平井古墳群	鮎川右岸に立地する6世紀中葉から7世紀後半の古墳群。368基の古墳で構成され、150基ほどが現存。	
エ	鮎川古墳群	鮎川右岸に立地する6世紀～7世紀代の古墳群。1～数基が現存。	
オ	篠塚古墳群	藤岡台地に立地する古墳群で、7世紀代と推定。13基の古墳で構成されるが、ほとんど現存しない。	
カ	上栗須古墳群	藤岡台地に立地する5世紀後半～6世紀代の古墳群。ほとんど現存しないが、発掘調査にて計14基が確認される。	
キ	山名古墳群	鏑川左岸段丘上に立地する6世紀前半～7世紀前半の古墳群。山名伊勢塚古墳を盟主墳とする60基前後の古墳で構成される。	高崎市教育委員会2008『山名古墳群』、専修大学文学部考古学研究室2008『山名伊勢塚古墳』
A	落合の砦	一辺70mほどの方形の砦跡。平井城の支堡と推定。	藤岡市史編さん委員会(編)1993『藤岡市史資料編　原始・古代・中世』
B	岡の砦	一辺80mの方形の砦跡。平井城の支堡と推定。	
C	三ツ木城	南北150m、東西175mの城域を測り、本丸(東西70m、南北60mほどの規模)と二の丸を有する。平井城の支堡と推定。	
D	白石の砦	一辺75mの単郭堡だが、現存しない。平井城の支堡と推定。	
E	鮎川城	東西250m、南北200mほどの城域の中心部に東西90m、南北70mの本郭を有する。平井上杉氏の家臣である小林氏の居城と推定。	
F	上大塚の砦	一辺75mの単郭堡で、平井城の支堡と推定。	
G	中大塚城	南北220m、東西230mほどを城域とする複郭形式。高山氏の分流である小林氏の居城。平井城の支堡と推定。	
H	下大塚館	南北80m、東西40mの規模を有し、堀が残存する。	
I	動堂城	長さ250m四方の範囲に、本丸(東西100m、南北80mの規模)と二の丸から成る。平井城の支堡と推定。	
J	篠塚館	30m×50mほどの規模と考えられており、土居のみが残存する。	
K	中城	東西170m、南北270mほどが城域とされる。平井城の支堡と推定。	
L	森西館	館域が東西160m、南北180mで、中心に内郭を有する。小林氏に関係するとされる。	

第Ⅳ章　三ツ木東原Ｃ遺跡

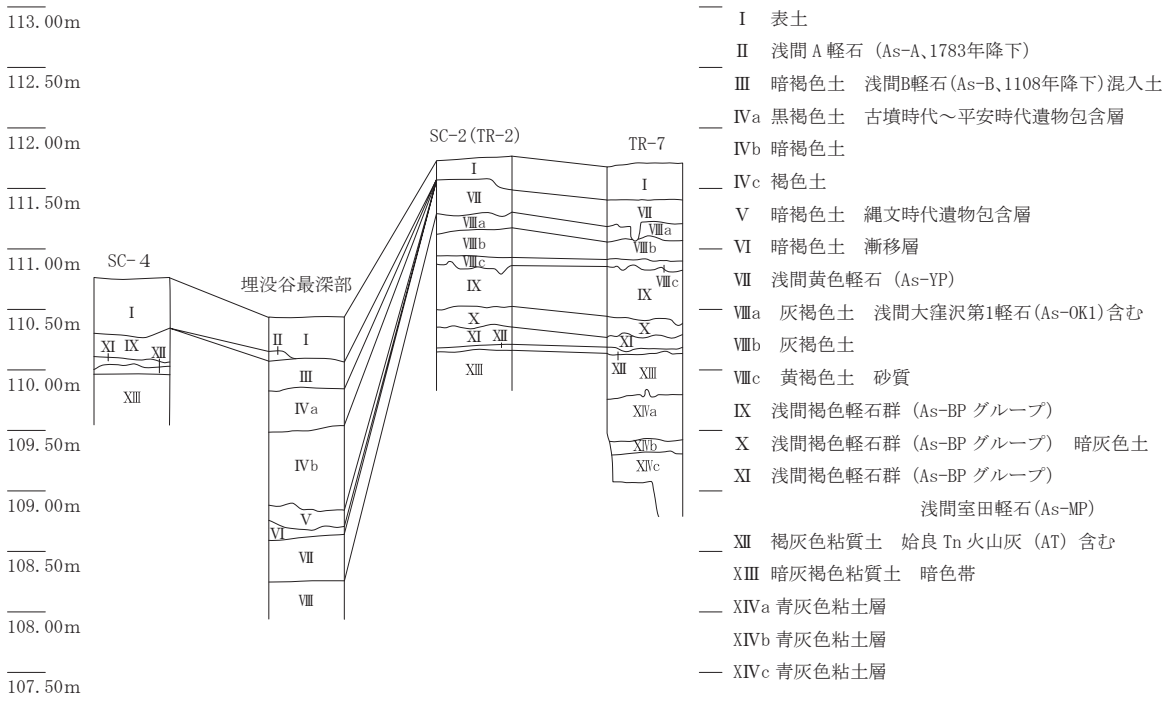
第１節　調査の概要

調査区は１区～３区に分かれ､2 区西端の埋没谷より東側に縄文時代以降の遺構が分布する（第 2･84 ～ 95 図)。縄文時代の遺構は、2 区で後期前葉の敷石住居跡 3 軒、1 区から 2 区にかけては中期後葉～後期前葉を中心とした土坑が分布する。縄文土器は前期後葉～後期前葉、晩期後葉のものがあり、土偶や石棒も出土した。古墳時代は後期の竪穴住居跡 14 軒があり、1 区から 2 区にかけて重複なく広く分布する。奈良時代は遺構が少なく、井戸跡とした大型土坑 1 基がある。平安時代は 2 区に竪穴住居跡 3 軒と掘立柱建物跡 1 棟があり、1 区では南北に軸を揃えた土坑列が検出された。中世には 2 区の薬研堀の溝があり、館跡の可能性がある。多数検出された隅丸長方形の土坑の多くも中世に帰属すると考えられる。近世以降は 1 区の柵跡のほか､2 区に土坑がある。このほか、埋没谷の斜面地にはトンネル状遺構があり、類例の存在からアナグマの巣穴と考えられる。

以上の調査の終了後、2 区西側から 3 区において旧石器時代のトレンチ調査を行った。その結果、As-YP 層下で砕石集中が 1 箇所、AT 層下暗色帯から石器集中を 4 箇所検出した。石器集中には複数のブロックに分けられるものがあり、黒色安山岩、黒曜石、黒色頁岩を主体とした石器群を検出した。

第２節　基本層序

旧石器時代のトレンチ調査により､As-YP､As-BP グループ､AT などのテフラを確認した(第 5 図､第Ⅳ章第 7 節)。埋没谷は深さ 1.5 ｍほどあり、下層に縄文土器、中層から上層に古墳～平安時代の土器を含む。縄文時代以降の遺構確認面であるⅦ層は 2 区はほぼ平坦に推移し、1 区では南へ下る緩斜面となる。



第５図　基本層序図

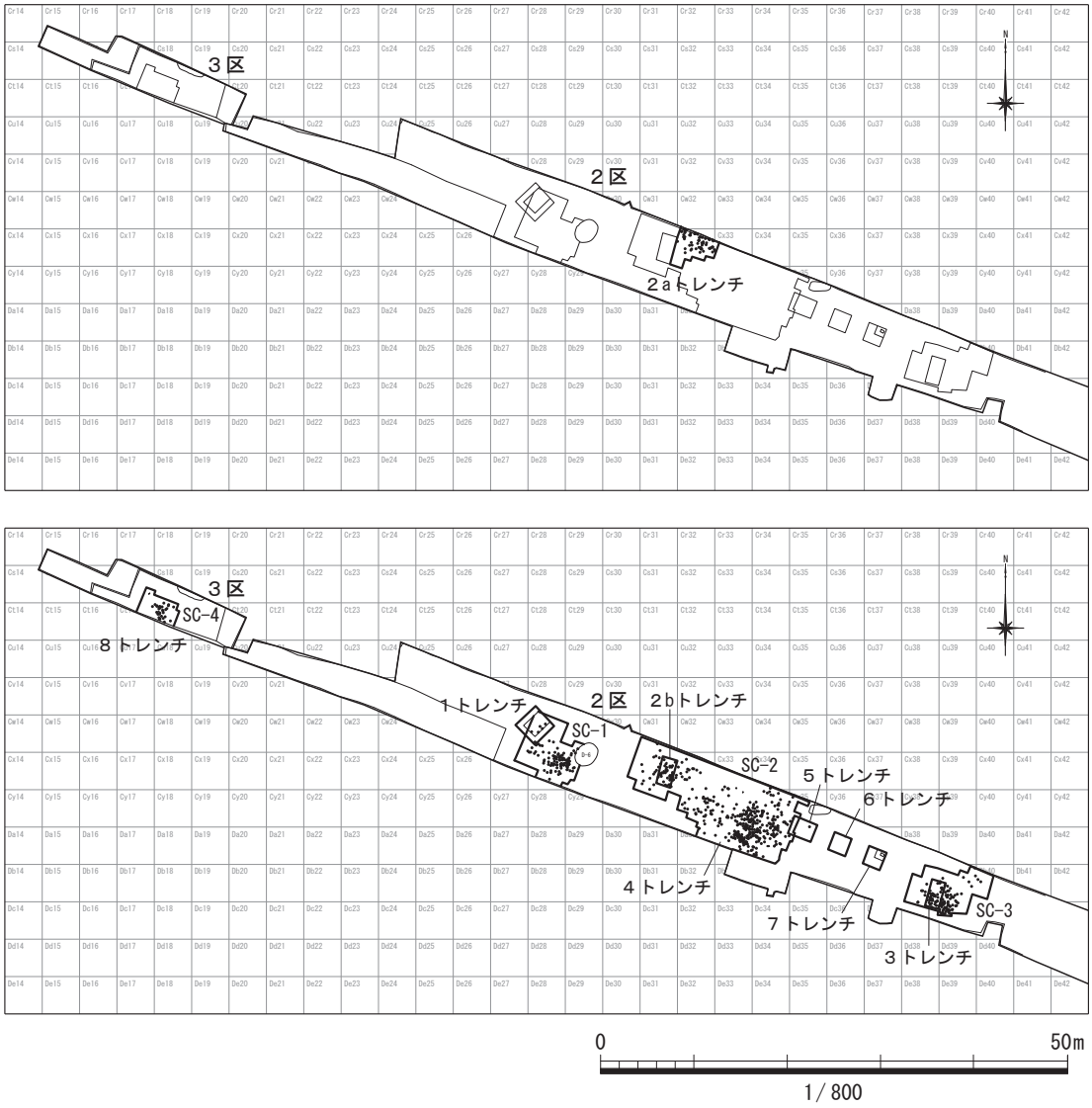
第３節　旧石器時代

１．第１文化層

旧石器時代のトレンチ調査１～８トレンチのうち、2a トレンチではⅩⅢ層に達する前に、As-YP（Ⅶ層）付近で砕石集中を検出した（第６・７図、第４・５表、PL.11）。東西 4.0ｍ、南北 2.4ｍ以上の範囲内に散漫に分布する。西寄りに安山岩の加工礫があり、そこから剥離したと思われるチップが 45 点確認された。ほかに硬質泥岩の剥片１点・チップ２点、頁岩のチップ３点が出土した。土器片が４点出土したが、土師器が含まれたため、植栽等の攪乱が及んでいる可能性がある。他のトレンチでは確認されておらず、石器の広がりは明らかではない。

２．第２文化層

旧石器時代調査の１～５・８トレンチにおいて、AT 層下位暗色帯（ⅩⅢ層）から石器が出土した。その後、トレンチを拡張した結果、２区で３箇所、３区で１箇所の石器集中地点を確認し、SC-1・2・3・4 の名称を付した（第６図）。SC-1・２の石器分布には複数のブロックが認められ、全体で９箇所のブロックを認識した（第８図、１～



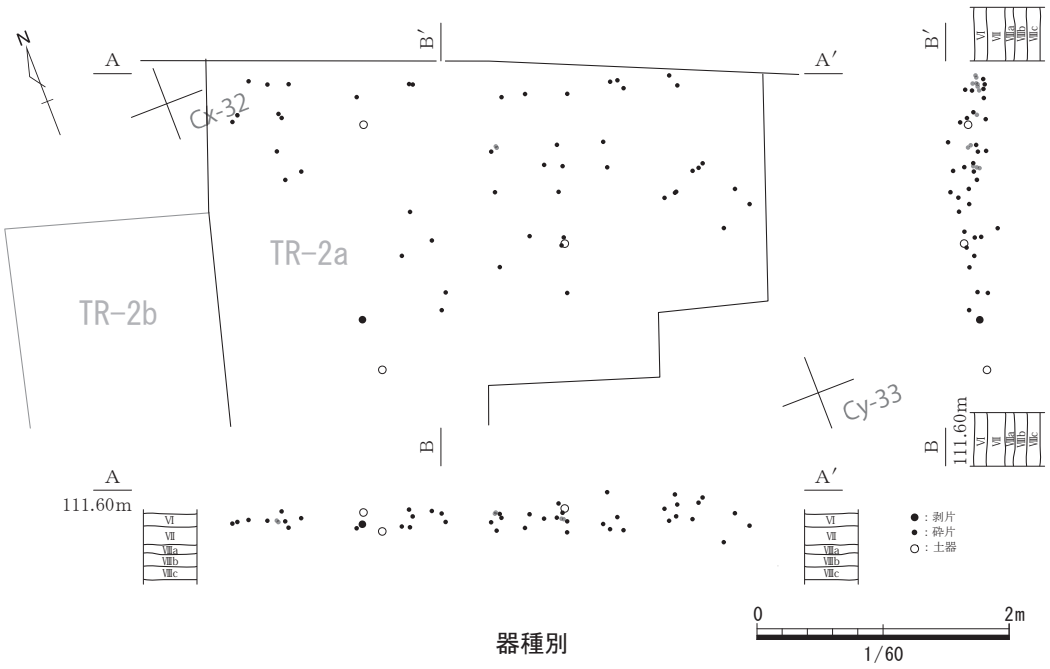
第６図　旧石器調査トレンチ位置図（上：第１文化層、下：第２文化層）

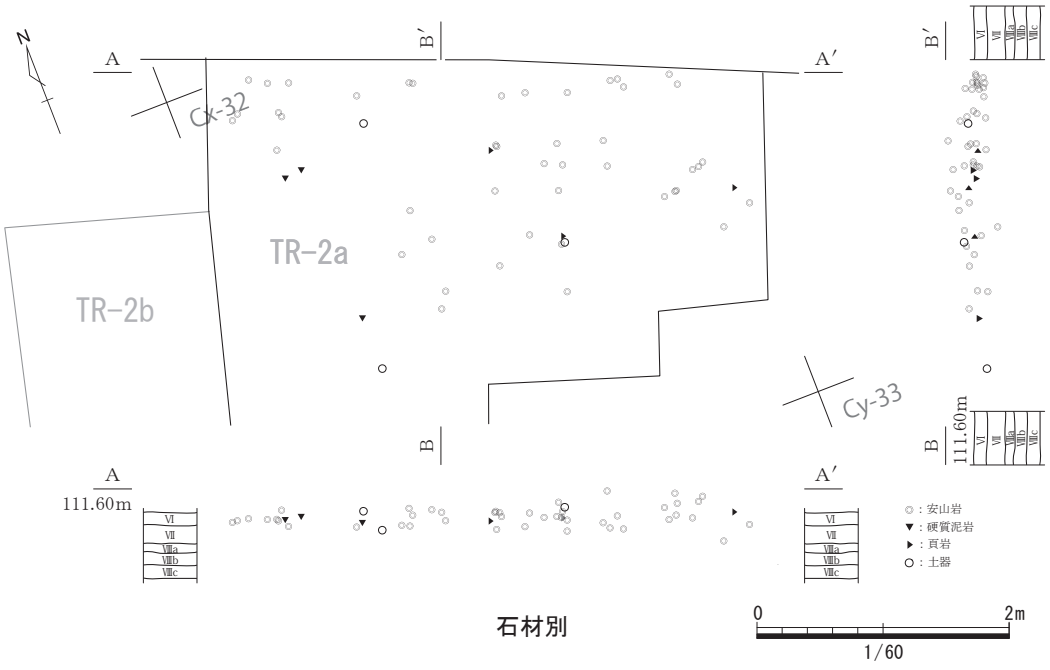
第４表　第１文化層出土石器器種組成表

ブロック	ナイフ形石器 Knife		石核 Core		砕片 Chip		剥片 Flake		二次加工剥片 R.Flake		使用痕のある剥片 U.Flake		石刃 Blade		石斧 Biface		敲石 Hammer		台石 anbil		その他		合計
	点数 重量g	% %	点数 重量g	% %	点数 重量g	% %	点数 重量g	% %	点数 重量g	% %	点数 重量g	% %	点数 重量g	% %	点数 重量g	% %	点数 重量g	% %	点数 重量g	% %	点数 重量g	% %	点数 重量g
2aトレンチ					50 10.6	90.9% 2.2%	1 6.7	1.8% 1.4%													4 457	7.3% 96.4%	55 474.3

第５表　第１文化層出土石器石材組成表

ブロック	An		BAn		BSh		HSh		Sh		Ob		Ch		RCh		WCh		HMd		その他		合計
	点数 重量g	% %	点数 重量g	% %	点数 重量g	% %	点数 重量g	% %	点数 重量g	% %	点数 重量g	% %	点数 重量g	% %	点数 重量g	% %	点数 重量g	% %	点数 重量g	% %	点数 重量g	% %	点数 重量g
2a トレンチ	47 466.2	85.5% 98.3%							3 0.9	5.5% 0.2%									3 6.9	5.5% 1.5%	2 0.3	3.6% 0.1%	55 474.3





第７図　第１文化層 2a トレンチ遺物分布図

9 ブロック）。SC-1 は東西 5.6 m、南北 5.8 mの範囲内に 2・3 ブロックが存在する。SC-2 は東西 19.2 m、南北 7.6 mの範囲内に 4 ～ 8 ブロックが存在する。それぞれの石器集中地点内部での接合関係はあるが、集中地点同士の接合は確認できなかった。各ブロック出土石器の器種と石材の組成は第 6･7 表に示した。器種は、剥片とチップが 94.2%を占め、ほかにナイフ形石器 3 点、石核 7 点、石刃 1 点、石斧（刃部破片）1 点、敲石 5 点、台石 8 点などがある。石材は、全体では黒色安山岩が 41.6%、黒曜石が 36.3%、黒色頁岩が 13.3%、赤チャートが 2.0%などとなる。

1 ブロック（第 9・13 ～ 16 図、PL. 11・45）

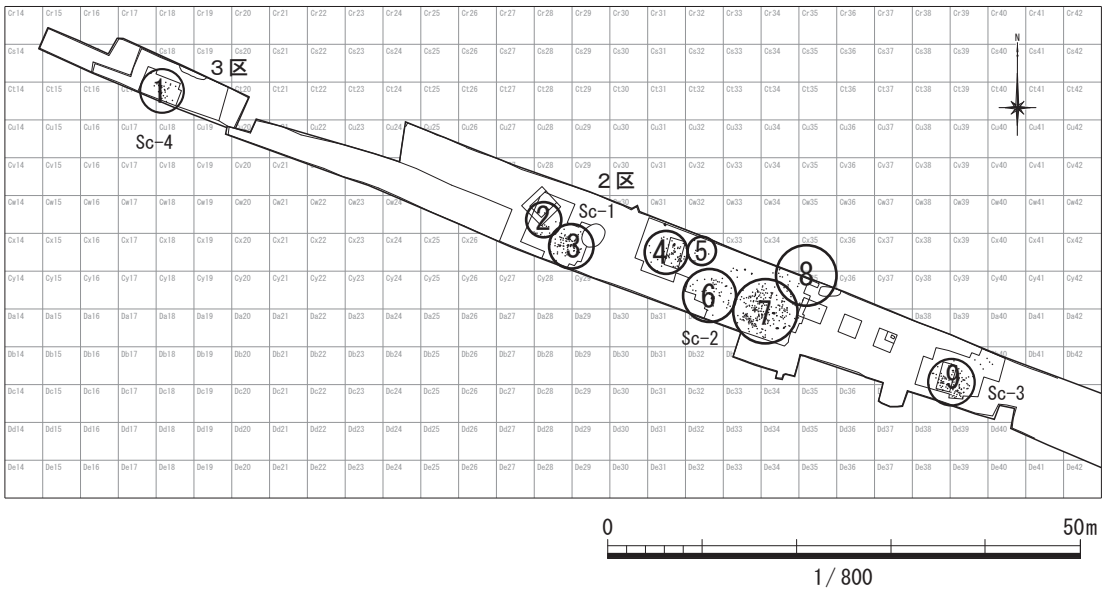
埋没谷西側の狭い尾根の北端に立地し、3 区の SC-4 内に所在する。石器の総数は 30 点である。分布は、径 4.6 mの円形範囲内の中心に集中し、北西側の周縁部で敲石 (3) が出土している。石材は黒色安山岩が 83%を占める。器種は剥片・チップが 86%を占め、ほかに石斧刃部片 (1)、接合資料 21 の石核 (43) が出土した。敲石は、安山岩 (2) と結晶片岩 (3) の 2 点があり、台石は出土していない。剥片の平均値は長さ 39.9 ㎜、幅 35.8 ㎜、厚さ 12.8 ㎜、重量 16.2g である。

2 ブロック（第 9・13・17・18 図）

2 区埋没谷の東岸にある SC-1 内に所在する。石器の総数は 18 点である。分布は、径 3.7 mの円形範囲内の南東側にまとまりがあるが、全体的には散漫である。石材は黒色安山岩が 72%、チャートが 16%、硬質頁岩・砂岩が 5%を占める。器種は剥片・チップが 89%を占め、ツール類は出土していない。3 ブロックと接合資料が 3 点ある（32・34・35）。剥片の平均値は長さ 26.4 ㎜、幅 21.4 ㎜、厚さ 6.7 ㎜、重量 4.0g である。

3 ブロック（第 9・13・17 ～ 19 図、PL. 7・45）

2 区埋没谷の東岸にある SC-1 内に所在する。石器の総数は 88 点である。分布は、径 4.7 mの円形範囲内の中心から西側に集中し、それ以外は散漫である。石材は黒色安山岩が 95%を占め、硬質頁岩が 2%ある。器種は剥



第８図　第２文化層ブロック位置図

第６表　第２文化層ブロック別器種組成表

ブロック	ナイフ形石器 Knife		石核 Core		砕片 Chip		剥片 Flake		二次加工剥片 R.Flake		使用痕のある剥片 U.Flake		石刃 Blade		石斧 Biface		敲石 Hammer		台石 anbil		その他		合計
	点数 重量g	% %	点数 重量g	% %	点数 重量g	% %	点数 重量g	% %	点数 重量g	% %	点数 重量g	% %	点数 重量g	% %	点数 重量g	% %	点数 重量g	% %	点数 重量g	% %	点数 重量g	% %	点数 重量g
1			1 60.2	3.3% 6.3%	11 8.5	36.7% 0.9%	15 243	50.0% 25.6%							1 5.3	3.3% 0.6%	2 633.4	6.7% 66.6%					30 950.4
2					4 1.6	22.2% 1.0%	12 48.1	66.7% 29.9%													2 111.4	11.1% 69.1%	18 161.1
3					41 22.2	46.6% 4.8%	47 443	53.4% 95.2%															88 465.2
4	1 1	1.6% 0.0%			35 20.6	57.4% 0.3%	23 100.1	37.7% 1.5%			1 0.8	1.6% 0.0%							1 6600	1.6% 98.2%			61 6722.5
5					5 1.7	33.3% 1.7%	8 85.7	53.3% 84.7%	1 3	6.7% 3.0%	1 10.8	6.7% 10.7%											15 101.2
6	1 0.9	2.1% 0.0%			22 10.9	46.8% 0.1%	20 327.5	42.6% 3.9%			1 7.2	2.1% 0.1%					1 207.9	2.1% 2.5%	2 7887.1	4.3% 93.4%			47 8441.5
7	1 3.8	0.4% 0.0%	2 147.9	0.8% 1.3%	80 28.5	33.1% 0.2%	152 1879.1	62.8% 16.3%	1 2.7	0.4% 0.0%							1 568.3	0.4% 4.9%	2 8896.3	0.8% 77.0%	3 23.2	1.2% 0.2%	242 11549.8
8			1 30.8	5.3% 15.3%	1 0.4	5.3% 0.2%	17 169.8	89.5% 84.5%															19 201
9			3 176.9	2.5% 43.0%	42 16.9	35.6% 4.1%	69 203.3	58.5% 49.4%			2 5.8	1.7% 1.4%	2 8.7	1.7% 2.1%									118 411.6
ブロック外							10 56.1	71.4% 0.8%									1 309.6	7.1% 4.6%	3 6428.9	21.4% 94.6%			14 6794.6
全体	3 5.7	0.5% 0.0%	7 415.8	1.1% 1.2%	241 111.3	37.0% 0.3%	373 3555.7	57.2% 9.9%	2 5.7	0.3% 0.0%	5 24.6	0.8% 0.1%	2 8.7	0.3% 0.0%	1 5.3	0.2% 0.0%	5 1719.2	0.8% 4.8%	8 29812.3	1.2% 83.3%	5 134.6	0.8% 0.4%	652 35798.9
素材	3 5.7	0.5% 0.1%	7 415.8	1.1% 10.1%	241 111.3	38.0% 2.7%	373 3555.7	58.8% 86.0%	2 5.7	0.3% 0.1%	5 24.6	0.8% 0.6%	2 8.7	0.3% 0.2%	1 5.3	0.2% 0.1%							634 4132.8

第７表　第２文化層ブロック別石材組成表

ブロック	An		BAn		BSh		HSh		Sh		Ob		Ch		RCh		WCh		HMd		Sc		SS		GS		Ag		合計
	点数 重量g	% %	点数 重量g	% %	点数 重量g	% %	点数 重量g	% %	点数 重量g	% %	点数 重量g	% %	点数 重量g	% %	点数 重量g	% %	点数 重量g	% %	点数 重量g	% %	点数 重量g	% %	点数 重量g	% %	点数 重量g	% %	点数 重量g	% %	点数 重量g
1	1 381.2	3.3% 40.1%	25 309.3	83.3% 32.5%			1 6.3	3.3% 0.7%					1 0.5	3.3% 0.1%							1 252.2	3.3% 26.5%	1 0.9	3.3% 0.1%					30 950.4
2			13 41.4	72.2% 25.7%			1 0.3	5.6% 0.2%					3 95.7	16.7% 59.4%									1 23.7	5.6% 14.7%					18 161.1
3			83 432.7	94.3% 93.0%			2 31	2.3% 6.7%			1 0.7	1.1% 0.2%	2 0.8	2.3% 0.2%															88 465.2
4	3 6619.4	4.9% 98.5%			2 52.7	3.3% 0.8%					53 45.7	86.9% 0.7%					1 1	1.6% 0.0%									2 3.7	3.3% 0.1%	61 6722.5
5	4 47.5	26.7% 46.9%							1 31.2	6.7% 30.8%	9 19.1	60.0% 18.9%															1 3.5	6.7% 3.5%	15 101.3
6	3 6679.2	6.4% 79.1%	2 215.5	4.3% 2.6%	4 198.9	8.5% 2.4%			1 8.5	2.1% 0.1%	35 48.8	74.5% 0.6%	1 3.5	2.1% 0.0%											1 1287.1	2.1% 15.2%			47 8441.5
7	69 10122	28.5% 87.6%	67 452.9	27.7% 3.9%	70 902.1	28.9% 7.8%			1 9.7	0.4% 0.1%	30 13.4	12.4% 0.1%									1 0.9	0.4% 0.0%	3 43.1	1.2% 0.4%			1 5.5	0.4% 0.0%	242 11549.8
8	2 26	10.5% 12.9%	4 8.1	21.1% 4.0%	11 156.1	57.9% 77.7%					2 10.8	10.5% 5.4%																	19 201
9			1 5.4	0.8% 1.3%			1 18.5	0.8% 4.5%			100 238.8	84.7% 58.0%	1 0.8	0.8% 0.2%	13 142.2	11.0% 34.6%	2 5.8	1.7% 1.4%											118 411.5
ブロック外	4 6738.5	28.6% 99.2%					2 4.8	14.3% 0.1%			7 46.7	50.0% 0.7%															1 4.6	7.1% 0.1%	14 6794.6
全体	86 30614	13.2% 85.5%	195 1465.3	29.9% 4.1%	87 1309.8	13.3% 3.7%	7 60.9	1.1% 0.2%	3 49.4	0.5% 0.1%	237 424	36.3% 1.2%	8 101.3	1.2% 0.3%	13 142.2	2.0% 0.4%	3 6.8	0.5% 0.0%			2 253.1	0.3% 0.7%	5 67.7	0.8% 0.2%	1 1287.1	0.2% 3.6%	5 17.3	0.8% 0.0%	652 35798.9
素材	76 829.7	12.0% 20.1%	193 1256.4	30.6% 30.4%	87 1309.8	13.8% 31.7%	7 60.9	1.1% 1.5%	2 39.7	0.3% 1.0%	237 424	37.6% 10.3%	5 12.3	0.8% 0.3%	13 142.2	2.1% 3.4%	3 6.8	0.5% 0.2%			1 0.9	0.2% 0.0%	2 31	0.3% 0.8%			5 17.3	0.8% 0.4%	631 4131

第８表　第２文化層ブロック別器種法量（平均値）

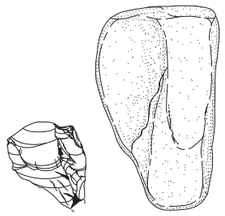
ブロック	平均値	ナイフ形石器 Knife	石核 Core	砕片 Chip	剥片 Flake	二次加工剥片 R.Flake	使用痕のある剥片 U.Flake	石刃 Blade	石斧 Biface	敲石 Hammer	台石 anbil
1	長さ		63.4	17.6	39.9				14.5	126.2	
	幅		51.9	14.0	35.8				41.0	62.4	
	厚さ		20.0	5.7	12.8				14.6	38.5	
	重量		60.2	0.8	16.2				5.3	316.7	
2	長さ			23.0	26.4						
	幅			9.0	21.4						
	厚さ			4.8	6.7						
	重量			0.4	4.0						
3	長さ			13.7	26.3						
	幅			14.9	26.4						
	厚さ			5.0	9.4						
	重量			0.5	9.4						
4	長さ	－		16.3	22.3		18.0				266.9
	幅	11.0		14.1	20.6		17.0				161.5
	厚さ	4.1		4.5	6.3		2.5				115.9
	重量	1.0		0.6	4.4		0.8				6600.0
5	長さ			11.0	29.3	23.0	49.6				
	幅			14.0	28.3	20.0	26.8				
	厚さ			3.3	7.7	8.3	12.5				
	重量			0.3	10.7	3.0	10.8				
6	長さ	25.8		15.5	33.5		36.9			75.7	224.7
	幅	9.9		15.5	29.7		22.6			75.3	138.7
	厚さ	3.6		7.1	9.2		11.7			25.8	85.3
	重量	0.9		0.5	16.4		7.2			207.9	3943.6
7	長さ	40.7	40.4	13.7	32.3	22.1				96.9	280.4
	幅	21.6	59.0	15.6	29.6	24.0				86.0	136.2
	厚さ	5.3	34.1	4.3	10.5	7.4				54.4	87.0
	重量	3.8	74.0	0.4	12.4	2.7				568.3	4448.2
8	長さ		43.4	－	30.3						
	幅		31.9	－	30.0						
	厚さ		20.0	－	10.2						
	重量		30.8	0.4	10.0						
9	長さ		38.8	14.2	25.8		30.5	45.7			
	幅		36.1	13.6	17.9		20.5	16.0			
	厚さ		39.8	4.3	6.4		5.6	7.3			
	重量		59.0	0.4	2.9		2.9	4.4			
ブロック外	長さ				29.1					－	167.5
	幅				24.9					－	137.1
	厚さ				9.4					－	94.5
	重量				5.6					－	3214.5

第９表　第２文化層石材別石器組成表

石材	器種											合計	%
	ナイフ形石器 Knife	石核 Core	砕片 Chip	剥片 Flake	二次加工剥片 R.Flake	使用痕のある剥片 U.Flake	石刃 Blade	石斧 Biface	敲石 Hammer	台石 anbil	その他		
An			4	72					3	7		86	13.19%
Ban		3	90	99				1	1		1	195	29.91%
BSh	1	1	9	76								87	13.34%
HSh			1	6								7	1.07%
Sh				2							1	3	0.46%
Ob	2	2	125	100	2	5	1					237	36.35%
Ch			4	3							1	8	1.23%
RCh		1	3	9								13	1.99%
WCh			1	1			1					3	0.46%
Sc			1						1			2	0.31%
SS			1	2							2	5	0.77%
GS										1		1	0.15%
Ag			2	3								5	0.77%
全体	3	7	241	373	2	5	2	1	5	8	5	652	100.00%

SC-4
SC-1
SC-2
SC-3
埋没谷
N
▲ ：ナイフ形石器
◇ ：両面調整石器
★ ：スクレイパー
☆ ：使用痕を有する剥片
◎ ：二次調整痕を有する剥片
▶ ：縦長剥片
⊙ ：敲石
▣ ：台石
□ ：石核・残核
■ ：石核調整・打面作成剥片
▽ ：作業面調整・再生剥片
● ：剥片
● ：砕片
52（SC3-110）
53（SC3-84）
54（SC2-357）
【ブロック外】
1（SC4-5）
2（SC4-31）
3（SC4-32）
【１ブロック】
4（SC1-58）
5（SC1-96）
【３ブロック】
8（SC2-51）
【５ブロック】
6（SC2-6）
7（SC2-356）
【４ブロック】
27（SC2-296）
【８ブロック】
28（SC3-46）
30（SC3-71）
29（SC3-38）
【９ブロック】
9（SC2-76）
10（SC2-91）
11（SC2-353）
12（SC2-354）
13（SC2-355）
【６ブロック】
14（SC2-262）
15（SC2-150）
16（SC2-165）
17（SC2-189）
18（SC2-233）
19（SC2-252）
20（SC2-256）
21（SC2-260）
22（SC2-267）
23（SC2-332）
24（SC2-358）
25（SC2-359）
26（SC2-360）
【７ブロック】
0　10m
1/300
※等高線は縄文時代以降の遺構面（Ⅶ層）のもの

第９図　石器集中地点全体図・ブロック配置図



6（SC2-6）　7（SC2-356）

【４ブロック】

8（SC2-51）

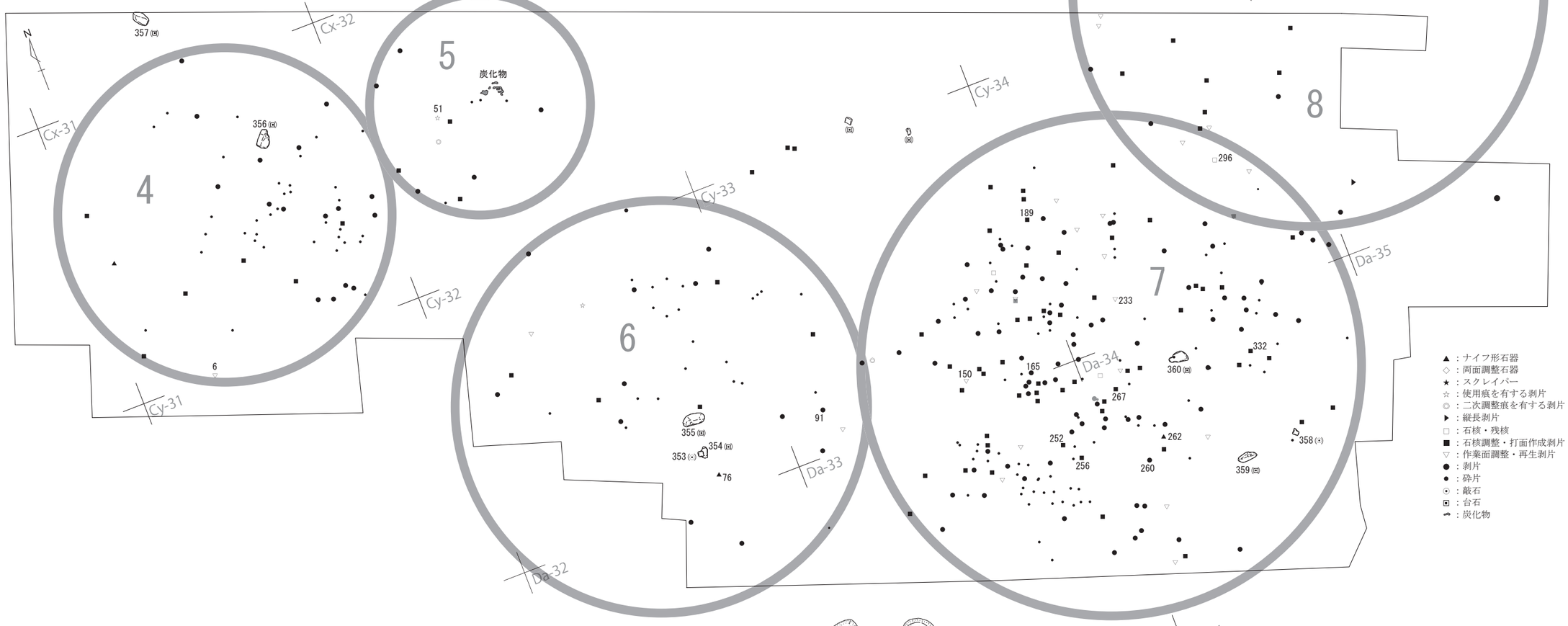
【５ブロック】

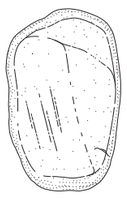
9（SC2-76）　10（SC2-91）　11（SC2-353）　12（SC2-354）　13（SC2-355）

【６ブロック】

27（SC2-296）

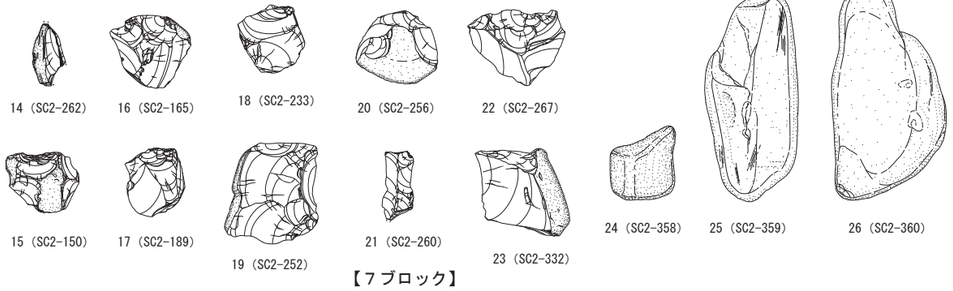
【８ブロック】





54（SC2-357）

【ブロック外】

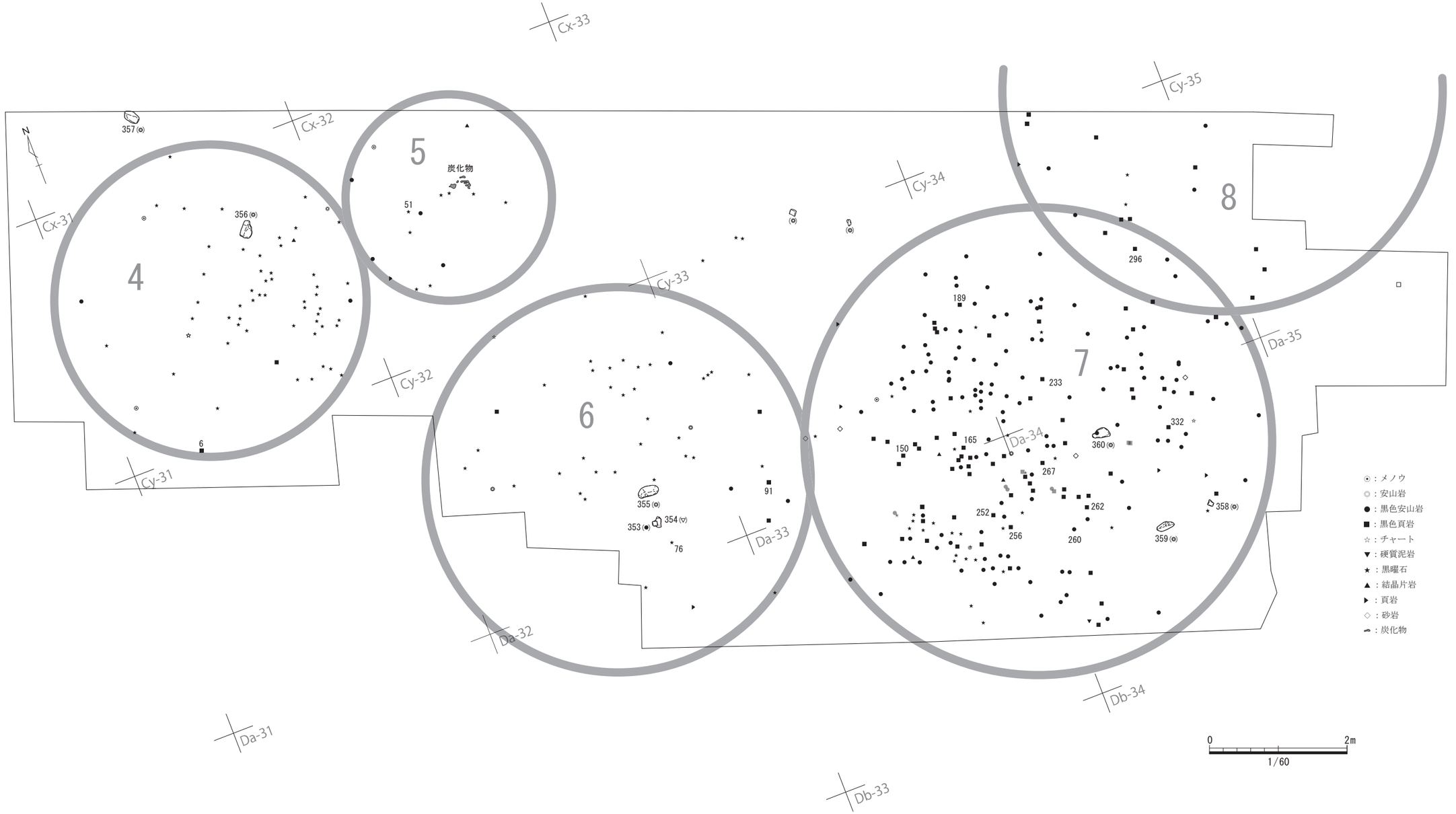


14（SC2-262）　16（SC2-165）　18（SC2-233）　20（SC2-256）　22（SC2-267）

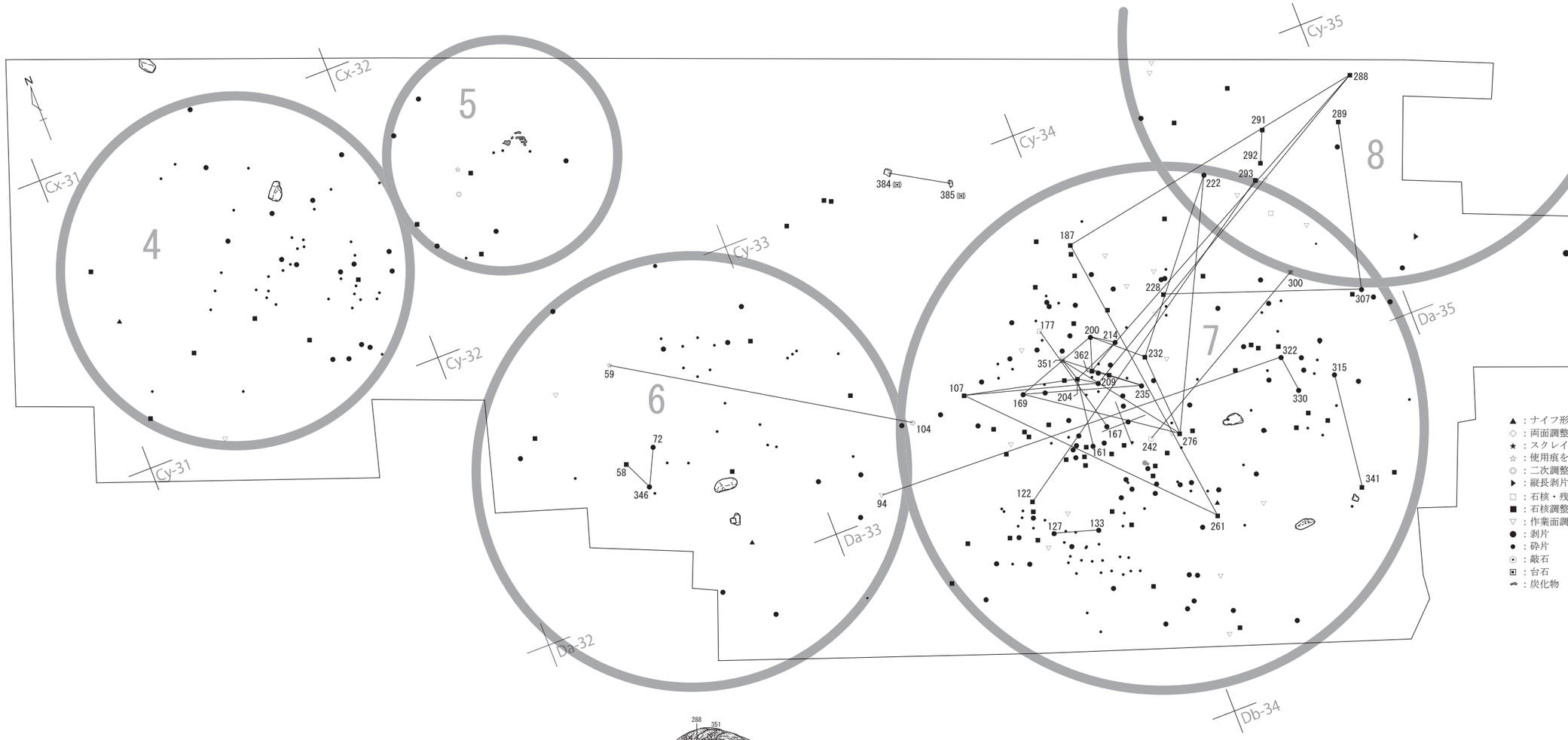
15（SC2-150）　17（SC2-189）　19（SC2-252）　21（SC2-260）　23（SC2-332）　24（SC2-358）　25（SC2-359）　26（SC2-360）

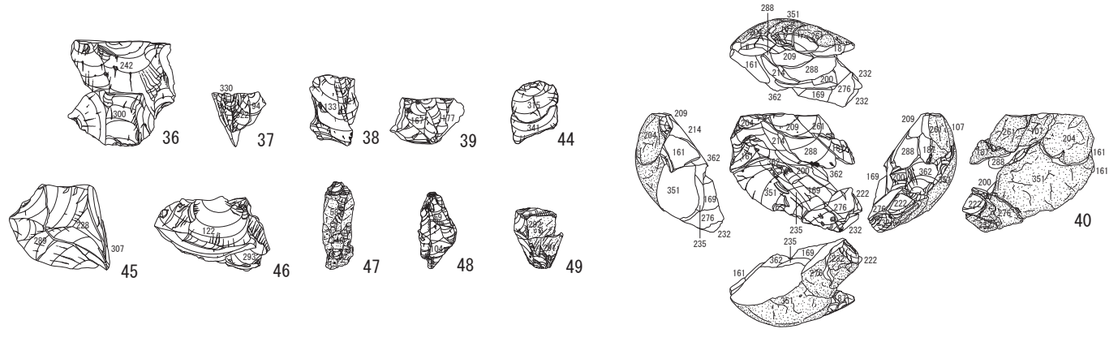
【７ブロック】

第 10 図　石器集中地点 SC-2 ブロック配置図（器種別）

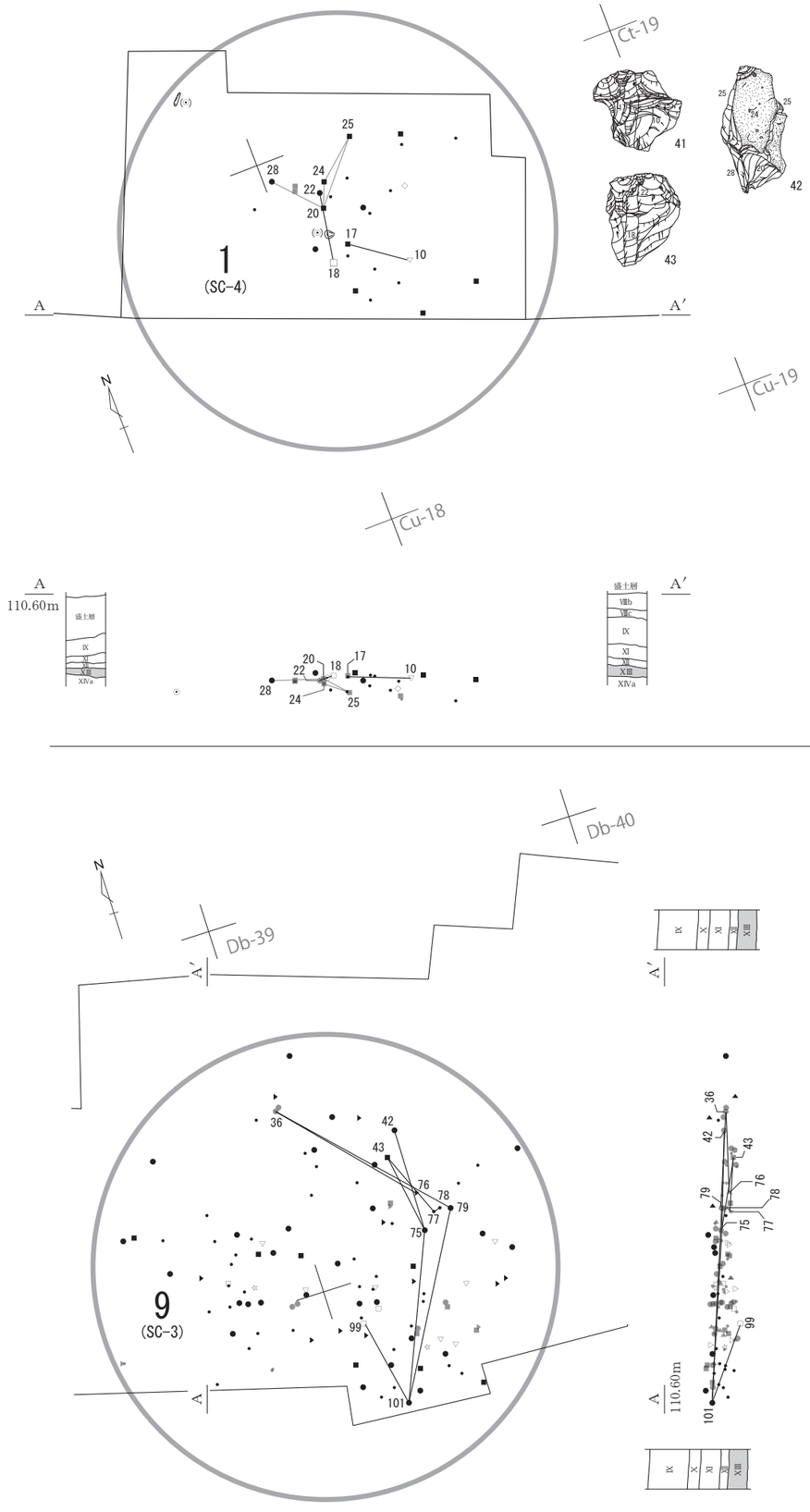


第 11 図　石器集中地点 SC-2 ブロック配置図（石材別）





第 12 図　石器集中地点 SC-2 接合関係図

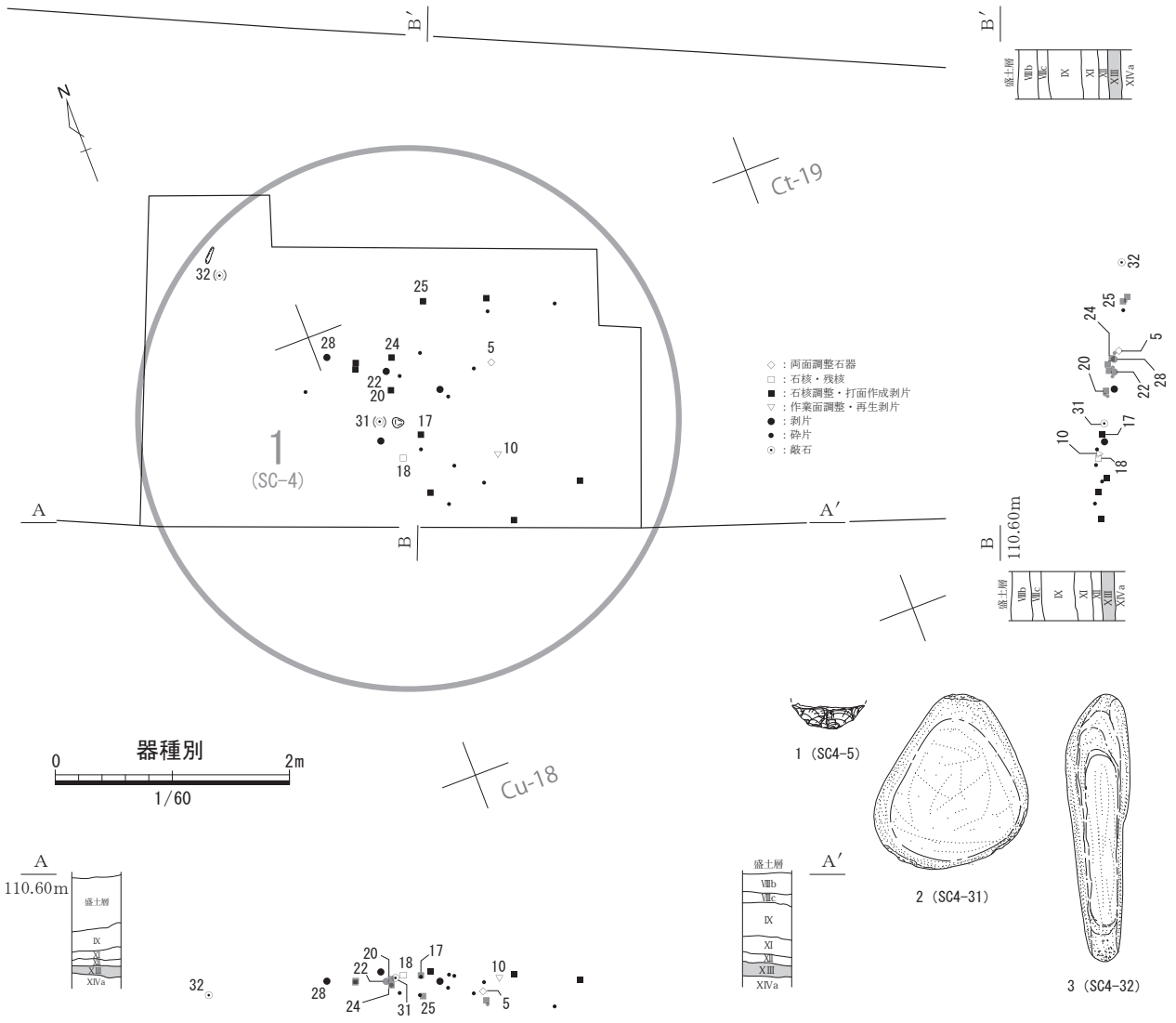


第 13 図　石器集中地点 SC-1・3・4 接合関係図

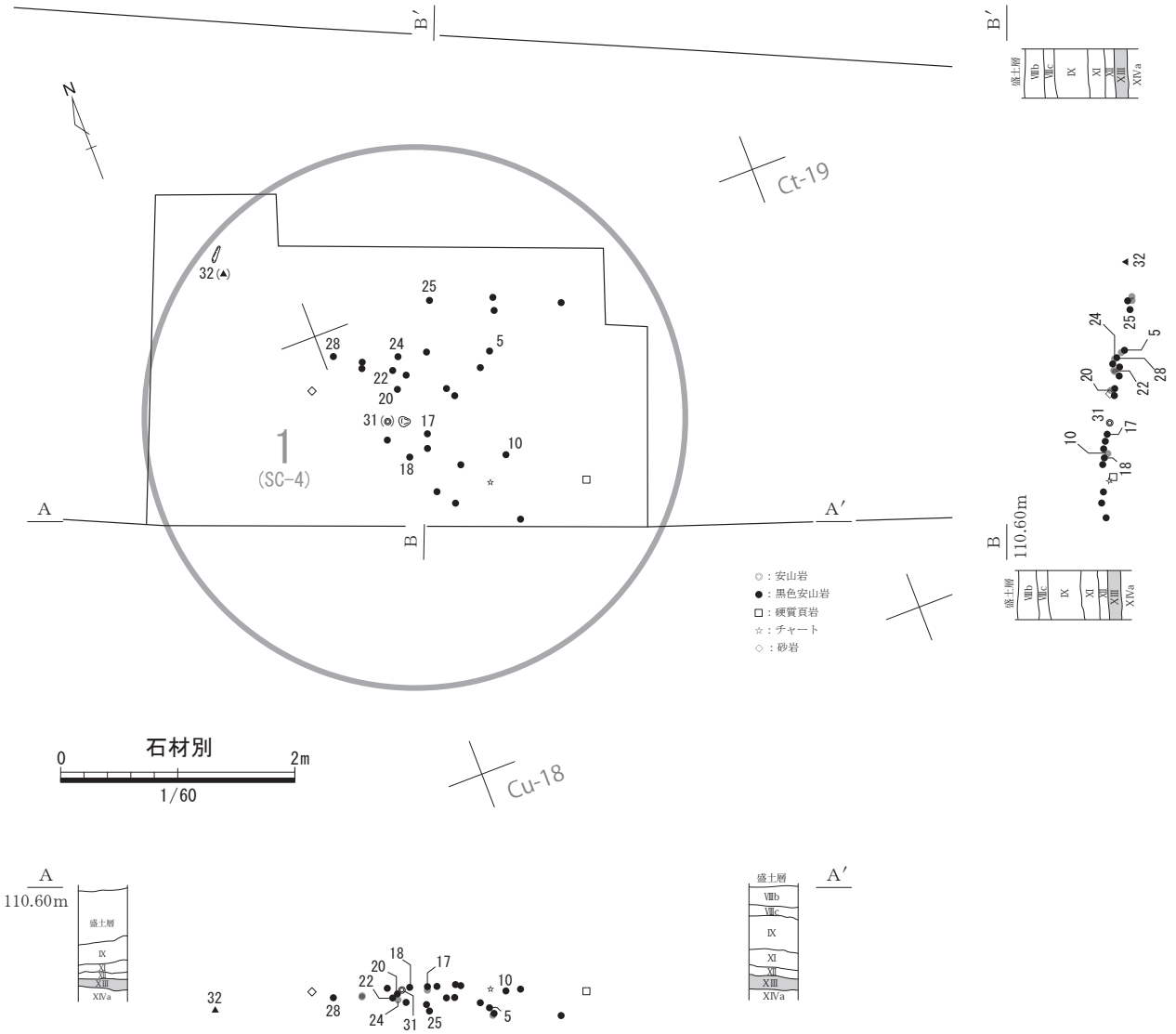
片・チップが 100%となり、ツール類は出土していない。2 ブロックとの接合資料が 3 点ある（32・34・35）。剥片の平均値は長さ 26.3 ㎜、幅 26.4 ㎜、厚さ 9.4 ㎜、重量 9.4g である。

4 ブロック（第 9 ～ 12・20 ～ 22 図、PL.8・9・45）

2 区埋没谷の東方 40 m付近の平坦地に立地し､SC-2 内の西側に所在する。石器の総数は 61 点である。分布は、径約 4.5 mの円形範囲内で、北東にある台石（7）周辺に集中し、南西側は散漫である。石材は黒曜石が 87%を占め、安山岩、黒色頁岩、瑪瑙が 3 ～ 4%ずつある。器種は剥片・チップが 95%を占め、ほかに黒曜石のナイフ形石器の欠損品 1 点、使用痕のある黒色頁岩の剥片 1 点が出土した。台石は安山岩（7）が 1 点あり、敲石は出土していない。ブロックの内外での接合関係は認識できなかった。剥片の平均値は長さ 22.3 ㎜、幅 20.6 ㎜、厚さ 6.3 ㎜、重量 4.4g で、全ブロック中で最も小さい。



第 14 図　1 ブロック遺物分布図①



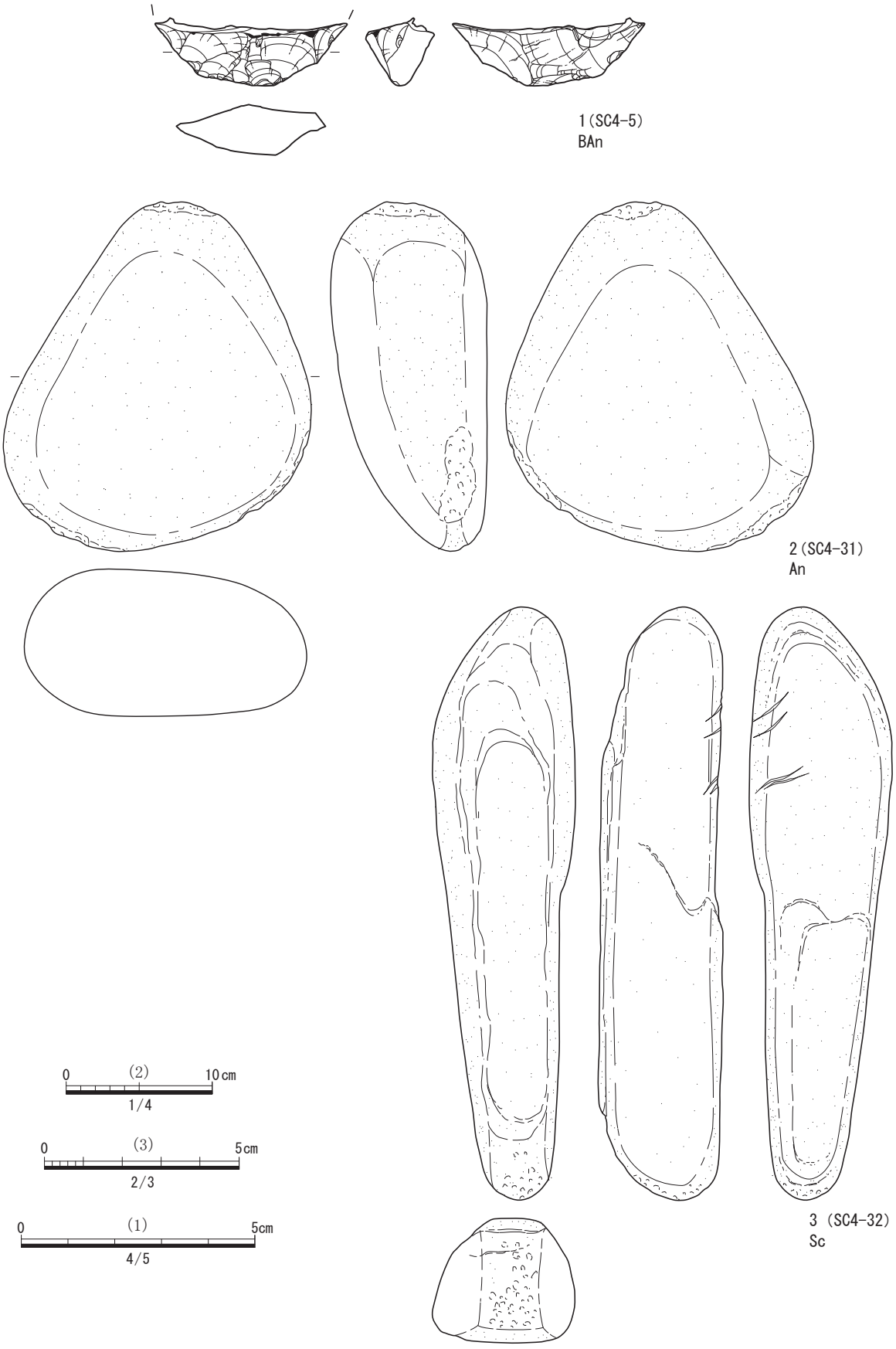
第 15 図　1 ブロック遺物分布図②

5 ブロック（第 9 ～ 12・19 ～ 21 図、PL. 9・45）

2 区埋没谷の東方 40 m付近の平坦地に立地し、SC-2 内の西側に所在する。第 1 文化層において砕石集中のあった地点の下層である。石器の総数は 15 点である。分布は、推定径 3.0 mの円形範囲内で散漫である。石材は黒曜石が 60%を占め、安山岩が 27%、頁岩と瑪瑙が 6%ずつある。器種は剥片・チップが 87%を占め、ほかに二次加工のある剥片、使用痕のある剥片（8）が 1 点ずつ出土した。敲石、台石は出土していない。剥片の平均値は長さ 29.3 ㎜、幅 28.3 ㎜、厚さ 7.7 ㎜、重量 10.7g である。ブロックの中心部付近で炭化物が出土している。

6 ブロック（第 9 ～ 12・23 ～ 25 図、PL. 8・9・46）

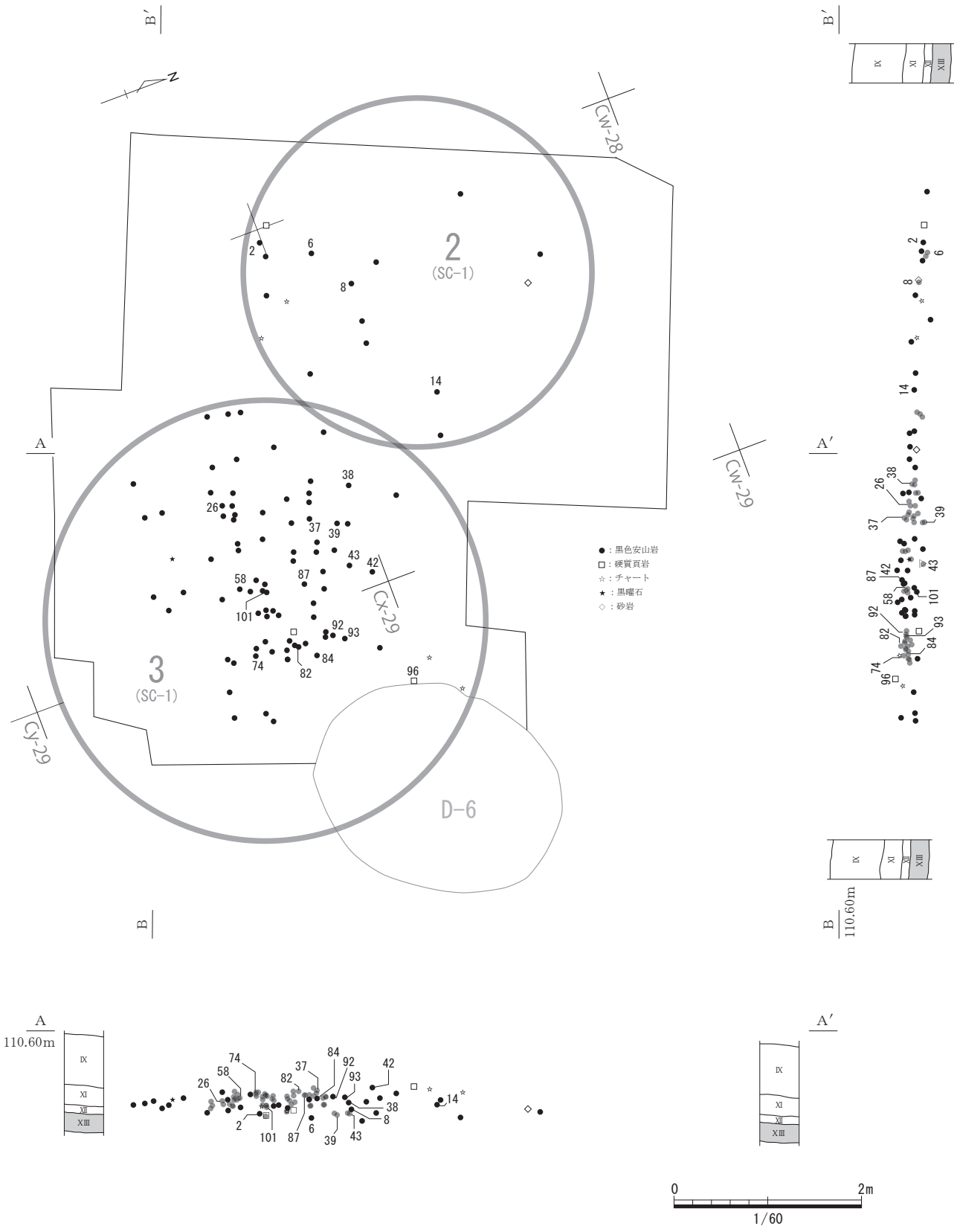
2 区埋没谷の東方 40 m付近の平坦地に立地し、SC-2 内の南側に所在する。石器の総数は 47 点である。分布は、径 5.5 mの円形範囲内で散漫である。ブロックの中心部で敲石（11）と台石（12・13）が近接して出土し、その南側からナイフ形石器（9）が出土した。石材は黒曜石が 74%を占め、黒色頁岩が 8%、安山岩が 6%ある。器種は剥片・チップが 89%を占め、ほかに黒曜石のナイフ形石器（9）、接合資料（48）の中に使用痕のある黒曜



第16図　1ブロック出土石器

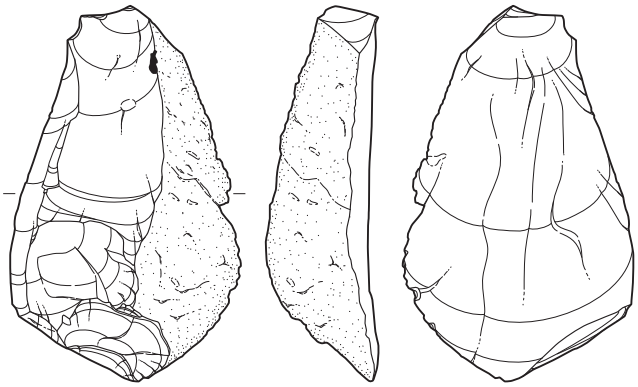
器種別

第 17 図　2・3 ブロック遺物分布図①

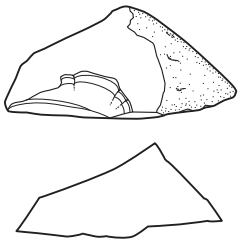


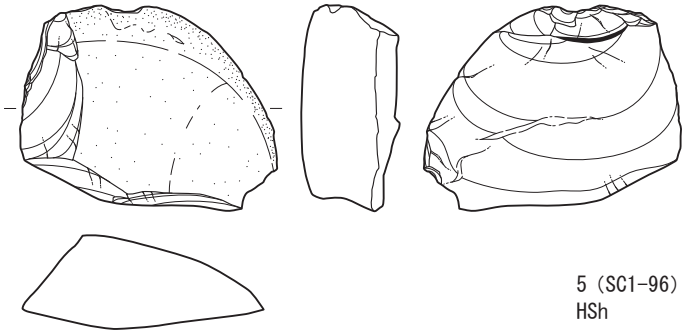
石材別

第 18 図　2・3 ブロック遺物分布図②



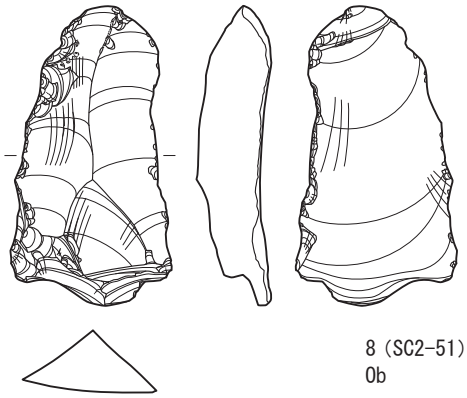
4（SC1-58）
BAn





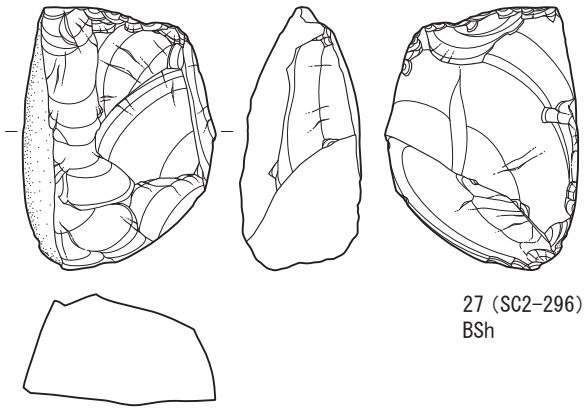
5（SC1-96）
HSh

3 ブロック



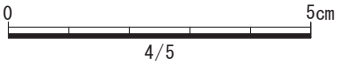
8（SC2-51）
Ob

5 ブロック

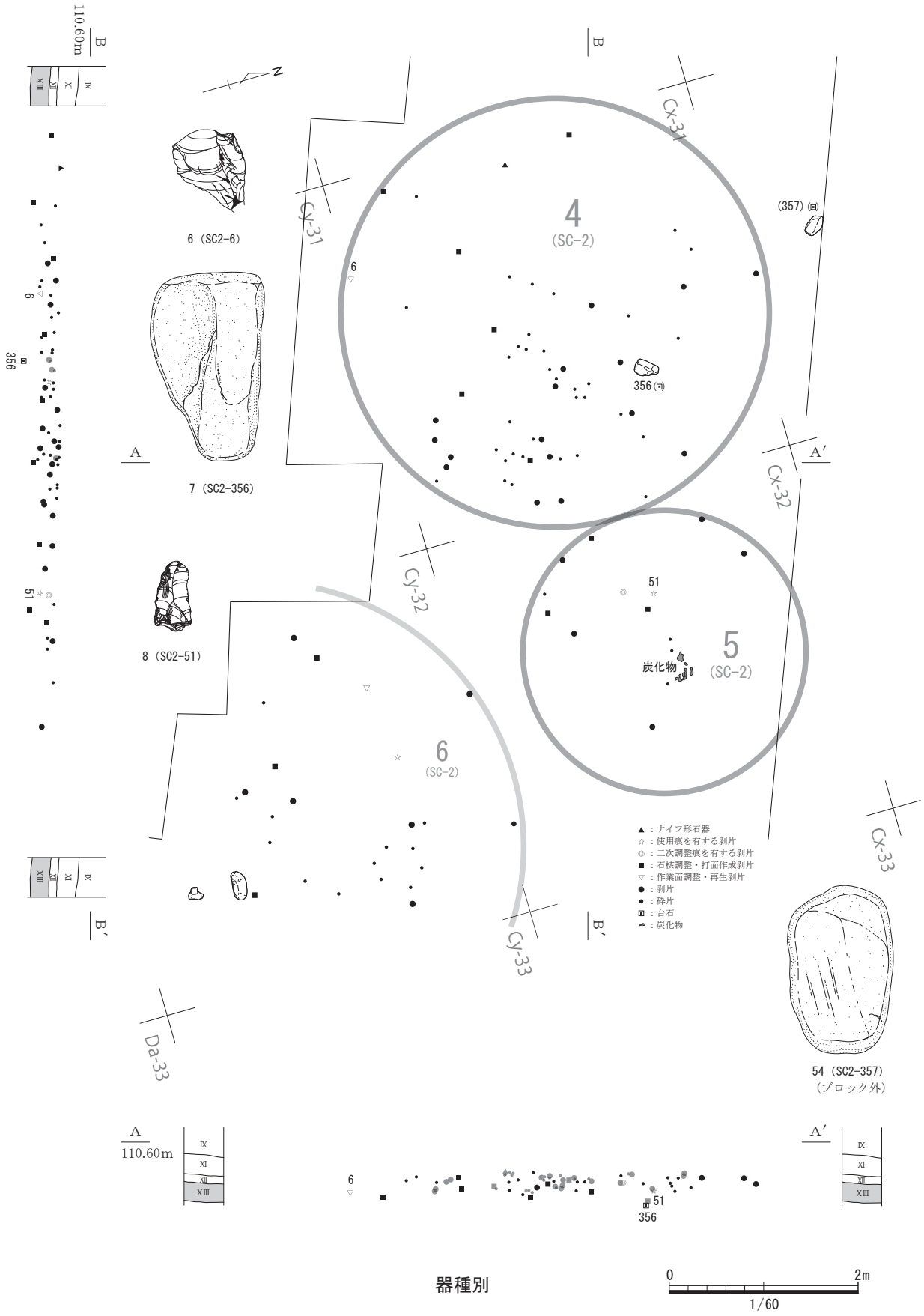


27（SC2-296）
BSh

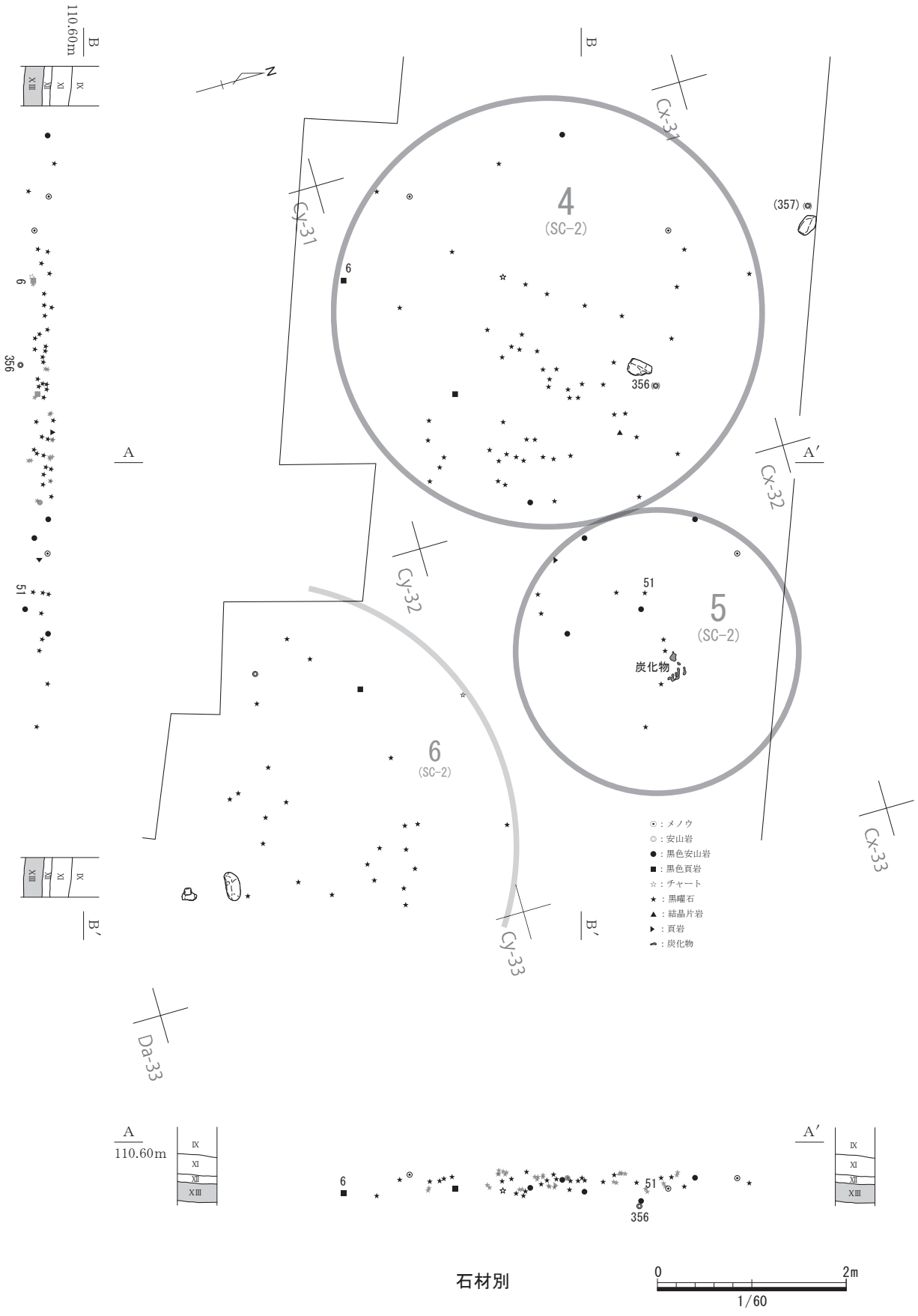
8 ブロック



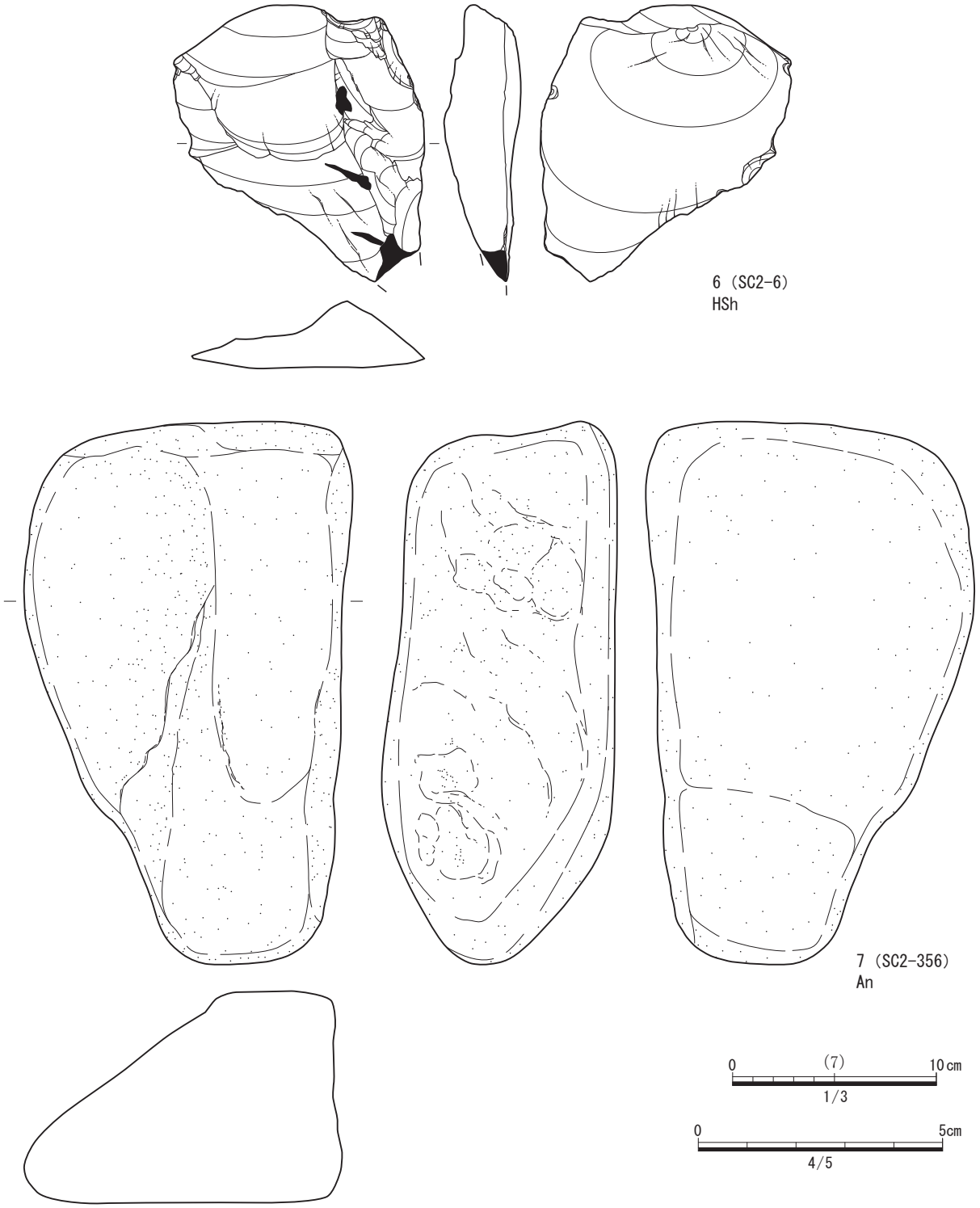
第 19 図　3・5・8 ブロック出土石器



第 20 図　4・5 ブロック遺物分布図①



第 21 図　4・5 ブロック遺物分布図②

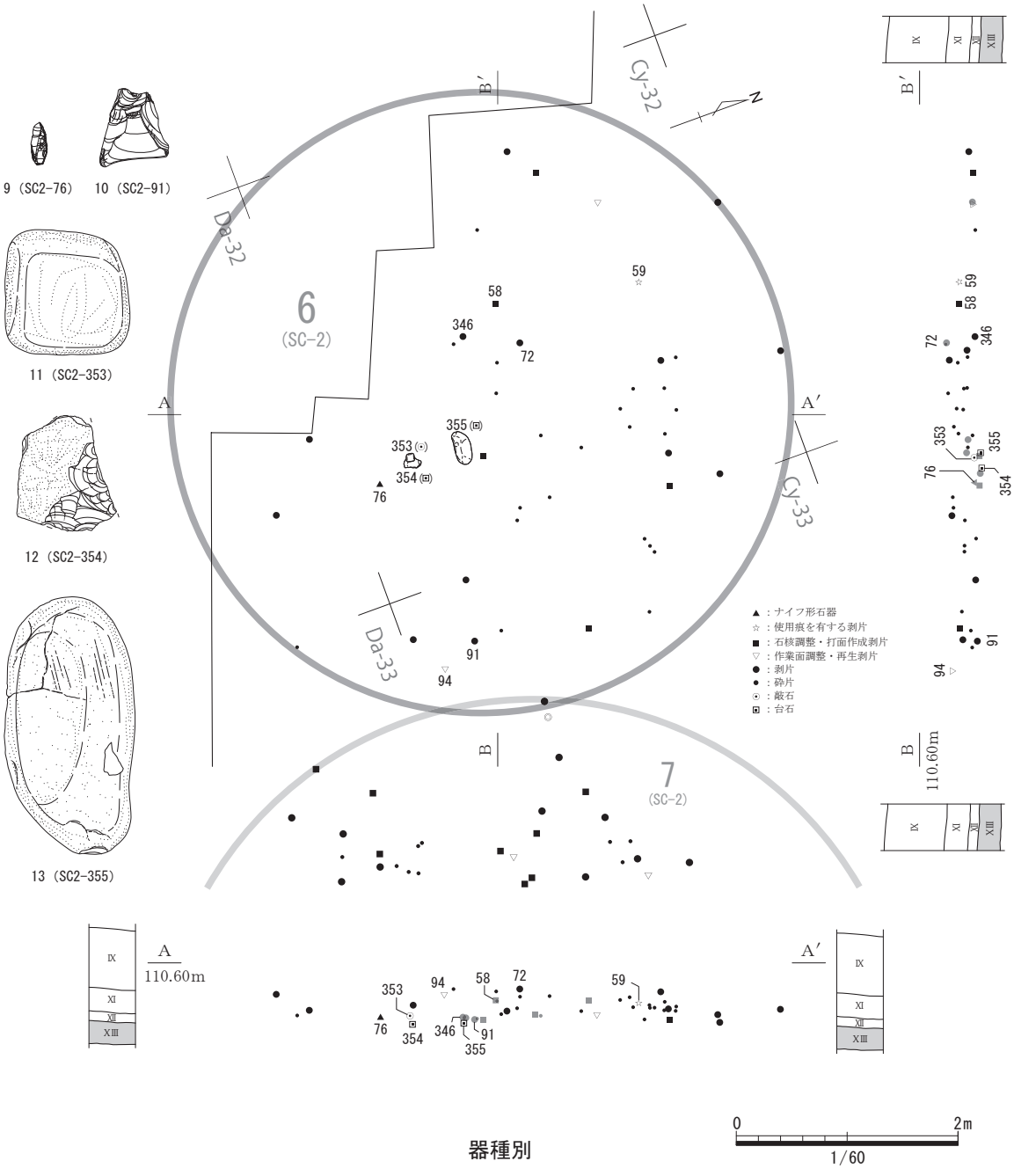


第 22 図　4 ブロック出土石器

石剥片が出土した。敲石は黒色安山岩の 11、台石は流紋岩の 12 と安山岩の 13 が出土した。接合資料は 3 点あり、37･48 は 7 ブロックとの接合関係がある。剥片の平均値は長さ 33.5 ㎜、幅 29.7 ㎜、厚さ 9.2 ㎜、重量 16.4g で、SC-2 の中では最も大きい。

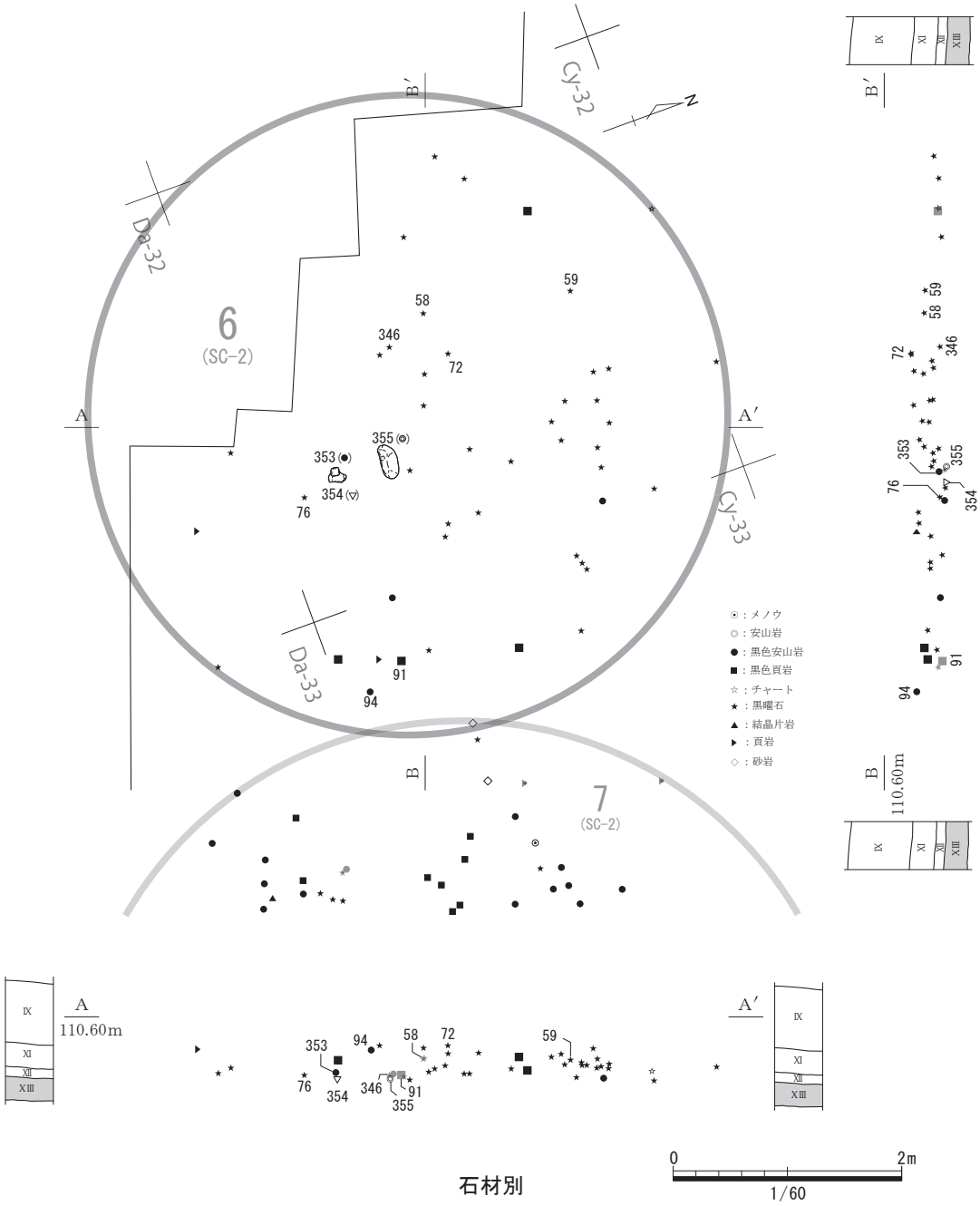
7 ブロック（第 9 ～ 12・26 ～ 30 図、PL. 8・9・46・47）

2 区埋没谷の東方 40 m付近の平坦地に立地し、SC-2 内の南東側に所在する。石器の総数は 242 点で、全ブロックのなかで最多である。分布は、径 6.8 mの円形範囲内の中央に集中している。中心部に台石（26）が、南東寄

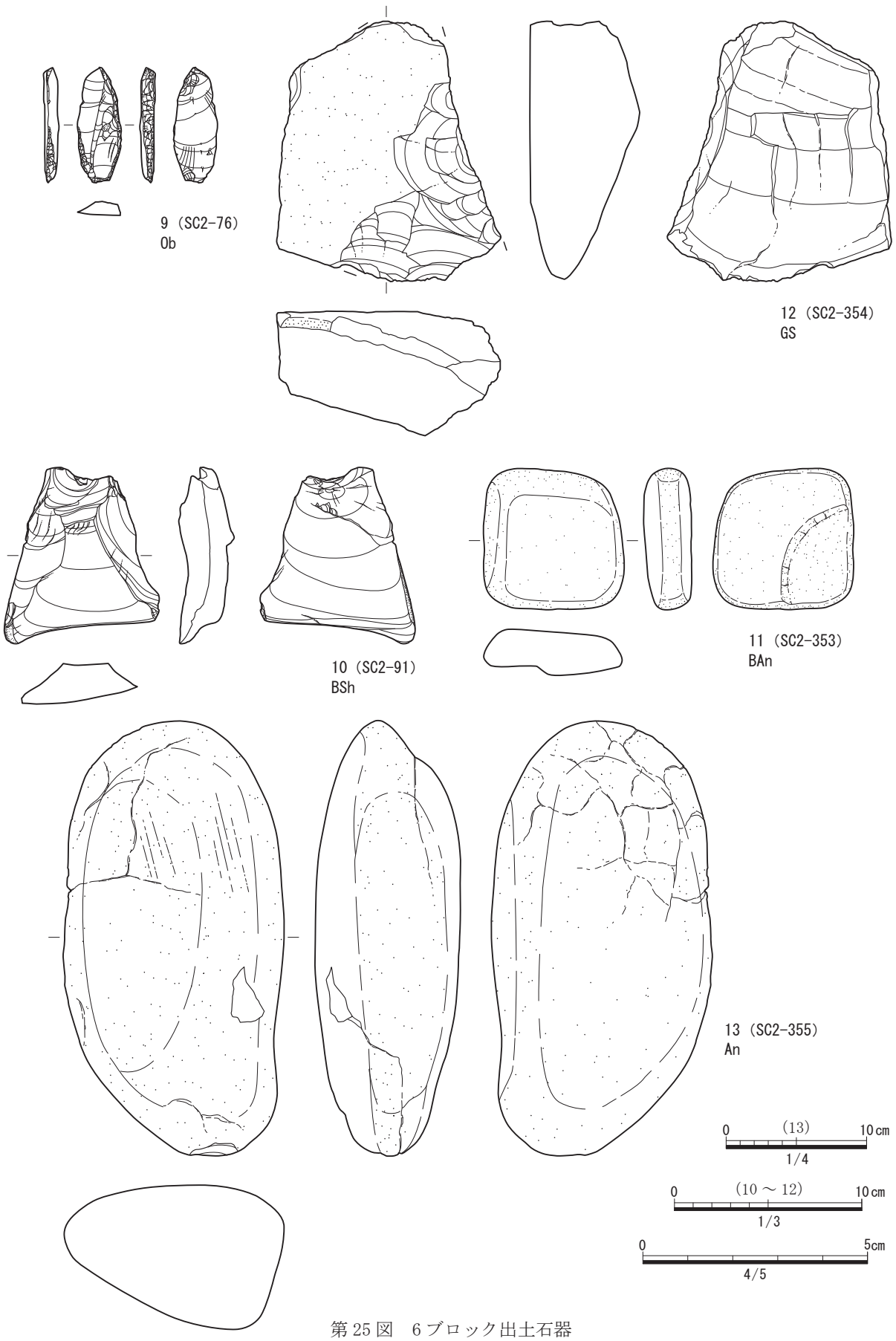


第 23 図　6 ブロック遺物分布図①

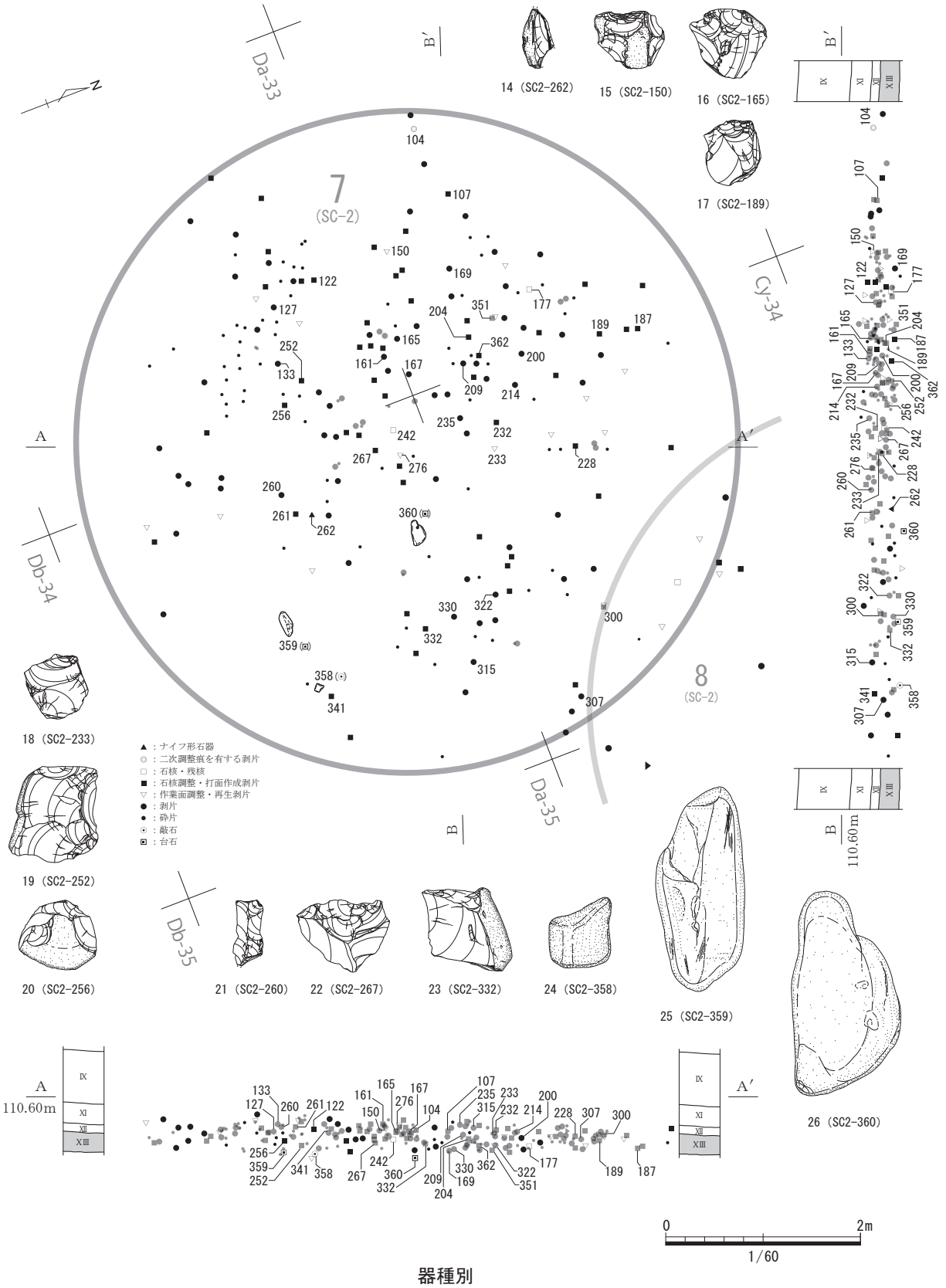
りに敲石（24）と台石（25）がある。石材は安山岩・黒色安山岩・黒色頁岩が 27 ～ 28%ずつ、黒曜石が 12%である。器種は剥片･チップが約 96%を占め、ほかに黒色頁岩のナイフ形石器(14)、二次加工のある黒曜石剥片(48)、黒色安山岩の石核 2 点（36・39）が出土した。敲石は安山岩の 24、台石は安山岩の 25・26 がある。接合資料は 9 点あり、6･8 ブロックと接合関係がある。8 ブロックとの接合が多い。剥片の平均値は長さ 32.3 ㎜、幅 29.6 ㎜、厚さ 10.5 ㎜、重量 12.4g である。



第 24 図　6 ブロック遺物分布図②

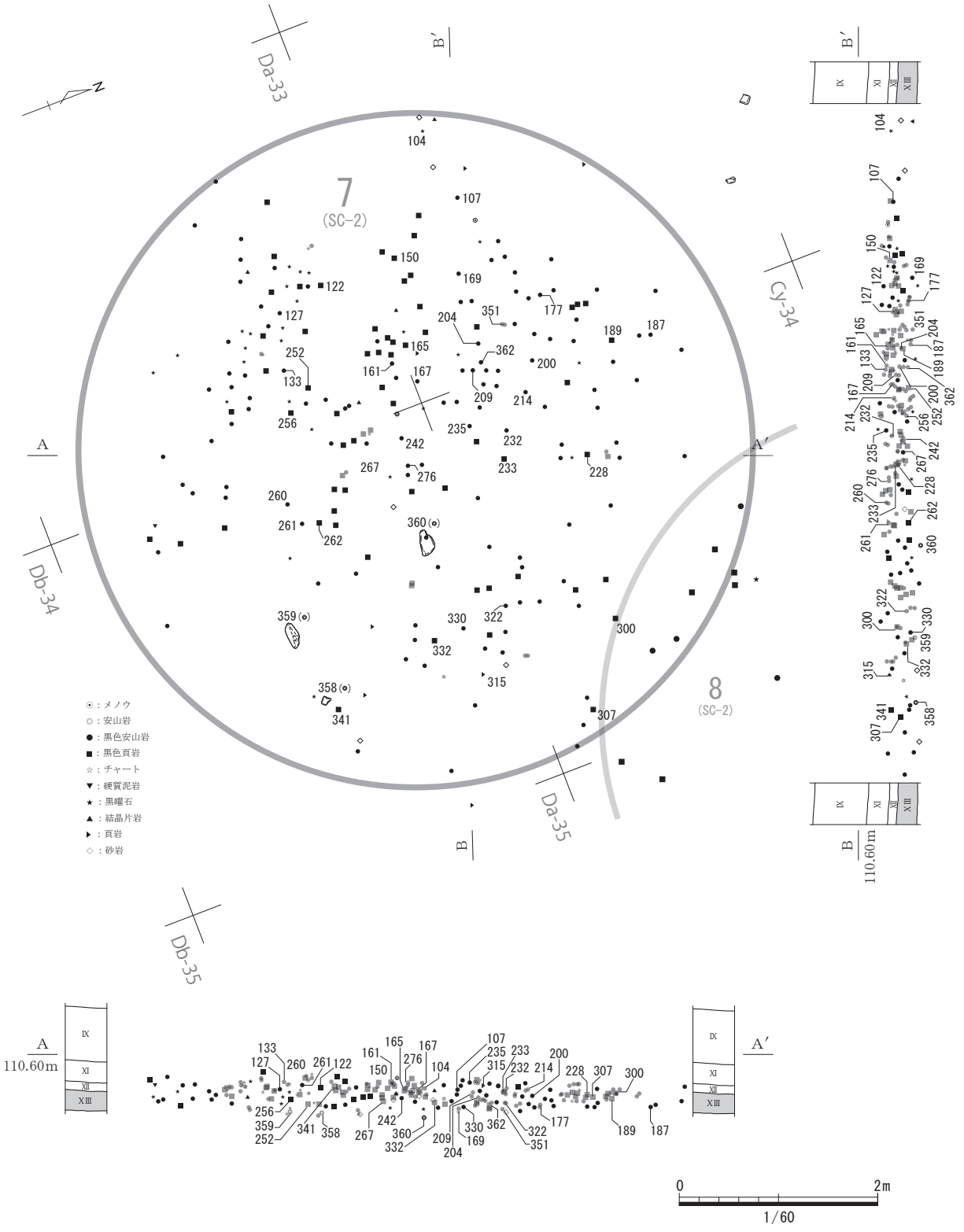


第 25 図　6 ブロック出土石器



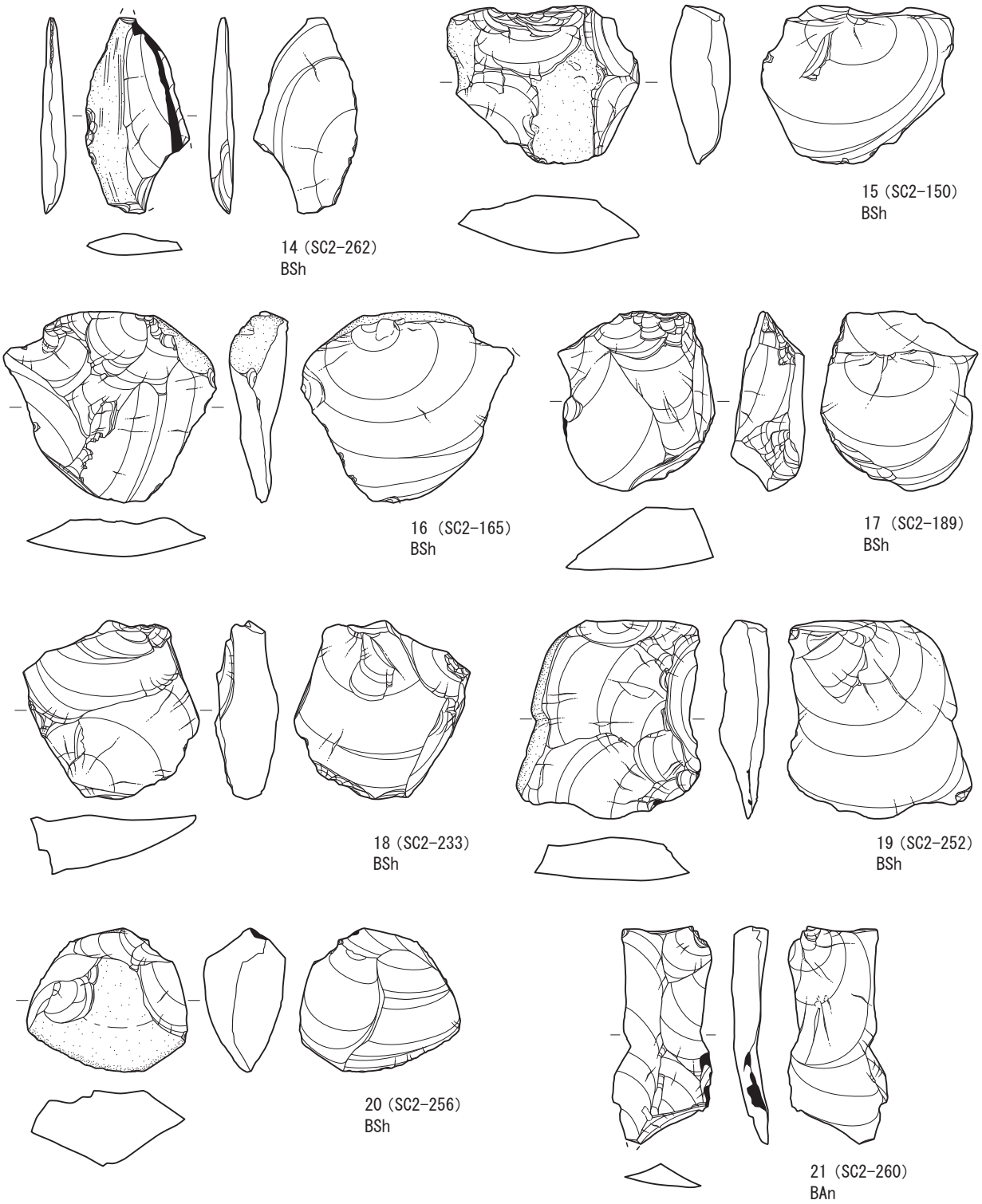
器種別

第 26 図　7 ブロック遺物分布図①

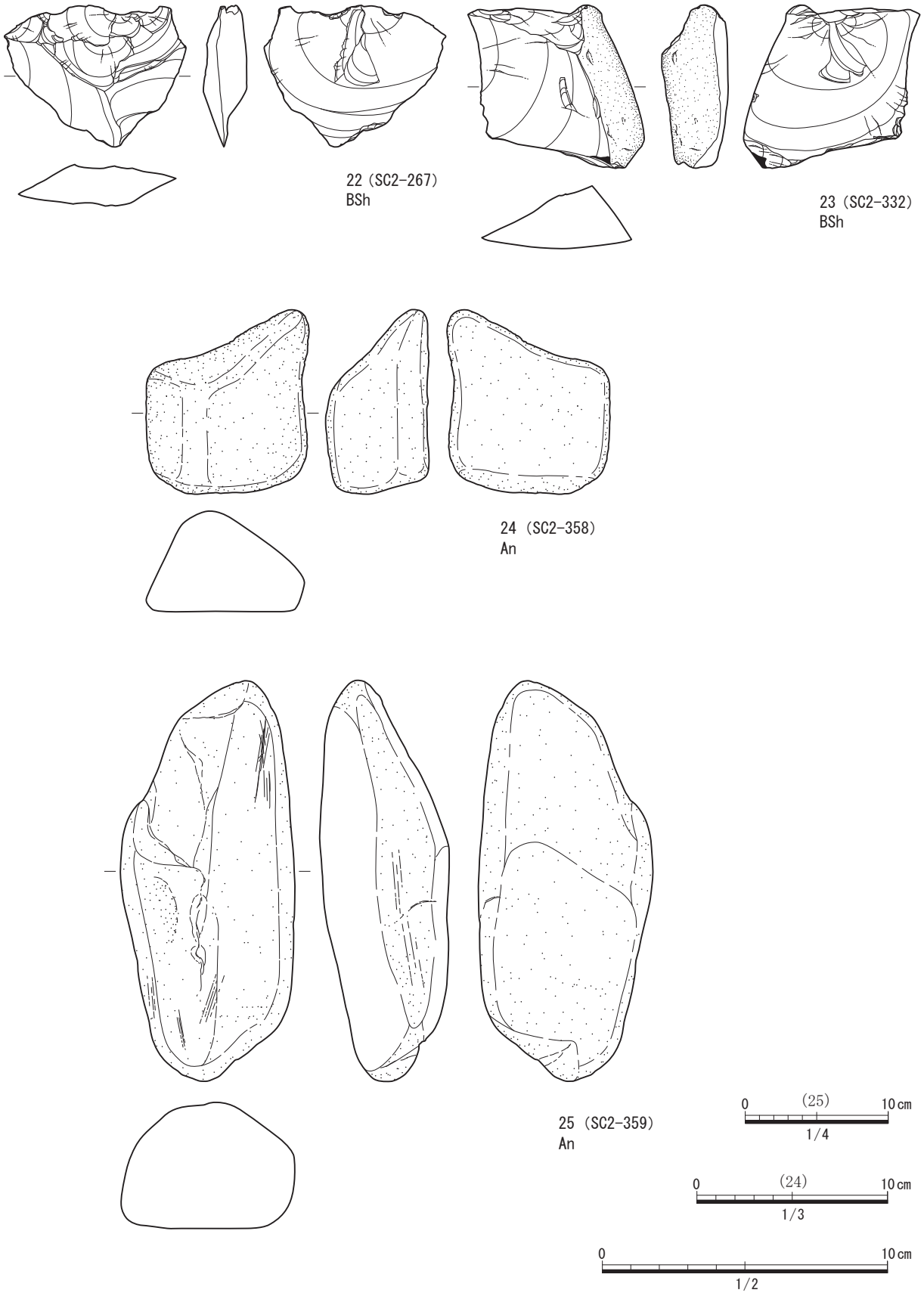


石材別

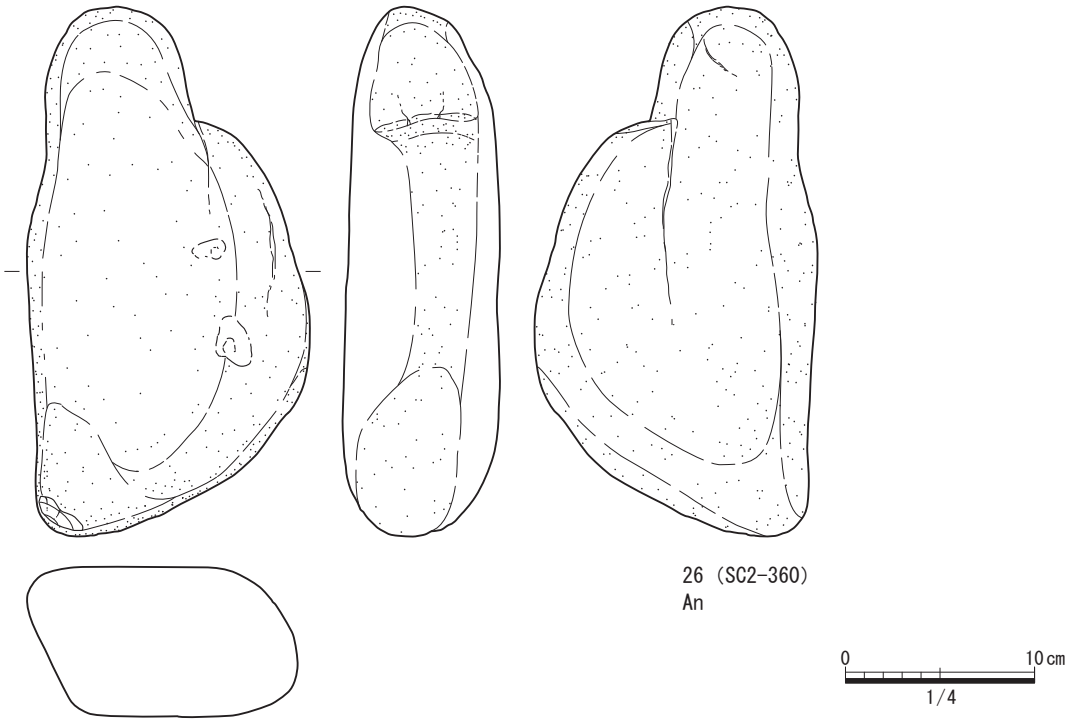
第 27 図　7 ブロック遺物分布図②



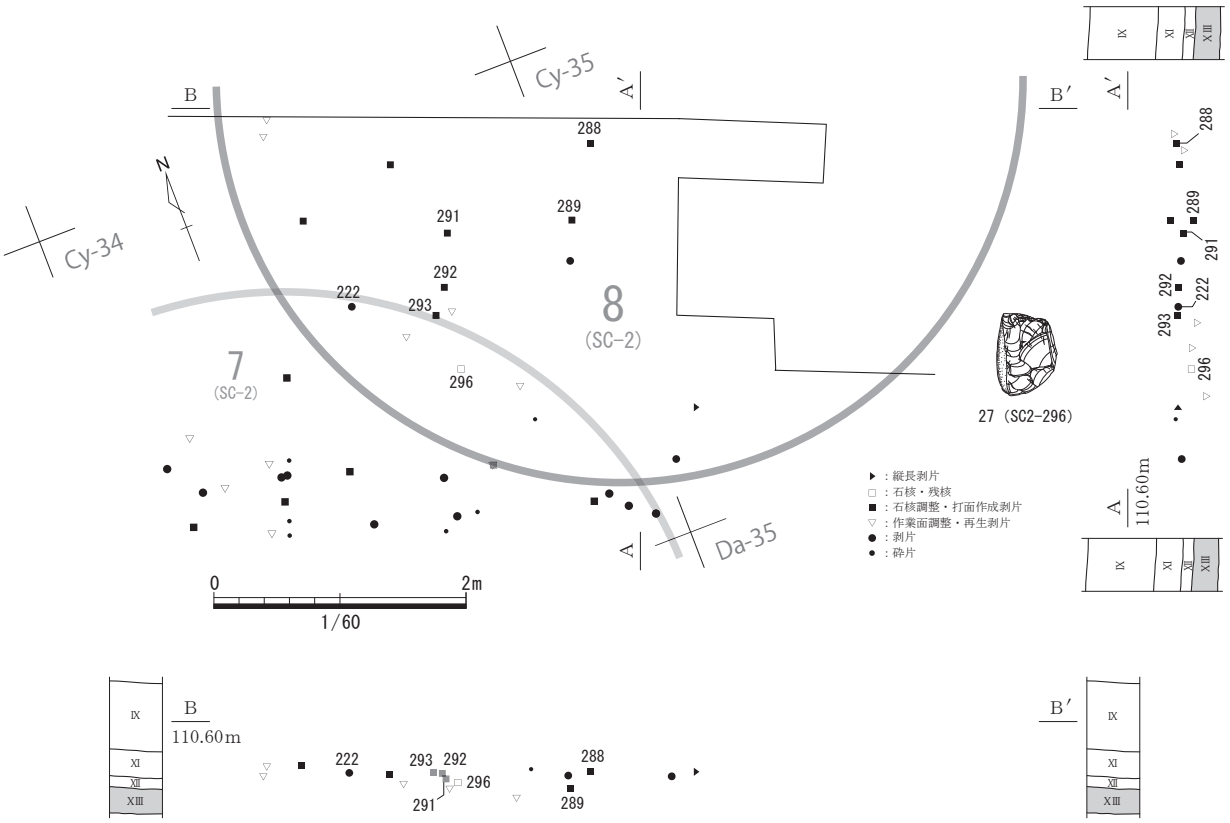
第 28 図　7 ブロック出土石器①



第 29 図　7 ブロック出土石器②

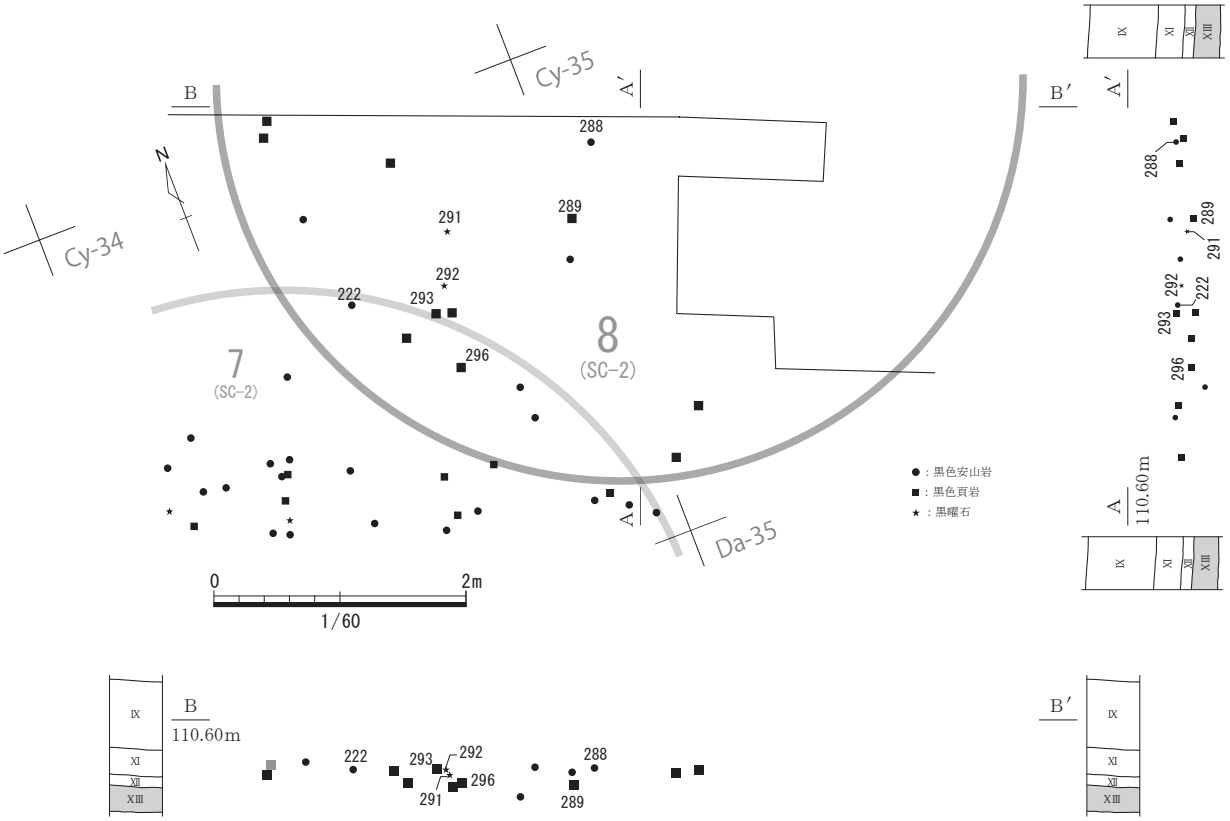


第 30 図　7 ブロック出土石器③



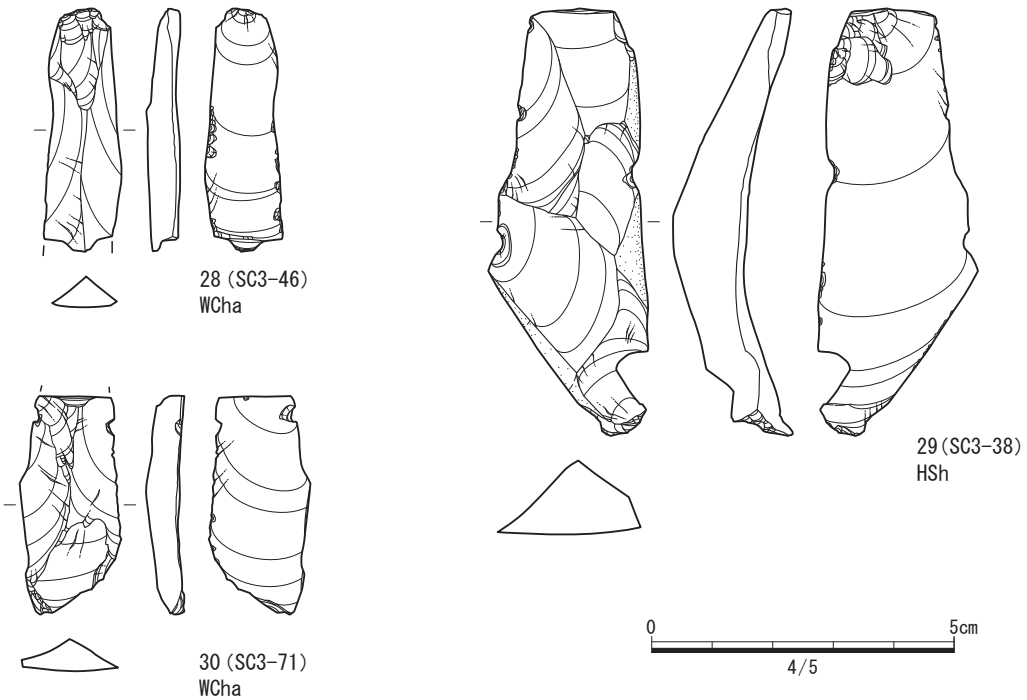
器種別

第 31 図　8 ブロック遺物分布図①



石材別

第 32 図　8 ブロック遺物分布図②



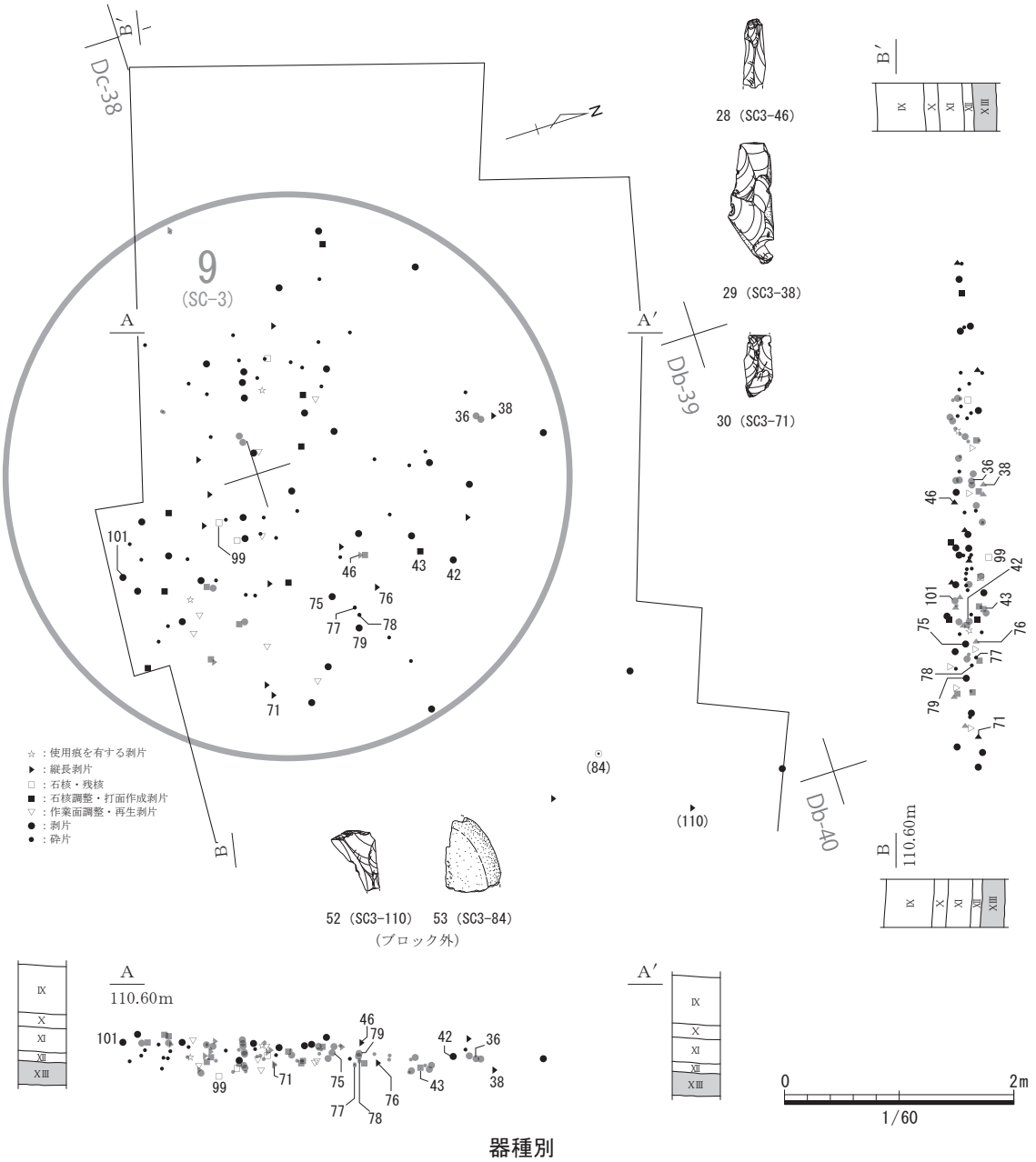
第 33 図　9 ブロック出土石器

8 ブロック（第 9 ～ 12・19・31・32 図、PL. 8・48）

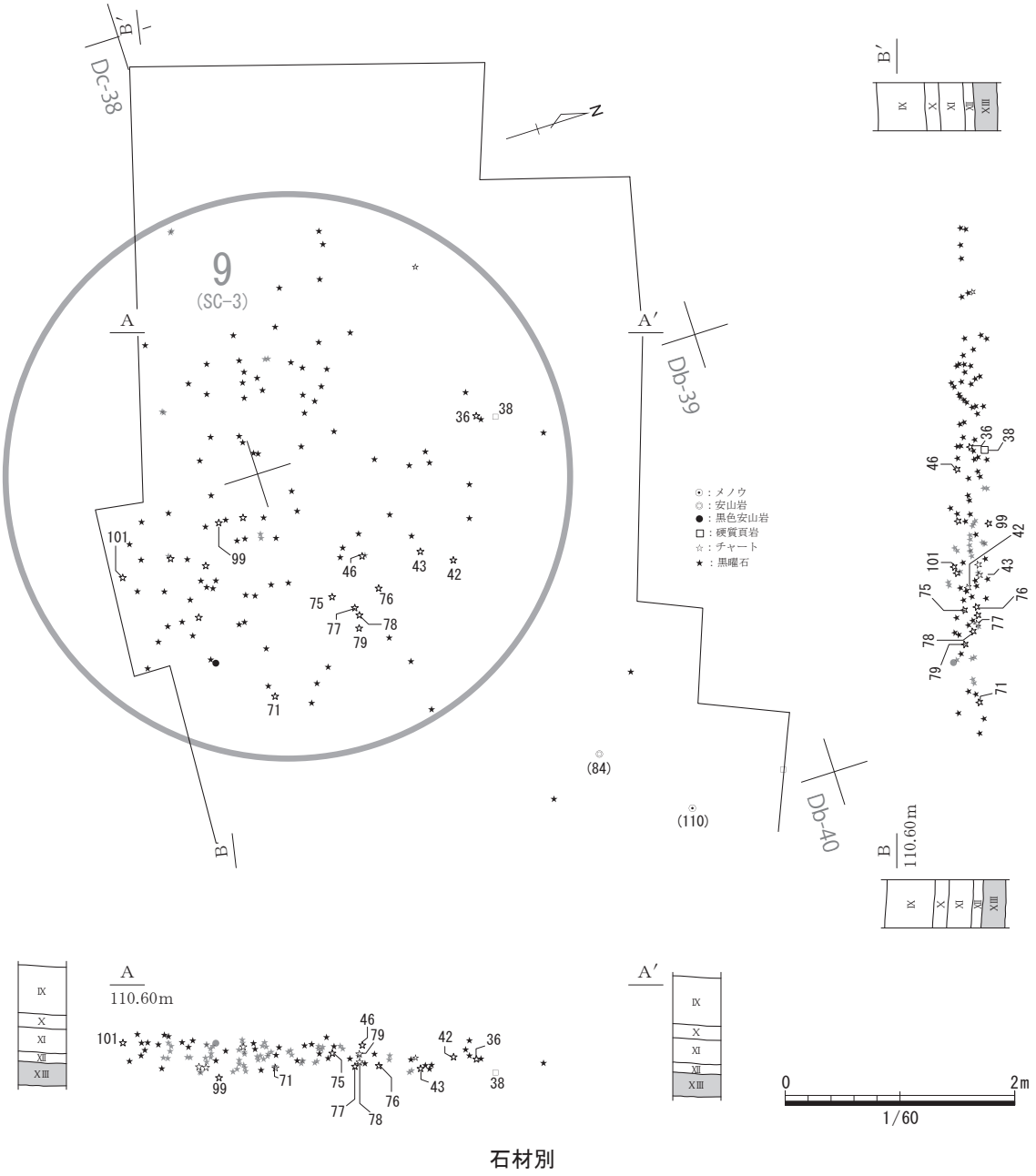
2 区埋没谷の東方 40 m付近の平坦地に立地し、SC-2 内の東側に所在する。石器の総数は 19 点である。分布は、推定径 6.0 mの円形範囲内で散漫である。石材は黒色頁岩が約 58%を占め、黒色安山岩が 21%、安山岩・黒曜石が 10%ずつである。器種は剥片・チップが約 95%を占め、ほかに黒色頁岩の石核（27）が出土した。敲石・台石は出土していない。接合資料は 4 点あり、7 ブロックと接合関係がある。剥片の平均値は長さ 30.3 ㎜、幅 30.0 ㎜、厚さ 10.2 ㎜、重量 10.0g である。

9 ブロック（第 9・13・33 ～ 35 図、PL. 10・48）

2 区埋没谷の東方 60 m付近、東側に下り始める緩斜面に立地し、SC-3 内に所在する。石器の総数は 118 点である。



第 34 図　9 ブロック遺物分布図①

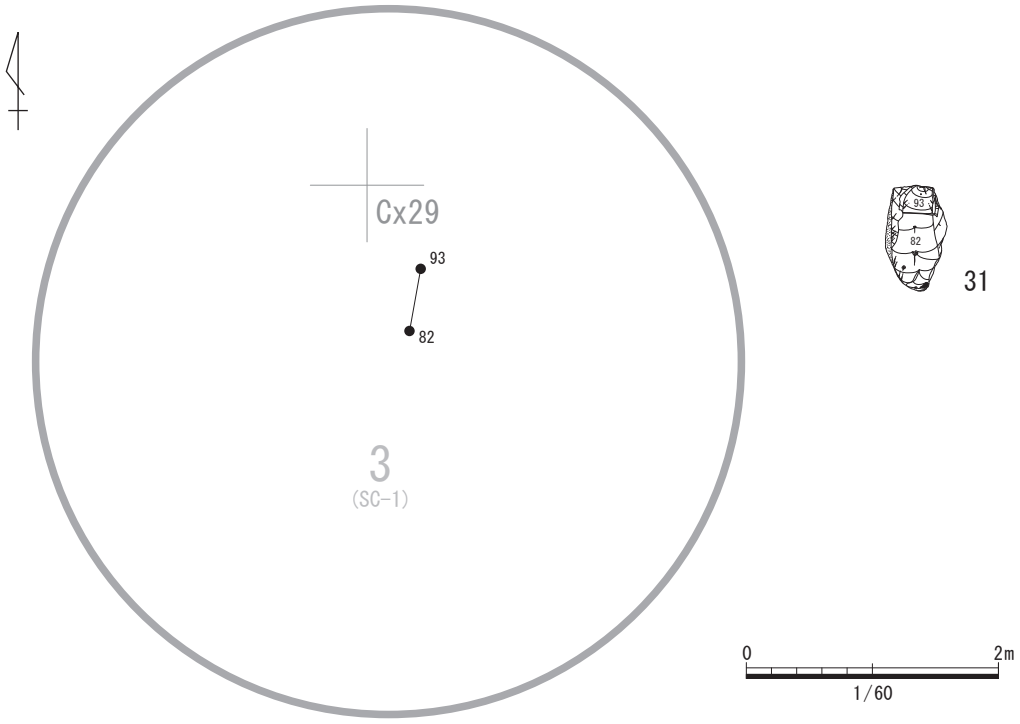


第 35 図　9 ブロック遺物分布図②

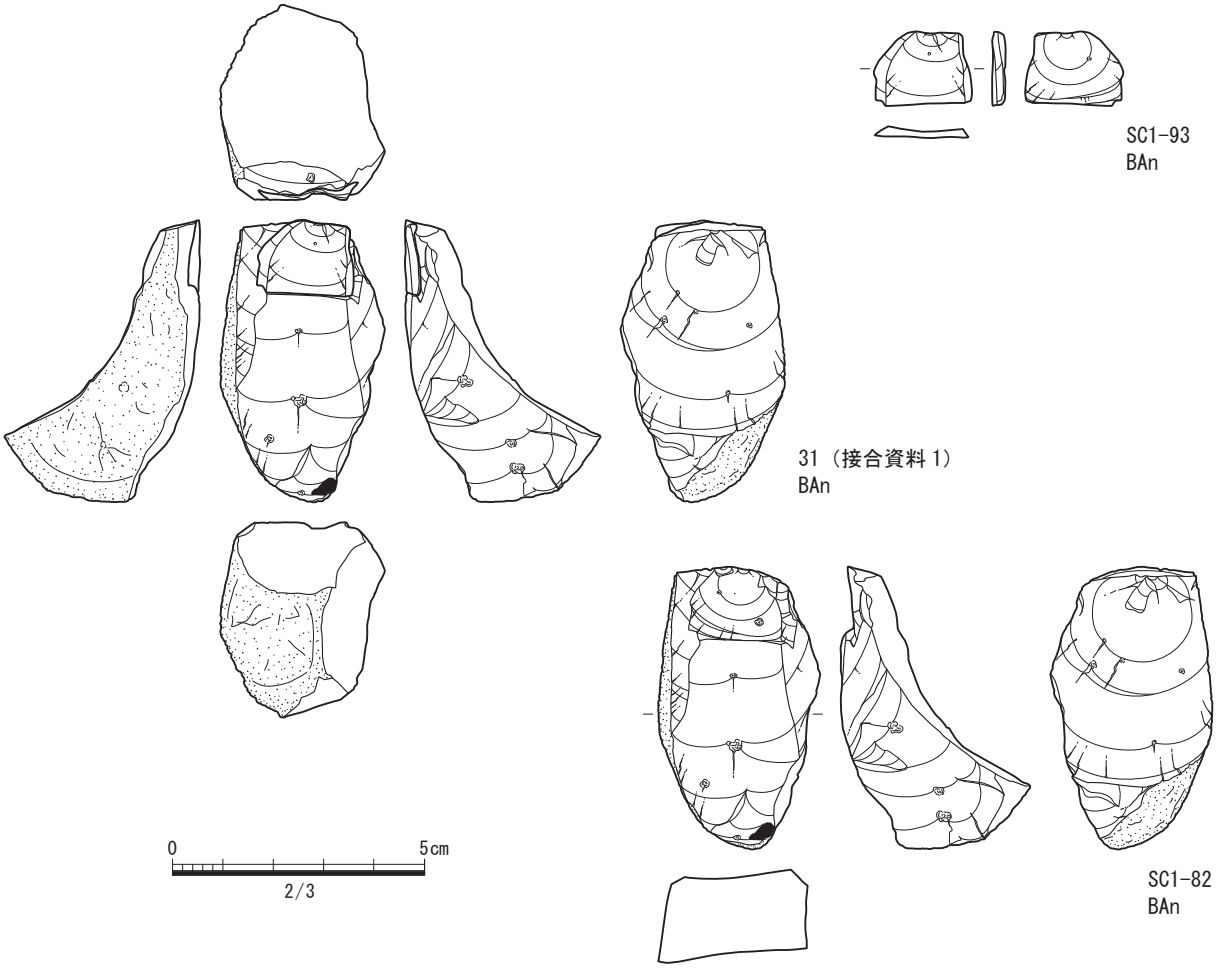
分布は径 4.9 ｍの円形範囲内に集中している。石材は黒曜石が 84%を占め､赤チャートが 11%ある。器種は剥片･チップが 94%を占め、ほかに使用痕のある黒曜石剥片 2 点、石刃 2 点（28)、黒曜石の石核 2 点、接合資料（50）に含まれる赤チャートの石核が出土した。敲石・台石は出土していない。接合関係はブロック内に収まる。剥片の平均値は長さ 25.8 ㎜、幅 17.9 ㎜、厚さ 6.4 ㎜、重量 2.9g である。

母岩分類

石材には安山岩、黒色安山岩、黒色頁岩、硬質頁岩、頁岩、黒曜石、チャート（赤チャート･白チャートを含む)、硬質泥岩、結晶片岩、砂岩、流紋岩、瑪瑙がある。内、母岩別分類を行ったのは安山岩、黒色安山岩、黒色頁岩、



第 36 図　接合資料 1 遺物分布図



第 37 図　接合資料 1 実測図

頁岩、黒曜石、チャートである。この分類は剥離面の斑晶などの岩石的特徴で分類したもので、部分によって異なるものもあるが、別母岩としている。剥片など１点としたものは単品搬入品である。

安山岩

An1　７ブロックで１点を確認した。石核調整剥片１点である。総重量 26.8g。

An2　７ブロックで１点を確認した。剥片１点である。総重量 1.9g。

An3　７ブロックで１点を確認した。剥片１点である。総重量 39.2g。

An4　７ブロックで２点を確認した。石核調整剥片２点である。総重量 24.0g。

An5　７ブロックで１点を確認した。剥片１点である。総重量 39.7g。

An6・7　70 点を確認した。内訳は７ブロック 60 点、５ブロック４点、４・６・８ブロック２点ずつで、全て剥片ないしチップである。総重量 698.1g。

黒色安山岩

BAn1　25 点を確認した。７ブロックは 22 点と多く、石核２点(36･39)を含み、他は剥片である。６ブロック１点、８ブロックは２点で、いずれも剥片である。総重量 440.3g。

BAn2　46 点を確認した。内訳は７ブロック 44 点、８ブロック２点で、いずれも剥片ないしチップである。総重量 28.3g。

黒色頁岩

BSh1　10 点を確認した。内訳は７ブロック９点、４ブロック１点で、いずれも剥片（6・20・22）ないしチップである。接合資料（44）が含まれる。総重量 221.0g。

BSh2　５点を確認した。内訳は７ブロック４点、８ブロック１点である。７ブロックのナイフ形石器（14）以外は剥片である。７・８ブロックでの接合資料（45）が含まれる。総重量 90.5g。

BSh3　47 点を確認した。内訳は７ブロックが 36 点と多く、８ブロック７点、６ブロック３点、４ブロック１点である。８ブロックに石核（27）があり、他は剥片（15 ～ 18）ないしチップである。７・８ブロックでの接合資料（46）が含まれる。総重量 607.2g。

BSh4　７ブロックで２点の剥片（19・23）を確認した。総重量 351.4g。

BSh5　21 点を確認した。内訳は７ブロック 18 点、８ブロック３点である。いずれも剥片ないしチップで、接合資料はない。総重量 39.7g。

頁岩

Sh1　２点を確認した。５・６ブロックで剥片が１点ずつ出土した。総重量 39.7g。

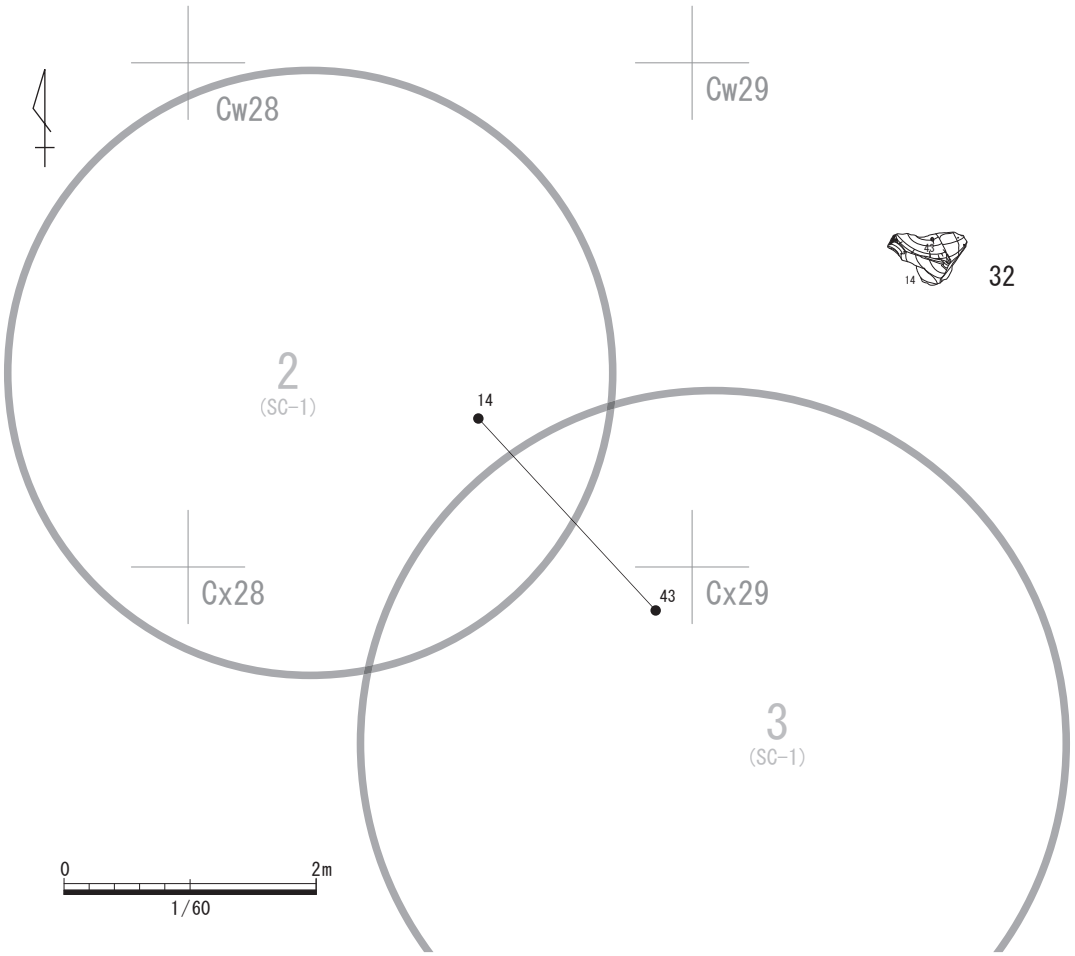
黒曜石

Ob1　57 点を確認した。内訳は４ブロックが 20 点、５ブロック５点、６ブロック 16 点、７ブロック 13 点、SC-2 のブロック外３点である。６ブロックにナイフ形石器（9）、４ブロックにナイフ形石器の欠損品、５ブロックに二次加工のある剥片があるほかは、いずれも剥片ないしチップである。接合資料はない。総重量 56.2g。

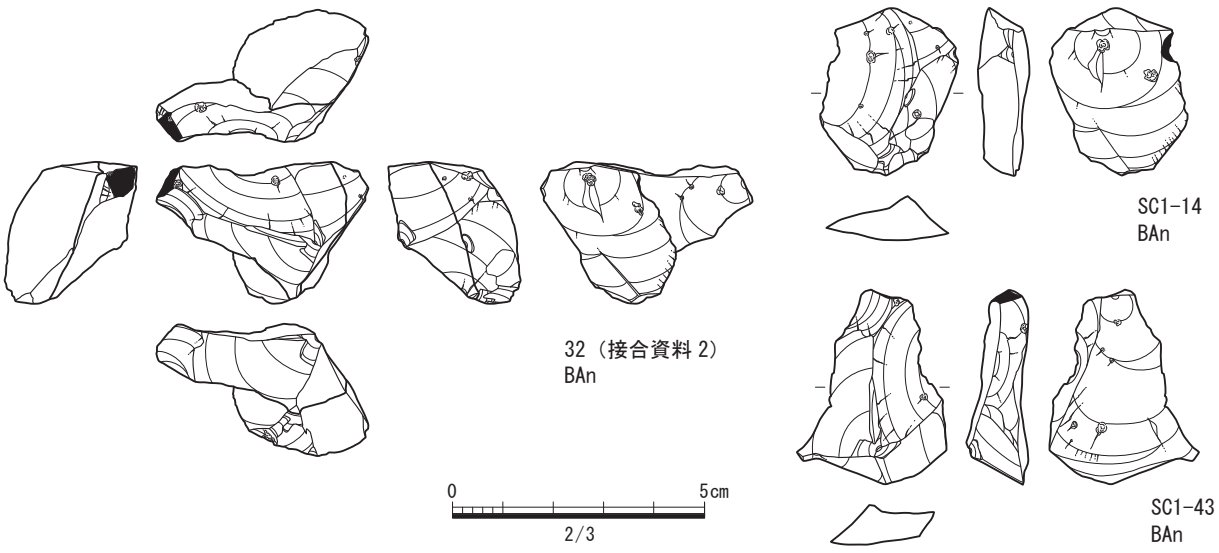
Ob2　19 点を確認した。内訳は４ブロック５点、５ブロック３点、６ブロック 10 点、７ブロック１点である。７ブロックに二次加工のある剥片（48）、5･6 ブロックに使用痕のある剥片（8･48）があるほかは、剥片ないしチップである。接合資料は２点あり（47・48）、48 は６・７ブロック間で接合した。総重量 63.2g。

Ob3　灰色。10 点を確認した。内訳は４ブロック３点、６ブロック４点、７ブロック１点、８ブロック２点である。いずれも剥片ないしチップである。ブロック内の接合資料（49）がある。総重量 19.3g。

Ob4　23 点を確認した。内訳は４ブロック２点、５ブロック１点、６ブロック５点、７ブロック 15 点である。



第 38 図　接合資料 2 遺物分布図



第 39 図　接合資料 2 実測図

すべてチップである。接合資料はない。総重量 2.7g。

チャート

Ch1　6 ブロックで剥片 1 点が出土した。総重量 3.5g。

赤チャート

RCh1　13 点が 9 ブロック内で接合した（50）。1 点の石核以外は剥片ないしチップである。総重量 142.2g。

白チャート

WCh1　9 ブロックで 2 点を確認した。石刃（28）と縦長剥片（30）がある。総重量 5.8g。

接合資料

21 個体の接合資料が確認され、接合資料 1 ～ 5・10 ～ 13・17・19 ～ 21 が黒色安山岩、接合資料 6 が安山岩、接合資料 7 ～ 9 が黒曜石、接合資料 14 ～ 16 が黒色頁岩、18 が赤チャートである。

接合資料 1（31）（第 13・36・37 図、PL. 48）

黒色安山岩。3 ブロック内の剥片 2 点の接合である。残存値は長さ 5.59 ㎝、幅 3.26 ㎝、厚さ 3.87 ㎝、重量 48.7g である。石核作業面再生剥片が含まれる。接合の距離は 50 ㎝である。

接合資料 2（32）（第 13・38・39 図、PL. 48）

黒色安山岩。2・3 ブロックの剥片 2 点の接合である。残存値は長さ 2.81 ㎝、幅 4.20 ㎝、厚さ 2.62 ㎝、重量 17.1g である。作業面調整剥片が含まれる。接合の距離は 2.06 ｍである。

接合資料 3（33）（第 13・40 ～ 42 図、PL. 49）

黒色安山岩。3 ブロックの剥片 3 点が接合したものである。残存値は長さ 3.09 ㎝、幅 5.90 ㎝、厚さ 2.69 ㎝、重量 28.5g である。石核調整剥片、作業面調整剥片が含まれる。接合の最大距離は 1.54 ｍである。

接合資料 4（34）（第 13・43・44 図、PL. 49）

黒色安山岩。剥片 5 点が接合した。2 ブロックの 2 点と 3 ブロックの 3 点である。残存値は長さ 4.40 ㎝、幅 4.86 ㎝、厚さ 2.12 ㎝、重量 27.3g である。作業面調整剥片が含まれる。接合の最大距離は 3.65 ｍである。

接合資料 5（35）（第 13・45・46 図、PL. 50）

黒色安山岩。剥片 5 点が接合した。2 ブロックの 1 点と 3 ブロックの 4 点である。残存値は長さ 6.50 ㎝、幅 9.00 ㎝、厚さ 3.56 ㎝、重量 142.7g である。石核調整、石核打面作成、石核作業面作成、作業面調整の剥片がある。接合の最大距離は 4.00 ｍである。

接合資料 6（51）（第 47・48 図、PL. 57）

安山岩。SC-2 のブロック外で 2 点が接合した台石である。85 ㎝の近距離で接合し、完形品が割れたものである。長さ 9.69 ㎝、幅 12.42 ㎝、厚さ 5.51 ㎝、重量 1000.1g である。

接合資料 7（47）（第 12・49・50 図、PL. 58）

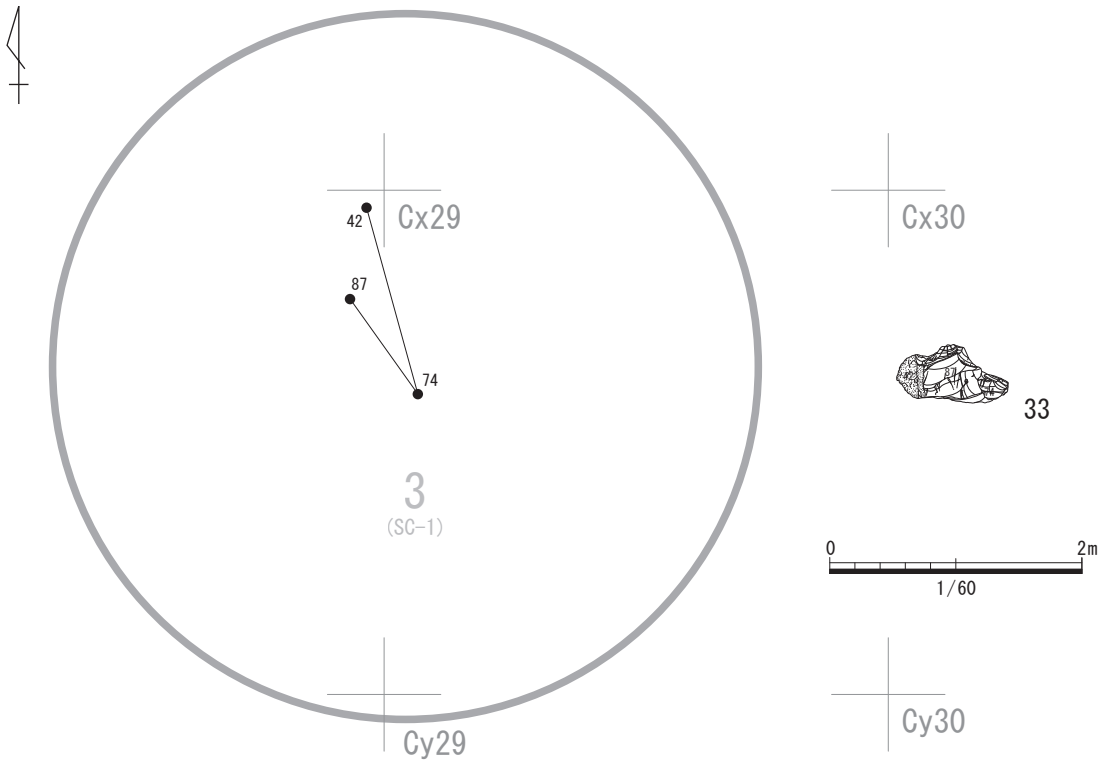
母岩 0b2。6 ブロックの剥片 3 点が接合したものである。残存値は長さ 4.98 ㎝、幅 2.51 ㎝、厚さ 1.26 ㎝、重量 7.8g である。石核調整剥片が含まれる。接合の最大距離は 52 ㎝の近距離である。

接合資料 8（48）（第 12・51・52 図、PL. 58）

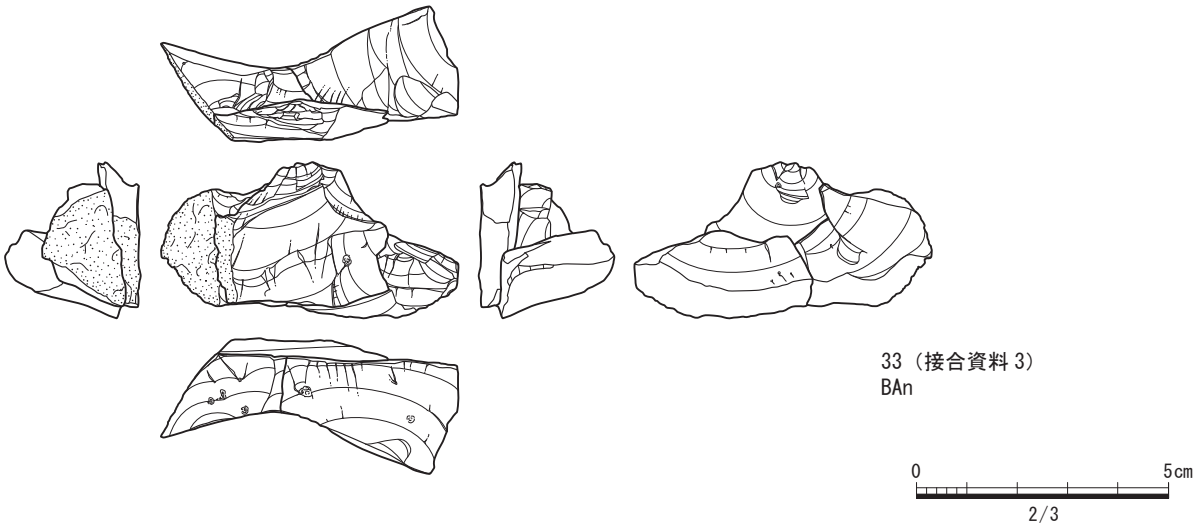
母岩 0b2。6 ブロックの使用痕のある剥片、7 ブロックの二次加工のある剥片が接合したものである。残存値は長さ 5.72 ㎝、幅 2.08 ㎝、厚さ 0.88 ㎝、重量 9.9g である。接合の距離は 4.02 ｍである。

接合資料 9（49）（第 12・53・54 図、PL. 58）

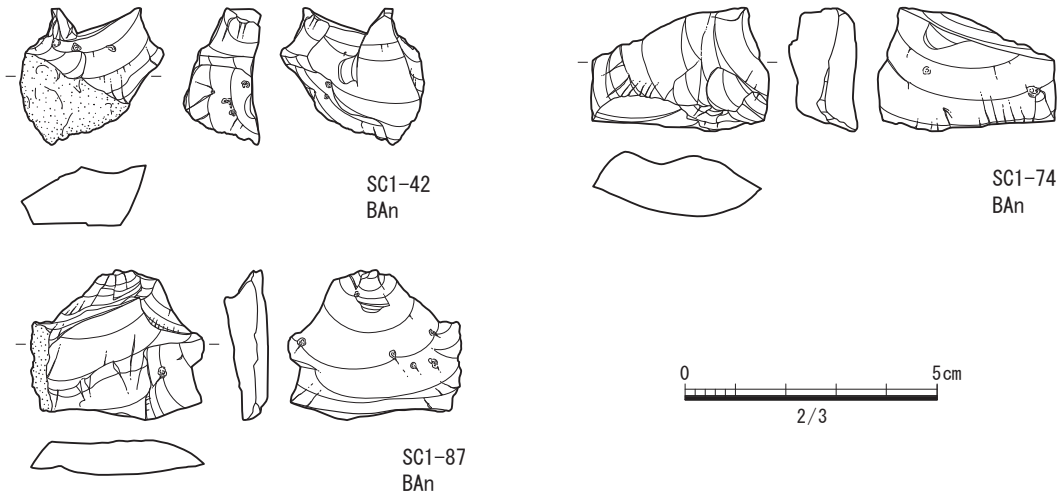
母岩 0b3。8 ブロックの石核調整剥片 2 点が接合したものである。残存値は長さ 3.94 ㎝、幅 3.18 ㎝、厚さ 1.06



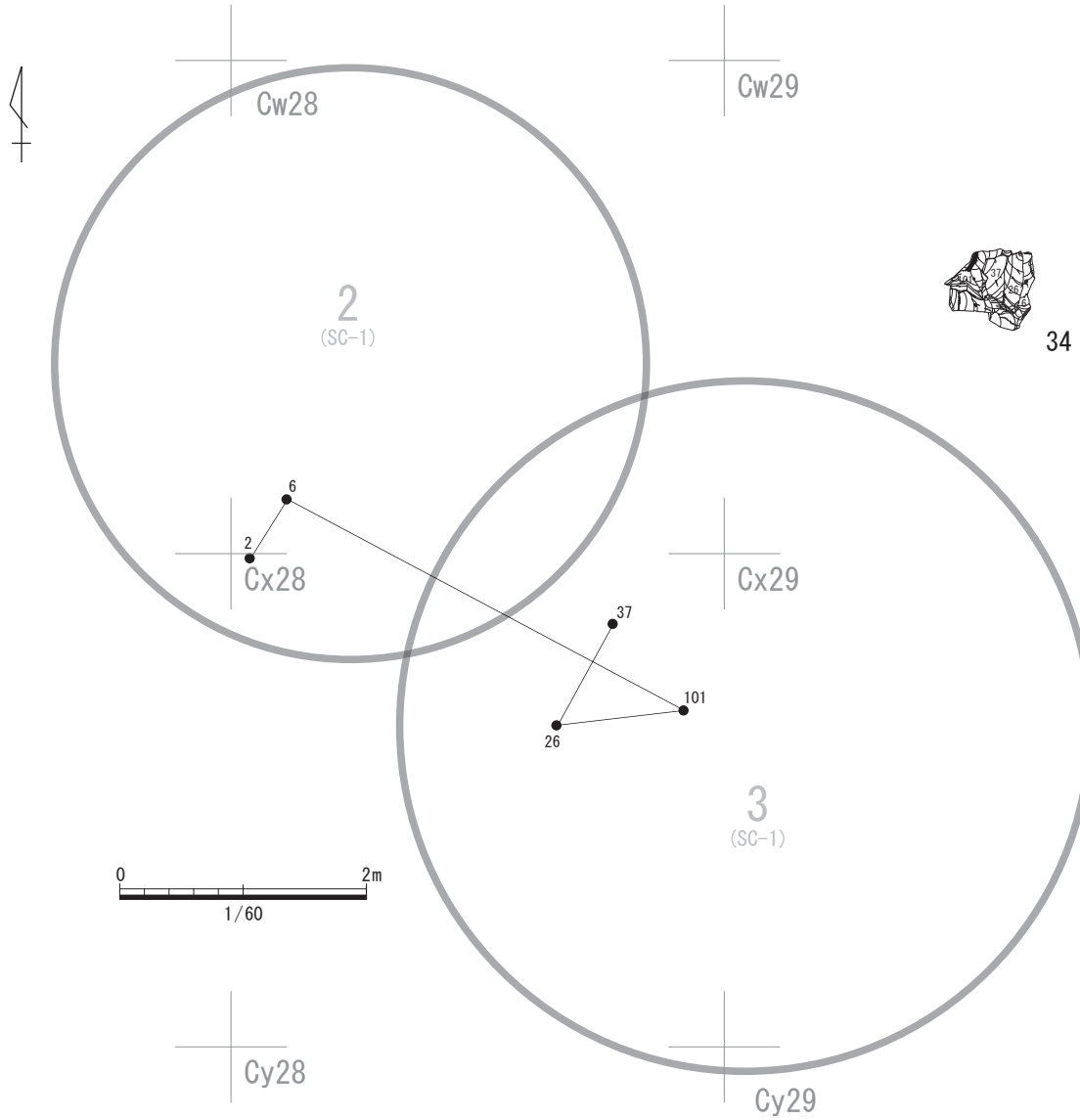
第 40 図　接合資料 3 遺物分布図



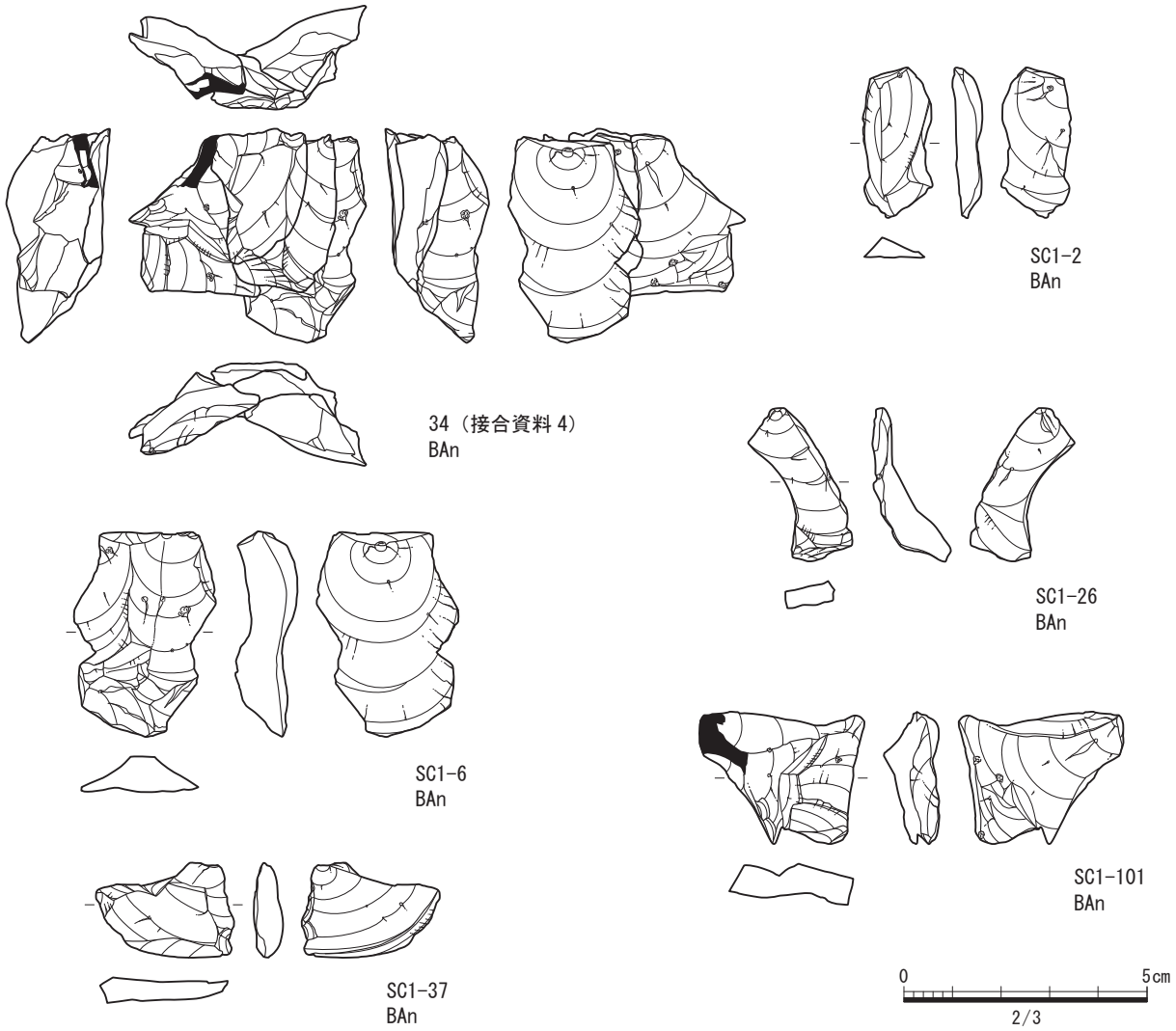
第 41 図　接合資料 3 実測図①



第 42 図　接合資料 3 実測図②



第 43 図　接合資料 4 遺物分布図



第 44 図　接合資料 4 実測図

cm、重量 10.8g である。接合の距離は 44 cmの近距離である。

接合資料 10（36）（第 12・55・56 図、PL.51）

母岩 BAn1。7 ブロックで石核 1 点と石核調整剥片 1 点が接合した。残存値は長さ 6.92 cm、幅 6.99 cm、厚さ 3.52 cm、重量 140.0g である。接合の距離は 2.84 mである。

接合資料 11（37）（第 12・57・58 図、PL.51）

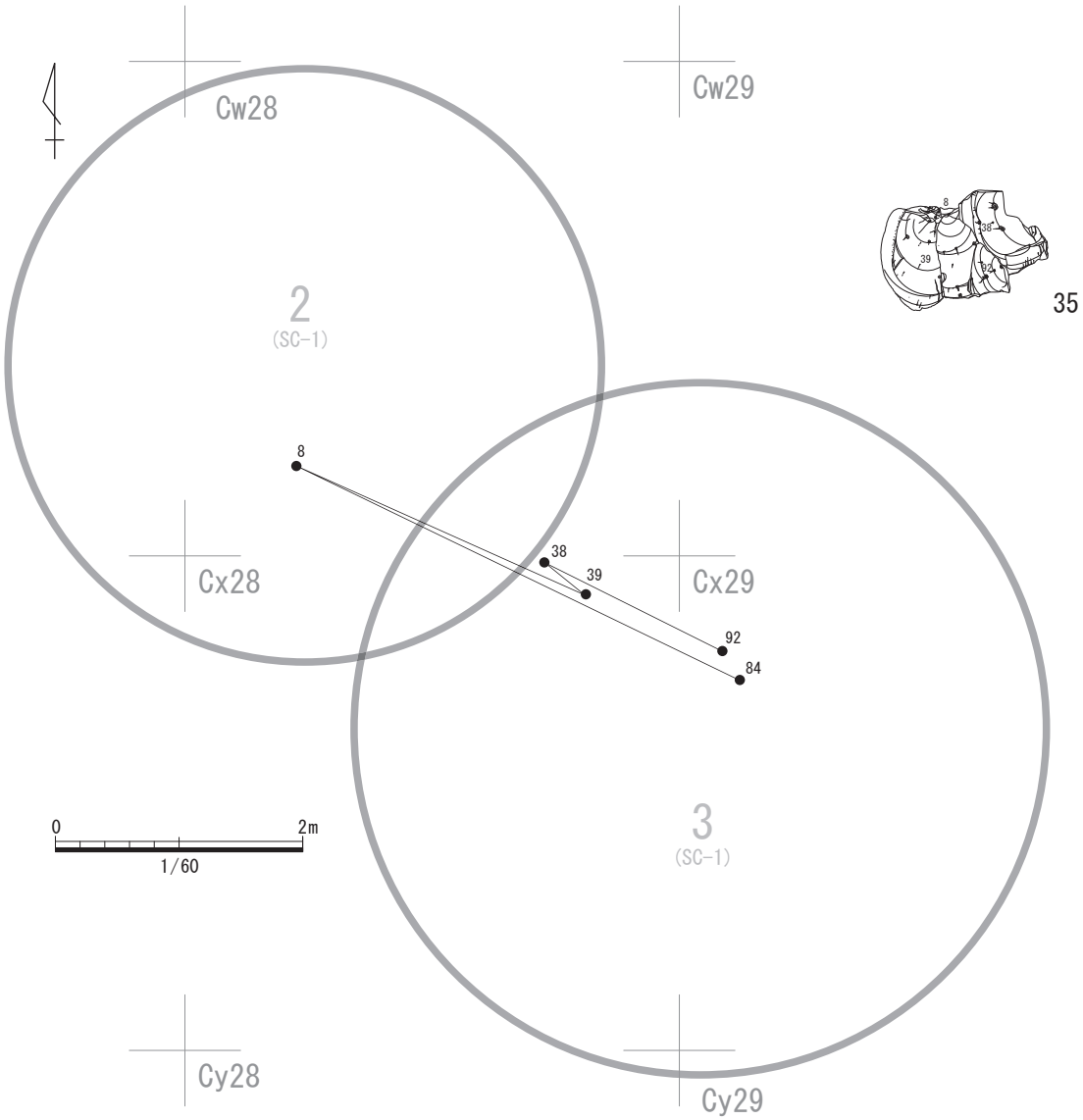
母岩 BAn1。6 ブロックの作業面調整剥片 1 点と 7 ブロックの剥片 2 点が接合した。残存値は長さ 3.57 cm、幅 3.51 cm、厚さ 1.54 cm、重量 10.8g である。接合の最大距離は 5.48 mである。

接合資料 12（38）（第 12・59・60 図、PL.49）

母岩 BAn1。7 ブロックの剥片 2 点が接合した。残存値は長さ 4.62 cm、幅 3.17 cm、厚さ 0.76 cm、重量 10.7g である。接合の距離は 58 cmである。

接合資料 13（39）（第 12・61・63 図、PL.52）

母岩 BAn1。7 ブロックの石核 1 点と剥片 1 点が接合した。残存値は長さ 3.01 cm、幅 4.82 cm、厚さ 3.25 cm、



第 45 図　接合資料 5 遺物分布図

重量 51.7g である。接合の距離は 1.50 ｍである。

接合資料 14（44）（第 12・62・64 図、PL.55）

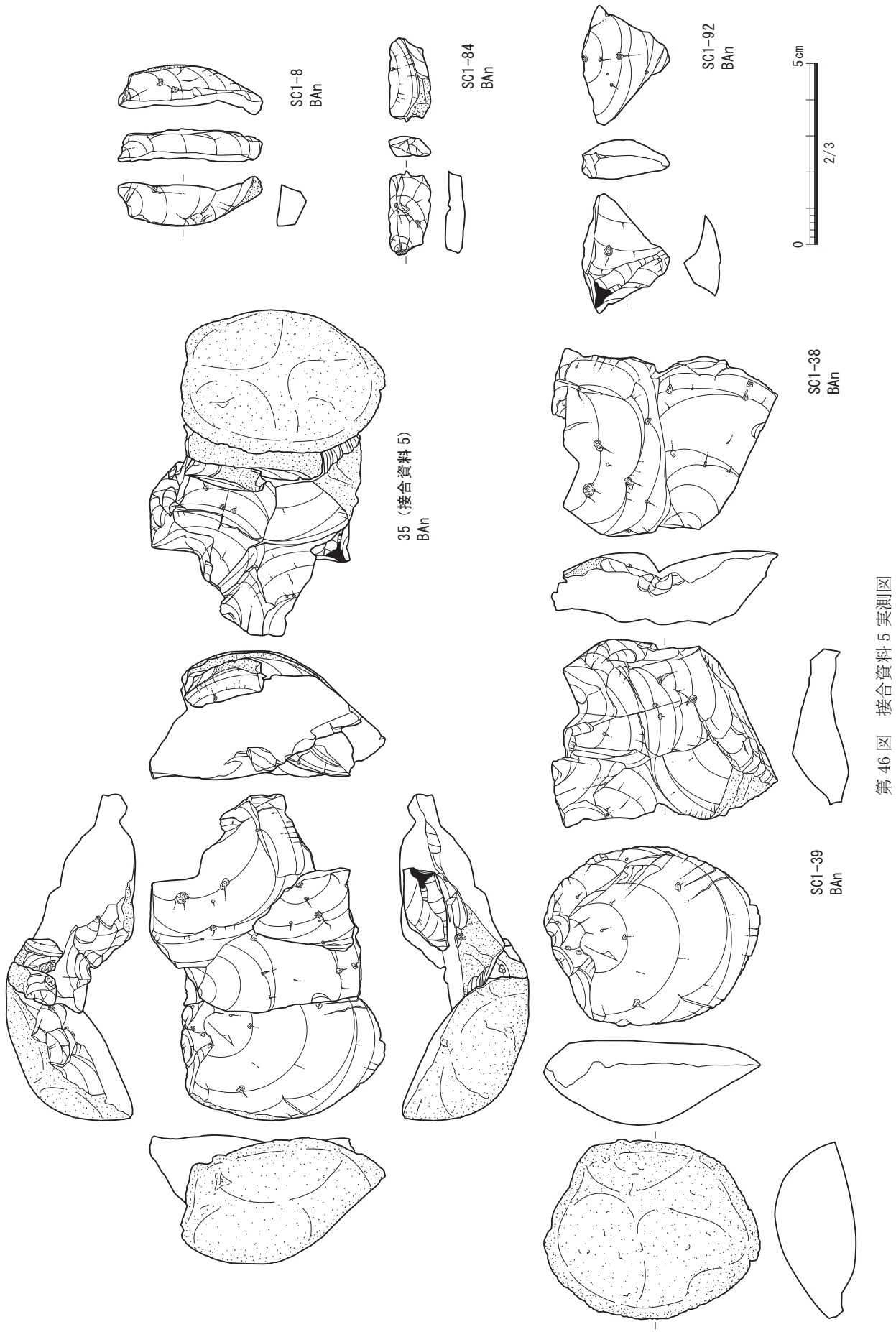
母岩 BSh1。7 ブロックの石核調整剥片 1 点と破砕礫 1 点が接合した。残存値は長さ 4.09 ㎝、幅 3.06 ㎝、厚さ 0.84 ㎝、重量 9.5g である。接合の距離は 1.50 ｍである。

接合資料 15（45）（第 12・65 ～ 67 図、PL.56）

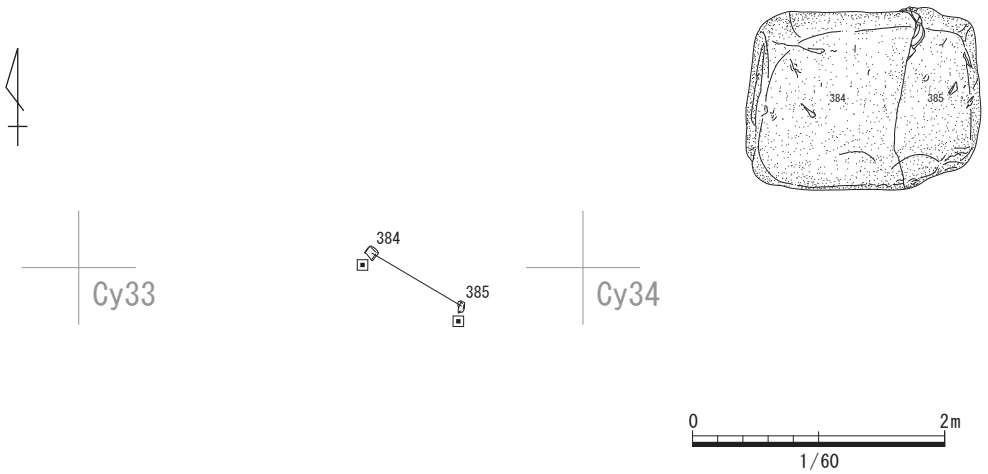
母岩 BSh2。7 ブロックの石核調整剥片を含む剥片 2 点と 8 ブロックの石核作業面調整剥片 1 点が接合した。残存値は長さ 5.57 ㎝、幅 6.55 ㎝、厚さ 2.55 ㎝、重量 84.9g である。接合の最大距離は 2.57 ｍである。

接合資料 16（46）（第 12・68・69 図、PL.57）

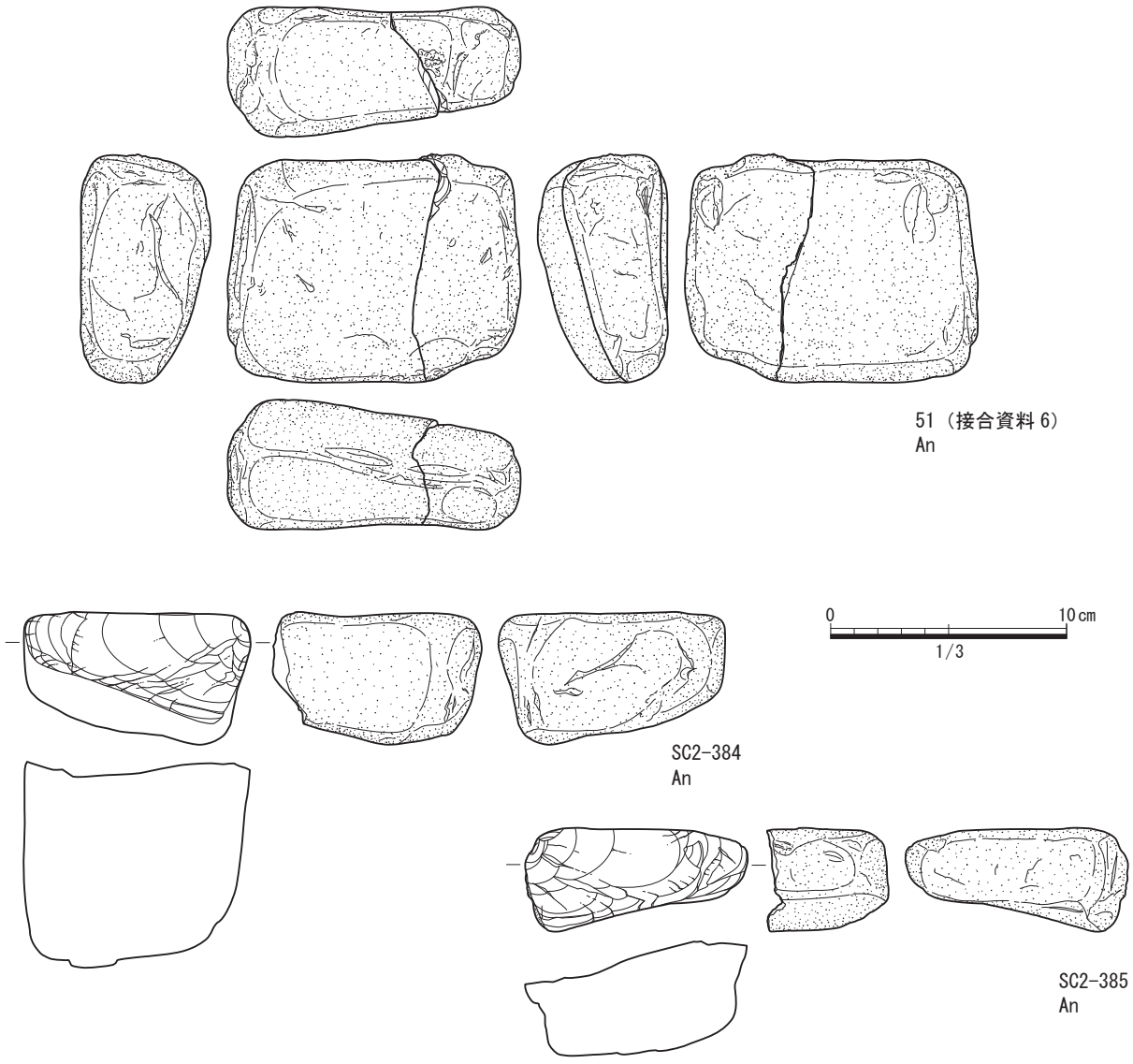
母岩 BSh3。7･8 ブロックの石核調整剥片が接合したものである。残存値は長さ 4.86 ㎝、幅 7.51 ㎝、厚さ 3.15 ㎝、重量 86.3g である。接合の距離は 5.09 ｍである。



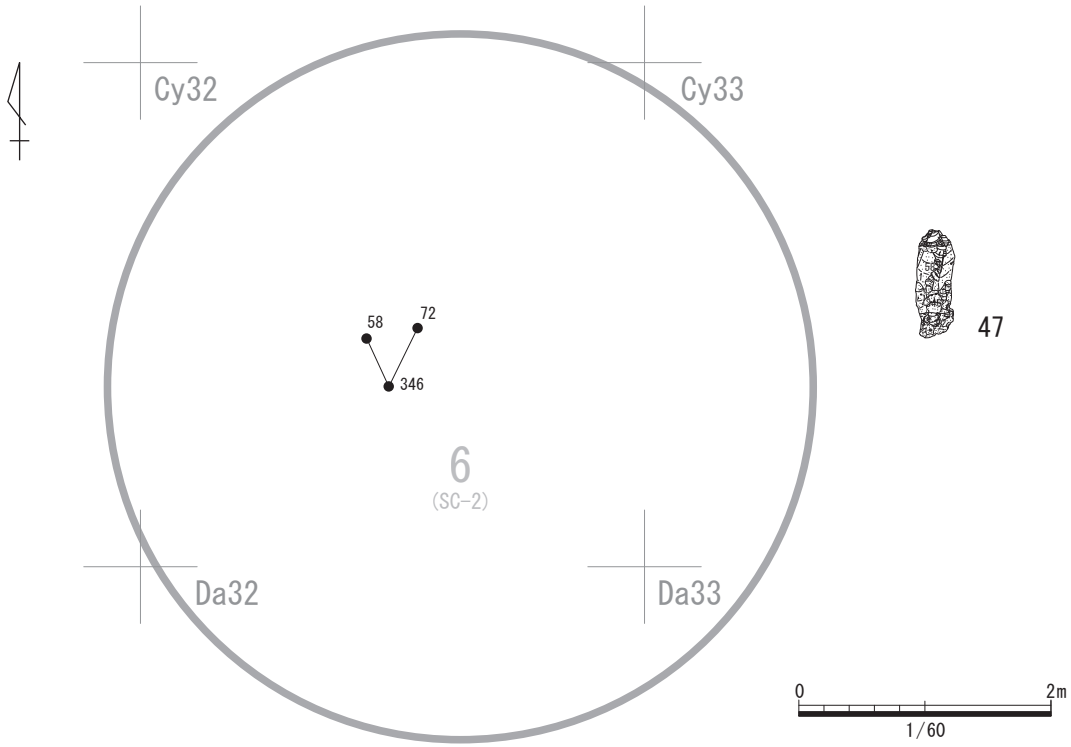
第 46 図　接合資料 5 実測図



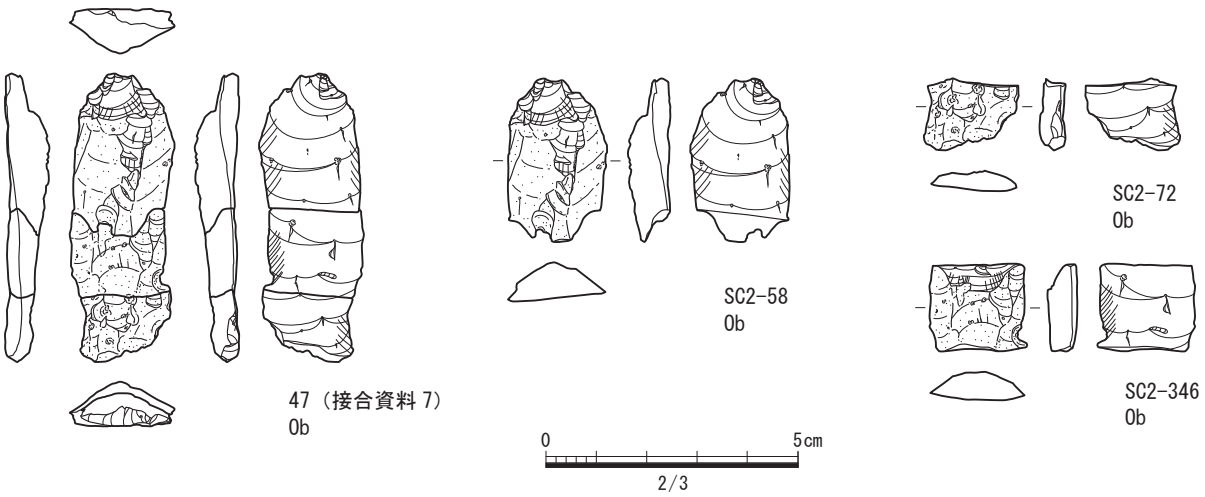
第 47 図　接合資料 6 遺物分布図



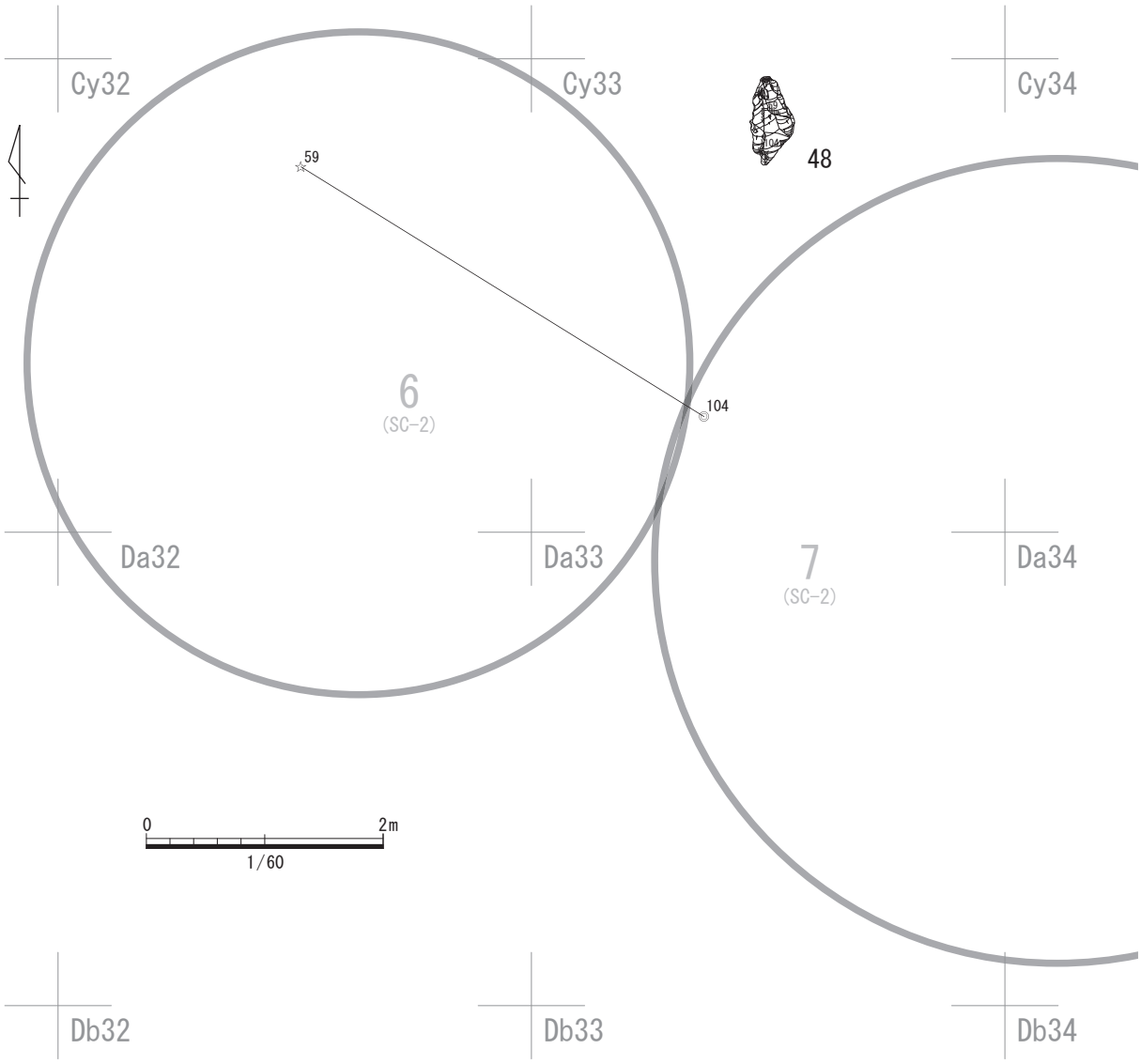
第 48 図　接合資料 6 実測図



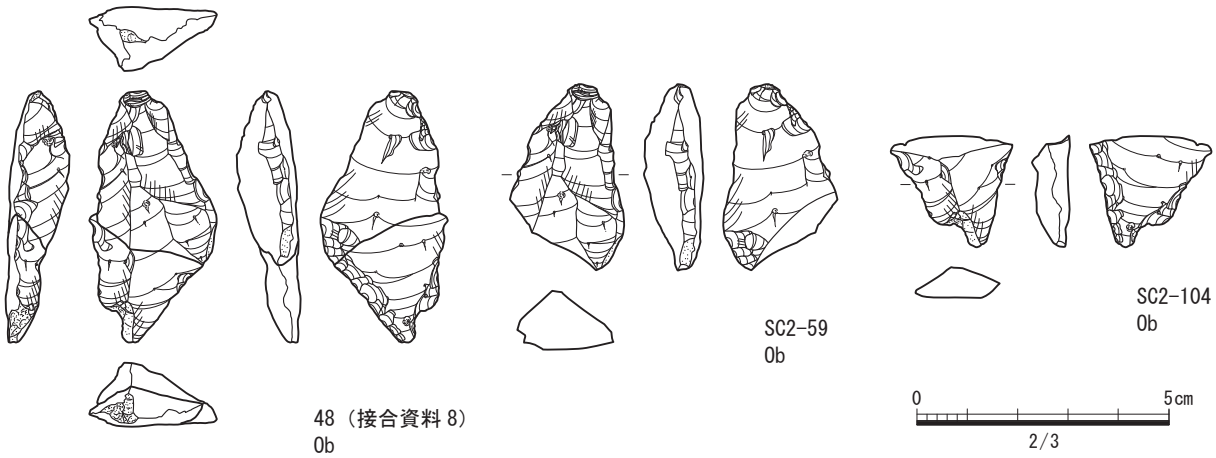
第 49 図　接合資料 7 遺物分布図



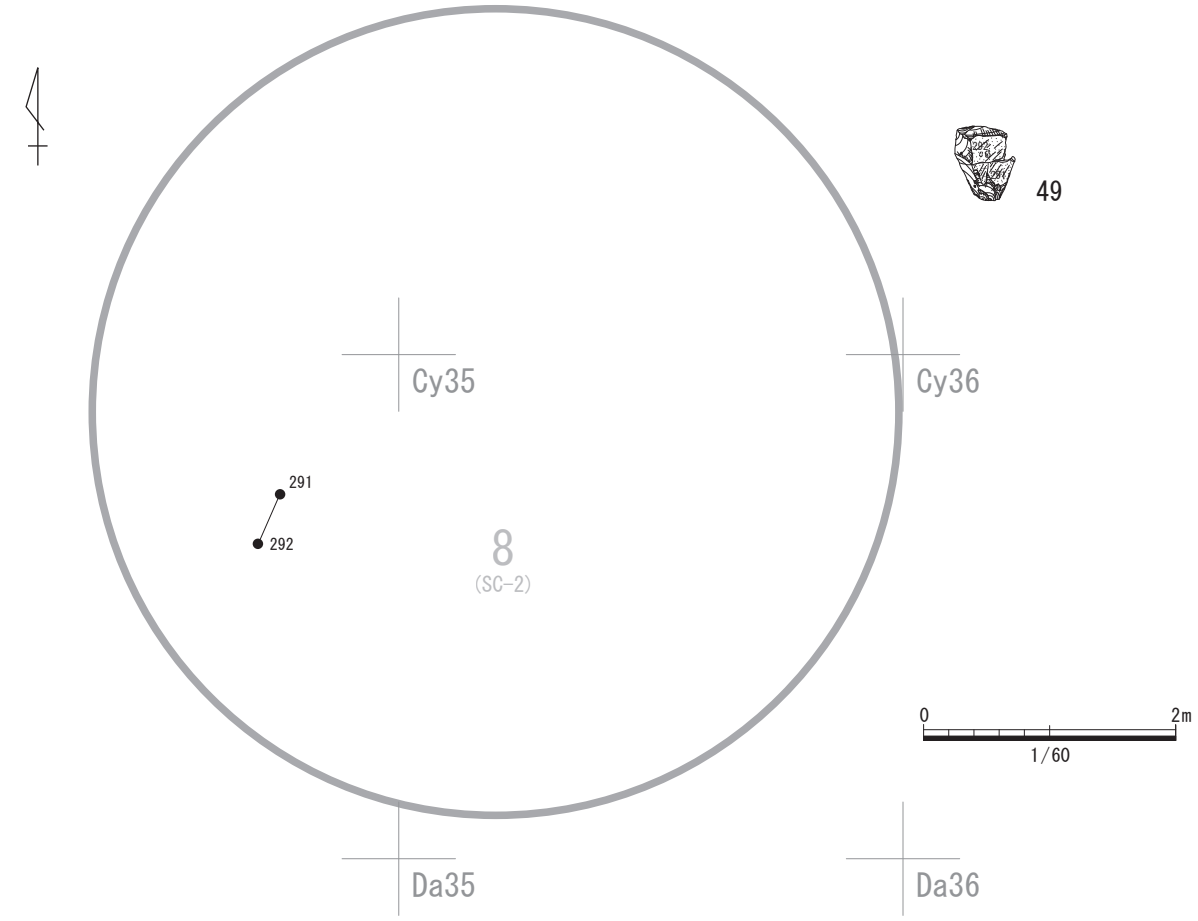
第 50 図　接合資料 7 実測図



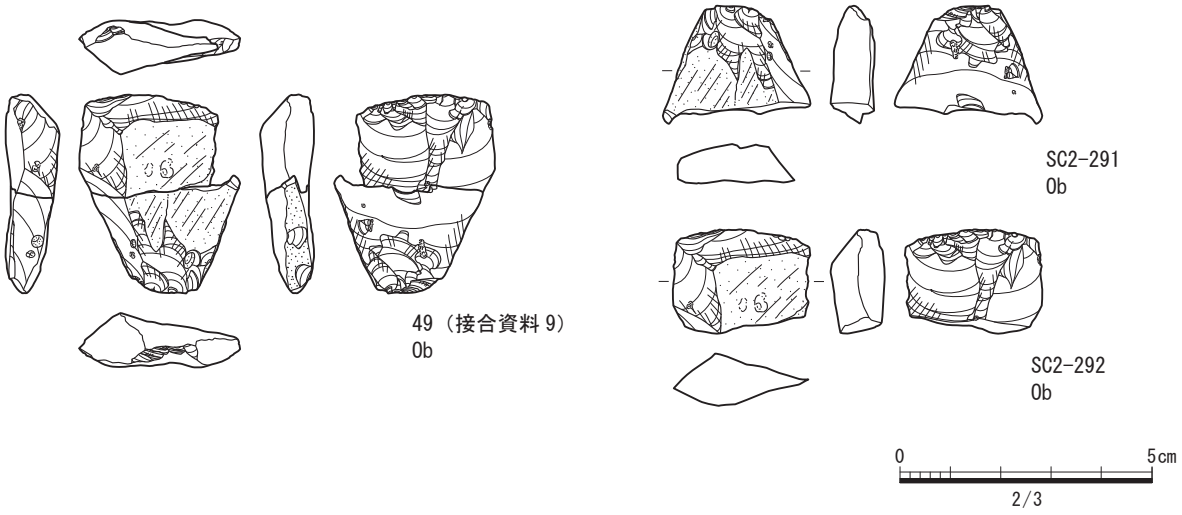
第 51 図　接合資料 8 遺物分布図



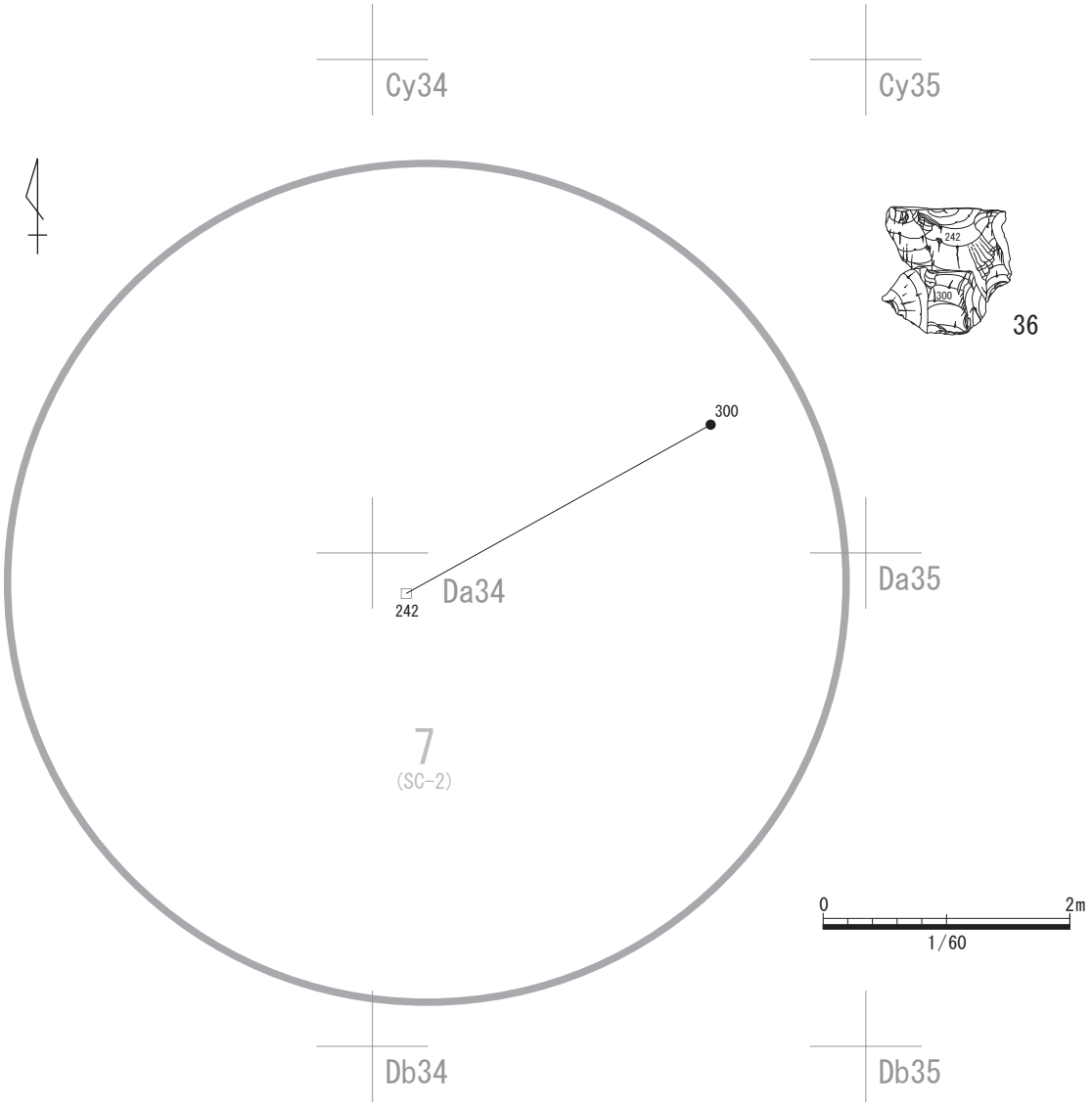
第 52 図　接合資料 8 実測図



第 53 図　接合資料 9 遺物分布図



第 54 図　接合資料 9 実測図



第 55 図　接合資料 10 遺物分布図

接合資料 17（40）（第 12・70 ～ 72 図、PL. 53・54）

母岩 BAn1。16 点の剥片が接合した。7 ブロック 14 点､8 ブロック 2 点の剥片が接合したもので､石核調整剥片、石核作業面調整剥片が含まれる。残存値は長さ 7.75 ㎝、幅 8.60 ㎝、厚さ 5.76 ㎝、重量 227.1g である。接合の最大距離は 5.19 ｍである。

接合資料 18（50）（第 13・73 ～ 76 図、PL. 59）

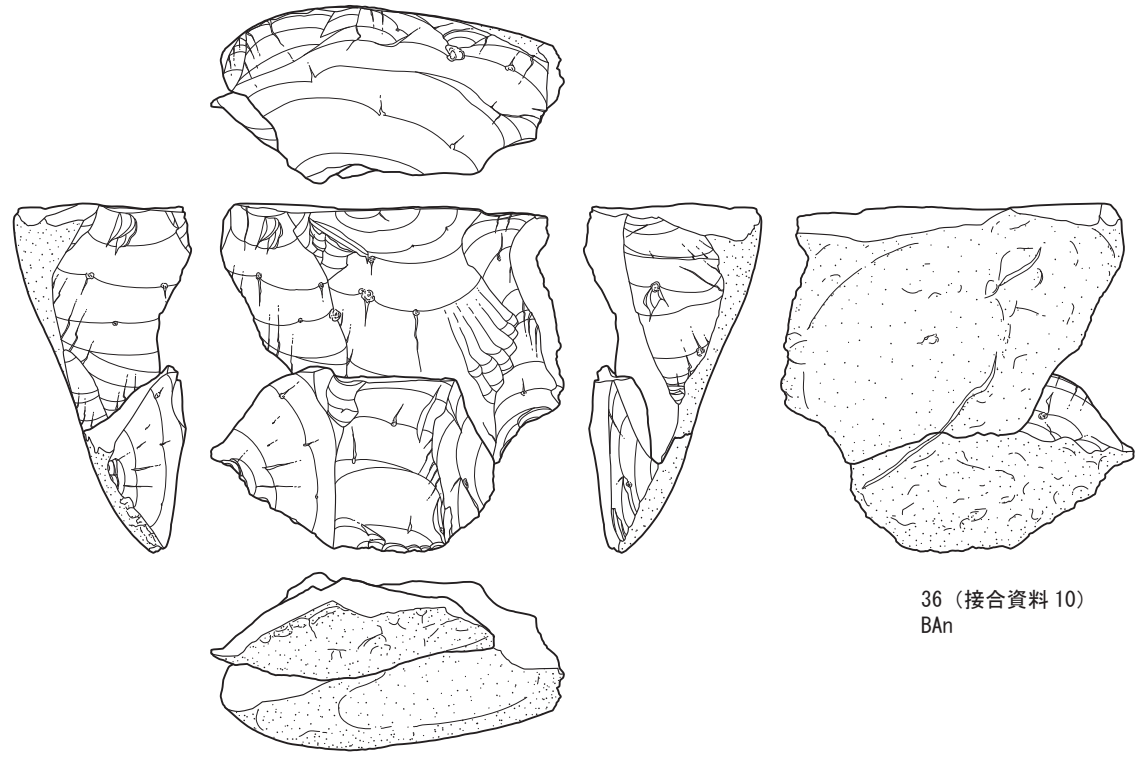
母岩 RCh1。9 ブロック内で石核 1 点、剥片 9 点、チップ 3 点の計 13 点が接合した。縦長剥片が含まれる。残存値は長さ 8.87 ㎝、幅 7.00 ㎝、厚さ 2.47 ㎝、重量 142.2g である。接合の最大距離は 2.13 ｍである。

接合資料 19（41）（第 13・77・78 図、PL. 52）

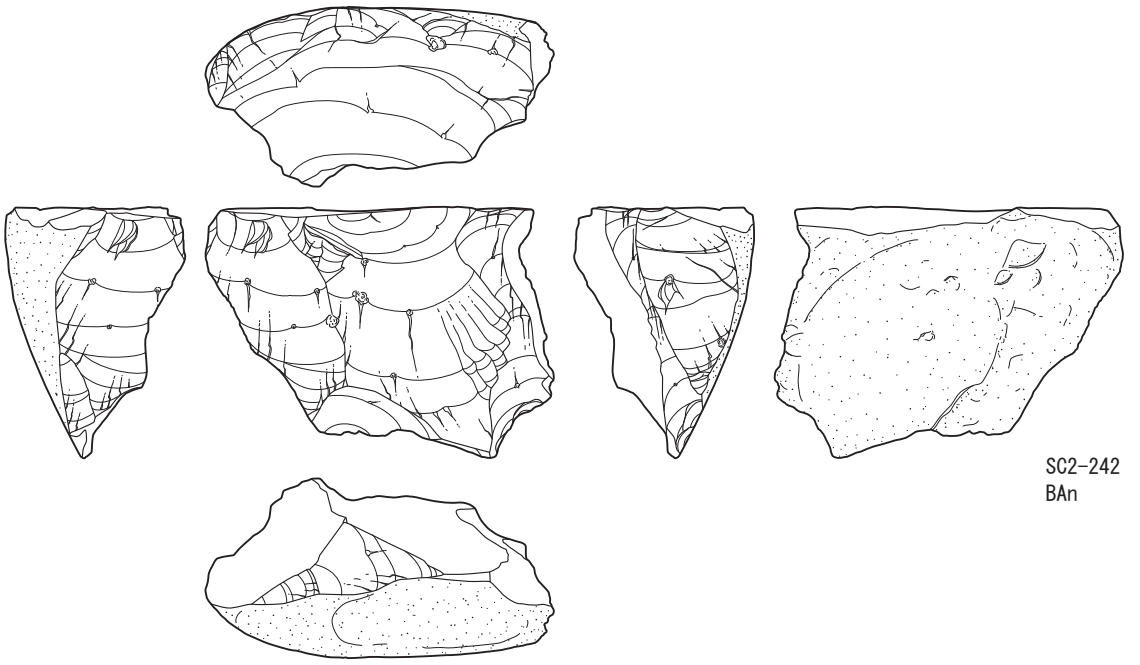
黒色安山岩。1 ブロックの石核調整剥片 1 点と作業面調整剥片 1 点が接合した。残存値は長さ 5.72 ㎝､幅 6.22 ㎝、厚さ 1.67 ㎝、重量 43.6g である。接合の最大距離は 69 ㎝である。

接合資料 20（42）（第 13・79・80 図、PL. 55）

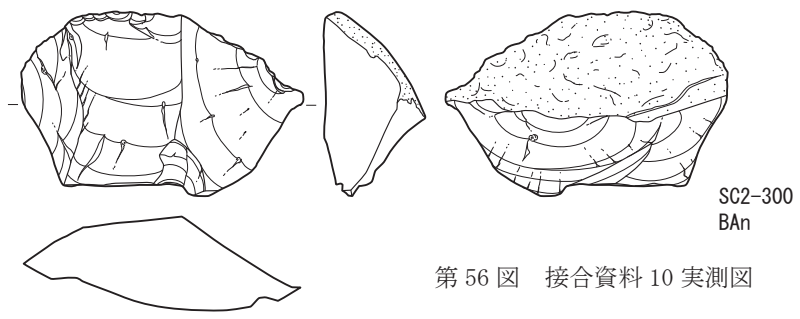
黒色安山岩。1 ブロックの剥片 4 点が接合した。石核調整剥片が含まれる。残存値は長さ 8.97 ㎝、幅 4.64 ㎝、厚さ 3.12 ㎝、重量 101.2g である。接合の最大距離は 80 ㎝である。



36（接合資料 10）
BAn



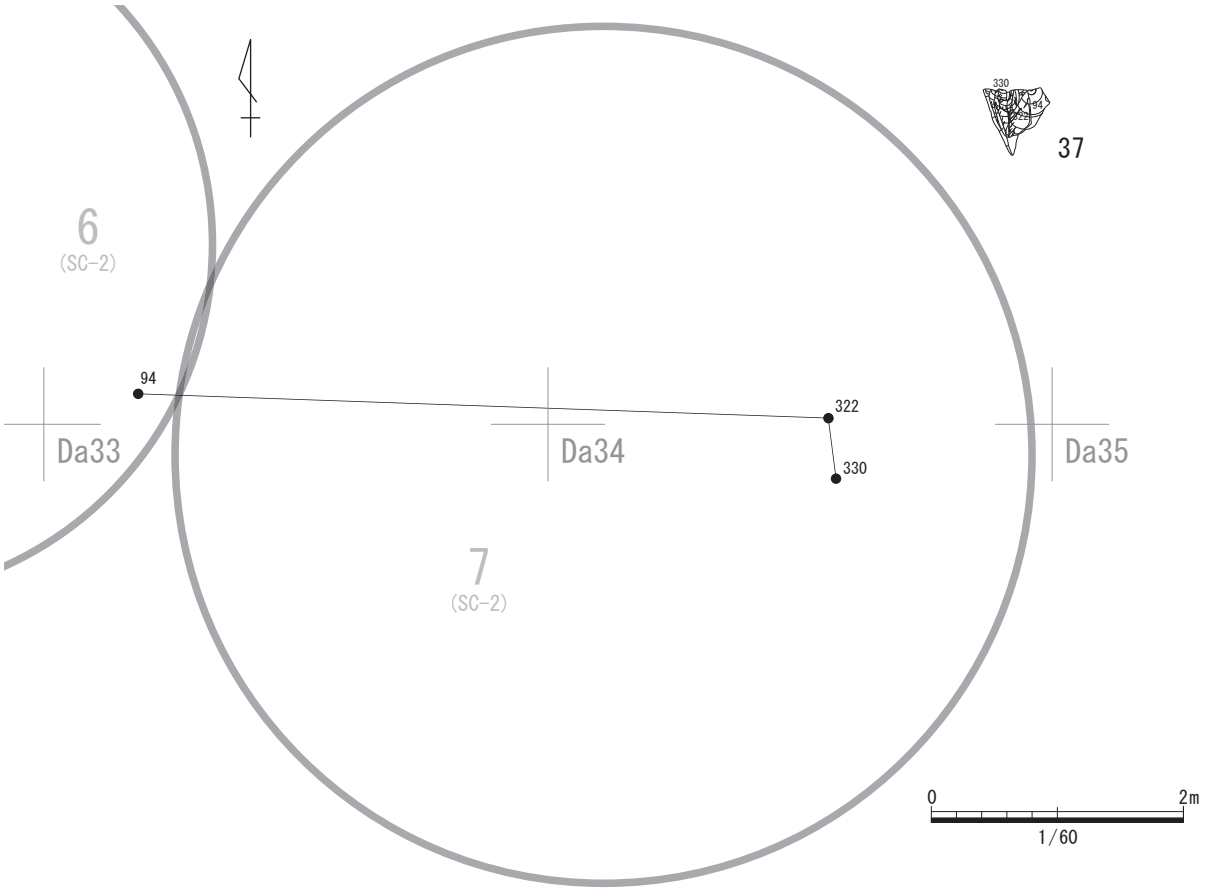
SC2-242
BAn



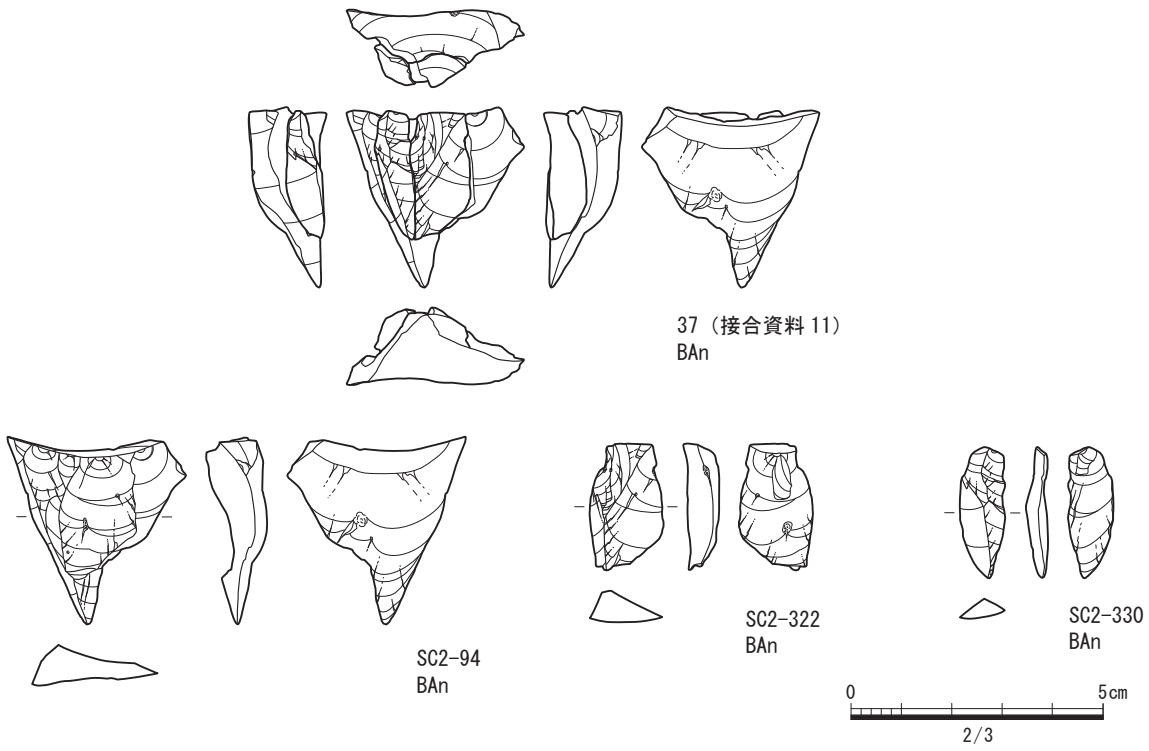
SC2-300
BAn

0　5cm
2/3

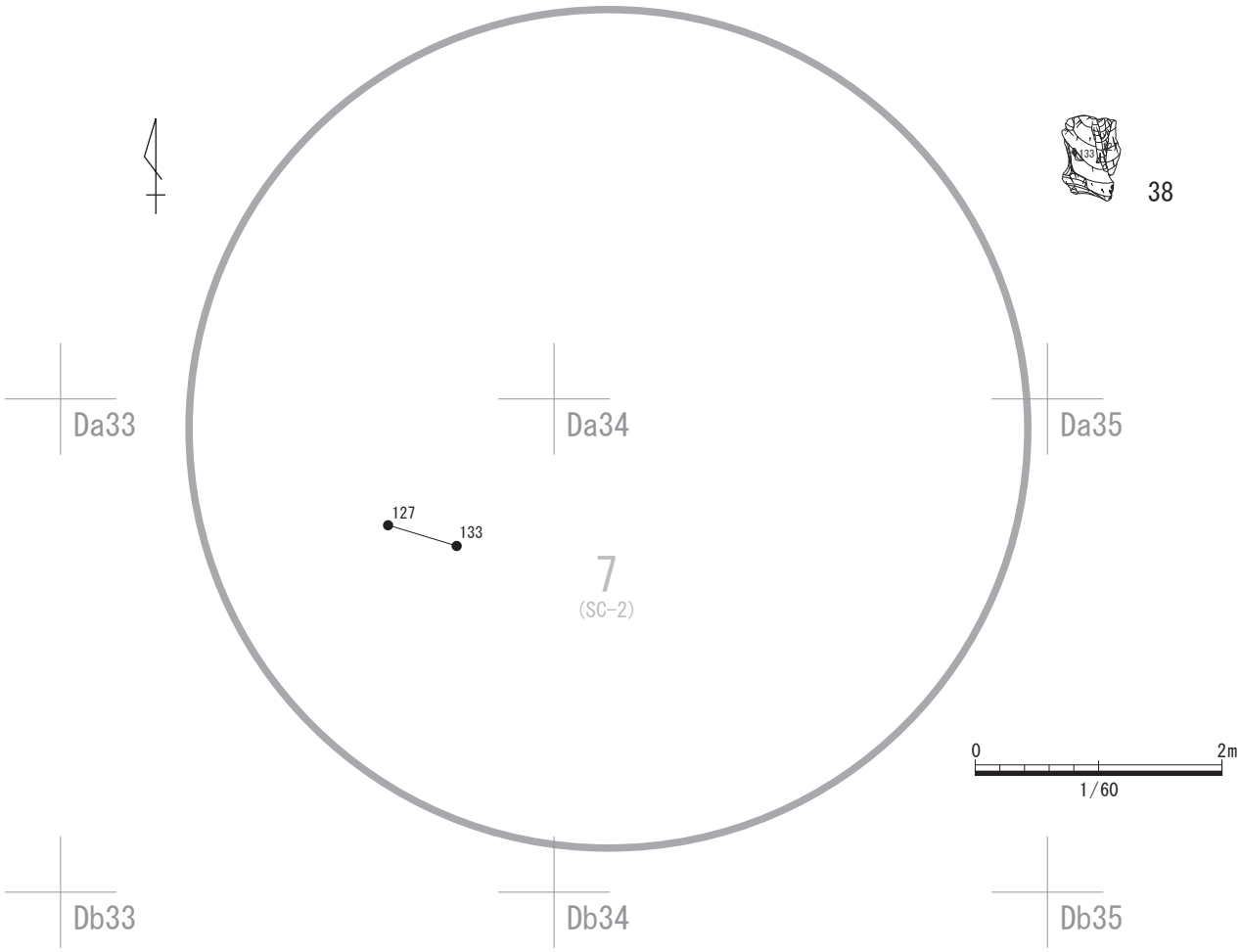
第 56 図　接合資料 10 実測図



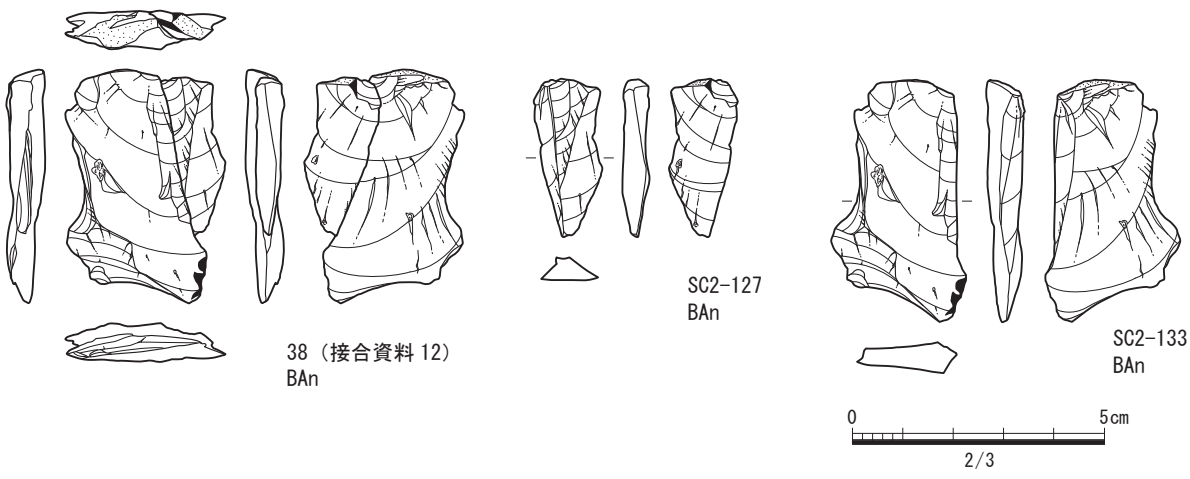
第 57 図　接合資料 11 遺物分布図



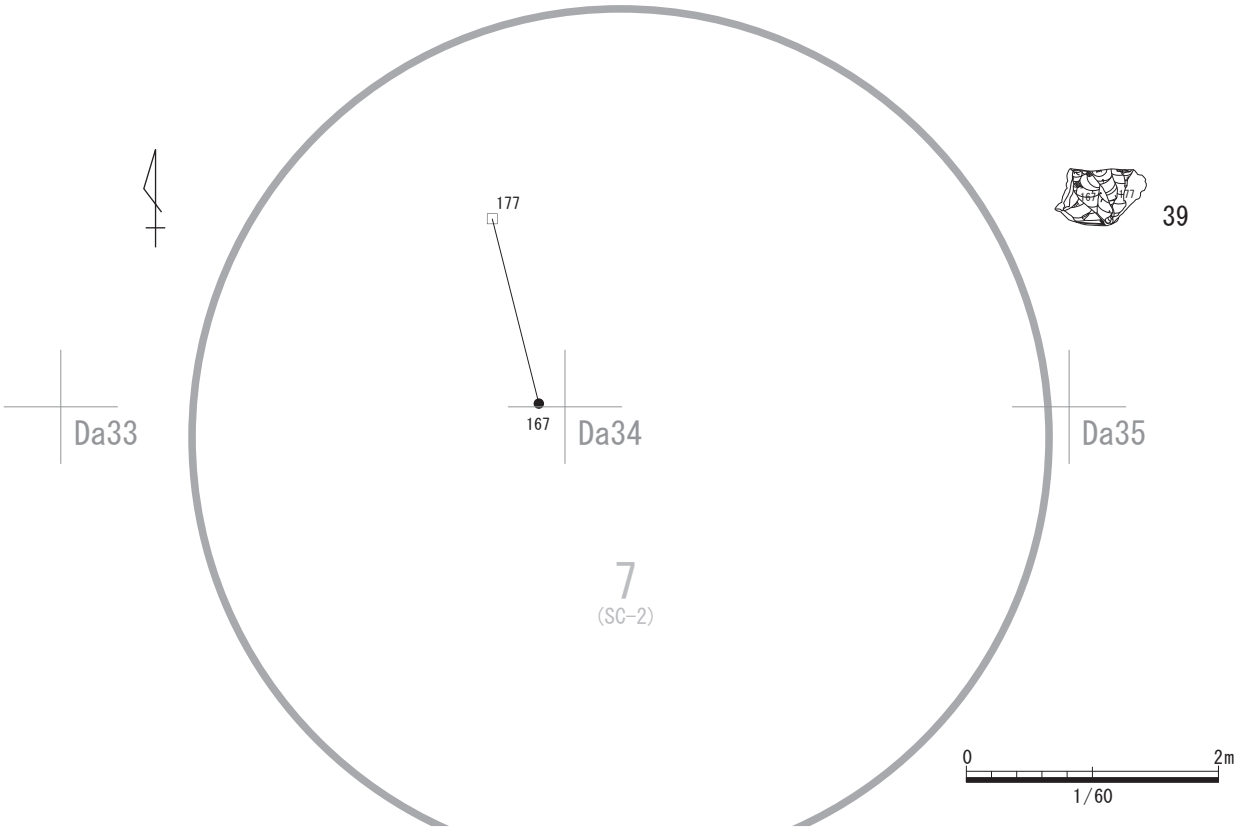
第 58 図　接合資料 11 実測図



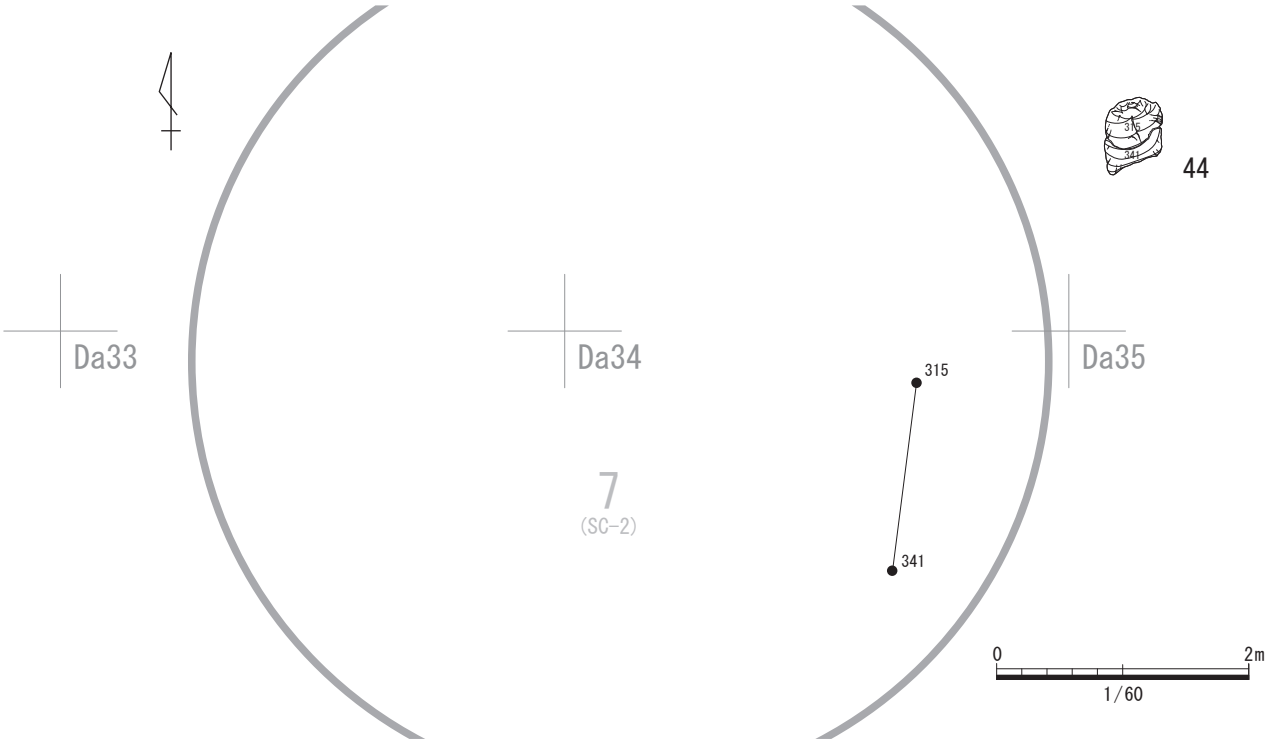
第 59 図　接合資料 12 遺物分布図



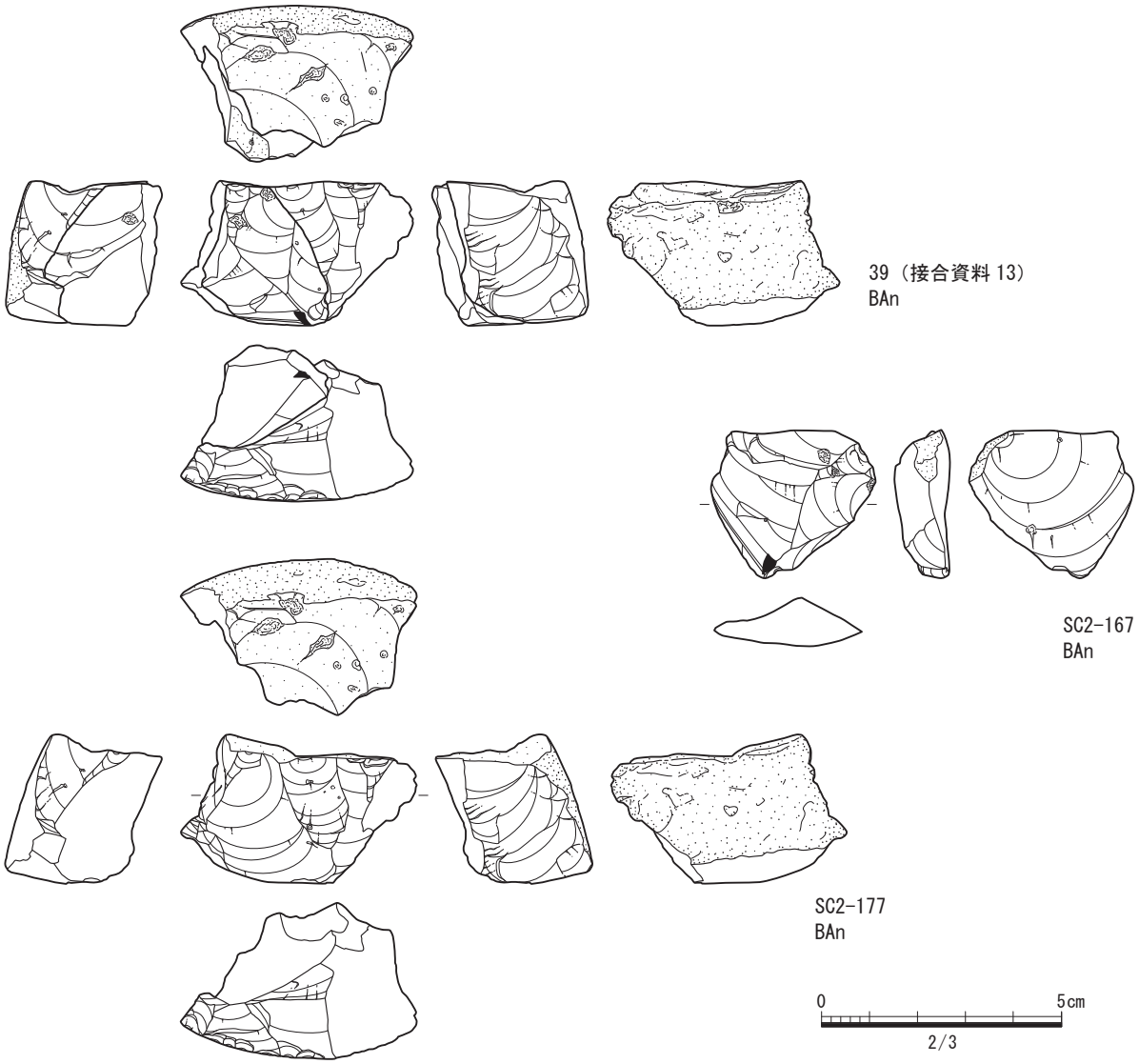
第 60 図　接合資料 12 実測図



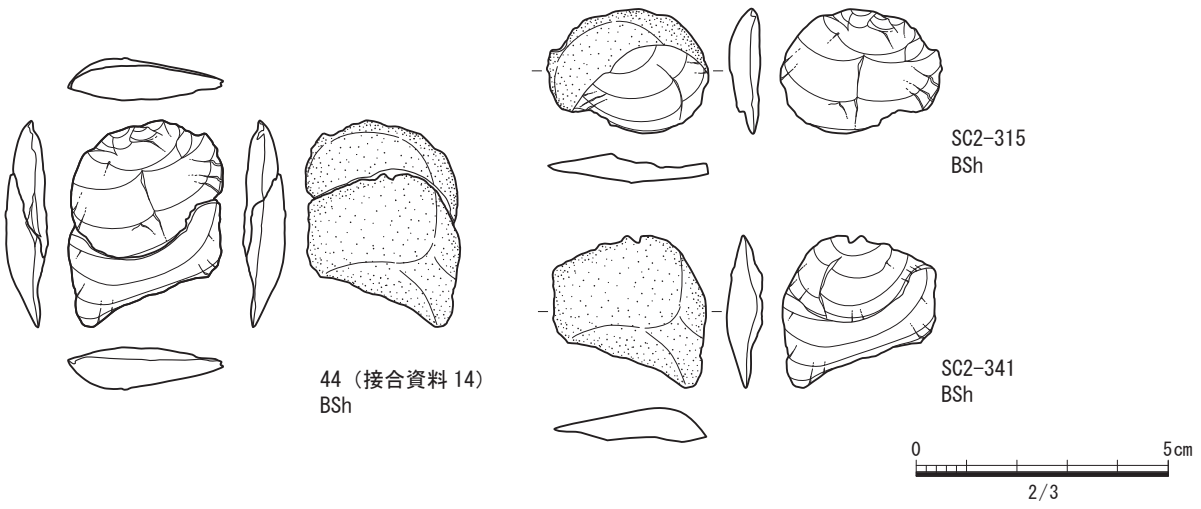
第 61 図　接合資料 13 遺物分布図



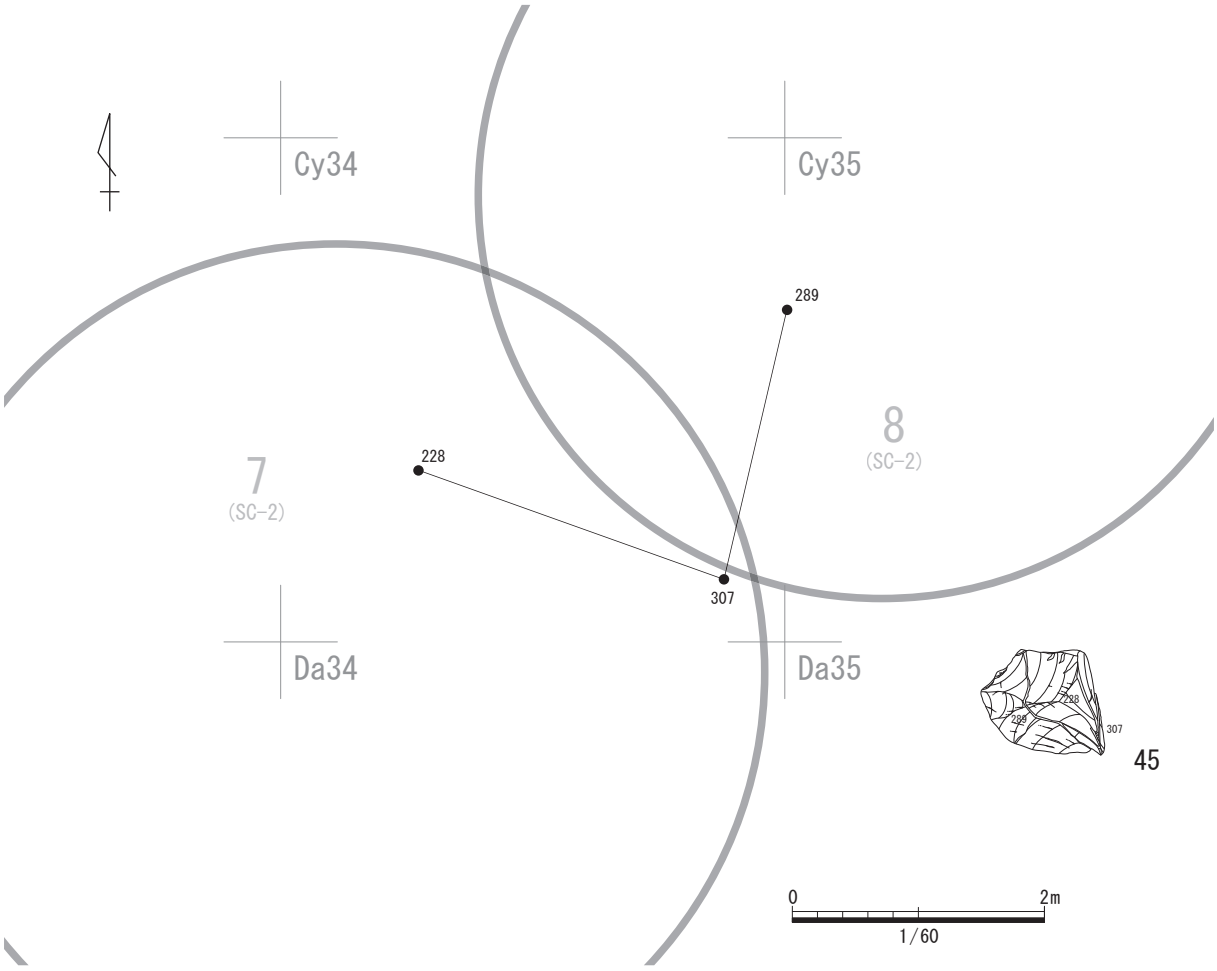
第 62 図　接合資料 14 遺物分布図



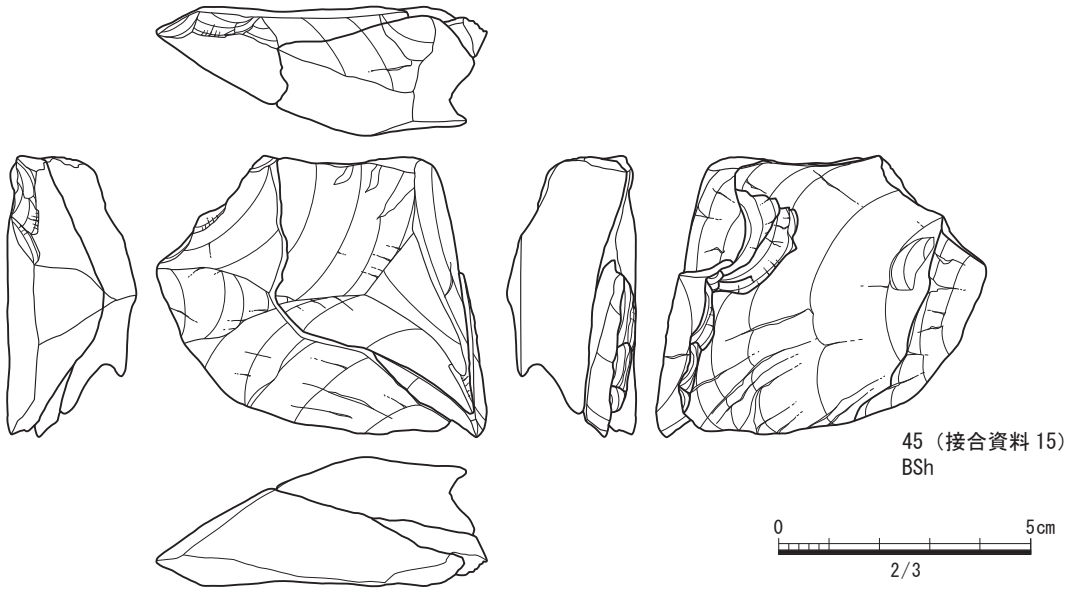
第 63 図　接合資料 13 実測図



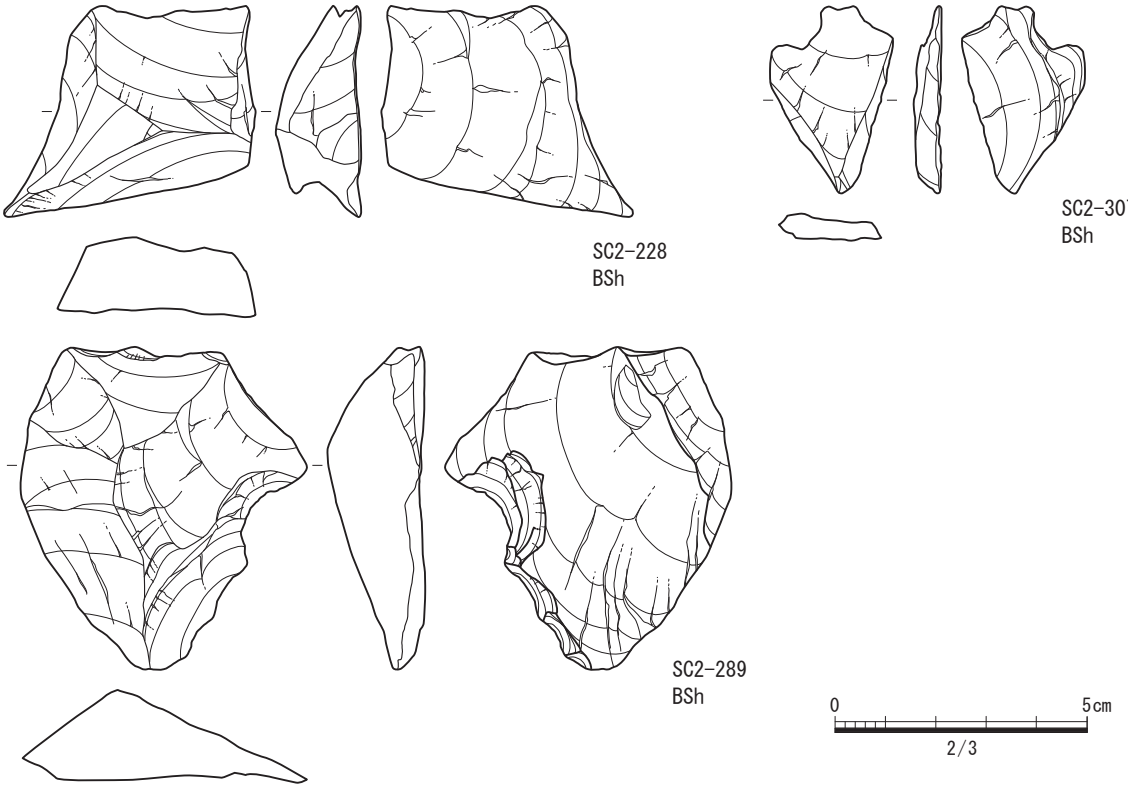
第 64 図　接合資料 14 実測図



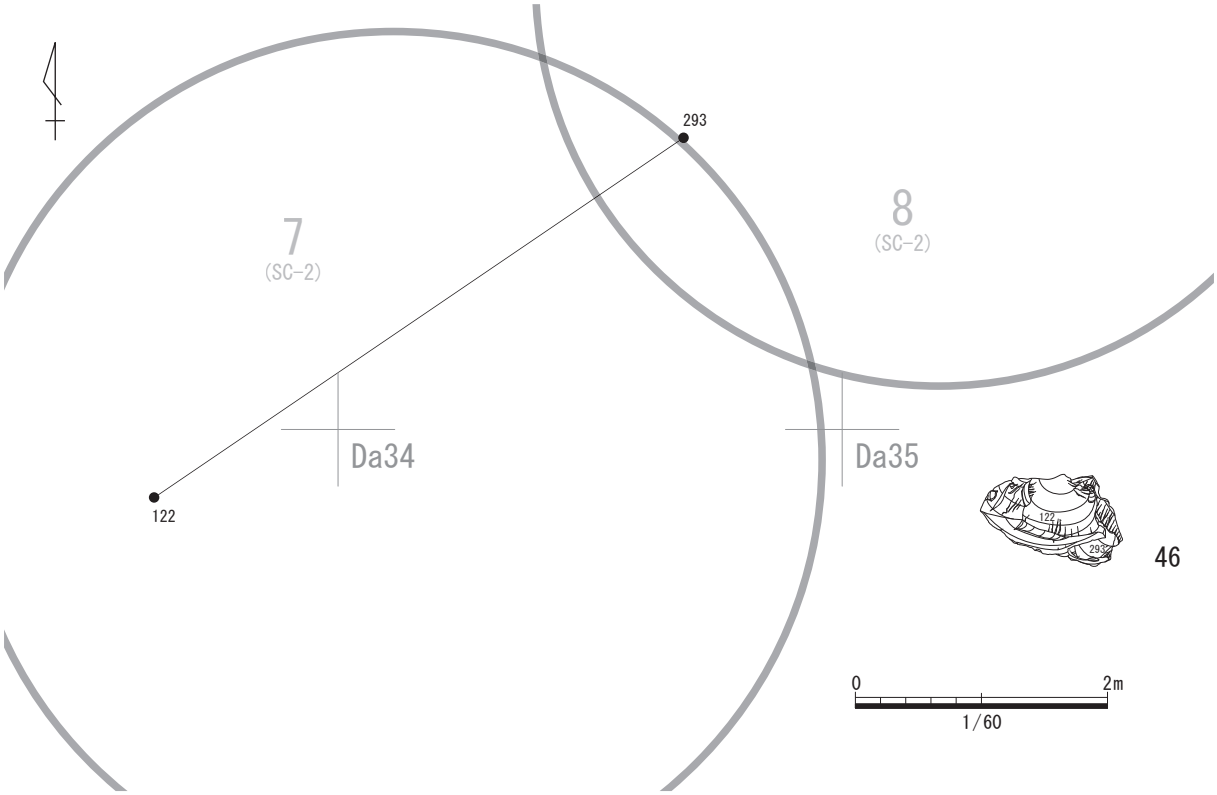
第 65 図　接合資料 15 遺物分布図



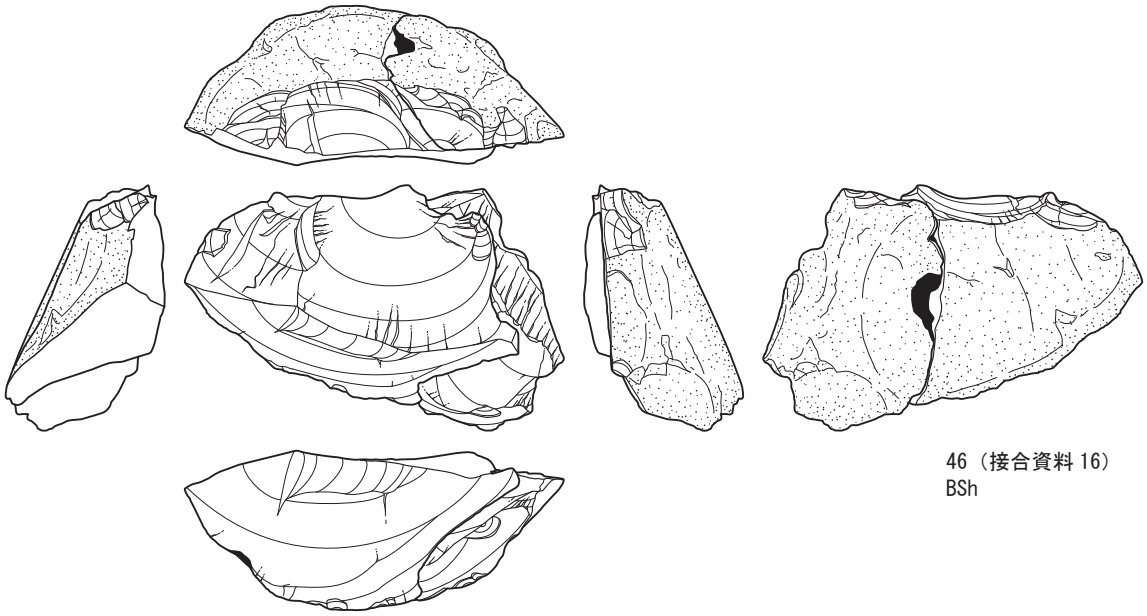
第 66 図　接合資料 15 実測図①

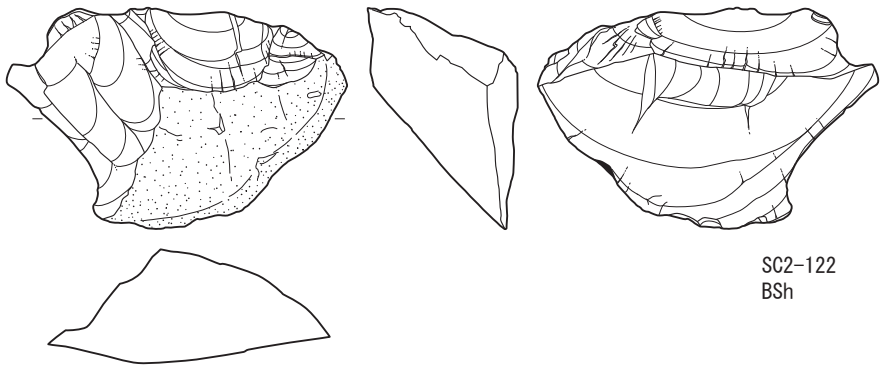


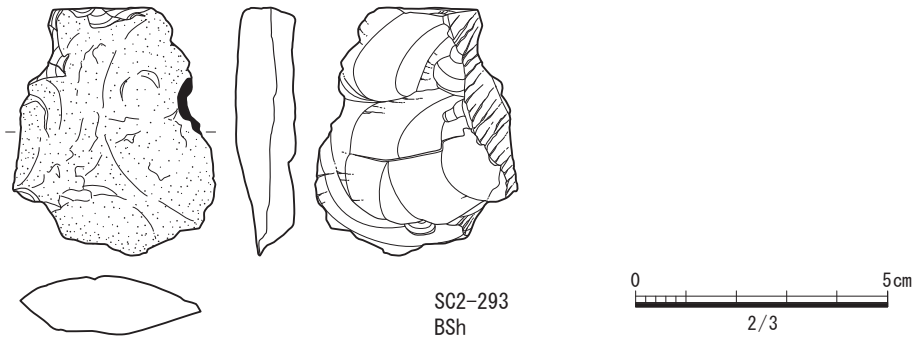
第 67 図　接合資料 15 実測図②



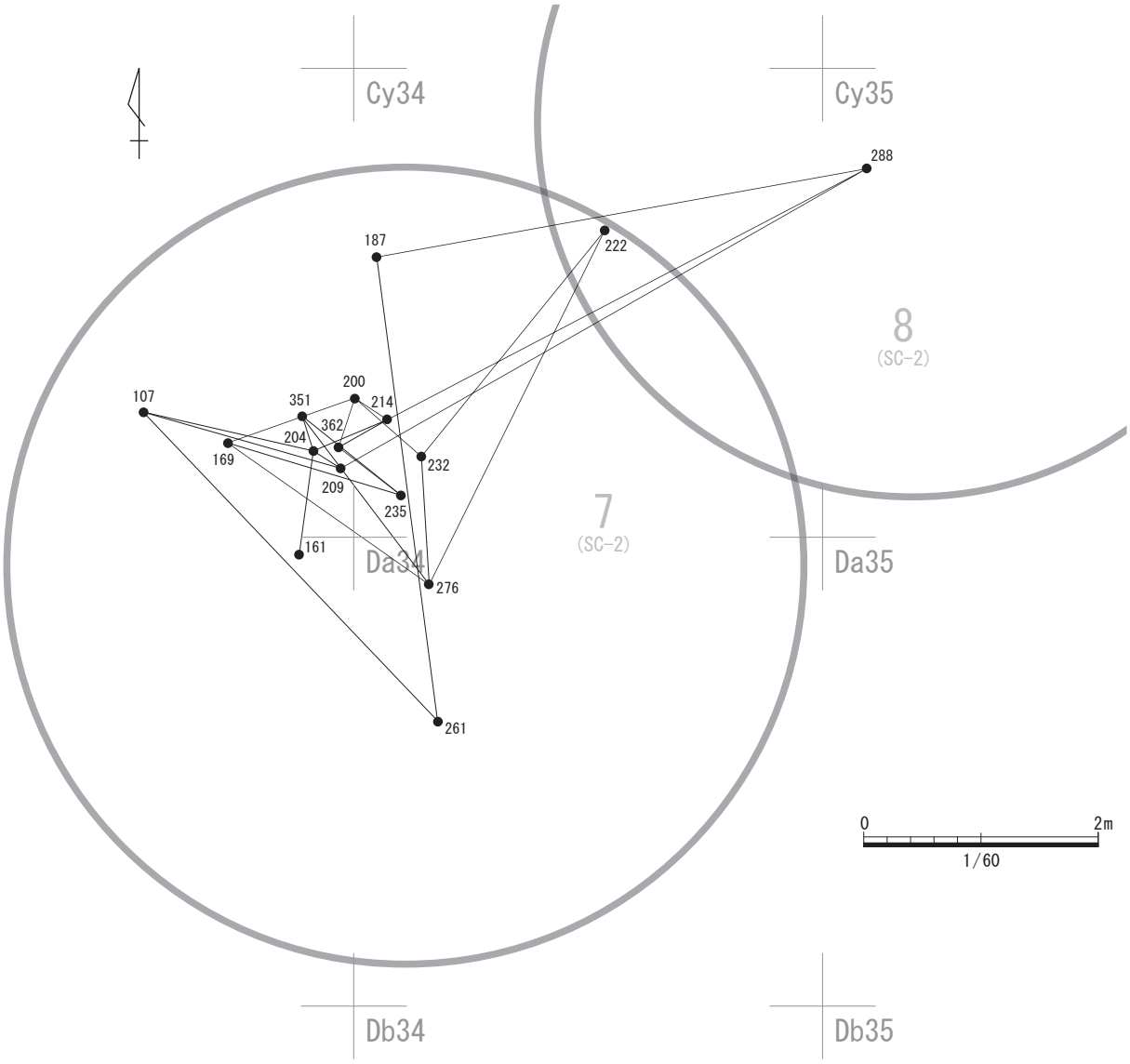
第 68 図　接合資料 16 遺物分布図

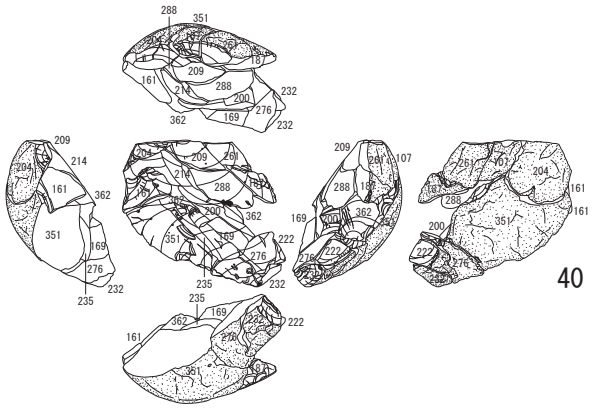




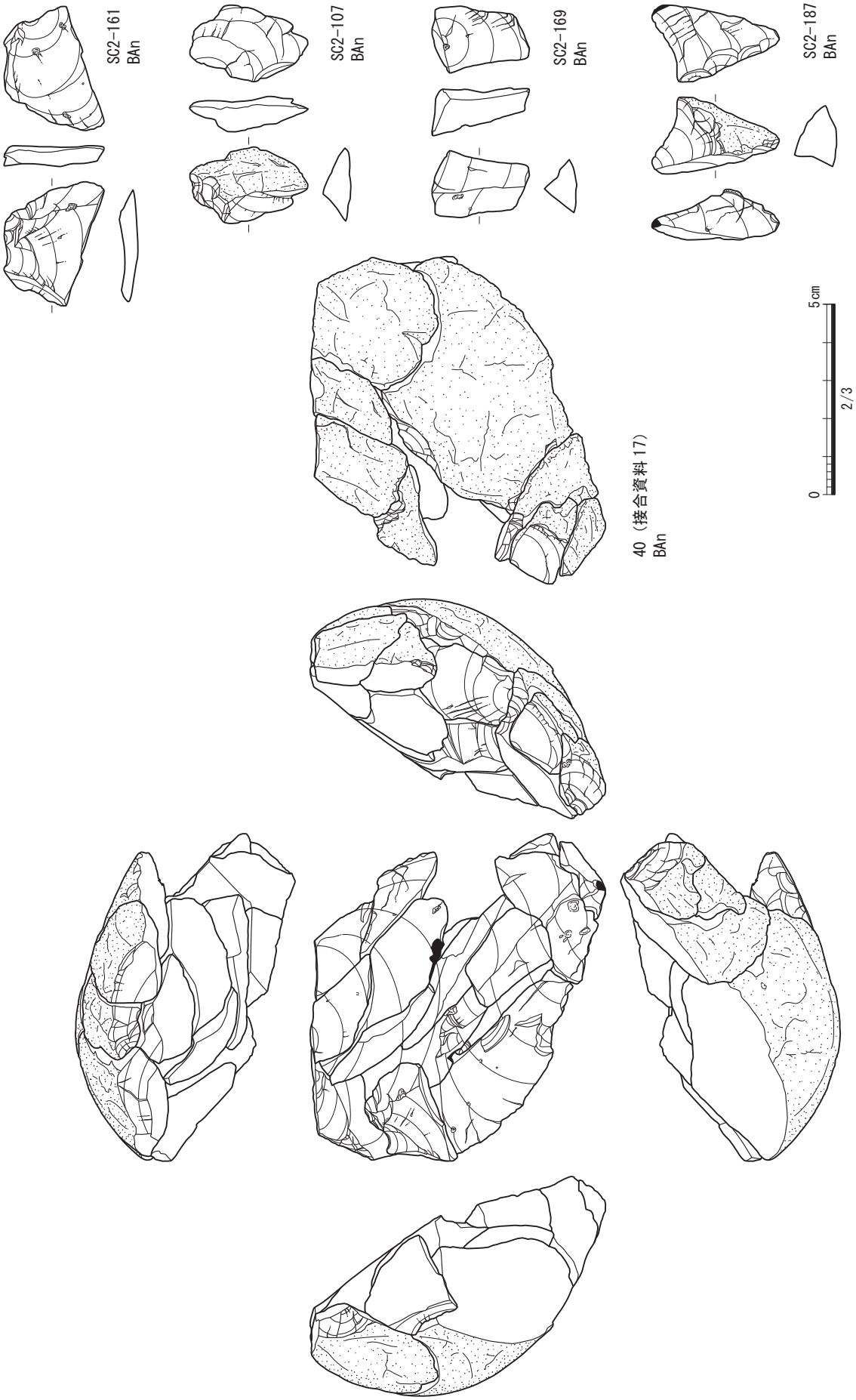


第 69 図　接合資料 16 実測図

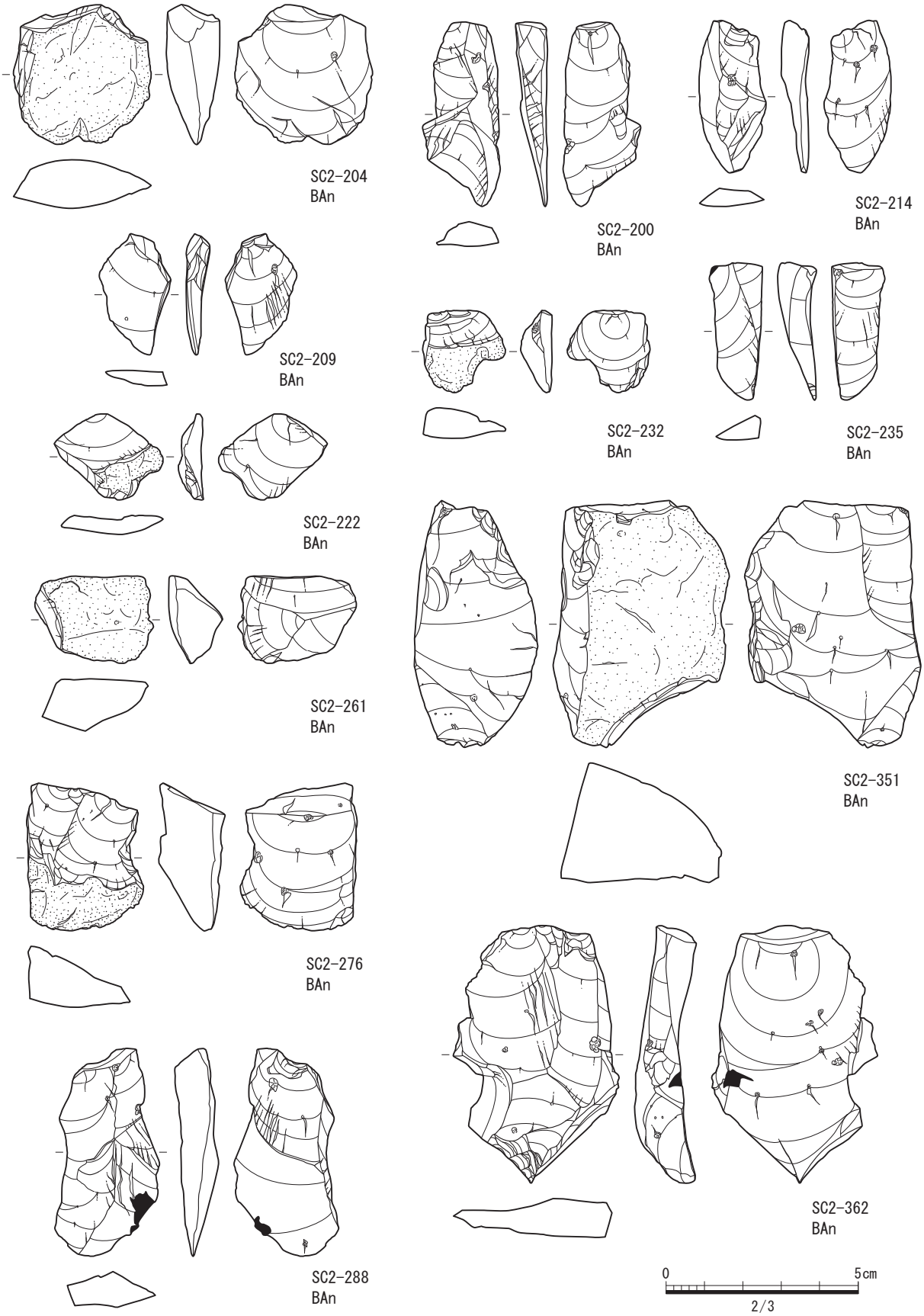




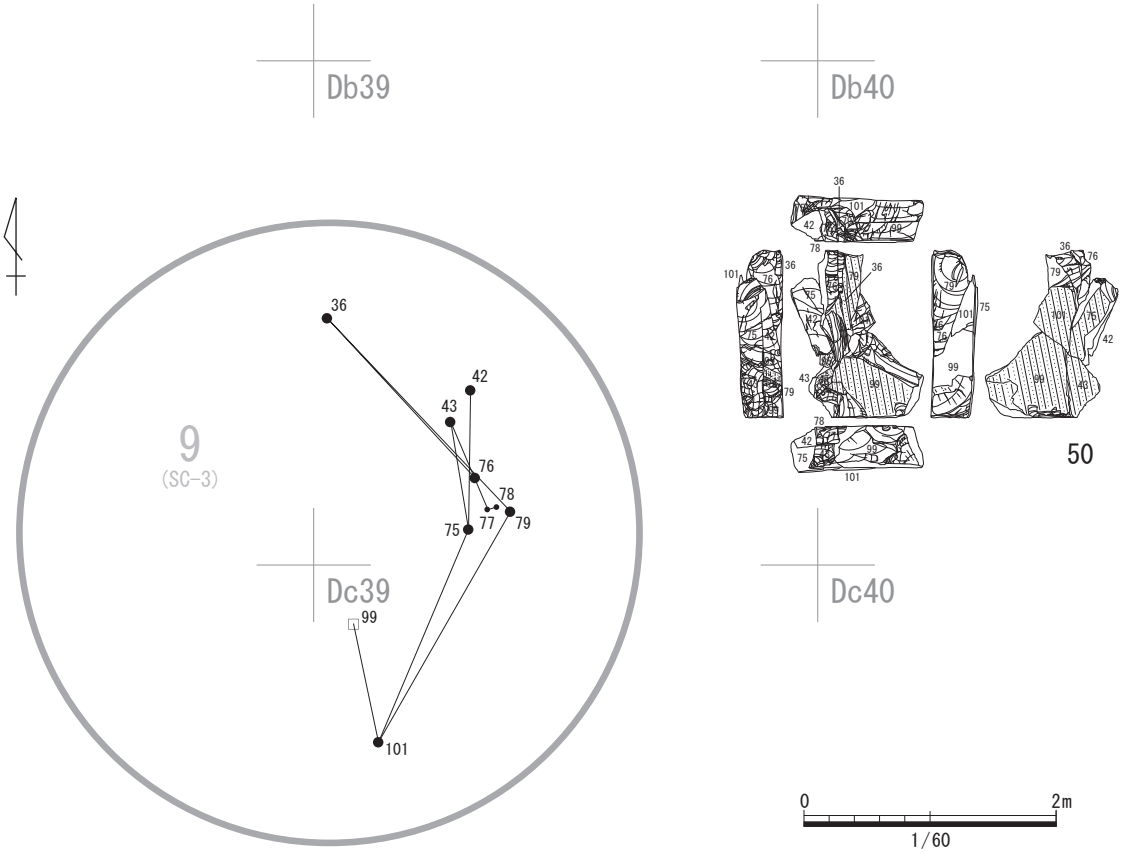
第 70 図　接合資料 17 遺物分布図



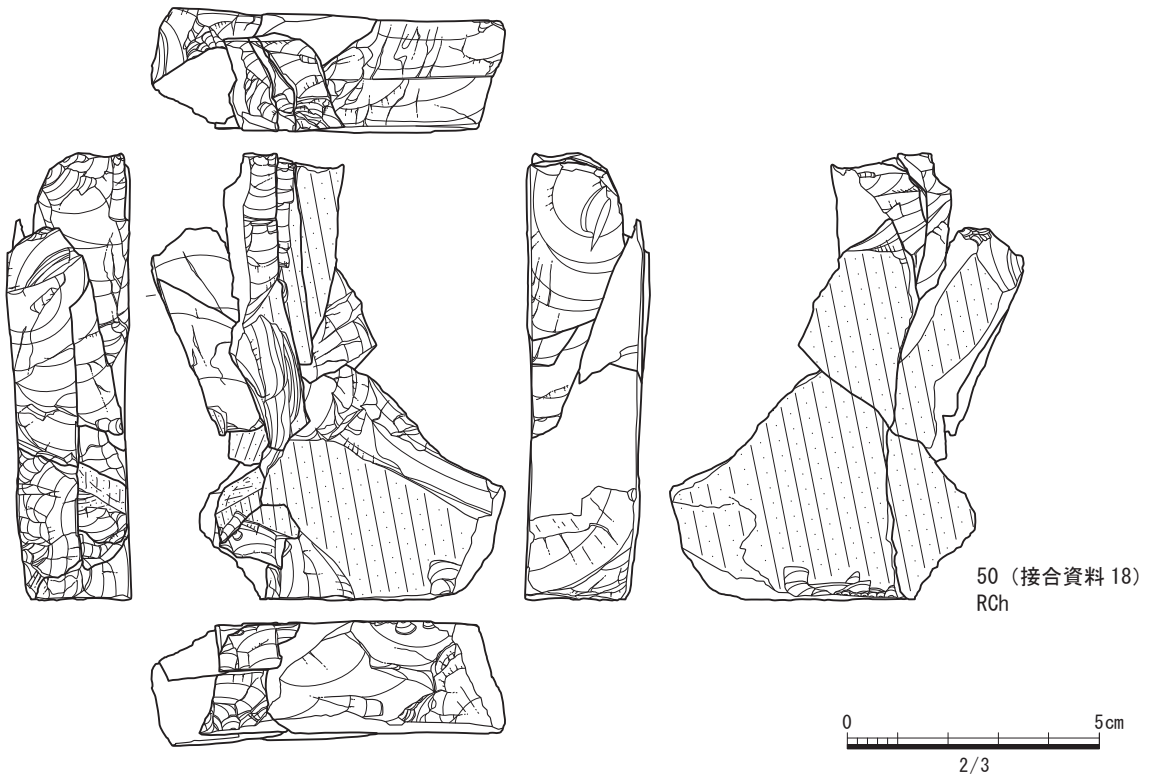
第 71 図　接合資料 17 実測図①



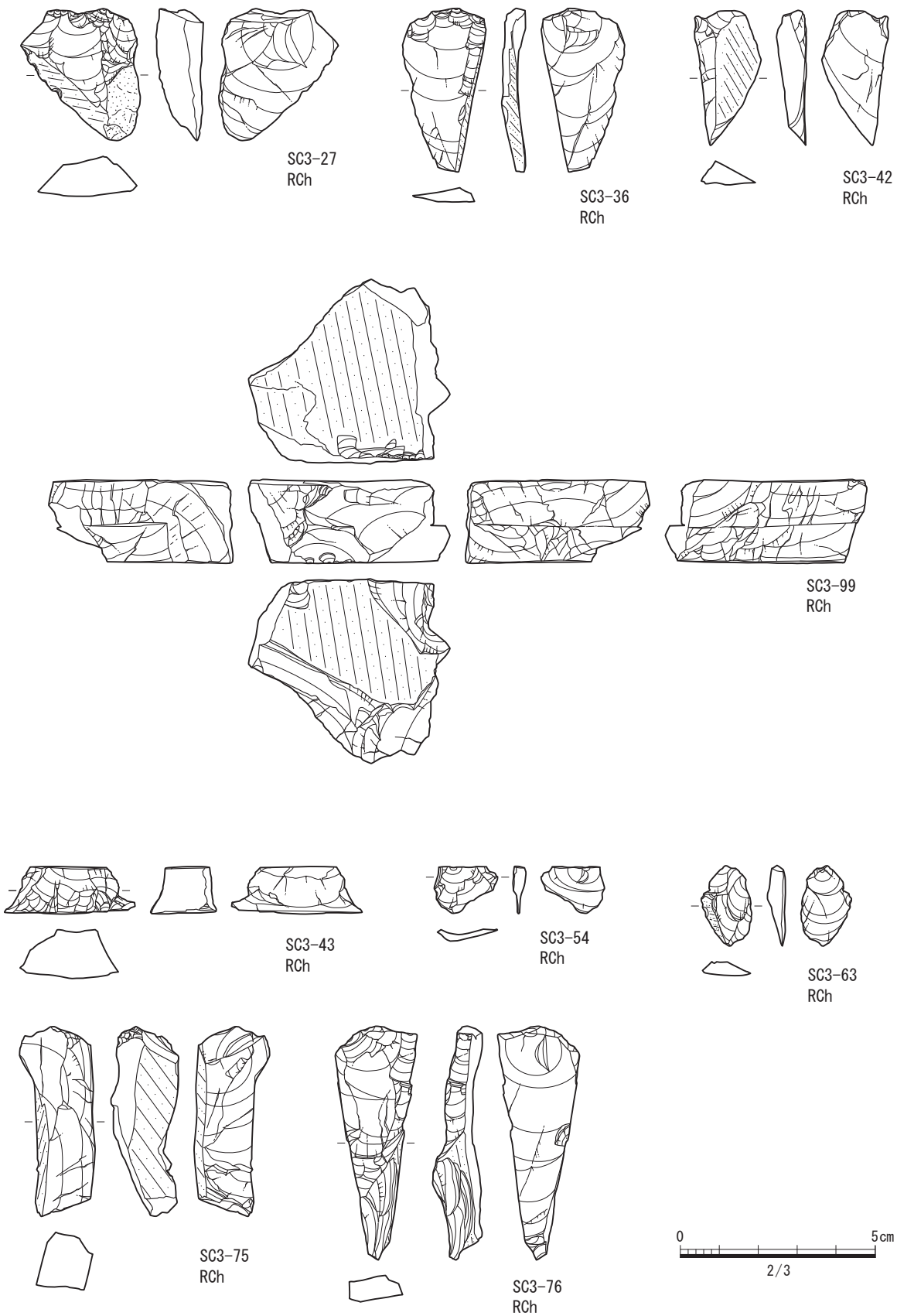
第 72 図　接合資料 17 遺実測図②



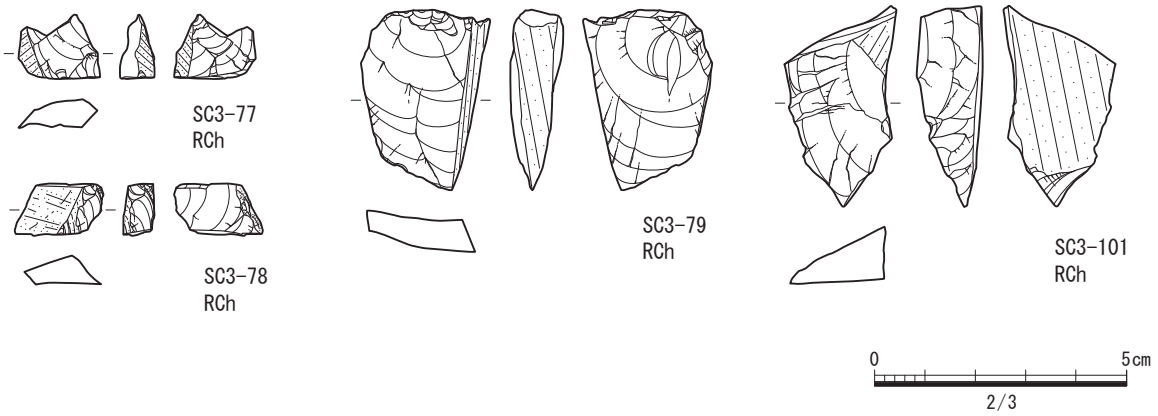
第 73 図　接合資料 18 遺物分布図



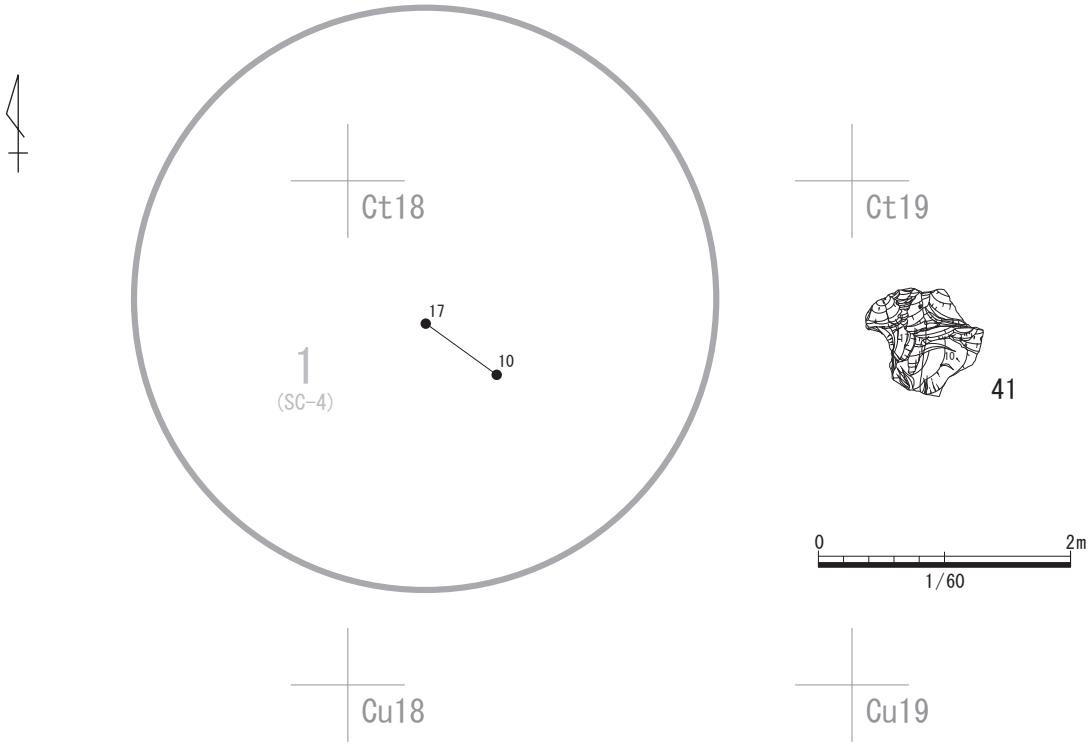
第 74 図　接合資料 18 実測図①



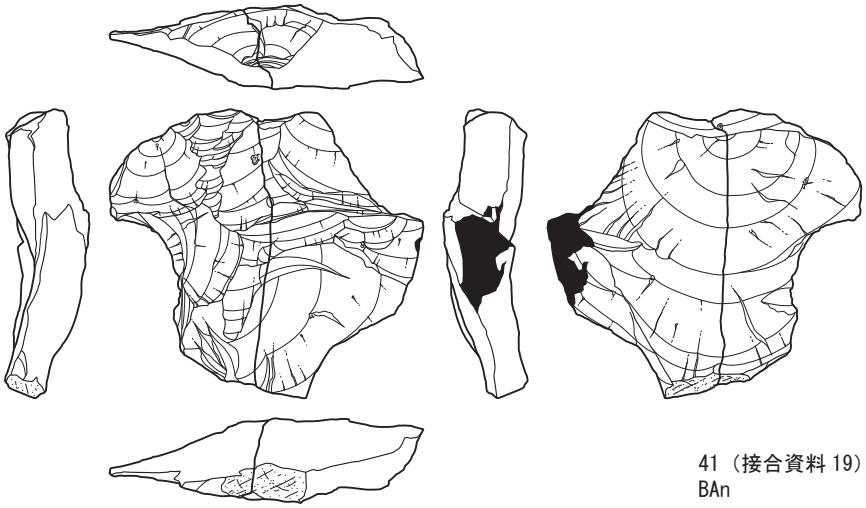
第 75 図　接合資料 18 実測図②

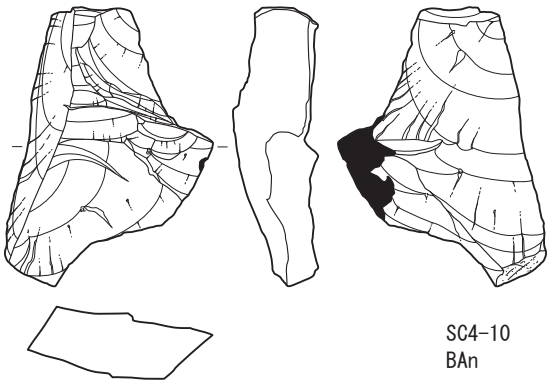


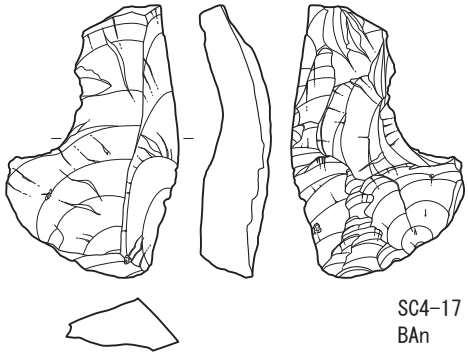
第 76 図　接合資料 18 実測図③



第 77 図　接合資料 19 遺物分布図



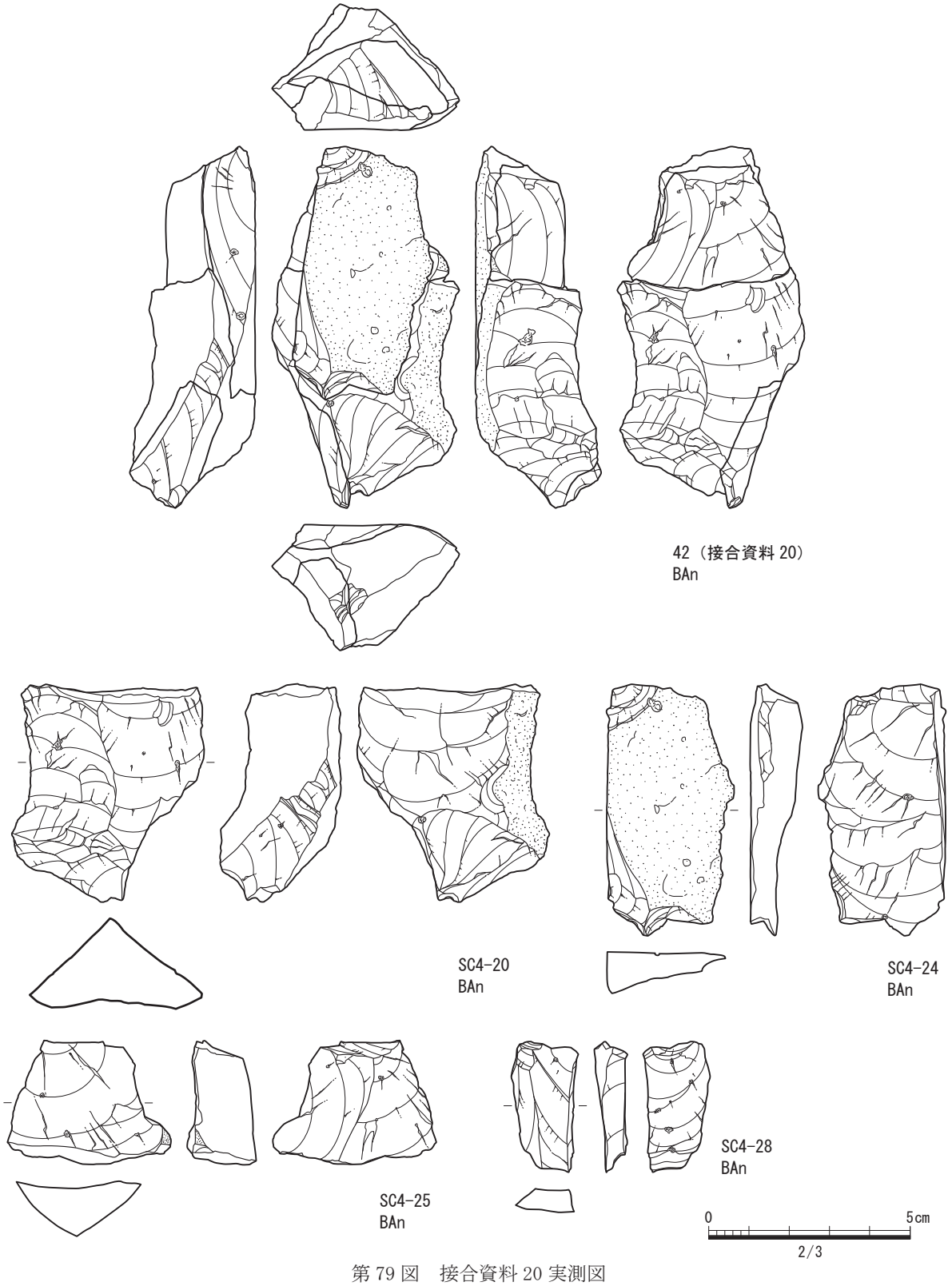




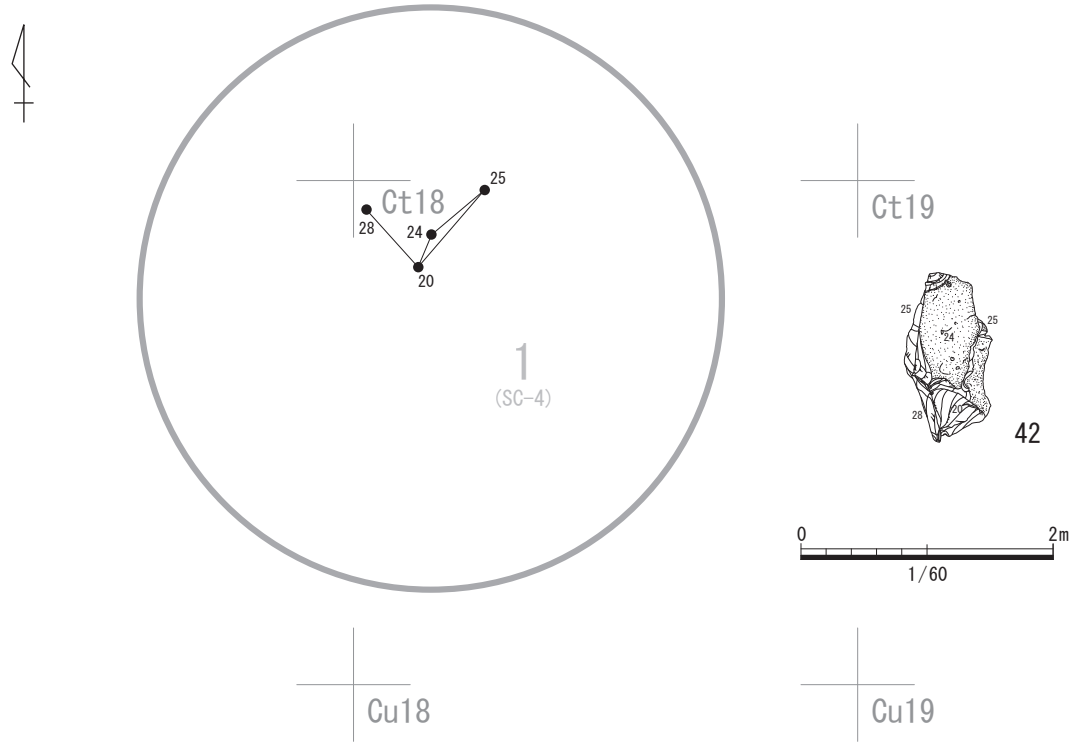
第 78 図　接合資料 19 実測図

接合資料 21（43）（第 13・81・82 図、PL.56）

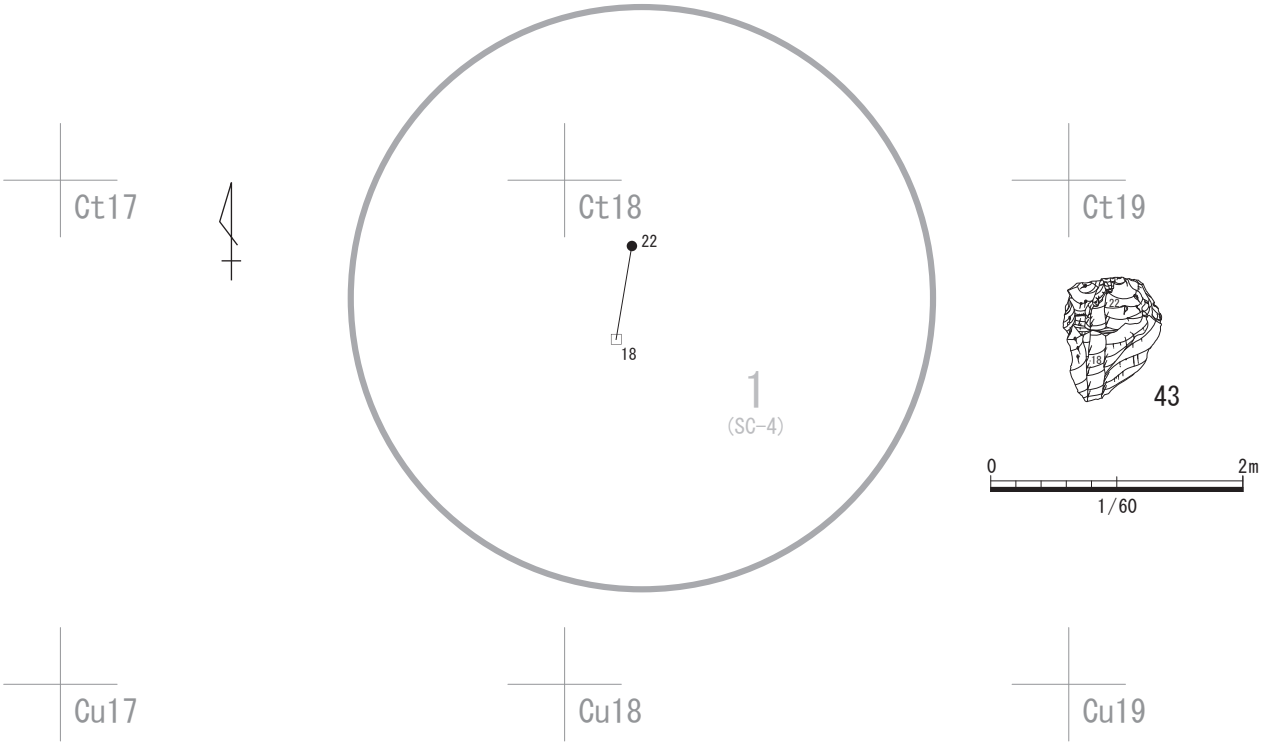
黒色安山岩。1 ブロックの石核 1 点、剥片 1 点が接合した。残存値は長さ 6.58 ㎝、幅 5.20 ㎝、厚さ 2.16 ㎝、重量 65.7g である。接合の最大距離は 75 ㎝である。



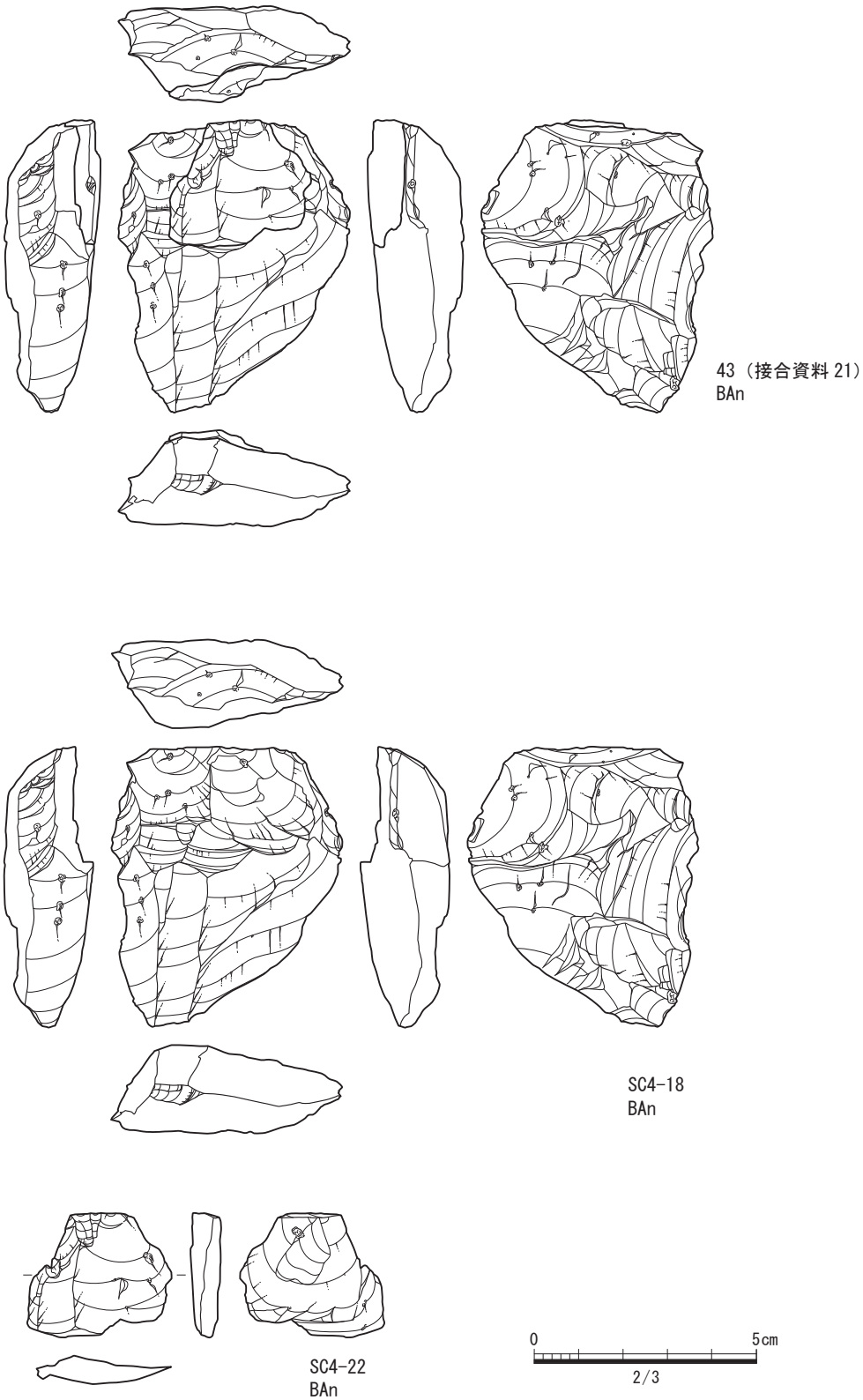
第 79 図　接合資料 20 実測図



第 80 図　接合資料 20 遺物分布図



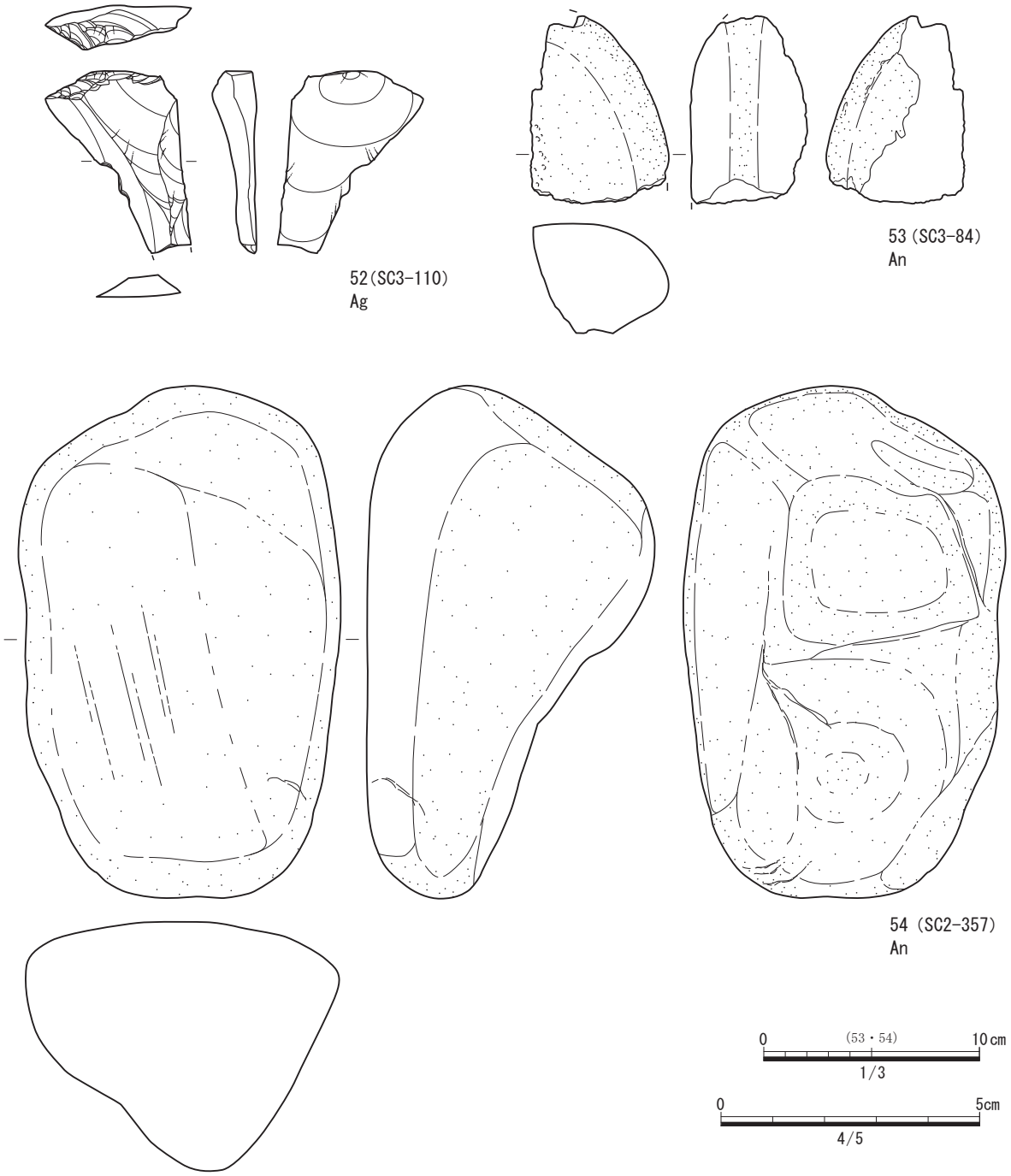
第 81 図　接合資料 21 遺物分布図



第 82 図　接合資料 21 実測図

ブロック外出土石器（第 20・34・83 図、PL. 57）

SC-3・4 にそれぞれブロック外となる石器が 7 点ずつある。SC-2 では 5・6・7 ブロックに囲まれた範囲に出土し、51 の台石（接合資料 6）のほか、安山岩の台石（54）や石核調整剥片が出土した。SC-3 では 9 ブロックの北東側で出土し、瑪瑙の縦長剥片（52）、安山岩の敲石（53）のほか、黒曜石や硬質頁岩の剥片が出土した。



第 83 図　ブロック外出土石器実測図

第10表　第1文化層出土石器計測表①

遺物番号	ブロック	器種	調整	石質	最大長	最大幅	最大厚	重量	X	Y	Z
TR2a － 1	5		土器片						29185.415	-71415.164	111.272
TR2a － 2	5	Flake	剥片	Hmd	26	36	6.3	6.7	29185.843	-71415.168	111.329
TR2a － 3	5		火山スコリア？					0.1	29186.897	-71415.251	111.344
TR2a － 4	5	Chip	調整	Hmd	－	－	－	0.06	29187.098	-71415.340	111.352
TR2a － 5	5	Chip	砕片	Hmd	－	－	－	0.1	29187.114	-71415.198	111.377
TR2a － 6	5	Chip	調整	An	－	－	－	0.15	29187.333	-71415.321	111.358
TR2a － 7	5	Chip	調整	An	－	－	－	0.12	29187.678	-71415.566	111.334
TR2a － 8	5	Chip	砕片	An	－	－	－	0.05	29187.713	-71415.510	111.347
TR2a － 9	5	Chip	砕片	An	－	－	－	0.23	29187.567	-71415.190	111.431
TR2a － 10	5	Chip	砕片	An	－	－	－	0.09	29187.933	-71415.330	111.363
TR2a － 11	5	Chip	調整	An	－	－	－	0.22	29187.855	-71415.200	111.357
TR2a － 12	5	Chip	砕片	An	－	－	－	0.22	29187.797	-71415.042	111.302
TR2a － 13	5		土器片						29187.283	-71414.603	111.422
TR2a － 14	5		土師器片						29187.305	-71414.695	111.381
TR2a － 15	5	Chip	調整	An	－	－	－	0.2	29187.507	-71414.575	111.297
TR2a － 16	5	Chip	調整	An	－	－	－	0.23	29187.454	-71414.150	111.445
TR2a － 17	5	Chip	砕片	An	－	－	－	0.97	29186.505	-71414.508	111.305
TR2a － 18	5	Chip	砕片	An	－	－	－	0.1	29186.203	-71414.694	111.311
TR2a － 19	5	Chip	砕片	An	－	－	－	0.45	29186.231	-71414.428	111.434
TR2a － 20	5	Chip	砕片	An	－	－	－	0.06	29185.807	-71414.474	111.347
TR2a － 21	5	Chip	砕片	An	－	－	－	0.41	29185.687	-71414.554	111.414
TR2a － 22	5	Chip	調整	An	－	－	－	0.04	29185.840	-71414.001	111.411
TR2a － 23	5	Chip	砕片	An	－	－	－	0.06	29185.456	-71413.576	111.265
TR2a － 25	5		土器片						29185.828	-71413.453	111.454
TR2a － 26	5		火山スコリア？					0.17	29185.971	-71413.526	111.294
TR2a － 27	5	Chip	調整	An	－	－	－	0.09	29185.984	-71413.692	111.408
TR2a － 28	5	Chip	砕片	An	－	－	－	0.05	29186.408	-71413.823	111.413
TR2a － 29	5	Chip	砕片	An	－	－	－	0.19	29186.745	-71413.686	111.422
TR2a － 31	5		火山スコリア？	An				0.61	29187.403	-71413.843	111.307
TR2a － 32	5	Chip	調整	An	－	－	－	0.27	29187.093	-71413.503	111.380
TR2a － 33	5	Chip	砕片	An	－	－	－	0.08	29187.049	-71413.320	111.300
TR2a － 34	5	Chip	砕片	An	－	－	－	0.09	29186.930	-71413.007	111.352
TR2a － 35	5	Chip	砕片	An	－	－	－	0.11	29186.582	-71413.229	111.381
TR2a － 36	5	Chip	砕片	An	－	－	－	0.12	29186.470	-71413.381	111.374
TR2a － 37	5	Chip	砕片	An	－	－	－	0.07	29186.408	-71413.248	111.420

第11表　第1文化層出土石器計測表②

遺物番号	ブロック	器種	調整	石質	最大長	最大幅	最大厚	重量	X	Y	Z
TR2a － 38	5	Chip	砕片	An	－	－	－	0.08	29186.229	-71413.351	111.494
TR2a － 39	5	Chip	砕片	An	－	－	－	0.16	29186.472	-71412.878	111.331
TR2a － 40	5	Chip	砕片	An	－	－	－	0.13	29186.272	-71412.921	111.583
TR2a － 41	5	Chip	調整	An	12	19	3.5	0.8	29186.887	-71412.597	111.386
TR2a － 42	5	Chip	調整	An	－	－	－	0.5	29185.890	-71412.492	111.565
TR2a － 43	5	Chip	調整	An	15	12	6.7	1.2	29185.489	-71412.231	111.187
TR2a － 44	5	Chip	砕片	An	－	－	－	0.2	29185.593	-71411.972	111.318
TR2a － 45	5	Chip	調整	Sh	11	20	4	0.8	29185.747	-71412.037	111.416
TR2a － 46	5	Chip	調整	An	－	－	－	0.05	29186.029	-71412.203	111.541
TR2a － 47	5	Chip	砕片	An	－	－	－	0.22	29186.678	-71412.168	111.485
TR2a － 48	4		加工礫	An	96	78	39	456.1	29186.626	-71415.983	111.314
TR2a － 49	5	Chip	調整	An	－	－	－	0.19	29187.606	-71415.202	111.346
TR2a － 50	5	Chip	調整	An	－	－	－	0.24	29187.440	-71414.124	111.391
TR2a － 51	5	Chip	砕片	Sh	－	－	－	0.06	29186.719	-71413.735	111.345
TR2a － 52	5	Chip	砕片	An	－	－	－	0.06	29185.824	-71413.482	111.373
TR2a － 53	5	Chip	調整	Sh	－	－	－	0.04	29185.877	-71413.443	111.369
TR2a － 55	5	Chip	砕片	An	－	－	－	0.1	29185.882	-71412.584	111.452
TR2a － 56	5	Chip	砕片	An	－	－	－	0.03	29185.894	-71412.480	111.392
TR2a － 57	5	Chip	調整	An	－	－	－	0.07	29186.007	-71412.246	111.500
TR2a － 58	5	Chip	砕片	An	－	－	－	0.06	29186.897	-71412.655	111.290
TR2a － 59	5	Chip	砕片	An	－	－	－	0.14	29186.811	-71412.574	111.282
TR2a － 60	5	Chip	砕片	An	－	－	－	0.24	29186.775	-71412.200	111.357
TR2a － 61	5	Chip	砕片	An	－	－	－	0.17	29186.732	-71413.683	111.279
TR2a － 62	5	Chip	調整	An	－	－	－	0.19	29186.002	-71412.299	111.370

第12表　第2文化層出土石器計測表①

地点名	取上No.	ブロック	掲載No.	器種		石質	最大長	最大幅	最大厚	重量	X	Y	Z	母岩分類	接合資料	挿図番号	PL.番号
SC1	1	2		Chip	砕片	HSh	−	−	−	0.3	29188.107	−71432.011	109.681				
SC1	2	2	34	Flake	剥片	BAn	30.9	14.3	6	2.2	29187.977	−71431.862	109.705		接合資料4	第44図	PL.49
SC1	3	2		Chip	砕片	BAn	−	−	−	0.2	29187.986	−71431.702	109.678				
SC1	4	2		Chip	砕片	BAn	−	−	−	0.1	29187.848	−71431.308	109.789				
SC1	5	2		Chip	砕片	Ch	23	9	4.8	1	29188.031	−71431.173	109.730				
SC1	6	2	34	Flake	剥片	BAn	42.2	29.1	12.7	11.9	29188.455	−71431.563	109.660		接合資料4	第44図	PL.49
SC1	7	2		Flake	石核調整	BAn	27	28	8.3	5.6	29189.070	−71431.234	109.713				
SC1	8	2	35	Flake	石核調整	BAn	39.8	13.7	9.1	4.6	29188.742	−71431.112	109.751		接合資料5	第46図	PL.50
SC1	10	2		Flake	石核調整砕片	BAn	15	25	8.6	2.5	29188.709	−71430.698	109.628				
SC1	11	2		Flake	打面調整剥片	BAn	20	14	1.8	0.5	29188.669	−71430.461	109.832				
SC1	12	2		Flake	剥片	Ch	27	25	7.5	7	29187.641	−71430.901	109.782				
SC1	13	2		Flake	打面調整	BAn	30	18	5.5	2.2	29187.993	−71430.363	109.787				
SC1	14	2	32	Flake	剥片	BAn	33.2	27.2	10.2	7.7	29189.194	−71429.710	109.801		接合資料2	第39図	PL.48
SC1	15	2		Flake	打面調整剥片	BAn	24	14	2.7	1.1	29189.067	−71429.263	109.851				
SC1	16	3		Flake	打面調整剥片	BAn	22	21	4.3	1.7	29186.803	−71430.319	109.715				
SC1	17	3		Flake	打面調整剥片	BAn	18	25	3.8	2	29187.023	−71430.268	109.739				
SC1	18	3		Flake	石核調整	BAn	21	33	10.5	6.1	29187.153	−71430.238	109.772				
SC1	19	3		Flake	石核作業面再生剥片	BAn	37	40	14.6	32.3	29186.666	−71429.794	109.791				
SC1	20	3		Chip	打面調整	BAn	15	11	2.8	0.5	29186.939	−71429.784	109.852				
SC1	21	3		Chip	打面調整	BAn	−	−	−	0.1	29187.356	−71429.766	109.846				
SC1	22	3		Flake	打面再生剥片	BAn	30	26	6.8	5.3	29187.910	−71429.731	109.800				
SC1	23	3		Chip	打面調整	BAn	14	14	4.5	0.7	29185.994	−71429.527	109.762				
SC1	24	3		Chip	打面調整	BAn	8	18	6.2	0.7	29186.555	−71429.548	109.761				
SC1	25	3		Chip	作業面調整	BAn	21	9	3.6	0.5	29186.776	−71429.460	109.785				
SC1	26	3	34	Flake	作業面調整	BAn	31.5	21.4	16.2	2.7	29186.622	−71429.374	109.841		接合資料4	第44図	PL.49
SC1	27	3		Chip	打面調整	BAn	−	−	−	0.5	29186.721	−71429.335	109.791				
SC1	28	3		Chip	打面調整	BAn	13	14	3.1	0.5	29186.594	−71429.266	109.805				
SC1	29	3		Chip	打面調整	BAn	10	16	2.7	0.6	29186.715	−71429.236	109.866				
SC1	30	3		Chip	打面調整	BAn	−	−	−	0.3	29186.684	−71429.191	109.884				
SC1	31	3		Flake	剥片	BAn	23	24	5.3	2.8	29187.001	−71429.155	109.856				
SC1	32	3		Flake	打面調整	BAn	10	13	5.4	1.3	29187.291	−71429.200	109.727				
SC1	33	3		Flake	石核調整	BAn	16	15	5.6	1.3	29187.249	−71428.943	109.803				
SC1	34	3		Flake	石核調整	BAn	15	18	3.7	1.1	29187.597	−71429.290	109.792				
SC1	35	3		Flake	作業面調整	BAn	24	13	5.8	1.5	29187.537	−71429.175	109.858				
SC1	36	3		Chip	打面調整	BAn	−	−	−	0.3	29187.503	−71429.085	109.857				
SC1	37	3	34	Flake	打面調整	BAn	19.4	28.3	5.9	3.2	29187.445	−71428.918	109.905		接合資料4	第44図	PL.49
SC1	38	3	35	Flake	石核作業面作成剥片	BAn	62.5	51.9	20.3	59.8	29187.962	−71429.106	109.823		接合資料5	第46図	PL.50
SC1	39	3	35	Flake	石核打面作成剥片	BAn	59.7	49.6	23.3	71	29187.704	−71428.770	109.692		接合資料5	第46図	PL.50
SC1	40	3		Flake	作業面調整	BAn	30	24	7.2	5.5	29187.809	−71428.726	109.712				
SC1	41	3		Flake	作業面調整	BAn	33	16	7.8	4.6	29188.401	−71428.831	109.921				
SC1	42	3	33	Flake	石核調整	BAn	27.1	28.4	15.3	8.6	29187.876	−71428.154	109.983		接合資料3	第42図	PL.49

第13表　第2文化層出土石器計測表②

地点名	取上No.	ブロック	掲載No.	器種		石質	最大長	最大幅	最大厚	重量	X	Y	Z	母岩分類	接合資料	挿図番号	PL.番号
SC1	43	3	32	Flake	作業面調整	BAn	38.6	29.7	12.2	9.4	29187.671	-71428.303	109.706		接合資料2	第39図	PL.48
SC1	44	3		Chip	打面調整	BAn	14	20	4	0.8	29187.577	-71428.512	109.709				
SC1	45	3		Flake	作業面調整	BAn	22	29	3.9	2.2	29187.433	-71428.656	109.952				
SC1	46	3		Flake	作業面調整	BAn	11	23	2.2	0.6	29187.390	-71428.560	109.925				
SC1	47	3		Flake	作業面調整	BAn	15	23	3.7	1.6	29187.163	-71428.645	109.897				
SC1	48	3		Flake	作業面調整	BAn	19	23	4.5	1.5	29187.126	-71428.557	109.943				
SC1	49	3		Chip	打面調整	BAn	14	14	6.7	1.2	29186.900	-71428.889	109.797				
SC1	50	3		Chip	打面調整	BAn	-	-	-	0.2	29186.634	-71428.937	109.909				
SC1	51	3		Chip	打面調整	BAn	-	-	-	0.2	29186.617	-71428.867	109.868				
SC1	52	3		Chip	打面調整	BAn	15	17	4.3	1.3	29186.311	-71428.882	109.834				
SC1	53	3		Flake	剥片	Ob	17	13	5.6	0.7	29185.927	-71429.028	109.854				
SC1	54	3		Flake	打面再生剥片	BAn	52	28	10.5	15.8	29185.595	-71428.718	109.839				
SC1	55	3		Flake	打面調整	BAn	15	17	3.9	0.6	29185.697	-71428.527	109.796				
SC1	56	3		Flake	石核調整	BAn	21	21	8.1	4.2	29185.911	-71428.653	109.871				
SC1	57	3		Flake	石核調整	BAn	28	44	12.5	9.9	29186.272	-71428.437	109.934				
SC1	58	3	4	Flake	石核調整	BAn	62.2	38.2	18.7	34.9	29186.486	-71428.475	109.871			第19図	PL.45
SC1	59	3		Chip	打面調整	BAn	-	-	-	0.4	29186.583	-71428.412	109.910				
SC1	60	3		Chip	石核調整	BAn	10	16	7	0.8	29186.683	-71428.503	109.931				
SC1	61	3		Chip	打面調整	BAn	9	12	3.2	0.5	29186.755	-71428.430	109.915				
SC1	62	3		Chip	打面調整	BAn	-	-	-	0.3	29186.708	-71428.374	109.886				
SC1	63	3		Chip	打面調整	BAn	-	-	-	0.3	29186.581	-71428.166	109.933				
SC1	64	3		Flake	石核調整	BAn	29	28	12	7.8	29186.656	-71428.101	109.892				
SC1	65	3		Chip	打面調整	BAn	-	-	-	0.1	29186.670	-71428.167	109.902				
SC1	66	3		Flake	打面調整	BAn	13	25	3.4	1.2	29186.738	-71428.135	109.894				
SC1	67	3		Flake	作業面調整	BAn	14	15	3.4	0.7	29186.777	-71428.069	109.797				
SC1	68	3		Flake	作業面調整	BAn	26	12	3.7	0.7	29186.103	-71427.817	109.854				
SC1	69	3		Chip	打面調整	BAn	-	-	-	0.07	29186.151	-71427.759	109.849				
SC1	70	3		Chip	作業面調整	BAn	17	14	7	1.9	29186.000	-71427.483	109.807				
SC1	71	3		Flake	作業面調整剥片	BAn	25	25	13.9	6.3	29185.953	-71427.208	109.941				
SC1	72	3		Chip	打面調整	BAn	-	-	-	0.3	29186.331	-71427.028	109.787				
SC1	73	3		Flake	打面調整	BAn	18	18	5.7	1.7	29186.284	-71427.134	109.793				
SC1	74	3	33	Flake	作業面調整	BAn	24.6	35.2	13.6	11.8	29186.397	-71427.747	109.912		接合資料3	第42図	PL.49
SC1	75	3		Chip	打面調整	BAn	-	-	-	0.2	29186.430	-71427.820	109.892				
SC1	76	3		Chip	打面調整	BAn	15	10	6.1	0.6	29186.546	-71427.855	109.899				
SC1	77	3		Chip		BAn	-	-	-	0.3	29186.576	-71427.729	109.864				
SC1	78	3		Chip	石核調整	BAn	15	17	6.9	1.5	29186.702	-71427.595	109.864				
SC1	79	3		Chip		BAn	-	-	-	0.06	29186.730	-71427.689	109.890				
SC1	80	3		Chip	打面調整	BAn	15	18	5	1	29186.791	-71427.773	109.844				
SC1	81	3		Flake	石核調整	HSh	23	27	13.8	5	29186.865	-71427.848	109.737				
SC1	82	3	31	Flake	石核作業面再生剥片	BAn	56	32.2	37.5	47.8	29186.859	-71427.679	109.943		接合資料1	第37図	PL.48
SC1	83a	3		Flake	打面調整	BAn	20	18	9.2	1.9	29186.941	-71427.687	109.902				

第14表　第2文化層出土石器計測表③

地点名	取上No.	ブロック	掲載No.	器種		石質	最大長	最大幅	最大厚	重量	X	Y	Z	母岩分類	接合資料	挿図番号	PL.番号
SC1	83b	3		Chip	打面調整	BAn	9	15	4.8	0.5	29186.941	-71427.687	109.902				
SC1	84	3	35	Flake	石核調整	BAn	11.5	23.1	5.6	1.7	29187.011	-71427.525	109.867		接合資料5	第46図	PL.50
SC1	85	3		Chip	打面調整	BAn	-	-	-	0.15	29187.121	-71427.920	109.894				
SC1	86	3		Chip	打面調整	BAn	-	-	-	0.2	29187.171	-71428.060	109.978				
SC1	87	3	33	Flake	剥片	BAn	29.7	34.3	8.6	8.1	29187.151	-71428.285	109.903		接合資料3	第42図	PL.49
SC1	88	3		Chip	打面調整	BAn	15	18	7.1	1.9	29187.331	-71428.164	109.801				
SC1	89	3		Chip	石核調整	BAn	18	16	5.4	1.1	29187.384	-71428.341	109.872				
SC1	90	3		Flake	剥片	BAn	25	34	11.7	10.9	29187.164	-71427.677	109.886				
SC1	91	3		Flake	石核調整	BAn	24	31	6.7	4.3	29187.187	-71427.727	109.883				
SC1	92	3	35	Flake	作業面調整	BAn	24	33	10.9	5.6	29187.245	-71427.666	109.887		接合資料5	第46図	PL.50
SC1	93	3	31	Flake	剥片	BAn	14.8	19.4	2.7	0.9	29187.352	-71427.590	109.880		接合資料1	第37図	PL.48
SC1	94	3		Chip	打面調整	BAn	-	-	-	0.4	29187.668	-71427.367	109.871				
SC1	96	3	5	Flake	石核調整	HSh	34	42.5	16.2	26	29187.885	-71426.910	109.990			第19図	PL.45
SC1	97	3		Chip	調整	Ch	-	-	-	0.4	29188.129	-71427.084	109.966				
SC1	98	3		Chip	調整	Ch	-	-	-	0.4	29188.345	-71426.653	109.932				
SC1	99	3		Chip	打面調整	BAn	-	-	-	0.2	29186.702	-71427.595	109.766				
SC1	100	3		Chip	打面調整	BAn	-	-	-	0.09	29186.826	-71427.709	109.828				
SC1	101	3	34	Flake	作業面調整	BAn	27.1	33.9	11.4	7.3	29186.743	-71428.343	109.774		接合資料4	第44図	PL.49
SC1	102	3		Chip	打面調整	BAn	-	-	-	0.08	29185.803	-71429.543	109.814				
SC1	103	3		Flake	石核調整	BAn	17	17	3.2	1.1	29185.815	-71429.924	109.798				
SC2	1	4		Flake	石核調整（ガジリ）	An	39	30	12.2	13.6	29186.657	-71419.807	110.206	An6・7			
SC2	2	4		Knife	ナイフ形石器（先端欠）	Ob	25	11	4.1	1	29185.926	-71419.697	110.295	Ob1			
SC2	3	4		Chip	破砕レキ	Ag	18	18	8	1.8	29184.921	-71419.621	110.235				
SC2	4	4		Flake	石核調整	Ob	14	24	9.5	2.5	29184.601	-71419.769	110.022	Ob2			
SC2	5	4		Flake	石核調整	Ob	12	17	6.2	1	29185.193	-71418.936	110.226	Ob1			
SC2	6	4	6	Flake	作業面調整	BSh	56.6	51.3	15.7	33.7	29184.004	-71418.957	110.064	BSh1		第22図	PL.45
SC2	7	4		Chip	砕片	Ob	-	-	-	6	29184.497	-71418.519	110.195	Ob1			
SC2	8	4		Chip	調整？	Wch	19	11	5.3	1	29185.638	-71418.532	110.092				
SC2	9	4		Chip	調整	Ob	-	-	-	0.3	29185.847	-71418.391	110.071	Ob1			
SC2	10	4		Chip	調整（ガジリ）	Ob	16	15	3.3	0.8	29186.038	-71418.231	110.188	Ob3			
SC2	11	4		Flake	調整	Ob	19	22	4.6	1.7	29186.389	-71418.003	110.188	Ob2			
SC2	12	4		Chip	調整	Ob	-	-	-	0.3	29186.737	-71417.789	110.267	Ob1			
SC2	13	4		Flake	剥片（折れ）	Ob	16	21	5.8	1.9	29187.382	-71417.926	110.245	Ob2			
SC2	14	4		Chip	砕片	Ob	-	-	-	0.4	29187.567	-71418.285	110.122	Ob1			
SC2	15	4		Chip	砕片	Ag	14	17	7.7	1.9	29187.458	-71418.523	110.084				
SC2	16	4		Flake	調整（ガジリ）	Ob	21	14	3.9	1	29188.158	-71417.848	110.159	Ob1			
SC2	17	4		Flake	石核作業面調整	Ob	15	21	9.8	2.6	29185.326	-71418.039	110.139	Ob2			
SC2	18	4		Chip	調整	Ob	-	-	-	0.3	29185.397	-71417.717	110.179	Ob1			
SC2	19	4		Chip	調整	Ob	12	16	3.2	0.6	29185.523	-71417.798	110.204	Ob1			
SC2	20	4		Chip	調整	Ob	-	-	-	0.13	29185.596	-71417.745	110.090	Ob4			
SC2	21	4		Chip	調整	Ob	18	12	5.4	0.9	29185.667	-71417.889	110.092	Ob1			

第15表　第2文化層出土石器計測表④

地点名	取上No.	ブロック	掲載No.	器種		石質	最大長	最大幅	最大厚	重量	X	Y	Z	母岩分類	接合資料	挿図番号	PL.番号
SC2	－ 22	4		Chip	調整	Ob	－	－	－	0.5	29185.816	−71417.355	110.120	Ob1			
SC2	－ 23	4		Flake	調整	Ob	17	13	3.4	0.8	29185.784	−71417.281	110.131	Ob1			
SC2	－ 24	4		Chip	調整	Ob	18	14	3.3	0.5	29185.966	−71417.108	110.088	Ob1			
SC2	－ 25	4		Flake	石核調整	BSh	35	41	11.2	19	29184.810	−71417.476	110.111	BSh3			
SC2	－ 26	4		Flake	調整	Ob	17	11	5.4	1.1	29184.467	−71417.284	110.105	Ob1			
SC2	－ 27	4		Flake	調整（ガジリ）	Ob	20	13	4.2	1.1	29184.400	−71417.086	110.081	Ob1			
SC2	－ 28	4		Flake	剥片	Ob	18	13	3.3	0.7	29184.513	−71416.867	110.206	Ob3			
SC2	－ 29	4		Flake	調整	Ob	14	14	3.2	0.8	29184.440	−71416.777	110.182	Ob1			
SC2	－ 30	4		Chip	剥片	Ob	16	15	3	0.4	29184.299	−71416.663	110.176	Ob3			
SC2	－ 31	4		Chip	調整	Ob	16	12	3.5	0.5	29184.995	−71416.467	110.255	Ob1			
SC2	－ 32	4		Chip	砕片	Ob	－	－	－	0.13	29185.057	−71416.409	110.254	Ob4			
SC2	－ 33	4		Chip	調整（使用痕）	Ob	－	－	－	0.35	29185.250	−71416.660	110.048	Ob1			
SC2	－ 34	4		Flake	石核調整	Ob	34	24	7.5	4.9	29185.314	−71416.603	110.023	Ob2			
SC2	－ 35	4		Flake	剥片	An	37	25	8	5.8	29185.261	−71416.154	110.122	An6・7			
SC2	－ 36	4		Flake	剥片	Ob	18	16	4.2	1.2	29185.512	−71416.099	110.114	Ob1			
SC2	－ 37	4		Chip	砕片	Ob	－	－	－	0.2	29186.387	−71415.896	110.262	Ob1			
SC2	－ 38	5		Flake	剥片	An	30	24	5.2	3.9	29186.891	−71415.503	110.222	An6・7			
SC2	－ 39	5		Flake	剥片	Ag	30	19	4.2	3.5	29187.221	−71415.032	110.218				
SC2	－ 40	6		Flake	剥片	Ob	19	13	3.1	0.9	29182.389	−71415.475	110.165	Ob1			
SC2	－ 41	5		Flake	石核作業面調整	An	48	51	14.4	37.1	29185.710	−71415.633	110.074	An6・7			
SC2	－ 42	5		Flake	剥片	Sh	49	46	12.8	31.2	29185.353	−71415.492	110.141	Sh1			
SC2	－ 43	5		Chip	砕片	Ob	－	－	－	0.2	29185.071	−71415.197	110.233	Ob4			
SC2	－ 44	5		Flake	石核調整	Ob	20	19	6.7	2.4	29185.049	−71414.993	110.156	Ob2			
SC2	－ 45	5		Flake	剥片	An	19	24	3.8	1.5	29185.257	−71414.709	110.220	An6・7			
SC2	－ 46	5		R.Flake?	ナイフ形石器（基部）？	Ob	23	20	8.3	3	29185.876	−71414.988	110.172	Ob1			
SC2	－ 47	6		Flake？	破砕レキ	Ch	－	－	－	3.5	29184.020	−71414.395	110.133	Ch1			
SC2	－ 48	6		Flake	打面調整	BSh	38	36	6.2	5.5	29182.988	−71414.748	110.129	BSh3			
SC2	－ 49	6		Flake	石核作業面調整	Ob	20	30	10.3	5.2	29182.565	−71415.204	110.122	Ob2			
SC2	－ 51	5	8	U.Flake	使用痕のある剥片	Ob	49.6	26.8	12.5	10.8	29186.165	−71414.901	110.069	Ob2		第19図	PL.45
SC2	－ 52	5		Flake	石核調整	An	22	26	10.2	5	29186.080	−71414.744	109.976	An6・7			
SC2	－ 53	5		Chip	調整	Ob	11	14	3.3	0.4	29186.220	−71414.372	110.165	Ob1			
SC2	－ 54a	5		Chip	打面調整	Ob	－	－	－	0.5	29186.203	−71414.252	110.135	Ob1			
SC2	－ 54b	5		Chip	打面調整砕片	Ob	－	－	－	0.2	29186.203	−71414.252	110.135	Ob1			
SC2	－ 55	5		Chip	調整	Ob	－	－	－	0.4	29186.066	−71413.925	110.223	Ob1			
SC2	－ 56	5		Flake	調整	Ob	16	17	4	1.1	29185.783	−71413.533	110.107	Ob2			
SC2	－ 57	6		Chip	調整	Ob	－	－	－	0.4	29181.894	−71414.903	110.098	Ob1			
SC2	－ 58	6	47	Flake	石核調整	Ob	32.4	19.6	8.4	4.1	29181.825	−71414.220	110.249	Ob2	接合資料7	第50図	PL.58
SC2	－ 59	6	48	U.Flake	使用痕のある剥片	Ob	36.9	22.6	11.7	7.2	29183.104	−71413.963	110.241	Ob2	接合資料8	第52図	PL.58
SC2	－ 60	6		Flake	剥片	Ob	19	21	5.1	1.3	29184.094	−71412.944	110.181	Ob3			
SC2	－ 61	6		Flake	剥片	Ob	29	26	7	3.9	29183.049	−71413.231	110.339	Ob2			
SC2	－ 62	6		Chip	調整	Ob	－	－	－	0.3	29183.185	−71413.211	110.168	Ob1			

第16表　第2文化層出土石器計測表⑤

地点名	取上No.	ブロック	掲載No.	器種		石質	最大長	最大幅	最大厚	重量	X	Y	Z	母岩分類	接合資料	挿図番号	PL.番号
SC2	－ 63	6		Chip	石核調整砕片	Ob	13	16	8.2	1.3	29182.993	−71412.985	110.172	Ob1			
SC2	－ 64	6		Chip	調整	Ob	−	−	−	0.4	29183.028	−71412.764	110.207	Ob1			
SC2	－ 65	6		Chip	調整	Ob	20	17	4	0.5	29182.857	−71412.596	110.250	Ob2			
SC2	－ 66	6		Flake	剥片	Ob	25	22	3.4	1.4	29182.828	−71412.422	110.185	Ob2			
SC2	－ 67	6		Flake	剥片	Ob	22	14	4.9	1.5	29183.200	−71412.088	110.063	Ob1			
SC2	－ 68	6		Flake	石核調整	An	58	60	22	69.6	29182.739	−71412.139	110.067	An6・7			
SC2	－ 69	6		Chip	調整	Ob	−	−	−	0.4	29182.727	−71413.076	110.201	Ob1			
SC2	－ 70	6		Chip	調整（ガジリ）	Ob	−	−	−	0.6	29182.556	−71412.946	110.266	Ob1			
SC2	－ 71	6		Chip	砕片	Ob	−	−	−	0.5	29182.580	−71412.763	110.291	Ob1			
SC2	－ 72	6	47	Flake	調整	Ob	14.2	18.8	5.2	1.3	29181.908	−71413.815	110.364	Ob2	接合資料7	第50図	PL.58
SC2	－ 73	6		Chip	調整	Ob	−	−	−	0.1	29181.653	−71413.717	110.256	Ob3			
SC2	－ 74	6		Chip	調整	Ob	−	−	−	0.36	29181.552	−71413.460	110.343	Ob4			
SC2	－ 75	6		Chip	調整	Ob	−	−	−	0.15	29181.342	−71414.008	110.364	Ob4			
SC2	－ 76	6	9	Knife	ナイフ形石器（2側縁、小）	Ob	25.8	9.9	3.6	0.9	29180.297	−71413.062	110.110	Ob1		第25図	PL.46
SC2	－ 77	6		Flake	石核調整	Ob	22	29	8.3	4.4	29181.245	−71412.969	110.070	Ob2			
SC2	－ 78	6		Chip	調整	Ob	−	−	−	0.4	29181.800	−71412.965	110.123	Ob1			
SC2	－ 79	6		Chip	調整	Ob	−	−	−	0.8	29182.106	−71412.738	110.165	Ob1			
SC2	－ 80	6		Chip	砕片	Ob	−	−	−	0.05	29181.401	−71412.416	110.295	Ob4			
SC2	－ 81	6		Chip	砕片	Ob	−	−	−	0.03	29181.338	−71412.318	110.192	Ob4			
SC2	－ 82	6		Chip	調整	Ob	−	−	−	0.65	29181.684	−71412.414	110.301	Ob1			
SC2	－ 84	6		Chip	剥片	Ob	−	−	−	0.23	29182.361	−71411.769	110.091	Ob1			
SC2	－ 85	6		Chip	調整	Ob	−	−	−	0.06	29182.385	−71411.692	110.195	Ob4			
SC2	－ 86	6		Chip	調整	Ob	−	−	−	0.31	29182.405	−71411.627	110.196	Ob1			
SC2	－ 87	6		Chip	砕片	Ob	13	13	6.1	0.9	29182.177	−71411.135	110.219	Ob1			
SC2	－ 88	6		Flake	石核調整	BSh	45	32	8	14.4	29181.612	−71411.182	110.247	BSh3			
SC2	－ 89	6		Flake	剥片	An	50	30	10.5	9.6	29180.720	−71411.972	110.104	An6・7			
SC2	－ 90	6		Chip	砕片	Ob	16	16	10	2.2	29180.863	−71411.433	110.138	Ob2			
SC2	－ 91	6	10	Flake	剥片（大形）	BSh	94.2	82.8	29.5	176.5	29180.605	−71411.426	110.089	BSh4		第25図	PL.46
SC2	－ 93	6		Flake	剥片	BSh	35	13	8	2.5	29180.089	−71411.628	110.218	BSh3			
SC2	－ 94	6	37	Flake	作業面調整	BAn	37	35.2	12.1	7.6	29180.256	−71411.265	110.312	BAn1	接合資料11	第58図	PL.51
SC2	－ 95			Flake	石核調整	Ob	30	36	9.4	8.3	29183.963	−71411.163	110.232	Ob1			
SC2	－ 97			Flake	石核調整	Ob	26	25	9.4	5	29184.100	−71410.593	110.107	Ob1		接合292	
SC2	－ 98			Flake	石核調整	Ob	15	16	8.1	1.4	29184.054	−71410.510	110.151	Ob1			
SC2	－ 103	7		Flake	破砕礫	SS	16	21	2.9	0.5	29181.009	−71410.700	110.176				
SC2	－ 104	7	48	R.Flake?	ナイフ基部?	Ob	22.1	24	7.4	2.7	29180.991	−71410.556	110.274	Ob2	接合資料8	第52図	PL.58
SC2	－ 105	7		Flake	たたき石（部分?）	SS	41	45	20	30.1	29180.960	−71410.181	110.136				
SC2	－ 107	7	40	Flake	石核調整	BAn	31	20	9.2	4	29181.080	−71409.806	110.243	BAn1	接合資料17	第71図	PL.53・54
SC2	－ 108	7		Flake	剥片	Ag	30	28	8.7	5.5	29181.165	−71409.530	110.301				
SC2	－ 109	7		Flake	石核調整	An	16	29	13.6	5.4	29178.863	−71410.829	110.190	An6・7			
SC2	－ 110	7		Flake	石核作業面調整	BSh	51	40	26.3	27.1	29179.271	−71410.450	110.276	BSh3			
SC2	－ 111	7		Chip	調整	BAn	−	−	−	0.04	29179.534	−71409.878	110.361				

第17表　第2文化層出土石器計測表⑥

地点名	取上No.	ブロック	掲載No.	器種		石質	最大長	最大幅	最大厚	重量	X	Y	Z	母岩分類	接合資料	挿図番号	PL.番号
SC2	－ 112	7		Flake	剥片	An	53	35	4.9	4.5	29178.894	−71410.197	110.287	An6・7			
SC2	－ 113	7		Chip	調整	BAn	13	15	3.2	0.7	29178.815	−71410.004	110.318	BAn2			
SC2	－ 115	7		Flake	剥片	An	19	26	4	1.9	29178.733	−71409.797	110.227	An2			
SC2	－ 116	7		Flake	石核調整	BSh	48	57	15	30.8	29179.142	−71409.914	110.229	BSh4			
SC2	－ 117	7		Flake	剥片	An	19	17	2.9	0.8	29179.105	−71409.803	110.238	An6・7			
SC2	－ 118a	7		Chip	調整	Ob	−	−	−	0.13	29179.248	−71409.760	110.308	Ob4			
SC2	－ 118b	7		Chip	調整	Ob	−	−	−	0.18	29179.248	−71409.760	110.308	Ob4			
SC2	－ 119	7		Chip	調整	Ob	−	−	−	0.07	29179.332	−71409.673	110.246	Ob4			
SC2	－ 120	7		Chip	調整	Ob	−	−	−	0.12	29179.411	−71409.631	110.216	Ob1			
SC2	－ 121	7		Flake	石核調整	An	55	27	17.5	26.8	29179.352	−71409.509	110.342	An1			
SC2	－ 122	7	46	Flake	石核調整	BSh	43.8	67.5	29.8	60.7	29179.475	−71409.473	110.262	BSh3	接合資料16	第69図	PL.57
SC2	－ 123	7		Flake	石核調整	BSh	19	23	6.4	3.1	29178.987	−71409.587	110.150	BSh3			
SC2	－ 124	7		Chip	砕片	Ob	−	−	−	0.05	29179.153	−71409.584	110.006	Ob4			
SC2	－ 125	7		Chip	砕片	Ob	−	−	−	0.04	29179.196	−71409.408	110.201	Ob4			
SC2	－ 126	7		Flake	作業面調整	BAn	26	25	7.8	3.7	29178.839	−71409.489	110.360	BAn2			
SC2	－ 127	7	38	Flake	剥片	BAn	31.2	13.5	5.2	1.9	29178.990	−71409.359	110.247	BAn1	接合資料12	第60図	PL.49
SC2	－ 128	7		Flake	打面調整	BSh	36	30	13.1	9.2	29179.163	−71409.096	110.361	BSh3			
SC2	－ 129	7		Chip	調整	Ob	−	−	−	0	29178.964	−71409.207	110.178	Ob4			
SC2	－ 130	7		Chip	調整	Ob	14	11	6	0.6	29178.905	−71409.092	110.110	Ob1			
SC2	－ 131	7		Flake	剥片	BSh	37	45	9.5	15.8	29178.750	−71409.205	110.422	BSh3			
SC2	－ 132	7		Chip	調整	BAn	7	21	6.9	1.1	29178.670	−71409.041	110.341	BAn2			
SC2	－ 133	7	38	Flake	剥片	BAn	48	26.7	7.6	8.8	29178.822	−71408.803	110.322	BAn1	接合資料12	第60図	PL.49
SC2	－ 134	7		Chip	砕片	BSh	−	−	−	0.5	29178.652	−71408.865	110.264	BSh5			
SC2	－ 135	7		Chip	調整	Ob	18	11	2.3	0.5	29178.639	−71409.269	110.334	Ob1			
SC2	－ 136	7		Chip	調整	BAn	16	12	2.2	0.5	29178.403	−71409.275	110.259	BAn2			
SC2	－ 137	7		Chip	調整	Ob	−	−	−	0.15	29178.540	−71409.152	110.280	Ob1			
SC2	－ 138	7		Chip	調整	Ob	−	−	−	0.04	29178.477	−71409.027	110.323	Ob4			
SC2	－ 139	7		Chip	調整	BAn	11	16	4.9	0.9	29178.439	−71408.897	110.274	BAn2			
SC2	－ 140	7		Chip	調整	BAn	−	−	−	0.4	29178.298	−71408.973	110.274	BAn2			
SC2	－ 141	7		Chip	調整	BAn	−	−	−	0.03	29178.270	−71408.836	110.267	BAn2			
SC2	－ 142	7		Chip	調整	Ob	−	−	−	0.6	29178.172	−71408.713	110.247	Ob1			
SC2	－ 143	7		Chip	調整	BSh	21	23	5.7	2	29178.179	−71408.605	110.173	BSh1			
SC2	－ 144	7		Chip	調整	BAn	12	22	4.7	0.8	29178.138	−71408.489	110.103	BAn2			
SC2	－ 145	7		Chip	調整	BAn	−	−	−	0.08	29178.402	−71408.668	110.040	BAn2			
SC2	－ 146	7		Chip	調整	BAn	7	31	4.3	0.83	29178.352	−71408.568	110.064	BAn2			
SC2	－ 147	7		Flake	剥片	BSh	29	40	7.2	6.6	29180.650	−71409.778	110.212	BSh3			
SC2	－ 148	7		Flake	石核調整	BSh	23	17	12.5	3.8	29180.536	−71409.605	110.284	BSh5			
SC2	－ 149	7		Flake	石核調整	BSh	37	40	16.6	18.1	29180.175	−71409.567	110.157	BSh3			
SC2	－ 150	7	15	Flake	作業面調整	BSh	39.4	47.8	14.8	27	29180.266	−71409.464	110.280	BSh3		第28図	PL.46
SC2	－ 151	7		Flake	石核調整	BSh	31	30	9.3	7.3	29180.359	−71409.244	110.211	BSh3			
SC2	－ 152	7		Flake	石核調整	BSh	21	20	7.3	2.5	29180.279	−71409.213	110.231	BSh3			

第18表　第2文化層出土石器計測表⑦

地点名	取上No.	ブロック	掲載No.	器種		石質	最大長	最大幅	最大厚	重量	X	Y	Z	母岩分類	接合資料	挿図番号	PL.番号
SC2	153	7		Flake	石核調整	BSh	27	39	20	21.2	29180.333	-71408.916	110.228	BSh3			
SC2	154	7		Chip	調整	Sc	12	13	4.5	0.9	29180.097	-71408.971	110.208				
SC2	155	7		Flake	石核調整	BSh	30	16	6.4	2.2	29179.830	-71408.868	110.241	BSh5			
SC2	156	7		Flake	石核調整	BSh	18	18	7.5	2.5	29179.669	-71408.661	110.246	BSh3			
SC2	157	7		Flake	石核調整	BSh	46	36	10.9	12.9	29179.779	-71408.633	110.315	BSh3			
SC2	158a	7		Flake	剥片	An	20	26	4.9	2.4	29179.808	-71408.742	110.271	An6・7			
SC2	158b	7		Chip	調整	An	-	-	-	0.2	29179.808	-71408.742	110.271	An6・7			
SC2	159	7		Flake	剥片	BSh	27	10	6	1.8	29179.951	-71408.678	110.298	BSh5			
SC2	160	7		Flake	石核調整	BSh	42	48	24.3	32.5	29179.887	-71408.566	110.318	BSh3			
SC2	161	7	40	Flake	剥片	BAn	26.2	32.6	5.4	4.3	29179.866	-71408.480	110.311	BAn1	接合資料17	第71図	PL.53・54
SC2	162	7		Flake	剥片	An	30	37	13.1	13.2	29179.853	-71408.330	110.199	An6・7			
SC2	163	7		Flake	石核調整	BSh	37	22	10.1	6.7	29179.686	-71408.291	110.190	BSh3			
SC2	164	7		Chip	調整	Ob	-	-	-	0.1	29180.089	-71408.734	110.258	Ob4			
SC2	165	7	16	Flake	剥片	BSh	47.5	52.9	14.5	26.9	29180.058	-71408.604	110.250	BSh3		第28図	PL.46
SC2	167	7	39	Flake	剥片	BAn	30.8	34.2	11.5	11.4	29180.040	-71408.221	110.249	BAn1	接合資料13	第63図	PL.52
SC2	168	7		Flake	調整	BSh	35	29	4.6	3.5	29180.292	-71408.654	110.171	BSh3			
SC2	169	7	40	Flake	調整	BAn	25.5	17.5	12.5	4.2	29180.817	-71409.086	110.051	BAn1	接合資料17	第71図	PL.53・54
SC2	170	7		Chip	調整	Ob	-	-	-	0.2	29181.132	-71409.307	110.346	Ob1			
SC2	171	7		Chip	調整	BAn	-	-	-	0.4	29181.307	-71409.250	110.283	BAn2			
SC2	172	7		Chip	調整	BAn	-	-	-	0.6	29181.176	-71409.096	110.111	BAn2			
SC2	173	7		Flake	調整	An	30	12	4.1	1.2	29181.313	-71409.079	110.233	An6・7			
SC2	174	7		Flake	作業面調整	An	36	24	10.5	8.6	29181.352	-71408.895	110.199	An6・7			
SC2	175	7		Flake	剥片	An	26	15	5.3	1.6	29181.294	-71408.710	110.080	An6・7			
SC2	176	7		Chip	砕片	BAn	-	-	-	0.3	29181.387	-71408.602	110.098	BAn2			
SC2	177	7	39	Core	石核	BAn	31	49	32.5	40.3	29181.508	-71408.593	110.090	BAn1	接合資料13	第63図	PL.52
SC2	178	7		Chip	調整	BAn	-	-	-	0.2	29181.651	-71408.588	110.078	BAn2			
SC2	179	7		Flake	剥片	An	30	16	6.2	2	29181.742	-71408.888	110.135	An6・7			
SC2	180	7		Flake	石核作業面調整	An	28	26	15.5	7.5	29182.062	-71408.437	110.251	An6・7			
SC2	181	7		Chip	調整	BSh	-	-	-	0.3	29181.905	-71408.347	110.165	BSh5			
SC2	182	7		Flake	剥片	BSh	25	16	7.2	2.5	29181.825	-71408.369	110.207	BSh3			
SC2	183	7		Flake	剥片	BSh	25	43	13.8	6.3	29181.764	-71408.360	110.216	BSh3			
SC2	184	7		Chip	調整	BAn	17	7	6.7	0.7	29181.761	-71408.228	110.128	BAn2			
SC2	185	7		Flake	石核調整	An	37	21	22.6	11.7	29182.609	-71408.214	110.090	An6・7			
SC2	186	7		Chip	調整	BAn	10	12	3.9	0.6	29182.641	-71407.566	110.127	BAn2			
SC2	187	7	40	Flake	石核調整	BAn	33.4	20.1	13.2	5.4	29182.404	-71407.819	110.068	BAn1	接合資料17	第71図	PL.53・54
SC2	188	7		Flake	石核作業面調整	An	42	26	18	14.9	29182.294	-71407.852	110.204	An6・7			
SC2	189	7	17	Flake	石核作業面調整	BSh	44.7	39	18.3	32.1	29182.017	-71407.908	110.149	BSh3		第28図	PL.46
SC2	190	7		Flake	調整	An	19	20	7.1	2.6	29181.954	-71407.699	110.245	An6・7			
SC2	191	7		Flake	作業面調整	An	21	26	10.3	5.5	29182.111	-71407.441	110.176	An6・7			
SC2	192	7		Flake	調整	An	25	13	7.8	2.5	29181.657	-71408.037	110.299	An6・7			
SC2	193	7		Flake	石核調整	An	42	37	12.4	14.3	29181.443	-71408.141	110.242	An4			

第19表　第2文化層出土石器計測表⑧

地点名	取上No.	ブロック	掲載No.	器種		石質	最大長	最大幅	最大厚	重量	X	Y	Z	母岩分類	接合資料	挿図番号	PL.番号
SC2	194	7		Flake	縦長剥片	Ob	33	19	7.5	3.4	29181.630	-71407.809	110.247	Ob1			
SC2	195	7		Flake	石核調整	BSh	38	25	12.2	12.2	29181.447	-71407.669	110.189	BSh3			
SC2	196	7		Flake	作業面調整	An	20	27	7.5	3.9	29181.642	-71407.322	110.109	An6・7			
SC2	197	7		Flake	調整	An	14	22	6.5	1.3	29181.677	-71407.502	110.067	An6・7			
SC2	198	7		Chip	調整	BAn	－	－	－	0.2	29181.149	-71407.521	110.150	BAn2			
SC2	199	7		Flake	調整	An	17	23	7.8	1.9	29181.312	-71408.245	110.064	An6・7			
SC2	200	7	40	Flake	剥片	BAn	47.9	20.1	8.2	6.4	29181.197	-71408.004	110.181	BAn1	接合資料17	第72図	PL.53・54
SC2	201	7		Flake	剥片	An	32	24	10.3	7.1	29180.735	-71408.812	110.283	An6・7			
SC2	202	7		Chip	調整	BAn	－	－	－	0.4	29180.841	-71408.781	110.173	BAn2			
SC2	203	7		Flake	石核調整	BSh	25	27	6.9	4.6	29180.796	-71408.520	110.344	BSh3			
SC2	204	7	40	Flake	石核調整	BAn	36.3	35.7	13.9	19.7	29180.750	-71408.357	110.164	BAn1	接合資料17	第72図	PL.53・54
SC2	205	7		Flake	作業面調整	An	15	19	8.5	2	29181.067	-71408.439	110.110	An6・7			
SC2	206	7		Flake	剥片	An	17	23	3.8	1.7	29181.164	-71408.410	110.180	An6・7			
SC2	207	7		Chip	調整	Ob	－	－	－	0.2	29180.520	-71408.323	110.029	Ob1			
SC2	208	7		Chip	調整	BAn	－	－	－	0.2	29180.504	-71408.160	110.338	BAn2			
SC2	209	7	40	Flake	剥片	BAn	31.4	18.6	6.1	2.7	29180.602	-71408.125	110.215	BAn1	接合資料17	第72図	PL.53・54
SC2	210	7		Flake	剥片	An	20	17	5.8	1.5	29180.728	-71408.075	110.186	An6・7			
SC2	211	7		Chip	調整	An	10	21	5.2	0.5	29180.838	-71408.029	110.279	An6・7			
SC2	212	7		Flake	石核調整	An	30	21	18.5	9.2	29180.652	-71407.954	110.143	An6・7			
SC2	213	7		Flake	剥片	An	25	19	5.7	2.7	29180.769	-71407.891	110.116	An6・7			
SC2	214	7	40	Flake	剥片	BAn	39.5	17.4	7.2	3.6	29181.020	-71407.729	110.235	BAn1	接合資料17	第72図	PL.53・54
SC2	215	8		Flake	作業面調整	BSh	30	22	18	5.7	29184.235	-71405.980	110.238	BSh3			
SC2	216	8		Flake	打面調整	BSh	25	31	6.5	4.5	29184.119	-71406.052	110.160	BSh3			
SC2	218	8		Flake？	破砕礫	BSh	－	－	－	4.8	29183.614	-71406.370	110.165	BSh5			
SC2	220	8		Flake	石核調整	An	40	46	14.5	21.8	29183.404	-71405.989	110.263	An6・7			
SC2	222	8	40	Flake	剥片	BAn	22.3	28.2	6.5	3	29182.632	-71405.872	110.203	BAn1	接合資料17	第72図	PL.53・54
SC2	223	8		Flake	石核調整	BSh	35	52	21	23.6	29183.574	-71405.183	110.190	BSh3			
SC2	224	7		Flake	石核調整	An	46	32	20.3	29.9	29182.287	-71406.553	110.273	An6・7			
SC2	225	7		Flake	打面調整	An	20	26	6.4	2.8	29181.694	-71406.926	110.200	An6・7			
SC2	226	7		Chip	調整	BAn	－	－	－	0.2	29181.669	-71406.772	110.246	BAn2			
SC2	227	7		Flake	剥片	BSh	27	17	4.1	1.8	29181.563	-71406.828	110.204	BSh2			
SC2	228	7	45	Flake	石核調整	BSh	41.9	49.9	16.9	28.7	29181.375	-71406.920	110.192	BSh2	接合資料15	第67図	PL.56
SC2	229	7		Chip	調整	Ob	16	16	2.4	0.6	29181.220	-71406.943	110.136	Ob1			
SC2	230	7		Flake	作業面調整	An	20	27	8	3.7	29181.171	-71407.104	110.198	An6・7			
SC2	231	7		Chip	調整	BAn	－	－	－	0.4	29181.112	-71406.982	110.192	BAn2			
SC2	232	7	40	Flake	石核調整	BAn	21.3	21.4	8.1	3.4	29180.703	-71407.437	110.257	BAn1	接合資料17	第72図	PL.53・54
SC2	233	7	18	Flake	打面作成	BSh	44.3	43.6	15.7	23.9	29180.576	-71407.177	110.219	BSh3		第28図	PL.47
SC2	234	7		Chip	調整	BAn	－	－	－	0.3	29180.533	-71407.750	110.230	BAn2			
SC2	235	7	40	Flake	剥片	BAn	35.8	13.8	10	3.7	29180.371	-71407.611	110.315	BAn1	接合資料17	第72図	PL.53・54
SC2	236	7		Flake	剥片	BSh	35	28	6.7	4.5	29180.379	-71407.440	110.103	BSh3			
SC2	237	7		Flake	剥片	BAn	25	12	5.3	1.3	29180.337	-71407.885	110.194	BAn2			

第20表　第2文化層出土石器計測表⑨

地点名	取上No.	ブロック	掲載No.	器種		石質	最大長	最大幅	最大厚	重量	X	Y	Z	母岩分類	接合資料	挿図番号	PL.番号
SC2	－ 238	7		Flake	剥片	An	30	54	11	13.6	29180.211	−71407.925	110.288	An6・7			
SC2	－ 239	7		Flake	剥片	Ob	29	15	4.1	1.5	29179.998	−71407.941	110.056	Ob3			
SC2	－ 240	7		Flake	石核調整	BSh	70	43	22	65.6	29179.733	−71408.099	110.164	BSh1			
SC2	－ 241	7		Chip	調整	BAn	18	8	4.2	0.6	29179.730	−71407.986	110.362	BAn2			
SC2	－ 242	7	36	Core	石核	BAn	49.8	69	35.7	107.6	29179.686	−71407.742	110.157	BAn1	接合資料10	第56図	PL. 51
SC2	－ 244	7		Chip	調整	Ob	−	−	−	0.04	29179.397	−71407.896	110.275	Ob4			
SC2	－ 245	7		Flake	石核調整	An	33	36	9.2	11	29179.338	−71407.818	110.300	An6・7			
SC2	－ 246	7		Flake	剥片	An	50	26	9.2	13.8	29179.309	−71408.236	110.253	An6・7			
SC2	－ 247	7		Flake	調整	BSh	13	21	7.7	1.7	29179.165	−71408.208	110.375	BSh5			
SC2	－ 248	7		Flake	石核調整	BSh	28	27	10.6	6.4	29179.227	−71407.891	110.147	BSh3			
SC2	－ 249	7		Flake	調整	BSh	10	23	5.8	1.3	29179.112	−71407.887	110.187	BSh5			
SC2	－ 250	7		Flake	調整	BAn	26	17	5.8	2	29179.005	−71407.946	110.323	BAn2			
SC2	－ 251	7		Flake	調整	An	27	16	6.5	2.4	29179.111	−71408.378	110.075	An6・7			
SC2	－ 252	7	19	Flake	石核打面作成剥片	BSh	65.9	61.1	16.5	71.8	29178.987	−71408.553	110.093	BSh4		第28図	PL. 47
SC2	－ 253	7		Chip	調整	An	15	19	2.8	0.6	29178.911	−71408.413	110.380	An6・7			
SC2	－ 254	7		Chip	調整	Ob	15	13	2.3	0.6	29178.872	−71408.147	110.405	Ob1			
SC2	－ 255	7		Chip	調整	Ob	−	−	−	0.06	29178.761	−71408.490	110.227	Ob4			
SC2	－ 256	7	20	Flake	石核調整	BSh	47.6	53.2	27	62.7	29178.734	−71408.379	110.141	BSh1		第28図	PL. 47
SC2	－ 257	7		Flake	剥片	An	73	48	11.4	39.2	29177.861	−71407.914	110.188	An3			
SC2	－ 258	7		Flake	剥片	An	24	17	6.8	2.4	29177.816	−71407.816	110.268	An6・7			
SC2	－ 259	7		Flake	作業面調整	BSh	25	44	7.2	8.3	29177.696	−71407.535	110.242	BSh3			
SC2	－ 260	7	21	Flake	剥片	An	45.2	20.8	7.7	5.3	29178.374	−71407.530	110.294	An6・7		第28図	PL. 47
SC2	－ 261	7	40	Flake	石核調整	BAn	22.7	30.8	13.9	10	29178.441	−71407.295	110.290	BAn1	接合資料17	第72図	PL. 53・54
SC2	－ 262	7	14	Knife？	ナイフ形石器（基部2側縁）？	BSh	40.7	21.6	5.3	3.8	29178.605	−71407.242	110.093	BSh2		第28図	PL. 46
SC2	－ 263	7		Chip	砕片	Ob	−	−	−	0.33	29178.202	−71407.011	110.065	Ob4			
SC2	－ 264	7		Flake	作業面調整	An	26	18	8.1	3.3	29178.377	−71406.674	109.981	An6・7			
SC2	－ 265	7		Flake	調整	An	25	20	8.5	4.2	29178.769	−71406.631	110.266	An6・7			
SC2	－ 266	7		Chip	調整	BSh	10	11	5	0.6	29178.938	−71406.744	110.288	BSh5			
SC2	－ 267	7	22	Flake	石核調整	BSh	49.4	63.4	15.1	34.7	29179.439	−71407.613	110.124	BSh1		第29図	PL. 47
SC2	－ 268	7		Chip	調整	An	17	15	3	0.9	29179.041	−71407.621	110.223	An6・7			
SC2	－ 269	7		Flake	調整	BSh	17	20	5.6	2	29178.994	−71407.604	110.216	BSh5			
SC2	－ 270	7		Flake	調整	BSh	22	16	6.9	3	29178.967	−71407.457	110.324	BSh5			
SC2	－ 271	7		Chip	調整	BSh	−	−	−	0.3	29178.868	−71407.503	110.280	BSh5			
SC2	－ 272	7		Chip	調整	BSh	−	−	−	0.4	29178.789	−71407.300	110.071	BSh5			
SC2	－ 273	7		Flake	調整	BSh	18	25	6	2.3	29178.752	−71407.160	110.234	BSh1			
SC2	－ 274	7		Chip	調整	Ob	−	−	−	0.33	29179.438	−71407.417	110.068	Ob1			
SC2	－ 275	7		Flake	作業面調整	An	45	42	9.7	14.7	29179.647	−71407.460	110.314	An6・7			
SC2	－ 276	7	40	Flake	石核調整	BAn	38.4	30.3	17.2	19.2	29179.613	−71407.373	110.288	BAn1	接合資料17	第72図	PL. 53・54
SC2	－ 277	7		Flake	石核調整	BSh	36	29	13.5	11.9	29179.589	−71407.203	110.355	BSh3			
SC2	－ 279	7		Chip	調整	BAn	−	−	−	0.17	29179.782	−71407.418	110.310	BAn2			
SC2	－ 280	7		Flake	調整	BSh	27	12	6.7	1.7	29179.915	−71407.116	110.093	BSh3			

第21表　第2文化層出土石器計測表⑩

地点名	取上No.	ブロック	掲載No.	器種		石質	最大長	最大幅	最大厚	重量	X	Y	Z	母岩分類	接合資料	挿図番号	PL.番号
SC2	281	7		Chip	調整	BSh	−	−	−	0.27	29179.560	−71406.718	110.194	BSh5			
SC2	282	7		Flake	剥片	BSh	37	36	9.8	12.1	29179.262	−71406.338	110.230	BSh3			
SC2	283	7		Chip	調整	BAn	−	−	−	0.14	29179.564	−71406.397	110.061	BAn2			
SC2	284	7		Chip	調整	BAn	−	−	−	0.07	29180.189	−71406.903	110.311	BAn2			
SC2	285	7		Flake	石核調整	An	38	34	11.5	9.7	29180.121	−71406.402	110.304	An4			
SC2	286	7		Flake	調整	An	25	31	4.9	3.5	29180.954	−71406.324	110.283	An6・7			
SC2	287	7		Flake	石核調整	An	27	33	18.2	13.5	29181.413	−71406.354	110.211	An6・7			
SC2	288	8	40	Flake	石核調整	BAn	54	27.2	11.3	3.6	29183.161	−71403.637	110.216	BAn1	接合資料17	第72図	PL.53・54
SC2	289	8	45	Flake	石核作業面調整	BSh	64	56.9	19.3	52.3	29182.649	−71403.995	110.080	BSh2	接合資料15	第67図	PL.56
SC2	290	8		Flake	調整	BAn	16	19	5	1.1	29182.352	−71404.124	110.182	BAn2			
SC2	291	8	49	Flake	石核調整	Ob	23.4	29.3	8.5	5.3	29182.906	−71404.955	110.157	Ob3	接合資料9	第54図	PL.58
SC2	292	8	49	Flake	石核調整	Ob	20.6	27.2	10.7	5.5	29182.513	−71405.131	110.200	Ob3	接合資料9	第54図	PL.58
SC2	293	8	46	Flake	石核調整	BSh	49.1	40.1	11.9	25.6	29182.329	−71405.272	110.210	BSh3	接合資料16	第69図	PL.57
SC2	294	8		Flake	打面調整	BSh	18	31	7.2	2.6	29182.290	−71405.151	110.060	BSh5			
SC2	295	8		Flake	打面調整	BSh	16	16	7.2	2	29182.231	−71405.560	110.097	BSh5			
SC2	296	8	27	Core	石核	BSh	43.4	31.9	20	30.8	29181.859	−71405.239	110.095	BSh3		第19図	PL.48
SC2	297	8		Flake	作業面調整	An	30	23	6.1	4.2	29181.546	−71404.857	109.986	An6・7			
SC2	298	8		Chip	調整	BAn	−	−	−	0.4	29181.278	−71404.833	110.222	BAn2			
SC2	299	7		Flake	作業面調整	BSh	36	33	9.5	9.4	29181.049	−71405.274	110.207	BSh1			
SC2	300	7	36	Flake	石核調整	BAn	36.5	56	20.2	32.4	29181.054	−71405.271	110.206	BAn1	接合資料10	第56図	PL.51
SC2	301	7		Flake	剥片	BSh	36	16	5.5	3	29181.099	−71405.675	110.174	BSh3			
SC2	303	7		Flake	調整	BSh	29	35	6	4.2	29180.777	−71405.686	110.174	BSh3			
SC2	304	7		Chip	調整	BAn	−	−	−	0.05	29180.751	−71405.524	110.300	BAn2			
SC2	305	7		Chip	調整	BAn	14	12	5	0.6	29180.698	−71405.811	110.136	BAn2			
SC2	306	7		Flake	石核調整	An	25	26	11.4	6.8	29180.497	−71404.629	110.072	An6・7			
SC2	307	7	45	Flake	調整	BSh	37.1	24.3	5.6	3.9	29180.511	−71404.496	110.169	BSh2	接合資料15	第67図	PL.56
SC2	308	7		Flake	剥片	An	24	22	2.1	1.3	29180.365	−71404.386	110.126	An6・7			
SC2	309	7		Flake	調整	An	39	23	8.2	6.2	29180.230	−71404.207	110.298	An6・7			
SC2	310	8		Flake	調整	BSh	16	17	2.9	0.8	29180.583	−71403.900	110.176	BSh3			
SC2	311	8		Flake	縦長剥片	BSh	26	14	6.5	3.4	29180.903	−71403.588	110.197	BSh3			
SC2	313	7		Chip	調整	BAn	14	19	4.2	0.8	29178.956	−71404.429	110.127	BAn2			
SC2	314	7		Flake	調整	An	33	15	6.4	3.6	29179.415	−71404.961	110.082	An6・7			
SC2	315	7	44	Flake	破砕礫	BSh	24.7	32	6.1	4.2	29179.604	−71405.222	110.285	BSh1	接合資料14	第64図	PL.55
SC2	317	7		Chip	調整	BAn	−	−	−	0.17	29180.066	−71405.249	110.308	BAn2			
SC2	318	7		Chip	調整	BAn	−	−	−	0.05	29179.865	−71405.360	110.218	BAn2			
SC2	319	7		Flake	調整	An	10	21	8	1.5	29179.966	−71405.543	110.198	An6・7			
SC2	320	7		Chip	調整	BAn	−	−	−	0.09	29180.397	−71405.706	110.069	BAn2			
SC2	321	7		Flake	石核調整	An	24	24	5.8	2.6	29180.209	−71405.769	110.027	An6・7			
SC2	322	7	37	Flake	剥片	BAn	25.1	14.6	7.1	2.4	29180.063	−71405.788	110.107	BAn1	接合資料11	第58図	PL.51
SC2	323	7		Flake	石核作業面調整	BSh	33	47	17.6	13.6	29180.284	−71406.020	110.273	BSh3			
SC2	324	7		Flake	石核作業面調整	An	34	55	13.5	21.8	29180.356	−71406.092	110.174	An6・7			

第22表　第2文化層出土石器計測表⑪

地点名	取上No.	ブロック	掲載No.	器種		石質	最大長	最大幅	最大厚	重量	X	Y	Z	母岩分類	接合資料	挿図番号	PL.番号
SC2	325	7		Flake	調整	BAn	23	12	6.2	1.4	29180.370	-71406.191	110.102	BAn2			
SC2	326	7		Flake	調整	BSh	33	16	5.2	2	29179.805	-71405.572	110.058	BSh3			
SC2	327	7		Chip	砕片	BAn	-	-	-	0.07	29179.714	-71405.460	110.130	BAn2			
SC2	328	7		Chip	調整	BSh	-	-	-	0.61	29179.969	-71406.014	110.050	BSh5			
SC2	329	7		Flake	調整	BSh	13	23	3.3	1.1	29179.847	-71406.040	110.117	BSh1			
SC2	330	7	37	Flake	剥片	BAn	26	9.1	4.3	0.8	29179.583	-71405.728	110.068	BAn1	接合資料11	第58図	PL.51
SC2	331	7		Flake	石核調整	An	51	52	16.5	46.9	29179.083	-71405.516	110.255	An6・7			
SC2	332	7	23	Flake	石核調整	BSh	57	61.6	23.1	72.3	29179.265	-71405.717	110.113	BSh4		第29図	PL.47
SC2	333	7		Chip	調整	BAn	-	-	-	0.3	29179.084	-71405.794	110.121	BAn2			
SC2	334	7		Chip	調整	BAn	-	-	-	0.11	29179.223	-71405.341	110.159	BAn2			
SC2	335	7		Chip	調整	BAn	-	-	-	0.14	29178.930	-71405.645	110.265	BAn2			
SC2	336	7		Flake	石核調整	An	15	23	8.5	2.6	29179.142	-71405.930	110.171	An6・7			
SC2	337	7			破レキ	Sh	38	24	10.2	9.7	29178.732	-71406.072	110.210				
SC2	338	7			破レキ	BAn	-	-	-	1	29178.416	-71405.454	110.161	BAn2			
SC2	339	7			破レキ	SS	-	-	-	12.5	29178.205	-71405.043	109.992				
SC2	340	7		Flake	石核調整	An	27	32	11	8.1	29178.145	-71404.951	110.035	An6・7			
SC2	341	7	44	Flake	石核調整	BSh	30.1	30.4	7	5.3	29178.113	-71405.415	110.268	BSh1	接合資料14	第64図	PL.55
SC2	342	7		Chip	調整	Ob	-	-	-	0.23	29177.929	-71405.622	110.118	Ob1			
SC2	343			Flake	調整	HSh	20	14	6.1	1.8	29179.996	-71401.848	110.135				
SC2	344	7		Chip	調整（ガジリ）	BSh	-	-	-	0.5	29179.249	-71406.319	110.209	BSh5			
SC2	345	7		Flake	調整（ガジリ）	BAn	17	23	6.9	3.3	29180.091	-71405.239	110.245	BAn2			
SC2	346	6	47	Flake	剥片（ガジリ）	Ob	17.3	19.3	5.9	2.4	29181.445	-71414.044	110.110	Ob2	接合資料7	第50図	PL.58
SC2	347	7		Flake	調整（ガジリ）	An	23	25	9.5	4.8	29181.566	-71406.877	110.145	An6・7			
SC2	348	7		Chip	調整	BAn	-	-	-	0.2	29179.263	-71408.226	110.091	BAn2			
SC2	349	7		Chip	調整	Ob	-	-	-	0.3	29179.492	-71409.863	110.214	Ob4			
SC2	350	7		Chip	調整	Ob	-	-	-	0.2	29178.571	-71409.322	110.297	Ob4			
SC2	351	7	40	Flake	石核調整（分割）	BAn	64.2	45.8	32.1	98.2	29181.046	-71408.453	110.047	BAn1	接合資料17	第72図	PL.53・54
SC2	352	7		Flake	調整	BSh	24	30	5	3.2	29179.275	-71409.538	110.193	BSh3			
SC2	353	6	11	Hammer?	敲石?	BAn	75.7	75.3	25.8	207.9	29180.624	-71413.181	110.116			第25図	PL.46
SC2	354	6	12	Anbil	台石	GS	139.1	119.6	66.5	1287.1	29180.613	-71413.086	110.045			第25図	PL.46
SC2	355	6	13	Anbil	台石	An	310.2	157.7	104.1	6600	29181.095	-71413.056	110.055			第25図	PL.46
SC2	356	4	7	Anbil	台石	An	266.9	161.5	115.9	6600	29186.773	-71417.237	109.923			第22図	PL.45
SC2	357		54	Anbil	台石	An	238	149.9	133.8	5428.8	29188.914	-71418.186	109.872			第83図	PL.57
SC2	358	7	24	Hammer?	敲石?	An	96.9	86	54.4	568.3	29177.981	-71405.541	110.011			第29図	PL.47
SC2	359	7	25	Anbil	台石	An	280.5	122.4	90.7	3802.4	29177.912	-71406.258	110.021			第29図	PL.47
SC2	360	7	26	Anbil	台石	An	280.3	150	83.2	5093.9	29179.521	-71406.680	109.962			第30図	PL.47
SC2	361	7		Chip	砕片	BAn	-	-	-	0.5	29180.708	-71408.171	110.140	BAn2			
SC2	362	7	40	Flake	石核作業面調整	BAn	67	43.1	16	35.7	29180.781	-71408.143	110.096	BAn1	接合資料17	第72図	PL.53・54
SC2	363	7		Flake	調整（ガジリ）	BSh	26	29	9.4	5.4	29179.341	-71407.920	110.167	BSh5			
SC2	364	7		Flake	調整（ガジリ）	BSh	13	21	7.4	2.1	29179.916	-71408.738	110.257	BSh5			
SC2	365	7		Chip	砕片	Ob	-	-	-	0	29178.680	-71409.026	110.226	Ob4			

第23表　第2文化層出土石器計測表⑫

地点名	取上No.	ブロック	掲載No.	器種		石質	最大長	最大幅	最大厚	重量	X	Y	Z	母岩分類	接合資料	挿図番号	PL.番号
SC2	366	7		Flake	剥片（ガジリ）	BSh	29	20	6	3.5	29179.423	-71407.930	110.177	BSh5			
SC2	367	7		Chip	砕片	BAn	−	−	−	0.2	29178.836	-71409.277	110.149	BAn2			
SC2	368	7		Flake	剥片	An	44	69	18.8	39.7	29176.803	-71406.819	110.372	An5			
SC2	369	7		Flake	作業面調整	BSh	35	23	7.5	5.6	29176.950	-71407.699	110.339	BSh3			
SC2	371	7		Flake	剥片	An	50	44	11.3	17.2	29177.457	-71408.093	110.287	An6・7			
SC2	372	7		Flake	剥片	An	46	50	14.5	34.2	29177.521	-71407.977	110.152	An6・7			
SC2	373	7		Flake	石核調整（ガジリ）	An	41	56	14.3	20.8	29177.887	-71408.401	110.143	An6・7			
SC2	374	7		Flake	剥片	An	37	32	10	8.7	29178.049	-71408.895	110.227	An6・7			
SC2	375	7		Flake	調整	An	25	22	3	1.8	29178.507	-71410.492	110.296	An6・7			
SC2	376	6		Chip	調整	Ob	−	−	−	0.3	29179.081	-71411.922	110.126	Ob3			
SC2	377	6		Flake	調整	Sh	35	34	10	8.5	29179.311	-71413.104	110.316	Sh1			
SC2	378	7		Flake	石核調整	An	62	65	24.5	92.5	29176.983	-71407.546	110.125	An6・7			
SC2	379	7		Flake	調整	BSh	56	31	19.5	29.7	29177.223	-71407.546	110.080	BSh3			
SC2	380	7		Flake	調整	An	20	28	7.4	2.6	29177.374	-71408.427	110.144	An6・7			
SC2	381	7		Chip	砕片	Ob	−	−	−	0	29177.583	-71409.252	110.179	Ob4			
SC2	382	7		Chip	調整	Ob	−	−	−	0.12	29177.875	-71409.328	110.232	Ob1			
SC2	383	6		Flake	調整	Ob	24	28	7	3.4	29179.826	-71413.646	110.172	Ob3			
SC2	384		51	Anbil	台石	An	56.3	96.1	88.5	737.3	29184.115	-71409.702	110.101		接合資料6	第48図	PL.57
SC2	385		51	Anbil	台石	An	44.1	94.3	51.5	262.8	29183.713	-71408.988	110.137		接合資料6	第48図	PL.57
SC3	1	9		Flake	剥片	Ch	12	15	3.9	0.8	29173.862	-71389.304	109.966				
SC3	2	9		Flake	石核調整	Ob	17	17	3.1	0.6	29173.153	-71389.739	110.056				
SC3	3	9		Flake	剥片	Ob	26	21	5.7	2.4	29173.154	-71389.859	110.063				
SC3	4	9		Chip	砕片	Ob	−	−	−	0.2	29173.033	-71389.457	109.997				
SC3	5	9		Flake	剥片	Ob	17	20	4	0.8	29172.675	-71389.492	110.052				
SC3	6	9		Flake	縦長剥片	Ob	18	10	2.4	0.4	29172.537	-71389.179	109.887				
SC3	7	9		Flake	縦長剥片	Ob	18	13	3.7	0.9	29171.930	-71390.250	110.063				
SC3	8	9		Chip	砕片	Ob	11	11	2.2	0.3	29172.167	-71389.220	109.839				
SC3	9	9		Chip	砕片	Ob	−	−	−	0.2	29171.409	-71389.371	110.028				
SC3	10	9		Chip	砕片	Ob	−	−	−	0.2	29171.385	-71388.764	109.962				
SC3	11	9		Flake	剥片	Ob	20	14	4.5	0.9	29172.094	-71388.668	110.011				
SC3	12	9		Chip	調整	Ob	−	−	−	0.04	29172.149	-71388.995	110.031				
SC3	13	9		Chip	調整	Ob	−	−	−	0.2	29172.254	-71388.800	109.972				
SC3	14	9		Chip	調整	Ob	−	−	−	0.2	29172.574	-71388.843	110.026				
SC3	15	9		Chip	調整	Ob	18	12	3.2	0.3	29172.655	-71388.768	109.937				
SC3	16	9		Flake	石核調整	Ob	17	20	6.9	1.5	29172.589	-71388.538	109.933				
SC3	17a	9		Flake	作業面調整	Ob	16	16	4.5	0.7	29172.671	-71388.455	109.918				
SC3	17b	9		Flake	作業面調整	Ob	15	10	3.8	0.6	29172.671	-71388.455	109.918				
SC3	18	9		Chip	調整	Ob	−	−	−	0.11	29172.765	-71388.560	110.034				
SC3	19	9		Chip	砕片	Ob	−	−	−	0.32	29172.858	-71388.937	110.040				
SC3	20	9		Chip	調整	Ob	−	−	−	0.1	29173.145	-71388.933	109.953				
SC3	21	9		Flake	石核調整	Ob	23	17	8.1	2.2	29172.439	-71388.114	109.913				

第24表　第2文化層出土石器計測表⑬

地点名	取上No.	ブロック	掲載No.	器種		石質	最大長	最大幅	最大厚	重量	X	Y	Z	母岩分類	接合資料	挿図番号	PL.番号
SC3	－ 22	9		Flake	縦長剥片	Ob	27	14	6.8	1.3	29171.559	−71388.265	109.837				
SC3	－ 23	9		Flake	石核調整	Ob	35	23	7.3	4.4	29171.160	−71387.912	110.149				
SC3	－ 24	9		Flake	縦長剥片	Ob	30	15	4.6	1.3	29171.561	−71387.946	109.998				
SC3	－ 25	9		Flake	縦長剥片（ガジリ）	Ob	18	14	5.9	1.4	29171.431	−71387.701	109.961				
SC3	－ 26	9		Chip	石核調整	Ob	16	13	7.3	1.6	29171.617	−71387.705	110.021				
SC3	－ 27	9	50	Flake	剥片	Rch	33.7	30.6	12.1	10.8	29171.767	−71387.678	110.063	Rch1	接合資料18	第75図	PL.59
SC3	－ 28	9		Chip	砕片	Ob	−	−	−	0.2	29171.938	−71387.623	109.950				
SC3	－ 29	9		Flake	剥片	Ob	30	27	7	4.8	29172.241	−71387.769	109.987				
SC3	－ 30	9		Chip	砕片	Ob	−	−	−	0.23	29172.234	−71387.589	109.936				
SC3	－ 31	9		Flake	剥片（折れ）	Ob	20	10	2.1	0.4	29172.684	−71387.238	109.977				
SC3	－ 32	9		Chip	砕片	Ob	−	−	−	1.1	29173.013	−71387.814	109.994				
SC3	－ 33	9		Chip	剥片	Ob	18	10	2.1	0.4	29173.286	−71387.671	109.835				
SC3	－ 34	9		Chip	砕片	Ob	−	−	−	0.5	29173.456	−71387.743	109.895				
SC3	－ 35	9		Flake	剥片（ガジリ？）	Ob	22	24	5.4	2.4	29173.461	−71387.640	109.863				
SC3	－ 36	9	50	Flake	剥片	Rch	41.9	21.4	6.1	3.8	29173.973	−71387.905	109.956	Rch1	接合資料18	第75図	PL.59
SC3	－ 37	9		Flake	剥片	Ob	18	13	1.5	0.3	29174.003	−71387.864	109.953				
SC3	－ 38	9	29	Flake	縦長剥片（稜付、搬入）	HSh	70.8	26.6	19.9	18.5	29174.128	−71387.849	109.836			第33図	PL.48
SC3	－ 39	9		Flake	剥片	Ob	21	14	4.5	1.1	29174.487	−71387.587	109.915				
SC3	－ 40	9		Flake	剥片（ガジリ）	Ob	25	18	3.1	1.5	29173.735	−71387.354	109.980				
SC3	－ 41	9		Flake	縦長剥片	Ob	40	11	10.5	2.6	29173.645	−71387.073	110.113				
SC3	－ 42	9	50	Flake	剥片	Rch	34.5	17	7.6	3.5	29173.401	−71386.768	109.975	Rch1	接合資料18	第75図	PL.59
SC3	－ 43	9	50	Flake	石核節理	Rch	12.2	33.4	16.8	6.9	29173.150	−71386.927	109.874	Rch1	接合資料18	第75図	PL.59
SC3	－ 44	9		Flake	剥片	Ob	20	10	3	0.4	29173.118	−71387.079	109.850				
SC3	－ 45	9		Chip	打面調整	Ob	16	14	3.3	0.5	29172.993	−71387.314	109.981				
SC3	－ 46	9	28	Blade	縦長剥片	WCh	40.3	13	5.7	2.8	29172.654	−71387.043	110.078	WCh1		第33図	PL.48
SC3	－ 47	9		Chip	砕片	Ob	−	−	−	1.1	29172.469	−71387.091	110.065				
SC3	－ 48	9		Flake	縦長剥片（折れ）	Ob	14	9	3	0.4	29172.515	−71387.163	110.041				
SC3	－ 49	9		Chip	砕片	Ob	−	−	−	0	29171.987	−71387.421	109.985				
SC3	－ 50	9		Chip	調整	Ob	−	−	−	0.06	29171.868	−71387.496	109.980				
SC3	－ 52	9		Flake	剥片（角剥離）	Ob	25	13	7.6	1.3	29171.727	−71387.498	109.875				
SC3	－ 53	9		Core	石核	Ob	35	30	29.1	34.7	29171.656	−71387.502	109.862				
SC3	－ 54	9	50	Chip	打面調整	Rch	12	16.1	3.2	0.4	29171.330	−71387.377	109.883	Rch1	接合資料18	第75図	PL.59
SC3	－ 55	9		Chip	調整（ガジリ）	Ob	−	−	−	0.2	29171.194	−71387.479	109.967				
SC3	－ 56	9		Flake	剥片（角剥離）	Ob	23	15	9.5	2.3	29171.046	−71387.556	110.092				
SC3	－ 57	9		Flake	石核調整	Ob	35	13	5.1	1.5	29170.918	−71387.272	110.161				
SC3	－ 58	9		U.Flake	使用痕のある縦長剥片	Ob	39	17	7.4	4.1	29171.111	−71387.135	109.965				
SC3	－ 59	9		Flake	剥片（角剥離）	Ob	21	11	7	1.1	29171.330	−71387.170	110.064				
SC3	－ 60	9		Chip		Ob	12	17	5.4	1	29171.660	−71386.997	110.037				
SC3	－ 61	9		Blade	縦長剥片	Ob	51	19	8.9	5.9	29171.823	−71387.046	110.012				
SC3	－ 62	9		Flake	石核調整（ガジリ）	Ob	23	17	4.5	1.3	29171.971	−71387.016	110.014				
SC3	－ 63	9	50	Flake	打面調整	Rch	20.4	12.9	4.6	1.1	29171.135	−71386.966	109.889	Rch1	接合資料18	第75図	PL.59

第25表　第2文化層出土石器計測表⑭

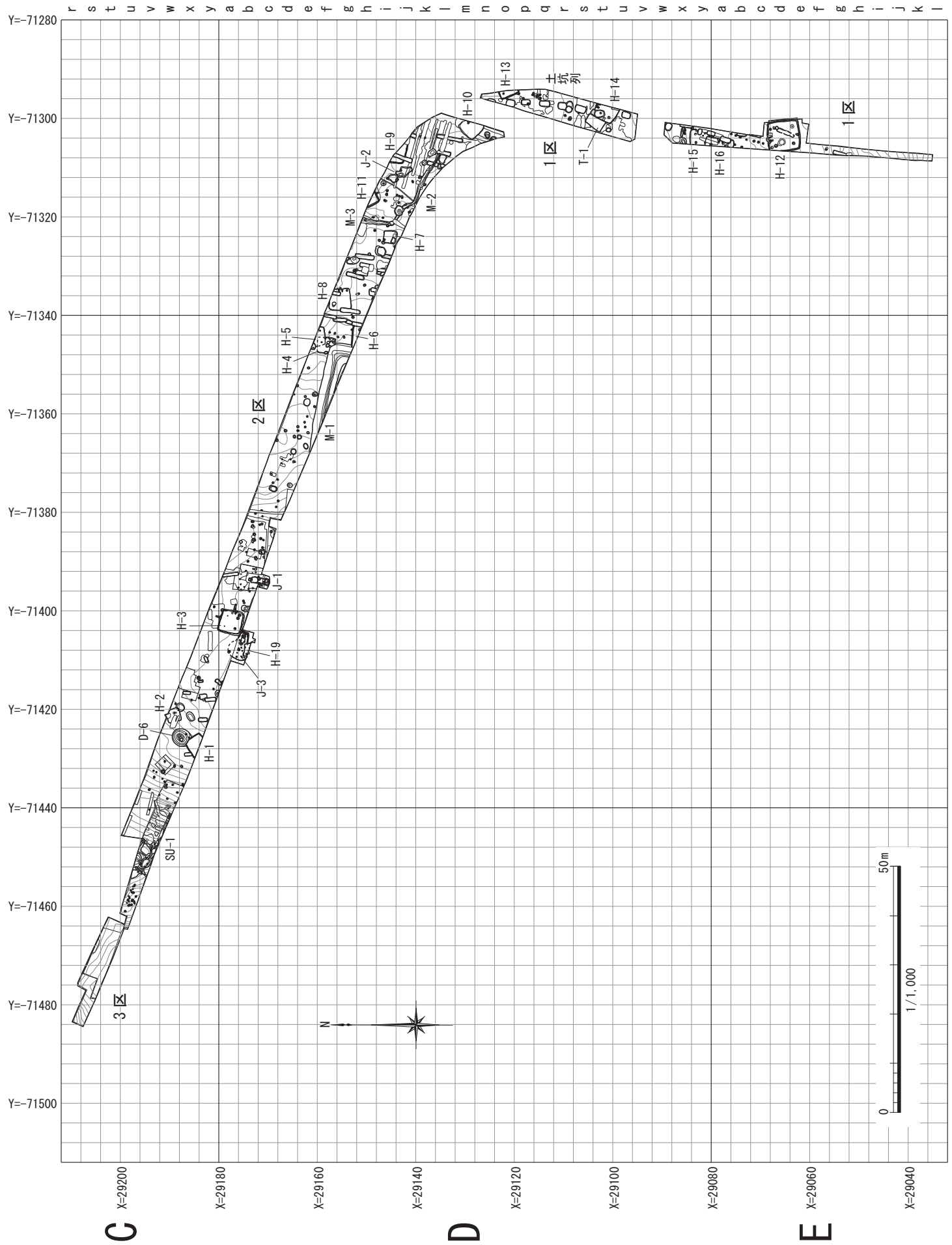
地点名	取上No.	ブロック	掲載No.	器種		石質	最大長	最大幅	最大厚	重量	X	Y	Z	母岩分類	接合資料	挿図番号	PL.番号
SC3	64	9		Flake	打面調整	Ob	18	21	3.1	0.5	29171.037	-71386.830	110.112				
SC3	65	9		Flake	剥片（折れ）	Ob	24	21	2.5	1.3	29170.985	-71386.973	110.097				
SC3	66	9		Chip	剥片	Ob	14	12	5.1	0.8	29170.854	-71386.974	109.957				
SC3	67	9		Flake	剥片	Ob	25	19	5.3	1.2	29171.503	-71386.806	109.995				
SC3	68	9		Flake	縦長剥片（折れ）	BAn	30	22	8.1	5.4	29171.154	-71386.542	110.091				
SC3	69	9		Flake	打面作成（角剥離）	Ob	27	30	11.3	7.9	29171.613	-71386.529	110.058				
SC3	70	9		Flake	縦長剥片（折れ）	Ob	16	16	4.8	1	29171.531	-71386.212	109.994				
SC3	71	9	30	Flake	縦長剥片（折れ）	WCh	36.2	16.9	6.5	3	29171.560	-71386.109	109.880	WCh1		第33図	PL.48
SC3	72	9		Flake	剥片（折れ）	Ob	32	19	4.2	2	29171.846	-71385.957	110.080				
SC3	73	9		Flake	作業面再生（ガジリ）	Ob	32	16	10.2	4.5	29171.942	-71386.106	109.931				
SC3	74	9		Flake	剥片（折れ）	Ob	12	21	4.9	1.1	29172.078	-71386.212	109.957				
SC3	75	9	50	Flake	剥片（節理）	Rch	48.6	19.3	17.3	15.9	29172.297	-71386.784	110.007	Rch1	接合資料18	第75図	PL.59
SC3	76	9	50	Flake	縦長剥片	Rch	59.9	20.9	12.7	10.9	29172.706	-71386.732	109.899	Rch1	接合資料18	第75図	PL.59
SC3	77	9	50	Chip	砕片（節理）	Rch	12.7	16.1	6.8	1.3	29172.456	-71386.633	109.893	Rch1	接合資料18	第76図	PL.59
SC3	78	9	50	Chip	砕片（節理）	Rch	10.2	17.4	6.1	1.3	29172.475	-71386.560	109.930	Rch1	接合資料18	第76図	PL.59
SC3	79	9	50	Flake	剥片	Rch	35.8	25.4	10.5	8.5	29172.438	-71386.452	110.001	Rch1	接合資料18	第76図	PL.59
SC3	80	9		Chip	打面調整	Ob	12	15	3.1	0.4	29172.663	-71386.293	109.944				
SC3	81	9		Chip	砕片	Ob	-	-	-	0.3	29172.781	-71386.040	109.946				
SC3	82	9		Flake	剥片	Ob	26	16	5.5	2.4	29172.825	-71385.586	109.898				
SC3	83			Flake	縦長剥片（稜付）	Ob	38	17	9.1	4.7	29173.620	-71384.497	109.986				
SC3	84		53	Hammer	敲石（割れ1/4）	An	87	64.2	55.6	309.6	29174.103	-71384.783	109.711			第83図	PL.57
SC3	85	9		Chip	調整	Ob	-	-	-	0.2	29171.918	-71390.241	110.019				
SC3	86	9		Core	石核	Ob	60	26.8	43	73.1	29172.392	-71388.935	109.976				
SC3	87	9		Chip	調整	Ob	-	-	-	0.2	29171.374	-71388.775	109.867				
SC3	88	9		Flake	剥片	Ob	17	12	4.3	0.7	29171.951	-71388.365	109.941				
SC3	89	9		Flake	打面調整	Ob	20	15	4.3	1	29172.061	-71388.169	109.944				
SC3	90	9		Chip	調整	Ob	-	-	-	0.2	29171.584	-71387.028	109.843				
SC3	91a	9		Flake	石核調整	Ob	19	16	5.5	1.7	29171.452	-71386.801	109.908				
SC3	91b	9		Chip		Ob	-	-	-	0.3	29171.452	-71386.801	109.908				
SC3	92	9		Flake	石核調整（角剥離）	Ob	23	16	5.8	1.4	29171.123	-71386.584	109.966				
SC3	93	9		Flake	石核調整（角剥離）	Ob	23	28	9	3.6	29172.680	-71387.043	109.911				
SC3	94	9		Chip	調整	Ob	-	-	-	0.2	29171.375	-71387.227	109.936				
SC3	95	9		Flake	石核調整（角剥離、折れ）	Ob	48	25	11	11	29171.281	-71387.197	109.925				
SC3	96	9		Flake	作業面調整	Ob	35	28	6.9	5.9	29171.863	-71387.460	109.853				
SC3	97	9		Flake	ガジリ割れ（破片不足）	Ob	-	-	-	0.6	29172.159	-71388.887	109.897				
SC3	98	9		Flake	ガジリ割れ（破片不足）	Ob	-	-	-	1.8	29171.250	-71387.265	109.831				
SC3	99	9	50	Core	石核（節理）	Rch	21.4	51.6	47.3	69.1	29171.552	-71387.699	109.794	Rch1	接合資料18	第75図	PL.59
SC3	100	9		Flake	剥片	Ob	25	17	6.2	1.6	29170.913	-71387.910	110.091				
SC3	101	9	50	Flake	節理割れ	Rch	39.8	22.2	13	8.7	29170.609	-71387.498	110.098	Rch1	接合資料18	第76図	PL.59
SC3	102	9		Flake	剥片（角剥離）	Ob	20	21	8.3	2.3	29170.695	-71387.345	110.167				
SC3	103	9		Chip	縦長剥片（打面調整）	Ob	19	9	3.2	0.3	29170.735	-71386.870	110.077				

第26表　第2文化層出土石器計測表⑮

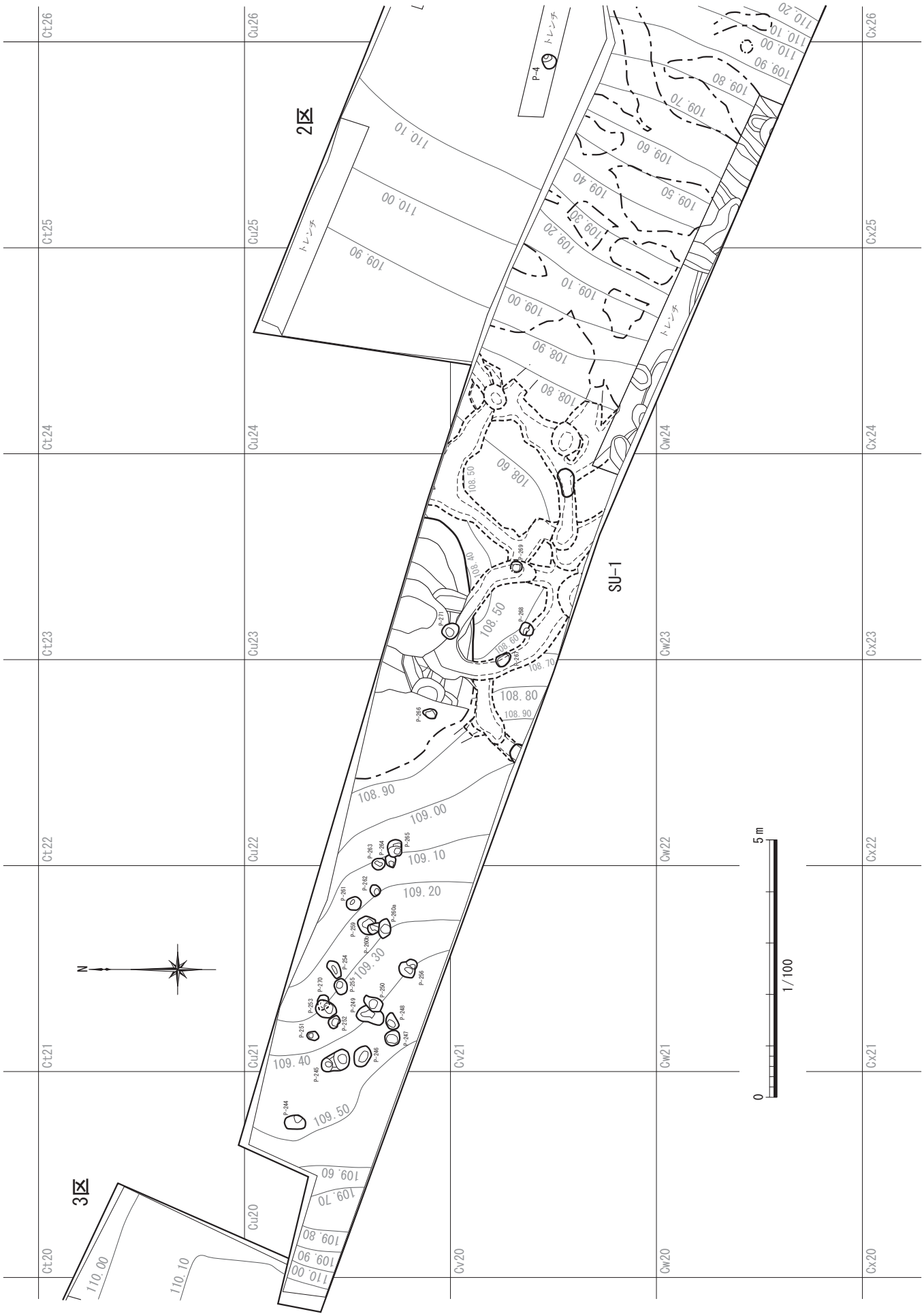
地点名	取上No.	ブロック	掲載No.	器種		石質	最大長	最大幅	最大厚	重量	X	Y	Z	母岩分類	接合資料	挿図番号	PL.番号
SC3	104			Flake	作業面再生	Ob	30	25	11	7.5	29174.113	-71383.516	109.874				
SC3	105			Flake	剥片（角剥離）	Ob	23	32	9.7	4.8	29174.579	-71385.373	109.861				
SC3	106	9		Chip	調整	Ob	－	－	－	0.08	29170.809	-71387.597	109.980				
SC3	107			Flake	石核調整	Ob	41	30	16.3	15	29174.353	-71383.815	109.768				
SC3	108	9		Chip	調整	Ob	－	－	－	0.2	29170.754	-71387.757	109.931				
SC3	109	9		Flake	石核調整	Ob	29	25	4.9	3.5	29170.576	-71386.678	110.094				
SC3	110		52	Flake	縦長剥片	Ag	35.4	28.2	8.6	4.6	29174.741	-71384.083	109.919			第83図	PL.57
SC3	111			Flake	剥片	HSh	33	26	6.1	3	29175.587	-71384.158	109.961				
SC4	1	1		Flake	石核打面調整剥片	HSh	39	21	10	6.3	29202.031	-71470.268	109.709				
SC4	2	1		Chip	砕片	BAn	23	13	7.5	2	29203.521	-71469.930	109.537				
SC4	3	1		Flake	石核調整	BAn	40	33	11	12.4	29203.771	-71470.459	109.539				
SC4	4	1		Chip	砕片	BAn	17	12	5.9	1	29203.663	-71470.489	109.555				
SC4	5	1	1	Biface	両面体（石斧刃部?）破片	BAn	14.5	41	14.6	5.3	29203.353	-71470.649	109.602			第16図	PL.45
SC4	6	1		Chip	調整	BAn	20	14	3.9	1.2	29203.249	-71470.773	109.644				
SC4	7	1		Flake	調整	BAn	30	33	7.2	5.8	29203.185	-71471.107	109.685				
SC4	8	1		Chip	砕片	BAn	－	－	－	0.3	29203.103	-71471.063	109.688				
SC4	10	1	41	Flake	作業面調整	BAn	55.4	41.2	16.8	26.4	29202.476	-71470.834	109.743		接合資料19	第78図	PL.52
SC4	11	1		Chip	破砕礫	Ch	－	－	－	0.5	29202.307	-71471.039	109.735				
SC4	12	1		Chip	調整	BAn	－	－	－	0.12	29202.533	-71471.225	109.787				
SC4	13	1		Chip	調整	BAn	－	－	－	0	29202.243	-71471.384	109.796				
SC4	15	1		Flake	石核調整（角剥離）	BAn	25	41	10.5	6.4	29202.391	-71471.497	109.781				
SC4	16	1		Chip	調整	BAn	17	8	3	0.8	29202.765	-71471.441	109.779				
SC4	17	1	41	Flake	石核調整	BAn	54	34.3	14.1	17.2	29202.882	-71471.397	109.749		接合資料19	第78図	PL.52
SC4	18	1	43	Core	石核	BAn	63.4	51.9	20	60.2	29202.750	-71471.609	109.773		接合資料21	第82図	PL.56
SC4	19	1		Flake	剥片	BAn	36	55	8.6	10.8	29202.954	-71471.736	109.765				
SC4	20	1	42	Flake	石核調整	BAn	54	47.6	30	57.7	29203.328	-71471.501	109.718		接合資料20	第79図	PL.55
SC4	21	1		Chip	砕片	BAn	－	－	－	0.4	29203.415	-71471.388	109.647				
SC4	22	1	43	Flake	剥片	BAn	28.2	32.6	6.9	5.5	29203.493	-71471.481	109.684		接合資料21	第82図	PL.56
SC4	23	1		Chip	砕片	BAn	11	23	8.4	1.3	29203.537	-71471.155	109.629				
SC4	24	1	42	Flake	石核調整	BAn	62.4	31.6	12.8	22.7	29203.587	-71471.397	109.668		接合資料20	第79図	PL.55
SC4	25	1	42	Flake	石核調整（角剥離）	BAn	30.8	40.4	17	16.7	29203.940	-71470.974	109.575		接合資料20	第79図	PL.55
SC4	26	1		Flake	石核調整	BAn	59	32	15.7	29.9	29203.602	-71471.721	109.693				
SC4	27	1		Flake	石核調整	BAn	27	35	10.6	7	29203.652	-71471.699	109.702				
SC4	28	1	42	Flake	剥片	BAn	32.5	16.4	8.1	4.1	29203.785	-71471.912	109.686		接合資料20	第79図	PL.55
SC4	29	1		Chip	砕片	SS	－	－	－	0.9	29203.574	-71472.188	109.712				
SC4	30	1		Flake	石核調整	BAn	25	43	12.9	14.1	29201.917	-71470.914	109.758				
SC4	31	1	2	Hammer	敲石	An	99.9	88	44.8	381.2	29203.054	-71471.564	109.716			第16図	PL.45
SC4	32	1	3	Hammer	敲石	Sc	152.4	36.8	32.1	252.2	29204.937	-71472.552	109.568			第16図	PL.45
TR1	1	2		Flake	調整	BAn	13	23	3.2	1	29190.167	-71431.601	109.665				
TR1	3	2			破レキ	SS	－	－	－	23.7	29190.510	-71430.460	109.750				
TR1	4	2		Flake	調整	BAn	15	25	4.8	1.8	29190.739	-71430.701	109.724				

第27表　第2文化層出土石器計測表⑯

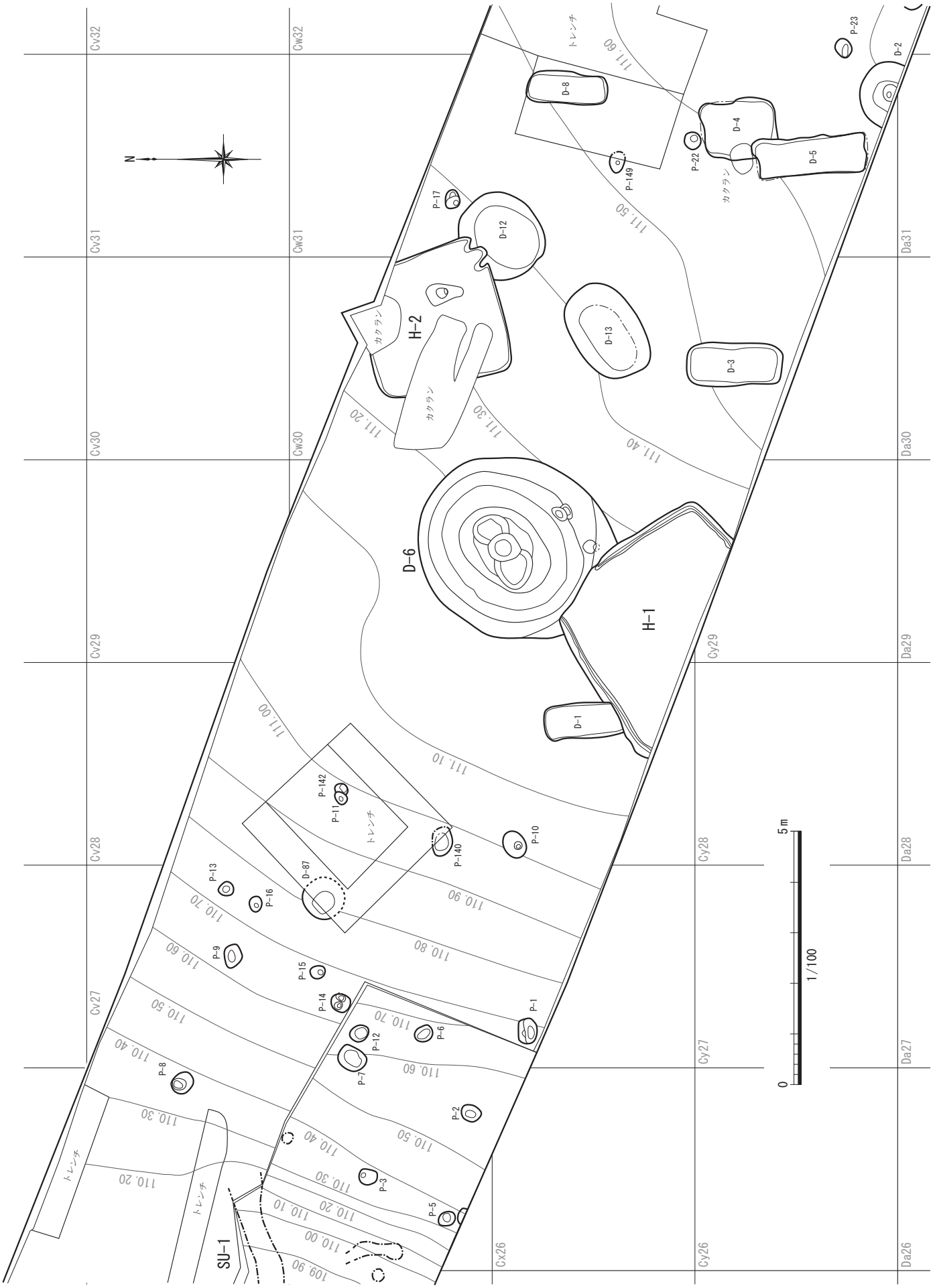
地点名	取上No.	ブロック	掲載No.	器種	石質	最大長	最大幅	最大厚	重量	X	Y	Z	母岩分類	接合資料	挿図番号	PL.番号
TR1 － 5	2		破レキ	Ch	－	－	－	87.7	29190.996	-71430.124	109.669				
TR2b － 1	4	Chip	調整（２分割）	Ob	－	－	－	0.16	29184.999	-71416.809	110.111				
TR2b － 2	4	Chip	調整	Ob	－	－	－	0.12	29185.061	-71416.670	110.261				
TR2b － 3	4	Chip	調整	Ob	－	－	－	0.19	29185.160	-71416.717	110.273				
TR2b － 4	4	Chip	調整	Ob	－	－	－	0.16	29185.219	-71417.054	110.284				
TR2b － 5	4	Chip	調整	Ob	－	－	－	0.16	29185.407	-71416.809	110.279				
TR2b － 6	4	Flake	調整	Ob	20	18	4.4	0.99	29185.491	-71416.783	110.227				
TR2b － 7	4	Flake	調整	Ob	21	14	4.5	1.06	29185.523	-71416.582	110.244				
TR2b － 8	4	Chip	調整	Ob	16	11	2.3	0.45	29185.625	-71416.531	110.251				
TR2b － 11	4	Chip	調整	Ob	－	－	－	0.19	29186.373	-71416.808	110.246				
TR2b － 12	4	Flake	調整	Ob	13	16	3.8	0.94	29186.488	-71416.786	110.259				
TR2b － 13	4	Chip	調整	Ob	－	－	－	0.45	29186.535	-71416.513	110.164				
TR2b － 14	4	Flake	剥片	Ob	18	16	3.5	0.85	29186.905	-71416.223	110.273				
TR2b － 15	4	Chip	調整	Ob	－	－	－	0.33	29187.177	-71417.415	110.223				
TR2b － 16	4	Flake	調整	Ob	15	21	6.4	1.48	29186.519	-71417.340	110.172				
TR2b － 17	4	U.Flake	使用痕のある剥片	Ob	18	17	2.5	0.76	29186.347	-71417.145	110.172				
TR2b － 18	4	Chip	調整	Ob	－	－	－	0.13	29186.133	-71417.212	110.214				
TR2b － 19	4	Chip	調整	Ob	－	－	－	0.25	29186.053	-71417.084	110.183				
TR2b － 20	4	Chip	調整	Ob	－	－	－	0.16	29185.974	-71417.197	110.215				
TR2b － 21	4	Flake	剥片	Ob	23	19	3.6	1.38	29185.916	-71417.438	110.201				
TR2b － 22	4	Chip	調整	Ob	－	－	－	0.11	29185.777	-71417.473	110.224				
TR2b － 23	4	Chip	調整	Ob	－	－	－	0.44	29185.771	-71417.677	110.200				
TR2b － 9a	4	Chip	調整	Ob	－	－	－	0.2	29185.807	-71416.515	110.182				
TR2b － 9b	4	Chip	調整	Ob	－	－	－	0.12	29185.807	-71416.515	110.182				
TR3 － 1	9	Flake	剥片	Ob	25	10	2.7	0.56	29172.854	-71388.692	110.141				
TR3 － 2	9	Chip	調整	Ob	－	－	－	0.11	29172.367	-71388.939	110.096				
TR3 － 3	9	U.Flake	使用痕のある剥片	Ob	22	24	3.8	1.69	29172.266	-71388.684	110.066				
TR3 － 4	9	Flake	剥片	Ob	15	21	5.1	1.57	29172.119	-71388.802	110.119				
TR3 － 5	9	Flake	剥片	Ob	21	10	3.4	0.9	29171.870	-71389.052	110.076				
TR3 － 6	9	Chip	砕片	Ob	－	－	－	0.22	29171.793	-71388.799	110.076				
TR3 － 7	9	Chip	調整	Ob	－	－	－	0.38	29171.669	-71388.935	110.055				
TR3 － 8	9	Chip	調整	Ob	－	－	－	0.64	29171.711	-71388.433	110.040				
TR3 － 9	9	Flake	調整	Ob	24	16	6.2	2.15	29171.964	-71388.303	110.091				
TR3 － 10	9	Flake	調整	Ob	23	12	2.6	0.76	29172.025	-71388.186	110.088				
TR3 － 11	9	Flake	剥片	Ob	18	18	2.1	0.63	29172.555	-71388.384	110.068				
TR3 － 12	9	Flake	調整	Ob	23	17	2.9	1.08	29172.751	-71388.153	110.061				
TR3 － 13	9	Chip	調整	Ob	－	－	－	0.3	29173.947	-71388.129	110.033				



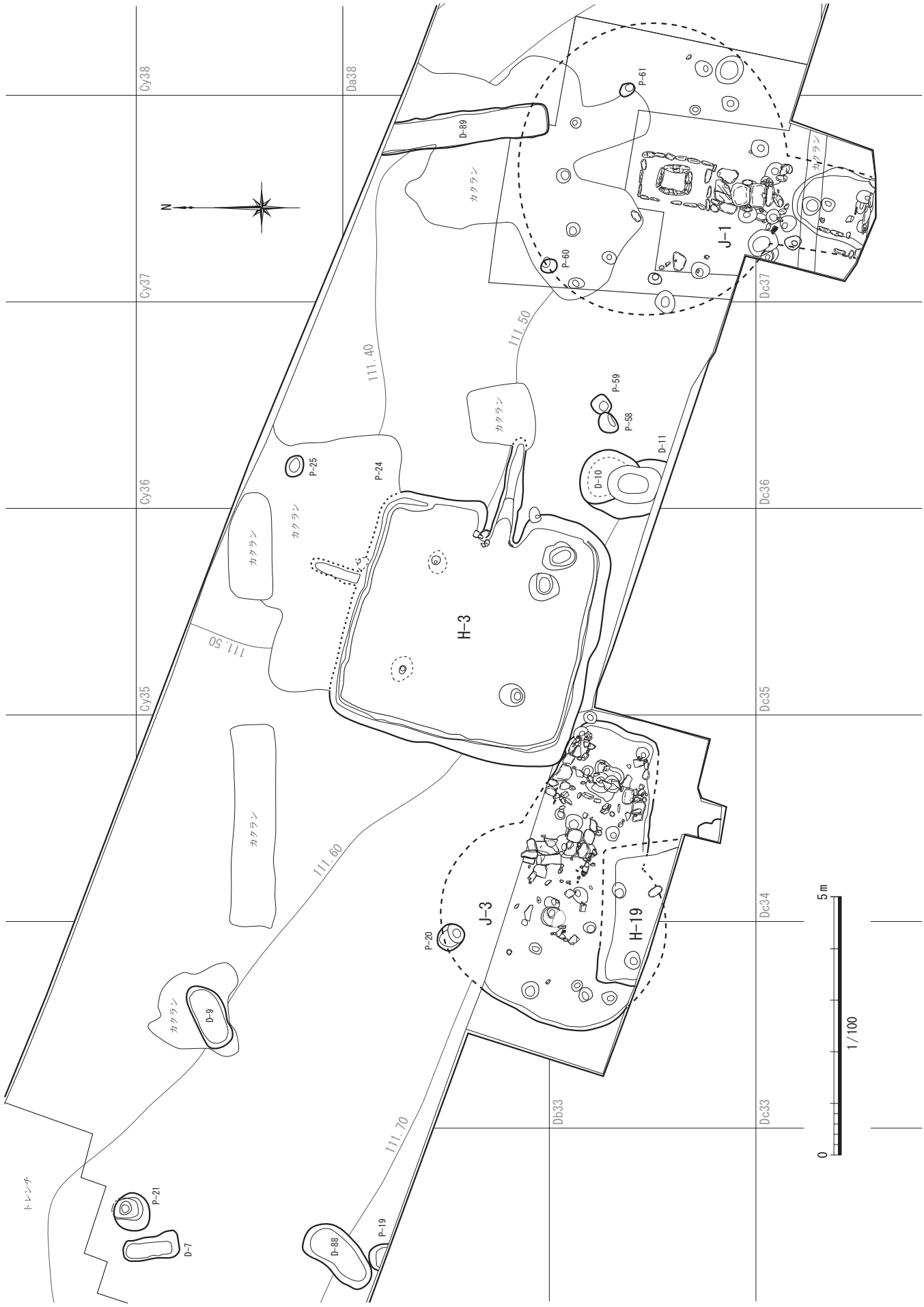
第 84 図　調査区全体図（縄文時代以降）



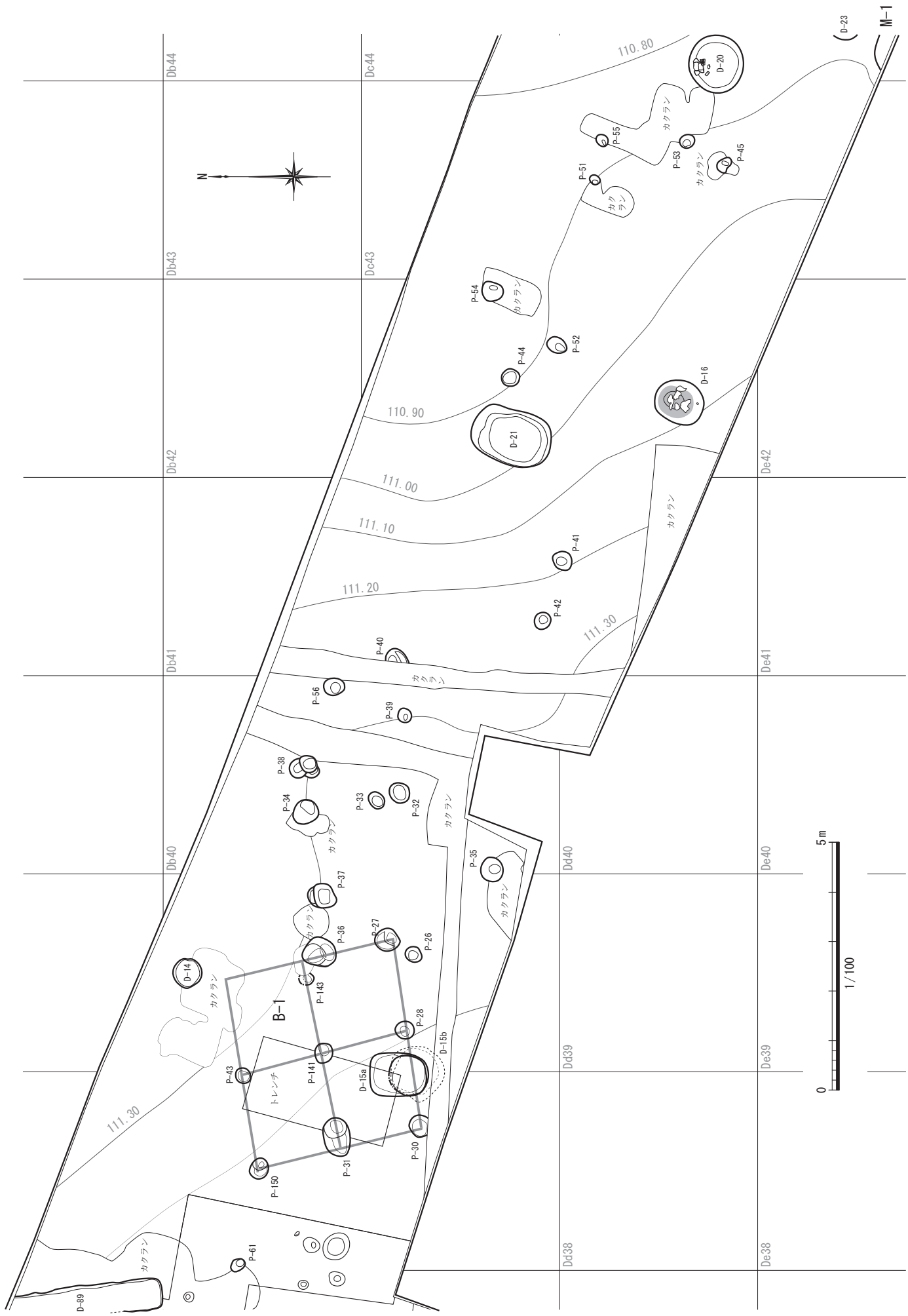
第 85 図　遺構位置図①（縄文時代以降）



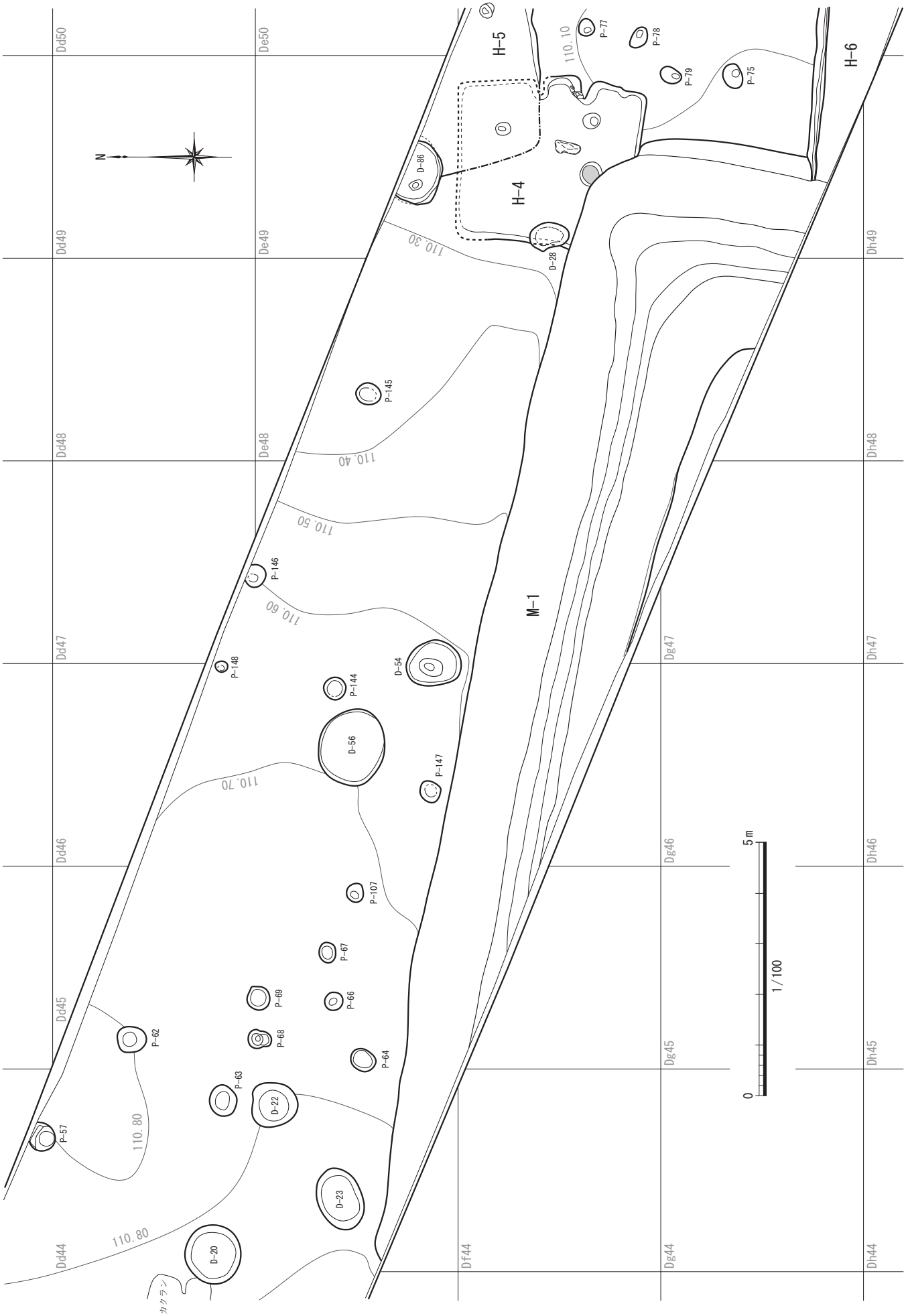
第 86 図　遺構位置図②（縄文時代以降）



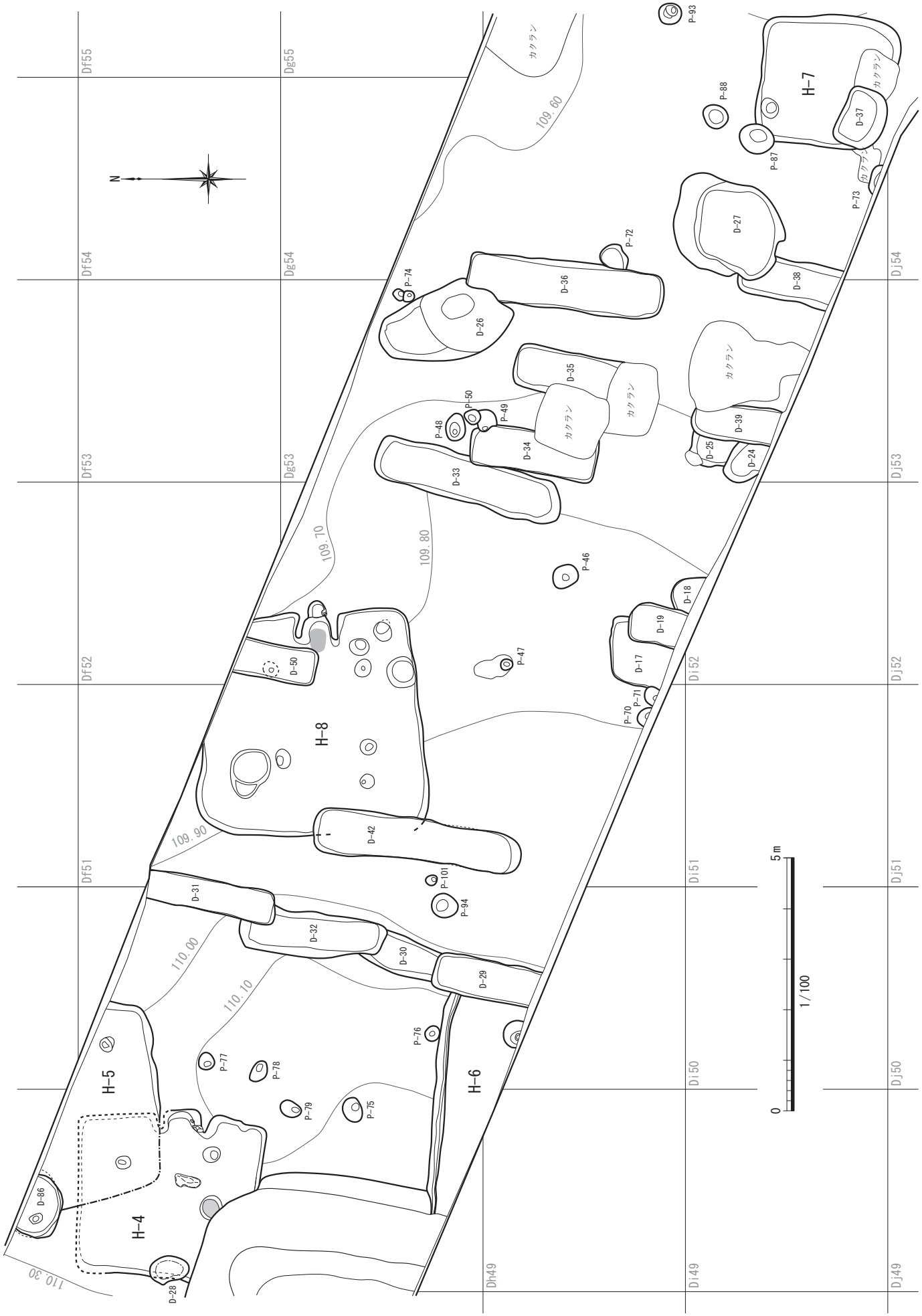
第 87 図　遺構位置図③（縄文時代以降）



第 88 図　遺構位置図④（縄文時代以降）

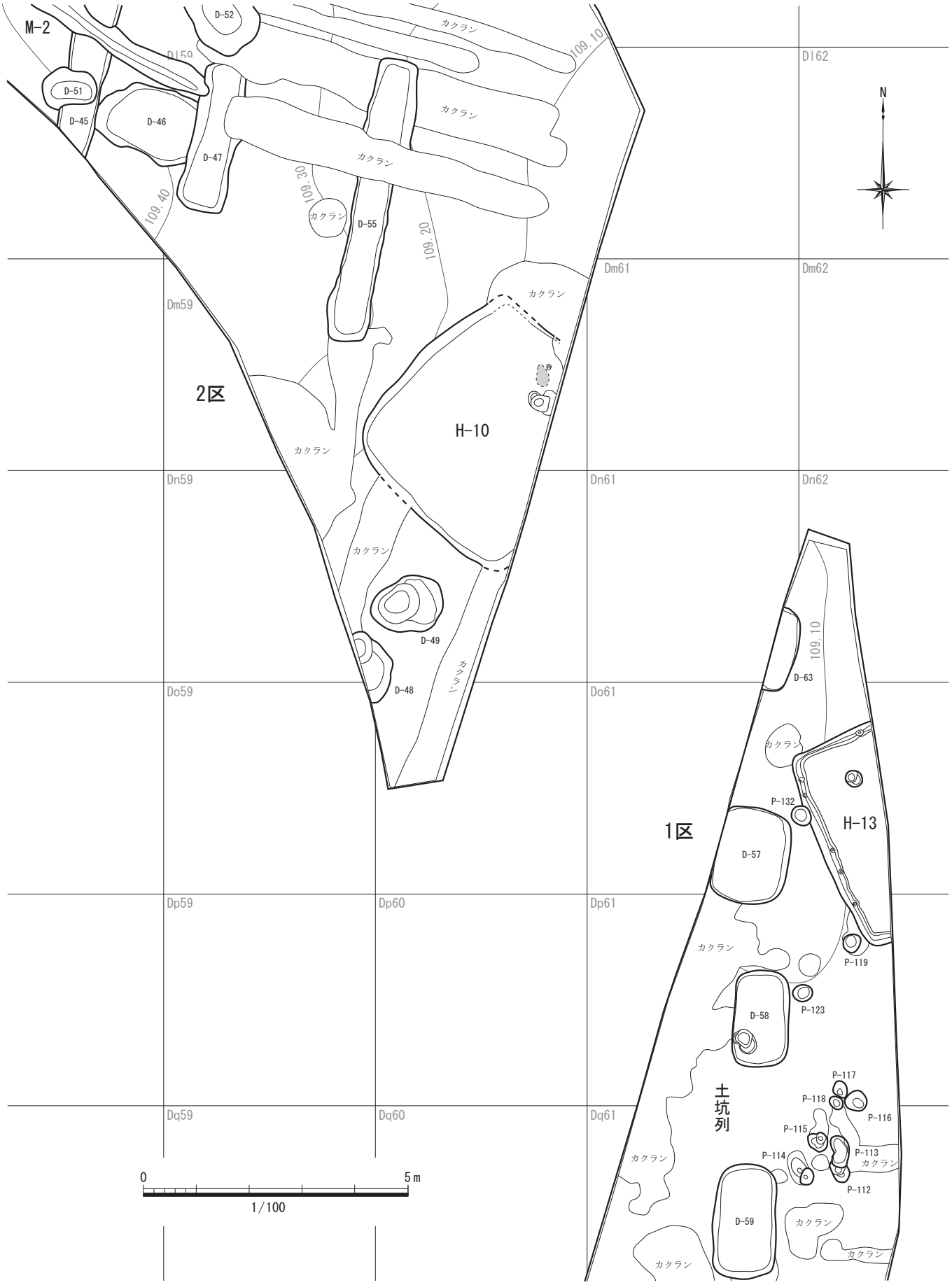


第 89 図　遺構位置図⑤（縄文時代以降）

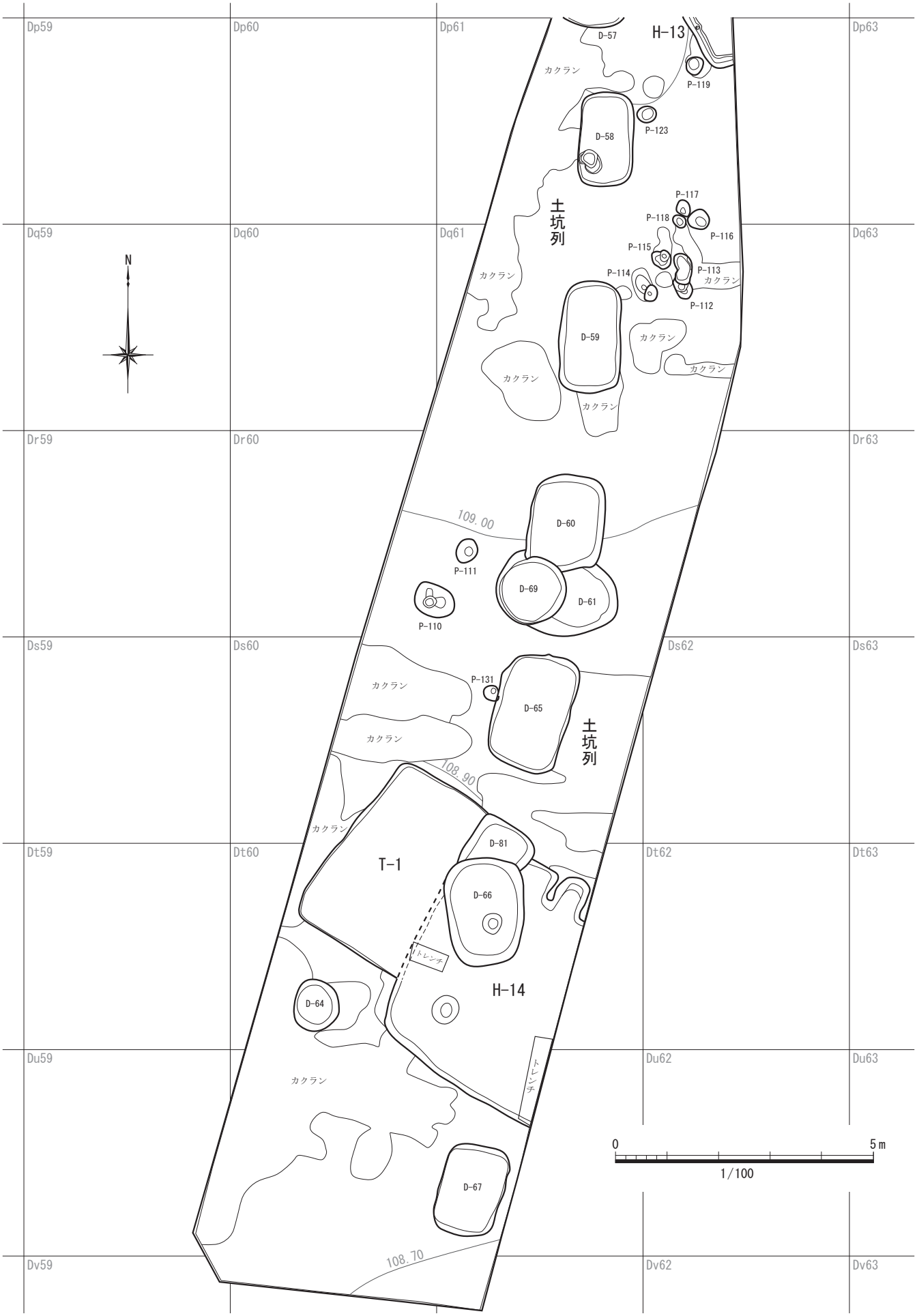


第 90 図　遺構位置図⑥（縄文時代以降）

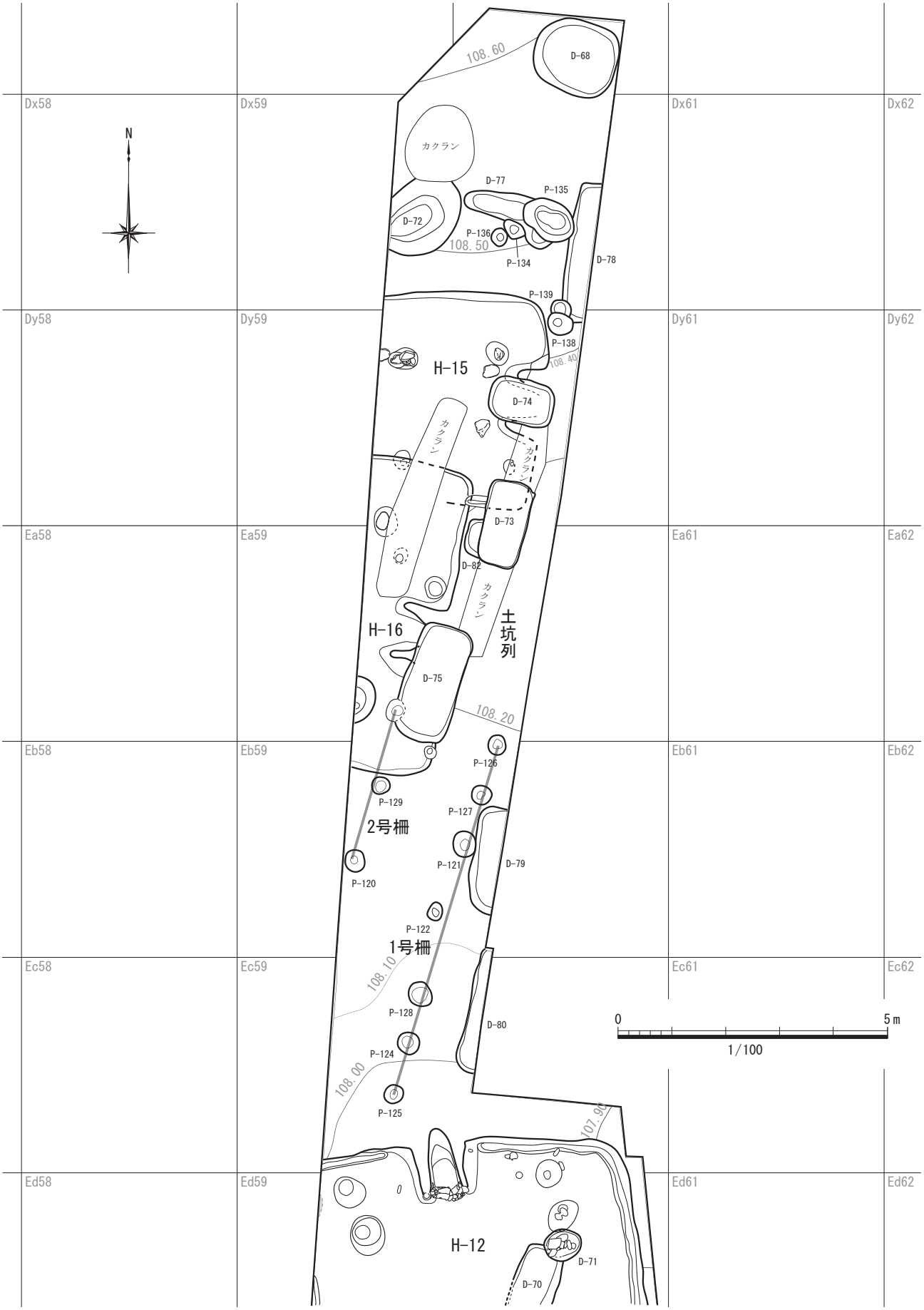
第 91 図　遺構位置図⑦（縄文時代以降）



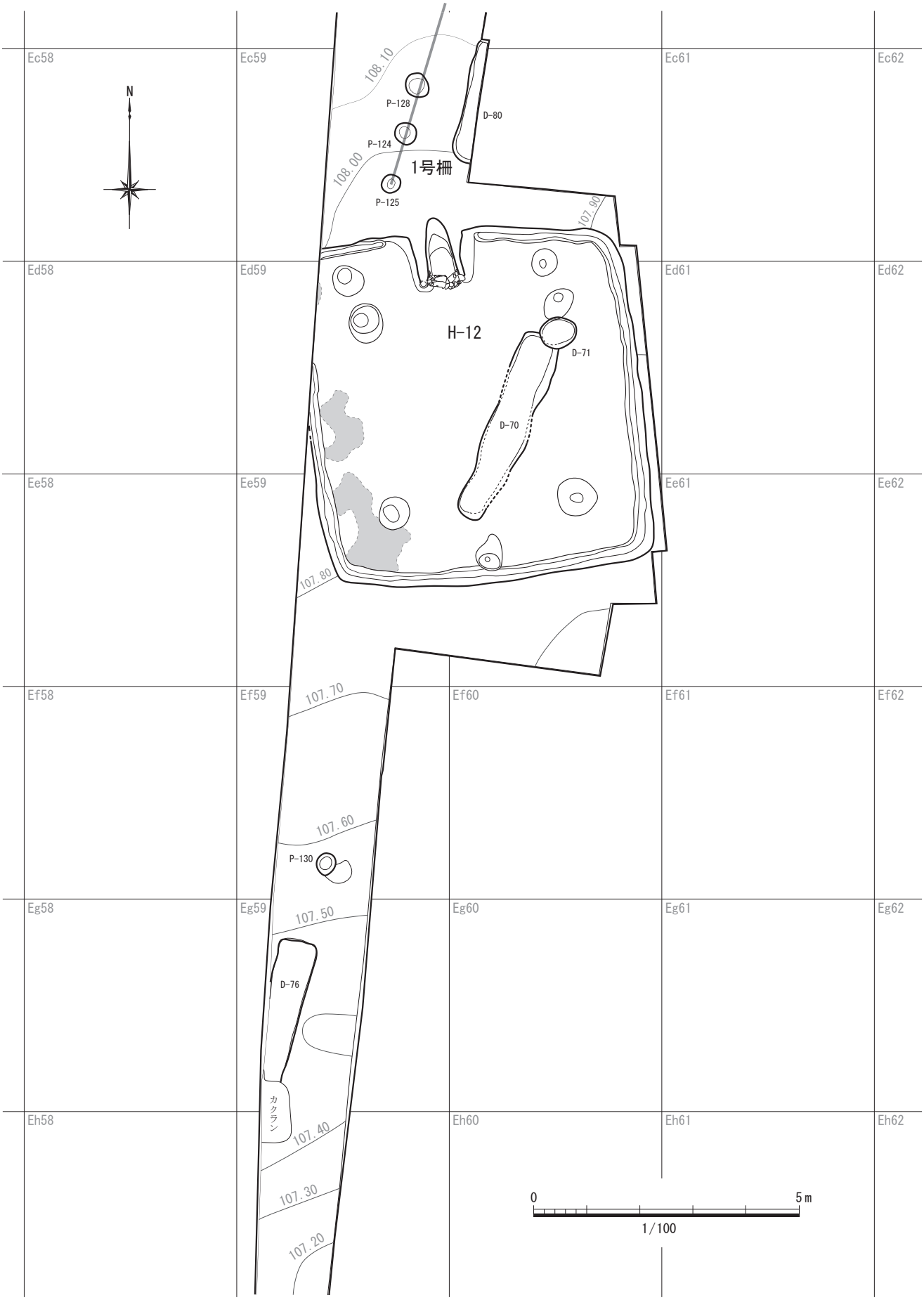
第 92 図　遺構位置図⑧（縄文時代以降）



第 93 図　遺構位置図⑨（縄文時代以降）



第 94 図　遺構位置図⑩（縄文時代以降）



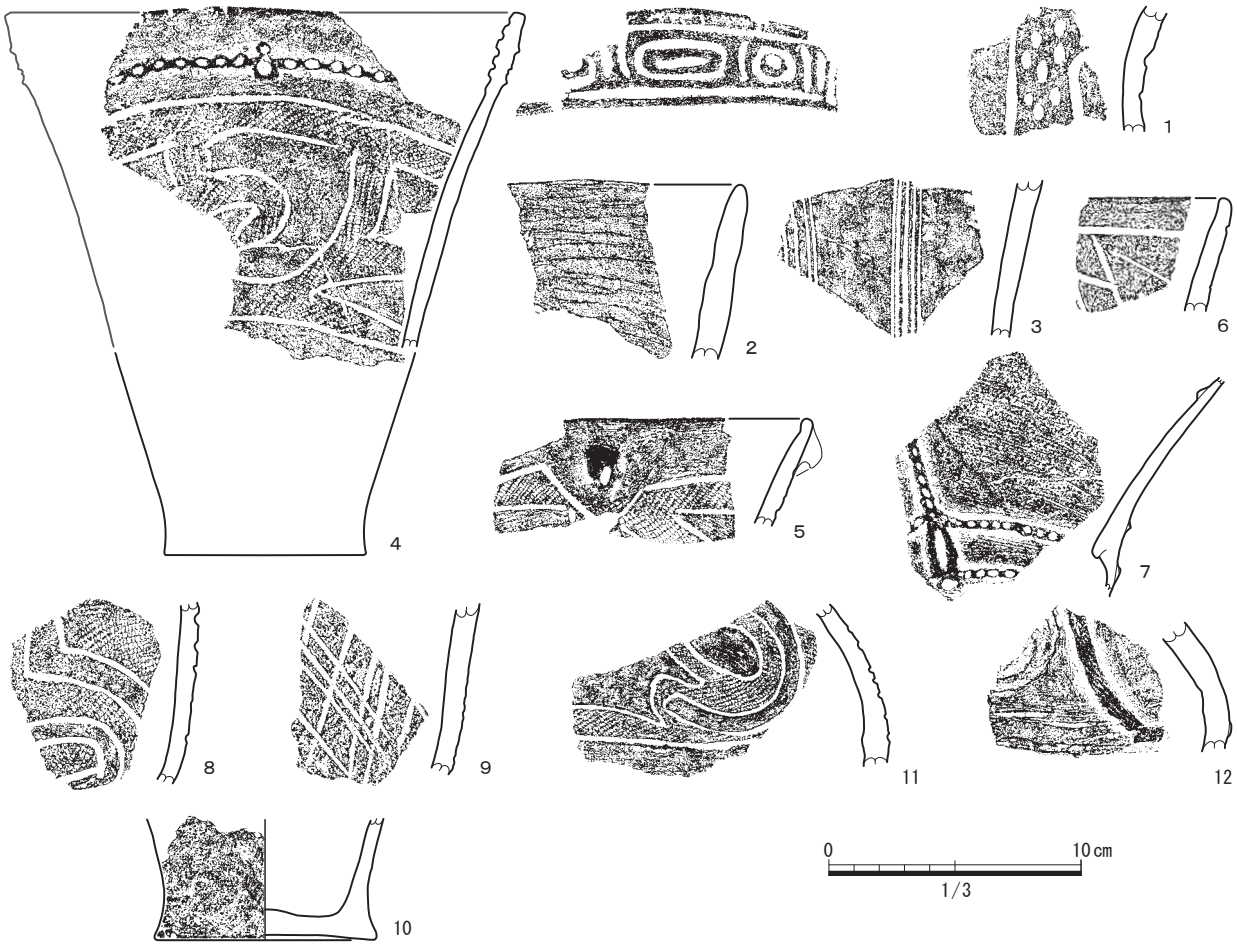
第 95 図　遺構位置図⑪（縄文時代以降）

第４節　縄文時代

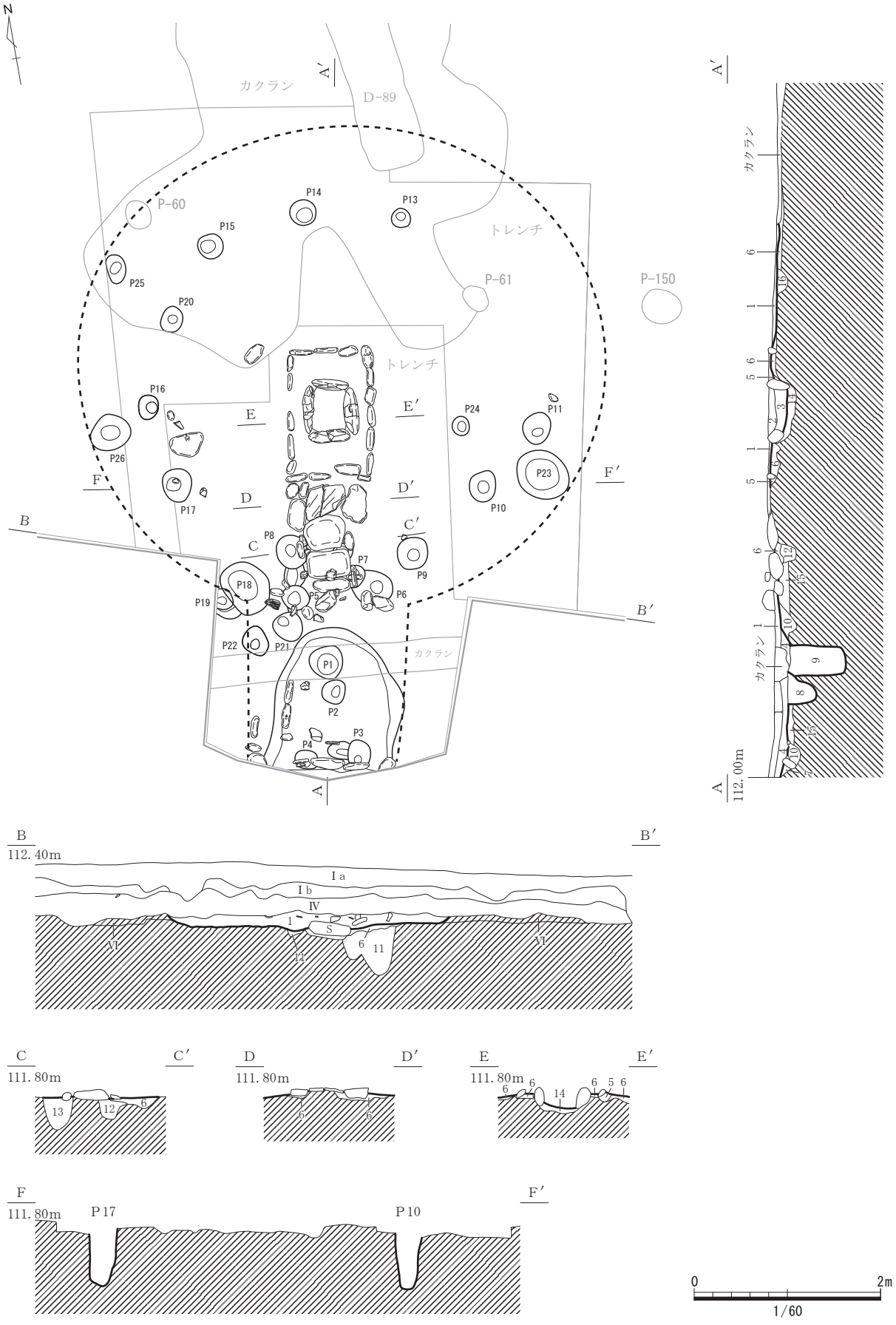
１．竪穴住居跡

Ｊ－１号住居跡（第 96 ～ 101 図、第 28・29 表、PL. 5・12・60・63・71）

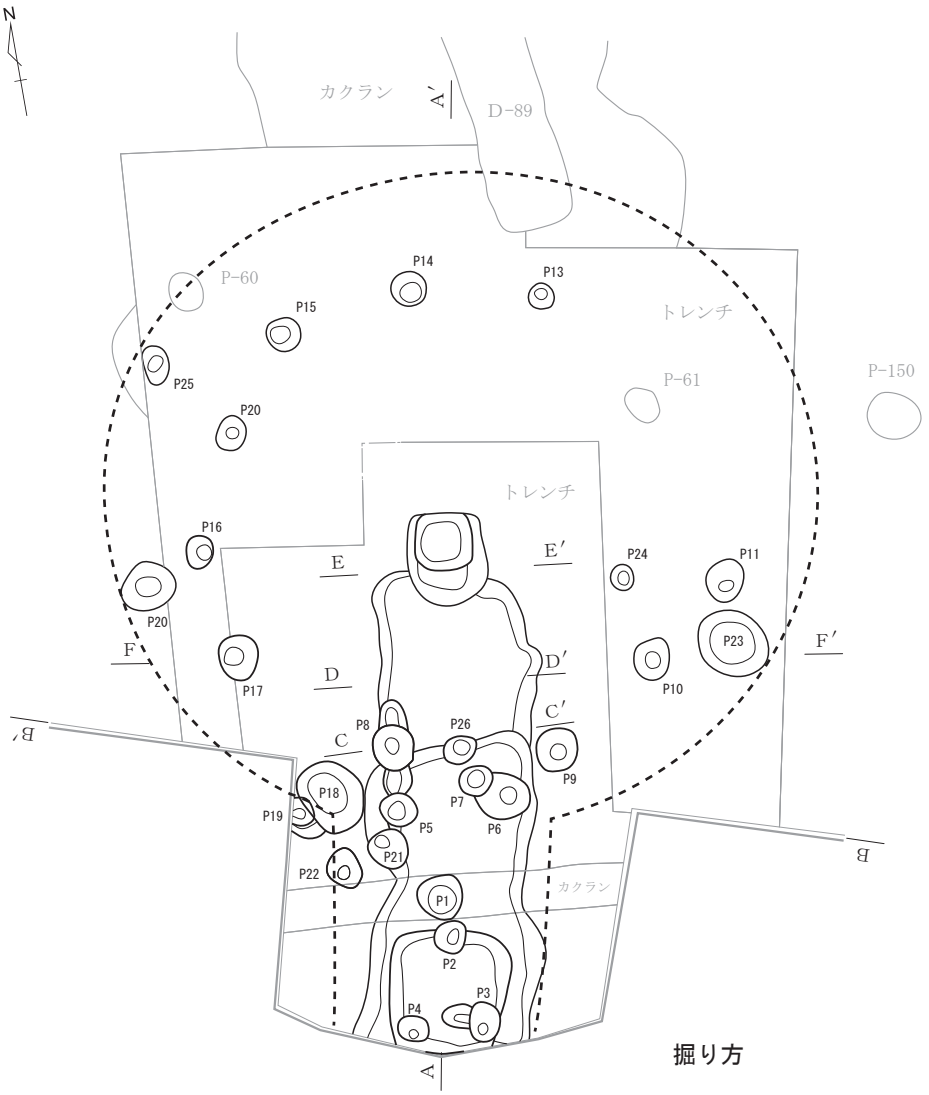
位置：２区。Da-37・38、Db-36 ～ 38、Dc-37 グリッド。**平面形態**：柄鏡形。カクランや削平により平面形は不明確で、柱穴や敷石の配置から推測した。敷石は部分的に施される。**重複**：Ｐ -60・61 と重複する。**規模**：長軸（7.05）ｍ、主体部幅（5.67）ｍ、張出部幅（1.73）ｍ。**深度**：主体部 0.03 ～ 0.22 ｍ、張出部 0.14 ｍ。**主軸方位**：Ｎ -10°- Ｅ。**炉**：石囲炉。主体部の中央やや南側に位置すると推測される。平面方形の土坑状を呈し、四方に大型の安山岩を据える。規模は 0.68 × 0.58 ｍ・深さ 0.20 ｍを測り、深さ 0.10 ｍの掘り方を有する。底面に被熱痕はないが、側礫の被熱による折損が著しい。**ピット**：地山と覆土の区別が難しく、その検出を助けるために主体部を 10 ㎝ほど掘り下げた。26 基確認。規則的に巡る深いＰ８～ 11・13 ～ 17・20 が柱穴に、Ｐ５・６が連結部の対ピットに想定される。柱穴のＰ９・11・14 はやや暗い褐灰色の覆土で締りが弱いことから地山と区別ができた。他の柱穴も下層では判別しやすくなる傾向にあった。張出部では中央に深いＰ１や張出南端に対のＰ３・４が配される。**床面の状態**：ローム層を地床とし、張出部の床面が段状に低くなる。敷石は炉周囲・連結部・張出部に設けられる。炉の周囲は中型の棒状扁平礫で平面長方形状（1.42 × 0.94 ｍ）に囲まれていた。連



第 96 図　Ｊ－１号住居跡遺物実測図①



第 97 図　Ｊ－１号住居跡遺構図①



J-1 ピット計測表

番号	長径	短径	深さ
P1	37	36	68
P2	26	24	31
P3	32	24	29
P4	25	20	31
P5	30	26	40
P6	43	36	49
P7	25	25	28
P8	36	33	32
P9	34	32	51
P10	34	28	68
P11	35	29	70
P12	欠番	－	－
P13	21	20	51
P14	28	28	54
P15	28	26	52
P16	23	21	62
P17	36	31	69
P18	59	47	20
P19	〈35〉	〈20〉	38
P20	27	22	60
P21	32	30	51
P22	30	27	27
P23	59	50	15
P24	20	18	29
P25	31	20	34
P26	44	39	16

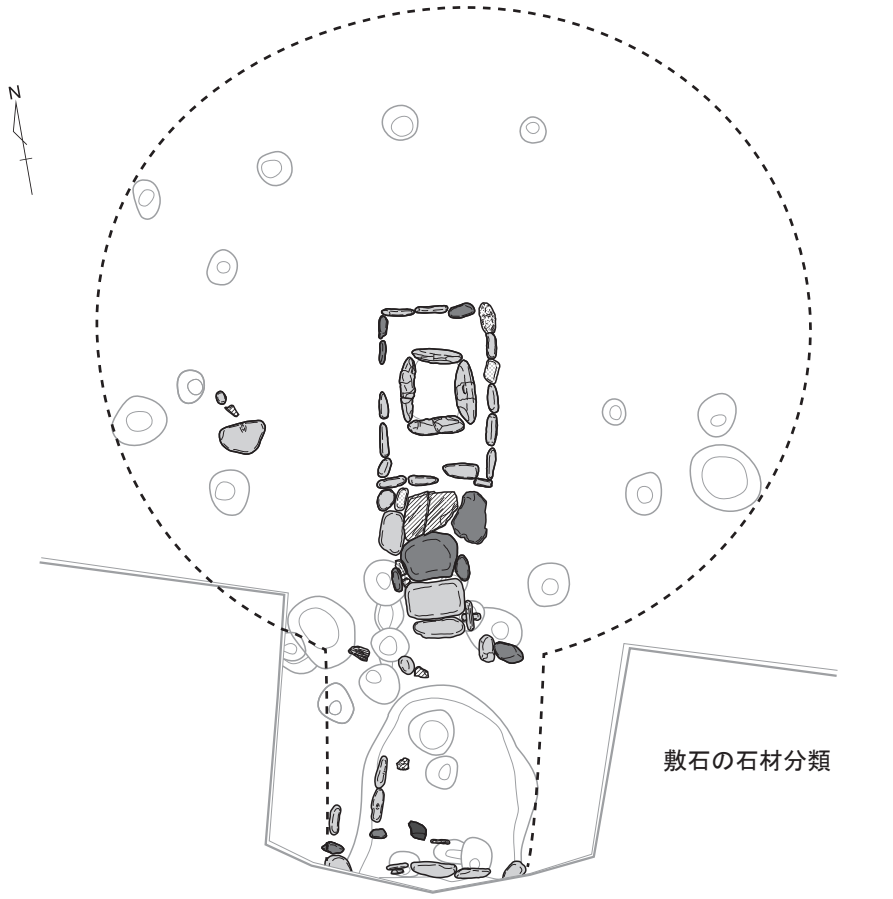
単位：cm

Ｊ－１土層注記

1　黄褐色土　締りあり　粘性弱　ローム粒多量
2　暗褐色土　締りあり　粘性ややあり　ローム粒中量
3　暗褐色土　締りあり　粘性弱　焼土粒中量　炭化物粒微量
4　褐色土　締り・粘性やや弱　ロームブロックφ0.5～2.0cm少量　黒褐色土φ1.0cm微量
5　褐色土　締り・粘性やや弱　ローム粒・白色軽石φ0.2cm少量
6　褐色土　締りやや弱　粘性ややあり　ローム粒中量　白色軽石φ0.2cm少量　As-YPφ0.2cm微量
7　にぶい黄褐色土　締りやや弱　粘性弱　白色軽石φ0.2cm・黄褐色土軽石φ0.2cm・焼土粒微量
8　にぶい黄褐色土　締りややあり　粘性やや強　ローム主体層　白色軽石φ0.2cm・炭化物少量
9　にぶい黄褐色土　締り・粘性ややあり　ローム粒中量　白色軽石φ0.2cm・炭化物少量　As-YPφ0.5cm微量
10　にぶい黄褐色土　締り・粘性やや弱　ローム主体層　白色軽石φ0.2cm少量　As-YPφ0.2cm微量
11　にぶい黄褐色土　締りやや弱　粘性ややあり　白色軽石φ0.2cm少量　As-YPφ0.2cm・炭化物微量
12　にぶい黄褐色土　締りやや弱　粘性やや弱　ローム主体層　白色軽石φ0.2cm・炭化物微量
13　にぶい黄褐色土　締りやや弱　粘性あり　ローム主体層　炭化物少量　白色軽石φ0.2cm微量
14　暗褐色土　締り・粘性ややあり　ロームブロックφ1.0～2.0cm・黒褐色土・焼土φ0.5～0.8cm・白色軽石少量
15　にぶい黄褐色土　締りややあり　粘性あり　白色軽石φ0.2cm少量
16　褐色土　締り弱　粘性やや弱　As-YPφ0.5～1.0cm・黒褐色土・炭化物少量

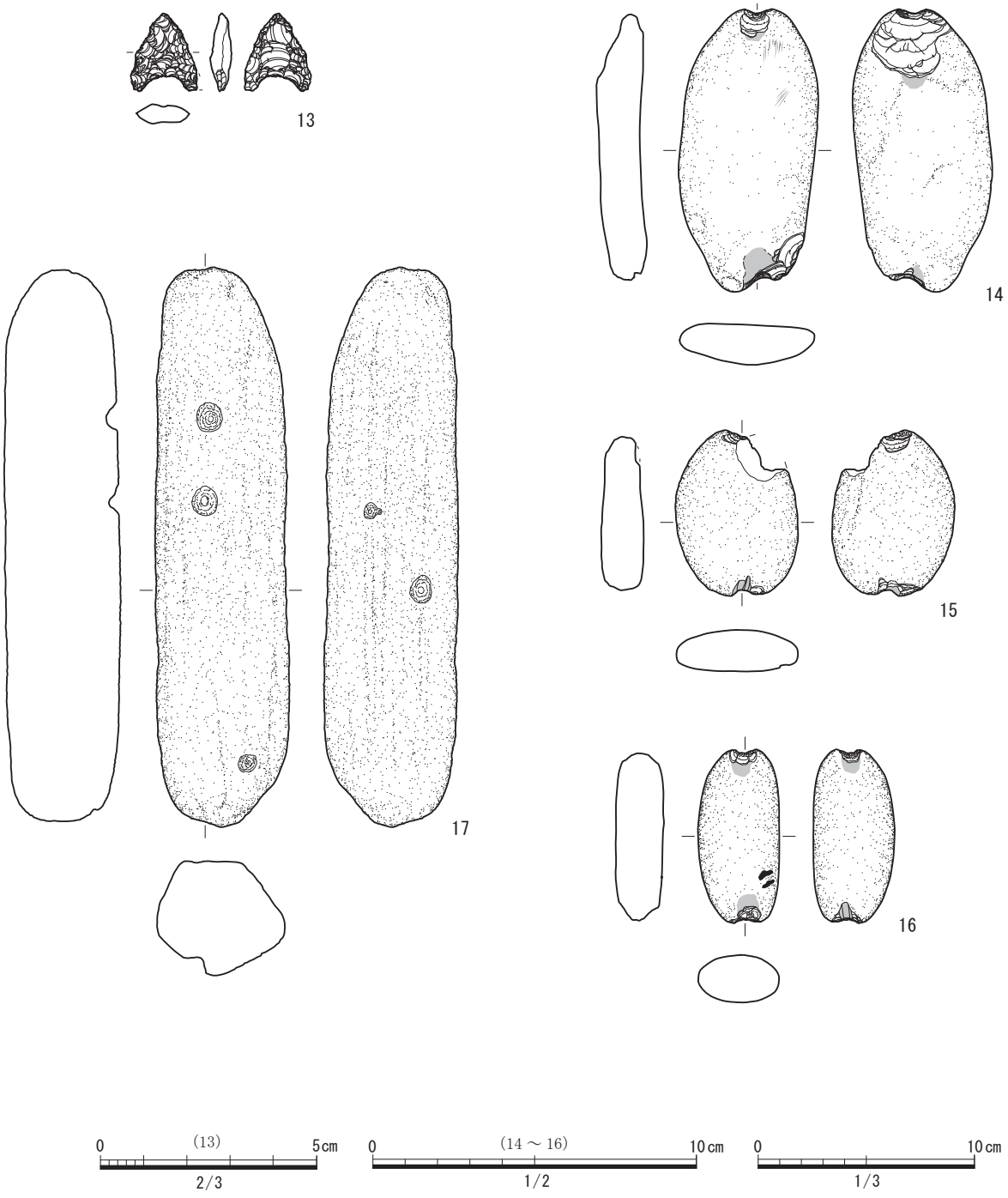
0　2m
1/60

第98図　Ｊ－１号住居跡遺構図②

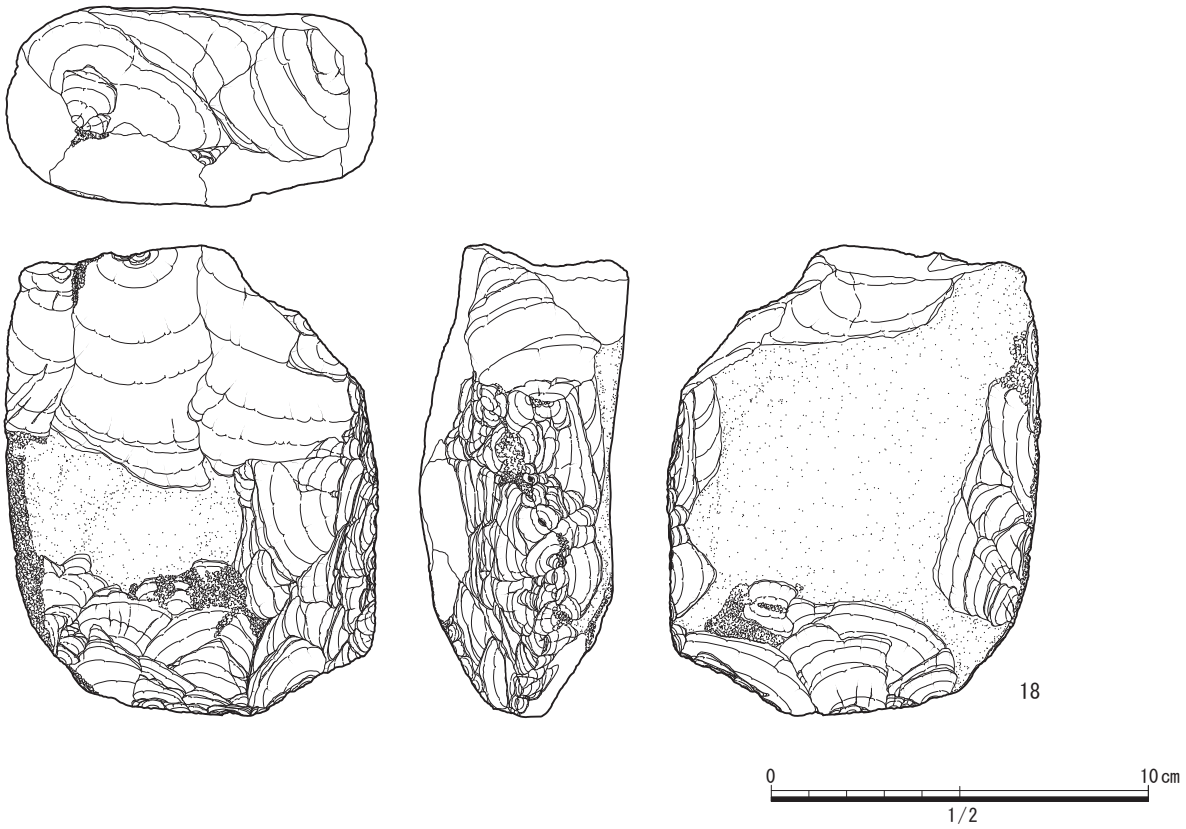


第 99 図　Ｊ－１号住居跡遺構図③

結部では大型扁平の河原石や板状の片岩などが整然と配置される。張出部では西・南壁面に沿って中型礫が列状に並ぶ。西壁側には列が２条みられ、段状を呈する掘り込みを反映して標高が異なる。**覆土**：地山ローム層に似た黄褐色土・褐灰色土が埋没する。**掘り方**：連結部がやや深くなり、張出部南側に平面方形の掘り込みがみられる。**出土遺物**：出土量はやや多く、連結部に集中する。縄文土器（深鉢・注口土器）、石器（石鏃・石錘・石棒・石核）が検出された。縄文土器は小片が主体を占める。**時期**:出土遺物から後期前葉堀之内２式期に比定される。



第 100 図　Ｊ－１号住居跡遺物実測図②



第 101 図　Ｊ－１号住居跡遺物実測図③

第 28 表　Ｊ－１号住居跡出土遺物観察表①

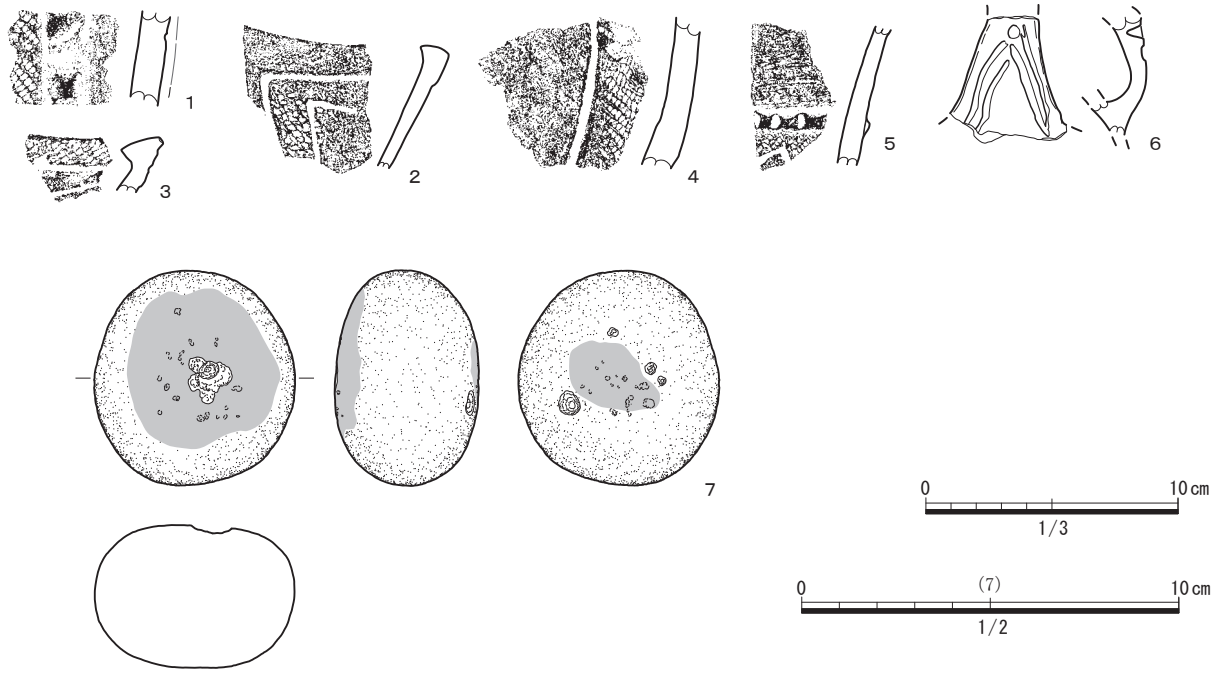
番号	器種	法量(cm)（推定値）		残存	色調	胎土	焼成	成整形の特徴	備考（出土層位等）
1	縄文土器 深鉢	口径 底径 器高	－ － －	胴部破片	橙 7.5YR6/6 橙 7.5YR6/8	白色粒	普通	内･外面とも横位ナデ。外面、沈線文と比較的密な列点文。	覆土一括 後期初頭称名寺Ⅱ式
2	縄文土器 深鉢	口径 底径 器高	－ － －	口縁部破片	橙 5YR6/6 橙 7.5YR6/6	白色粒、チャート	普通	内面横位ナデ。外面、無数の畝をなす横位の調整痕。	後期初頭
3	縄文土器 深鉢	口径 底径 器高	－ － －	胴部破片	にぶい橙 7.5YR6/4 にぶい橙 7.5YR6/4	白色粒、チャート	普通	内面ナデ。外面、櫛歯状工具によるまばらな縦位条線。	後期初頭
4	縄文土器 深鉢	口径 底径 器高	－ － －	口縁部～ 胴部破片	褐 7.5YR4/3 褐 7.5YR4/3	白色粒、チャート	普通	内・外面とも横位ナデ。外面口縁部、横位鎖状隆線、８字状貼付文。胴部、沈線による渦巻状文、単節ＬＲによる充填縄文。	後期前葉 堀之内２式
5	縄文土器 深鉢	口径 底径 器高	－ － －	口縁部破片	にぶい赤褐 5YR5/4 明赤褐 5YR5/6	白色粒、チャート、片岩	普通	内面横位ナデ、外面ナデ。外面口縁部、８字状貼付文。胴部、沈線による幾何学文、単節ＬＲによる充填縄文。	後期前葉 堀之内２式
6	縄文土器 深鉢	口径 底径 器高	－ － －	口縁部破片	にぶい褐 7.5YR5/4 明赤褐 5YR5/6	白色粒、チャート	普通	内・外面とも横位ナデ。外面口縁部、横位沈線１条。直下の胴部、格子目状とおぼしき沈線文。単節縄文ＲＬ。	後期前葉 堀之内２式
7	縄文土器 深鉢	口径 底径 器高	－ － －	胴部破片	灰黄褐 10YR6/2 灰黄褐 10YR6/2	白色粒	良好	内・外面とも横位ナデ。口唇部および頸部に浅い段あり。外面、縦位および横位の鎖状隆線、８字状および紡錘状の貼付文。	後期前葉 堀之内２式
8	縄文土器 深鉢	口径 底径 器高	－ － －	胴部破片	橙 7.5YR6/6 にぶい橙 7.5YR7/4	白色粒、チャート	普通	内・外面ともナデ。外面、渦巻状に近似する沈線文、単節ＬＲによる充填縄文。	後期前葉 堀之内２式
9	縄文土器 深鉢	口径 底径 器高	－ － －	胴部破片	にぶい黄橙 10YR6/4 橙 7.5YR6/6	白色粒、チャート	普通	内面横位ナデ。外面、地文として単節縄文ＬＲ。格子目状文。	覆土一括 後期前葉 堀之内２式
10	縄文土器 深鉢	口径 底径 器高	－ 12.0 －	底部破片	にぶい赤褐 5YR5/4 10YR5/2 灰黄褐	白色粒、チャート	良好	内・外面ともナデ。残存範囲において無文。	後期前葉
11	縄文土器 注口土器	口径 底径 器高	－ － －	胴部破片	にぶい赤褐 5YR5/4 にぶい橙 7.5YR6/4	白色粒、チャート、褐色粒	良好	内・外面とも横位ナデ。外面、渦巻状に近似する沈線文、単節ＬＲによる充填縄文。	後期前葉 堀之内２式
12	縄文土器 注口土器	口径 底径 器高	－ － －	胴部破片	褐灰 10YR5/1 にぶい黄橙 10YR7/3	白色粒	普通	内面横位ナデ、外面ナデ。注口部付近の部位。外面、横位および斜位の低い隆帯に単節縄文ＬＲを付加。	後期前葉 堀之内２式

第 29 表　Ｊ－１号住居跡出土遺物観察表②

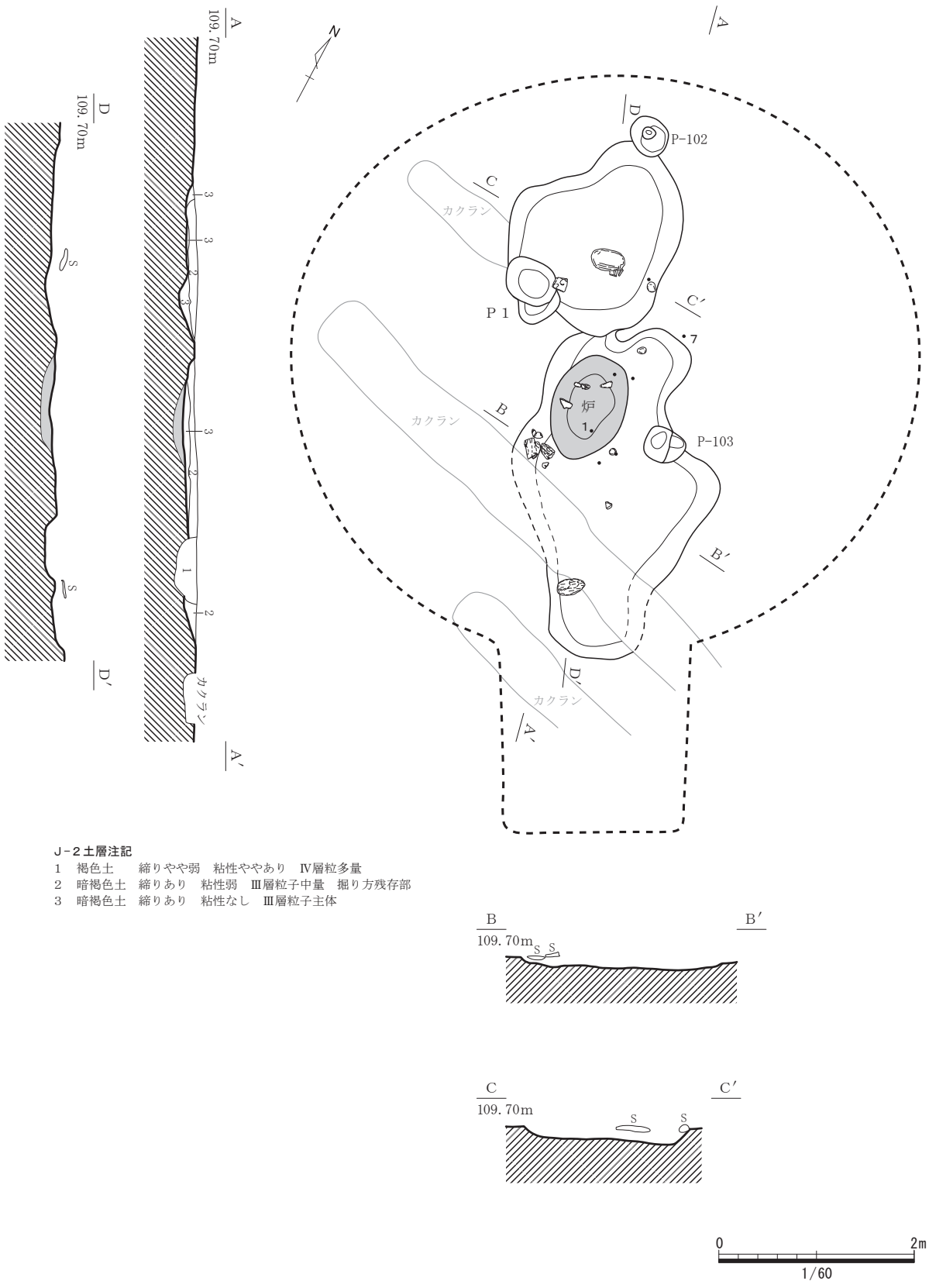
番号	器種	法量（残存値）	残存	石材	特徴	備考（出土層位等）
13	石鏃	長さ1.79cm、幅1.54cm、厚さ0.49cm 重さ0.98g	基部欠損	黒曜石	剥片素材。凹基石鏃。	
14	石錘	長さ8.71cm、幅4.30cm、厚さ1.27cm 重さ74.94g	完形	輝石安山岩	礫素材。両端に敲打あるいは剥離によって抉りが形成される。抉り部分には部分的に磨耗痕が残る。	
15	石錘	長さ5.11cm、幅3.78cm、厚さ1.27cm 重さ34.48g	上端部欠損	結晶片岩	礫素材。両端に敲打あるいは剥離によって抉りが形成される。抉り部分には部分的に磨耗痕が残る。	
16	石錘	長さ5.35cm、幅2.50cm、厚さ1.46cm 重さ37.70g	完形	輝石安山岩	礫素材。両端に敲打あるいは剥離によって抉りが形成される。抉り部分には部分的に磨耗痕が残る。	
17	石棒	長さ25.88cm、幅6.23cm、厚さ5.40cm 重さ1345.80g	完形	緑泥片岩	礫素材。棒状礫の平坦部分に散漫に凹みが形成される。	床面出土
18	石核	長さ12.44cm、幅9.88cm、厚さ5.52cm 重さ1081.66g	完形	ホルンフェルス	礫素材。扁平礫を素材にし、不規則な方向から剥離される。	

Ｊ－２号住居跡（第 102・103 図、第 30 表、PL. 13・61・63）

位置：２区。Di-57・58、Dj-57・58 グリッド。**平面形態**：不明。表土やカクランで著しく削平され、浅い掘り込みと炉跡のみの検出にとどまる。**重複**：P -102・103 と重複する。**規模**：長軸〈5.35〉m、短軸〈1.77〉m。**深度**：0.18 m。**主軸方位**：N -28°- W。**炉**：1.08 × 0.76 mを測る平面楕円形の範囲に被熱痕がみられる。**柱穴**：確認されなかった。**床面の状態**：ほとんど削平されている。ローム層を地床とし、炉を通る主軸線に沿ってやや窪むものと推測される。**覆土**：暗褐色土が埋没する。**出土遺物**：出土量は少ない。縄文土器（深鉢・注口土器）、石器（凹石）が出土し、縄文土器は細片のみである。板状礫・扁平礫が散見される。**時期**：出土遺物から、縄文時代後期前半に比定される。



第 102 図　Ｊ－２号住居跡遺物実測図



Ｊ－２土層注記

1　褐色土　　締りやや弱　粘性ややあり　Ⅳ層粒多量
2　暗褐色土　締りあり　粘性弱　Ⅲ層粒子中量　掘り方残存部
3　暗褐色土　締りあり　粘性なし　Ⅲ層粒子主体

第 103 図　Ｊ － ２号住居跡遺構図

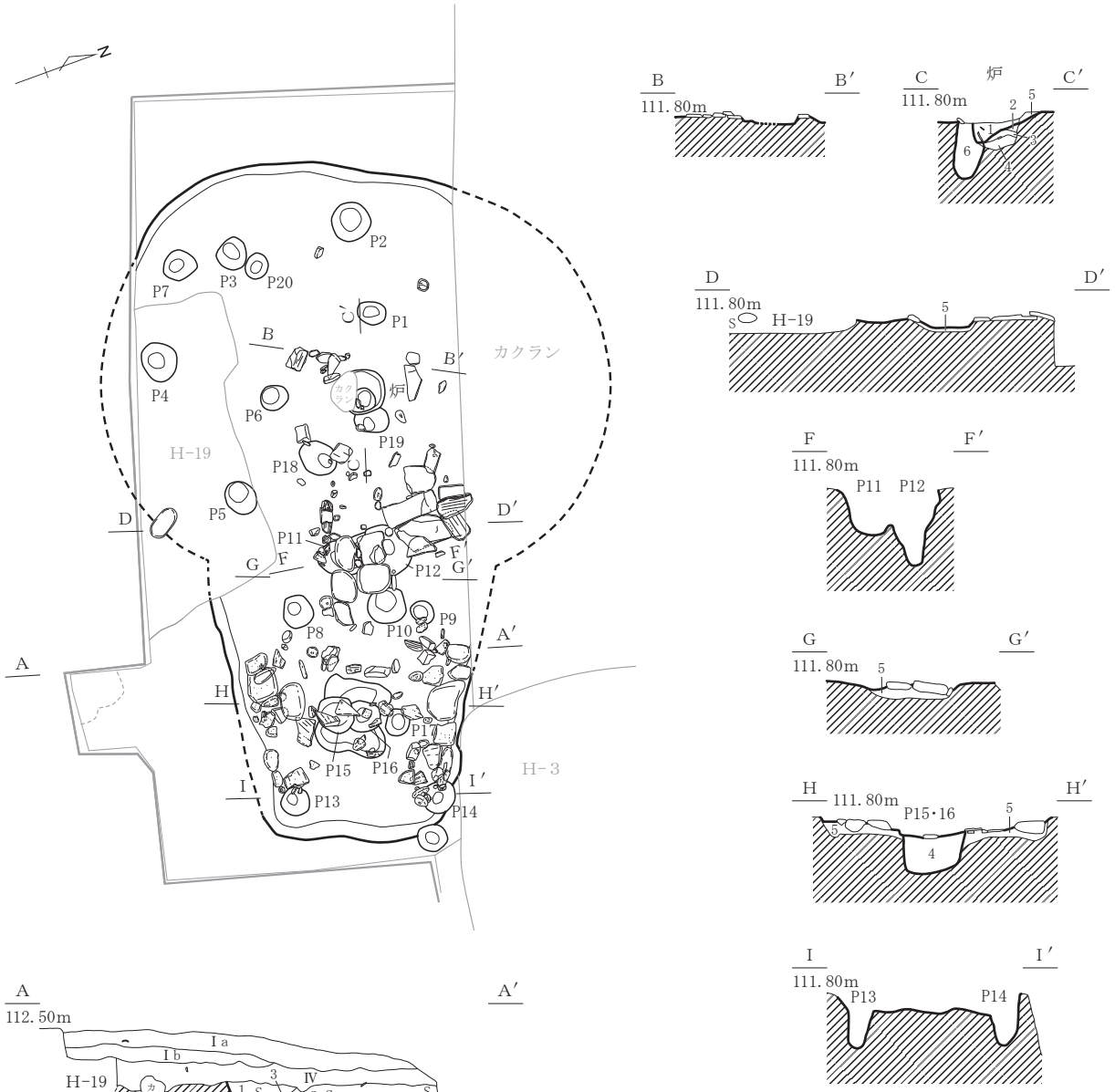
第 30 表　Ｊ－２号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)（推定値）		残存	色調	胎土	焼成	成整形の特徴	備考（出土層位等）
1	縄文土器深鉢	口径 底径 器高	－ － －	胴部破片	明赤褐 5YR5/8 明赤褐 5YR5/8	白色粒、チャート、褐色粒	普通	内面横位ナデ、外面縦位ナデ。外面、微隆起線文、縦位回転押捺による単節縄文ＬＲ。	中期後葉 加曽利ＥⅣ式
2	縄文土器深鉢	口径 底径 器高	－ － －	口縁部破片	明赤褐 5YR4/6 褐 7.5YR4/4	白色粒	普通	内面横位ナデ、外面ナデ。内面口唇部に稜あり。外面沈線文、単節ＬＲによる充填縄文。	覆土一括 後期初頭 称名寺Ⅰ式
3	縄文土器深鉢	口径 底径 器高	－ － －	口縁部破片	にぶい赤褐 5YR4/3 にぶい赤褐 5YR4/3	白色粒、チャート、片岩	普通	内面横位ナデ、外面ナデ。内・外面口唇部に稜あり。外面沈線文、単節ＬＲによる充填縄文。２とは縄文施文域が逆。	覆土一括 後期初頭 称名寺Ⅰ式
4	縄文土器深鉢	口径 底径 器高	－ － －	胴部破片	褐 7.5YR4/4 にぶい橙 5YR6/4	白色粒、チャート、片岩	普通	内・外面ともナデ。外面、沈線および単節縄文ＬＲ。	覆土一括 後期初頭 称名寺Ⅰ式
5	縄文土器深鉢	口径 底径 器高	－ － －	胴部破片	にぶい黄橙 10YR7/4 にぶい黄橙 10YR7/4	白色粒、チャート	普通	内・外面とも横位ナデ。外面、鎖状隆線の直下に沈線および単節縄文ＬＲ。	トレンチ出土 後期前葉 堀之内２式
6	縄文土器注口土器	口径 底径 器高	－ － －	把手破片	にぶい橙 10YR6/4 にぶい橙 10YR6/4	白色粒、褐色粒	良好	表面ナデ。刺突文１か所、２条１組の沈線文。	トレンチ出土 後期前葉 堀之内２式

番号	器種	法量（残存値）	残存	石材	特徴	備考（出土層位等）
7	凹石	長さ8.52cm、幅7.97cm、厚さ5.72cm 重さ543.72g	完形	輝石安山岩	礫素材。扁平な礫を素材として、表裏の平坦面中央部に集中して凹みが形成される。表面には磨り痕が残る。	

Ｊ－３号住居跡（第 104 ～ 111 図、第 31・32 表、PL.6・14・61・62・63・64・71）

位置：２区。Da-33・34、Db-33・34 グリッド。**平面形態**：柄鏡形。主体部は削平により不明瞭であった。張出部は台形状を呈する。敷石が部分的に施される。**重複**：Ｈ－３・19 号住居跡と重複し、本遺構が古い。**規模**：長軸 5.89 ｍ、主体部幅（4.45）ｍ、張出部幅（1.50 ～ 2.52）ｍ。**深度**：主体部 0.06 ～ 0.16 ｍ、張出部 0.22 ｍ。**主軸方位**：Ｎ－70°－Ｗ。**炉**：主体部のほぼ中央に位置する。平面円形の土坑状を呈し、規模は径 0.38 ｍ・深さ 0.12 ｍを測る。東側に小ピット状の掘り込みが穿たれていた。その掘り込みに沿って著しく被熱した土器片が検出されており、小ピット壁面に据えられていたものの一部と考えられる。西壁・底面がやや被熱し、その下には深さ 0.15 ｍの掘り方を有する。周囲には礫が散見された。**ピット**：20 基確認。主体部の壁面近くを規則的に巡る深いＰ２・３・４・５が柱穴に、Ｐ 11・12 が連結部の対ピットに想定される。張出部には副軸方向に並ぶＰ８・９・10、Ｐ 15・16・17 や張出部隅のＰ 13・14 が配される。Ｐ 19 は炉跡より古い。**床面の状態**：ローム層を地床とし、主体部中央から張出部にかけて床面が低くなる。敷石は主に連結部や張出部に設けられる。連結部では大型扁平の河原石や板状の砂岩が規則的に、その北西側には板状剝離した大型片岩が密に配置される。張出部には側壁面に沿って中～大型礫が帯状に並び、中型礫による副軸方向の列が２条みられる。なお、小型の礫も多く大型礫の間を塞いでいるものも散見される。**覆土**：地山ローム層に似たにぶい黄褐色土が埋没する。**掘り方**：連結部から張出部にわたる帯状の浅い掘り込みや壁面に沿った周溝状の掘り込みがみられる。**出土遺物**：出土量は多く、主体部中央から張出部にかけて集中する。縄文土器（深鉢・小型深鉢・注口土器・蓋）、石器（石鏃・打製石斧・磨製石斧・凹石・磨石・石皿・台石・石錘・敲打石製品）が検出された。縄文土器は細片が主体を占めるものの、張出部北東側において深鉢の大型片（８・９）がまとまって出土している。９は底部を除いて復元できた。なお、凹石・磨石が敷石に再利用されている。**時期**：出土遺物から後期前葉堀之内１式期に比定される。



Ｊ－３土層注記

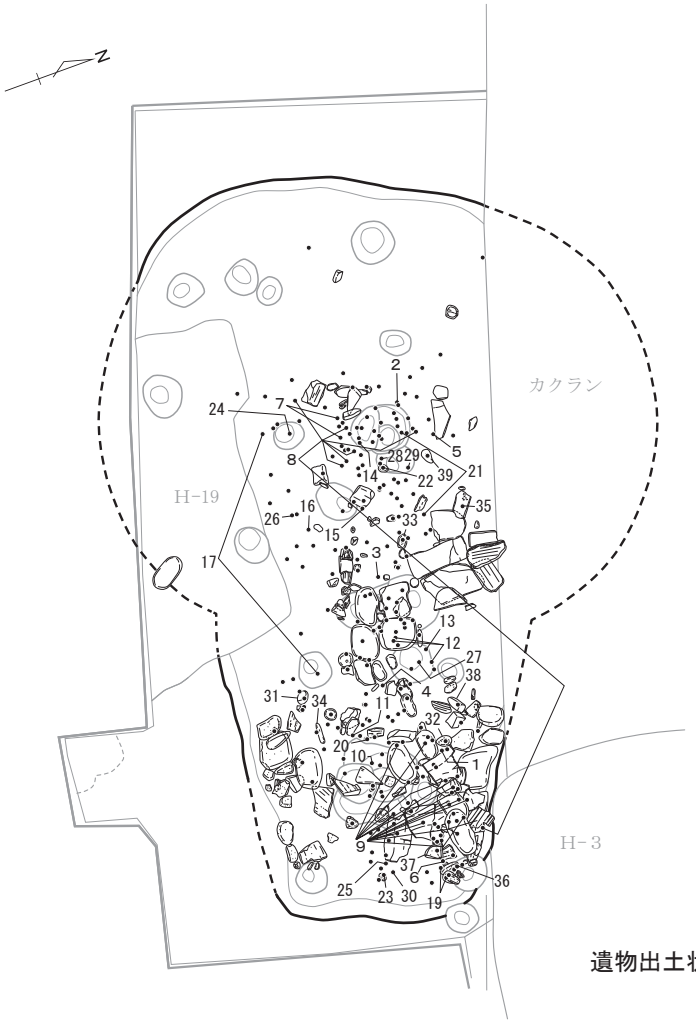
1	にぶい黄褐色土	締りやや強　粘性なし　ロームブロックφ2.0～3.0cm多量 ローム粒（As-YP）少量　炭化物微量
2	にぶい黄褐色土	締りやや強　粘性なし　ローム主体層 灰黄褐色土ブロックφ1.0～3.0cmやや多量
3	黄褐色土	締りやや強　粘性ややあり　ローム主体層　ローム粒（As-YP）少量
4	ローム主体	炭化物微量
5	ローム主体	炭化物微量

Ｊ－３炉　土層注記

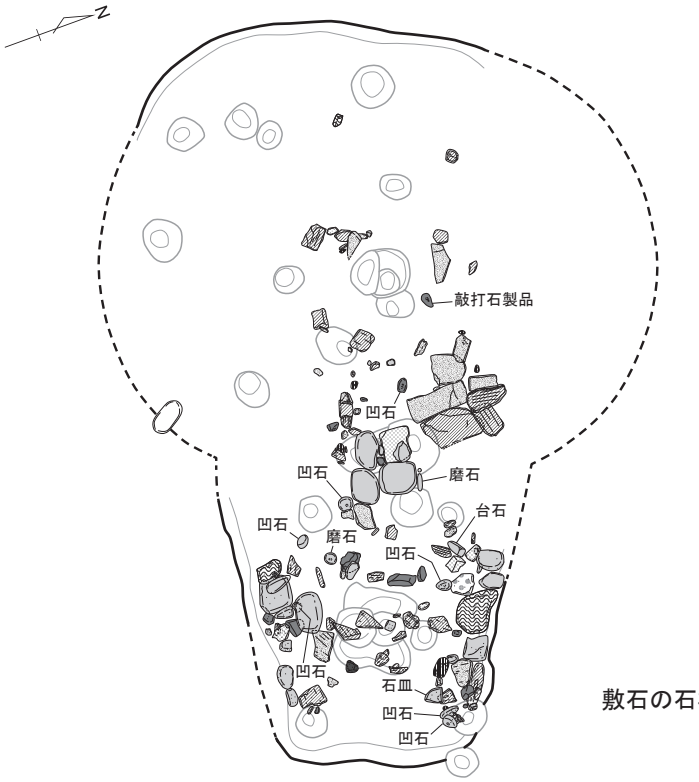
1	灰黄褐色土	締り弱　粘性なし　ローム・焼土微量 ロームブロックφ1.0～2.0cm微量　炭微量
2	にぶい黄褐色土	締り弱　粘性なし　ロームブロック・ 焼土ブロックφ1.0～2.0cm多量
3	黒褐色土	締り弱　粘性なし　ローム・焼土多量
4	浅黄色土	締り弱　粘性なし　焼土やや多量
5	黄褐色土	締り弱　粘性なし　ローム主体層
6	浅黄色土	締り弱　粘性なし　焼土少量

0　2m
1/60

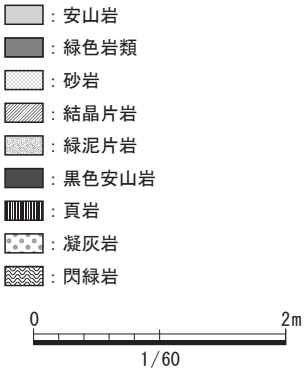
第104図　Ｊ－３号住居跡遺構図①



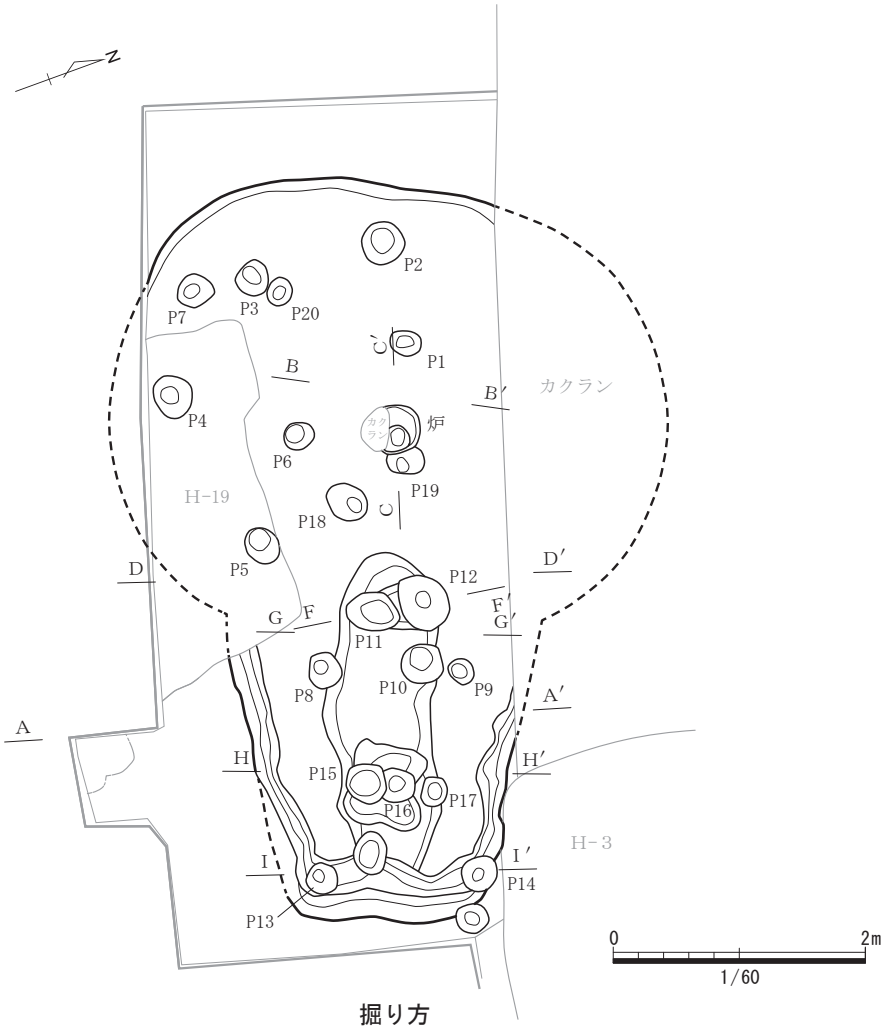
遺物出土状況図



敷石の石材分類



第 105 図　Ｊ－３号住居跡遺構図②

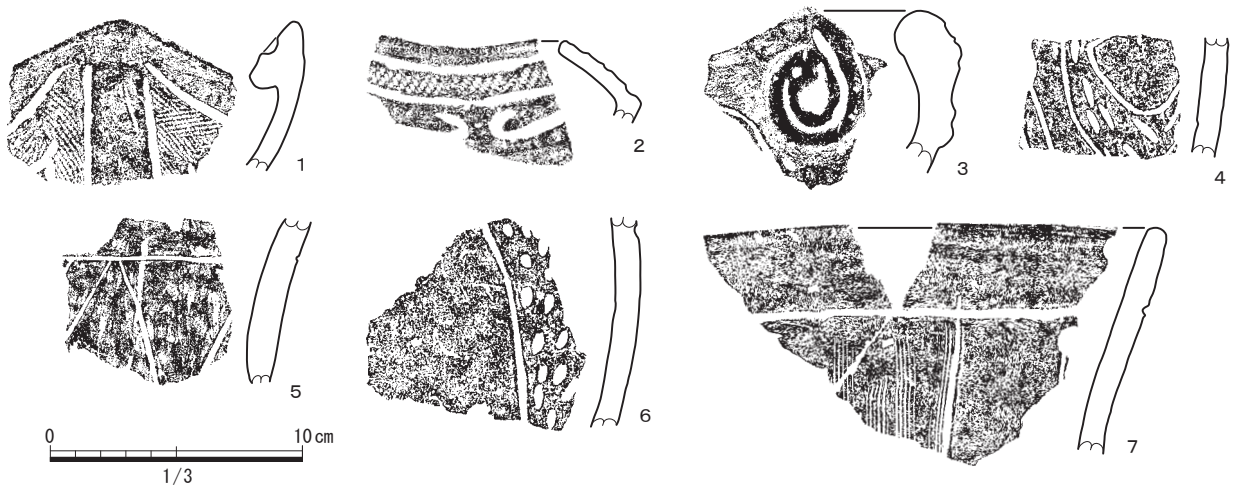


J-3 ピット計測表

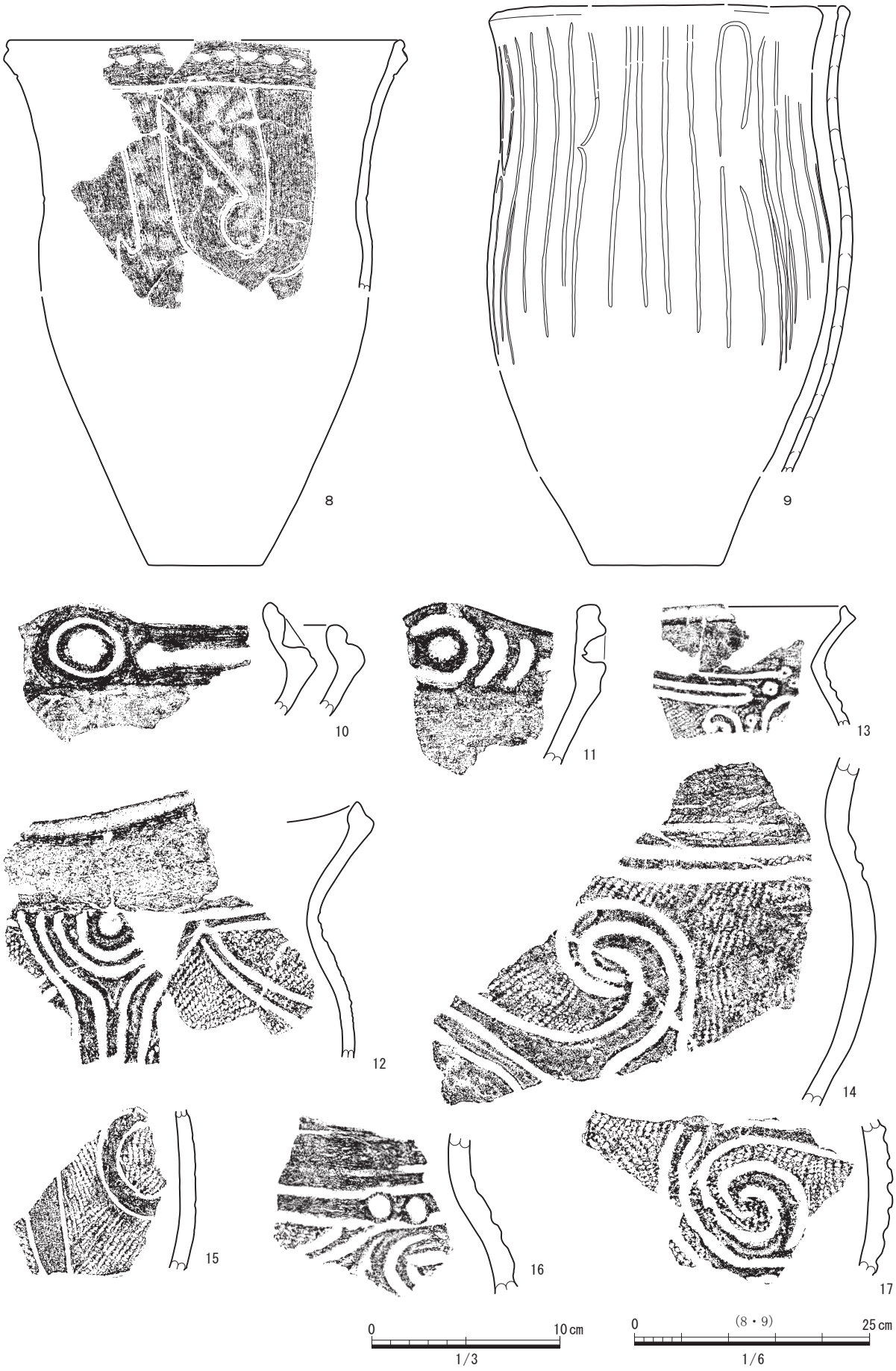
番号	長径	短径	深さ
P1	26	20	17
P2	34	34	75
P3	27	26	58
P4	35	30	69
P5	31	26	68
P6	24	22	49
P7	29	26	36
P8	28	26	42
P9	21	18	22
P10	32	31	61
P11	42	30	42
P12	45	38	71
P13	25	24	40
P14	30	27	37
P15	32	31	36
P16	26	〈23〉	32
P17	23	20	20
P18	34	27	35
P19	29	〈21〉	54
P20	22	19	36

単位：cm

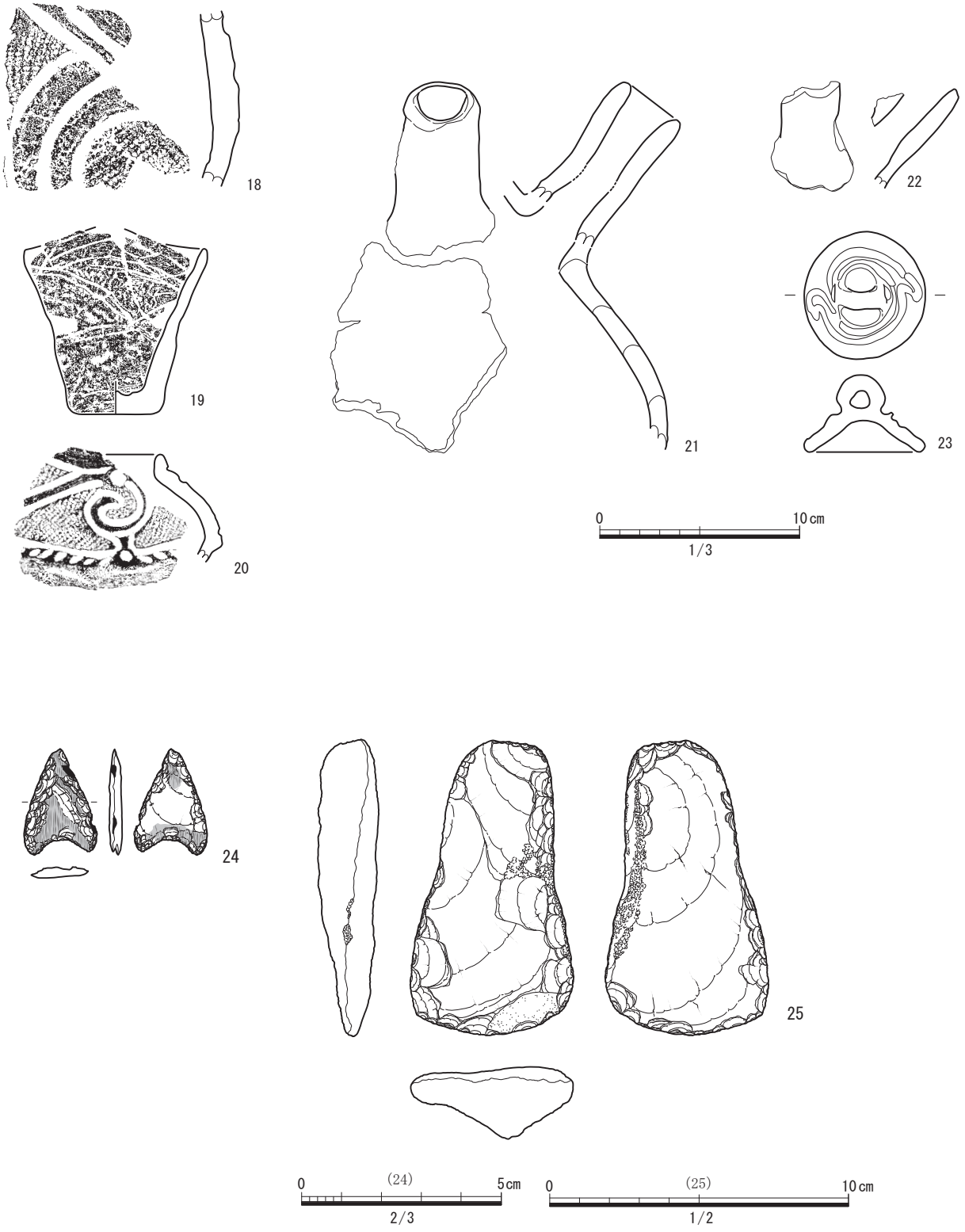
第 106 図　Ｊ－３号住居跡遺構図③



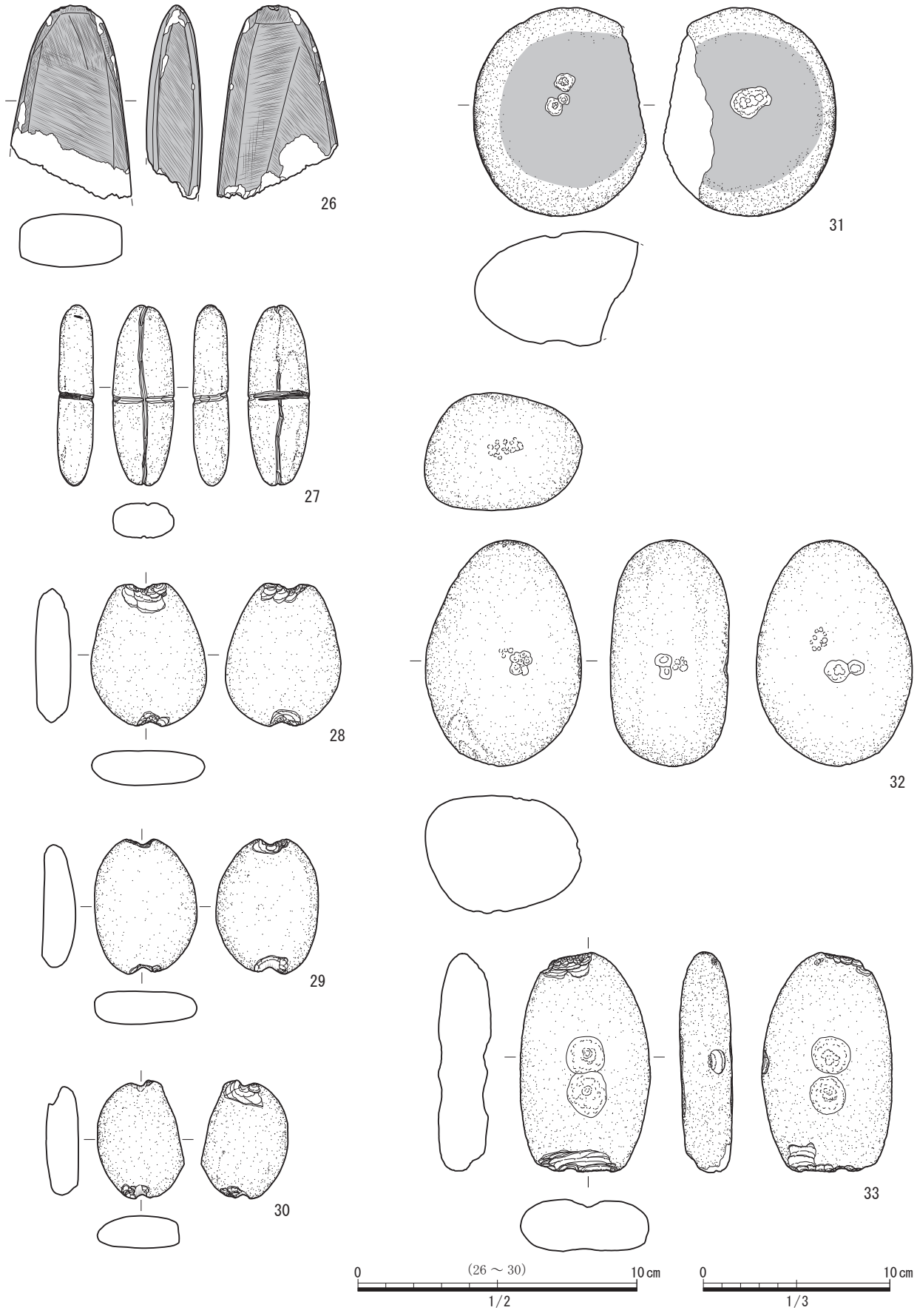
第 107 図　Ｊ－３号住居跡遺物実測図①



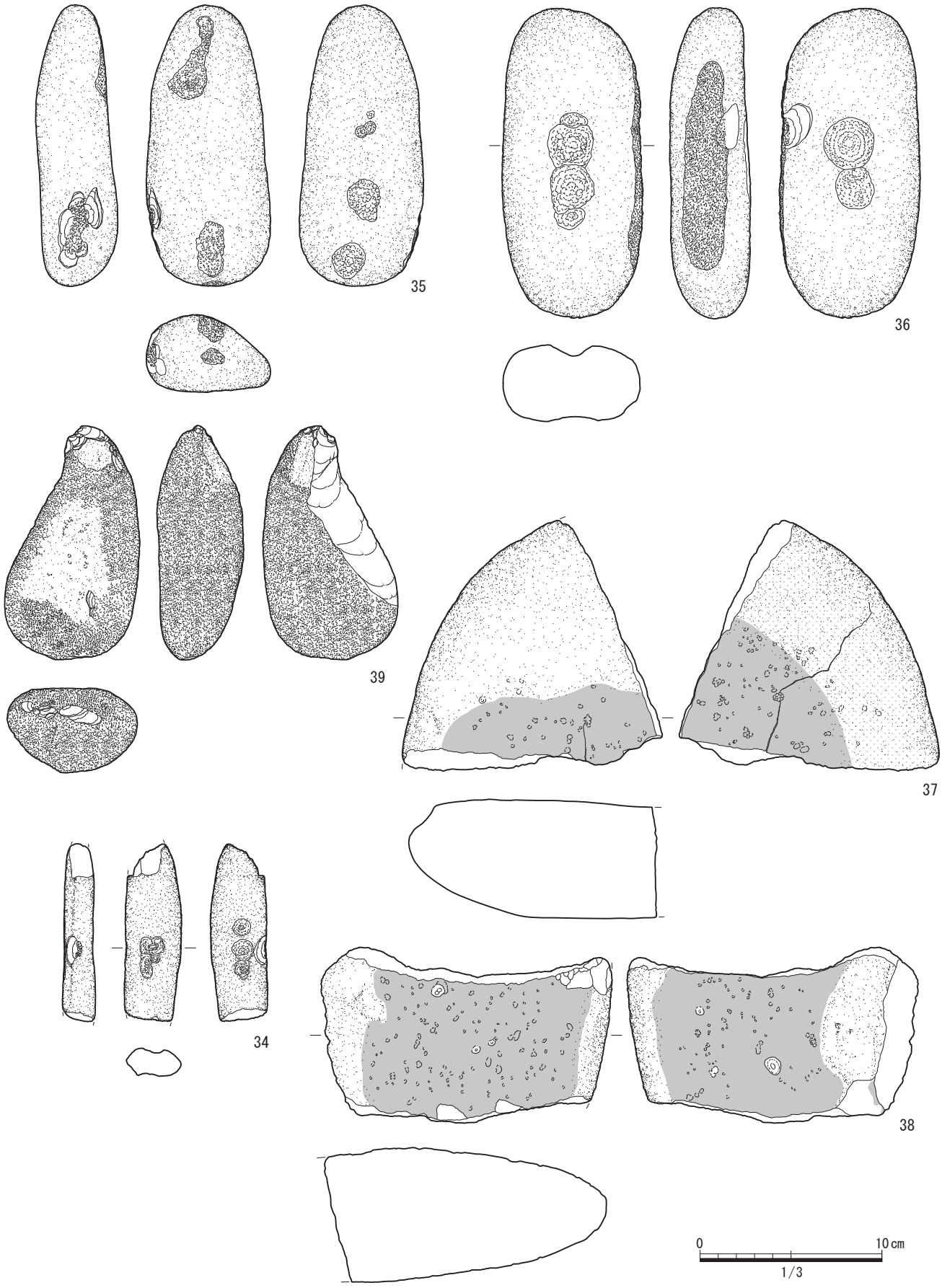
第 108 図　Ｊ－３号住居跡遺物実測図②



第 109 図　Ｊ－３号住居跡遺物実測図③



第 110 図　Ｊ－３号住居跡遺物実測図④



第 111 図　Ｊ－３号住居跡遺物実測図⑤

第 31 表　Ｊ－３号住居跡出土遺物観察表①

番号	器種	法量(cm)（推定値）		残存	色調	胎土	焼成	成整形の特徴	備考（出土層位等）
1	縄文土器 深鉢	口径 底径 器高	－ － －	口縁部破片	にぶい黄橙 10YR6/4 にぶい黄橙 10YR6/4	白色粒、片岩、長石	普通	内面横位ナデ、外面ナデ。波長部内面に刺突文。外面、沈線文および単節ＬＲによる充填縄文。	後期初頭 称名寺Ⅰ式
2	縄文土器 深鉢	口径 底径 器高	－ － －	口縁部破片	にぶい褐 7.5YR5/4 にぶい褐 7.5YR5/4	白色粒、褐色粒	普通	内面横位ナデ。外面沈線文、単節ＬＲによる充填縄文。	後期初頭 称名寺Ⅰ式
3	縄文土器 深鉢	口径 底径 器高	－ － －	口縁部破片	にぶい橙 7.5YR6/4 明赤褐 5YR5/6	白色粒、チャート	普通	内面横位ナデ、外面ナデ。小波状口縁の波頂部。外面、捻転状突起に類する装飾。胴部、沈線文の一部。	後期初頭 称名寺Ⅰ～Ⅱ式
4	縄文土器 深鉢	口径 底径 器高	－ － －	胴部破片	にぶい橙 7.5YR6/4 明赤褐 5YR5/8	白色粒、チャート、片岩	普通	内面横位ナデ、外面ナデ。外面、沈線文および列点文。	後期初頭 称名寺Ⅱ式
5	縄文土器 深鉢	口径 底径 器高	－ － －	胴部破片	明赤褐 5YR5/8 明赤褐 5YR5/8	白色粒、チャート、片岩	普通	内面横位ナデ、外面ナデ。外面、簡略化された沈線文。	後期初頭 称名寺Ⅱ式
6	縄文土器 深鉢	口径 底径 器高	－ － －	胴部破片	橙 7.5YR6/6 明赤褐 5YR5/8	白色粒、チャート、片岩	普通	内面横位ナデ､外面ナデ｡外面､沈線文と比較的密な列点文。	後期初頭 称名寺Ⅱ式
7	縄文土器 深鉢	口径 底径 器高	－ － －	口縁部破片	橙 5YR6/6 にぶい橙 7.5YR6/4	白色粒、チャート、片岩	普通	内面横位ナデ、外面ナデ。外面、口縁部下位に横位沈線１条、その直下に櫛歯状工具によるまばらな縦位条線。	後期初頭 称名寺Ⅱ式
8	縄文土器 深鉢	口径 底径 器高	－ 12.0 －	口縁部～ 胴部破片	橙 5YR7/6 にぶい橙 10R5/6	白色粒、チャート、片岩	普通	内面横位ナデ、外面ナデ。外面、口縁部に凹点が周回。直下にＪ字状文などの沈線文。充填文の範囲がＪ字状文の外側に反転。充填列点文の代わりに櫛歯状工具を用いた短めの条線。	後期初頭 称名寺Ⅱ式
9	縄文土器 深鉢	口径 底径 器高	(37.4) － 〔49.5〕	口縁部～ 胴部破片	にぶい黄橙 10YR7/3 にぶい黄橙 10YR7/3	白色粒、チャート	普通	内面横位ナデ、外面ナデ。外面、退嬰化したＲ字状文、縦位垂下文。内面口唇部、わずかな凹みが周回。	後期前葉 堀之内１～２式 （下北原類型）
10	縄文土器 深鉢	口径 底径 器高	－ － －	口縁部破片	明赤褐 5YR5/8 明赤褐 5YR5/8	白色粒、褐色粒	普通	内・外面とも横位ナデ。外面口縁部、凹文の周囲に円形沈線文。両脇に横位沈線文。	後期前葉 堀之内１式
11	縄文土器 深鉢	口径 底径 器高	－ － －	口縁部破片	にぶい橙 7.5YR6/4 明赤褐 2.5YR5/6	白色粒、チャート、褐色粒	普通	内・外面とも横位ナデ。ゆるやかに内屈する口縁。外面口縁部、凹文の両脇に重弧文。	後期前葉 堀之内１式
12	縄文土器 深鉢	口径 底径 器高	－ － －	口縁部～ 胴部破片	明赤褐 2.5YR5/6 明赤褐 5YR5/6	白色粒、チャート、片岩	普通	内・外面とも横位ナデ。外面、口唇部に横位沈線１条。頸部無文。胴部、同心円文および垂下文、それらを連繋する斜位沈線文。地文として単節縄文ＬＲ。	後期前葉 堀之内１式
13	縄文土器 深鉢	口径 底径 器高	－ － －	口縁部～ 胴部破片	褐灰 7.5YR4/1 にぶい褐 7.5YR5/3	白色粒、褐色粒	普通	内・外面とも横位ナデ。外面、口唇部に横位沈線１条。くびれ部分に横位沈線３条および円形刺突文。胴部垂下文、地文として単節縄文ＬＲ。	No. 31 後期前葉 堀之内１式
14	縄文土器 深鉢	口径 底径 器高	－ － －	胴部破片	橙 5YR7/8 にぶい橙 2.5YR6/4	白色粒、チャート、片岩	普通	内・外面とも横位ナデ。外面頸部無文。胴部、渦巻状文およびそれらを連繋する斜位沈線文。地文として単節縄文ＬＲ。	後期前葉 堀之内１式
15	縄文土器 深鉢	口径 底径 器高	－ － －	胴部破片	橙 7.5YR7/6 橙 5YR6/6	白色粒、褐色粒	普通	内・外面とも横位ナデ。外面沈線による垂下文および同心円文、単節縄文ＬＲ。	後期前葉 堀之内１式
16	縄文土器 深鉢	口径 底径 器高	－ － －	胴部破片	橙 5YR7/6 橙 2.5YR6/6	白色粒、チャート、褐色粒	普通	内・外面とも横位ナデ。外面頸部無文。胴部、凹文、渦巻状文およびそれらを連繋する斜位沈線文。地文として単節縄文ＬＲ。	後期前葉 堀之内１式
17	縄文土器 深鉢	口径 底径 器高	－ － －	胴部破片	橙 5YR7/6 橙 2.5YR6/6	白色粒、チャート	普通	内・外面とも横位ナデ。外面、渦巻状文およびそれらを連繋する斜位沈線文。地文として単節縄文ＬＲ。	後期前葉 堀之内１式
18	縄文土器 深鉢	口径 底径 器高	－ － －	胴部破片	にぶい橙 7.5YR6/4 にぶい橙 5YR6/4	白色粒、チャート、片岩	普通	内・外面とも横位ナデ。外面、渦巻状文およびそれらを連繋する斜位沈線文。地文として単節縄文ＬＲ。	後期前葉 堀之内１式
19	縄文土器 小形深鉢	口径 底径 器高	－ － －	口縁部～ 底部破片	橙 5YR6/6 橙 5YR6/6	白色粒、チャート、片岩	普通	内・外面ともナデ。外面、粗雑な横位・斜位沈線文。地文として単節縄文ＬＲ。	後期前葉 堀之内１式
20	縄文土器 鉢または注口土器	口径 底径 器高	－ － －	口縁部～ 胴部破片	にぶい赤褐 5YR5/3 橙 5YR6/6	白色粒、片岩	良好	内・外面とも横位ナデ。外面、渦巻状文およびそれらを連繋する斜位沈線文。単節ＬＲによる充填縄文。	後期前葉 堀之内１式
21	縄文土器 注口土器	口径 底径 器高	－ － －	注口部・ 胴部破片	浅黄橙 7.5YR8/4 浅黄橙 7.5YR8/4	白色粒、チャート、片岩	普通	内・外面ともナデ。残存範囲において無文。	後期前葉 堀之内１～２式
22	縄文土器 注口土器	口径 底径 器高	－ － －	注口部破片	橙 5YR7/6 橙 5YR7/6	白色粒、チャート	普通	内・外面ともナデ。残存範囲において無文。	後期前葉 堀之内１～２式
23	縄文土器 蓋	口径 底径 器高	－ － －	完形	橙 5YR6/6 橙 5YR6/6	白色粒、チャート、片岩	普通	内・外面ともナデ。上端につまみあり。２個１対の凹文、連繋渦巻状文。	後期前葉 堀之内１～２式

番号	器種	法量（残存値）	残存	石材	特徴	備考（出土層位等）
24	石鏃	長さ2.65cm､幅1.82cm､厚さ0.32cm 重さ1.36g	完形	安山岩	剥片素材。凹基石鏃。表裏に磨耗痕が残る。基部側は矢柄への着装痕か。	
25	打製石斧	長さ9.85cm､幅5.46cm､厚さ2.03cm 重さ122.77g	完形	安山岩	剥片素材。撥型の打製石斧である。	
26	磨製石斧	長さ6.91cm､幅4.30cm､厚さ1.98cm 重さ81.66g	刃部欠損	蛇紋岩	素材不明。全体が研磨された磨製石斧。	

第 32 表　Ｊ－３号住居跡出土遺物観察表②

番号	器種	法量（残存値）	残存	石材	特徴	備考（出土層位等）
27	石錘	長さ6.44cm、幅2.19cm、厚さ1.28cm 重さ32.04g	完形	結晶片岩	礫素材。上下左右の端部に敲打あるいは剥離によって抉りが形成され、対となる端部を結ぶように溝が掘られる。抉り部分には部分的に磨耗痕が残る。	
28	石錘	長さ5.11cm、幅4.12cm、厚さ1.23cm 重さ43.55g	完形	輝石安山岩	礫素材。両端に敲打あるいは剥離によって抉りが形成される。抉り部分には部分的に磨耗痕が残る。	
29	石錘	長さ4.82cm、幅3.65cm、厚さ1.18cm 重さ36.53g	完形	輝石安山岩	礫素材。両端に敲打あるいは剥離によって抉りが形成される。抉り部分には部分的に磨耗痕が残る。	
30	石錘	長さ4.23cm、幅3.09cm、厚さ1.15cm 重さ24.36g	完形	結晶片岩	礫素材。両端に敲打あるいは剥離によって抉りが形成される。抉り部分には部分的に磨耗痕が残る。	
31	凹石	長さ11.18cm、幅9.25cm、厚さ6.14cm 重さ939.29g	一部欠損	輝石安山岩	礫素材。扁平な礫を素材として、表裏の平坦面中央部に集中して凹みが形成される。表裏面に磨り痕が残る。	床面出土
32	凹石	長さ12.15cm、幅8.35cm、厚さ6.36cm 重さ1001.52g	完形	輝石安山岩	礫素材。扁平な礫を素材として、表裏面・右側面・上面の平坦面あるいは中央部に集中して凹みが形成される。	床面出土
33	凹石	長さ11.76cm、幅6.98cm、厚さ2.83cm 重さ388.81g	完形	輝石安山岩	礫素材。扁平な礫の表裏の平坦面に集中して凹みが形成される。上下両端に顕著な敲打痕がある。	床面出土
34	凹石	長さ14.62cm、幅4.73cm、厚さ2.73cm 重さ304.52g	両端欠損	結晶片岩	礫素材。扁平な礫の表裏の平坦面に集中して凹みが形成される。左側面に敲打痕がある。	
35	凹石	長さ15.46cm、幅6.83cm、厚さ4.51cm 重さ668.99g	完形	輝石安山岩	礫素材。扁平な礫の平坦面に散漫した凹みが形成される。左側面・下面に敲打痕がある。	
36	凹石	長さ17.03cm、幅7.76cm、厚さ4.45cm 重さ860.06g	完形	輝石安山岩	礫素材。扁平な礫の表裏の平坦面中央部付近に集中した凹みが形成される。右側面に敲打痕がある。	床面出土
37	石皿	長さ13.78cm、幅14.29cm、厚さ6.56cm 重さ1615.19g	約 1/4 残存	輝石安山岩	礫素材。大きく欠損する。表裏平坦面に磨り痕が残る。目立ての痕か、散漫に敲打痕が残る。被熱し、熱による変色とヒビ割れがみられる。	床面出土
38	台石	長さ9.676cm、幅16.01cm、厚さ7.40cm 重さ1500.18g	1/2 以上欠損	輝石安山岩	礫素材。大きく欠損する。表裏の平坦部に磨面が形成される。目立ての痕か、平坦部全体に散漫な敲打痕が残る。	床面出土
39	敲打石製品	長さ12.85cm、幅7.43cm、厚さ4.78cm 重さ616.15g	完形	安山岩	礫素材。敲打によって整形される。目的とする石製品が不明のため敲打石製品とした。大きく欠損しているため、石製品製作途中で欠損し、廃棄されたか。	床面出土

２．土　坑

Ｄ－２号土坑（第 112・117 図、第 33 表、PL.15・66）

位置:Cy-31、Da-31 グリッド。**平面形態**:円形。**重複**:なし。**規模**:長軸 128 ㎝、短軸〈67〉㎝。**深度**:80 ㎝。**覆土**:暗褐色土を主体とし、下層には焼土や炭化物が含まれる。**出土遺物**：縄文土器が少量出土した（1・2）。**時期**：出土遺物から後期初頭称名寺Ⅰ～Ⅱ式期に比定される。**備考**：炉跡の可能性がある。

Ｄ－10 号土坑（第 112・117 図、第 34 表、PL.66）

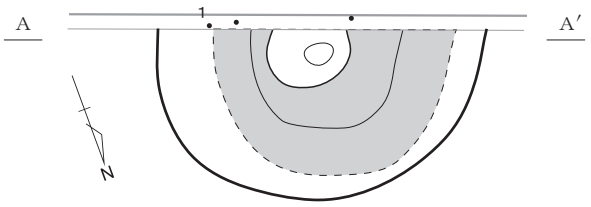
位置：Db-35・36 グリッド。**平面形態**：楕円形か。**重複**：Ｄ－11 号土坑と重複し、本遺構が新しい。**規模**：長軸〈153〉㎝、短軸 106 ㎝。**深度**:63 ㎝。**覆土**:ロームブロックを含む褐色土ないし暗褐色土が堆積する。**出土遺物**:縄文土器が少量出土した（1）。**時期**：出土遺物から後期前葉堀之内２式期に比定される。

Ｄ－11 号土坑（第 112・117 図、第 35 表、PL.66）

位置:Db-35･36 グリッド。**平面形態**:楕円形か。**重複**:Ｄ－10 号土坑と重複し、本遺構が古い。**規模**:長軸〈118〉㎝、短軸 105 ㎝。**深度**：44 ㎝。**覆土**：－。**出土遺物**：縄文土器が少量出土した（1）。**時期**：出土遺物から後期前葉堀之内２式期に比定される。

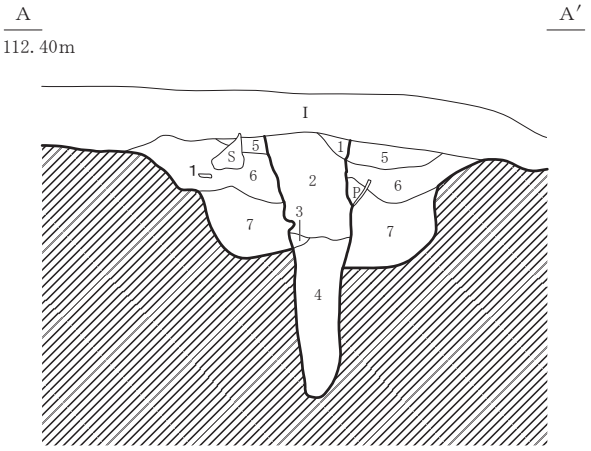
Ｄ－12 号土坑（第 112・117 図、第 36 表、PL.15・65）

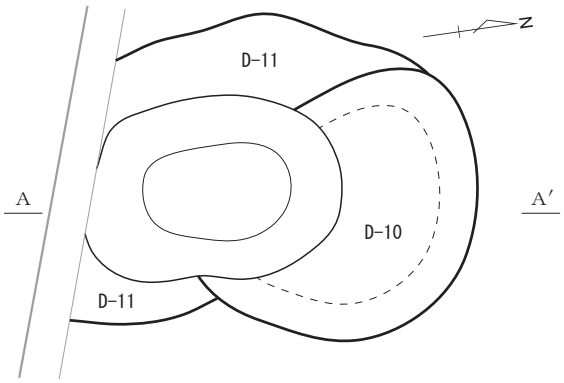
位置：Cw-30・31、Cx30・31 グリッド。**平面形態**：円形。**重複**：Ｈ－２号住居跡と重複し、本遺構が古い。**規模**：長軸 171 ㎝、短軸〈147〉㎝。**深度**：21 ㎝。**覆土**：黄橙色土が堆積する。**出土遺物**：縄文土器片８点、黒曜石剥片１点が出土した。１は割られた鉢が並べられた状態で出土した。**時期**：出土遺物から後期前葉堀之内２式期に比定される。

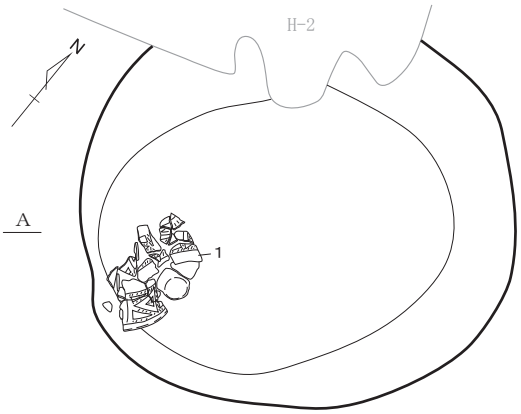


D-2 土層注記

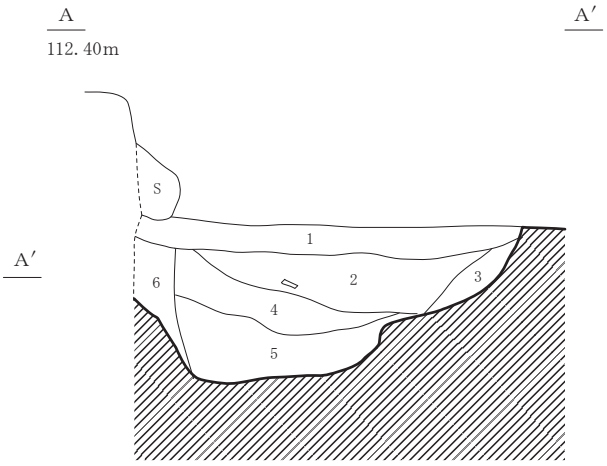
1	暗褐色土	締りやや弱　粘性ややあり　ローム粒・砂粒φ0.5cm 微量
2	暗褐色土	締りやや弱　粘性ややあり　ローム粒中量 ロームブロックφ0.2cm 少量　焼土φ1.0cm 微量
3	黄褐色土	締り・粘性やや弱　ローム粒多量　焼土粒少量
4	にぶい黄褐色土	締りやや弱　粘性ややあり　ローム粒・ロームブロック φ0.5～2.0cm 中量　炭化物φ0.5cm 微量
5	暗褐色土	締りやや弱　粘性ややあり　ローム粒・礫φ4.0cm 微量
6	暗褐色土	締り・粘性やや弱　ローム粒・ロームブロックφ1.0cm・ 焼土φ0.5～1.0cm 少量
7	赤褐色土	締りややあり　粘性弱　焼土φ0.5～10.0cm・ローム粒多量 ロームブロックφ1.0～10.0cm・As-YPφ0.3～1.0cm 中量 炭化物φ0.5～4.0cm 少量





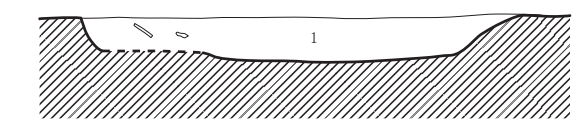


D-12



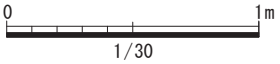
D-10 土層注記

1	暗褐色土	締りあり　粘性弱　ロームブロックφ1.0～3.0cm 中量
2	褐色土	締りあり　粘性弱　ロームブロックφ1.0～2.0cm 多量
3	暗褐色土	締りあり　粘性弱　ロームブロックφ1.0～4.0cm 中量
4	褐色土	締りあり　粘性弱　ロームブロックφ1.0～3.0cm 多量
5	暗褐色土	締りあり　粘性弱　ロームブロックφ1.0～5.0cm 中量
6	褐色土	締りあり　粘性弱　ロームブロックφ1.0～4.0cm 多量

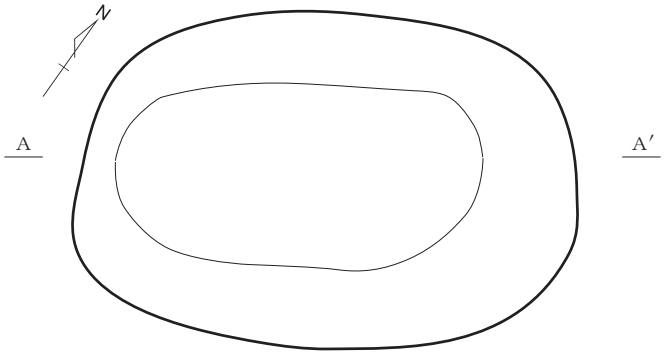


D-12 土層注記

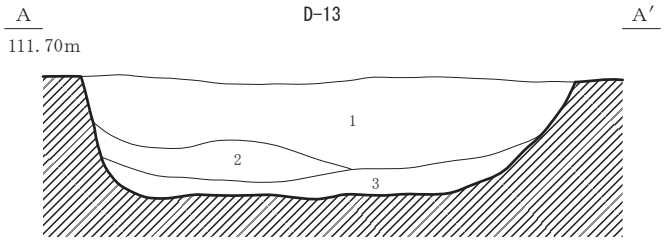
1	黄橙色土	締りあり　粘性あり　ローム主体



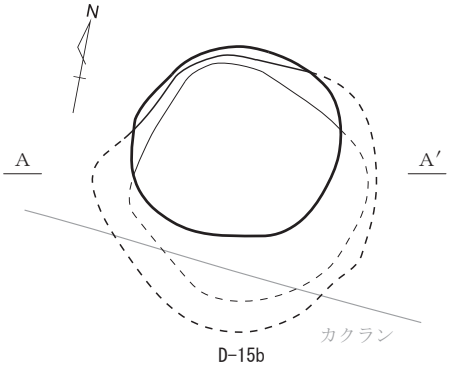
第 112 図　Ｄ－２・10・11・12 号土坑遺構図



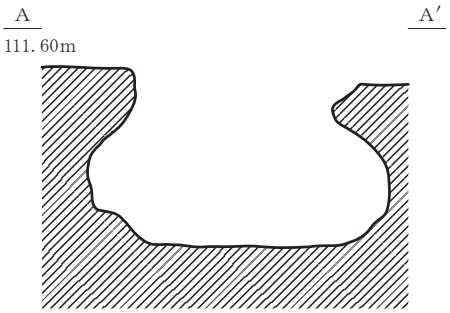
D-13

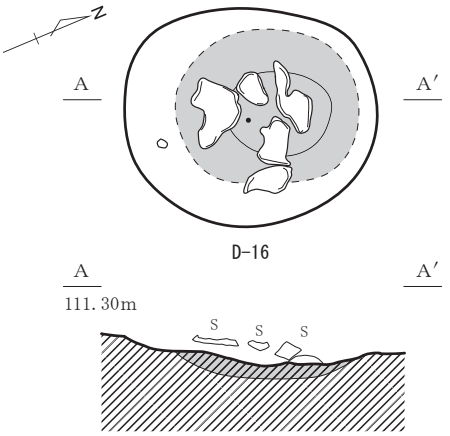


D-13 土層注記
1　黄橙色土　　締りあり　粘性あり　ローム主体
2　明黄褐色土　締りあり　粘性あり　ローム主体
3　明黄褐色土　締り弱　粘性あり　ローム主体

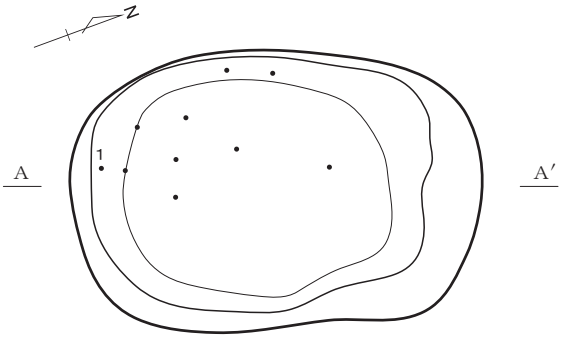


D-15b

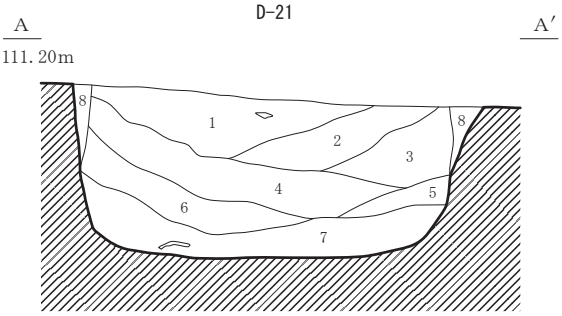




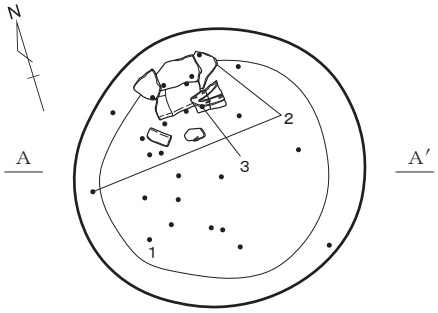
D-16



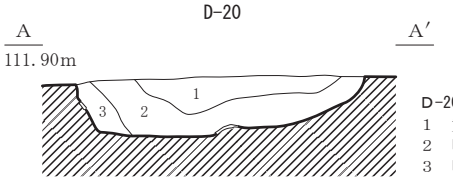
D-21



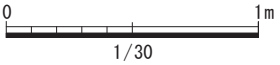
D-21 土層注記
1　黄褐色土　締りあり　粘性あり　ソフトローム粒子多量
2　黄褐色土　締りあり　粘性あり　ソフトローム粒子中量
3　黄褐色土　締りあり　粘性あり　ソフトローム粒多量
4　褐色土　　締りあり　粘性弱　ロームブロックΦ1.0～2.0cm 中量
5　褐色土　　締りあり　粘性弱　ソフトローム粒子少量
6　黄褐色土　締り強　粘性あり　ロームブロックΦ1.0～2.0cm 多量
7　黄褐色土　締り強　粘性あり　ロームブロックΦ1.0～2.0cm 多量
8　黄橙色土　締り強　粘性あり　ハードローム主体　上場の崩落土



D-20



D-20 土層注記
1　黄橙色土　　締りあり　粘性あり　ローム主体
2　明黄褐色土　締りあり　粘性あり　ローム主体
3　明黄褐色土　締りあり　粘性あり　ローム主体



第 113 図　D -13・15b・16・20・21 号土坑遺構図

Ｄ -13 号土坑（第 113 図）

位置：Cx-30 グリッド。**平面形態**：隅丸長方形。**重複**：なし。**規模**：長軸 1.95 ｍ、短軸 1.34 ｍ。**深度**：38 ㎝。**主軸方位**：Ｎ -57° － Ｅ。**覆土**：地山に近い土で埋め戻されている。**出土遺物**：なし。**時期**：縄文時代ヵ。

Ｄ -15b 号土坑（第 113 図、PL. 15）

位置：Dc-38・39 グリッド。**平面形態**：円形。**重複**：Ｄ -15a 土坑と重複し、本遺構が古い。**規模**：長軸 112 ㎝、短軸 109 ㎝。**深度**：72 ㎝。**出土遺物**：石器 1 点。**時期**：縄文時代ヵ。**備考**：貯蔵穴に想定される。

Ｄ -16 号土坑（第 113 図、PL. 15）

位置：Dd-42 グリッド。**平面形態**：楕円形。**重複**：なし。**規模**：長軸 100 ㎝、短軸 87 ㎝。**深度**：11 ㎝。**出土遺物**：縄文土器片 5 点。上層において多量の礫が出土。**時期**：縄文時代ヵ。**備考**：底面が被熱し、炉跡の可能性がある。

Ｄ -20 号土坑（第 113・118・120 図、第 37 表、PL. 15・65・66・68）

位置：Dd-43・44 グリッド。**平面形態**：円形。**重複**：なし。**規模**：長軸 115 ㎝、短軸 110 ㎝。**深度**：34 ㎝。**覆土**：ロームブロックを含む黄橙色土ないし明黄褐色土が堆積する。**出土遺物**：縄文土器片（1・2）、凹石（3）が出土。**時期**：出土遺物から後期初頭称名寺Ⅰ～Ⅱ式期の土坑と考えられる。

Ｄ -21 号土坑（第 113・117 図、第 38 表、PL. 15・66・69）

位置：Dc-42 グリッド。**平面形態**：隅丸長方形。**重複**：なし。**規模**：長軸 163 ㎝、短軸 111 ㎝。**深度**：97 ㎝。**主軸方位**：Ｎ -24°- Ｗ。**覆土**：ロームブロックを含む黄橙色土を主体とする。**出土遺物**：縄文土器が少量出土した（1・2）。**時期**：出土遺物から中期中葉勝坂式期～中期後葉加曽利ＥⅢ～Ⅳ式期の土坑と考えられる。

Ｄ -22 号土坑（第 114・118・120・121 図、第 39・40 表、PL. 16・66・68）

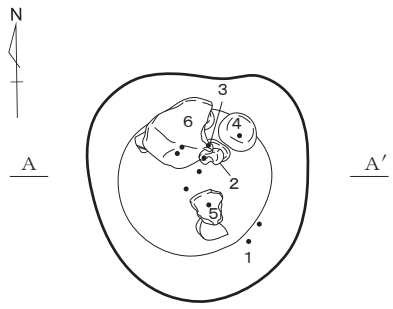
位置 Dd-44、De-44 グリッド。**平面形態**：不整円形。**重複**：なし。**規模**：長軸 93 ㎝、短軸 90 ㎝。**深度**：30 ㎝。**出土遺物**：縄文土器（1）、打製石斧（2）、凹石（3・4）、石皿（5）、台石（6）が出土した。**時期**：出土遺物から後期初頭称名寺Ⅰ式期に比定される。

Ｄ -23 号土坑（第 114・118 図、第 41 表、PL. 16・66）

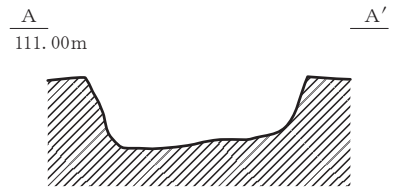
位置：De-44 グリッド。**平面形態**：楕円形。**重複**：なし。**規模**：長軸 125 ㎝、短軸 87 ㎝。**深度**：23 ㎝。**主軸方位**：Ｎ -67°- Ｅ。**覆土**：ロームブロックを含む黄橙色土の単層である。**出土遺物**：縄文土器が少量出土した（1・2）。**時期**：出土遺物から後期前葉堀之内２式期に比定される。

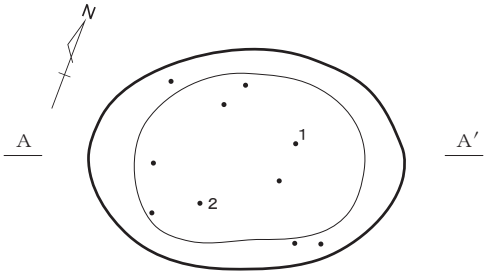
Ｄ -43 号土坑（第 114・118 図、第 42 表、PL. 15・66）

位置：Di-57 グリッド。**平面形態**：円形。**重複**：なし。**規模**：長軸 102 ㎝、短軸 93 ㎝。**深度**：20 ㎝。**覆土**：不明。**出土遺物**：縄文土器が少量出土した（1）。**時期**：出土遺物から中期後葉～後期初頭の土坑と考えられる。**備考**：土坑底面が被熱し、炉跡の可能性がある。

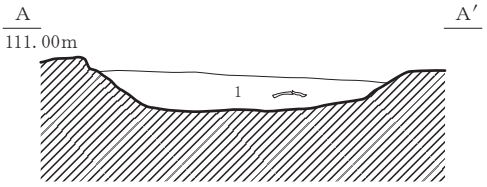


D-22



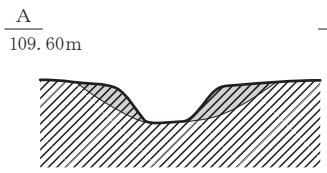


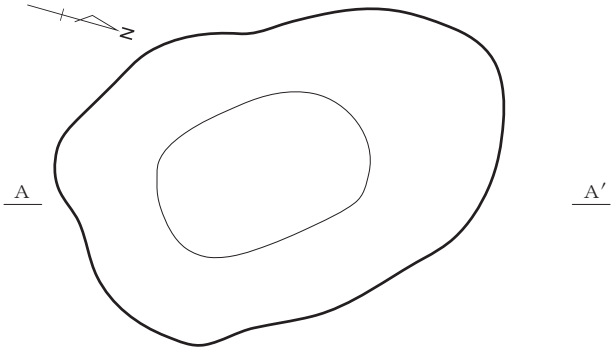
D-23



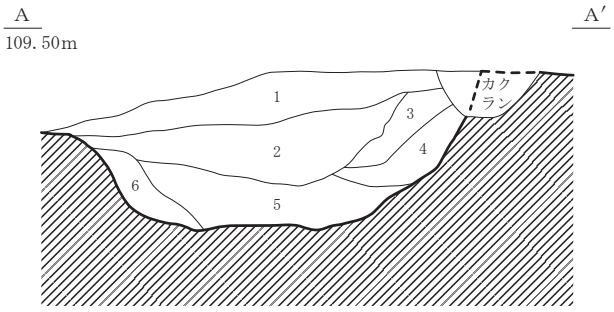
D-23 土層注記
1　黄橙色土　締りあり　粘性あり　ローム主体

D-43

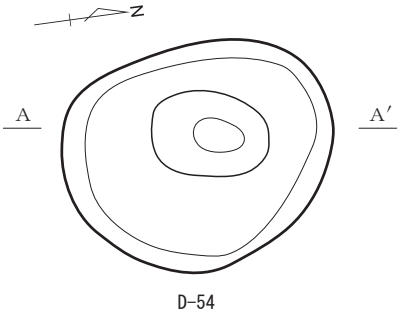




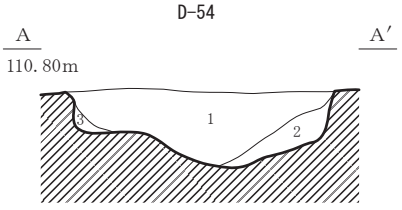
D-52



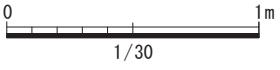
D-52 土層注記
1　褐色土　　締りあり　粘性あり　ロームブロックΦ2.0～3.0cm 多量
2　暗褐色土　締りあり　粘性ややあり　ローム粒子中量
3　暗褐色土　締りあり　粘性ややあり　ローム粒少量
4　暗褐色土　締りあり　粘性ややあり　ローム粒子中量
5　暗褐色土　締りあり　粘性ややあり　ローム粒子多量
6　暗褐色土　締りあり　粘性ややあり　ローム粒中量



D-54



D-54 土層注記
1　褐色土　　締りあり　粘性弱　ローム粒子中量
2　褐色土　　締りあり　粘性弱　ローム粒多量
3　黄褐色土　締りあり　粘性弱　ローム粒子中量



第 114 図　D -22・23・43・52・54 号土坑遺構図

Ｄ -52 号土坑（第 114 図、PL. 16）

位置：Dk-59、Dl-59 グリッド。**平面形態**：不整楕円形。**重複**：なし。**規模**：長軸 176 ㎝、短軸 120 ㎝。**深度**：73 ㎝。**主軸方位**：Ｎ -34°- Ｗ。**覆土**：ローム粒を含む暗褐色土を主体とする。**出土遺物**：縄文土器片 4 点、石器 2 点が出土した。**時期**：縄文時代ヵ。

Ｄ -54 号土坑（第 114 図、第 43 表、PL. 16・69）

位置：De-46・47 グリッド。**平面形態**：不整円形。**重複**：なし。**規模**：長軸 108 ㎝、短軸 88 ㎝。**深度**：33 ㎝。**覆土**：ローム粒を含む褐色土を主体とする。**出土遺物**：縄文土器片 7 点、礫 1 点が出土した。**時期**：出土遺物（1）から後期前葉堀之内２式期に比定される。

Ｄ -56 号土坑（第 115 図、第 44 表、PL. 16・69）

位置：De-46 グリッド。**平面形態**：不整円形。**重複**：なし。**規模**：長軸 150 ㎝、短軸 132 ㎝。**深度**：18 ㎝。**覆土**：ローム粒を含む褐色土の単層である。**出土遺物**：縄文土器（1）、礫が出土した。**時期**：出土遺物から後期初頭称名寺Ⅰ式期に比定される。

Ｄ -61 号土坑（第 115・118 図、第 45 表、PL. 66）

位置：Dr-61 グリッド。**平面形態**：楕円形。**重複**：Ｄ -60 号土坑と重複し、本遺構が古い。Ｄ -69 号土坑との新旧不明。**規模**：長軸 2. 35 ｍ、短軸〈1. 50〉ｍ。**深度**：33 ㎝。**主軸方位**：Ｎ -65°- Ｗ。**覆土**：ローム粒を含む褐色土を主体とする。**出土遺物**：縄文土器が少量出土した（1・2）。**時期**：出土遺物から中期後葉加曽利ＥⅢ式期～後期初頭の土坑と考えられる。

Ｄ -64 号土坑（第 115・118 図、第 46 表、PL. 16・17・66・67）

位置：Dt-60 グリッド。**平面形態**：円形。**重複**：なし。**規模**：長軸 100 ㎝、短軸 88 ㎝。**深度**：43 ㎝。**覆土**：-。**出土遺物**：縄文土器が少量出土した（1 ～ 4）。**時期**：出土遺物から前期末葉～中期初頭の土坑と考えられる。

Ｄ -69 号土坑（第 115・118・119 図、第 47 表、PL. 17・66・67）

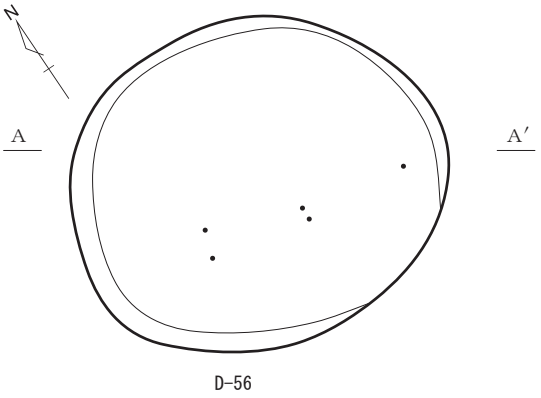
位置：Dr-61 グリッド。**平面形態**：円形。**重複**：Ｄ -60・61 号土坑との新旧不明。**規模**：長軸 130 ㎝、短軸 127 ㎝。**深度**：77 ㎝。**覆土**：ロームブロック・ローム粒を含む黄褐色土ないし暗褐色土が堆積する。**出土遺物**：縄文土器が少量出土した（1 ～ 5）。**時期**：出土遺物から中期後葉加曽利ＥⅣ式期（1・2）～後期初頭の土坑と考えられる。

Ｄ -86 号土坑（第 116・119・122 図、第 48 表、PL. 17・67・68）

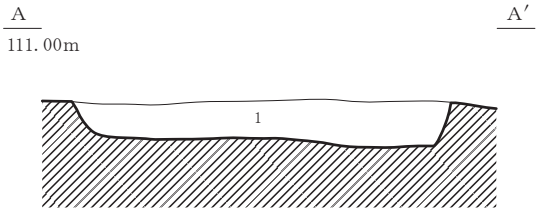
位置：De-49グリッド。**平面形態**：円形か。**重複**：Ｈ-５号住居跡と重複し、本遺構が古い。**規模**：長軸〈121〉㎝、短軸68㎝。**深度**：114㎝。**覆土**：ロームブロックを含む褐色土ないし暗褐色土を主体とする。**出土遺物**：縄文土器(1)、石棒(2)が出土した。**時期**：出土遺物から後期前葉堀之内１式期に比定される。**備考**：袋状を呈し、貯蔵穴に想定される。

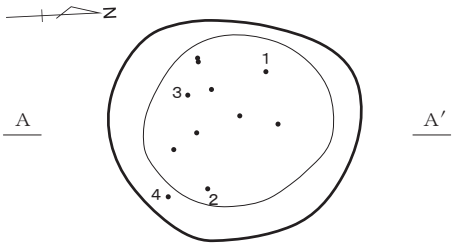
Ｄ -87 号土坑（第 116 図）

位置：Cw-27 グリッド。**平面形態**：円形か。**重複**：なし。**規模**：推定径 80 ㎝。**深度**：22 ㎝。**覆土**：浅黄色土ないし黄褐色土である。**出土遺物**：なし。**時期**：縄文時代ヵ。

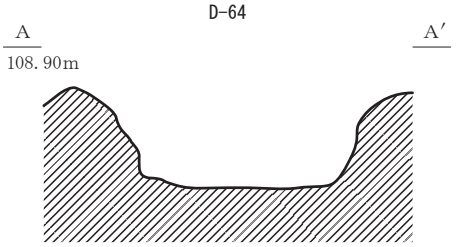


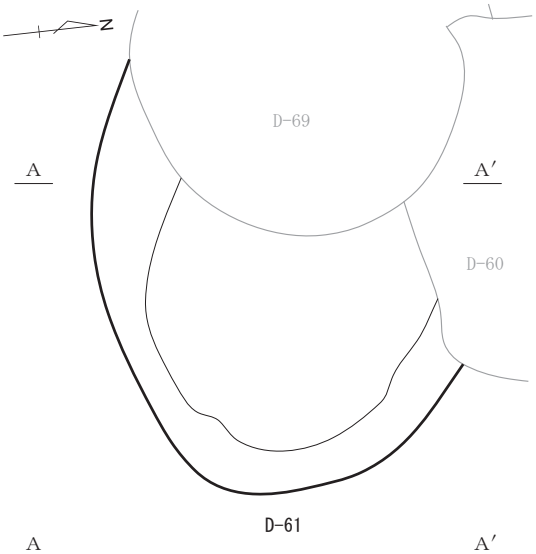
D-56



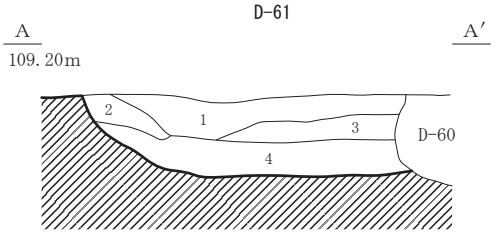


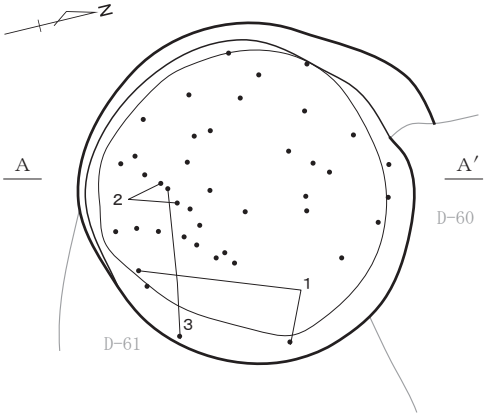
D-64



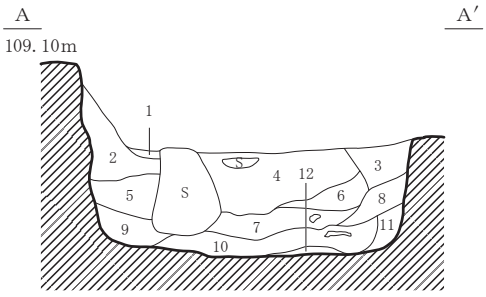


D-61





D-69



D-56 土層注記

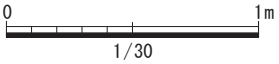
1　褐色土　締りあり　粘性ややあり　ローム粒子中量

D-61 土層注記

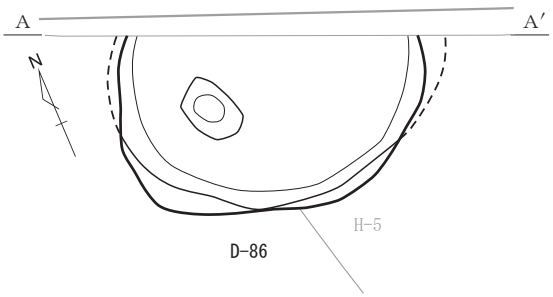
1　褐色土　　締りあり　粘性弱　ローム粒子少量
2　褐色土　　締りあり　粘性弱　ローム粒子中量
3　褐色土　　締りあり　粘性弱　ローム粒子微量
4　褐色土　　締りあり　粘性弱　ローム粒子中量

D-69 土層注記

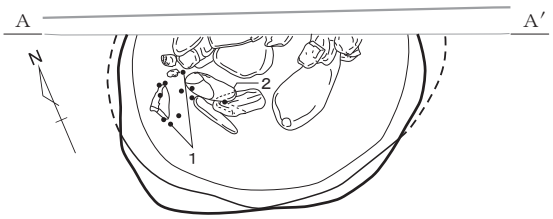
1　暗褐色土　締りあり　粘性弱　ローム粒子少量
2　暗褐色土　締りあり　粘性弱　ローム粒子多量
3　黄褐色土　締りあり　粘性弱　ローム粒子主体
4　暗褐色土　締りあり　粘性弱　ローム粒子中量
5　暗褐色土　締りあり　粘性弱　ローム粒少量
6　暗褐色土　締りあり　粘性弱　ローム粒子中量
7　暗褐色土　締りあり　粘性弱　ロームブロックφ1.0～2.0cm少量
8　黄褐色土　締りあり　粘性弱　ローム粒子主体
9　暗褐色土　締りあり　粘性弱　ローム粒子多量
10　暗褐色土　締りあり　粘性弱　ローブロックφ1.0～2.0cm少量
11　黄褐色土　締りあり　粘性弱　ローム粒子主体
12　黄褐色土　締りあり　粘性なし　ロームブロック粒主体



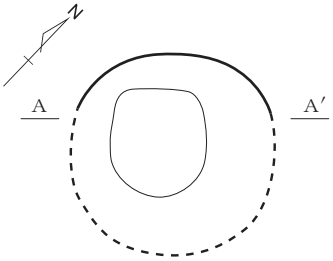
第115図　D-56・61・64・69号土坑遺構図



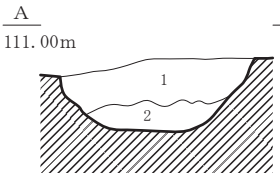
D-86



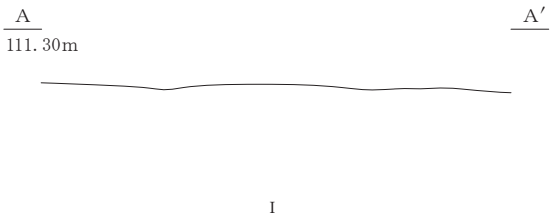
D-86遺物出土状況



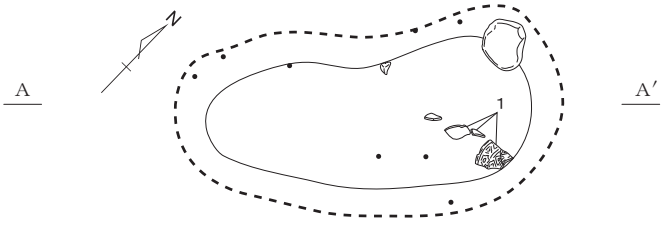
D-87



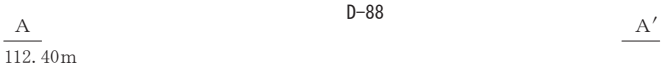
D-87 土層注記
1　浅黄色土　締りややあり　粘性なし　灰黄褐色土ブロックφ5～10cm多量
2　黄褐色土　締りややあり　粘性なし

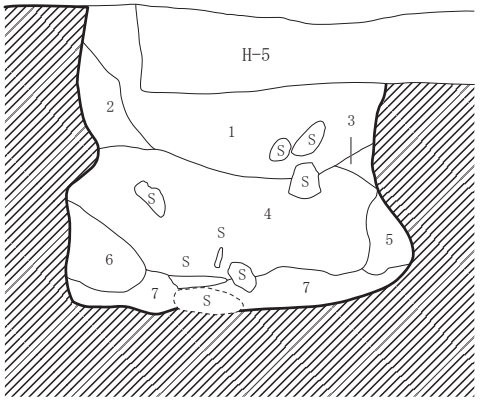


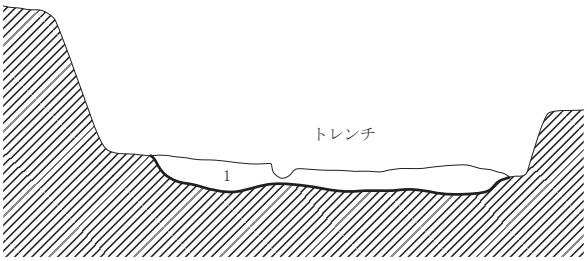
I



D-88







D-88 土層注記
1　にぶい黄褐色土　締りややあり　粘性あり　ローム主体層　ローム粒φ0.2cm中量
白色軽石φ0.2cm・As-YPφ0.5cm少量
ロームブロックφ3.0cm・炭化物微量

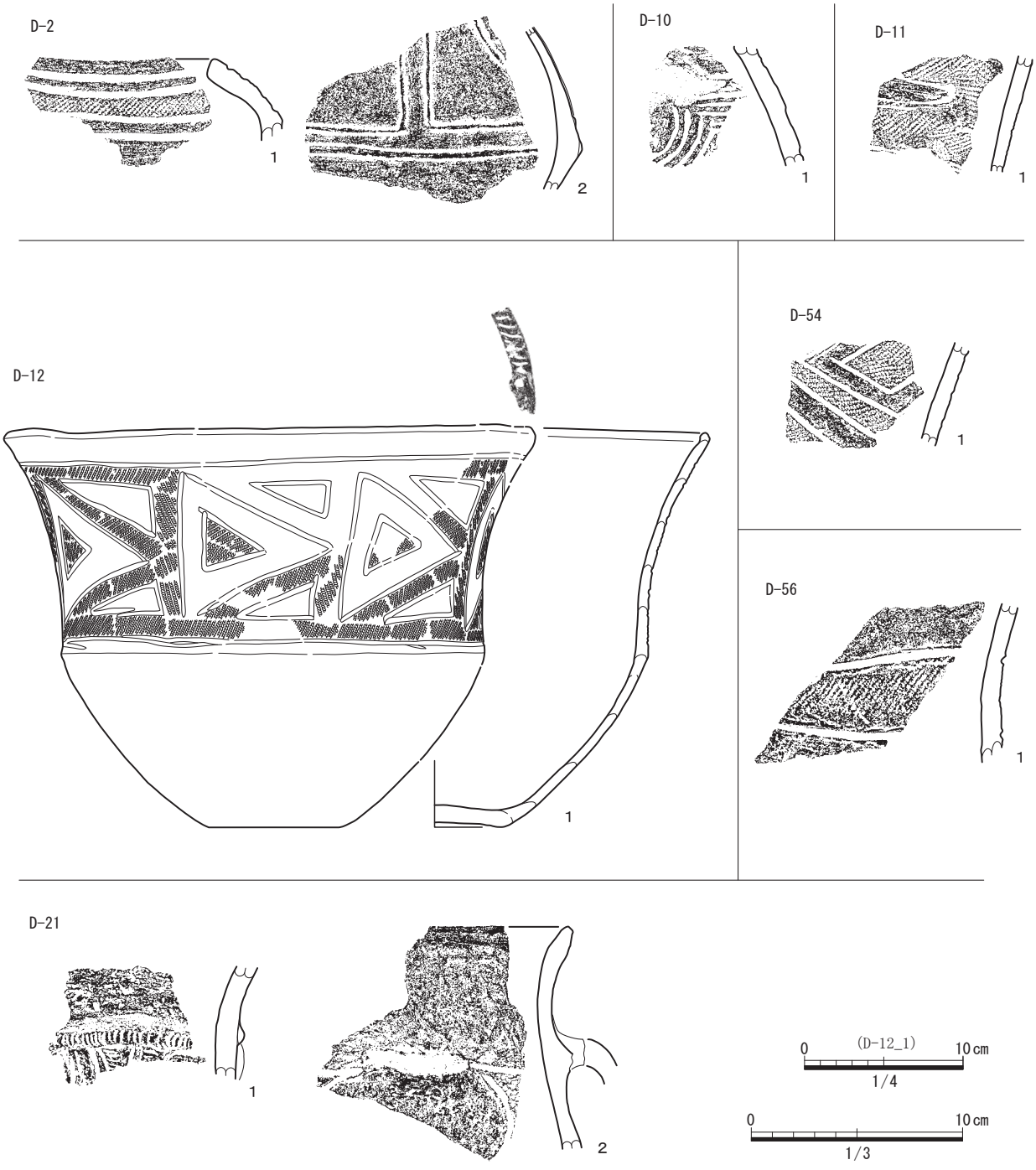
D-86 土層注記
1　褐色土　締り・粘性ややあり　白色軽石φ0.2cm中量　ロームブロックφ0.5～2.0cm・As-YPφ0.5cm・炭化物少量　焼土φ0.5cm微量
2　褐色土　締りややあり　粘性やや弱　ロームブロックφ0.5～1.0cm・炭化物・白色軽石φ0.2cm少量　As-YPφ0.5cm微量
3　黄褐色土　締りやや弱　粘性あり　ロームブロックφ5.0cm多量　白色軽石φ0.2cm・As-YPφ0.5cm・炭化物微量
4　暗褐色土　締りやや弱　粘性ややあり　ロームブロックφ0.5～2.0cm中量　As-YPφ0.5cm・炭化物・白色軽石φ0.2cm少量
5　黄褐色土　締り・粘性やや弱　As-YPφ0.2～0.8cm・白色軽石φ0.2cm中量　炭化物微量
6　黄褐色土　締り・粘性ややあり　ロームブロックφ5.0～10.0cm多量　As-YPφ0.5cm・炭化物・白色軽石φ0.2cm少量
7　褐色土　締り・粘性ややあり　ローム粒中量　As-YPφ0.5cm・白色軽石φ0.2cm少量　焼土φ0.5cm微量

0　1m
1/30

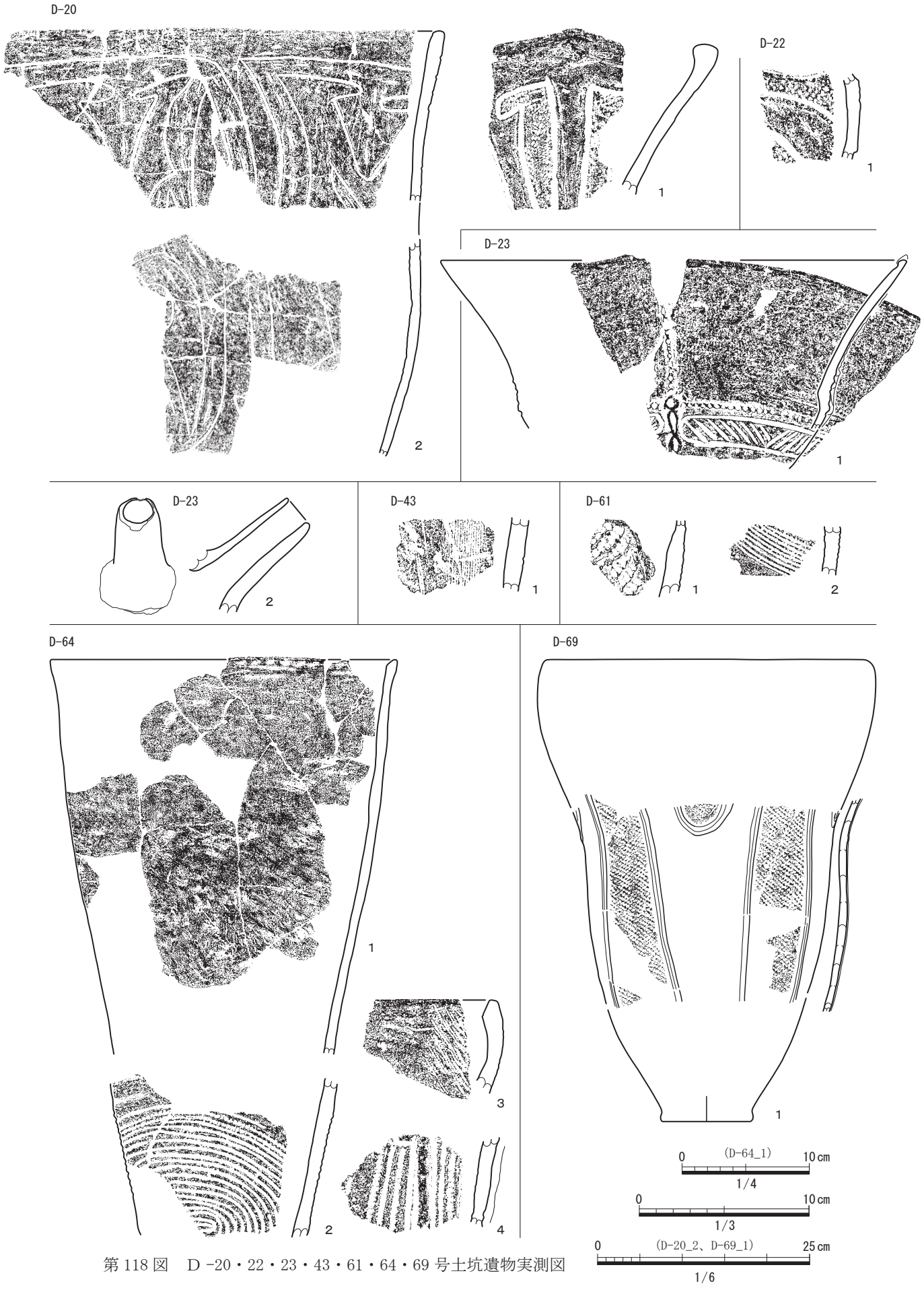
第116図　D-86・87・88号土坑遺構図

Ｄ -88 号土坑（第 116・119・図、第 49 表、PL. 17・67）

位置：Cy-32、Da-32 グリッド。**平面形態**：楕円形。**重複**：なし。**規模**：長軸 153 ㎝、短軸 76 ㎝。**深度**：40 ㎝。**主軸方位**：Ｎ -44°- Ｅ。**覆土**：ロームブロックを含むにぶい黄褐色土が堆積する。**出土遺物**：縄文土器が出土した(1)。1 は割られた深鉢が並べられた状態で出土した。**時期**:出土遺物から後期前葉堀之内２式期に比定される。



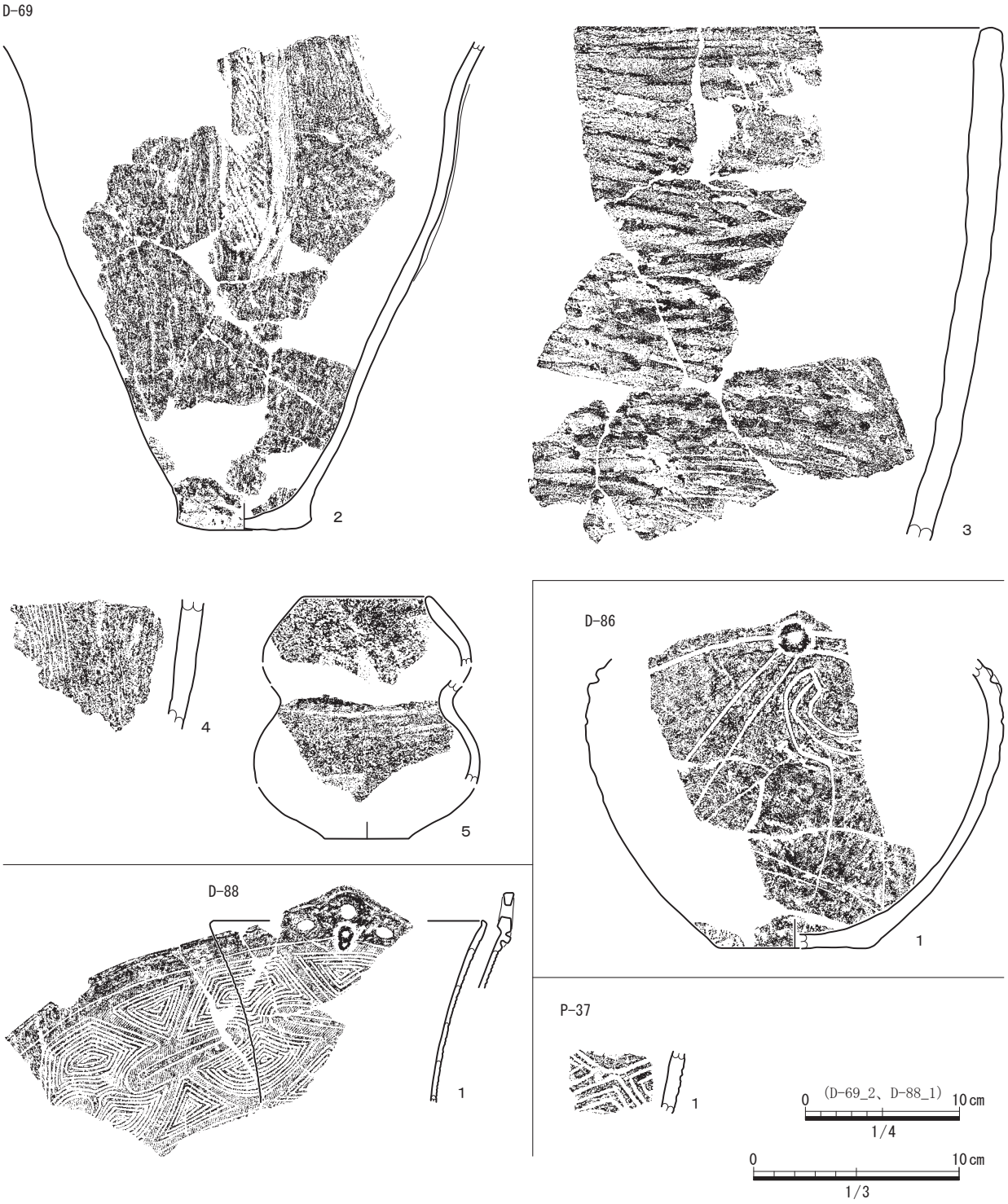
第 117 図　Ｄ－２・10・11・12・21・54・56 号土坑遺物実測図



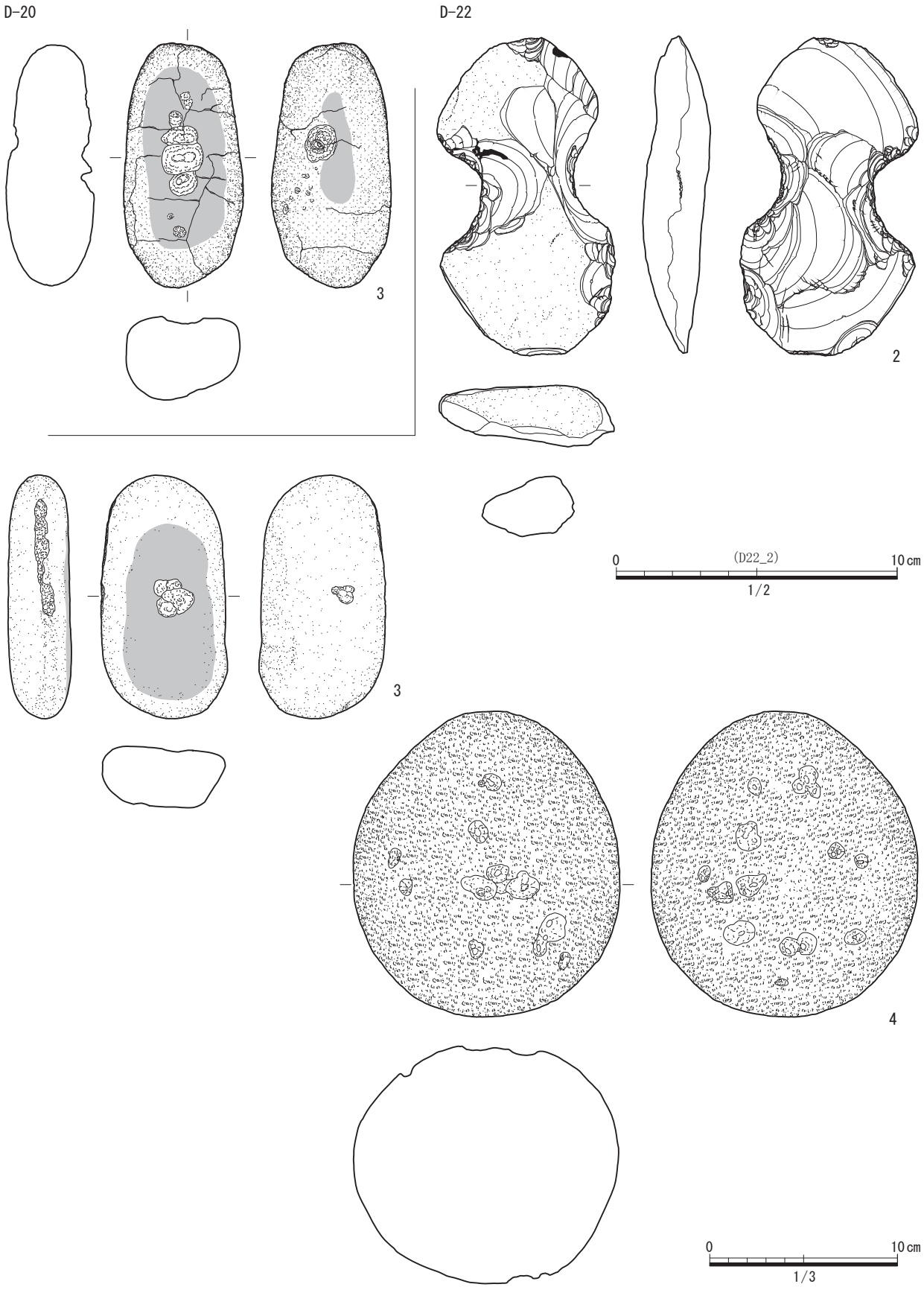
第 118 図　D -20・22・23・43・61・64・69 号土坑遺物実測図

３．ピット

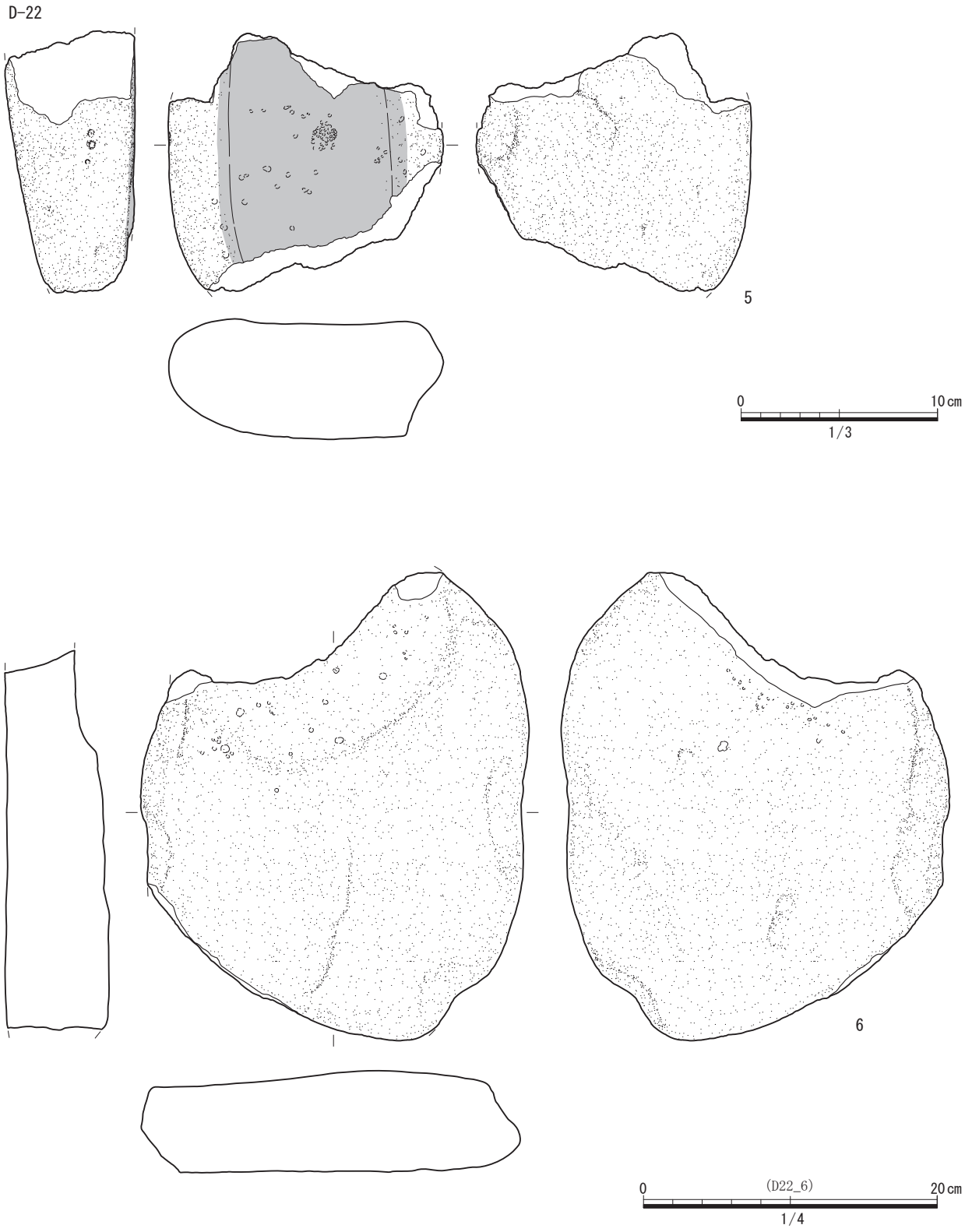
ピットは便宜的に第６節に一覧表を掲載した。遺物を掲載したＰ－37はDb-39グリッドにある単独のピットで、57 × 48 ㎝の不整円形で、深さ 44 ㎝である（第 88 図、第 50 表、PL.66）。



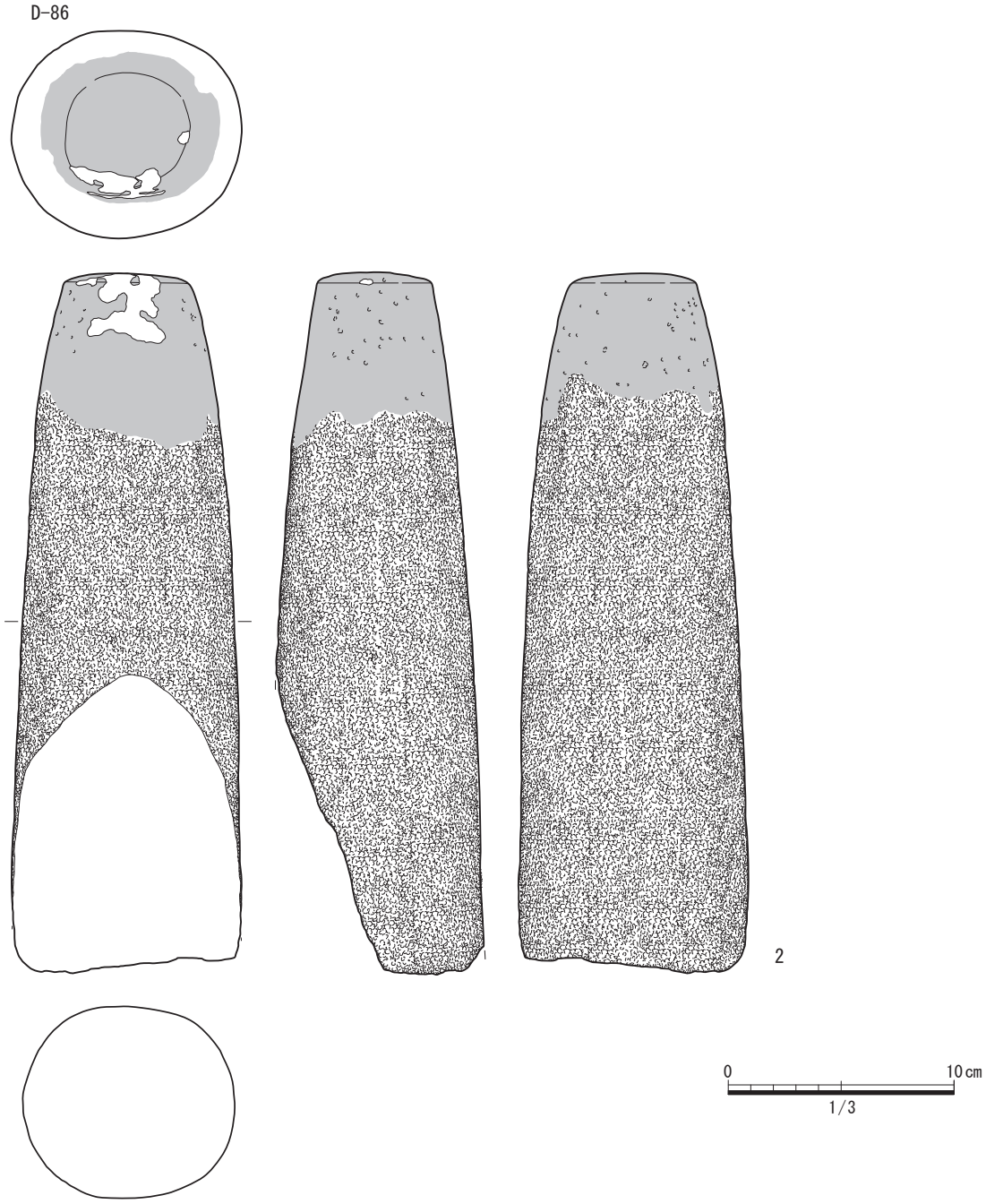
第 119 図　Ｄ－69・86・88 号土坑、Ｐ－37 号ピット遺物実測図



第 120 図　Ｄ -20・22 号土坑遺物実測図



第 121 図　Ｄ -22 号土坑遺物実測図



第 122 図　D -86 号土坑遺物実測図

第 33 表　Ｄ－２号土坑出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)（推定値）		残存	色調	胎土	焼成	成整形の特徴	備考（出土層位等）
1	縄文土器 鉢	口径 底径 器高	－ － －	口縁部破片	橙 2.5YR6/6 橙 2.5YR6/6	白色粒、チャート	良好	内･外面とも横位ナデ。横位沈線４条､中央に単節縄文ＬＲ。	後期初頭 称名寺Ⅰ式
2	縄文土器 注口土器	口径 底径 器高	－ － －	胴部破片	橙 5YR6/6 明褐灰 7.5YR7/2	白色粒、チャート、片岩	良好	内・外面とも横位ナデ。外面、縦位および横位に２条１組の微隆起線文。	覆土一括 後期初頭 称名寺Ⅰ～Ⅱ式

第 34 表　Ｄ－10 号土坑出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)（推定値）		残存	色調	胎土	焼成	成整形の特徴	備考（出土層位等）
1	縄文土器 注口土器	口径 底径 器高	－ － －	胴部破片	にぶい橙 7.5YR7/4 にぶい橙 7.5YR7/4	白色粒、褐色粒	普通	内面横位ナデ。外面、横位隆帯１条と多条化した沈線文。把手の剥落痕あり。	覆土一括 後期前葉 堀之内２式

第 35 表　Ｄ－11 号土坑出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)（推定値）		残存	色調	胎土	焼成	成整形の特徴	備考（出土層位等）
1	縄文土器 深鉢	口径 底径 器高	－ － －	胴部破片	にぶい橙 7.5YR7/4 灰黄褐 10YR6/2	白色粒	普通	内面横位ナデ。外面、沈線文と単節縄文ＬＲ。	覆土一括 後期前葉 堀之内２式

第 36 表　Ｄ－12 号土坑出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)（推定値）		残存	色調	胎土	焼成	成整形の特徴	備考（出土層位等）
1	縄文土器 鉢	口径 底径 器高	－ － －	胴部破片	にぶい黄橙 10YR7/4 にぶい黄橙 10YR7/4	白色粒	普通	内・外面とも横位ナデ。外面、沈線を用いての幾何学文、単節 LR による充填縄文。	後期前葉 堀之内２式

第 37 表　Ｄ－20 号土坑出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)（推定値）		残存	色調	胎土	焼成	成整形の特徴	備考（出土層位等）
1	縄文土器 深鉢	口径 底径 器高	－ － －	口縁部～胴部破片	橙 5YR6/6 橙 5YR6/6	白色粒、褐色粒	普通	内・外面とも横位ナデ。外面、沈線を用いてのＲ字状文、単節 LR による充填縄文。	後期初頭 称名寺Ⅰ式
2	縄文土器 深鉢	口径 底径 器高	－ － －	口縁部～胴部破片	橙 7.5YR7/6 浅黄橙 7.5YR8/4	白色粒、チャート	普通	内・外面とも横位ナデ。沈線を用いてのＲ字状文、スペード文、および長めの列点文	後期初頭 称名寺Ⅱ式

番号	器種	法量（残存値）	残存	石材	特徴	備考（出土層位等）
3	凹石	長さ13.05㎝､幅6.38㎝､厚さ4.44㎝ 重さ496.26g	完形	輝石安山岩	礫素材。表裏の平坦面に凹みがある。その周囲に明瞭な研磨痕がみられる。全体的に被熱する。	

第 38 表　Ｄ－21 号土坑出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)（推定値）		残存	色調	胎土	焼成	成整形の特徴	備考（出土層位等）
1	縄文土器 深鉢	口径 底径 器高	－ － －	胴部破片	にぶい赤褐 2.5YR5/4 にぶい橙 7.5YR6/4	白色粒、チャート	良好	内面ナデ。外面、連続爪形文を伴う隆帯、その脇に半裁竹管による平行沈線および連続爪形文。	Ｄ－21 中期中葉 勝坂式
2	縄文土器 鉢	口径 底径 器高	－ － －	口縁部～胴部破片	橙 7.5YR7/6 浅黄橙 7.5YR8/4	白色粒、チャート	普通	内・外面とも横位ナデ。外面、把手が剥落。沈線文および単節縄文ＬＲ。	中期後葉 加曽利ＥⅢ～Ⅳ式

第 39 表　Ｄ－22 号土坑出土遺物観察表①

番号	器種	法量(cm)（推定値）		残存	色調	胎土	焼成	成整形の特徴	備考（出土層位等）
1	縄文土器 深鉢	口径 底径 器高	－ － －	胴部破片	にぶい黄橙 10YR7/4 にぶい橙 7.5YR7/4	白色粒、チャート	普通	内面横位ナデ。外面、沈線文および単節縄文ＬＲ。	後期初頭 称名寺Ⅰ式

第 40 表　Ｄ -22 号土坑出土遺物観察表②

番号	器種	法量（残存値）	残存	石材	特徴	備考（出土層位等）
2	打製石斧	長さ11.30cm、幅6.33cm、厚さ2.40cm 重さ155.62g	完形	頁岩	剥片素材。分銅型の打製石斧である。	
3	凹石	長さ12.97cm、幅6.74cm、厚さ3.37cm 重さ471.23g	完形	輝石安山岩	礫素材。扁平な礫の表裏の平坦面中央部付近に凹みが形成される。面面には磨り痕がある。左側面に敲打痕がある。	
4	凹石	長さ16.44cm、幅14.34cm、厚さ12.77cm 重さ3873.36g	完形	輝石安山岩	礫素材。全体が敲打によって球形に整形される。表裏に散漫に凹みが形成される。	
5	石皿	長さ13.26cm、幅14.15cm、厚さ6.69cm 重さ1567.00g	1/2 以上欠損	輝石安山岩	礫素材。大きく欠損する。表面の平坦面に磨り痕が残る。目立ての痕か、散漫に敲打痕が残る。	
6	台石	長さ31.80cm、幅26.39cm、厚さ7.10cm 重さ8055.70g	両端部欠損	輝石安山岩	礫素材。表裏面に散漫な敲打痕が残る。	

第 41 表　Ｄ -23 号土坑出土遺物観察表

番号	器種	法量（cm）（推定値）		残存	色調	胎土	焼成	成整形の特徴	備考（出土層位等）
1	縄文土器 深鉢	口径 底径 器高	(27.4) － －	口縁部破片	黒褐 7.5YR3/1 にぶい赤褐 7.5YR4/4	白色粒、褐色粒	良好	内・外面とも横位ナデ。外面、縦位および横位の鎖状隆線、交点に８字状および円形貼付文。横位隆線の直下に綾杉状沈線文を伴う横位枠状区画。	後期前葉 堀之内２式
2	縄文土器 注口土器	口径 底径 器高	－ － －	注口部破片	黄橙 10YR8/6 浅黄橙 10YR8/3	白色粒、チャート	普通	外面横位ナデ。残存範囲において無文。	後期前葉

第 42 表　Ｄ -43 号土坑出土遺物観察表

番号	器種	法量（cm）（推定値）		残存	色調	胎土	焼成	成整形の特徴	備考（出土層位等）
1	縄文土器 深鉢	口径 底径 器高	－ － －	胴部破片	浅黄橙 7.5YR8/4 浅黄橙 10YR8/4	白色粒、片岩	普通	内面ナデ。外面、櫛歯状工具による縦位条線。	中期後葉 ～後期初頭

第 43 表　Ｄ -54 号土坑出土遺物観察表

番号	器種	法量（cm）（推定値）		残存	色調	胎土	焼成	成整形の特徴	備考（出土層位等）
1	縄文土器 深鉢	口径 底径 器高	－ － －	胴部破片	にぶい黄橙 10YR ７/3 橙 5YR ７/4	白色粒、片岩	良好	内面横位ナデ、外面ナデ。外面、沈線による幾何学文、単節ＬＲによる充填縄文。	覆土一括 後期前葉 堀之内２式

第 44 表　Ｄ -56 号土坑出土遺物観察表

番号	器種	法量（cm）（推定値）		残存	色調	胎土	焼成	成整形の特徴	備考（出土層位等）
1	縄文土器 深鉢	口径 底径 器高	－ 12.0 －	胴部破片	にぶい黄橙 10YR7/3 にぶい黄 2.5Y6/3	白色粒、チャート、片岩	良好	内・外面とも横位ナデ。外面、沈線文、単節ＬＲによる充填縄文。	覆土一括 後期初頭 称名寺Ⅰ式

第 45 表　Ｄ -61 号土坑出土遺物観察表

番号	器種	法量（cm）（推定値）		残存	色調	胎土	焼成	成整形の特徴	備考（出土層位等）
1	縄文土器 深鉢	口径 底径 器高	－ － －	胴部破片	にぶい橙 7.5YR7/3 浅黄橙 7.5YR8/4	白色粒、チャート	普通	内面ナデ。外面、縦位回転押捺による単節縄文ＲＬ。	覆土一括 中期後葉 加曽利ＥⅢ式
2	縄文土器 深鉢	口径 底径 器高	－ － －	胴部破片	浅黄橙 5YR6/6 明赤褐 2.5YR5/6	白色粒、片岩	普通	内面ナデ。外面、櫛歯状工具による斜位条線。	覆土一括 中期後葉 ～後期初頭

第 46 表　Ｄ－64 号土坑出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)（推定値）		残存	色調	胎土	焼成	成整形の特徴	備考（出土層位等）
1	縄文土器 深鉢	口径 底径 器高	－ － －	口縁部～胴部破片	橙 2.5YR6/6 橙 2.5YR6/6	多量の雲母、白色粒、片岩	普通	内・外面とも横位ナデ。段状口縁。口縁部内面に稜あり。無文。	中期初頭
2	縄文土器 深鉢	口径 底径 器高	－ － －	胴部破片	明赤褐 2.5YR5/6 灰褐 5YR5/2	雲母、片岩	普通	内面ナデ。外面、渦巻状文。縁辺に細かな連続刺突文。	前期末葉～中期初頭
3	縄文土器 深鉢	口径 底径 器高	－ － －	口縁部破片	にぶい赤褐 5YR5/4 にぶい橙 7.5YR6/4	白色粒、雲母	普通	内・外面とも横位ナデ。口縁部内面に稜あり。外面、斜位回転押捺による撚糸文Ｒ。	前期末葉～中期初頭
4	縄文土器 深鉢	口径 底径 器高	－ － －	胴部破片	灰褐 5YR4/2 明赤褐 5YR5/6	白色粒、チャート、片岩	普通	摩耗により調整の詳細不明。外面、縦位の隆帯および押引文。	中期初頭

第 47 表　Ｄ－69 号土坑出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)（推定値）		残存	色調	胎土	焼成	成整形の特徴	備考（出土層位等）
1	縄文土器 深鉢	口径 底径 器高	－ － －	胴部破片	明赤褐 2.5YR5/6 赤 10YR4/6	白色粒、雲母、褐色粒	普通	内面ナデ。外面、微隆起線文、縦位回転押捺による単節縄文ＬＲ。	中期後葉 加曽利ＥⅣ式
2	縄文土器 深鉢	口径 底径 器高	－ － －	胴部破片	明赤褐 2.5YR5/6 赤 10YR4/6	白色粒、雲母、褐色粒	普通	内面ナデ。外面、微隆起線文、縦位回転押捺による単節縄文ＬＲ。	中期後葉 加曽利ＥⅣ式
3	縄文土器 深鉢	口径 底径 器高	－ － －	口縁部～胴部破片	にぶい褐 7.5YR6/3 にぶい赤褐 5YR5/3	白色粒、チャート	普通	内面横位ナデ。外面、無数の畝をなす横位の調整痕。	後期初頭
4	縄文土器 深鉢	口径 底径 器高	－ － －	胴部破片	にぶい橙 7.5YR6/4 にぶい橙 7.5YR6/4	白色粒、雲母、褐色粒	普通	内面ナデ。外面、櫛歯状工具による縦位条線。	覆土一括 中期後葉 ～後期初頭
5	縄文土器 甕形土器	口径 底径 器高	－ － －	口縁部～胴部破片	黄橙 7.5YR7/8 黄橙 7.5YR7/8	白色粒、褐色粒	普通	内・外面ナデ。残存範囲において無文。	覆土一括 中期後葉 ～後期初頭

第 48 表　Ｄ－86 号土坑出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)（推定値）		残存	色調	胎土	焼成	成整形の特徴	備考（出土層位等）
1	縄文土器 深鉢	口径 底径 器高	－ － －	口縁部～胴部破片	橙 5YR7/6 にぶい橙 7.5YR 7/4	白色粒、チャート	普通	内面横位ナデ、外面ナデ。外面、円形貼付文の下に同心円文と垂下文、および間を連繋する斜位の沈線文。	後期前葉 堀之内１式

番号	器種	法量（残存値）	残存	石材	特徴	備考（出土層位等）
2	石棒	長さ30.99㎝、幅10.18㎝、厚さ9.19㎝ 重さ2899.64g	下端欠損	輝石安山岩	素材不明。全体的に敲打によって整形される。端部は磨かれている。	

第 49 表　Ｄ－88 号土坑出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)（推定値）		残存	色調	胎土	焼成	成整形の特徴	備考（出土層位等）
1	縄文土器 深鉢	口径 底径 器高	－ － －	口縁部～胴部破片	灰褐 7.5YR 5/2 橙 7.5YR 7/6	白色粒	普通	内・外面とも横位ナデ。外面、多条化した沈線による幾何学文、単節ＬＲによる充填縄文。	後期前葉 堀之内２式

第 50 表　Ｐ－37 号ピット出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)（推定値）		残存	色調	胎土	焼成	成整形の特徴	備考（出土層位等）
1	縄文土器 深鉢	口径 底径 器高	－ － －	胴部破片	にぶい黄橙 10YR7/3 にぶい黄橙 10YR7/3	白色粒、褐色粒	良好	内・外面とも横位ナデ。外面、多条化した沈線による幾何学文	覆土一括 後期前葉 堀之内２式

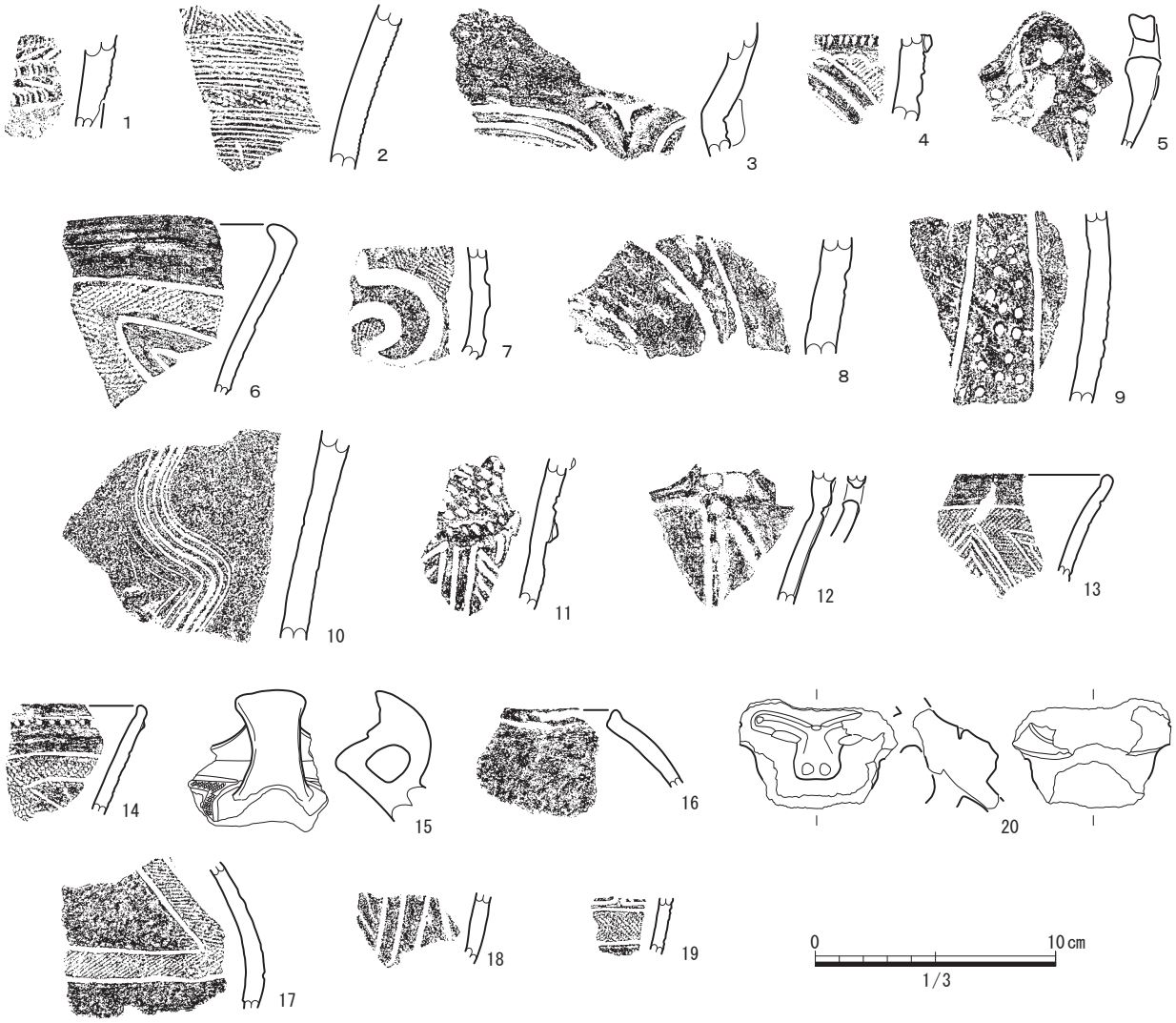
４．遺構外出土遺物

古墳時代以降の遺構に混入したものを遺構外出土遺物として扱った（第 123 ～ 126 図、第 51・52 表、PL. 66・69・70・71）。

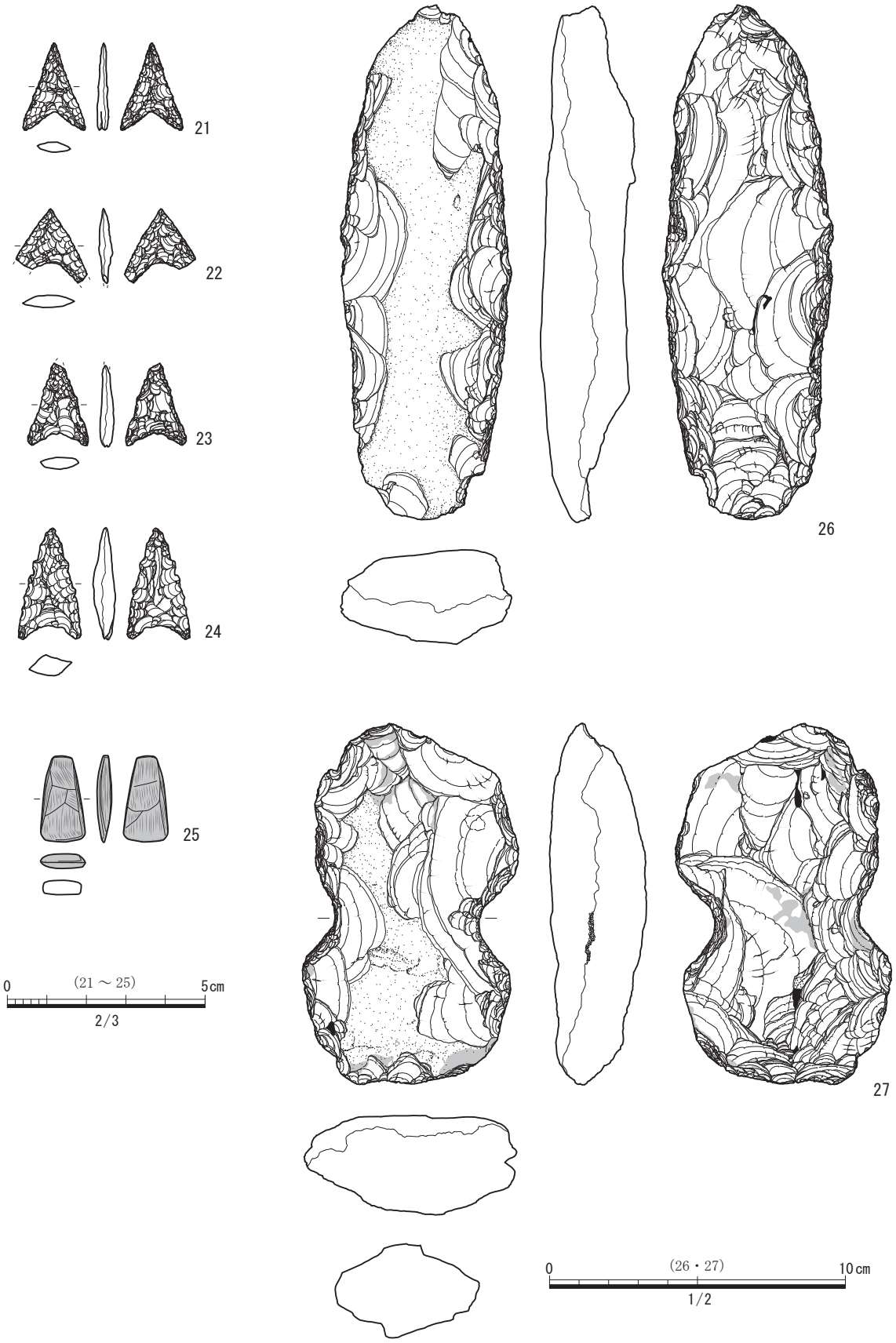
縄文時代の遺構は後期初頭～前葉のものが多く、遺構外出土土器が示す時期幅もおおむね同様ながら、少数例に着目すると前期から晩期にまで広がる様子がみてとれる。

前期として後葉の諸磯ｂ・ｃ式、晩期では１点のみながら大洞系の土器破片が含まれている。また、ハート形土偶の頭部破片がＭ－１号溝の覆土中より出土している。

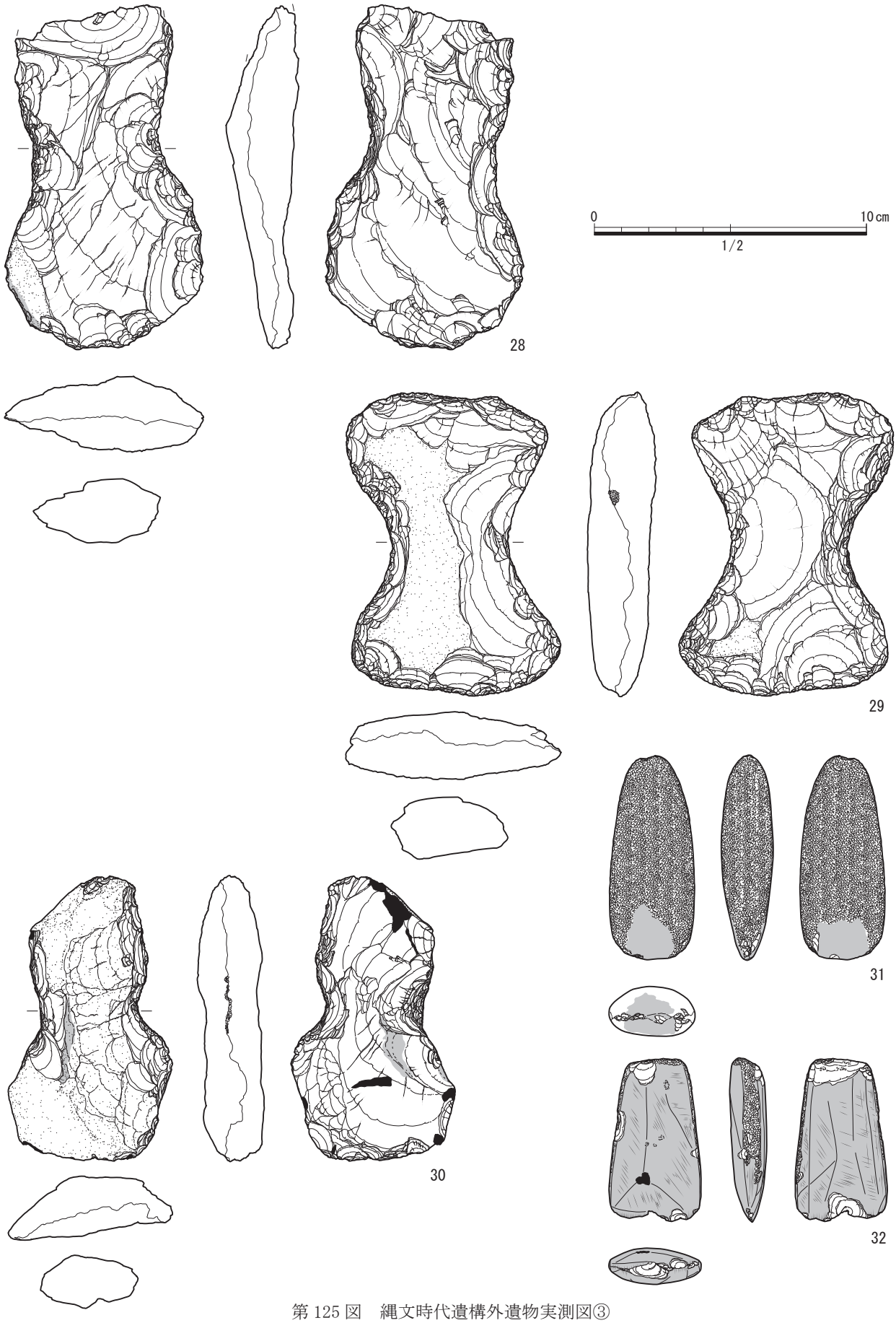
石器・石製品では、石鏃、打製石斧、磨製石斧、凹石、磨石、切目石錘、小形の磨製石斧が出土した。



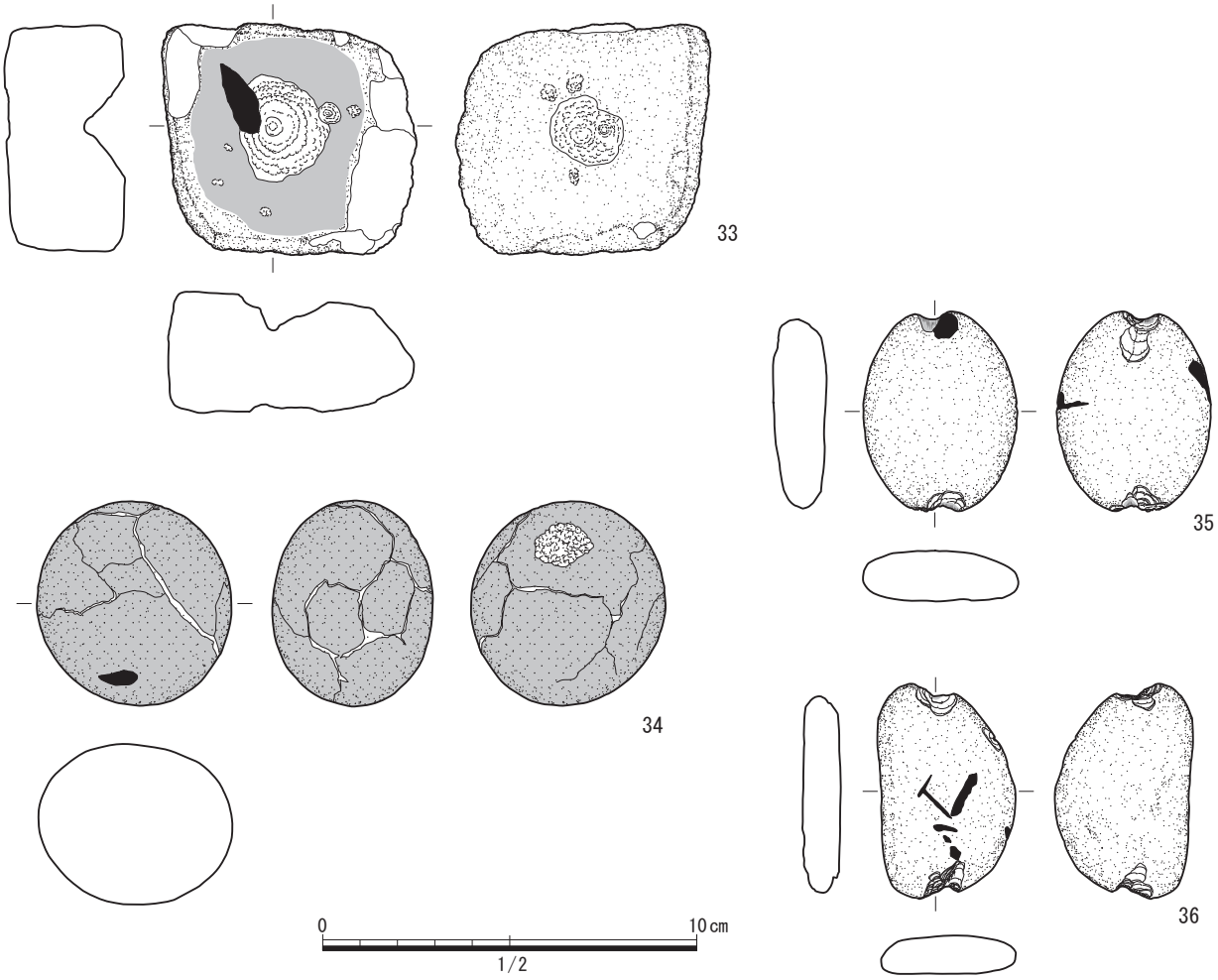
第 123 図　縄文時代遺構外遺物実測図①



第 124 図　縄文時代遺構外遺物実測図②



第 125 図　縄文時代遺構外遺物実測図③



第 126 図　縄文時代遺構外遺物実測図④

第 51 表　縄文時代遺構外出土遺物観察表①

番号	器種	法量(cm)（推定値）		残存	色調	胎土	焼成	成整形の特徴	備考（出土層位等）
1	縄文土器 深鉢	口径 底径 器高	－ － －	胴部破片	明赤褐 2.5YR5/6 明赤褐 2.5YR5/6	白色粒	普通	内面ナデ。外面、キザミを伴う浮線文、Ｃ字状爪形文。	Ｄ-77 前期後葉 諸磯ｂ式
2	縄文土器 深鉢	口径 底径 器高	－ － －	胴部破片	橙 7.5YR7/6 橙 7.5YR7/6	白色粒、チャート	普通	内面横位ナデ。外面、集合沈線。地文として単節縄文ＲＬ。	Ｈ-12 前期後葉 諸磯ｃ式
3	縄文土器 深鉢	口径 底径 器高	－ － －	胴部破片	明赤褐 2.5YR5/6 にぶい橙 7.5YR6/4	白色粒、雲母、チャート	普通	内面ナデ。外面、Ｙ字状に垂下する隆帯。隆帯に沿って沈線文。	Ｉ－１区撹乱 中期前葉 五領ヶ台式
4	縄文土器 深鉢	口径 底径 器高	－ － －	胴部破片	にぶい赤褐 2.5YR5/4 にぶい赤褐 5YR5/4	白色粒、チャート	良好	内面ナデ。外面、連続爪形文を伴う隆帯、その脇に半裁竹管による半円形刺突文、平行沈線および連続爪形文。	Ｄ-57 中期中葉 勝坂式
5	縄文土器 深鉢	口径 底径 器高	－ － －	口縁部破片	にぶい橙 5YR 7/4 にぶい橙 5YR 7/4	白色粒、チャート、片岩	普通	内面ナデ。波状口縁の波頂部に円孔。外面列点文、沈線文、単節縄文ＬＲ。	Ｈ－３ 後期初頭 称名寺Ⅰ式
6	縄文土器 深鉢	口径 底径 器高	－ － －	口縁部破片	にぶい橙 7.5YR 7/4 にぶい橙 7.5YR 7/4	白色粒、褐色粒	良好	内・外面とも横位ナデ。内屈する口唇部。外面、沈線文、単節ＬＲによる充填縄文。	Ｉ－２区撹乱 後期初頭 称名寺Ⅰ式
7	縄文土器 深鉢	口径 底径 器高	－ － －	胴部破片	橙 7.5YR6/6 橙 7.5YR6/6	白色粒、チャート	良好	内面ナデ。外面渦巻状文、単節縄文ＬＲ。	Ｄ-57 後期初頭 称名寺Ⅰ式
8	縄文土器 深鉢	口径 底径 器高	(37.4) － 〔49.5〕	胴部破片	橙 2.5YR6/6 橙 2.5YR6/6	白色粒、チャート	良好	内面ナデ。外面沈線文、列点文。	Ｄ-44 後期初頭 称名寺Ⅱ式
9	縄文土器 深鉢	口径 底径 器高	－ － －	胴部破片	にぶい橙 7.5YR 7/4 橙 2.5Y6/6	白色粒、チャート、片岩	良好	内面横位ナデ、外面ナデ。外面沈線文、正円に近い列点文。	Ｈ－３ 後期初頭 称名寺Ⅱ式
10	縄文土器 深鉢	口径 底径 器高	－ － －	胴部破片	にぶい橙 7.5YR 7/4 橙 2.5Y7/6	白色粒、褐色粒、片岩	良好	内面横位ナデ、外面ナデ。外面、櫛歯状工具による蛇行垂下文。	Ｄ-65 後期初頭～前葉

第 52 表　縄文時代遺構外出土遺物観察表②

番号	器種	法量(cm)（推定値）		残存	色調	胎土	焼成	成整形の特徴	備考（出土層位等）
11	縄文土器 深鉢	口径 底径 器高	－ － －	胴部破片	浅黄橙 10YR8/4 浅黄橙 10YR8/4	白色粒、褐色粒	普通	内面ナデ。外面、キザミを伴う隆帯、内側に列点文。隆帯の下、多条化した縦位および斜位の沈線文。	Ｈ－１ 後期前葉 堀之内１式
12	縄文土器 深鉢	口径 底径 器高	－ － －	口縁部破片	浅黄橙 10YR8/3 浅黄橙 10YR8/3	白色粒、チャート、片岩	良好	内面横位ナデ、外面ナデ。突起部分。外面、低めの円形貼付文、縦位および斜位の隆帯。	Ｔ－１ 後期前葉 堀之内１式
13	縄文土器 深鉢	口径 底径 器高	－ － －	口縁部破片	浅黄橙 7.5YR8/6 褐灰 10YR6/1	白色粒、褐色粒	良好	内・外面とも横位ナデ。外面、多条化した沈線による幾何学文、単節ＬＲによる充填縄文。	Ｐ-23 後期前葉 堀之内２式
14	縄文土器 深鉢	口径 底径 器高	－ － －	口縁部破片	黄灰 2.5Y6/1 黄灰 2.5Y6/1	白色粒	良好	内･外面とも横位ナデ。外面、口唇部直下に横位鎖状隆線。沈線による幾何学文、単節ＬＲによる充填縄文。	Ｄ－５ 後期前葉 堀之内２式
15	縄文土器 深鉢	口径 底径 器高	－ － －	把手～ 胴部破片	灰 5YR4/1 灰黄 2.5YR7/2	白色粒、チャート	良好	内・外面ともナデ。内面口唇部、蓋受け用の低い段あり。外面、沈線による幾何学文、単節ＬＲによる充填縄文。	Ｉ－２区 後期前葉 堀之内２式
16	縄文土器 小形深鉢	口径 底径 器高	－ － －	口縁部破片	にぶい橙 7.5YR ７/4 灰黄褐 10YR5/2	白色粒、チャート、片岩	良好	内・外面とも横位ナデ。口唇部断面、わずかに外へ張り出す角頭状。残存範囲において無文。	Ｈ-15 後期前葉 堀之内２式
17	縄文土器 鉢または注口土器	口径 底径 器高	－ － －	胴部破片	浅黄橙 10YR8/4 黄灰 2.5Y6/1	白色粒、チャート	良好	内・外面とも横位ナデ。外面、沈線による幾何学文、単節ＬＲによる充填縄文。	Ｉ－２区 後期前葉 堀之内２式
18	縄文土器 深鉢	口径 底径 器高	－ － －	胴部破片	浅黄橙 7.5YR8/4 浅黄橙 10YR8/4	白色粒	普通	内面横位ナデ。外面、沈線文および単節縄文ＬＲ。	Ｄ-42 後期前葉 堀之内２式
19	縄文土器 注口土器	口径 底径 器高	－ － －	口縁部破片	にぶい黄橙 10YR7/4 灰黄褐 10YR6/2	白色粒	良好	内面横位ナデ。外面、工字文に類似する沈線文、単節ＲＬによる充填縄文。	Ｄ－１ 晩期後葉
20	土偶	口径 底径 器高	－ － －	頭部破片	にぶい橙 7.5YR7/4 にぶい橙 7.5YR7/4	白色粒、チャート	普通	外面ナデ。眉と鼻を隆帯で表現。眉尻と眉間、鼻孔に丸い刺突文。眉にキザミ。内面、胴部と連結するためのブリッジの剥落痕。	Ｍ－１ 後期前葉 堀之内２式

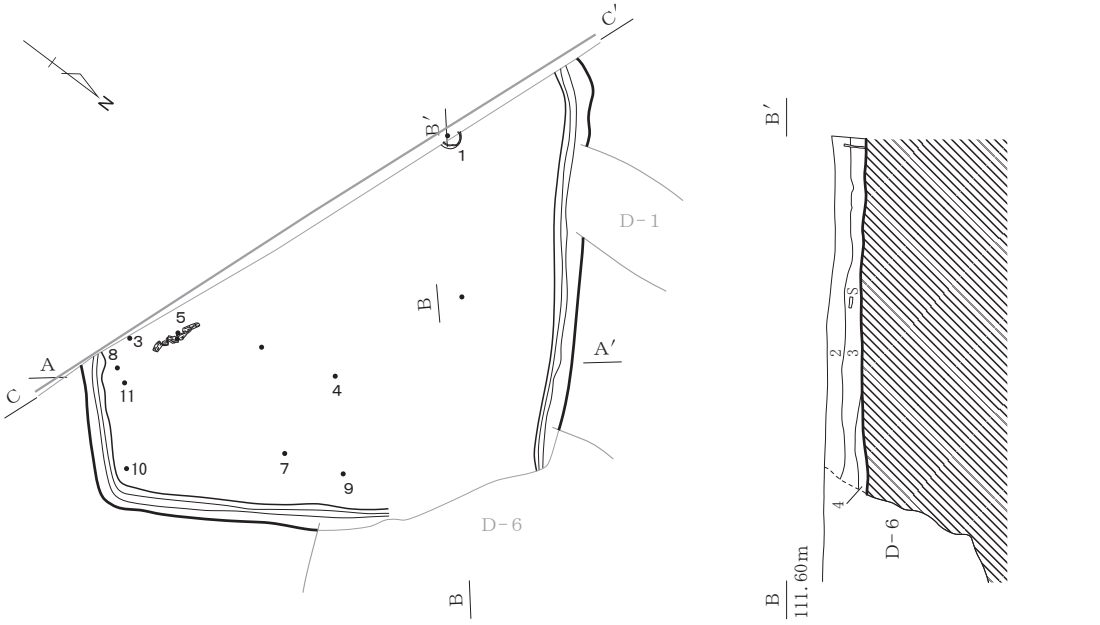
番号	器種	法量（残存値）	残存	石材	特徴	備考（出土層位等）
21	石鏃	長さ2.20cm、幅1.57cm、厚さ0.29cm 重さ0.51g	完形	チャート	剥片素材。凹基石鏃。	H-19 掘り方出土
22	石鏃	長さ1.87cm、幅1.79cm、厚さ0.34cm 重さ0.71g	基部欠損	チャート	剥片素材。凹基石鏃。	H-10 床面出土
23	石鏃	長さ2.08cm、幅1.52cm、厚さ0.35cm 重さ0.76g	先端部欠損	黒曜石	剥片素材。凹基石鏃。	1 区カクラン
24	石鏃	長さ2.81cm、幅1.58cm、厚さ0.56cm 重さ1.79g	完形	チャート	剥片素材。凹基石鏃。	1 区カクラン
25	小型磨製石斧	長さ2.17cm、幅1.12cm、厚さ0.36cm 重さ1.34g	完形	蛇紋岩	素材不明。全面研磨された両刃の小型磨製石斧。	H-16 出土
26	打製石斧	長さ17.34cm、幅5.76cm、厚さ3.19cm 重さ320.99g	完形	黒色頁岩	剥片素材。棒状の打製石斧か。端部には刃部を作り出すような加工がみられない。	M-1 出土
27	打製石斧	長さ12.16cm、幅7.28cm、厚さ3.26cm 重さ302.88g	完形	黒色安山岩	剥片素材。分銅型の打製石斧である。	M-1 出土
28	打製石斧	長さ12.63cm、幅7.26cm、厚さ2.66cm 重さ184.67g	上端部欠損	黒色頁岩	剥片素材。分銅型の打製石斧である。	H-12 出土
29	打製石斧	長さ11.11cm、幅7.86cm、厚さ2.52cm 重さ240.26g	完形	安山岩	礫素材。分銅型の打製石斧である。	2 区出土
30	打製石斧	長さ10.44cm、幅6.02cm、厚さ2.45cm 重さ150.44g	完形	黒色頁岩	剥片素材。分銅型の打製石斧である。	カクラン出土
31	磨製石斧	長さ7.48cm、幅3.12cm、厚さ1.90cm 重さ63.40g	完形	安山岩	素材不明。整形の敲打痕を大部分残す刃部部分だけが研磨された蛤刃の磨製石斧である。	2区カクラン出土
32	磨製石斧	長さ5.97cm、幅3.37cm、厚さ1.35cm 重さ42.37g	刃部欠損	蛇紋岩	素材不明。整形の敲打痕を部分的に残すほぼ全面研磨の磨製石斧である。刃部が欠損しているが両刃であろう。	H-12 出土
33	凹石	長さ9.26cm、幅10.19cm、厚さ4.85cm 重さ616.54g	完形	輝石安山岩	礫素材。扁平な礫を素材として、表裏の平坦面中央部に集中して凹みが形成される。表面には磨り痕が残る。	D-71 出土
34	磨石	長さ5.49cm、幅5.18cm、厚さ4.28cm 重さ160.50g	完形	輝石安山岩	礫素材。全体に磨り痕が残る。裏面に集中した凹みが形成される。被熱で全体的にヒビ側れる。	D-79 出土
35	石錘	長さ5.33cm、幅4.11cm、厚さ1.35cm 重さ52.62g	完形	輝石安山岩	礫素材。両端に敲打あるいは剥離によって抉りが形成される。抉り部分には部分的に磨耗痕が残る。	2 区出土
36	石錘	長さ5.73cm、幅3.68cm、厚さ1.02cm 重さ39.39g	完形	結晶片岩	礫素材。両端に敲打あるいは剥離によって抉りが形成される。抉り部分には部分的に磨耗痕が残る。	H-19 出土

第５節　古墳時代

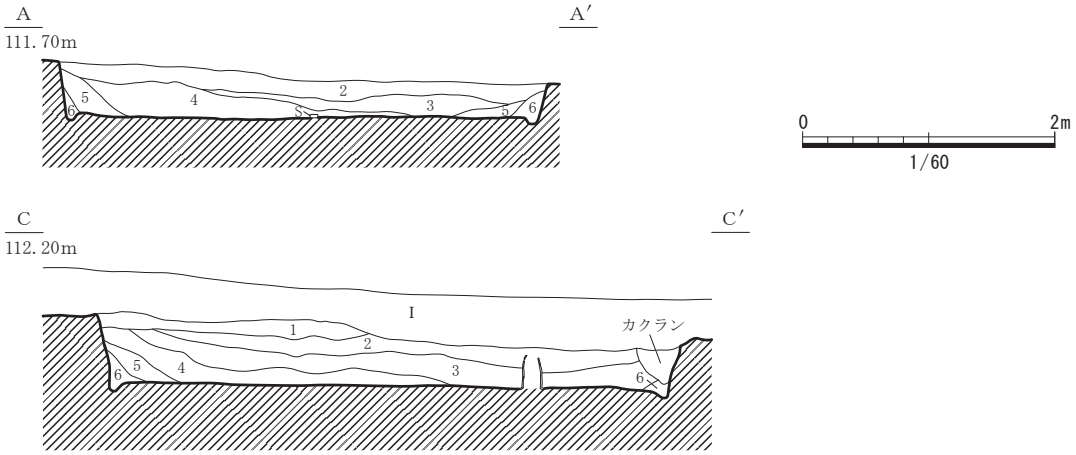
１．竪穴住居跡

Ｈ－１号住居跡（第 127・128 図、第 53 表、PL. 18・72・73・75）

位置：２区。Cx-28･29、Cy-29 グリッド。**平面形態**：方形。**重複**：Ｄ－１号土坑に西壁の一部、Ｄ－６号土坑に住居北隅を切られる。**規模**:長軸〈3. 9〉ｍ、短軸 3. 9 ｍ、面積〈9. 16〉㎡。**主軸方位**:Ｎ－ 55°　－Ｅ。**深度**:0. 32 ｍ。**カマド**：調査区外と推定される。**柱穴**：確認されていない。**壁周溝**：幅 0. 25 ｍ、深さ 0. 1 ｍ程度の溝が全周している。**貯蔵穴・土坑**：確認されていない。**床面の状態**：概ね平坦である。**埋没状況**：覆土は６層に分層され、



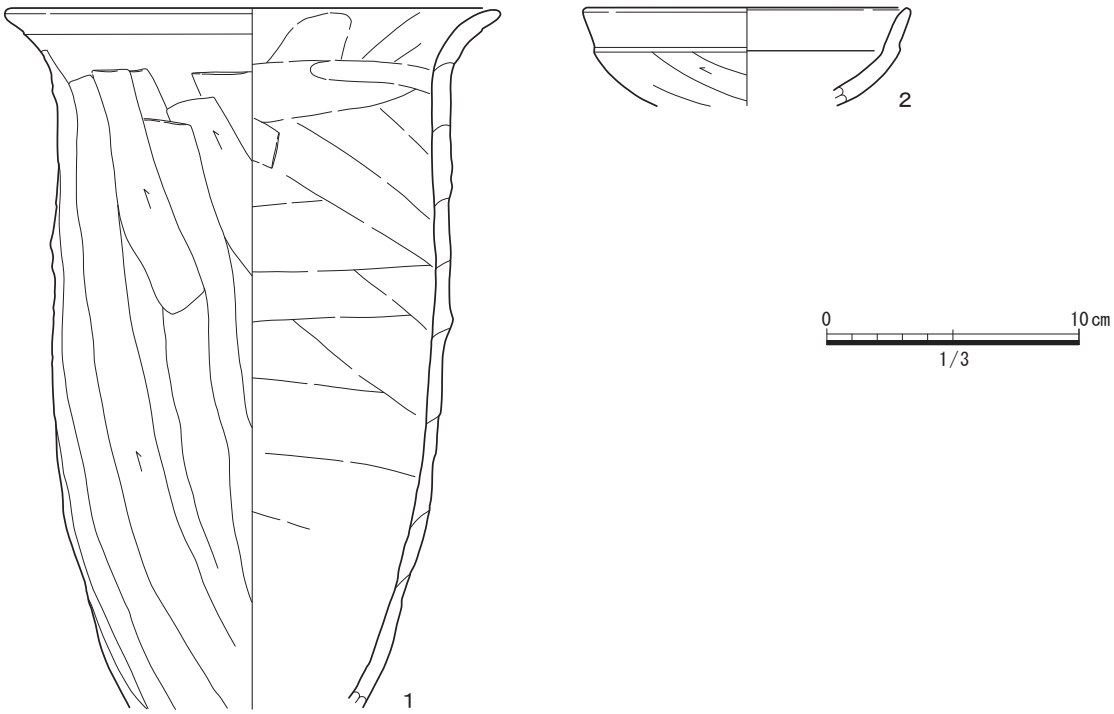
Ｈ－１号住居跡・遺物出土状況図



Ｈ－１　土層説明
1．褐 色 土　締まりあり、粘性ややあり、ローム粒子中量。
2．黄褐色土　締まりあり、粘性ややあり、ロームブロックφ1～5㎝、黒色土ブロックφ3～5㎝多量。
3．暗褐色土　締まりあり、粘性ややあり、ローム粒子多量、ロームブロックφ5～8㎜中量。
4．黒褐色土　締まりあり、粘性ややあり、ローム粒子少量。
5．黄褐色土　締まりあり、粘性弱い、ローム粒子中量。。
6．黒褐色土　締まりあり、粘性ややあり、ローム粒子中量。

第 127 図　Ｈ－１号住居跡遺構図

自然埋没と考えられる。**出土遺物**：遺物は住居東側に分布し、甕１は住居西隅で逆位に倒立していた。また、菰編石は東隅周辺からまとまって出土している。遺物組成は土師器甕・坏、菰編石である。土師器甕（１）は長胴化し口径に最大径がある。**時期**：出土遺物の特徴から６世紀末～７世紀初めに位置付けられる。**備考**：住居南側は調査区外。



第 128 図　Ｈ－１号住居跡遺物実測図

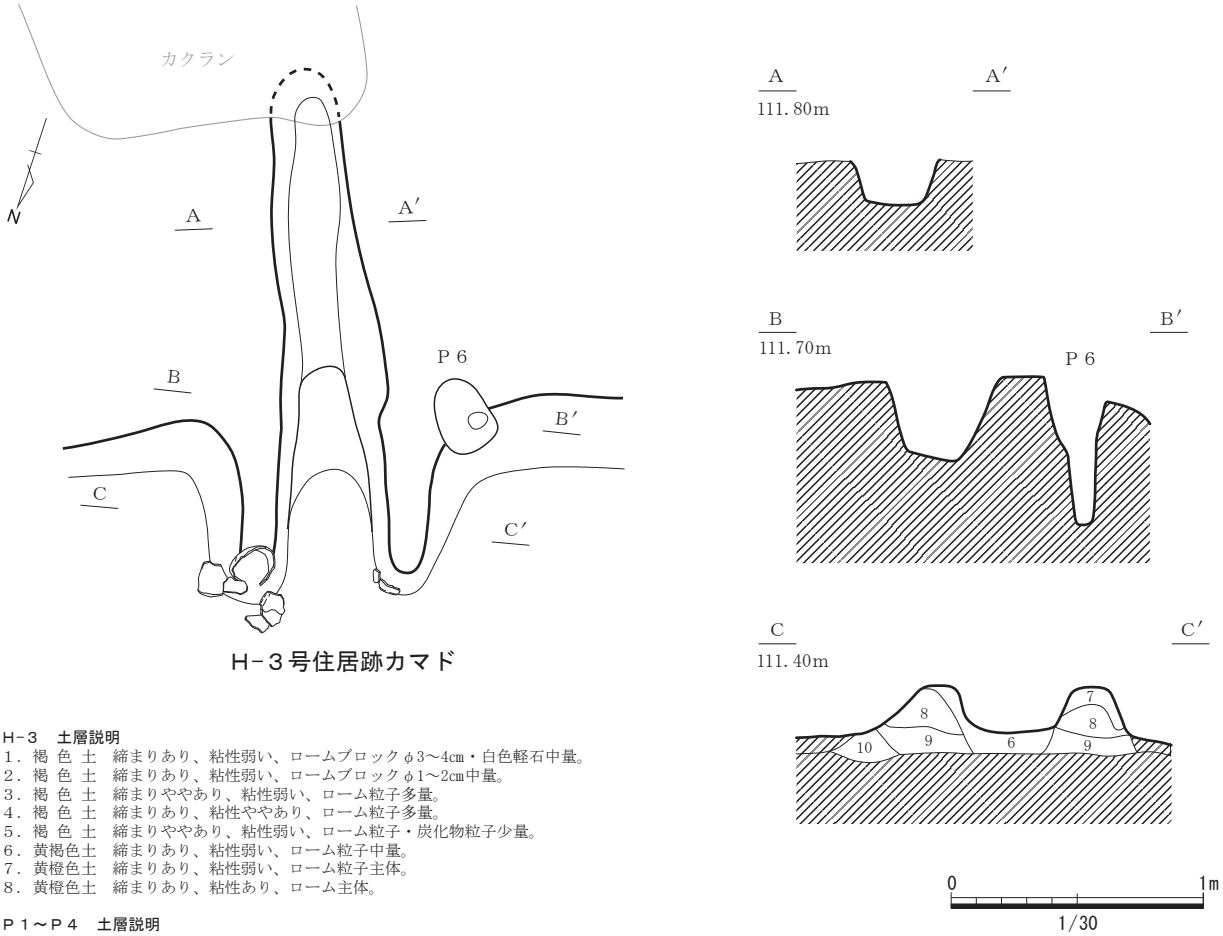
第 53 表　Ｈ－１号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)（推定値）		残存	色調	胎土	焼成	成整形の特徴	備考（出土層位等）
1	土師器甕	口径 底径 器高	19.7） － （27.8）	口縁部～底部 4/5	外：にぶい赤褐 5YR5/4 内：にぶい赤褐 5YR5/4	大粒の片岩・石英・チャート	良好	外：口縁部ヨコナデ、胴部タテのヘラケズリ 内：口縁部ヨコナデ、胴部ヨコのヘラナデ	西隅床直
2	土師器坏	口径 底径 器高	（13.0） － （3.9）	口縁部～体部破片	外：にぶい黄橙 10YR6/3 内：にぶい黄橙 10YR6/3	チャート、石英、絹雲母	良好	外：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ 内：口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ	覆土

番号	器種	法量（残存値）	残存	石材	特徴	備考（出土層位等）
3	菰編石	長さ15.0cm、幅6.1cm、厚さ5.0cm 重さ667.59g	完形	安山岩	形態：楕円形	東壁際床直
4	菰編石	長さ14.2cm、幅6.2cm、厚さ2.5cm 重さ373.87g	完形	片岩	形態：楕円形	中央付近床直
5	菰編石	長さ13.9cm、幅5.6cm、厚さ2.0cm 重さ216.86g	完形	片岩	形態：楕円形	東壁床直
6	菰編石	長さ12.7cm、幅6.1cm、厚さ3.2cm 重さ374.65g	完形	片岩	形態：長方形	覆土
7	菰編石	長さ13.1cm、幅5.8cm、厚さ2.0cm 重さ207.88g	完形	片岩	形態：楕円形	北壁際床直
8	菰編石	長さ11.2cm、幅5.6cm、厚さ2.5cm 重さ229.29g	完形	片岩	形態：楕円形	東壁際床直
9	菰編石	長さ(10.7cm)、幅4.2cm、厚さ2.8cm 重さ196.12g	1/2	片岩	形態：棒状	北壁際床直
10	菰編石	長さ11.8cm、幅4.5cm、厚さ2.1cm 重さ190.73g	完形	緑色片岩	形態：楕円形	東隅床直
11	菰編石	長さ(8.0)cm、幅4.7cm、厚さ2.0cm 重さ100.59g	1/2	片岩	形態：棒状	東壁際床直

Ｈ－３号住居跡（第 129 ～ 134 図、第 54・55 表、PL. 18・19・72 ～ 76）

位置：２区。Cy-35、Da-34 ～ 36、Db-34･35 グリッド。**平面形態**：正方形。重複：カクランにカマド煙道部・北壁の一部を切られる。**規模**：一辺 4.8 m、面積 23.36 ㎡。**主軸方位**：Ｎ－ 90°－Ｅ。**深度**：0.56 m。**カマド**：北壁の中央に旧カマド、東壁の中央に新カマドが付設される。旧カマドは煙道部の残存で幅 0.3 m、長さ 0.95 m、深さ 0.13 mである。新カマドは、全長 2.1 m、最大幅 1.12 m、燃焼部長 0.92 m、煙道部長 1.18 m、焚口部幅 0.4 m、燃焼部幅 0.35 m、煙道立ち上がり角 16°、主軸方位はＮ－ 79°－W。袖はローム堀り残しで、左袖先端に土師器甕（１）を構築材として使用している。**柱穴**：主柱穴はＰ１～Ｐ４で、Ｐ３・Ｐ４では径 15 ㎝程度の柱痕が確認された。Ｐ１は長軸 0.32 m、短軸 0.29 m、深さ 0.73 m。Ｐ２は長軸 0.41 m、短軸 0.35 m、



Ｈ-３号住居跡カマド

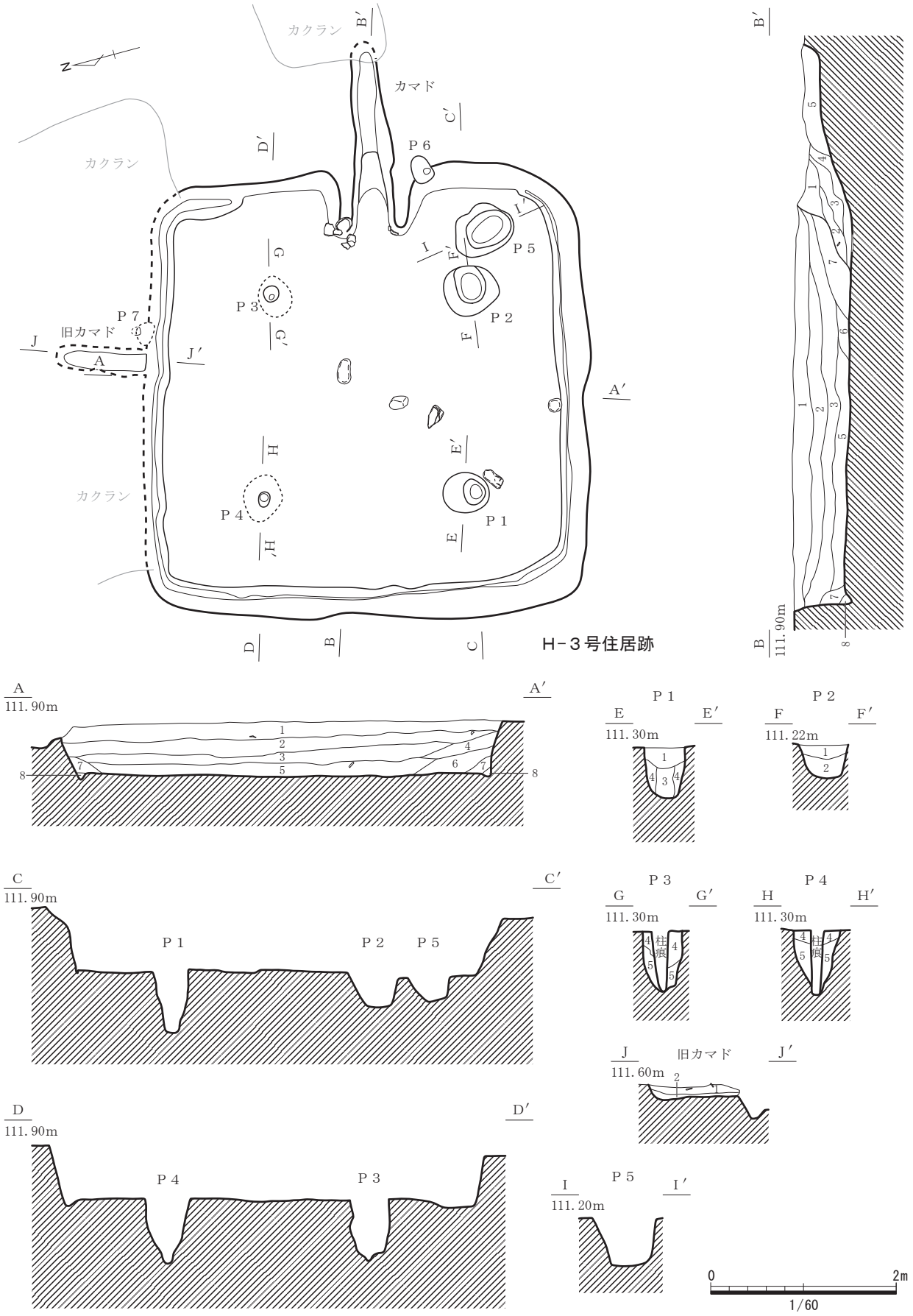
Ｈ-３　土層説明
1．褐 色 土　締まりあり、粘性弱い、ロームブロックφ3～4㎝・白色軽石中量。
2．褐 色 土　締まりあり、粘性弱い、ロームブロックφ1～2㎝中量。
3．褐 色 土　締まりややあり、粘性弱い、ローム粒子多量。
4．褐 色 土　締まりあり、粘性ややあり、ローム粒子多量。
5．褐 色 土　締まりややあり、粘性弱い、ローム粒子・炭化物粒子少量。
6．黄褐色土　締まりあり、粘性弱い、ローム粒子中量。
7．黄橙色土　締まりあり、粘性弱い、ローム粒子主体。
8．黄橙色土　締まりあり、粘性あり、ローム主体。

Ｐ１～Ｐ４　土層説明
1．褐 色 土　締まりあり、粘性あり、ロームブロックφ1～2㎝少量、黒褐色土ブロックφ1～2㎝中量。
2．褐 色 土　締まりあり、粘性あり、ロームブロックφ1～2㎝中量。
3．黄褐色土　締まりややあり、粘性ややあり、ローム主体、柱痕。
4．褐 色 土　締まり強い、粘性なし、ローム粒子多量。

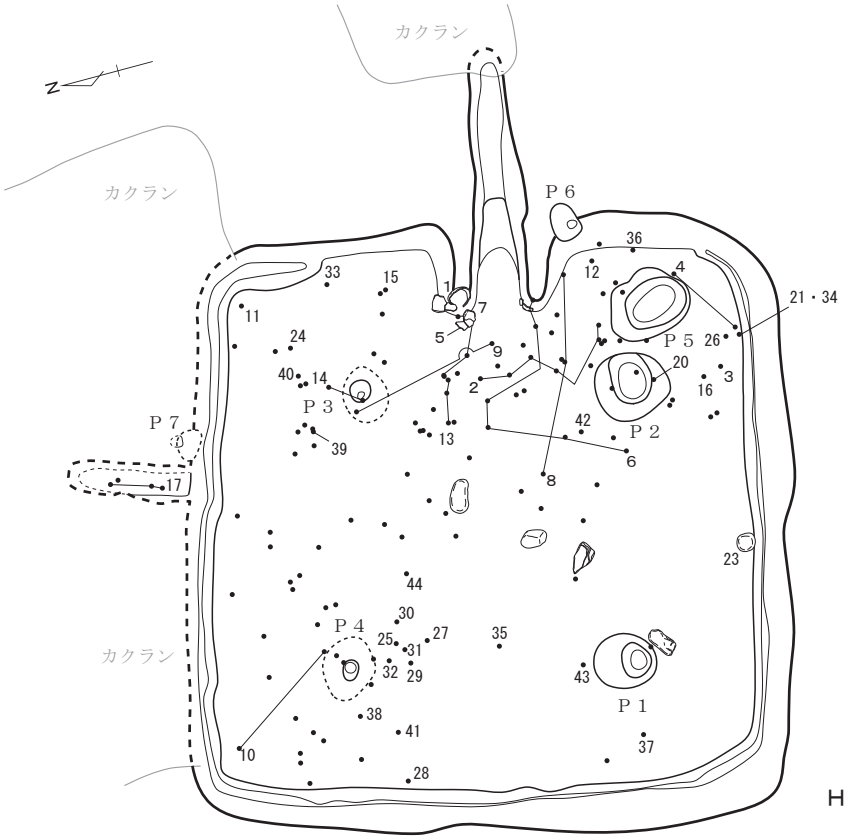
Ｈ-３旧カマド　土層説明
1．灰黄褐色土　締まり強い、粘性弱い、白色粒子・ローム粒子多量、焼土粒子微量
2．褐 色 土　　締まりあり、粘性ややあり、炭化物粒子・焼土粒子中量、ロームブロックφ1～3㎝中量。

Ｈ-３カマド　土層説明
1．黄橙色土　　締まりあり、粘性弱い、ローム主体。
2．黄橙色土　　締まりあり、粘性弱い、焼土ブロックφ1～2㎝中量。
3．黄橙色土　　締まりあり、粘性弱い、焼土ブロックφ1～2㎝少量、ローム粒子中量。
4．黄橙色土　　締まりあり、粘性なし、焼土ブロックφ1～2㎝少量、ローム粒子少量。
5．黄橙色土　　締まりあり、粘性弱い、焼土粒子・ローム粒子中量。
6．灰黄褐色土　締まりあり、粘性ややあり、ローム粒子主体、焼土粒子微量、カマド構築材。
7．褐 色 土　　締まりあり、粘性あり、ローム粒子多量、カマド構築材。
8．黄橙色土　　締まりあり、粘性ややあり、ローム土主体、カマド構築材。
9．暗褐色土　　締まりあり、粘性ややあり、黒色土多量、焼土粒子少量、カマド構築材。
10．黄橙色土　　締まりあり、粘性ややあり、ローム土主体、カマド構築材。

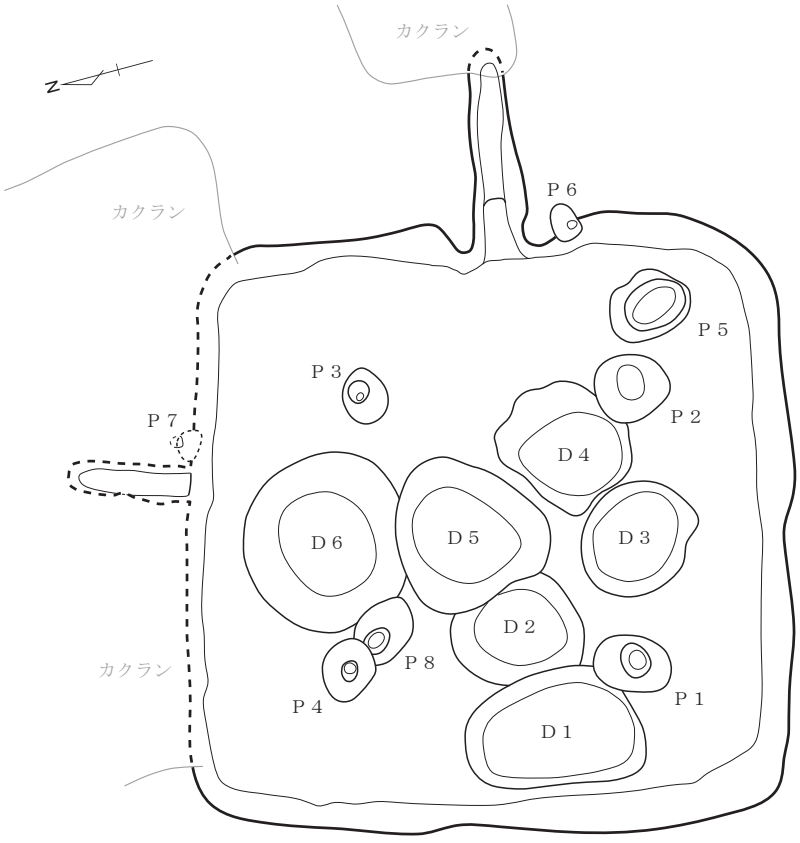
第 129 図　Ｈ－３号住居跡遺構図①



第 130 図　Ｈ－３号住居跡遺構図②



H－３号住居跡遺物出土状況図

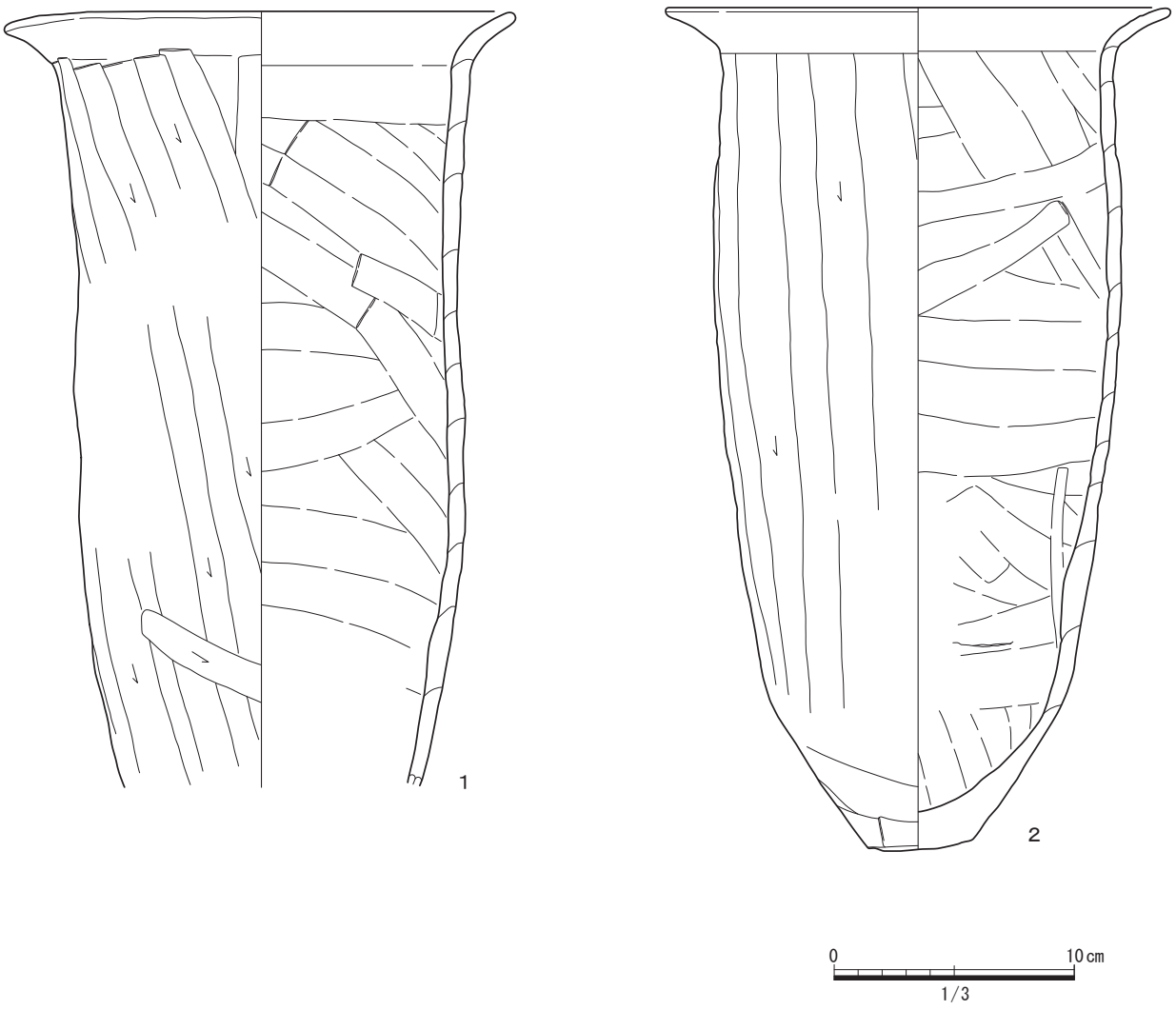


H－３号住居跡掘り方

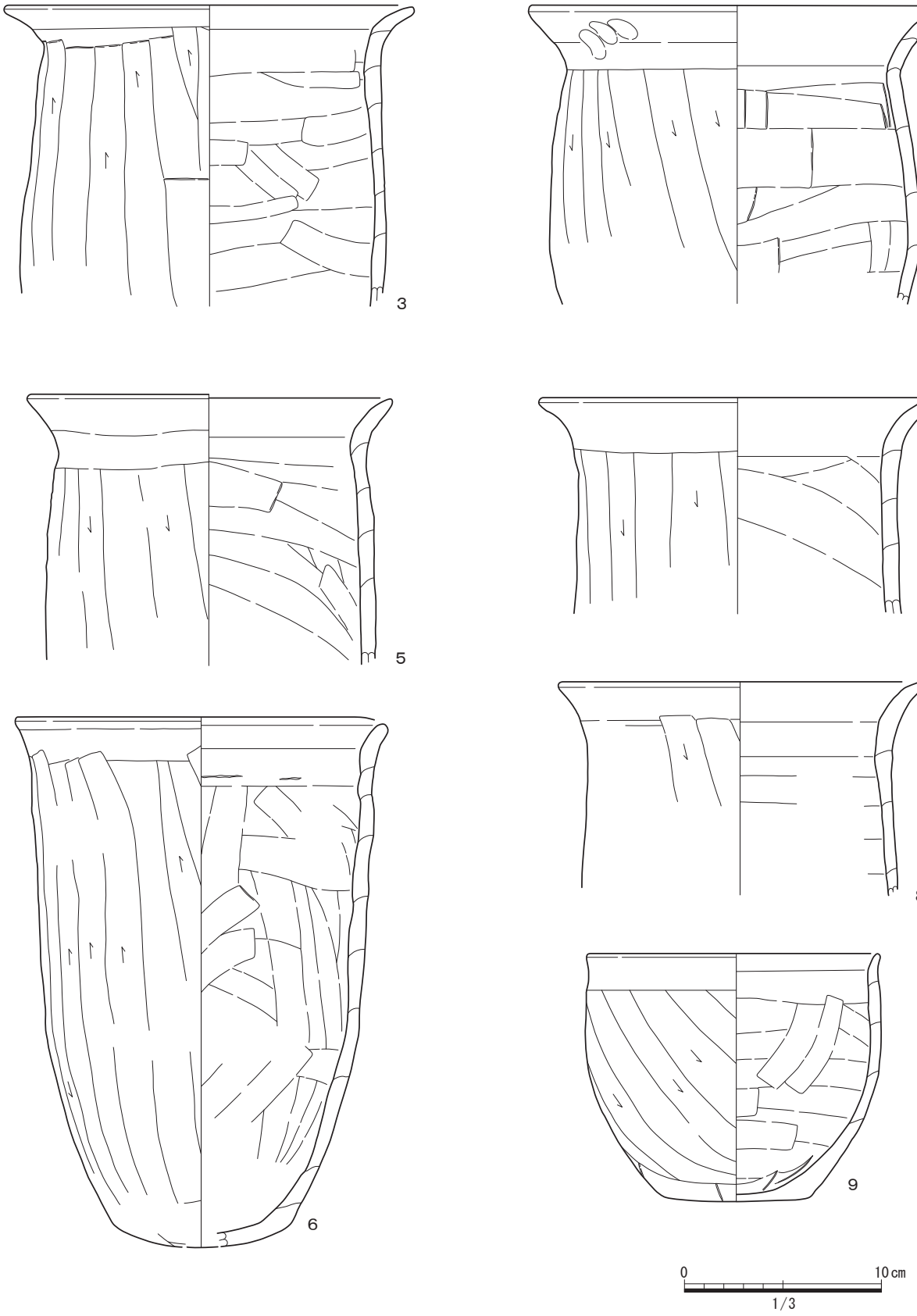
0　2m
1/60

第 131 図　Ｈ－３号住居跡遺構図③

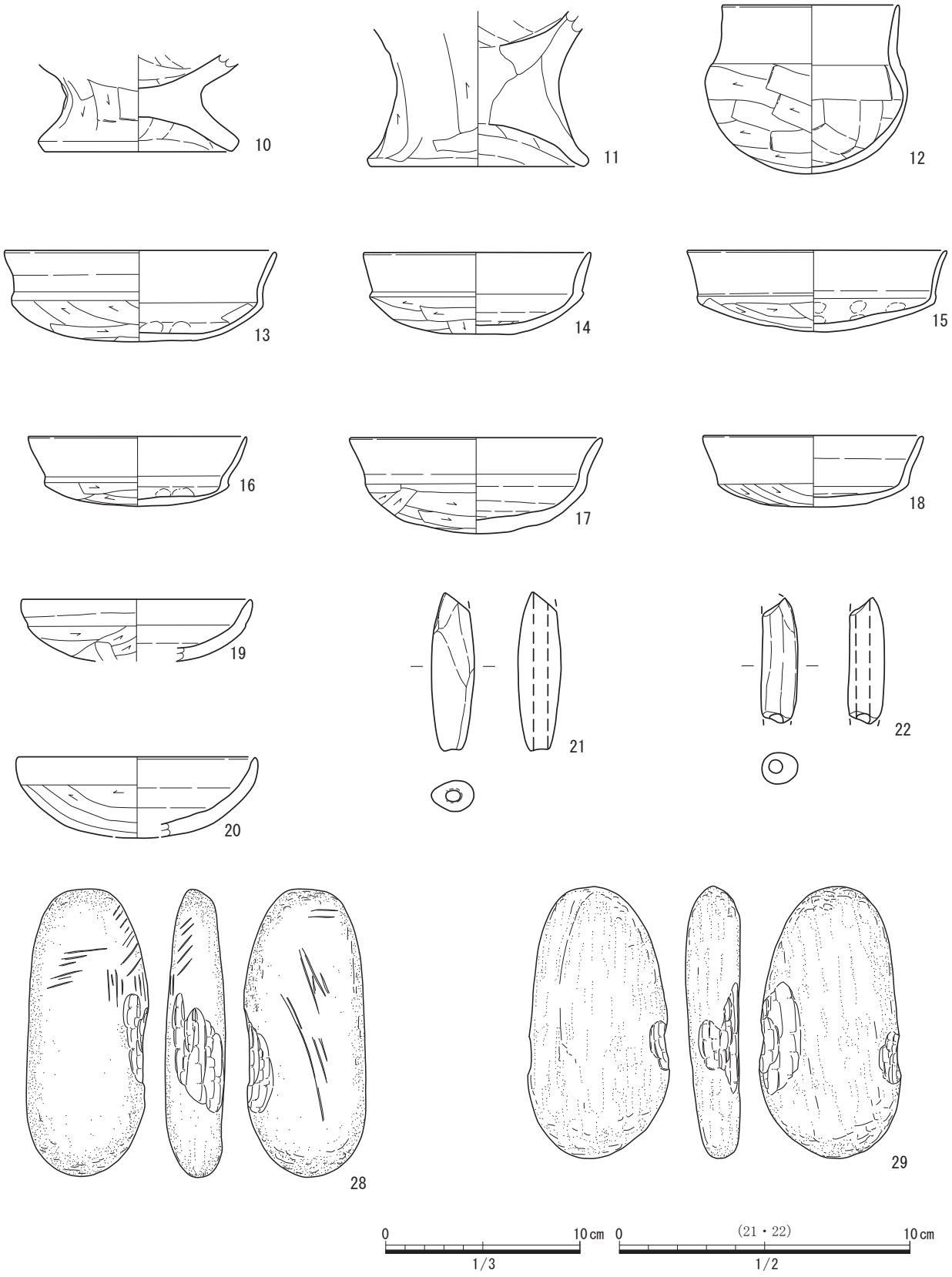
深さ 0.42 m。Ｐ３は長軸 0.45 m、短軸 0.37 m、深さ 0.58 m。Ｐ４は長軸 0.5 m、短軸 0.42 m、深さ 0.68 m。その他、Ｐ６・Ｐ７はカマドの右側に位置し壁柱穴として確認されたものである。Ｐ６は長軸 0.2 m、短軸 0.14 m、深さ 0.6 m。Ｐ７は長軸 0.16 m、短軸 0.12 m、深さ 1.0 m。床下からＰ８が確認されている。**壁周溝**：幅 0.15 m、深さ 0.1 m程度の溝がほぼ全周する。**貯蔵穴・土坑**：貯蔵穴はＰ５で長軸 0.46 m、短軸 0.35 m、深さ 0.53 mである。床下から楕円形や不整形を呈した土坑が６基確認されている。Ｄ－１は長軸 0.92 m、短軸 0,6 m、深さ 0.14 m。Ｄ－２は長軸 0.65 m、短軸〈0.43〉m、深さ 0.12 m。Ｄ－３は長軸 0.64 m、短軸 0.55 m、深さ 0.18 m。Ｄ－４は長軸 0.67 m、短軸 0.57 m、深さ 0.17。Ｄ－５は長軸 0.78 m、短軸 0.75 m、深さ 0.2 m、Ｄ－６は長軸 0.8 m、短軸〈0.83〉mである。**床面の状態**：概ね平坦である。**埋没状況**：覆土は８層に分層され、自然埋没と考えられる。**出土遺物**：遺物はカマドから貯蔵穴周辺に集中がみられる。菰編石はＰ４周辺に集中している。遺物組成は土師器甕・台付甕・壺・坏、土錘、磨石、敲石、菰編石である。土師器甕は長胴化し、口径に最大径がある大型品（１～８）と小形甕（９）がある。土師器坏は大きく外稜を持ち屈曲しながら外反する口縁（13 ～ 18）と外稜がない内弯口縁（20）に分けられる。**時期**：出遺物から６世紀末から７世紀初めに位置付けられる。



第 132 図　Ｈ－３号住居跡遺物実測図①



第 133 図　Ｈ－３号住居跡遺物実測図②



第 134 図　Ｈ－３号住居跡遺物実測図③

第54表　H－3号住居跡出土遺物観察表①

番号	器種	法量(cm)（推定値）		残存	色調	胎土	焼成	成整形の特徴	備考（出土層位等）
1	土師器甕	口径 底径 器高	21.3 － (32.3)	口縁部～胴部5/6	外：にぶい橙5YR6/4 内：橙5YR6/6	大粒のチャート、片岩	良好	外：口縁部ヨコナデ、胴部タテのヘラケズリ 内：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ	カマド左袖構築材
2	土師器甕	口径 底径 器高	(21.0) 4.3 35.1	口縁部～胴部2/5	外：橙5YR6/6 内：にぶい橙5YR6/4	大粒の片岩、砂岩、石英	良好	外：口縁部ヨコナデ、胴部タテのヘラケズリ、底部ヨコのヘラケズリ 内：口縁部ヨコナデ、胴部ヨコナデ	カマド周辺
3	土師器甕	口径 底径 器高	20.8 － (15.3)	口縁部～胴部1/2	外：橙7.5YR6/6 内：橙7.5YR6/6	大粒の石英・片岩・チャート	良好	外：口縁部ヨコナデ、胴部タテのヘラケズリ 内：口縁部ヨコナデ、胴部ヨコのヘラケズリ	床直
4	土師器甕	口径 底径 器高	21.1 － (15.3)	口縁部～胴部1/3	外：にぶい赤褐5YR5/4 内：にぶい赤褐5YR5/4	大粒の石英・片岩・チャート	良好	外：口縁部指頭押圧後にヨコナデ、胴部タテのヘラケズリ 内：口縁部ヨコナデ、胴部ヨコのヘラナデ	床直
5	土師器甕	口径 底径 器高	18.5 － (13.5)	口縁部～胴部1/3	外：にぶい赤褐5YR5/3 内：にぶい赤褐5YR5/3	大粒の片岩・チャート	良好	外：口縁部ヨコナデ、胴部タテのヘラケズリ 内：口縁部ヨコナデ、胴部ヨコヘラナデ	カマド左袖周辺
6	土師器甕	口径 底径 器高	19.0 8.8 26.9	口縁部～底部2/3	外：にぶい赤褐5YR5/3 内：にぶい赤褐5YR5/3	大粒の片岩・石英、チャート	良好	外：口縁部ヨコナデ、胴部タテのヘラケズリ 内：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ	カマド内
7	土師器小形甕	口径 底径 器高	(14.9) 7.6 12.6	口縁部～底部2/3	外：にぶい橙7.5YR6/4 内：灰黄2.5YR7/2	片岩・チャート・石英・鉄分粒	良好	外：口縁部ヨコナデ、胴部ナナメのヘラケズリ 内：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ	カマド左袖周辺
8	土師器甕	口径 底径 器高	(20.2) － (11.0)	口縁部～胴部1/5	外：明赤褐5YR5/6 内：明赤褐5YR5/6	大粒のチャート・片岩、鉄分粒	良好	外：口縁部ヨコナデ、胴部タテのヘラケズリ 内：口縁部ヨコナデ、胴部ナナメのヘラナデ	カマド右袖周辺
9	土師器甕	口径 底径 器高	(18.5) － (11.0)	口縁部～胴部1/6	外：橙7.5YR6/6 内：橙7.5YR6/6	大粒の片岩、石英	良好	外：口縁部ヨコナデ、胴部タテのヘラケズリ 内：口縁部ヨコナデ、胴部ヨコのヘラナデ	P3周辺
10	土師器台付甕	口径 底径 器高	－ 10.3 (5.0)	脚部	外：にぶい赤褐5YR3/4 内：にぶい赤褐5YR3/4	大粒の石英・片岩	普通	外：タテのヘラケズリ、裾部ヨコナデ 内：ヘラナデ	床直
11	土師器台付甕	口径 底径 器高	－ 11.4 8.0	底部～脚部破片	外：赤褐2.5YR4/6 内：赤褐2.5YR4/6	大粒の凝灰岩、片岩、チャート	普通	外：タテのヘラケズリ 内：底部ヨコナデ・脚部ヨコナデ	北東隅床直
12	土師器広口壺	口径 底径 器高	9.1 － 8.7	完形	外：橙5YR7/6 内：橙5YR7/6	精選されている、チャート、鉄分粒	普通	外：口縁部ヨコナデ、胴部ヨコのヘラナデ 内：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ	カマド右側
13	土師器坏	口径 底径 器高	14.0 － 4.7	完形	外：橙5YR6/6 内：橙5YR6/6	精選されている、鉄分粒	普通	外：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ 内：口縁部ヨコナデ、体部指頭押圧後にヘラナデ	床直
14	土師器坏	口径 底径 器高	11.7 － 4.2	2/3	外：橙5YR7/6 内：橙5YR7/6	精選されている、チャート、鉄分粒	普通	外：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ 内：口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ	P3北側
15	土師器坏	口径 底径 器高	(13.4) － 4.2	口縁部～体部2/3	外：橙5YR6/6 内：橙5YR6/6	精選されている、鉄分粒	普通	外：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ 内：口縁部ヨコナデ、体部指頭押圧後にヘラナデ	カマド左側
16	土師器坏	口径 底径 器高	11.2 － 3.6	完形	外：橙2.5YR6/8 内：橙2.5YR6/8	精選されている、チャート、凝灰岩、鉄分粒	良好	外：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ 内：口縁部ヨコナデ、体部指頭押圧後にヘラナデ	床直
17	土師器坏	口径 底径 器高	(13.0) － 4.9	口縁部～体部1/2	外：橙5YR6/6 内：にぶい黄橙10YR7/4	石英、チャート、鉄分粒、絹雲母	良好	外：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ 内：口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ	旧カマド内
18	土師器坏	口径 底径 器高	(11.3) － 3.7	口縁部～体部1/3	外：橙5YR6/6 内：橙5YR6/6	石英、片岩、鉄分粒	普通	外：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ 内：口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ	覆土
19	土師器坏	口径 底径 器高	(11.8) － 3.2	口縁部～体部破片	外：橙5YR7/6 内：褐灰10YR4/1	石英、片岩	良好	外：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ 内：口縁部ヨコナデ、体部ヨコナデ	覆土
20	土師器坏	口径 底径 器高	(12.2) － 4.2	口縁部～体部破片	外：にぶい橙7.5YR6/4 内：にぶい褐7.5YR6/3	鉄分粒、凝灰岩	良好	外：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ 内：口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ	P2周辺

番号	器種	法量（残存値）		残存	特徴	備考（出土層位等）
21	土製品土錘	長さcm 径cm 重さg	(5.4) 1.45×1.1 7.37	ほぼ完形	色調：明黄褐10YR6/6　胎土：片岩、チャート、鉄分粒 焼成：良好　成整形の特徴：手捏ね	南東隅床直
22	土製品土錘	長さcm 径cm 重さg	(4.3) 1.2×1.1 5.28	ほぼ完形	色調：にぶい黄褐10YR5/4　胎土：石英、凝灰岩、鉄分粒 焼成：良好　成整形の特徴：手捏ね、ヘラナデ	攪乱

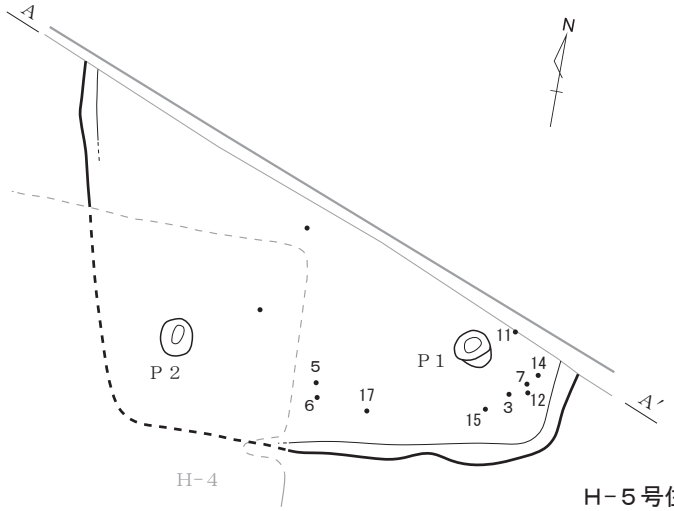
番号	器種	法量（残存値）	残存	石材	特徴	備考（出土層位等）
23	磨石	長さ15.2cm、幅14.2cm、厚さ7.2cm 重さ2411.07g	完形	安山岩	形態：円形　特徴：片面磨石	南壁際中央床直
24	菰編石	長さ15.2cm、幅6.5cm、厚さ2.5cm 重さ336.70g	完形	片岩	形態：楕円形	北東隅床直

第 55 表　Ｈ－３号住居跡出土遺物観察表②

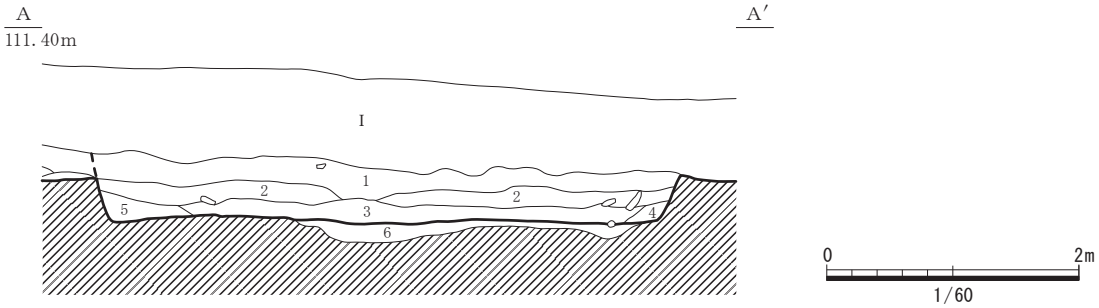
番号	器種	法量（残存値）	残存	石材	特徴	備考（出土層位等）
25	磨編石	長さ14.5cm、幅6.3cm、厚さ2.9cm 重さ499.67g	完形	片岩	形態：楕円形	P4 周辺
26	磨編石	長さ14.5cm、幅5.9cm、厚さ4.0cm 重さ503.29g	完形	片岩	形態：棒状	南東隅床直
27	磨編石	長さ14.8cm、幅6.5cm、厚さ2.7cm 重さ471.68g	完形	片岩	形態：楕円形	P4 南側床直
28	敲・砥石	長さ14.8cm、幅6.2cm、厚さ3.0cm 重さ483.26g	完形	片岩	形態：楕円形　特徴：両面に擦痕、片側面敲打痕	南壁際床直
29	敲石	長さ14.0cm、幅7.2cm、厚さ2.7cm 重さ408.38g	完形	片岩	形態：楕円形　特徴：両側面敲打痕	P4 南側床直
30	磨編石	長さ13.9cm、幅7.5cm、厚さ3.4cm 重さ517.86g	完形	片岩	形態：不正形	P4 東側床直
31	磨編石	長さ14.5cm、幅7.1cm、厚さ3.9cm 重さ686.71g	完形	片岩	形態：楕円形	P4 南側床直
32	磨編石	長さ15.3cm、幅6.2cm、厚さ4.1cm 重さ682.32g	完形	片岩	形態：楕円形	P4 南側床直
33	磨編石	長さ12.9cm、幅5.6cm、厚さ3.3cm 重さ457.36g	完形	片岩	形態：楕円形	北東隅床直
34	磨編石	長さ14.5cm、幅6.3cm、厚さ3.6cm 重さ507.11g	完形	片岩	形態：楕円形	南東隅付近床直
35	磨編石	長さ13.8cm、幅4.3cm、厚さ3.6cm 重さ398.70g	完形	片岩	形態：棒状	中央床直
36	磨編石	長さ15.2cm、幅5.4cm、厚さ4.3cm 重さ573.83g	完形	片岩	形態：棒状	カマド南側床直
37	磨編石	長さ(12.0)cm、幅7.3cm、厚さ3.7cm 重さ(505.45g)	端部欠損 4/5	片岩	形態：楕円形	P1 西側床直
38	磨編石	長さ14.1cm、幅5.8cm、厚さ3.7cm 重さ451.12g	完形	片岩	形態：棒状	P4 西側床直
39	磨編石	長さ12.5cm、幅5.2cm、厚さ2.9cm 重さ344.39g	完形	片岩	形態：棒状	P3 北側床直
40	磨編石	長さ15.1cm、幅7.8cm、厚さ3.3cm 重さ517.67g	完形	片岩	形態：楕円形	P3 北側床直
41	磨編石	長さ13.0cm、幅5.7cm、厚さ3.1cm 重さ384.86g	完形	片岩	形態：楕円形	P4 西側床直
42	磨編石	長さ(13.3)cm、幅5.2cm、厚さ3.4cm 重さ(344.86g)	両端欠損 4/5	片岩	形態：楕円形	P2 北側床直
43	磨編石	長さ13.0cm、幅4.8cm、厚さ2.6cm 重さ239.49g	完形	片岩	形態：楕円形	P1 北側床直
44	磨編石	長さ11.6cm、幅6.4cm、厚さ4.2cm 重さ457.38g	完形	片岩	形態：楕円形　特徴：片面砥石？	中央床直

Ｈ－５号住居跡（第 135・136 図、第 56 表、PL. 20・73・76・77）

位置：２区。De-49･50、Df-49･50 グリッド。**平面形態**：方形。**重複**：Ｈ－４号住居に住居南・西壁の一部を切られ、Ｄ－ 86 号土坑を切る。**規模**：長軸〈3. 6〉ｍ、短軸〈3. 06〉ｍ、面積（9. 67）㎡。**主軸方位**：Ｎ－ 7° －Ｗ。**深度**：0. 56 ｍ。**柱穴**：南壁側から主柱穴２本が確認されている。Ｐ１は長軸 0. 3 ｍ、短軸 0. 28 ｍ、深さ 0. 48 ｍ。Ｐ２は長軸 0. 3 ｍ、短軸 0. 25 ｍ、深さ 0. 43 ｍである。**壁周溝**：なし。**貯蔵穴・土坑**：確認されていない。**床面の状態**：概ね平坦である。**埋没状況**：覆土は５層に分層され、自然埋没と考えられる。**掘り方**：住居中央を窪めてロームブロックを主体に敷きこむ。**出土遺物**：遺物はＰ１から南東隅にかけて分布している。遺物の組成は土師器甕・坏、須恵器甕・羽釜・埦、菰編石である。実測できたのは土師器甕（１）のみである。**時期**：出土遺物が少ないため時期不明。**備考**：住居北側は調査区外。



Ｈ-５号住居跡・遺物出土状況図



Ｈ-５　土層説明
1．暗褐色土　締まり強い、粘性弱い、ロームブロックφ1～2㎝、小礫多量。
2．褐 色 土　締まり強い、粘性弱い、ローム粒子・ロームブロックφ1～3㎝中量。
3．褐 色 土　締まりあり、粘性ややあり、ローム粒子多量。
4．褐 色 土　締まりあり、粘性ややあり、ローム粒子中量。
5．黄褐色土　締まりあり、粘性ややあり、ローム粒子中量。
6．黄褐色土　締まり弱い、粘性ややあり、ロームブロックφ2～10㎝多量、黒褐色土少量、貼床。

第 135 図　Ｈ－５号住居跡遺構図

第 136 図　Ｈ－５号住居跡遺物実測図

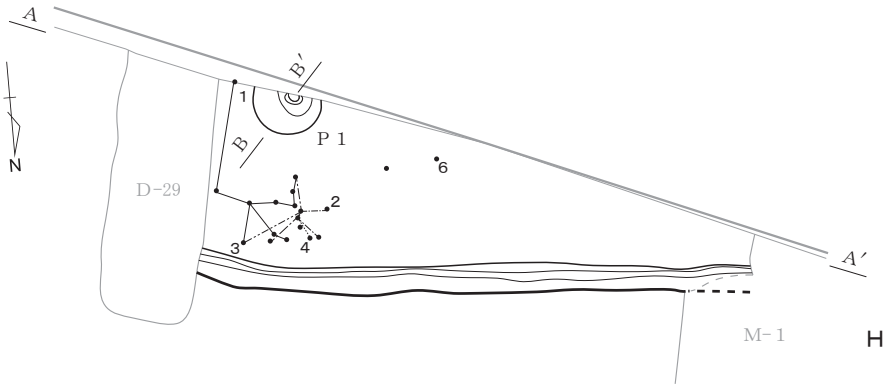
第 56 表　Ｈ－５号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)（推定値）		残存	色調	胎土	焼成	成整形の特徴	備考（出土層位等）
1	土師器甕	口径 底径 器高	－ (7.0) (3.0)	底部破片	外：にぶい黄橙 10YR6/4 内：灰黄 2.5Y6/2	チャート、石英、凝灰岩	普通	外：タテのヘラケズリ、底部：ヘラケズリ 内：ヨコナデ	覆土

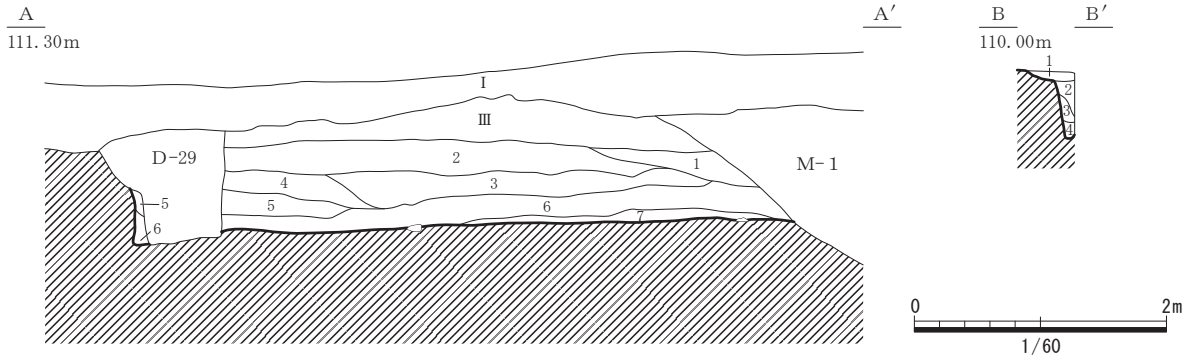
番号	器種	法量（残存値）	残存	石材	特徴	備考（出土層位等）
2	蔬編石	長さ25.8cm、幅8.7cm、厚さ3.4cm 重さ1222.63g	完形	片岩	形態：棒状	覆土
3	蔬編石	長さ25.5cm、幅6.7cm、厚さ3.3cm 重さ853.60g	完形	片岩	形態：棒状	覆土
4	蔬編石	長さ18.0cm、幅6.0cm、厚さ3.5cm 重さ603.31g	完形	片岩	形態：棒状	覆土
5	蔬編石	長さ17.4cm、幅5.9cm、厚さ3.1cm 重さ573.47g	完形	片岩	形態：棒状	南壁周辺床直
6	蔬編石	長さ17.5cm、幅6.6cm、厚さ3.1cm 重さ587.55g	完形	片岩	形態：棒状	南壁周辺床直
7	蔬編石	長さ16.2cm、幅6.5cm、厚さ2.9cm 重さ373.04g	完形	片岩	形態：棒状	南東隅床直
8	蔬編石	長さ16.2cm、幅5.9cm、厚さ3.0cm 重さ440.51g	完形	片岩	形態：棒状	掘り方
9	蔬編石	長さ16.4cm、幅6.4cm、厚さ3.0cm 重さ391.29g	完形	片岩	形態：棒状	掘り方
10	蔬編石	長さ15.0cm、幅5.8cm、厚さ2.4cm 重さ341.67g	完形	片岩	形態：棒状	掘り方
11	蔬編石	長さ14.2cm、幅6.6cm、厚さ3.2cm 重さ449.56g	完形	片岩	形態：棒状	P1 東側床直
12	蔬編石	長さ14.6cm、幅5.4cm、厚さ3.0cm 重さ376.22g	完形	緑色岩	形態：棒状	南東隅床直
13	蔬編石	長さ14.6cm、幅5.4cm、厚さ3.0cm 重さ376.22g	完形	片岩	形態：棒状	掘り方
14	蔬編石	長さ14.0cm、幅5.5cm、厚さ4.2cm 重さ551.73g	完形	片岩	形態：棒状	南東隅床直
15	蔬編石	長さ8.2cm、幅6.0cm、厚さ2.1cm 重さ248.50g	完形	片岩	形態：楕円形	南東隅床直
16	蔬編石	長さ12.4cm、幅5.5cm、厚さ3.2cm 重さ386.90g	完形	片岩	形態：楕円形	掘り方
17	蔬編石	長さ(9.5)cm、幅5.1cm、厚さ2.3cm 重さ(161.73g)	1/2	片岩	形態：棒状	南壁周辺床直

Ｈ－６号住居跡（第 137・138 図、第 57 表、PL.20・73・77 ～ 79）

位置：２区。Dg-49･50、Dh-49･50 グリッド。**平面形態**：不明。**重複**：Ｍ－１号溝に住居北壁の一部、Ｄ－ 29 号土坑に東壁の一部を切られる。**規模**：長軸〈4.46〉ｍ、短軸〈1.58〉ｍ、面積〈4.9〉ｍ。**主軸方位**：不明。**深度**：0.7ｍ。**柱穴**：Ｐ１が確認されている。規模は長軸 0.53ｍ、短軸〈0.32〉ｍ、深さ 0.74ｍ。壁周溝：幅 0.1ｍ、深さ 0.1ｍの溝が巡る。**貯蔵穴・土坑**：確認されていない。**床面の状態**：東方向に傾斜している。**埋没状況**：覆土は７層に分層される。１～３層にＡｓ- Ｂ軽石を含む。３層に特徴があり、ロームブロックや黒褐色土が東方向から互層に入るため、人為的に埋め戻された可能性が高いとみられる。**出土遺物**：遺物はＰ１から北壁に集中する。遺物組成は土師器甕・甑・坏、蔬編石（敲石）である。長胴化した土師器甕（１～３）がある。**時期**：出土遺物の特徴から７世紀前半に位置付けられる。**備考**：住居南側の大半が調査区外。



H－６号住居跡・遺物出土状況図



H－６　土層説明
1．黄褐色土　締まりあり、粘性弱い、ローム粒子少量、As-B軽石少量。
2．黄褐色土　締まりあり、粘性弱い、As-B軽石微量、焼土粒子・ローム粒子中量量。
3．褐 色 土　締まりあり、粘性あり、ローム粒子・ロームブロックφ1～3cm・As-B軽石が互層。
4．褐 色 土　締まりあり、粘性あり、ローム粒子主体。
5．褐 色 土　締まりあり、粘性あり、ローム粒子多量、ロームブロックφ5～8cm少量。
6．黒褐色土　締まりあり、粘性ややあり、ローム粒子少量。
7．黒褐色土　締まりあり、粘性ややあり、ローム粒子中量。

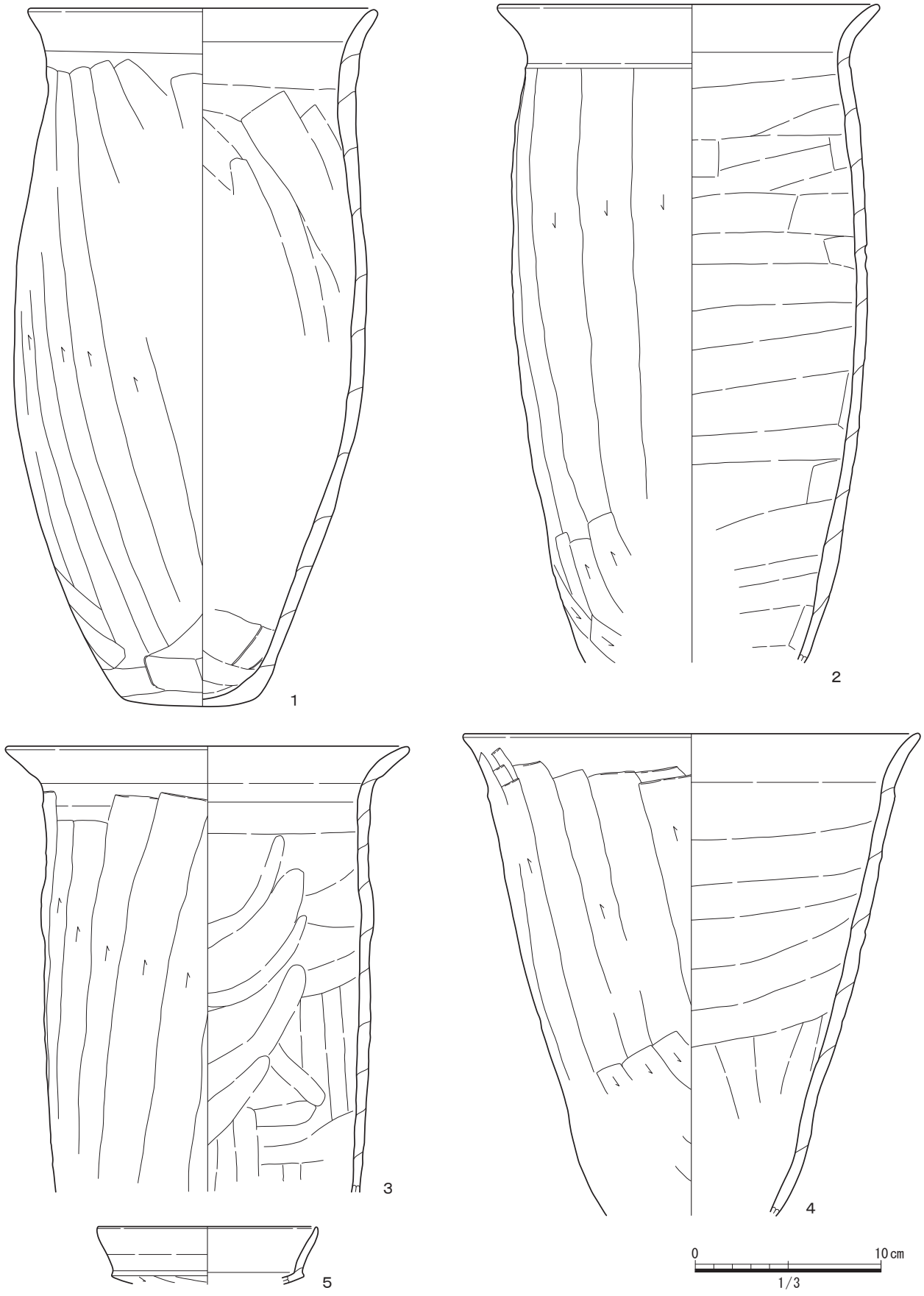
Ｐ１　土層説明
1．褐 色 土　締まりあり、粘性弱い、ローム粒子多量。
2．黄褐色土　締まり弱い、粘性弱い、ローム粒子中量。
3．黄褐色土　締まり弱い、粘性弱い、ローム粒子多量。
4．黄褐色土　締まり弱い、粘性弱い、ロームブロックφ1～2cm中量。

第 137 図　Ｈ－６号住居跡遺構図

第 57 表　Ｈ－６号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)（推定値）		残存	色調	胎土	焼成	成整形の特徴	備考（出土層位等）
1	土師器甕	口径 底径 器高	18.8 7.4 37.5	口縁部～底部 2/3	外：灰黄褐 10YR5/2 内：にぶい黄橙 10YR7/3	凝灰岩、片岩、鉄分粒	良好	外：口縁部ヨコナデ、胴部タテのヘラケズリ、底部ヨコのヘラケズリ 内：口縁部ヨコナデ、胴部タテのヘラナデ、底部ヨコのヘラナデ	北壁周辺床直
2	土師器甕	口径 底径 器高	(20.6) － (35.4)	口縁部～胴下部 2/3	外：にぶい橙 5YR6/4 内：にぶい橙 5YR6/4	大粒の片岩・石英、鉄分粒	良好	外：口縁部ヨコナデ、胴部タテのヘラケズリ 内：口縁部ヨコナデ、胴部ヨコのヘラナデ	北壁周辺床直
3	土師器甕	口径 底径 器高	(21.8) － (24.0)	口縁部～胴部 2/5	外：にぶい褐 5YR5/4 内：にぶい橙 5YR6/4	石英、チャート、凝灰岩、鉄分粒	良好	外：口縁部ヨコナデ、胴部タテのヘラケズリ 内：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ・指ナデ	北壁周辺床直
4	土師器甑	口径 底径 器高	(24.6) － (26.0)	口縁部～胴下部 1/3	外：橙 5YR6/6 内：明赤褐 5YR5/6	大粒の片岩・石英・チャート・鉄分粒	良好	外：口縁部ヨコナデ、胴部タテのヘラケズリ 内：口縁部ヨコナデ、胴部上位ヨコのヘラナデ、下位タテのヘラナデ	北壁周辺床直
5	土師器坏	口径 底径 器高	(11.9) － (3.1)	口縁部～体部破片	外：にぶい橙 7.5YR7/4 内：にぶい橙 7.5YR7/4	精選されている	普通	外：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ 内：口縁部ヨコヘラナデ後にヨコナデ、体部ヘラナデ	覆土

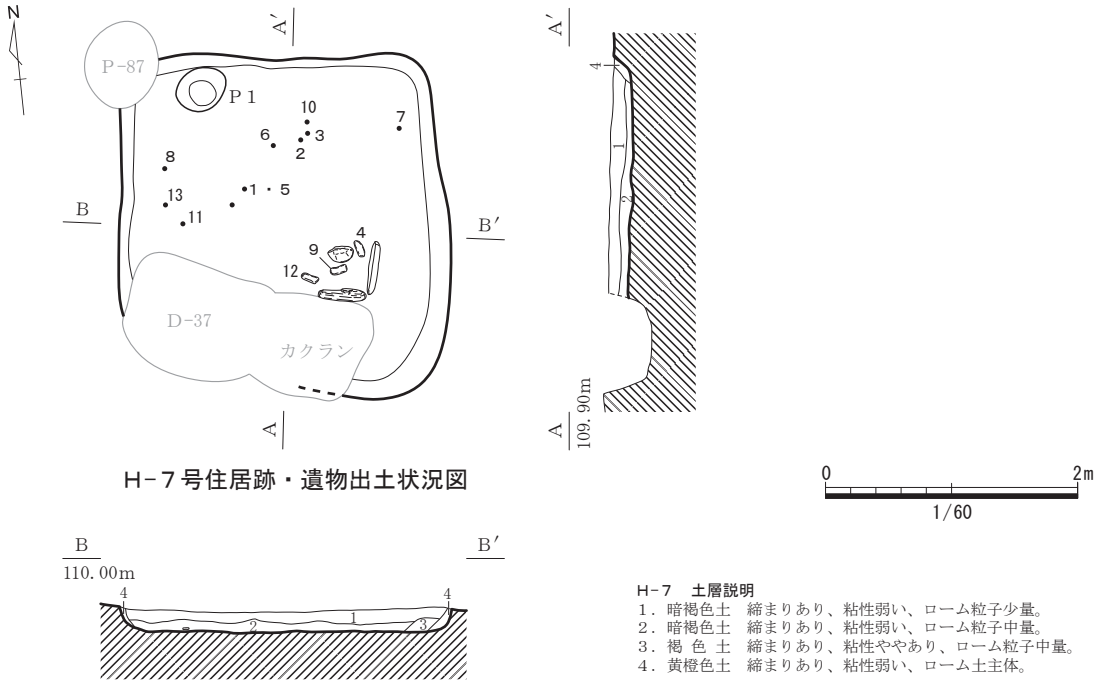
番号	器種	法量（残存値）	残存	石材	特徴	備考（出土層位等）
6	菰編石	長さ13.4cm、幅5.6cm、厚さ1.5cm 重さ184.83g	完形	片岩	形態：楕円形	P12 東側床直



第 138 図　Ｈ－６号住居跡遺物実測図

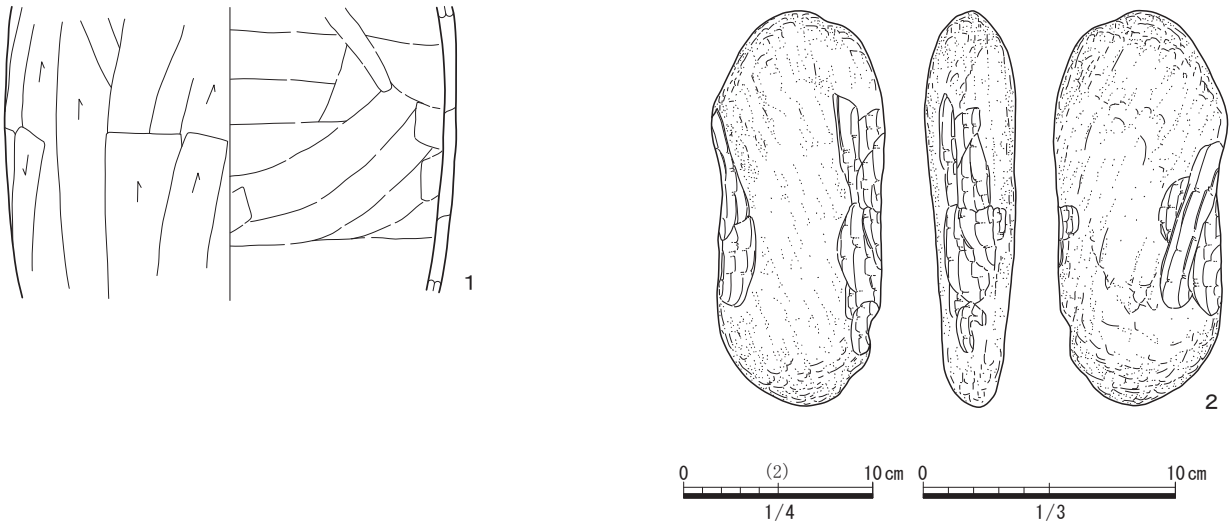
Ｈ－７号住居跡（第 139・140 図、第 58 表、PL. 20・78・79）

位置：２区。Di-54･55、Dj-54･55 グリッド。**平面形態**：正方形。**重複**：カクラン･Ｄ－ 37 号土坑に住居南壁の一部、Ｐ－ 87 に住居北西隅を切られる。**規模**：長軸 2. 7 m、短軸 2. 64 m、面積 6. 45 ㎡。**主軸方位**：Ｎ－ 6° －Ｗ。**深度**：0. 17 m。**柱穴**：北西隅からＰ１が確認されている。規模は長軸 0. 42 m、短軸 0. 33 m、深さ 0. 47 m。**壁周溝**：なし。**貯蔵穴・土坑**：確認されていない。**床面の状態**：概ね平坦である。**埋没状況**：覆土は４層に分層され、自然埋没と考えられる。**出土遺物**：遺物の中心は菰編石（２～ 13）で住居の北側に分布する。遺物組成は土師器甕、菰編石（敲石）である。**時期**：出土遺物が少ないため時期不明。



Ｈ-７号住居跡・遺物出土状況図

第 139 図　Ｈ－７号住居跡遺構図



第 140 図　Ｈ－７号住居跡遺物実測図

第 58 表　Ｈ－７号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)（推定値）		残存	色調	胎土	焼成	成整形の特徴	備考（出土層位等）
1	土師器甕	口径 底径 器高	－ － （11.5）	胴部 1/8	外：明赤褐 5Y5/6 内：にぶい赤褐 5YR5/4	大粒のチャート・石英・凝灰岩	普通	外：タテのヘラケズリ 内：ナナメのヘラナデ	中央北側床直

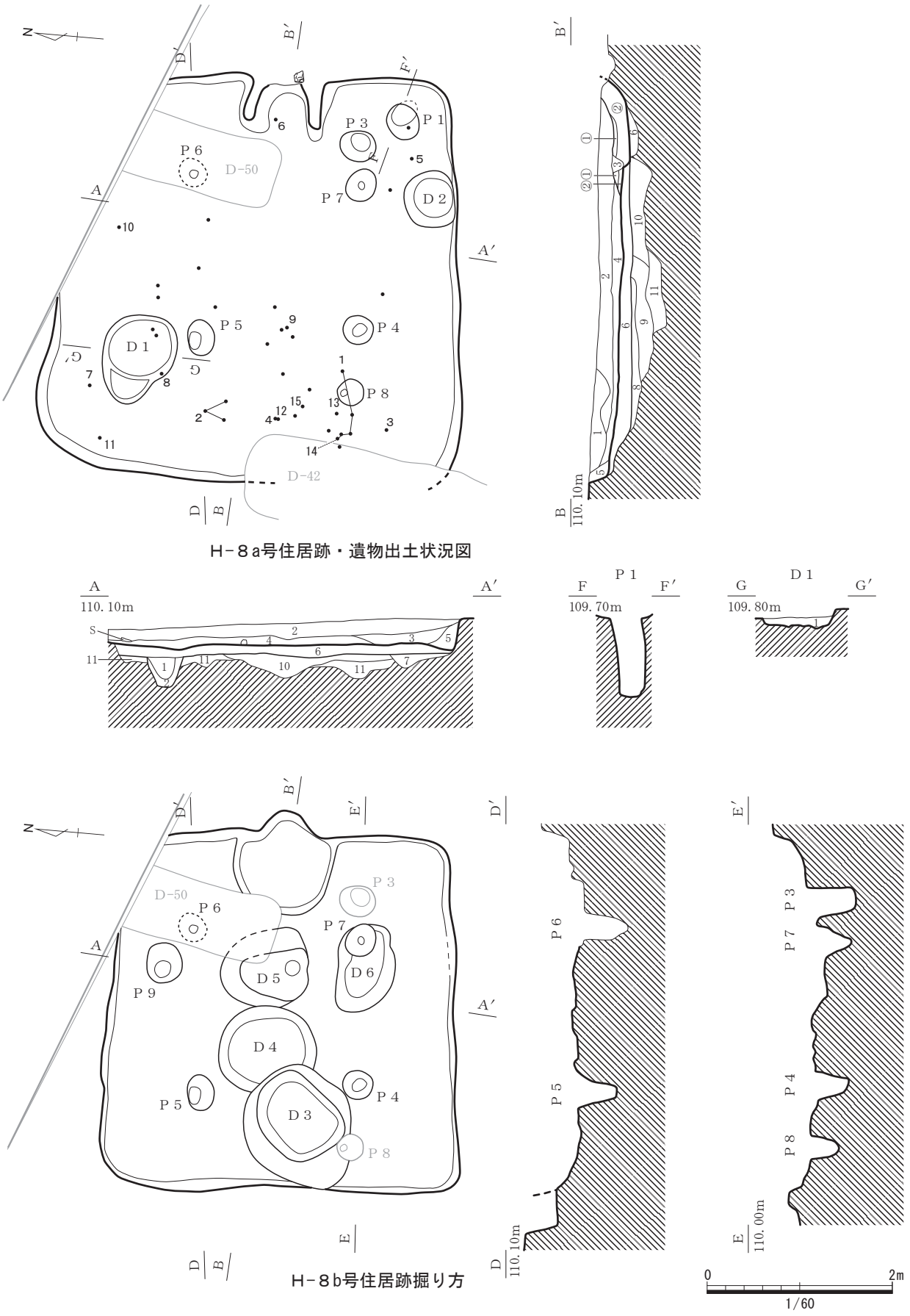
番号	器種	法量（残存値）	残存	石材	特徴	備考（出土層位等）
2	敲石	長さ15.6cm、幅6.9cm、厚さ3.4cm 重さ521.95g	完形	片岩	形態：楕円形　特徴　両側面に敲打痕	中央北側床直
3	磨編石	長さ15.1cm、幅6.5cm、厚さ2.6cm 重さ416.20g	完形	片岩	形態：楕円形	中央北側床直
4	磨編石	長さ13.9cm、幅6.0cm、厚さ3.5cm 重さ541.41g	完形	片岩	形態：棒状	中央東側床直
5	磨編石	長さ15.6cm、幅5.8cm、厚さ2.5cm 重さ372.99g	完形	片岩	形態：楕円形	中央北側床直
6	磨編石	長さ15.3cm、幅5.3cm、厚さ3.5cm 重さ464.39g	完形	片岩	形態：楕円形	中央北側床直
7	磨編石	長さ14.6cm、幅4.8cm、厚さ4.0cm 重さ437.88g	完形	片岩	形態：楕円形	北東隅床直
8	磨編石	長さ14.3cm、幅6.1cm、厚さ3.4cm 重さ445.93g	完形	片岩	形態：楕円形	中央西側床直
9	磨編石	長さ13.7cm、幅6.5cm、厚さ2.6cm 重さ368.12g	完形	片岩	形態：楕円形	中央東側床直
10	磨編石	長さ13.6cm、幅5.7cm、厚さ2.7cm 重さ355.01g	完形	片岩	形態：棒状	中央北側床直
11	磨編石	長さ13.6cm、幅5.7cm、厚さ2.6cm 重さ354.35g	完形	片岩	形態：楕円形	中央西側床直
12	磨編石	長さ14.7cm、幅5.8cm、厚さ3.0cm 重さ404.95g	完形	緑色岩	形態：楕円形	中央南側床直
13	磨編石	長さ14.4cm、幅7.4cm、厚さ1.5cm 重さ288.25g	完形	片岩	形態：楕円形	中央西側床直

Ｈ－８号住居跡（第 141 ～ 143 図、第 59・60 表、PL.21・79・80）

掘り方の土層断面から２枚の貼床面が検出され、カマドを共有していることから住居の拡張と判断した。新しい住居をａ号住居、旧住居をｂ号住居とした。

ａ号住居

位置：２区。Df-51･52、Dg-51･52 グリッド。**平面形態**：正方形。**重複**：カクランにカマド煙道部、Ｄ－ 50 号土坑に住居北側、Ｄ－ 42 号土坑に住居東側の一部を切られる。**規模**:長軸 4.6 ｍ、短軸 4.4 ｍ、面積（17.75）㎡。**主軸方位**：Ｎ－ 90° －Ｅ。**深度**：0.25 ｍ。**カマド**：東壁中央に付設、全長〈0.57〉ｍ、最大幅 0.88 ｍ、焚口部幅 0.75 ｍ、燃焼部幅 0.4 ｍ、主軸方位はＮ－ 87° －Ｗ。カマドは貼床の上にローム土を主体に構築されている。**柱穴**：主柱穴はＰ４～７である。Ｐ４は長軸 0.33 ｍ、短軸 0.32 ｍ、深さ 0.53 ｍ。Ｐ５は長軸 0.38 ｍ、短軸

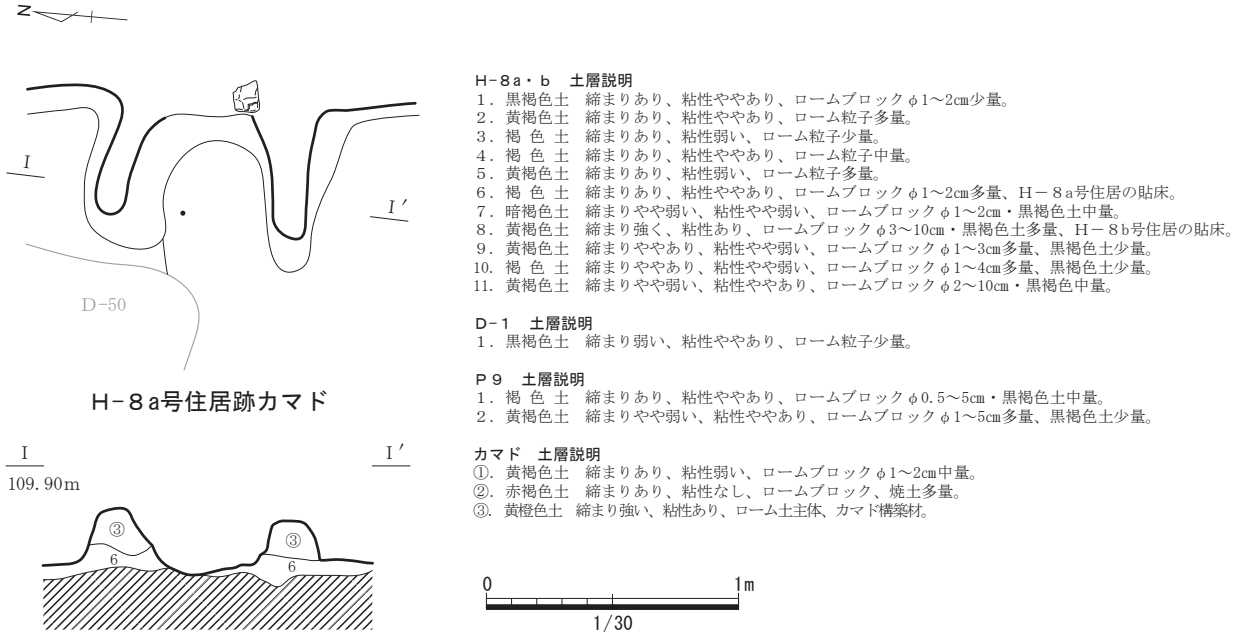


第 141 図　Ｈ－８号住居跡遺構図①

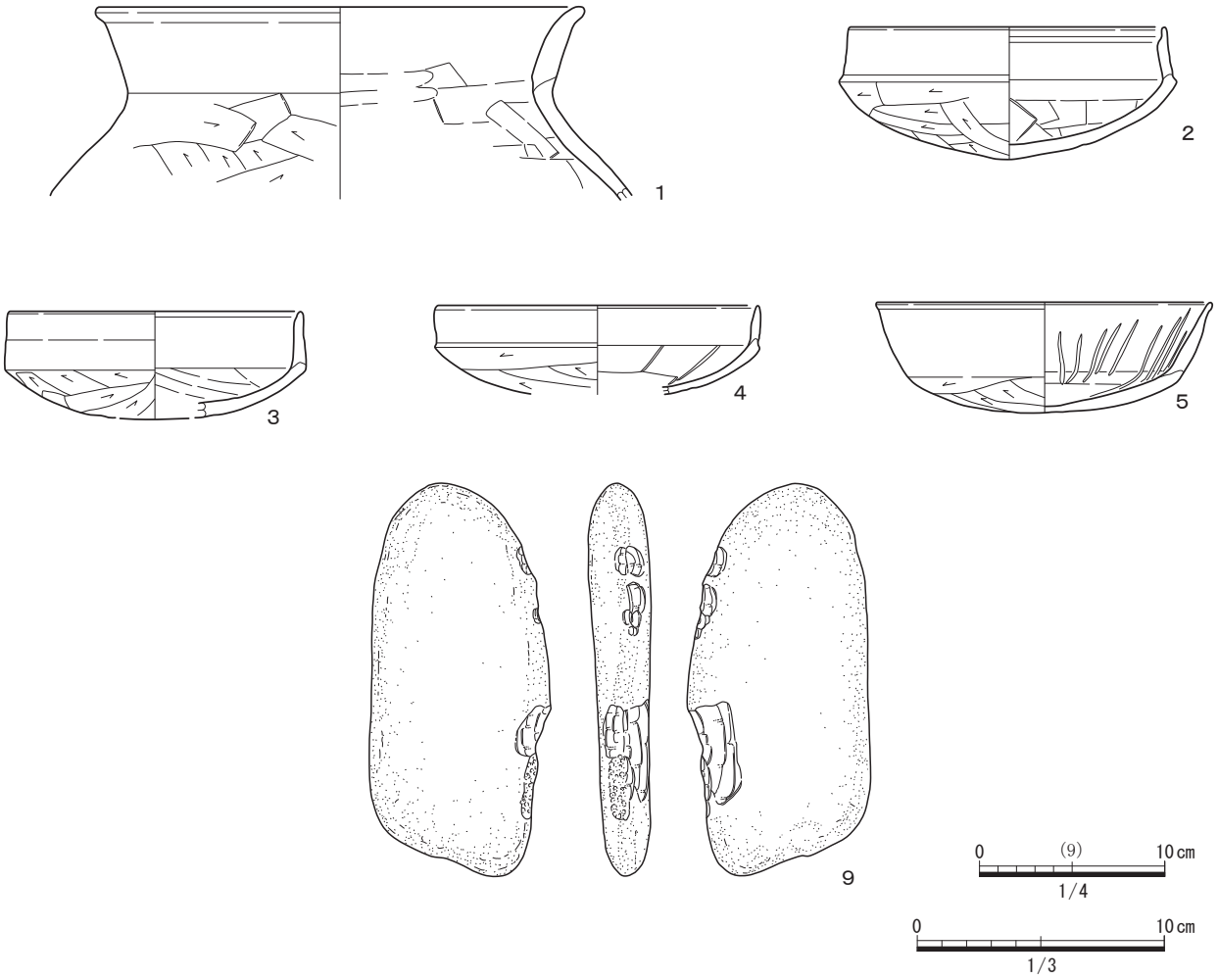
0.28 m、深さ 0.42 m。Ｐ６は長軸 0.32 m、短軸 0.28 m、深さ 0.45 m。Ｐ７は長軸 0.37 m、短軸 0.3 m、深さ 0.6 m。拡張に伴う補助柱穴としてＰ３・８があげられる。Ｐ３は長軸 0.4 m、短軸 0.32 m、深さ 0.38 m。Ｐ８は長軸 0.28 m、短軸 0.28 m、深さ 0.41 m。**壁周溝**：なし。**貯蔵穴・土坑**：貯蔵穴はＰ１で、規模は長軸 0.4 m、短軸 0.32 m、深さ 0.87 m。土坑は２基確認されている。Ｄ１は長軸 0.76 m、短軸 0.7 m、深さ 0.3 m。Ｄ２は長軸 0.4 m、短軸 0.32 m、深さ 0.87 m。**床面の状態**：概ね平坦で全面に貼床。**埋没状況**：覆土は５層に分層され、自然埋没と考えられる。**掘り方**：ロームブロック主体の６層が貼床面となる。**出土遺物**：遺物は住居東側に分布している。遺物組成は土師器甕・坏、菰編石である。土師器坏は外稜持つ口縁部（２～４）と外稜がない口縁部（５）に分けられる。**時期**：出土遺物の特徴から 6 世紀末から７世紀初めに位置付けられる。**備考**：住居北側は調査区外。Ｈ－８b 号住居の北側を拡張する。

b 号住居

平面形態：正方形。**規模**：長軸 3.9 m、短軸 3.8 m、面積〈14.05〉㎡。**柱穴**：主柱穴は８a 号住居と同じＰ４～７である。そのほかＰ９が確認された。Ｐ９は長軸 0.44 m、短軸 0.28 m、深さ 0.45 m。**壁周溝**：なし。**貯蔵穴・土坑**：楕円形または不正形の土坑が 4 基確認されている。Ｄ３は長軸 1.38 m、短軸 1.18 m、深さ 0.44 m。Ｄ４は長軸 1.06 m、短軸〈0.72〉m、深さ 0.35 m。Ｄ５は長軸 0.6 m、短軸 0.44 m、深さ 0.27 m。Ｄ６は長軸 0.98 m、短軸 0.58 m、深さ 0.34 m。**床面の状態**：概ね平坦で、西側は８層の貼床。**掘り方**：住居中央を深く掘り下げローム土と黒褐色土を敷き込む（７～ 11 層）。**出土遺物**：なし。**備考**：住居北側は調査区外。



第 142 図　Ｈ－８号住居跡遺構図②



第 143 図　Ｈ－８ａ号住居跡遺物実測図

第 59 表　Ｈ－８ａ号住居跡出土遺物観察表①

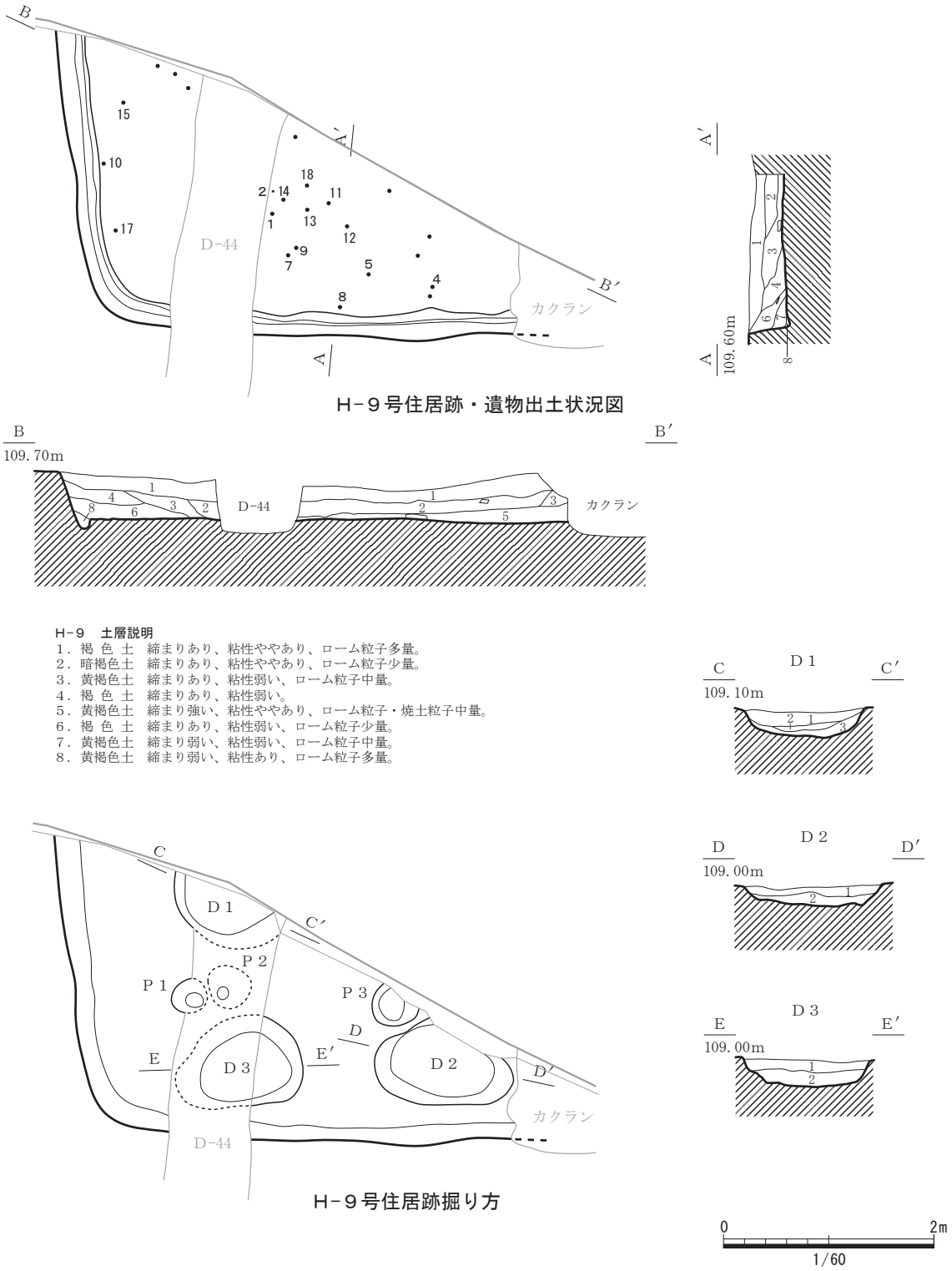
番号	器種	法量(cm)（推定値）		残存	色調	胎土	焼成	成整形の特徴	備考（出土層位等）
1	土師器甕	口径 底径 器高	(19.8) － (7.8)	口縁部	外：にぶい褐 7.5YR6/3 内：にぶい褐 7.5YR6/3	大粒の片岩・石英・チャート	良好	外：口縁部ヨコナデ、胴部ヨコのヘラケズリ 内：口縁部ヨコナデ、胴部ヨコのヘラナデ	南西隅周辺床直
2	土師器坏	口径 底径 器高	(12.9) － 5.4	口縁部～体部 2/3	外：にぶい赤褐 5YR4/3 内：にぶい赤褐 5YR4/3	チャート、凝灰岩、鉄分粒	良好	外：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ 内：口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ	中央西壁寄り床直
3	土師器坏	口径 底径 器高	(12.0) － 4.4	口縁部～体部 1/3	外：にぶい赤褐 5YR5/4 内：にぶい赤褐 5YR5/4	チャート、凝灰岩	良好	外：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ 内：口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ	南西隅周辺床直
4	土師器坏	口径 底径 器高	(13.0) － 3.6	口縁部～体部 1/4	外：にぶい褐 7.5YR6/3 内：にぶい褐 7.5YR6/3	凝灰岩、鉄分粒	普通	外：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ 内：口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ	中央西壁寄り床直
5	土師器坏	口径 底径 器高	(13.6) － 4.5	口縁部～体部 2/3	外：明赤褐 5YR5/6 内：明赤褐 5YR5/6	凝灰岩、骨針	良好	外：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ 内：口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ後に放射状の暗文	P2 東側

第 60 表　Ｈ－８a 号住居跡出土遺物観察表②

番号	器種	法量（残存値）	残存	石材	特徴	備考（出土層位等）
6	菰編石	長さ19.2cm、幅6.5cm、厚さ2.9cm 重さ569.57g	完形	片岩	形態：棒状	カマド内
7	菰編石	長さ(17.3)cm、幅6.5cm、厚さ2.3cm 重さ397.33g	完形	片岩	形態：楕円形	北西隅床直
8	菰編石	長さ16.5cm、幅6.0cm、厚さ2.7cm 重さ458.89g	完形	片岩	形態：棒状	D1 内
9	敲石	長さ15.7cm、幅7.2cm、厚さ2.4cm 重さ470.77g	完形	緑色岩	形態：楕円形　特徴：片側面に敲打痕	中央床直
10	菰編石	長さ(11.9)cm、幅7.1cm、厚さ2.6cm 重さ(351.09g)	1/2	片岩	形態：楕円形	北壁周辺床直
11	菰編石	長さ12.5cm、幅5.0cm、厚さ1.9cm 重さ200.43g	完形	片岩	形態：楕円形	北西隅
12	菰編石	長さ11.8cm、幅5.0cm、厚さ2.4cm 重さ226.14g	完形	片岩	形態：楕円形	中央西壁周辺床直
13	菰編石	長さ11.3cm、幅4.4cm、厚さ2.4cm 重さ173.18g	完形	片岩	形態：棒状	南西隅周辺床直
14	菰編石	長さ9.8cm、幅5.0cm、厚さ2.6cm 重さ195.34g	完形	片岩	形態：楕円形	南西隅周辺床直
15	菰編石	長さ(14.0)cm、幅(6.0)cm、厚さ2.0cm 重さ279.31g	完形	片岩	形態：楕円形	中央西壁周辺床直

Ｈ－９号住居跡（第 144・145 図、第 61・62 表、PL.22・80）

位置：２区。Di-58･59、Dj-58･59 グリッド。**平面形態**：方形。**重複**：カクランに住居東壁の一部、Ｄ－44 号土坑に住居内を切られる。**規模**：長軸〈4.2〉m、短軸〈2.9〉m、面積（8.54）㎡。**主軸方位**：Ｎ－14°－Ｅ。**深度**：0.45 m。**柱穴**：３基確認されている。Ｐ１は長軸 0.35 m、短軸 0.3 m、深さm。Ｐ２は長軸 0.44 m、短軸 0.38 m、深さm。Ｐ３は長軸〈0.32〉m、短軸 0.43 m、深さ 0.3 mで上層に焼土の堆積がみられた。**壁周溝**：幅 0.13 m、深さ 0.1 mの溝が巡る。**貯蔵穴・土坑**：床下から３基の土坑が確認されている。Ｄ１は長軸〈1.15〉m、短軸〈0.52〉m、深さ 0.26 m。Ｄ２は長軸〈1.32〉m、短軸〈0.82〉m、深さ 0.22 m。Ｄ３は長軸〈1.2〉m、短軸〈0.86〉m、深さ 0.26 m。**床面の状態**：概ね平坦で貼床。**埋没状況**：覆土は８層に分層され、自然埋没と考えられる。**掘り方**：ロームブロックと黒褐色土を敷きこむ。**出土遺物**：遺物は全体に分布している。遺物組成は土師器甕･坏、菰編石である。胴部に最大径を持つ土師器甕（１）、口径に最大径を持つ長胴化した土師器甕（２・３）、外反口縁の土師器坏（４）と住居掘り方から出土している坏（６）がある。**時期**：出土遺物の特徴から６世紀末～７世紀初めに位置付けられる。**備考**：住居北側は調査区外。

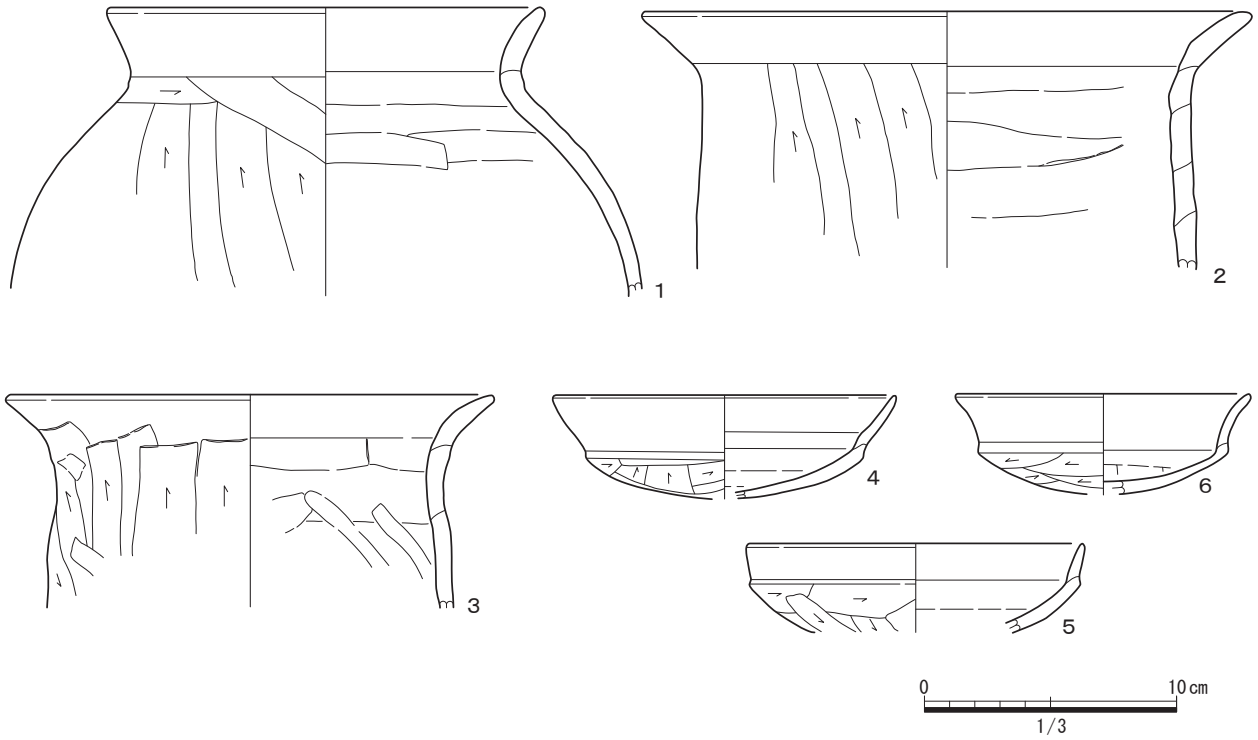


H－９号住居跡・遺物出土状況図

H－９　土層説明
1．褐 色 土　締まりあり、粘性ややあり、ローム粒子多量。
2．暗褐色土　締まりあり、粘性ややあり、ローム粒子少量。
3．黄褐色土　締まりあり、粘性弱い、ローム粒子中量。
4．褐 色 土　締まりあり、粘性弱い。
5．黄褐色土　締まり強い、粘性ややあり、ローム粒子・焼土粒子中量。
6．褐 色 土　締まりあり、粘性弱い、ローム粒子少量。
7．黄褐色土　締まり弱い、粘性弱い、ローム粒子中量。
8．黄褐色土　締まり弱い、粘性あり、ローム粒子多量。

H－９号住居跡掘り方

第 144 図　Ｈ－９号住居跡遺構図



第 145 図　Ｈ－９号住居跡遺物実測図

第 61 表　Ｈ－９号住居跡出土遺物観察表①

番号	器種	法量(cm)（推定値）	残存	色調	胎土	焼成	成整形の特徴	備考（出土層位等）
1	土師器甕	口径 (17.4) 底径 － 器高 (11.4)	口縁部～胴部 1/6	外：にぶい赤褐 5YR4/4 内：明赤褐 5YR5/8	大粒の片岩、チャート、石英	普通	外：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ 内：口縁部ヨコナデ、胴部ヨコナデ	中央南側床直
2	土師器甕	口径 (24.2) 底径 － 器高 (10.2)	口縁部～胴部破片	外：にぶい褐 7.5YR6/3 内：にぶい褐 7.5YR6/3	大粒のチャート・石英	普通	外：口縁部ヨコナデ、胴部タテのヘラケズリ 内：口縁部ヨコナデ、胴部ヨコのヘラナデ	中央南側床直
3	土師器甕	口径 (19.4) 底径 － 器高 (8.4)	口縁部～胴部破片	外：にぶい黄橙 10YR6/4 内：にぶい黄橙 10YR6/4	大粒のチャート・石英	良好	外：口縁部ヨコナデ、胴部タテのヘラケズリ 内：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ	覆土
4	土師器坏	口径 13.6 底径 － 器高 4.1	口縁部～体部 2/3	外：にぶい黄褐 10YR5/3 内：にぶい橙 5YR6/4	精選されている、石英	良好	外：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ 内：口縁部ヨコナデ、体部ヨコナデ	南壁際床直
5	土師器坏	口径 (13.4) 底径 － 器高 (3.5)	口縁部～体部破片	外：橙 7.5YR6/6 内：橙 7.5YR6/6	鉄分粒多量	普通	外：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ 内：口縁部～体部ヨコナデ	南壁際床直
6	土師器坏	口径 (11.7) 底径 － 器高 (4.0)	口縁部～体部 1/6	外：橙 5YR7/6 内：橙 5YR6/6	精選されている、鉄分粒	普通	外：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ 内：口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ	掘り方

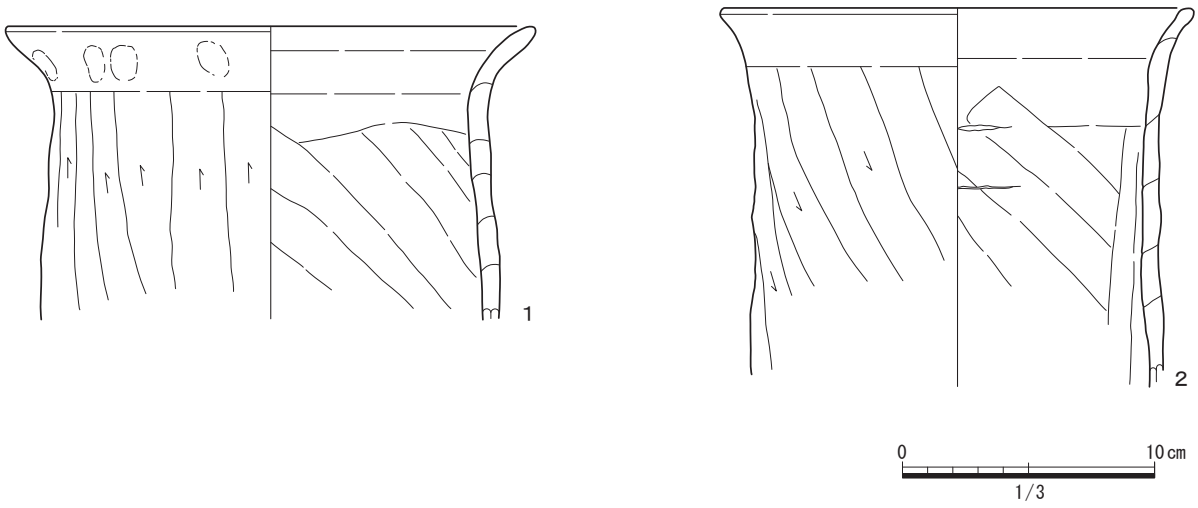
番号	器種	法量（残存値）	残存	石材	特徴	備考（出土層位等）
7	菰編石	長さ18.3cm、幅6.8cm、厚さ2.5cm 重さ600.93g	完形	片岩	形態：楕円形	中央南側床直
8	菰編石	長さ18.1cm、幅6.9cm、厚さ2.1cm 重さ433.89g	完形	片岩	形態：楕円形	南壁中央葺際床直
9	菰編石	長さ16.7cm、幅7.5cm、厚さ3.9cm 重さ718.11g	完形	片岩	形態：楕円形	中央南側床直
10	菰編石	長さ18.3cm、幅7.1cm、厚さ2.9cm 重さ571.19g	完形	片岩	形態：楕円形	西壁際床直
11	菰編石	長さ16.5cm、幅6.0cm、厚さ2.5cm 重さ357.14g	完形	片岩	形態：楕円形	中央南側床直

第 62 表　Ｈ－９号住居跡出土遺物観察表②

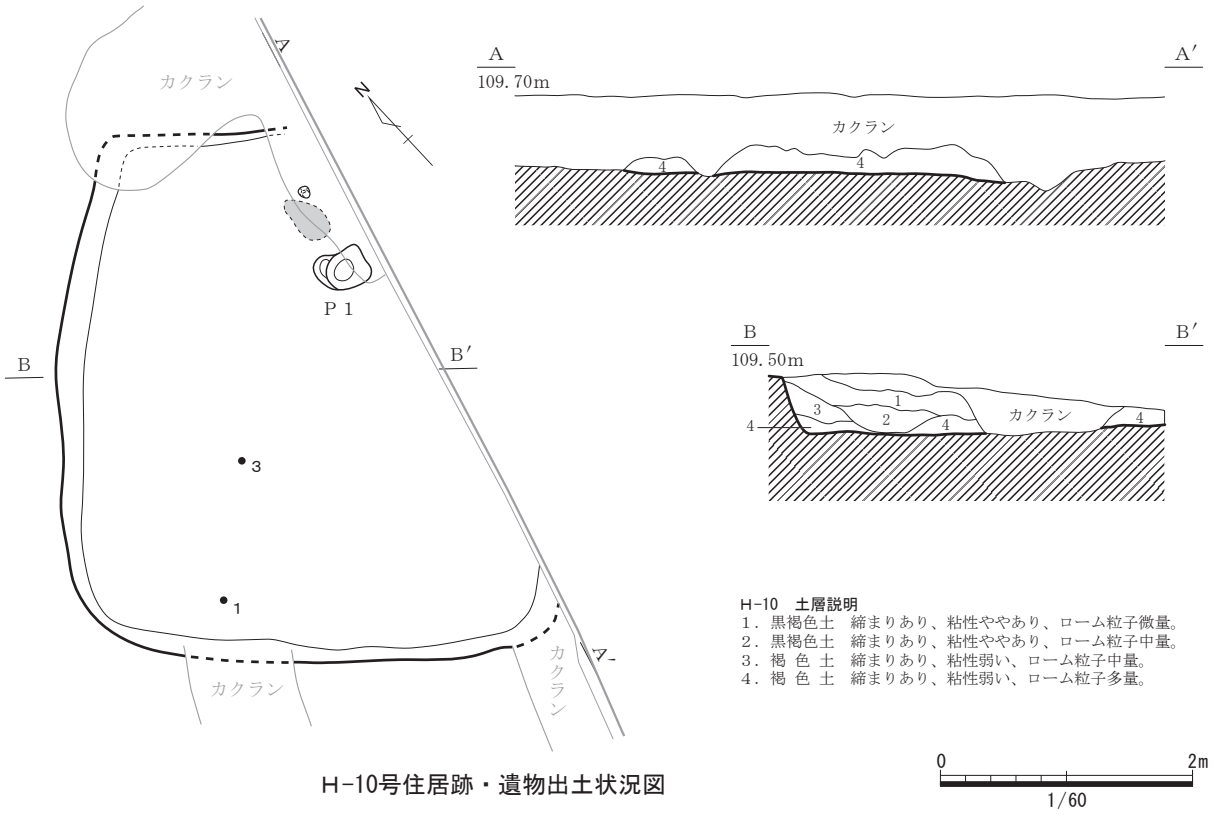
番号	器種	法量（残存値）	残存	石材	特徴	備考（出土層位等）
12	菰編石	長さ16.6cm、幅7.1cm、厚さ3.7cm 重さ612.56g	完形	片岩	形態：楕円形	中央南側床直
13	菰編石	長さ14.7cm、幅6.5cm、厚さ3.2cm 重さ469.31g	完形	片岩	形態：楕円形	中央南側床直
14	菰編石	長さ(12.8)cm、幅6.4cm、厚さ3.0cm 重さ(358.91g)	1/2	片岩	形態：棒状	中央南側床直
15	菰編石	長さ14.7cm、幅5.2cm、厚さ3.4cm 重さ437.75g	完形	片岩	形態：楕円形	西壁中央床直
16	菰編石	長さ(9.4)cm、幅5.2cm、厚さ3.2cm 重さ(170.09g)	1/3	片岩	形態：楕円形	覆土
17	菰編石	長さ8.1cm、幅4.1cm、厚さ1.5cm 重さ87.14g	完形	片岩	形態：楕円形	南西隅周辺床直
18	菰編石	長さ9.0cm、幅3.5cm、厚さ2.6cm 重さ119.59g	完形	片岩	形態：楕円形	中央南側床直

Ｈ－10 号住居跡（第 146・147 図、第 63 表、PL.22・78・81）

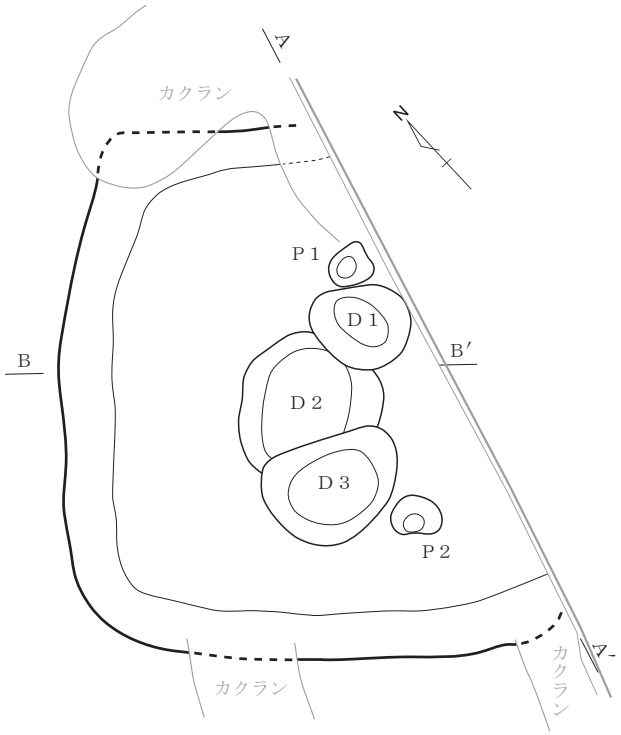
位置：２区。Dm-59･60、Dn-60 グリッド。**平面形態**：正方形。**重複**：カクランに住居北壁及びカマド、南壁の一部が切られる。**規模**：長軸 4.04 ｍ、短軸〈3.96〉ｍ、面積（12.33）㎡。**主軸方位**：Ｎ－ 46°－Ｅ。**深度**：0.47 ｍ。**カマド**:カクランにより消失しているが、床面にカマドの燃焼部と考えられる赤化した箇所があることから、北壁中央に付設されていたと考えられる。**柱穴**：カマド推定箇所の南からＰ１が確認されている。規模は長軸 0.24 ｍ、短軸 0.18 ｍ、深さ 0.44 ｍ。床下からＰ２が確認されている。規模は長軸 0.26 ｍ、短軸 0.2 ｍ、深さ 0.24 ｍ。**壁周溝**:なし。**貯蔵穴･土坑**:床下から３基の土坑が確認されている。Ｄ１は長軸 0.54 ｍ、短軸 0.48 ｍ、深さ 0.32 ｍ。Ｄ２は長軸 0.73 ｍ、短軸〈0.62〉ｍ、深さ 0.23 ｍ。Ｄ３は長軸 0.72 ｍ、短軸 0.55 ｍ、深さ 0.3 ｍ。**床面の状態**：概ね平坦で貼床。**埋没状況**：覆土は４層に分層され、自然埋没と考えられる。**掘り方**：ロームブロックと黒褐色土を敷き込んでいる。**出土遺物**:遺物組成は土師器甕･坏、菰編石である。長胴化した土師器甕（１・２）がある。**時期**：出土遺物の特徴から６世紀末～７世紀初めに位置付けられる。**備考**：住居南側は調査区外。



第 146 図　Ｈ -10 号住居跡遺物実測図



H-10号住居跡・遺物出土状況図



H-10号住居跡掘り方

第 147 図　Ｈ -10 号住居跡遺構図

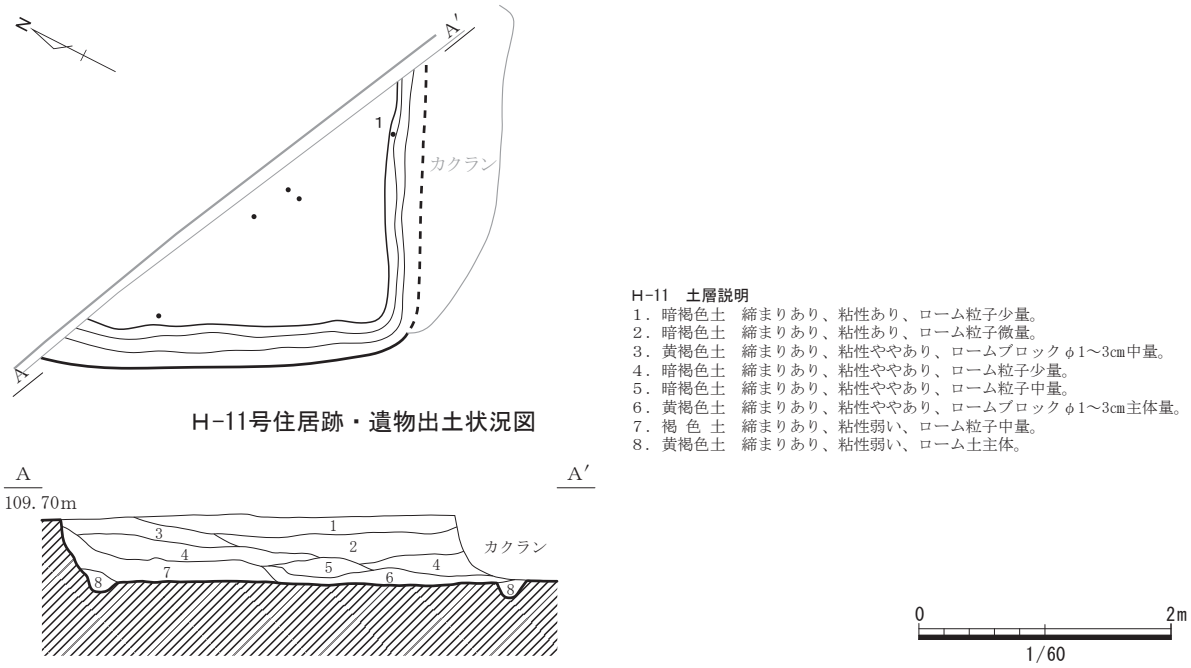
第 63 表　H -10 号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)（推定値）		残存	色調	胎土	焼成	成整形の特徴	備考（出土層位等）
1	土師器甕	口径 底径 器高	(21.0) － (11.6)	口縁部～胴部 1/6	外：にぶい橙 7.5YR6/4 内：にぶい褐 7.5YR5/4	大粒の片岩・石英・チャート、凝灰岩	良好	外：口縁部指頭押圧後にヨコナデ、胴部タテのヘラケズリ 内：口縁部ヨコナデ、胴部ナナメのヨコナデ	南西隅周辺
2	土師器甕	口径 底径 器高	(18.8) － (15.0)	口縁部～胴部 1/8	外：にぶい褐 7.5YR5/3 内：褐 7.5YR4/4	大粒の片岩・石英	良好	外：口縁部ヨコナデ、胴部ナナメのヘラケズリ 内：口縁部ヨコナデ、胴部ナナメのヨコナデ輪積痕あり	覆土

番号	器種	法量（残存値）	残存	石材	特徴	備考（出土層位等）
3	菰編石	長さ15.4cm、幅6.1cm、厚さ2.9cm 重さ453.38g	完形	緑色片岩	形態：楕円形	中央西側床直
4	菰編石	長さ12.0cm、幅4.9cm、厚さ2.9cm 重さ273.14g	完形	緑色片岩	形態：楕円形	覆土

Ｈ -11 号住居跡（第 148・149 図、第 64 表、PL. 22・78・81）

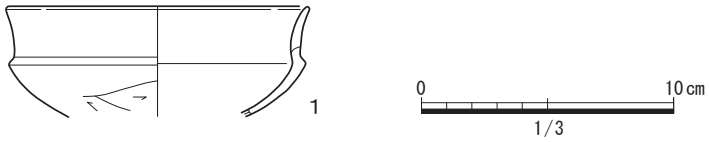
位置：２区。Dh-56･57、Di-56･57 グリッド。**平面形態**：方形。**重複**：カクランに住居北壁を切られる。**規模**：長軸〈3.0〉m、短軸〈2.44〉m、面積（3.69）㎡。**主軸方位**：Ｎ－ 64°　－Ｅ。**深度**：0.5 m。**柱穴**：確認されていない。**壁周溝**：幅 0.2 m、深さ 0.1 mの溝が巡る。**貯蔵穴・土坑**：確認されていない。**床面の状態**：概ね平坦である。**埋没状況**：覆土は８層に分層され、自然埋没と考えられる。**出土遺物**：遺物は住居中央に分布する。遺物組成は土師器甕・坏、菰編石である。口縁部がやや屈曲しながら外反する土師器坏（１）がある。**時期**：出土遺物から６世紀後半に位置付けられる。**備考**：住居北側の大半は調査区外。



H-11号住居跡・遺物出土状況図

H-11　土層説明
1．暗褐色土　締まりあり、粘性あり、ローム粒子少量。
2．暗褐色土　締まりあり、粘性あり、ローム粒子微量。
3．黄褐色土　締まりあり、粘性ややあり、ロームブロックφ1～3cm中量。
4．暗褐色土　締まりあり、粘性ややあり、ローム粒子少量。
5．暗褐色土　締まりあり、粘性ややあり、ローム粒子中量。
6．黄褐色土　締まりあり、粘性ややあり、ロームブロックφ1～3cm主体量。
7．褐 色 土　締まりあり、粘性弱い、ローム粒子中量。
8．黄褐色土　締まりあり、粘性弱い、ローム土主体。

第 148 図　Ｈ -11 号住居跡遺構図



第 149 図　Ｈ -11 号住居跡遺物実測図

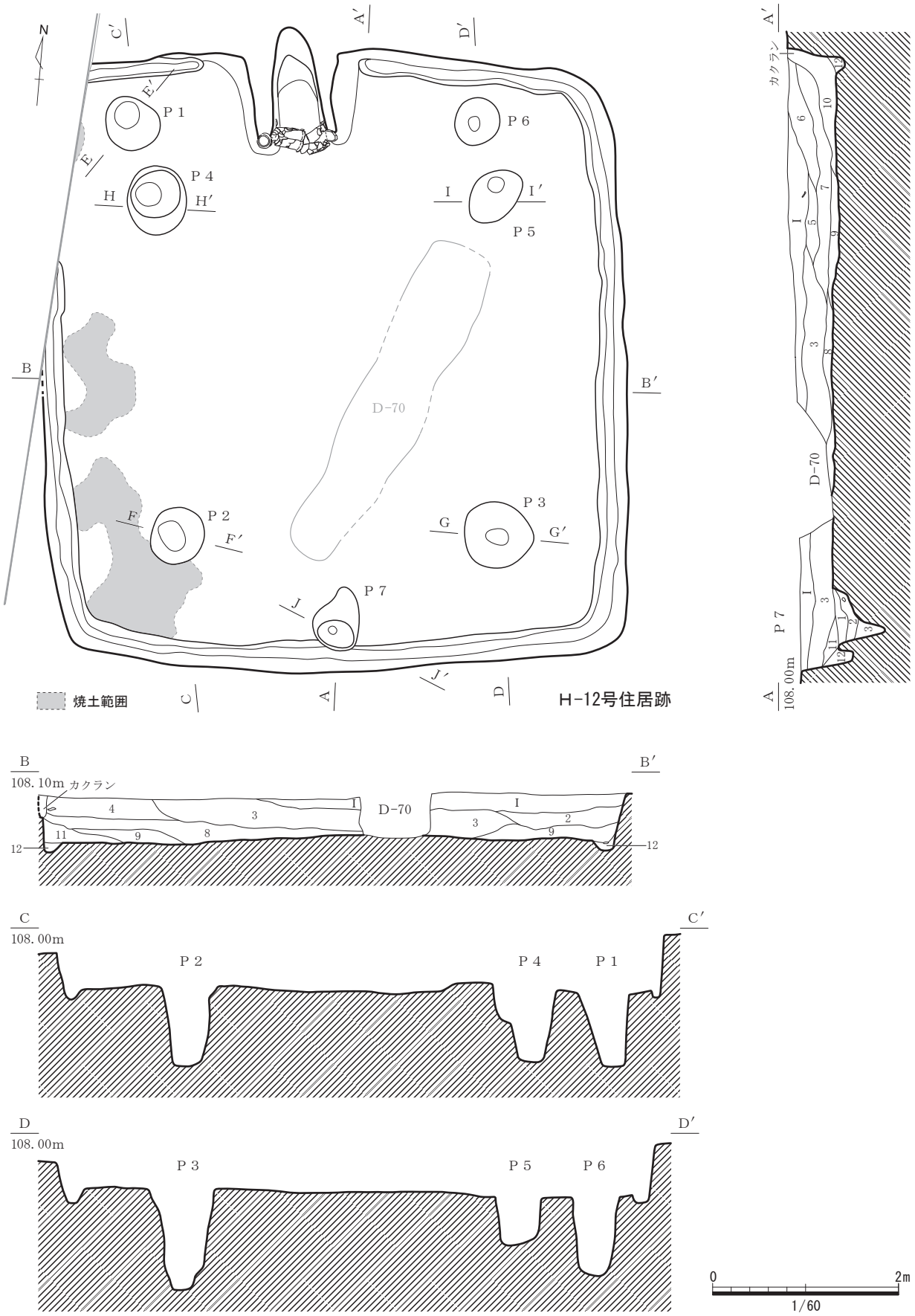
第 64 表　Ｈ -11 号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)（推定値）		残存	色調	胎土	焼成	成整形の特徴	備考（出土層位等）
1	土師器坏	口径 底径 器高	(12.0) ― (4.4)	口縁部～体部破片	外：橙 5YR6/6 内：黒褐 10YR3/1	精選されている、チャート	普通	外：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ 内：口縁部～体部ヨコナデ	南壁中央際床直

番号	器種	法量（残存値）	残存	石材	特徴	備考（出土層位等）
2	菰編石	長さ12.6cm、幅5.5cm、厚さ2.4cm 重さ298.71g	完形	緑色岩	形態：長方形	覆土

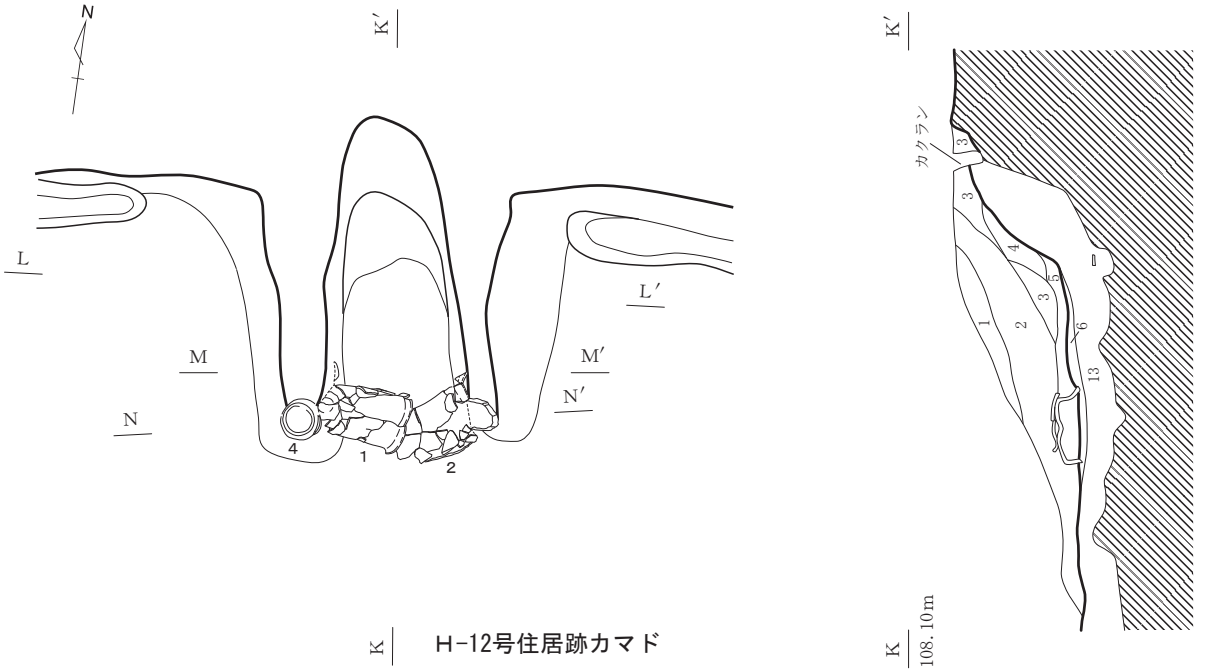
Ｈ -12 号住居跡（第 150 ～ 155 図、第 65・66 表、PL. 22 ～ 24・81 ～ 83）

位置：１区、Ec･d･e-59･60 グリッド。**平面形態**：正方形。**重複**：Ｄ－ 70 号土坑に住居中央を切られる。**規模**：長軸 6.69 m、短軸 6.3 m、面積（39.61）㎡。**主軸方位**：Ｎ－ 7°－Ｗ。**深度**：0.5 m。**カマド**：北壁に付設、全長 1.32 m、最大幅 1.36 m、燃焼部長 1.04 m、煙道部長 0.28 m、焚口部幅 0.52 m、燃焼部幅 0.4 m、煙道立ち上がり角 40°、主軸方位Ｎ－ 14°－Ｗ。左袖の芯材に甕３・４、焚口の天井に甕１・２を連結して使用。**柱穴**：主柱穴はＰ２～５である。Ｐ２は長軸 0.41 m、短軸 0.38 m、深さ 0.8 m。Ｐ３は長軸 0.48 m、短軸 0.46 m、深さ 1.07 m。Ｐ４は長軸 0.5 m、短軸 0.42 m、深さ 0.82 m。Ｐ５は長軸 0.44 m、短軸 0.32 m、深さ 0.76 m。そのほか壁際から柱穴が２基確認されている。Ｐ１はカマドの西側に位置し、規模は長軸 0.38 m、短軸 0.37 m、深さ 0.81 m。Ｐ７は南壁中央に位置し、規模は長軸 0.46 m、短軸 0.34 m、深さ 0.63 m。**壁周溝**：幅 0.2 m、深さ 0.1 mの溝が全周。**貯蔵穴・土坑**：貯蔵穴はＰ６で、規模は長軸 0.34 m、短軸 0.32 m、深さ 0.85 m。床下から多数の柱穴、楕円形または不正形の土坑が確認されている。Ｄ１は長軸 1.05 m、短軸 0.75 m、深さ 0.33 m。Ｄ２は長軸〈0.58〉m、短軸 0.4 m、深さ 0.15 m。Ｄ３は長軸 0.73 m、短軸 0.52 m、深さ 0.33 m。Ｄ４は長軸 0.86 m、短軸 0.72 m、深さ 0.27 m。Ｄ５は長軸 0.85 m、短軸 0.82 m、深さ 0.16 m。Ｄ６は長軸 1.08 m、短軸 0.85 m、深さ 0.39 m。Ｄ７は長軸 0.92 m、短軸 0.85 m、深さ 0.14 m。Ｄ８は長軸 1.0 m、短軸 0.94 m、深さ 0.36 m。Ｄ９は長軸 0.94 m、短軸〈0.6〉m、深さ 0.18 m。Ｄ 10 は長軸〈0.56〉m、短軸 0.58 m、深さ 0.14 m。Ｄ 11 は長軸 0.58 m、短軸〈0.48〉m、深さ 0.11 m。Ｄ 12 は長軸 0.64 m、短軸〈0.58〉m、深さ 0.3 m。**床面の状態**：概ね平坦で全体に貼床。**埋没状況**：覆土は 12 層に分層され１層にＡ s- Ｂ軽石を含む。自然埋没と考えられる。**掘り方**：住居中央を残し、環状に土坑群を掘り下げ、ローム土・黒褐色土を敷きこむ。**出土遺物**：遺物はカマド周辺・貯蔵穴Ｐ６、Ｐ５に集中している。高坏（11）は主柱穴であるＰ６内に転落した状態で出土している。菰編石はＰ３から住居南東隅にまとまっていた。遺物組成は土師器甕・台付甕・坏・高坏、須恵器甕・高坏・蓋・坏、菰編石である。口径に最大径を持つ長胴化した土師器甕（１～４）、台付甕（５）、小型の甑（６）のほか、長脚の土師器高坏（11）、外稜を持つ土師器坏（７～ 10）、須恵器坏身（12）がある。**時期**：

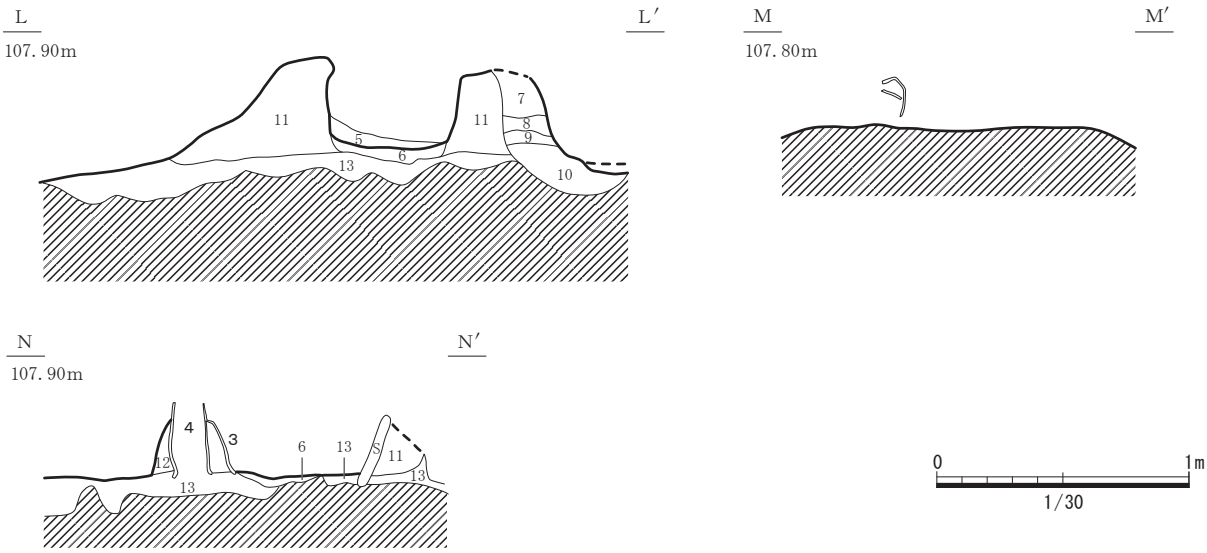


第 150 図　H -12 号住居跡遺構図①

出土遺物の特徴から６世紀末に位置付けられる。**備考**：住居西壁の一部調査区外。掘り方の調査により、Ｐ２・３に間仕切り溝が付設されることがわかった。



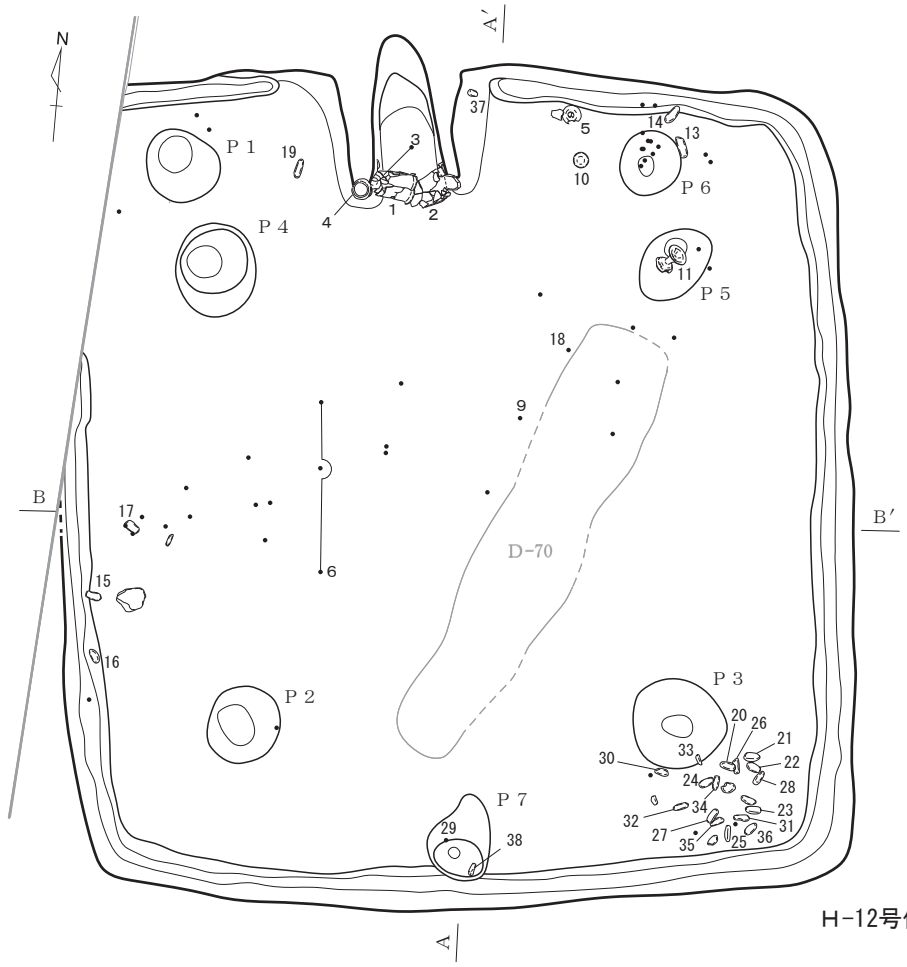
H-12号住居跡カマド



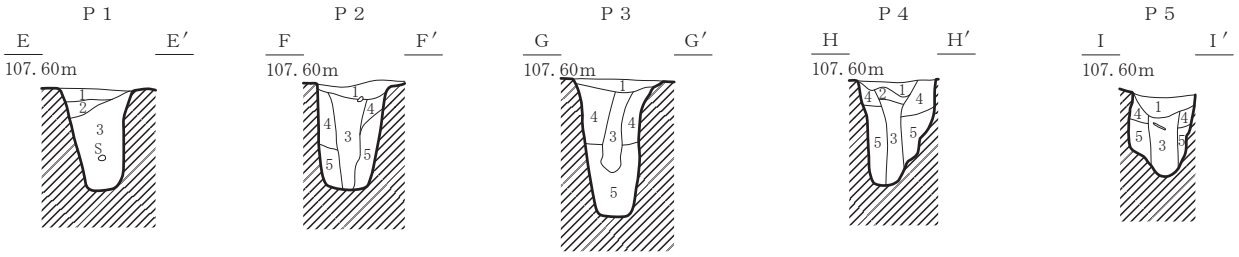
H-12カマド　土層説明

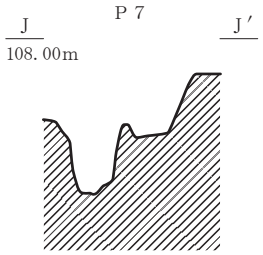
1．暗褐色土　締まりやや弱い、粘性ややあり、ロームブロックφ0.5～3㎝・焼土φ0.5～2㎝中量。
2．黄褐色土　締まりややあり、粘性ややあり、ロームブロックφ0.5～3㎝多量、焼土φ0.5～3㎝・炭化物φ1㎝少量。
3．黄褐色土　締まりやや弱い、粘性やや弱い、ロームブロックφ0.5～3㎝多量、焼土φ1～2㎝少量。
4．赤褐色土　締まりやや弱い、粘性あり、焼土φ1～3㎝多量、ロームブロックφ0.5～2㎝・炭化物少量。
5．黒褐色土　締まりやや弱い、粘性やや弱い、灰・焼土φ0.5～1㎝多量。
6．赤褐色土　締まりやや弱い、粘性あり、焼土・炭化物多量、カマド構築材。
7．暗褐色土　締まり強い、粘性ややあり、ローム粒子少量、カマド構築材。
8．黄橙色土　締まり強い、粘性ややあり、ローム土主体、カマド構築材。
9．暗褐色土　締まり強い、粘性ややあり、ローム粒子少量、カマド構築材黄橙色土　締まり強い、粘性ややあり、ローム土主体、カマド構築材。
10．黄橙色土　締まり強い、粘性ややあり、ローム土主体、カマド構築材 。
11．黄橙色土　ローム土、カマド構築材。
12．黄橙色土　締まり強い、粘性ややあり、ローム土主体、カマド構築材。
13．暗褐色土　締まり強い、粘性あり、ロームブロック・黒褐色土主体。

第 151 図　Ｈ -12 号住居跡遺構図②



H-12号住居跡・遺物出土状況図



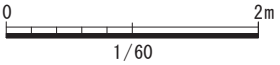


H-12　土層説明

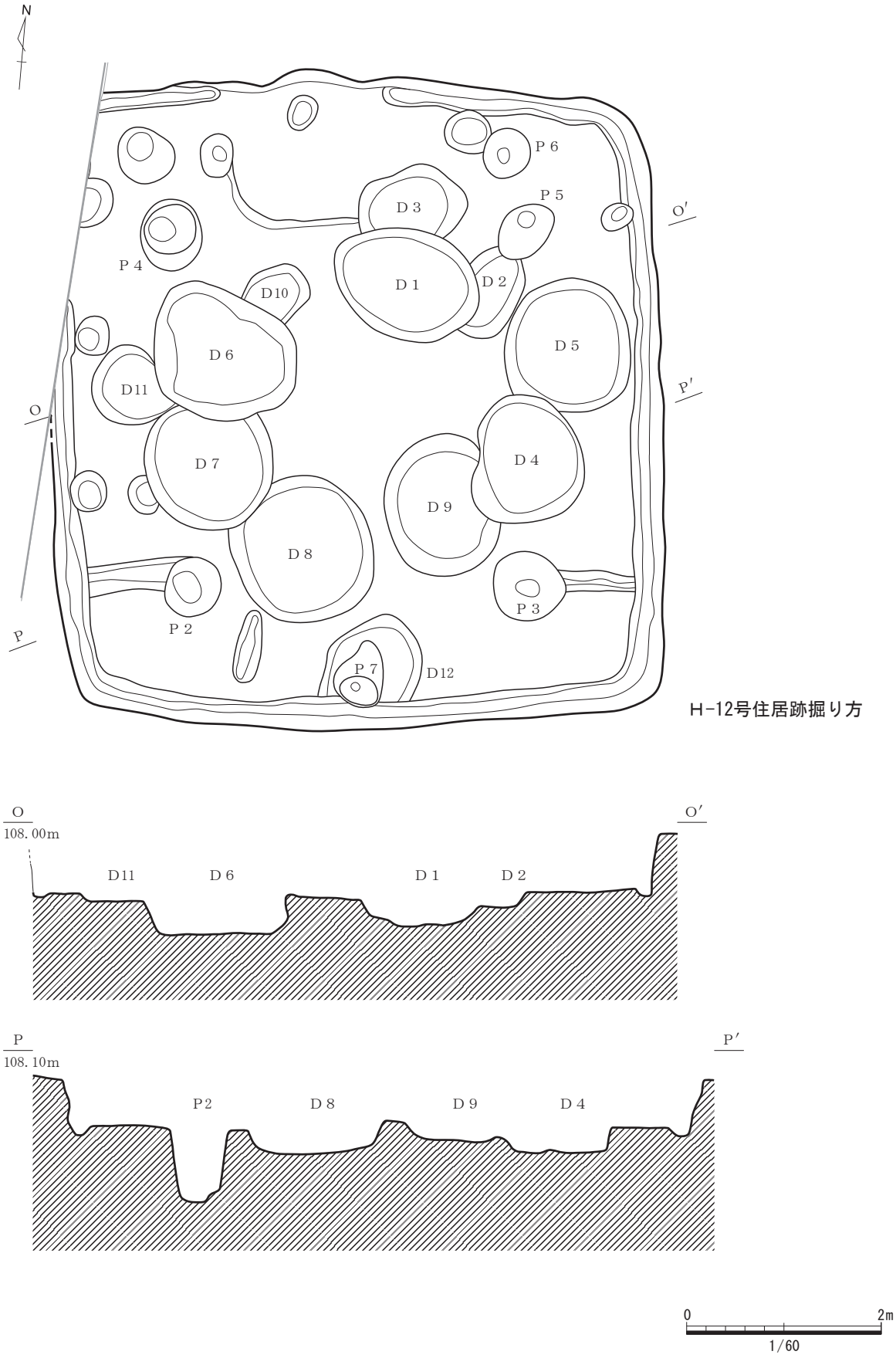
1．褐　色　土　締まり弱い、粘性やや弱い、As-B軽石・ロームブロックφ0.5～1cm少量。
2．暗褐色土　締まりややあり、粘性やや弱い、ロームブロックφ0.5～2cm中量、焼土・炭化物微量。
3．黄褐色土　締まりあり、粘性弱い、ロームブロックφ0.5～4cm多量、黒褐色土少量、焼土・炭化物微量。
4．褐　色　土　締まりやや弱い、粘性弱い、ローム粒子中量、ロームブロックφ0.5～1cm・焼土φ0.5～1cm少量、炭化物微量。
5．黄褐色土　締まり弱い、粘性弱い、ロームブロックφ0.5～10cm・焼土φ0.5～5cm多量、黒褐色土少量、炭化物微量。
6．褐　色　土　締まりややあり、粘性やや弱い、ロームブロックφ0.5～3cm中量、焼土φ0.5～1cm・炭化物φ0.5～1cm少量。
7．褐　色　土　締まりやや弱い、粘性ややあり、ロームブロックφ0.5～5cm多量、焼土φ0.5～1cm中量、黒褐色土少量。
8．褐　色　土　締まりあり、粘性弱い、ローム粒子多量、ロームブロックφ0.5～15cm中量、焼土φ0.5～1cm・炭化物φ1cm少量。
9．褐　色　土　締まりやや弱い、粘性あり、ロームブロックφ0.5～10cm・ローム粒子・焼土φ0.5～1cm中量、炭化物φ0.5cm微量。
10．黄褐色土　締まりややあり、粘性ややあり、ロームブロックφ0.5～20cm・黒褐色土多量、カマドの崩落土。
11．暗褐色土　締まりやや弱い、粘性ややあり、ロームブロックφ0.5～5cm、焼土・黒色土少量。
12．黄褐色土　締まり弱い、粘性あり、ロームブロックφ0.5～10cm中量、黒色土少量。

Ｐ１～Ｐ５　土層説明

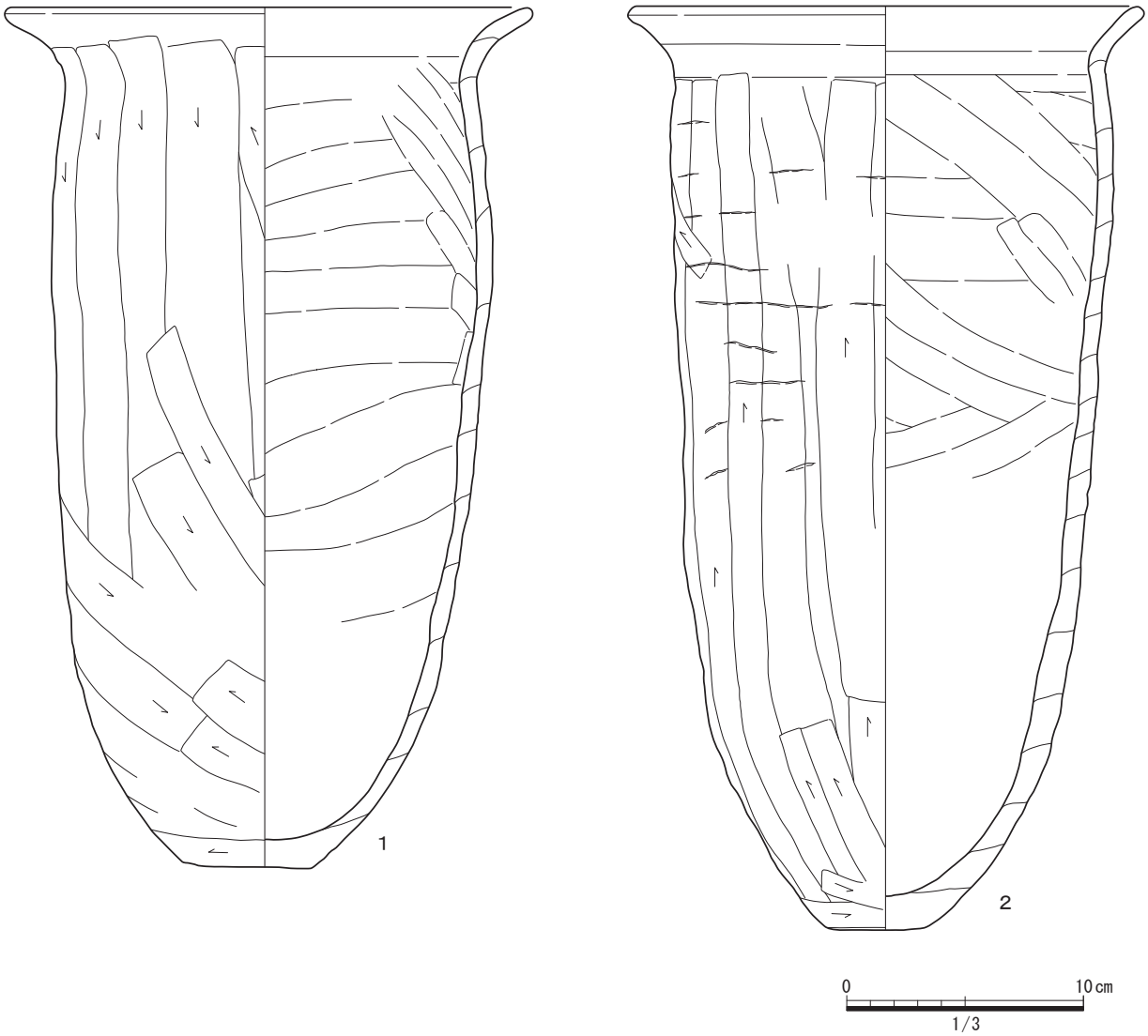
1．褐色土　締まりやや弱い、粘性やや弱い、ロームブロックφ0.5～3cm中量、焼土φ0.5～1cm・灰少量。
2．黄褐色土　締まり弱い、粘性ややあり、ロームブロックφ0.5～3cm・黒褐色土中量。
3．黄褐色土　締まり弱い、粘性あり、ロームブロックφ1～3cm多量、黒褐色土微量、柱痕。
4．黄褐色土　締まりやや弱い、粘性ややあり、ロームブロックφ1～5cm多量、黒褐色土微量。
5．黄褐色土　締まりやや弱い、粘性やや弱い、ローム土主体。



第 152 図　H -12 号住居跡遺構図③



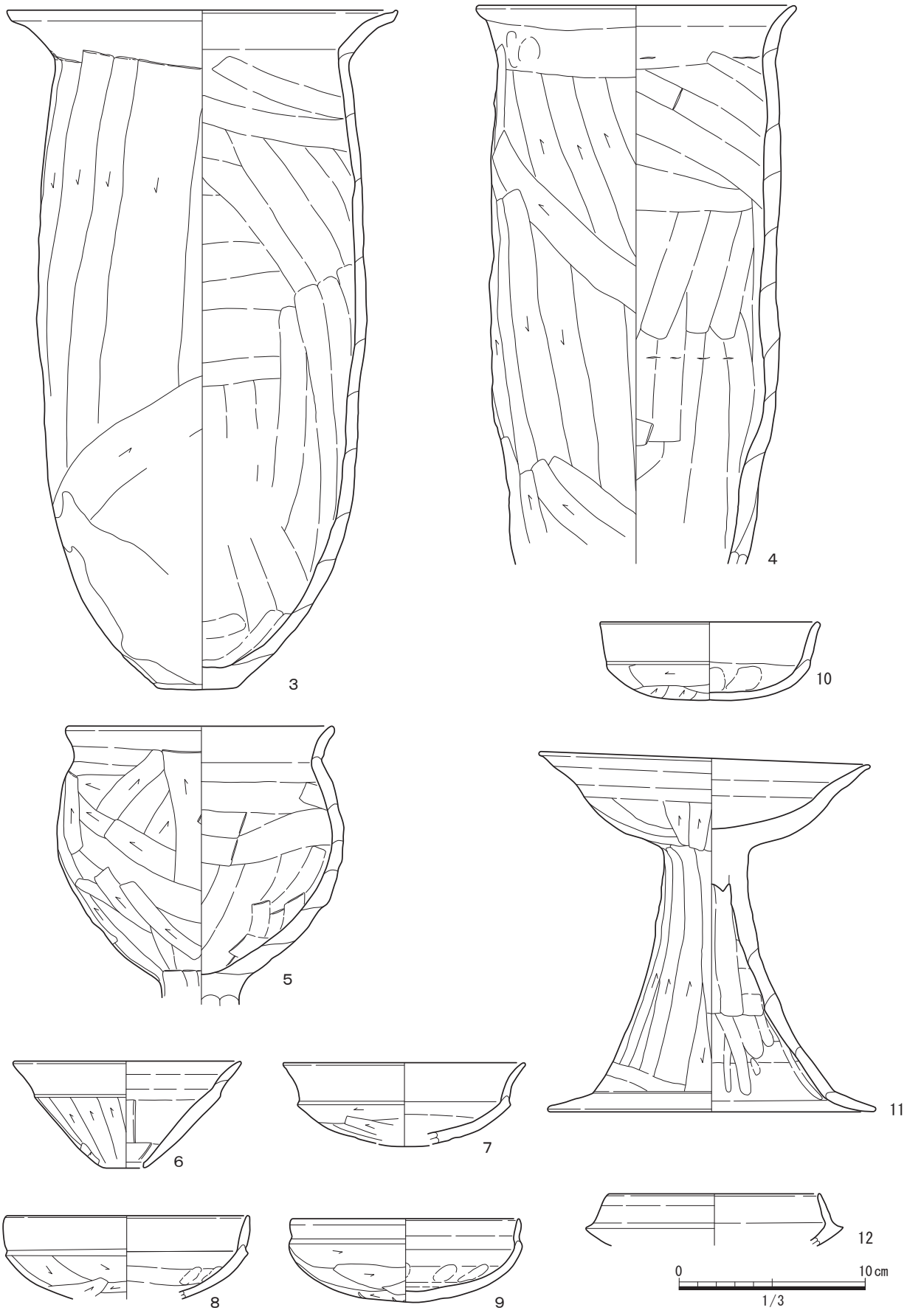
第 153 図　H -12 号住居跡遺構図④



第 154 図　H -12 号住居跡遺物実測図①

第 65 表　H -12 号住居跡出土遺物観察表①

番号	器種	法量(cm)（推定値）		残存	色調	胎土	焼成	成整形の特徴	備考（出土層位等）
1	土師器甕	口径 底径 器高	22.3 5.4 36.4	ほぼ完形	外：にぶい赤褐 5YR5/4 内：にぶい赤褐 5YR5/4	大粒の片岩・チャート多量	良好	外：口縁部ヨコナデ、胴部上位タテのヘラケズリ・下位ナナメのヘラケズリ 内：口縁部ヨコナデ、胴部ヨコナデ	カマド天井焚口構築材
2	土師器甕	口径 底径 器高	21.6 4.1 40.0	ほぼ完形	外：明赤褐 2.5YR5/6 内：にぶい赤褐 2.5YR5/4	大粒の片岩・石英・チャート	普通	外：口縁部ヨコナデ、胴部タテのヘラケズリ、底部ヨコのヘラケズリ、輪積痕あり 内：口縁部ヨコナデ、胴部ヨコナデ	カマド天井焚口構築材
3	土師器甕	口径 底径 器高	21.0 4.4 36.5	口縁部～底部 4/5	外：橙 7.5YR6/6 内：橙 5YR6/6	大粒の片岩・石英・鉄分粒	良好	外：口縁部ヨコナデ、胴部タテのヘラケズリ、下位に炭化物の付着 内：口縁部ヨコナデ、胴部ヨコナデ	カマド左袖構築材
4	土師器甕	口径 底径 器高	17.2 — 30.0	口縁部～胴部 4/5	外：にぶい黄褐 10YR6/3 内：黒褐 10YR3/1	大粒のチャート・片岩	良好	外：口縁部指頭押圧後にヨコナデ、胴部ヘラケズリ 内：口縁部ヨコナデ、胴上部ヘラナデ、胴中～下位ヨコナデ、輪積痕あり	カマド左袖構築材
5	土師器台付甕	口径 底径 器高	(14.5) — 15.0	口縁部～脚部 3/4	外：にぶい赤褐 5YR5/3 内：灰褐 7.5YR5/2	大粒のチャート・石英・片岩	普通	外：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ、脚部ヘラケズリ 内：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ	カマド東側床直
6	土師器甑	口径 底径 器高	12.3 2.1 5.8	完形	外：にぶい橙 5YR6/4 内：にぶい橙 5YR6/4	精選されている、鉄分粒、絹雲母	良好	外：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ 内：口縁部ヨコナデ、胴部ヨコのヘラナデ 孔：径 1.8 cm	D6 内
7	土師器坏	口径 底径 器高	(13.0) — (4.5)	口縁部～体部 1/5	外：にぶい橙 7.5YR7/4 内：にぶい橙 7.5YR7/4	精選されている、チャート	良好	外：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ 内：口縁部ヨコナデ、体部ヨコナデ	掘り方
8	土師器坏	口径 底径 器高	(13.2) — (4.5)	口縁部～体部 1/2	外：橙 5YR7/6 内：橙 5YR6/6	精選されている、チャート、鉄分粒	良好	外：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ 内：口縁部ヨコナデ、体部指頭押圧後にヨコナデ	覆土



第 155 図　H -12 号住居跡遺物実測図②

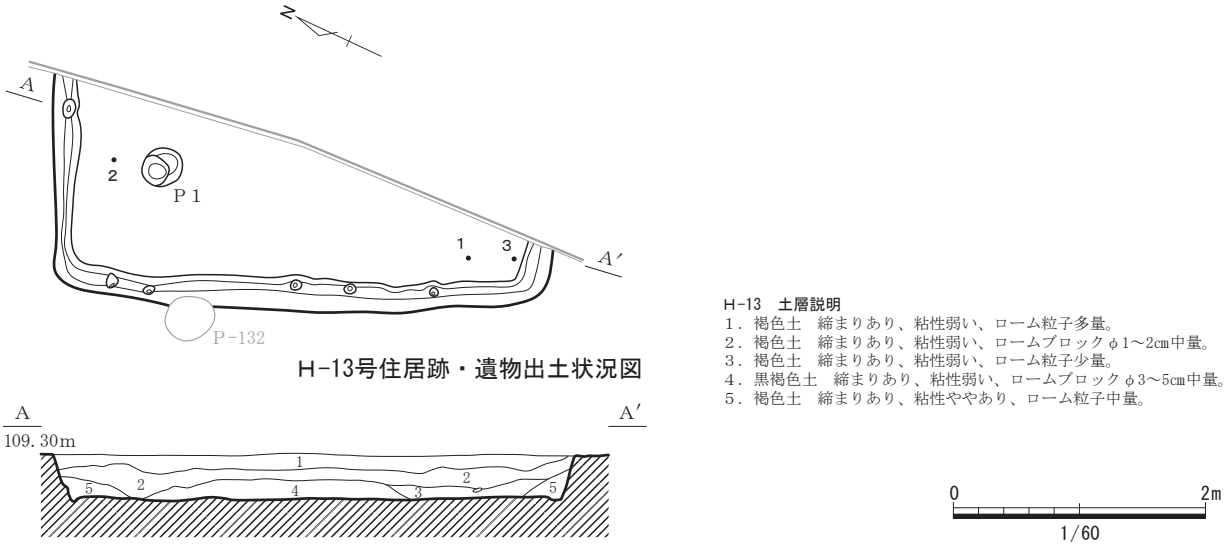
第 66 表　H -12 号住居跡出土遺物観察表②

番号	器種	法量(cm)（推定値）		残存	色調	胎土	焼成	成整形の特徴	備考（出土層位等）
9	土師器坏	口径 底径 器高	(12.4) — 4.5	口縁部～体部 3/5	外：にぶい橙 7.5YR7/4 内：橙 2.5YR6/6	チャート、凝灰岩	良好	外：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、部分的にヘラミガキ 内：口縁部ヨコナデ、体部指頭圧痕、ヨコナデ	中央床直
10	土師器坏	口径 底径 器高	(11.8) — 4.3	完形	外：橙 2.5YR7/8 内：橙 2.5YR7/8	精選されている。鉄分粒	普通・酸化焔	外：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ 内：口縁部ヨコナデ、体部指頭押圧後にヨコナデ	P6 西側床直
11	土師器高杯	口径 底径 器高	17.8 17.6 19.4	完形	外：にぶい橙 7.5YR6/4 内：にぶい橙 7.5YR6/4	チャート、鉄分粒、絹雲母	良好	外：坏口縁部ヨコナデ・体部ヘラケズリ、脚柱状部タテのヘラケズリ・裾部ヨコナデ 内：坏部ヨコナデ、脚柱状部タテのヨコナデ主体・裾部ヨコナデ	P5 内
12	須恵器坏身	口径 底径 器高	(11.4) — (2.8)	口縁部～体部破片	外：灰 5YR4/1 内：灰 5YR4/1	精選されている	良好	ロクロ成形 外：口縁部回転ヨコナデ、底部回転ヘラナデ 内：回転ヨコナデ	覆土

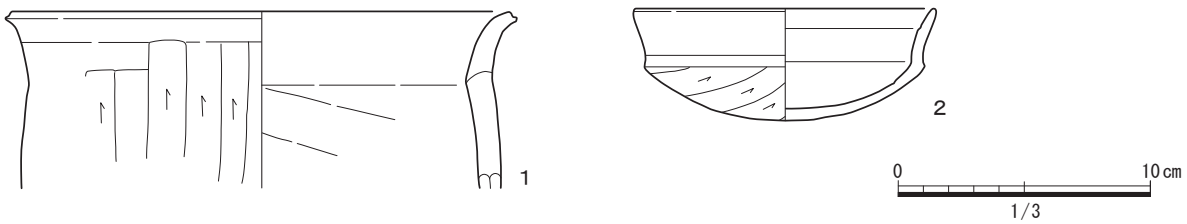
番号	器種	法量（残存値）	残存	石材	特徴	備考（出土層位等）
13	蔬編石	長さ17.6cm、幅6.9cm、厚さ4.6cm 重さ882.22g	完形	片岩	形態：楕円形	P6 脇床直
14	蔬編石	長さ16.6cm、幅7.0cm、厚さ4.7cm 重さ753.07g	完形	片岩	形態：楕円形	P6 脇床直
15	蔬編石	長さ13.1cm、幅4.5cm、厚さ2.5cm 重さ344.85g	完形	片岩	形態：棒状	西壁中央際床直
16	蔬編石	長さ13.2cm、幅6.4cm、厚さ3.1cm 重さ462.51g	完形	緑色岩	形態：楕円形	西壁中央際床直
17	蔬編石	長さ12.7cm、幅7.2cm、厚さ3.3cm 重さ481.63g	完形	片岩	形態：長方形	西壁中央際床直
18	蔬編石	長さ13.1cm、幅5.9cm、厚さ2.8cm 重さ408.38g	完形	片岩	形態：楕円形	中央床直
19	蔬編石	長さ13.8cm、幅4.6cm、厚さ4.4cm 重さ517.4g	完形	片岩	形態：棒状	カマド西側床直
20	蔬編石	長さ12.1cm、幅5.8cm、厚さ2.6cm 重さ272.36g	完形	片岩	形態：楕円形	P3 脇床直
21	蔬編石	長さ11.7cm、幅6.7cm、厚さ2.1cm 重さ249.32g	完形	片岩	形態：楕円形	P3 際床直
22	蔬編石	長さ10.9cm、幅6.7cm、厚さ2.6cm 重さ276.96g	完形	片岩	形態：楕円形	P3 際床直
23	蔬編石	長さ11.2cm、幅5.5cm、厚さ2.5cm 重さ237.01g	完形	片岩	形態：棒状	南東隅床直
24	蔬編石	長さ11.7cm、幅5.9cm、厚さ2.6cm 重さ268.36g	完形	片岩	形態：棒状	P3 際床直
25	蔬編石	長さ12.0cm、幅4.0cm、厚さ3.4cm 重さ231.66g	完形	片岩	形態：棒状	南東隅床直
26	蔬編石	長さ11.8cm、幅5.4cm、厚さ2.0cm 重さ223.91g	完形	片岩	形態：楕円形	P3 際床直
27	蔬編石	長さ11.6cm、幅4.9cm、厚さ2.2cm 重さ201.20g	完形	片岩	形態：楕円形	南東隅床直
28	蔬編石	長さ11.5cm、幅5.0cm、厚さ3.4cm 重さ301.28g	完形	片岩	形態：楕円形	南東隅床直
29	蔬編石	長さ11.9cm、幅4.8cm、厚さ2.3cm 重さ231.76g	完形	緑色岩	形態：棒状	P7 内
30	蔬編石	長さ11.4cm、幅5.7cm、厚さ2.5cm 重さ148.12g	完形	片岩	形態：楕円形	P3 脇床直
31	蔬編石	長さ11.5cm、幅4.6cm、厚さ2.8cm 重さ219.98g	完形	片岩	形態：棒状	南東隅床直
32	蔬編石	長さ12.3cm、幅4.8cm、厚さ2.4cm 重さ232.19g	完形	片岩	形態：棒状	南東隅床直
33	蔬編石	長さ12.2cm、幅4.3cm、厚さ3.1cm 重さ258.17g	完形	片岩	形態：棒状	P3 脇床直
34	蔬編石	長さ11.0cm、幅4.6cm、厚さ3.8cm 重さ319.45g	完形	片岩	形態：棒状	南東隅床直
35	蔬編石	長さ10.8cm、幅4.6cm、厚さ3.0cm 重さ273.94g	完形	片岩	形態：楕円形	南東隅床直
36	蔬編石	長さ10.9cm、幅5.6cm、厚さ2.7cm 重さ257.83g	完形	片岩	形態：楕円形	南東隅床直
37	蔬編石	長さ9.7cm、幅5.2cm、厚さ2.5cm 重さ194.58g	完形	片岩	形態：楕円形	カマド右袖
38	蔬編石	長さ9.7cm、幅4.5cm、厚さ3.2cm 重さ187.76g	完形	片岩	形態：長方形	P7 内

Ｈ－13 号住居跡（第 156・157 図、第 67 表、PL. 25・78・84）

位置：１区。Do-62･Dp-62 グリッド。**平面形態**：方形。**重複**：Ｐ－ 132 に西壁の一部を切られる。**規模**：長軸 3. 94 ｍ、短軸〈1. 6〉ｍ、面積（4. 74）㎡。**深度**：0. 37 ｍ。**柱穴**：住居北西隅からＰ１が確認されている。規模は長軸 0. 33 ｍ、短軸 0. 3 ｍ、深さ 0. 6 ｍ。**壁周溝**：幅 0. 15 ｍ、深さ 0. 05 ｍほどの溝が巡り、部分的に溝内に柱痕がみられる。**貯蔵穴・土坑**：確認されていない。**床面の状態**：概ね平坦である。**埋没状況**：覆土は５層に分層され、自然埋没と考えられる。**出土遺物**：遺物組成は土師器甕・坏、菰編石である。長胴化した土師器甕（１）と外反口縁の土師器坏（２）がある。**時期**：出土遺物の特徴から７世紀前半に位置付けられる。



第 156 図　Ｈ－13 号住居跡遺構図

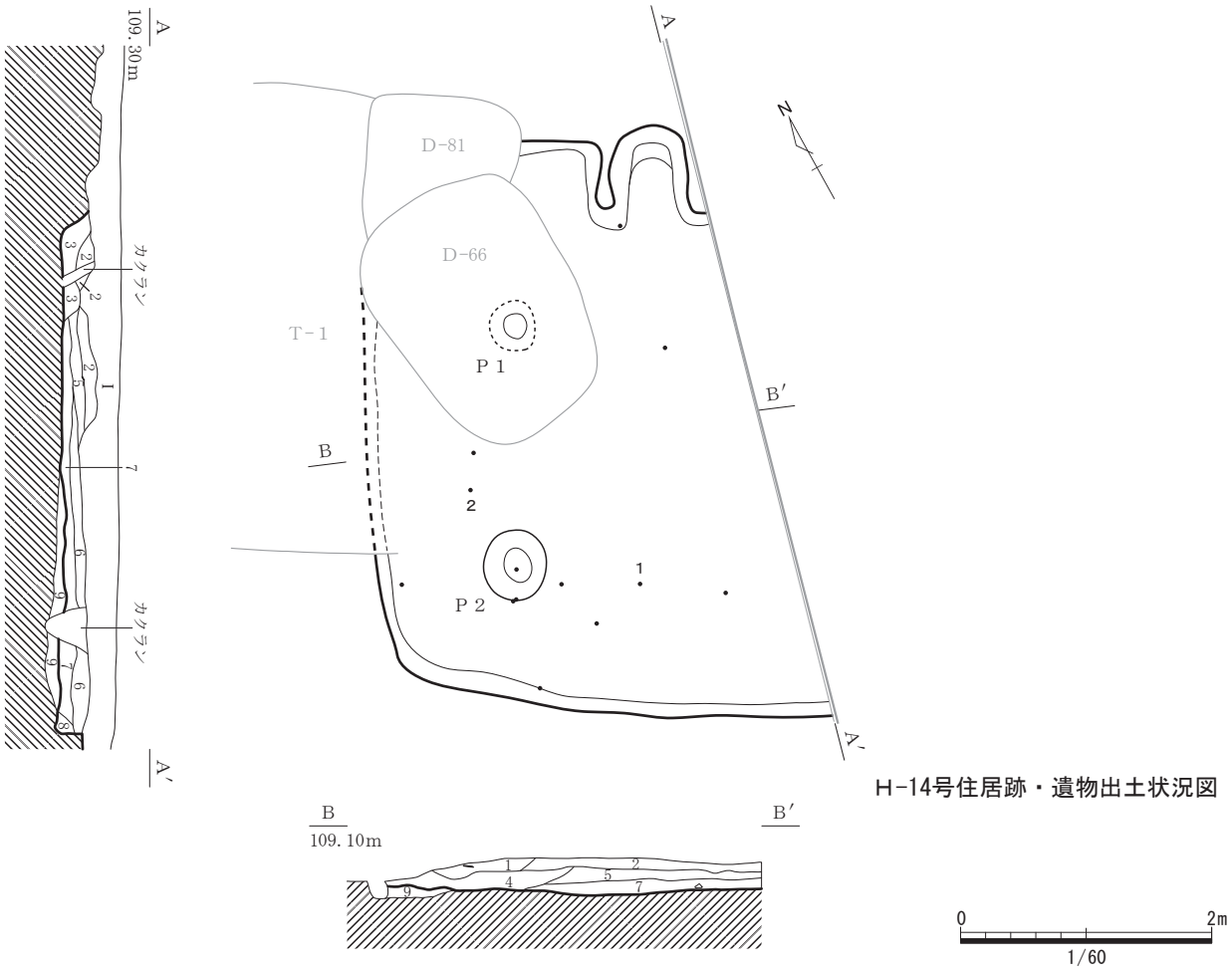


第 157 図　Ｈ－13 号住居跡遺物実測図

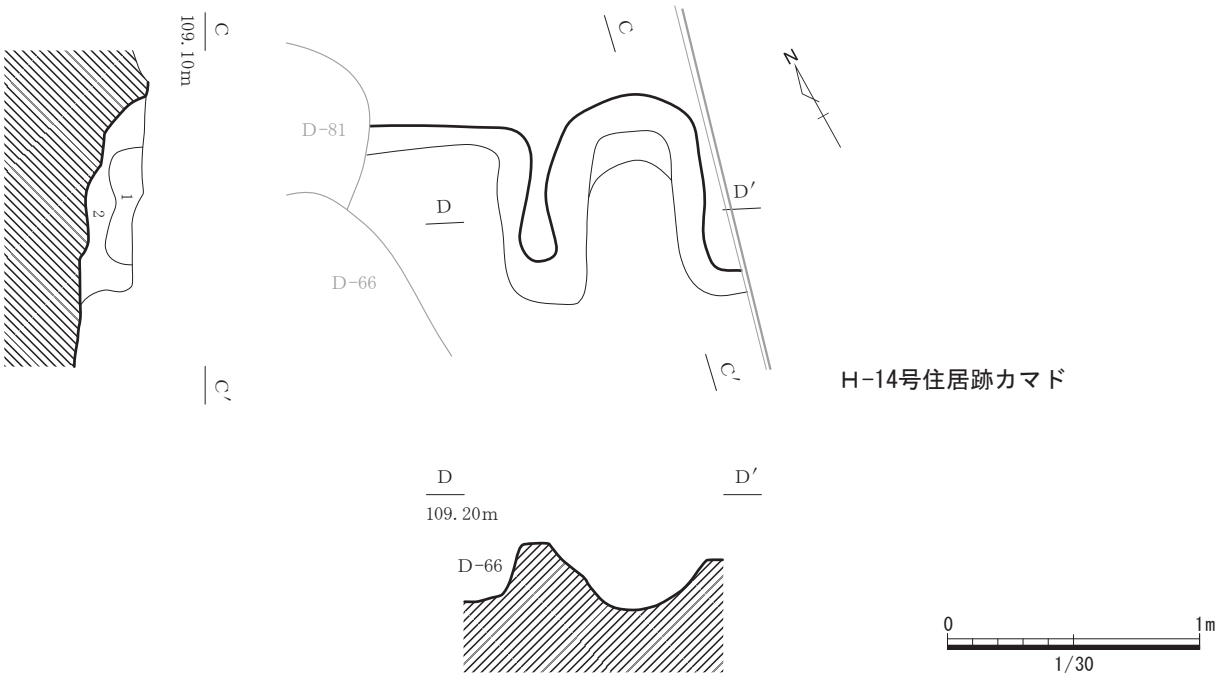
第 67 表　Ｈ－13 号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)（推定値）		残存	色調	胎土	焼成	成整形の特徴	備考（出土層位等）
1	土師器甕	口径 底径 器高	(20. 3) － (7. 0)	口縁部～胴上部破片	外：にぶい橙 7. 5YR5/4 内：にぶい赤褐 5YR5/4	凝灰岩、チャート	良好	外：口縁部ヨコナデ、胴部タテのヘラケズリ 内：口縁部ヨコナデ、胴部ヨコナデ	南西隅床直
2	土師器坏	口径 底径 器高	12. 0 － 4. 5	完形	外：橙 7. 5YR7/6 内：橙 5YR6/6	精選されている、鉄分粒	普通	外：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ 内：口縁部ヨコナデ、体部磨滅のため不明	P1 北側床直

番号	器種	法量（残存値）	残存	石材	特徴	備考（出土層位等）
3	片岩 菰編石	長さ(15. 1cm)、幅6. 7cm、厚さ2. 6cm 重さ(372. 98g)	両端欠損 3/4	片岩	形態：楕円形	南西隅床直



H-14号住居跡・遺物出土状況図

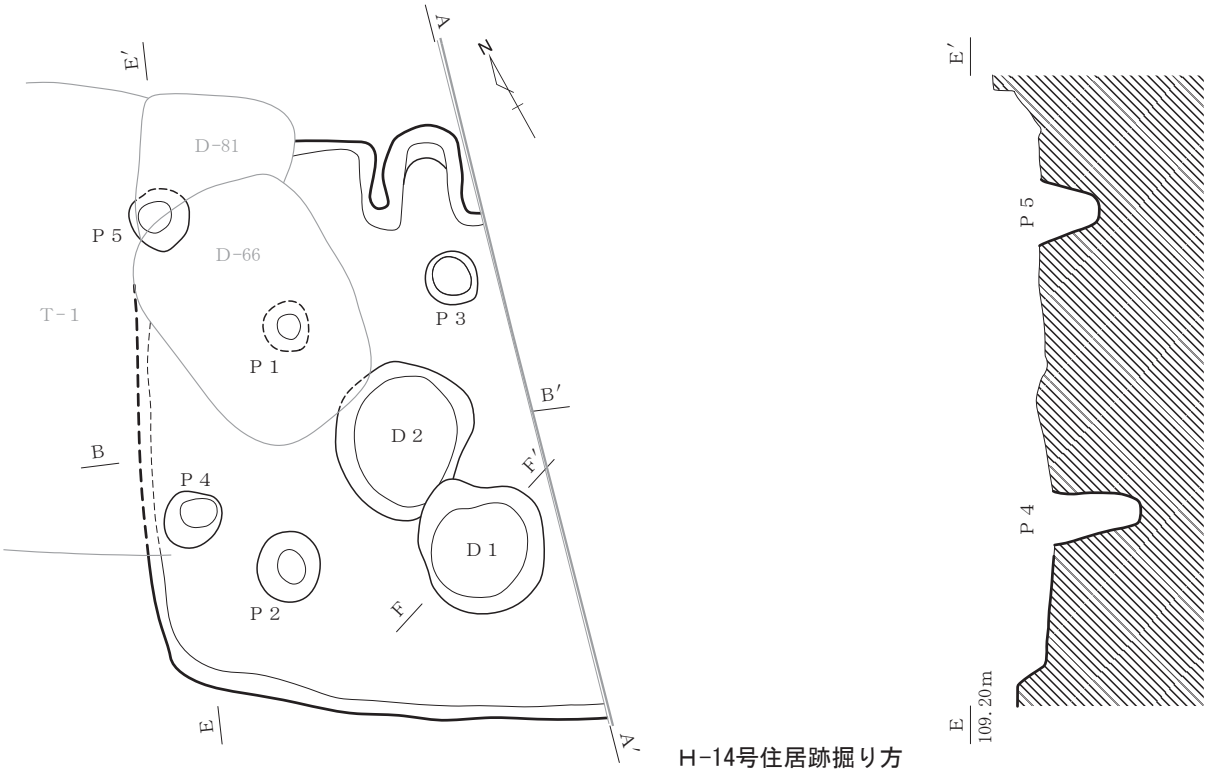


H-14号住居跡カマド

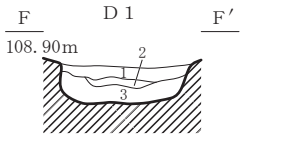
第 158 図　H -14 号住居跡遺構図①

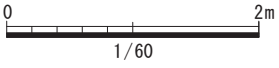
Ｈ－14 号住居跡（第 158・159 図、第 68 表、PL. 25・78）

位置：１区。Dt-60･61、Du-60･61 グリッド。**平面形態**：正方形。**重複**：Ｔ－１号竪穴状遺構、Ｄ－ 66・81 号土坑に住居西側を切られる。**規模**：長軸 4. 59 m、短軸〈3. 51〉、面積（13. 8）㎡。**主軸方位**：Ｎ－ 29° －Ｅ。**深度**：0. 26 m。**カマド**：北壁中央に付設、全長 0. 82 m、最大幅〈1. 0〉m、燃焼部長 0. 56 m、煙道部長 0. 26 m、焚口部幅 0. 42 m、燃焼部幅 0. 37 m、煙道立ち上がり角 49° 、主軸方位Ｎ－ 27° －Ｅ。袖はローム掘り残しによる。**柱穴**：主柱穴２本が確認されている。Ｐ１は長軸 0. 26 m、短軸 0. 25 m、深さ 0. 2 m。Ｐ２は長軸 0. 36 m、短軸 0. 34 m、深さ 0. 21 m。床下からは３基の柱穴が確認されている。Ｐ３は長軸 0. 3 m、短軸 0. 28 m、深さ 0. 15 m。Ｐ４は長軸 0. 32 m、短軸 0. 3 m、深さ 0. 73 m。Ｐ５は長軸 0. 32 m、短軸 0. 3 m、深さ 0. 63 m。**壁周溝**：なし。**貯蔵穴・土坑**：床下から楕円形を呈する２基の土坑が確認されている。Ｄ１は長軸 0. 74 m、短軸 0. 7 m、深さ 0. 34 m。Ｄ２は長軸 0. 8 m、短軸 0. 68 m、深さ 0. 33 m。**床面の状態**：概ね平坦で、住居南側に貼床がみ



H-14号住居跡掘り方





H-14　土層説明
1．灰黄褐色土　締まり強い、粘性弱い、焼土粒子・ローム粒子多量、As-B軽石中量。
2．暗褐色土　　締まりあり、粘性弱い、ローム粒子中量。
3．褐 色 土　　締まりあり、粘性あり、ロームブロック・焼土塊中量。
4．褐 色 土　　締まりあり、粘性ややあり、焼土粒子・ローム粒子中量。
5．暗褐色土　　締まりあり、粘性弱い、ローム粒子中量。
6．暗褐色土　　締まりあり、粘性あり、ローム粒子少量。
7．褐 色 土　　締まりあり、粘性ややあり、焼土粒子少量、ローム粒子多量。
8．褐 色 土　　締まりあり、粘性あり、ローム粒子多量。
9．暗褐色土　　締まり強い、粘性あり、焼土粒子中量、ローム粒子多量、貼床。

H-14カマド　土層説明
1．黄橙色土　締まり強い、粘性弱い、ローム土主体、天井部。
2．赤褐色土　締まりあり、粘性ややあり、焼土粒子・ローム粒子・灰中量。

D-1　土層説明
1．黄褐色土　締まりあり、粘性あり、ローム粒子多量。
2．褐 色 土　締まりあり、粘性あり、ローム粒子中量。
3．黄褐色土　締まりあり、粘性あり、ロームブロックφ1～2㎝多量。

第 159 図　Ｈ－14 号住居跡遺構図②

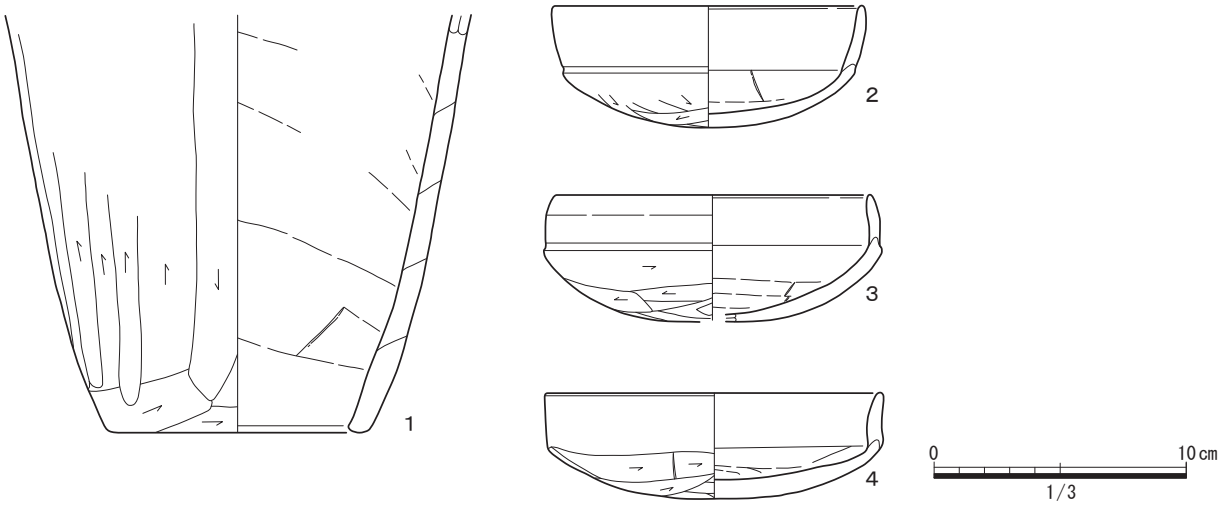
られる。**埋没状況**：覆土は９層に分層され、１層にＡｓ－Ｂ軽石を含む。自然埋没と考えられる。**掘り方**：ローム土を主体に敷き込んでいる。**出土遺物**：遺物はＰ２周辺に分布している。遺物組成は土師器甕・坏、須恵器甕、菰編石である。**時期**：出土遺物が少ないため時期不明。**備考**：住居東側は調査区外。

第 68 表　Ｈ－14 号住居跡出土遺物観察表

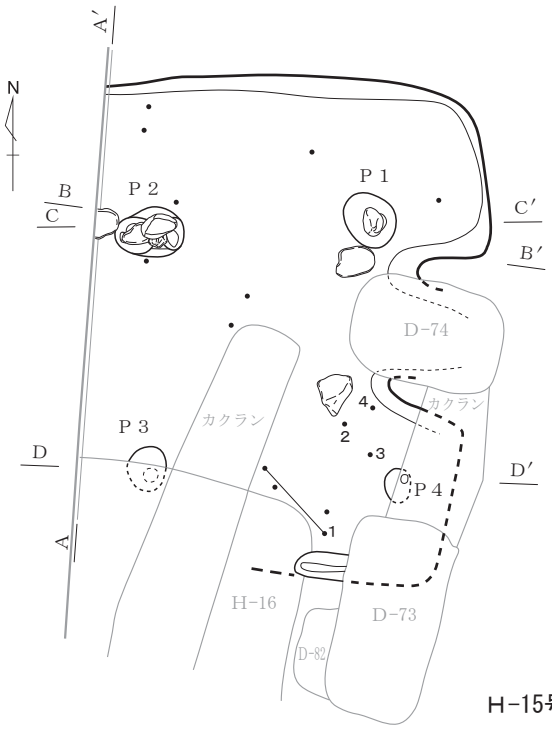
番号	器種	法量（残存値）	残存	石材	特徴	備考（出土層位等）
1	菰編石	長さ13.7cm、幅7.4cm、厚さ4.3cm 重さ671.83g	完形	緑色岩	形態：長方形	P2 東側床直
2	菰編石	長さ13.6cm、幅6.1cm、厚さ2.6cm 重さ340.51g	完形	片岩	形態：楕円形	P2 北側床直

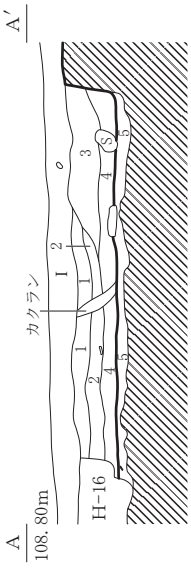
Ｈ－15 号住居跡（第 160・161 図、第 69 表、PL.25・78・84）

位置：１区。Dx59･60、Dy-59･60 グリッド。**平面形態**：方形。**重複**：Ｄ－ 74 号土坑にカマド、Ｈ－ 16 号住居・Ｄ―73 号土坑・カクランに住居南側を切られる。**規模**：長軸 3.96 m、短軸〈3.2〉m、面積（9.17）㎡。**主軸方位**：Ｎ－ 4°－Ｅ。**深度**：0.4 m。**カマド**：東壁中央に付設、最大幅〈1.57〉m、主軸方位はＮ－ 77°－Ｗ。カマドの袖はローム掘り残しによる。**柱穴**：主柱穴が４本確認されている。Ｐ１は長軸 0.47 m、短軸 0.38 m、深さ 0.73 m。Ｐ２は長軸 0.41 m、短軸〈0.24〉m、深さ 0.3 m。Ｐ３は長軸 0.32 m、短軸 0.3 m、深さ 0.73 m。Ｐ４は長軸 0.32 m、短軸 0.3 m、深さ 0.73 m。なお、Ｐ１・２では上層から中層にかけて礫が出土している。床下からは３基の柱穴が確認さている。Ｐ５は長軸〈0.36〉m、短軸 0.3 m、深さ 0.73 m。Ｐ６は長軸 0.32 m、短軸 0.3 m、深さ 0.73 m。Ｐ７は長軸 0.32 m、短軸 0.3 m、深さ 0.73 m。**壁周溝**：なし。**貯蔵穴・土坑**：確認されていない。**床面の状態**：概ね平坦で貼床。**埋没状況**：覆土は４層に分層され、自然埋没と考えられる。**掘り方**：ローム土を主体に敷き込んでいる。**出土遺物**：遺物はカマドから南側に多く分布している。遺物組成は土師器甕･甑･坏、菰編石である。実測できた遺物は全てカマド周辺から出土している。土師器坏は外反口縁（2）・内傾口縁（3）・屈曲して立ち上がる口縁（4）の種類がある。**時期**：出土遺物の特徴から６世紀後半に位置付けられる。**備考**：住居西側は調査区外。

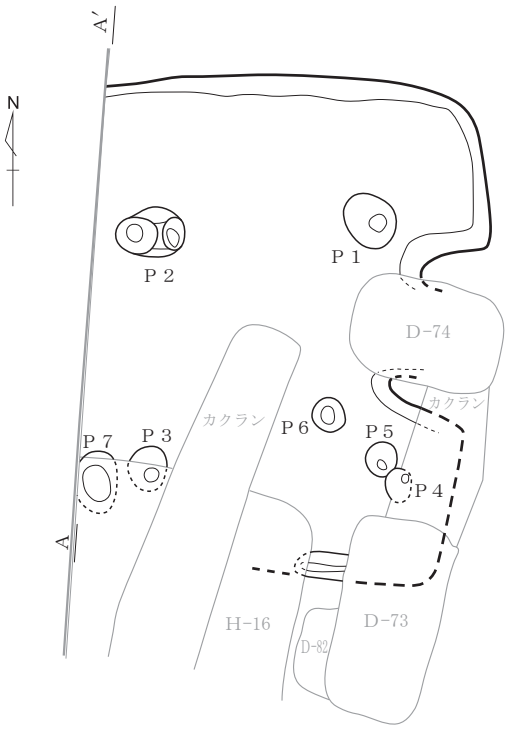


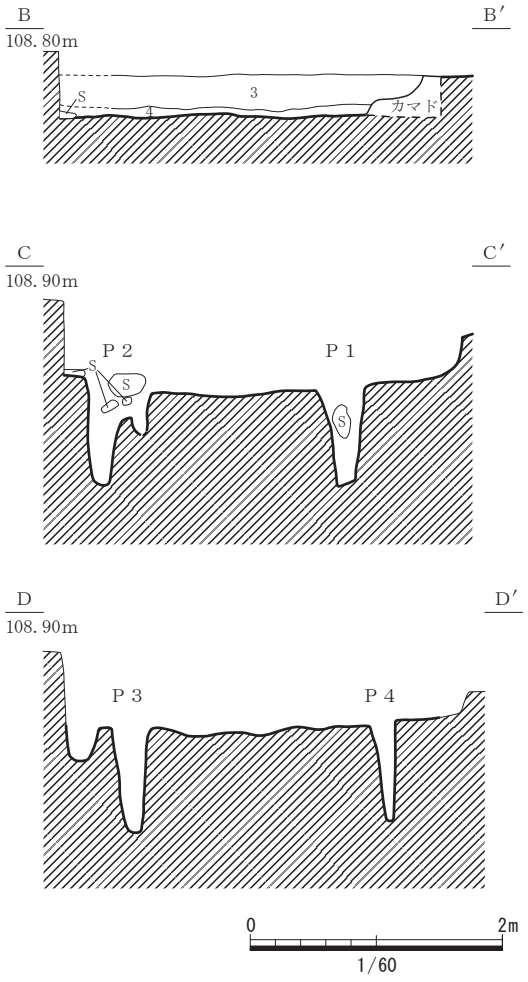
第 160 図　Ｈ－15 号住居跡遺物実測図





H-15号住居跡・遺物出土状況図





H-15号住居跡掘り方

H-15　土層説明
1．褐 色 土　締まりあり、粘性ややあり、ローム粒子中量。
2．褐 色 土　締まりあり、粘性ややあり、ローム粒子多量。
3．暗褐色土　締まりあり、粘性ややあり、ローム粒子中量。
4．黄褐色土　締まりあり、粘性ややあり、ローム粒子中量。
5．暗褐色土　締まりあり、粘性あり、ロームブロック主体、貼床。

第 161 図　Ｈ -15 号住居跡遺構図

第 69 表　Ｈ -15 号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)（推定値）		残存	色調	胎土	焼成	成整形の特徴	備考（出土層位等）
1	土師器甑	口径 底径 器高	－ (10.4) (16.6)	胴部～底部 1/6	外：にぶい褐 7.5YR5/4 内：にぶい赤褐 5YR5/4	大粒の石英・チャート、片岩	良好	外：胴部タテのヘラナデ、底部ヨコのヘラケズリ 内：胴部～底部ナナメのヘラナデ	カマド周辺
2	土師器坏	口径 底径 器高	12.4 － 4.8	完形	外：橙 7.5YR6/6 内：橙 7.5YR6/6	鉄分粒、凝灰岩	良好	外：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ 内：口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ	カマド周辺床直
3	土師器坏	口径 底径 器高	(12.6) － 5.0	口縁部～体部 1/2	外：にぶい橙 5YR6/4 内：にぶい赤褐 5YR5/4	チャート、鉄分粒	良好	外：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ 内：口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ	カマド周辺床直
4	土師器坏	口径 底径 器高	13.4 － 4.2	完形	外：にぶい黄橙 10YR6/3 内：にぶい黄橙 10YR6/3	大粒の片岩・チャート・凝灰岩	普通	外：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ 内：口縁部ヨコナデ、体部ヨコナデ	カマド周辺床直

番号	器種	法量（残存値）	残存	石材	特徴	備考（出土層位等）
5	蔬編石	長さ16.0cm、幅6.3cm、厚さ3.9cm 重さ671.84g	完形	片岩	形態：楕円形	覆土
6	蔬編石	長さ14.8cm、幅5.8cm、厚さ3.9cm 重さ451.73g	完形	片岩	形態：楕円形	覆土
7	蔬編石	長さ11.3cm、幅5.3cm、厚さ2.5cm 重さ236.77g	完形	片岩	形態：楕円形	覆土

Ｈ -16 号住居跡（第 162 ～ 164 図、第 70・71 表、PL. 26・84・85）

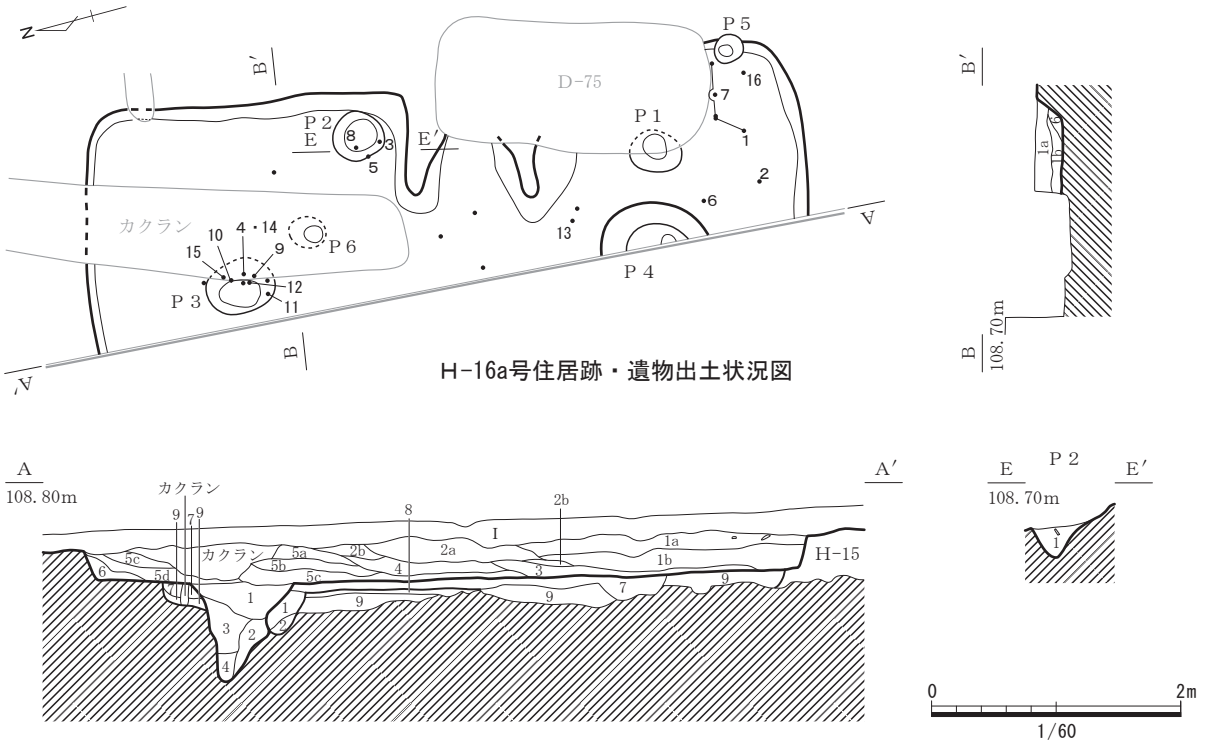
掘り方の土層断面から２枚の貼床面が検出され、カマドを共有していることから住居の拡張と判断した。新しい住居を a 号住居、旧住居を b 号住居とした。

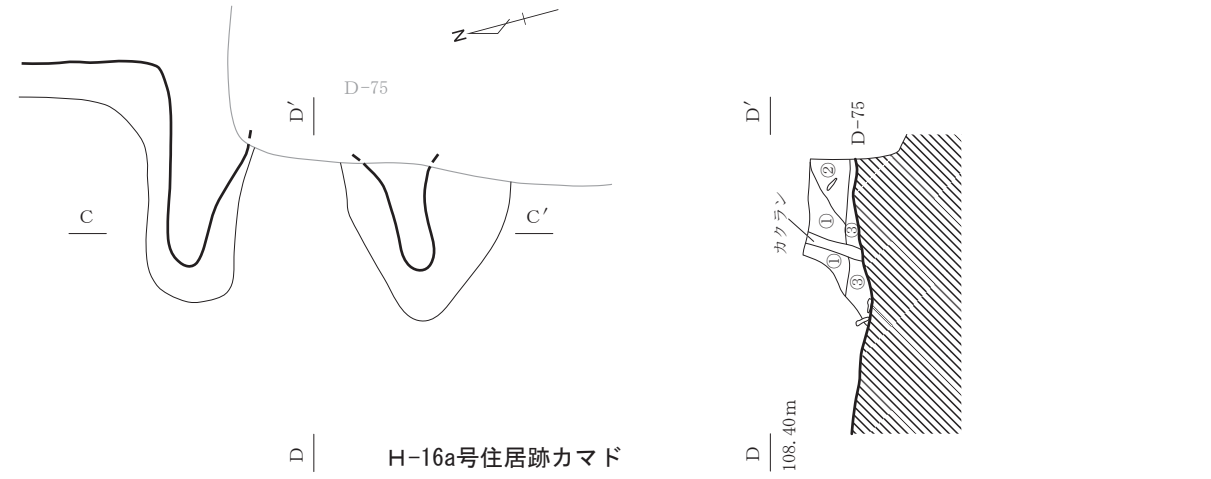
a 号住居

位置：１区。Dy-59･60、Ea-59･60、Eb-59 グリッド。**平面形態**：方形。**重複**：本住居がＨ－ 15 号住居を切り、Ｄ－ 75 号土坑に住居東壁及びカマド、カクランに北壁の一部を切られる。**規模**：長軸 5.8 m、短軸〈1.92〉m、面積（8.94）㎡。**深度**:0.33 m。**カマド**:東壁中央に付設、全長〈0.61〉m、最大幅〈1.48〉m、焚口部幅 0.65 m、燃焼部幅 0.53 m、主軸方位Ｎ－ 70°－Ｗ。袖はローム掘り残しによる。**柱穴**：主柱穴はＰ３・４である。Ｐ３は長軸 0.37 m、短軸 0.28 m、深さ 0.75 m。Ｐ４は長軸〈0.35〉m、短軸 0.26 m、深さ 0.59 m。そのほかカマドの両脇からＰ１・２、住居南東隅からＰ５が確認されている。それぞれの規模は、Ｐ１が長軸 0.28 m、短軸 0.27 m、深さ 0.2 m。Ｐ２が長軸 0.28 m、短軸 0.27 m、深さ 0.5 m。Ｐ５が長軸 0.2 m、短軸 0.16 m、深さ 0.66 m。**壁周溝**：なし。**貯蔵穴・土坑**：確認されていない。**床面の状態**：概ね平坦で貼床。**埋没状況**：覆土は６層に分層され、１層にＡ s- Ｂ軽石を含む。自然埋没と考えられる。**掘り方**：黒色土・ロームブロックを主体とした７層が貼床面となる。**出土遺物**：遺物は全体に分布しているが、蔬編石はＰ３周辺にまとまっている。遺物組成は土師器甕・坏・手捏土器である。**時期**：出土遺物の特徴から６世紀末～７世紀初めに位置付けられる。**備考**：住居西側の大半が調査区外。Ｈ－ 16b 号住居の南側を拡張する。

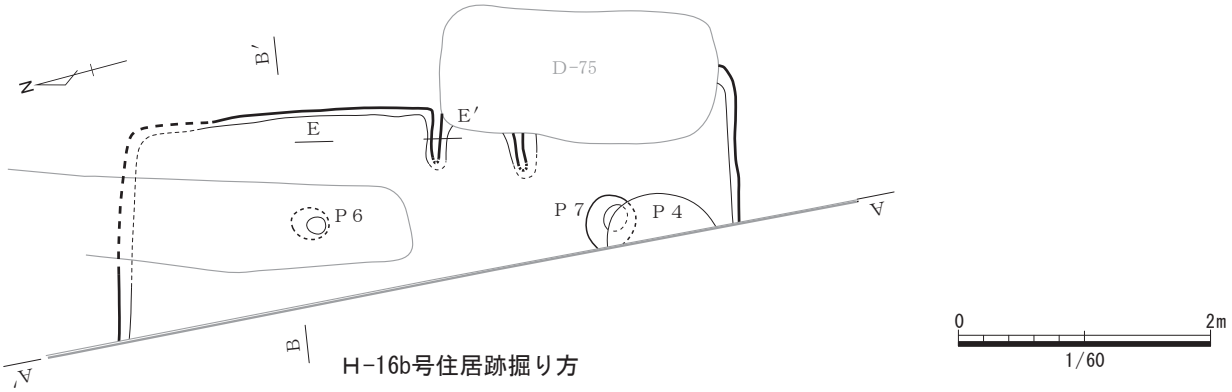
b 号住居

平面形態：方形。**規模**：長軸〈4.9〉m、短軸〈1.65〉m、面積〈7.22〉㎡。**柱穴**：Ｐ６・７が主柱穴である。Ｐ６は長軸〈0.3〉m、短軸〈0.24〉m、深さ 0.5 m。Ｐ７は長軸〈0.28〉m、短軸〈0.4〉m、深さ 0.35 m。**壁周溝**:なし。**床面の状態**：概ね平坦で北側は８層の貼床。**掘り方**：住居中央が高まるように周囲を掘り下げ、ローム土と黒褐色土を敷き込む（９層）。





第 162 図　H -16 号住居跡遺構図①

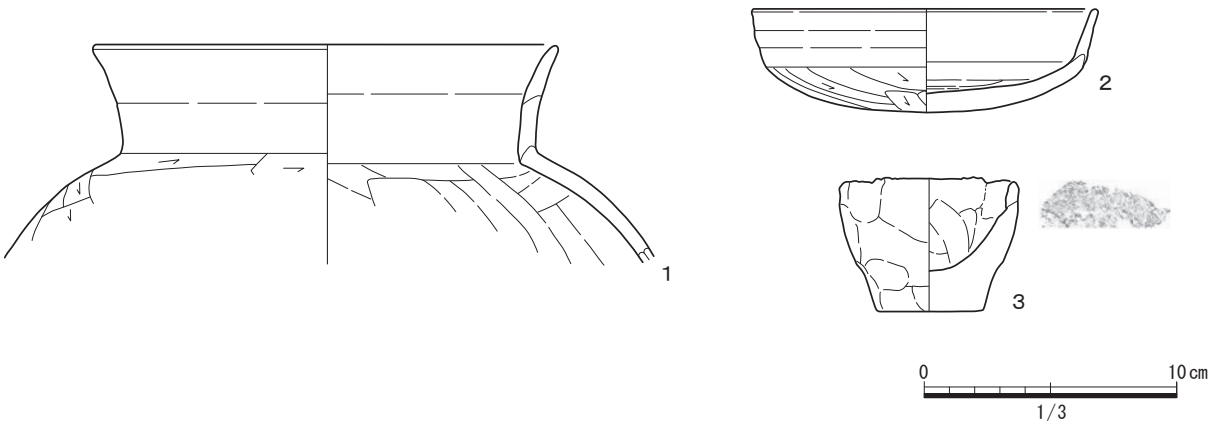


H-16b号住居跡掘り方

H-16a・b　土層説明
1a. 褐 色 土　　締まりあり、粘性弱い、As-B軽石・焼土粒子中量。
1b. 暗褐色土　　締まりあり、粘性弱い、ローム粒子・焼土粒子中量。
2a. 灰黄褐色土　締まりあり、粘性あり、ローム粒子中量。
2b. 褐 色 土　　締まり強い、粘性ややあり、ローム粒子中量。
3．褐 色 土　　締まり強い、粘性ややあり、ローム粒子多量。
4．褐 色 土　　締まり強い、粘性ややあり、ローム粒子少量。
5a. 褐灰色土　　締まり強い、粘性弱い、As-B軽石中量。
5b. 灰黄褐色土　締まり強い、粘性弱い、ロームブロック・焼土ブロックφ1～３㎝中量。
5c. 暗褐色土　　締まりあり、粘性ややあり、ローム粒子多量。
5d. 灰黄褐色土　締まり強い、粘性あり、ロームブロックを中量。
6．暗褐色土　　締まりあり、粘性ややあり、ローム粒子多量。
7．暗褐色土　　締まり強い、粘性ややあり、黒色土主体、ロームブロックφ0.5～３㎝中量、Ｈ－１６a号住居の貼床。
8．黄褐色土　　締まり強い、粘性強い、ロームブロック多量、Ｈ－１６b号住居の貼床。
9．黄褐色土　　締まりあり、粘性あり、黒色土中量、ロームブロックφ0.5～4㎝多量。

H-16a・bＰ４　土層説明
1．暗褐色土　締まり弱い、粘性ややあり、ロームブロックφ0.5～4㎝多量、黒色土・焼土少量。
2．褐 色 土　締まり弱い、粘性やや弱い、ロームブロックφ0.5～10㎝・黒色土多量、焼土少量。
3．暗褐色土　締まりやや弱い、粘性ややあり、ロームブロックφ0.5～3㎝・黒色土多量、焼土少量。
4．暗褐色土　締まり弱い、粘性あり、ロームブロックφ0.5～4㎝・黒色土中量。

第 163 図　Ｈ -16 号住居跡遺構図②



第 164 図　Ｈ -16 号住居跡遺物実測図

第 70 表　Ｈ -16 号住居跡出土遺物観察表①

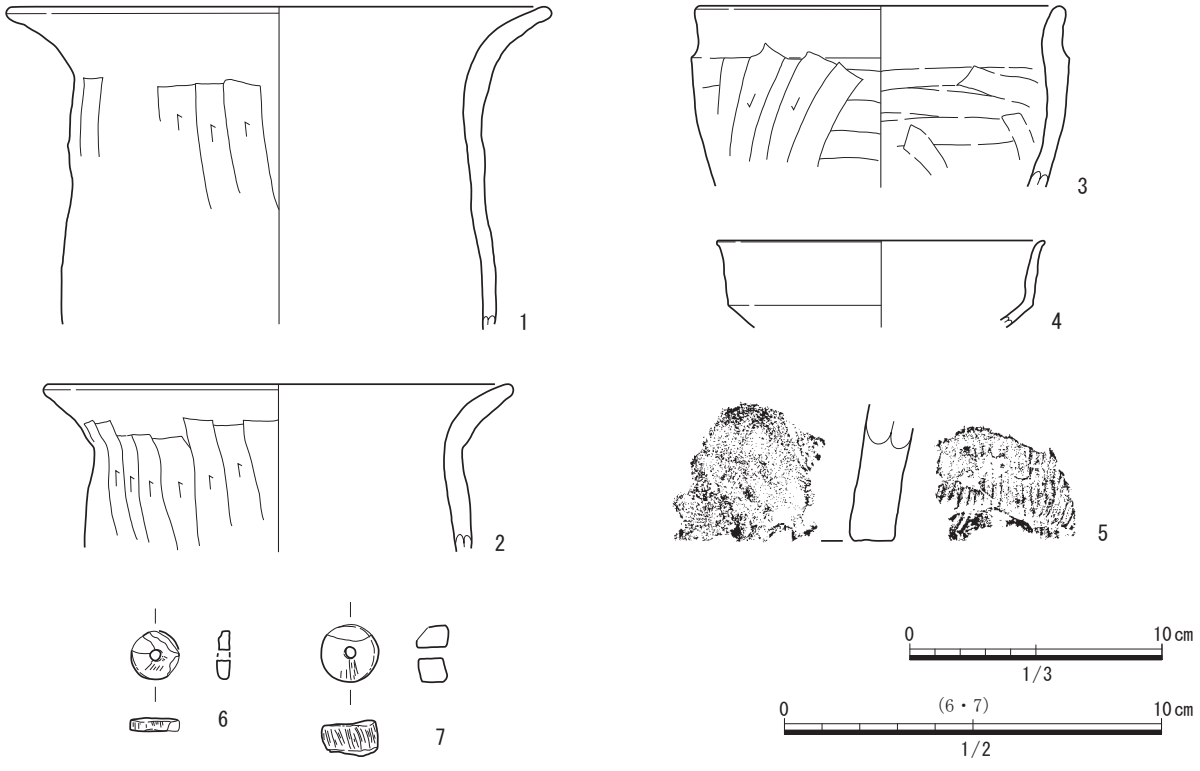
番号	器種	法量(cm)（推定値）		残存	色調	胎土	焼成	成整形の特徴	備考（出土層位等）
1	土師器甕	口径 底径 器高	18.5 － (8.7)	口縁部～肩部 1/10	外：にぶい赤褐 5YR5/4 内：にぶい赤褐 5YR5/4	精選されている、大粒の石英	良好	外：口縁部ヨコナデ、肩部ヨコのヘラケズリ 内：口縁部ヨコナデ、肩部ヨコ・タテのヘラナデ	南東隅床直
2	内黒土器坏	口径 底径 器高	13.7 － 4.1	口縁部～体部 5/6	外：にぶい橙 7.5YR6/4 内：黒 7.5YR2/1	チャート、凝灰岩、鉄分粒、絹雲母	良好	外：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ 内：口縁部ヨコナデ、体部のヘラナデ	覆土
3	土師器手捏	口径 底径 器高	7.1 4.1 5.3	口縁部～底部 1/2	外：にぶい赤褐 5YR5/4 内：にぶい赤褐 5YR5/4	チャート、凝灰岩	普通	外：指ナデ、指紋残る 内：指ナデ、指紋残る	カマド左脇

第 71 表　H -16 号住居跡出土遺物観察表②

番号	器種	法量（残存値）	残存	石材	特徴	備考（出土層位等）
4	蔬編石	長さ15.9cm、幅8.3cm、厚さ3.1cm 重さ627.85g	完形	片岩	形態：楕円形	P3 内
5	蔬編石	長さ16.5cm、幅7.5cm、厚さ2.6cm 重さ517.81g	完形	片岩	形態：楕円形	カマド左脇
6	蔬編石	長さ(15.7)cm、幅(7.3)cm、厚さ2.9cm 重さ462.31g	端部・側面欠損 4/5	片岩	形態：楕円形	P6 南側床直
7	蔬編石	長さ16.8cm、幅6.5cm、厚さ3.6cm 重さ636.55g	完形	片岩	形態：楕円形	南東隅床直
8	蔬編石	長さ15.2cm、幅6.3cm、厚さ4.1cm 重さ537.79g	完形	片岩	形態：楕円形	カマド左脇
9	蔬編石	長さ15.0cm、幅7.0cm、厚さ4.2cm 重さ642.84g	完形	片岩	形態：長方形	P3 内
10	蔬編石	長さ15.7cm、幅(5.4)cm、厚さ2.9cm 重さ406.59g	完形	片岩	形態：長方形	P3 内
11	蔬編石	長さ15.5cm、幅6.8cm、厚さ2.6cm 重さ534.81g	完形	緑色岩	形態：長方形	P3 内
12	蔬編石	長さ(10.5)cm、幅5.0cm、厚さ3.6cm 重さ270.17g	端部欠損 1/2	片岩	形態：棒状	P3 内
13	蔬編石	長さ(11.8)cm、幅(4.5)cm、厚さ2.5cm 重さ204.25g	側面欠損 4/5	片岩	形態：楕円形	P4 北側床直
14	蔬編石	長さ12.1cm、幅4.6cm、厚さ3.7cm 重さ337.49g	完形	片岩	形態：不定形	P3 東側床直
15	蔬編石	長さ11.4cm、幅4.9cm、厚さ2.6cm 重さ221.92g	完形	片岩	形態：楕円形	P3 内
16	蔬編石	長さ11.8cm、幅5.0cm、厚さ3.2cm 重さ273.51g	完形	片岩	形態：楕円形	南東隅床直

２．遺構外出土遺物

時期の異なる竪穴住居跡、土坑、ピットへの混入品を遺構外出土遺物として扱った（第 165 図、第 72 表、PL. 85）。土師器では甕（1・2）・鉢（3）・坏（4）などがあり、7 世紀代が主体となる。その他に円筒埴輪（5）、滑石製の臼玉（6・7）がある。



第 165 図　古墳時代遺構外遺物実測図

第 72 表　古墳時代遺構外出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)（推定値）	残存	色調	胎土	焼成	成整形の特徴	備考（出土層位等）
1	土師器甕	口径 (21.6) 底径 － 器高 －	口縁部～胴部 1/2	外：にぶい褐 7.5YR5/4 内：褐 7.5YR4/3	大粒のチャート、石英	良好	外：口縁部ヨコナデ、胴部タテのヘラケズリ 内：口縁部ヨコナデ、胴部ヨコのヘラナデ	P-73 出土
2	土師器甕	口径 (18.6) 底径 － 器高 －	口縁部～胴部 1/4 残存	外：にぶい褐 7.5YR5/4 内：にぶい褐 7.5YR5/4	大粒の片岩、チャート	良好	外：口縁部ヨコナデ、胴部タテのヘラケズリ 内：口縁部ヨコナデ、胴部ヨコのヘラナデ	P-138 出土
3	土師器鉢	口径 (14.7) 底径 － 器高 －	口縁部～胴部 1/4 残存	外：にぶい褐 7.5YR5/4 内：橙 7.5YR6/6	チャート	良好	外：口縁部ヨコナデ、胴部ヨコのナデとナナメのヘラケズリ 内：口縁部ヨコナデ、胴部ヨコとナナメのヘラナデ	P-24 出土
4	土師器坏	口径 (13.0) 底径 － 器高 －	口縁部～体部破片	外：橙 2.5YR6/8 内：橙 2.5YR6/8	精良、白色粒	良好	外：摩滅 内：摩滅	P-24 出土
5	円筒埴輪	口径 － 底径 － 器高 －	基部破片	外：にぶい赤褐 5YR4/4 内：にぶい赤褐 5YR5/4	片岩、チャート	良好	外：タテのハケメ 内：ヨコとナナメのナデ	D-42 出土

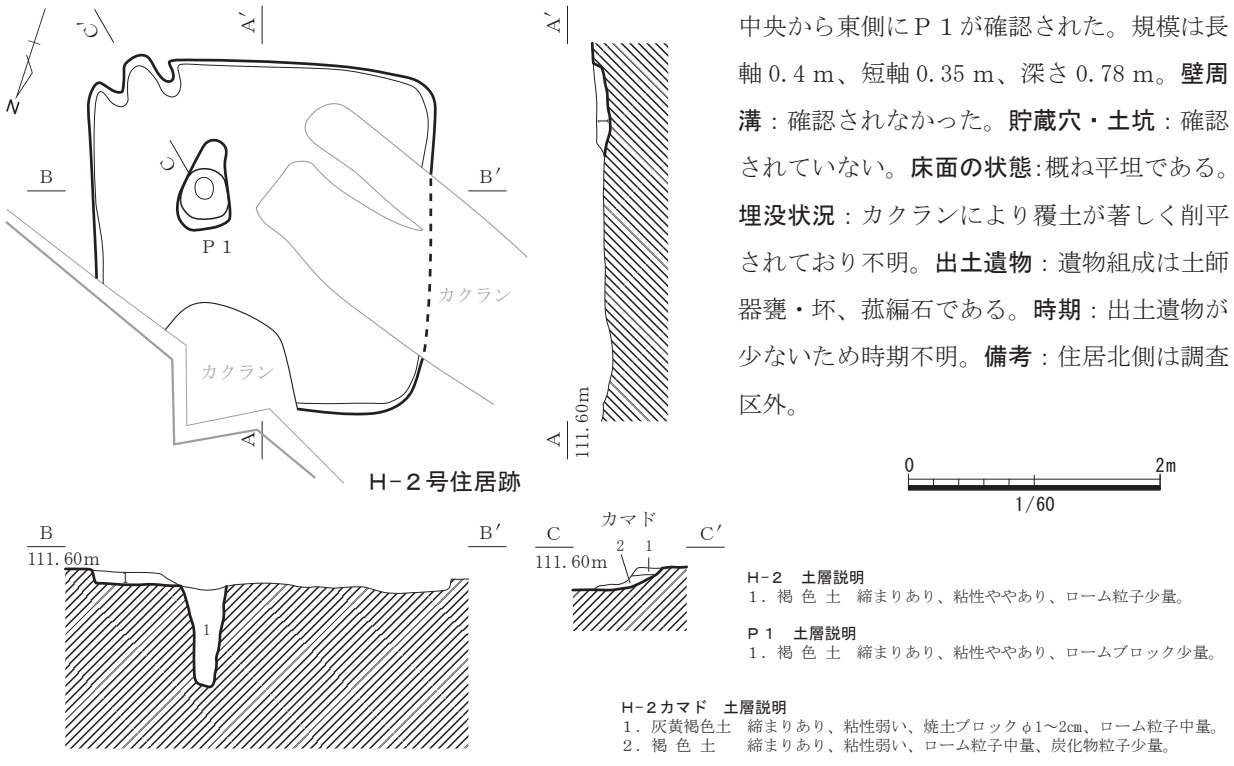
番号	器種	法量（残存値）	残存	石材	特徴	備考（出土層位等）
6	臼玉	径1.30cm、厚さ0.35cm、孔径0.25cm 重さ0.69g	一部欠け	滑石	側面に研磨痕	D-77 出土
7	臼玉	径1.50cm、厚さ0.95cm、孔径0.25cm 重さ3.11g	一部欠け	滑石	側面に研磨痕	J-3 出土

第６節　奈良時代以降

１．竪穴住居跡

Ｈ－２号住居跡（第 166 図、第 73 表、PL. 27・88）

位置：２区。Cw-30･31、Cx-30 グリッド。**平面形態**：正方形。**重複**：カクランに住居北・西壁を切られる。**規模**：長軸 2.74 m、短軸 2.7 m、面積〈6.71〉㎡。**主軸方位**：Ｎ－ 18°－Ｗ。**深度**：〈0.1〉m。**カマド**：東南隅に付設、全長〈0.4〉m、最大幅 0.67 m、燃焼部長〈0.4〉m、焚口部幅 0.38 m、燃焼部幅 0.26 m、煙道立ち上がり角 32°、主軸方位：Ｎ－ 35°－Ｗ。**柱穴**：住居中央から東側にＰ１が確認された。規模は長軸 0.4 m、短軸 0.35 m、深さ 0.78 m。**壁周溝**：確認されなかった。**貯蔵穴・土坑**：確認されていない。**床面の状態**:概ね平坦である。**埋没状況**：カクランにより覆土が著しく削平されており不明。**出土遺物**：遺物組成は土師器甕・坏、菰編石である。**時期**：出土遺物が少ないため時期不明。**備考**：住居北側は調査区外。



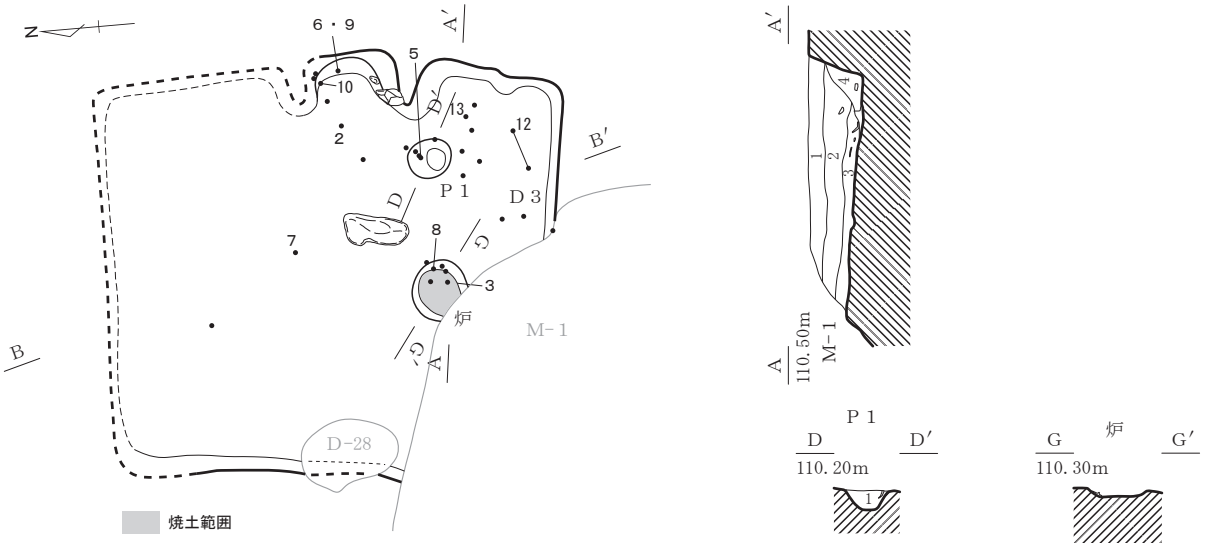
第 166 図　Ｈ－２号住居跡遺構図

第 73 表　Ｈ－２号住居跡出土遺物観察表

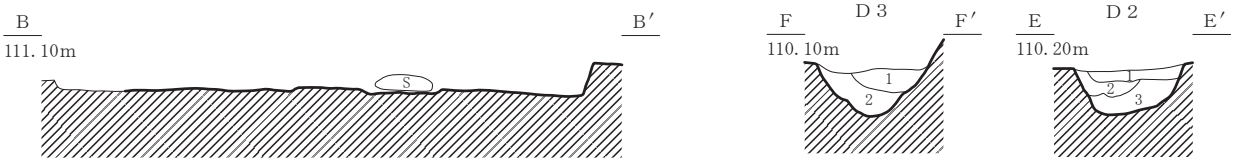
番号	器種	法量（残存値）	残存	石材	特徴	備考（出土層位等）
1	菰編石	長さ13.1cm、幅5.6cm、厚さ4.0cm 重さ482.50g	完形	片岩	形態：棒状	覆土

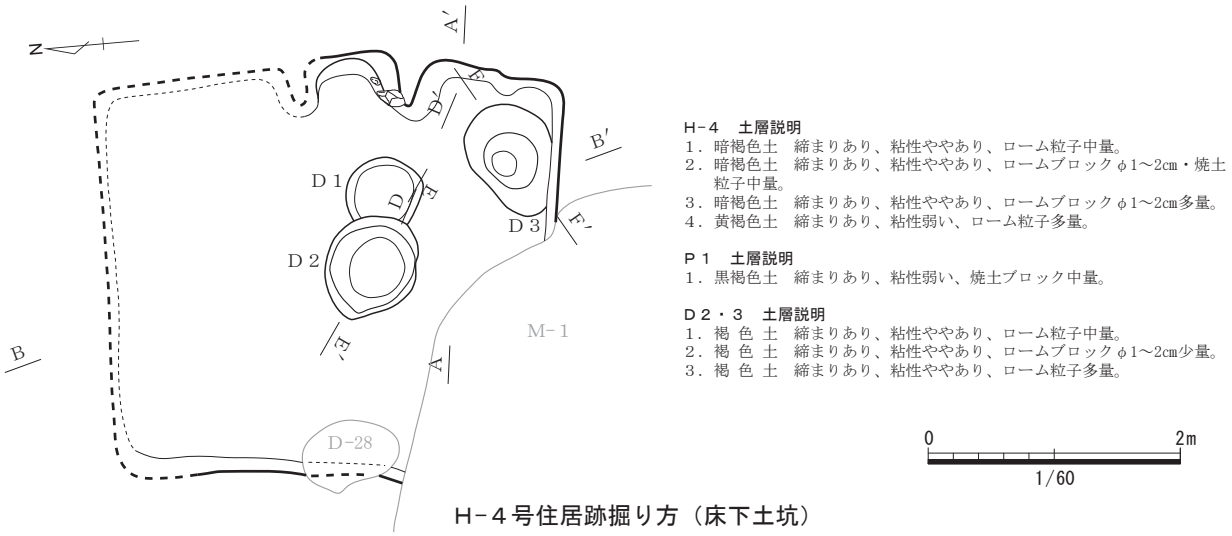
Ｈ－４号住居跡（第 167 ～ 169 図、第 74 表、PL. 27・87・88）

位置：２区。Df-49 グリッド。**平面形態**：方形。**重複**：Ｈ－５号住居跡を切る。Ｄ -28 号土坑・Ｍ－１号溝に住居西・南壁の一部を切られる。**規模**：長軸 3.6 ｍ、短軸 3.22 ｍ。面積〈9.74〉ｍ。**主軸方位**：Ｎ－ 88°　－Ｗ。**深度**：0.3 ｍ。**カマド**：東壁中央に付設、全長〈0.52〉ｍ、最大幅〈1.34〉ｍ、燃焼部長〈0.52〉ｍ、焚口部幅〈1.0〉ｍ、



Ｈ-４号住居跡・遺物出土状況図





Ｈ-４　土層説明
1．暗褐色土　締まりあり、粘性ややあり、ローム粒子中量。
2．暗褐色土　締まりあり、粘性ややあり、ロームブロックφ1～2cm・焼土粒子中量。
3．暗褐色土　締まりあり、粘性ややあり、ロームブロックφ1～2cm多量。
4．黄褐色土　締まりあり、粘性弱い、ローム粒子多量。

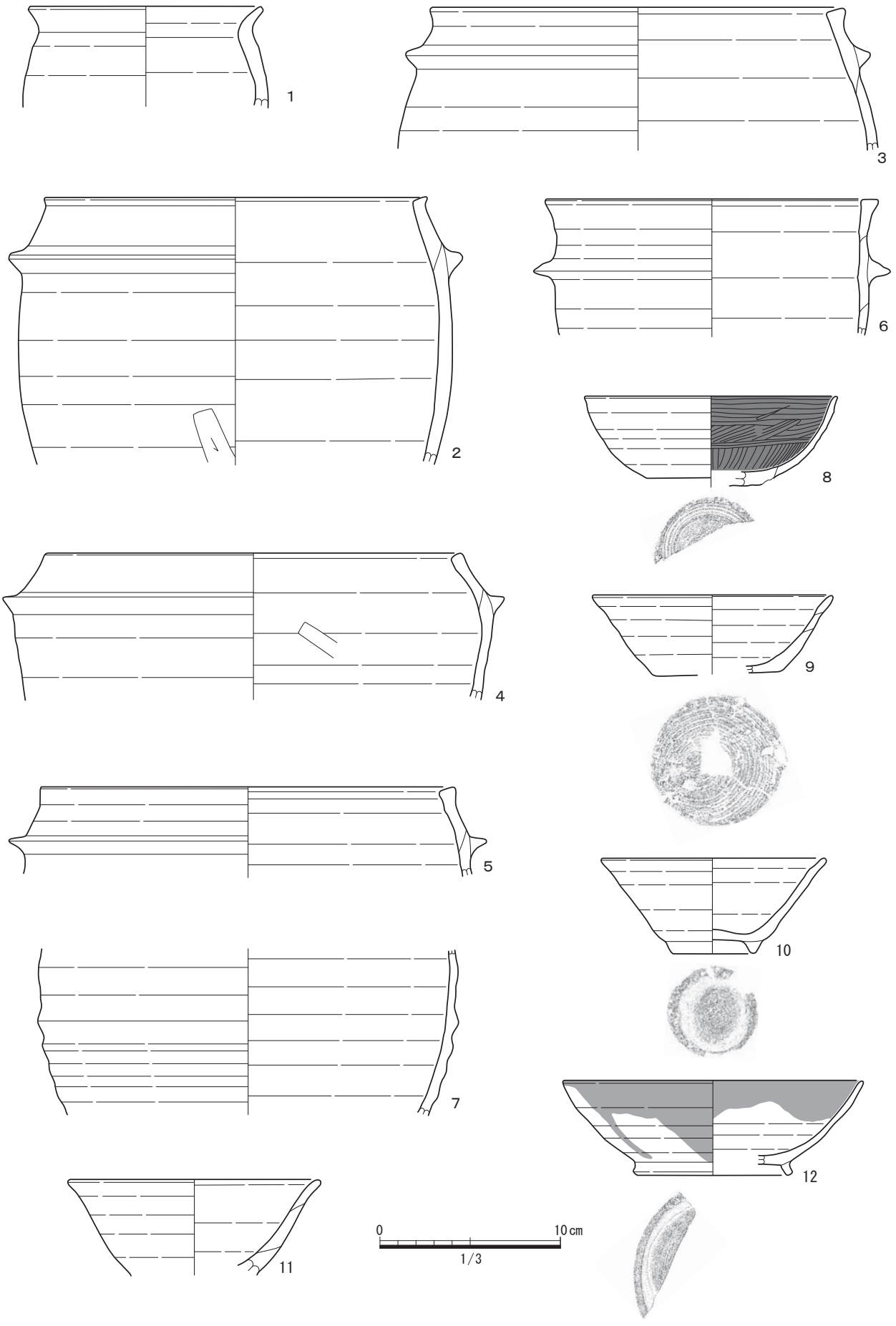
Ｐ１　土層説明
1．黒褐色土　締まりあり、粘性弱い、焼土ブロック中量。

Ｄ２・３　土層説明
1．褐 色 土　締まりあり、粘性ややあり、ローム粒子中量。
2．褐 色 土　締まりあり、粘性ややあり、ロームブロックφ1～2cm少量。
3．褐 色 土　締まりあり、粘性ややあり、ローム粒子多量。

0　2m
1/60

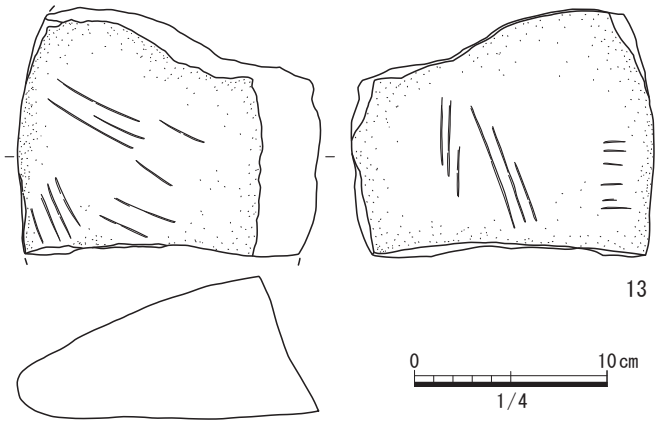
Ｈ-４号住居跡掘り方（床下土坑）

第 167 図　Ｈ－４号住居跡遺構図



第 168 図　Ｈ－４号住居跡遺物実測図①

燃焼部幅 0.5 m、主軸方位Ｎ－ 87° －Ｅ。袖はローム堀り残しで、右袖先端に礫を構築材として使用している。**炉**:住居中央から南側で確認されている。平面は楕円形を呈し、長軸〈0.5〉m、短軸 0.45 m、深さ 0･05 mである。**柱穴**：カマドの西側からＰ１が確認されている。規模は長軸 0.35 m、短軸 0.3 m、深さ 0.2 m。**壁周溝**：確認されなかった。**貯蔵穴・土坑**：床下から楕円形を呈した土坑が３基確認されている。Ｄ－１は長軸 0.62 m、短軸〈0.47〉m、深さ 0.14 m。Ｄ－２は長軸 0.7 m、短軸〈0.63〉m、深さ 0.38 m。Ｄ－３は長軸 0.94 m、短軸 0.67 m、深さ 0.46 m。**床面の状態**:概ね平坦である。**埋没状況**:覆土は４層に分層され、自然埋没と考えられる。**出土遺物**：遺物はカマドから南壁にかけて分布し、カマド内から須恵器羽釜（２・６）、炉内からも須恵器羽釜（3･4）が出土している。遺物組成は土師器甕・高台付埦（内黒）、須恵器甕・羽釜・埦・高台付埦、灰釉陶器（高台付埦）、粘土塊である。内傾口縁の羽釜（２～５）が中心で、ロクロ成形の土師質土器と言える内黒の高台付埦（８）がある。**時期**：出土遺物の特徴から 10 世紀中頃に位置付けられる。



第 169 図　Ｈ－４号住居跡遺物実測図②

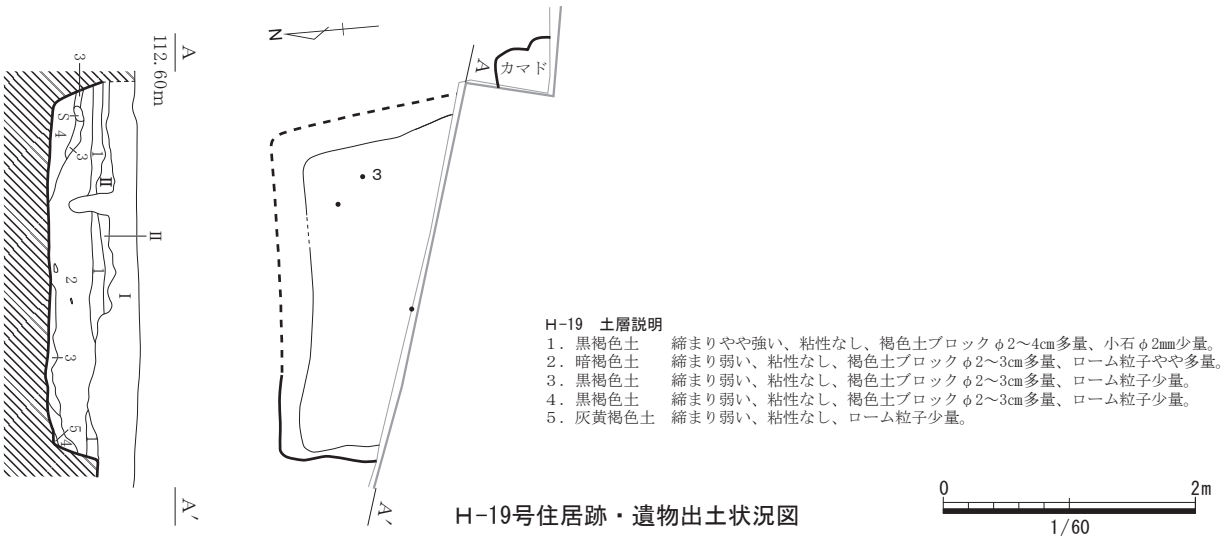
第 74 表　Ｈ－４号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)（推定値）	残存	色調	胎土	焼成	成整形の特徴	備考（出土層位等）
1	須恵器甕	口径 (13.0) 底径 － 器高 (5.6)	口縁部～破片	外：にぶい褐 7.5YR6/3 内：にぶい褐 7.5YR6/3	チャート、凝灰岩	瓦器質	ロクロ整形 外：回転ヨコナデ 内：回転ヨコナデ	覆土
2	須恵器羽釜	口径 (21.2) 底径 － 器高 (14.9)	口縁部～体部 1/6	外：灰白 2.5Y7/1 内：灰白 2.5Y8/2	大粒のチャート多い	瓦器質	ロクロ成形 外：回転ヨコナデ、下位にヘラケズリ 内：回転ヨコナデ	カマド焚口部
3	須恵器羽釜	口径 (23.0) 底径 － 器高 (7.9)	口縁部～体部破片	外：にぶい黄橙 10YR7/3 内：にぶい黄橙 10YR7/3	大粒の片岩・チャート、鉄分粒	瓦器質	ロクロ成形 外：回転ヨコナデ 内：回転ヨコナデ	炉内
4	須恵器羽釜	口径 (23.0) 底径 － 器高 (8.1)	口縁部～体部破片	外：灰白 10YR8/2 内：灰黄 2.5YR7/2	チャート、凝灰岩	瓦器質	ロクロ成形 外：回転ヨコナデ 内：回転ヨコナデ	炉内
5	須恵器羽釜	口径 (23.0) 底径 － 器高 (5.0)	口縁部～体部破片	外：にぶい黄橙 10YR7/4 内：にぶい黄褐 10YR5/4	片岩、チャート	瓦器質	ロクロ成形 外：回転ヨコナデ 内：回転ヨコナデ	P1 内
6	須恵器羽釜	口径 (18.5) 底径 － 器高 (7.5)	口縁部～体部破片	外：にぶい橙 7.5YR7/4 内：にぶい橙 10YR7/4	凝灰岩、片岩	瓦器質	ロクロ成形 外：回転ヨコナデ 内：回転ヨコナデ	カマド内
7	須恵器羽釜	口径 － 底径 (9.2) 器高 －	体部破片	外：橙 5YR6/6 内：橙 5YR6/6	凝灰岩、チャート	酸化焔気味	ロクロ成形 外：回転ヨコナデ 内：回転ヨコナデ	D2 北側床直
8	内黒土器高台付埦	口径 (14.0) 底径 － 器高 5.0	口縁部～底部 1/3	外：にぶい橙 7.5YR6/4 内：黒 N2/	凝灰岩、鉄分粒	酸化焔気味	ロクロ成形 外：体部回転ヨコナデ、底部ヘラケズリ後に高台貼付 内：丁寧なヘラミガキ	炉内
9	須恵器埦	口径 (13.4) 底径 7.0 器高 4.5	口縁部～底部 4/5	外：黄灰 2.5Y6/1 内：黄灰 2.5Y6/1	凝灰岩多量	瓦器質	ロクロ成形 外：体部回転ヨコナデ、底部回転糸切り 内：回転ヨコナデ	カマド内
10	須恵器高台付埦	口径 (12.5) 底径 4.7 器高 5.3	口縁部～底部 1/5	外：黄灰 2.5Y6/1 内：黄灰 2.5Y6/1	凝灰岩	瓦器質気味	ロクロ成形 外：体部回転ヨコナデ、底部回転糸切り後に高台貼付 内：回転ヨコナデ	カマド内
11	須恵器埦	口径 (14.0) 底径 － 器高 (5.3)	口縁部～体部破片	外：にぶい橙 7.5YR6/4 内：にぶい褐 7.5YR6/3	チャート、石英、凝灰岩	酸化焔気味	ロクロ成形 外：回転ヨコナデ 内：回転ヨコナデ	覆土
12	灰釉陶器高台付埦	口径 (16.6) 底径 (8.8) 器高 5.3	口縁部～底部 1/2	外：灰白 2.5Y7/1 内：黄灰 2.5Y6/1 釉：浅黄 2.5Y7/3	精選されている	良好	ロクロ成形、施釉は　漬け掛け 外:回転ヨコナデ、底部回転ヘラケズリ後に高台貼付内:回転ヨコナデ口縁部の内外に施釉	D3 内

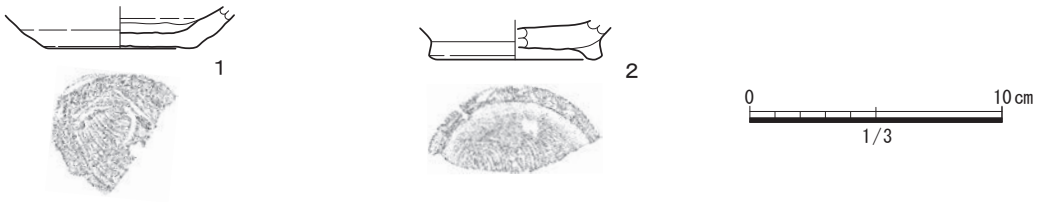
番号	器種	法量（残存値）	残存	石材	特徴	備考（出土層位等）
13	石製品砥石	長さ(15.8)cm、幅(13.1)cm、厚さ7.6cm 重さ(2,094.03g)	破片	ひん岩	形態：不明　　特徴：両面に擦痕	カマド南側床直
14	菰編石	長さ(8.2)cm、幅(4.7)cm、厚さ(2.6)cm 重さ(130.78g)	1/2	片岩	形態：楕円形	覆土

Ｈ－19 号住居跡（第 170・171 図、第 75 表、PL. 26・87・88）

位置：２区。Db-33･34 グリッド。**平面形態**：方形。**規模**：長軸〈2. 68〉、短軸〈1. 55〉ｍ、面積（2. 45）㎡。**主軸方位**：不明。**深度**：0. 42 ｍ。**カマド**：東壁に付設、調査区域外のため不明。**柱穴**：確認されていない。**壁周溝**：なし。**貯蔵穴・土坑**：確認されていない。**床面の状態**：概ね平坦である。**埋没状況**：覆土は５層に分層され、自然埋没と考えられる。**出土遺物**：遺物組成は土師器甕･坏、須恵器甕･坏･高台付坏（埦）、菰編石である。須恵器坏（１）・高台付坏（２）の底部は回転糸切りである。**時期**：出土遺物から９世紀代と考えられる。**備考**：住居南側の大半が調査区外。



第 170 図　Ｈ－19 号住居跡遺構図



第 171 図　Ｈ－19 号住居跡遺物実測図

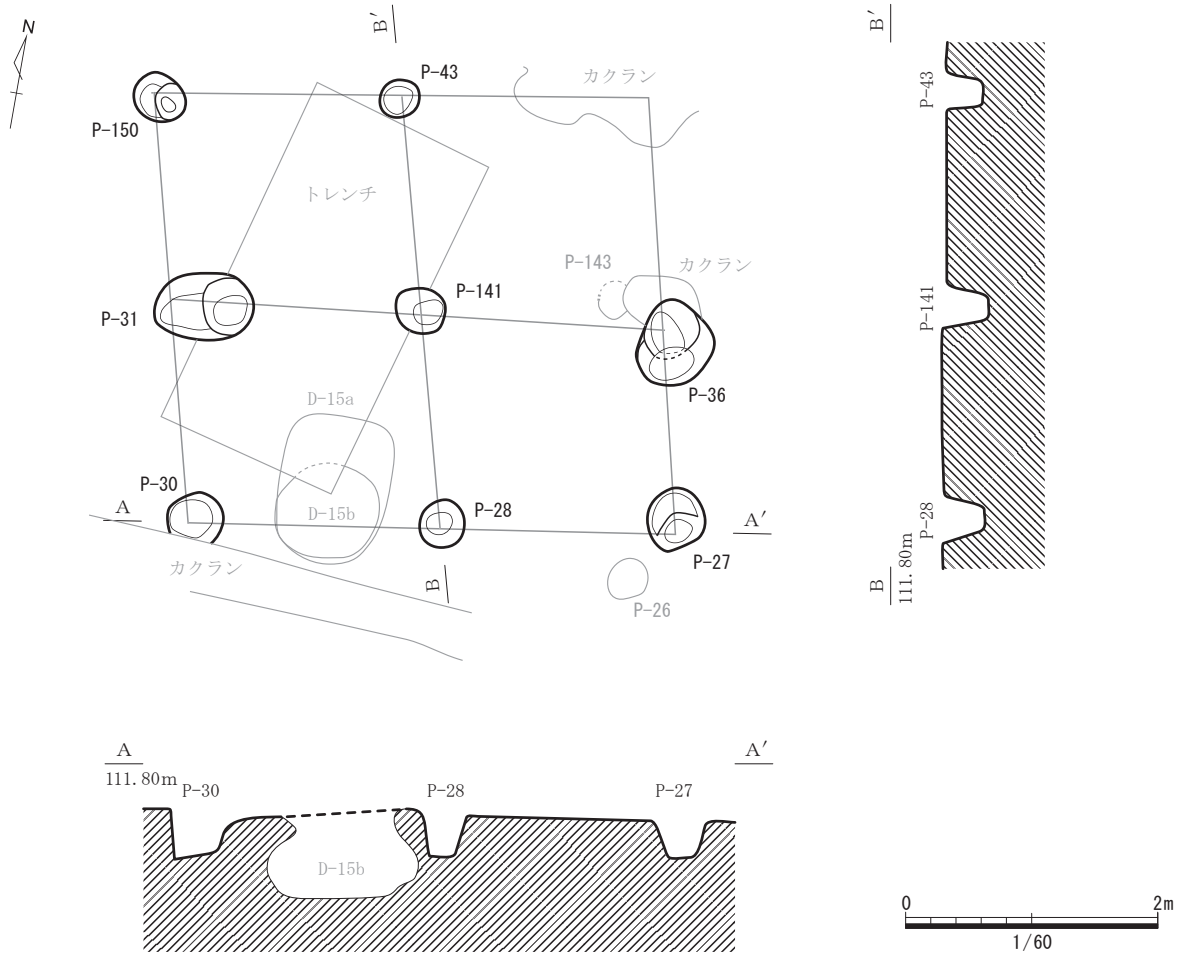
第 75 表　Ｈ－19 号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)（推定値）		残存	色調	胎土	焼成	成整形の特徴	備考（出土層位等）
1	須恵器坏	口径 底径 器高	－ (6. 1) (1. 6)	底部破片	外：灰白 7. 5YR7/1 内：灰白 7. 5YR7/1	石英・片岩	普通	ロクロ成形 外：体部回転横ヨコナデ、底部回転の糸切り後に周縁にヘラナデ 内：体部回転ヨコナデ	覆土
2	須恵器高台付坏	口径 底径 器高	(6. 7) (4. 1) (1. 6)	底部破片	外：灰白 8/0 内：灰白 8/0	石英	普通	ロクロ成形 外：回転ヨコナデ、底部回転糸切後に高台貼付 内：体部回転ヨコナデ	覆土
番号	**器種**	**法量（残存値）**				**残存**	**石材**	**特徴**	**備考（出土層位等）**
3	菰編石	長さ16. 8cm、幅7. 6cm、厚さ2. 6cm 重さ6. 45g				完形	片岩	形態：楕円形	北東隅床直

２．掘立柱建物跡

Ｂ－１号掘立柱建物跡（第 172 図）

位置：Db-38・39、Dc-38・39 グリッド。**平面形態**：2 × 2 間の総柱建物で、やや歪みがある。**重複**：なし。**規模**：南北 3.44 m、東西 3.87 mで、面積は 13.31 ㎡である。**主軸方位**：N -15° -W。**柱穴**：カクランにより 1 基を欠き、8 基を検出した（P -27・28・30・31・36・43・141・150）。柱穴の規模は第 76 ～ 79 表を参照。深さは 28 ～ 58 ㎝を測る。柱間距離は 1.64 ～ 1.95 mである。**遺物**：なし。**時期**：出土遺物がなく時期を特定できないが、西に位置する平安時代のＨ -19 号住居跡と方位が揃うため、平安時代の可能性を指摘できる。



第 172 図　Ｂ－１号掘立柱建物跡遺構図

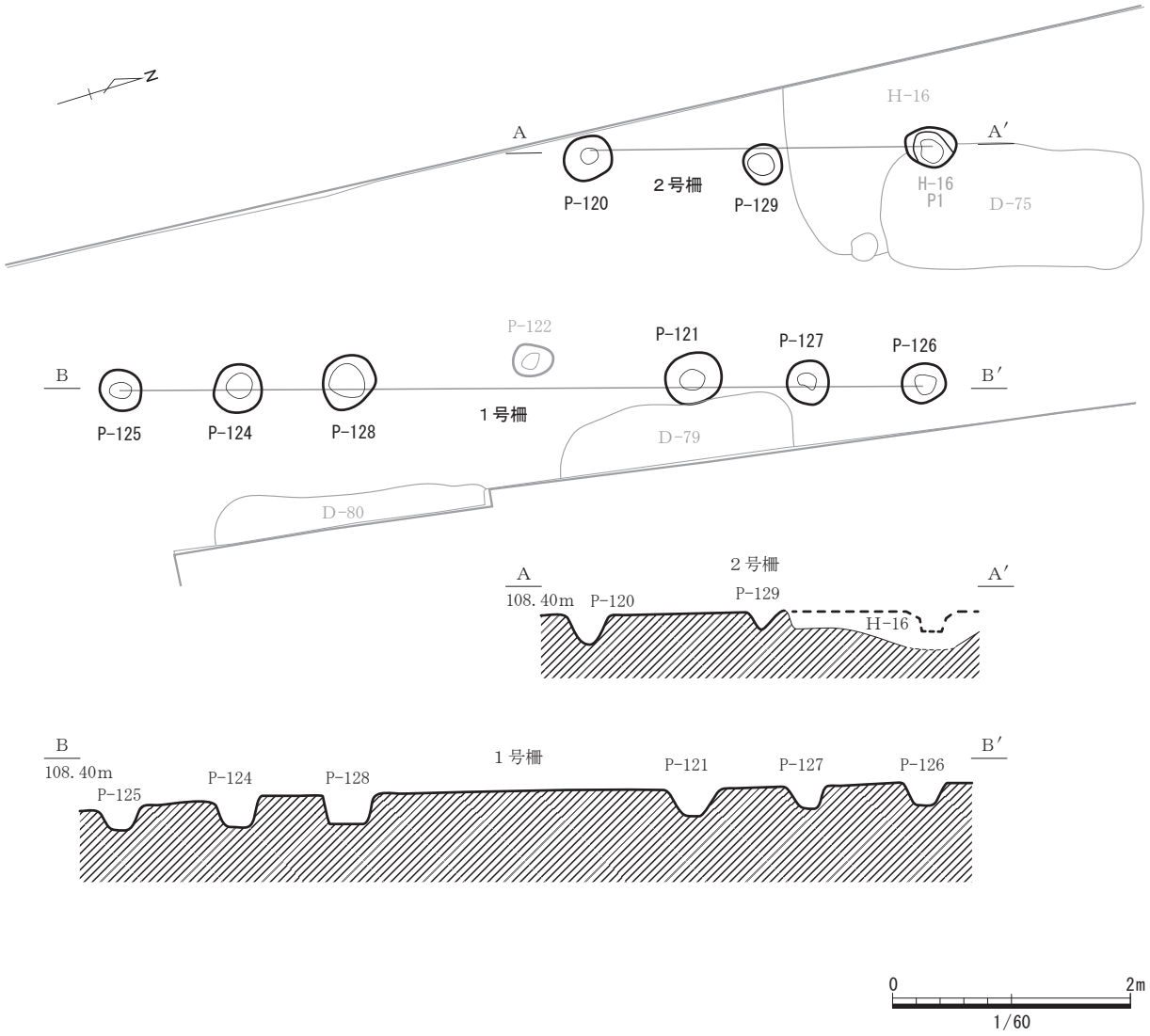
３．柵・ピット

１号柵（第 173 図）

位置：Ea-59、Eb-59、Ec-59　　グリッド。**平面形態**：南北に 6 基の柱穴が並ぶ（Ｐ -121・124 ～ 128）。中央部の柱間に距離があり、その部分で開口していたか、横にあるＰ -122 を伴って一続きになるかの可能性がある。**重複**：なし。**規模**：総長 6.76 ｍ。**主軸方位**：Ｎ -17°　- Ｅ。**柱穴**：柱穴の規模は第 78 表を参照。深さは 19 ～ 23 ㎝を測る。柱間距離は 94 ～ 99 ㎝である。**遺構埋没状態**：遺構検出の際にＰ -121 が As-A を含むことが確認されている。**遺物**：なし。**時期**：出土遺物はないが、As-A を含む柱穴があることから近世の可能性が高い。

２号柵（第 173 図）

位置：Ea-59、Eb-59 グリッド。**平面形態**：南北に 3 基の柱穴が並ぶ（Ｐ -120・129、Ｈ -16 のＰ１）。**重複**：Ｈ -16 号住居跡を切る。Ｄ -75 号土坑との新旧不明。**規模**：総長 2.86 ｍ。**主軸方位**：Ｎ -17°　- Ｅ。**柱穴**：柱穴の規模は第 78 表を参照。深さは 14 ～ 29 ㎝を測る。柱間距離は 1.40 ｍである。**遺構埋没状態**：遺構検出の際にＰ -120 が As-A を含むことが確認されている。**遺物**：なし。**時期**：出土遺物はないが、As-A を含む柱穴があることから近世の可能性が高い。**備考**：１号柵と同時期の可能性がある。



第 173 図　１号柵・２号柵遺構図

ピット（第 85 ～ 95 図、第76～79表）

ピットは 171 基を検出したが、時期決定が難しいため、便宜的に一括して取り扱い、下記の一覧表に示した。

第 76 表　ピット一覧表①

ピット番号	位置（グリッド）	形状	長径（cm）	短径（cm）	深さ（cm）	切り合い	出土遺物	備考
P-1	Cx-27	楕円形	49	36	63			
P-2	Cw-26	楕円形	39	32	38			
P-3	Cw-26	楕円形	35	30	74			
P-4	Cv-25	円形	28	25	89			
P-5	Cw-26	楕円形	34	27	39			
P-6	Cw-27	楕円形	35	29	31			
P-7	Cw-26 Cw-27	楕円形	55	44	29			
P-8	Cv-26	楕円形	45	37	78			
P-9	Cv-27	不整形	40	34	68			
P-10	Cx-28	楕円形	55	41	51			
P-11	Cw-28	楕円形	27	20	38	P-142 と重複		
P-12	Cw-27	楕円形	37	30	32			
P-13	Cv-27	不整形	28	27	26			
P-14	Cw-27	円形	37	34	34			
P-15	Cw-27	楕円形	28	24	24			
P-16	Cv-27	楕円形	30	24	51			
P-17	Cw-31	楕円形	35	28	26			
P-18	欠							
P-19	Da-32	円形ヵ	53	〈28〉	30			
P-20	Da-33	楕円形	54	45	30			
P-21	Cx-32 Cy-32	円形	75	70	82			
P-22	Cx-31 Cy-31	円形	34	32	22			
P-23	Cy-31 Cy-32	楕円形	35	30	63			
P-24	Da-35 Da-36	円形ヵ	61	〈37〉	7	H-3 と重複	土師器坏・甕	
P-25	Cy-36	楕円形	40	33	31		土師器甕	
P-26	Dc-39	円形	34	30	29		土師器甕	
P-27	Dc-39	円形	45	44	29			B-1 号掘立
P-28	Dc-39	円形	37	35	32			B-1 号掘立
P-29	欠							
P-30	Dc-38	円形ヵ	44	41	38			B-1 号掘立
P-31	Db-38	楕円形	78	52	41			B-1 号掘立
P-32	Dc-40	円形	42	39	21			
P-33	Dc-40	楕円形	35	28	18			
P-34	Db-40	楕円形	52	46	48			
P-35	Dc-39 Dc-40	円形	50	45	42			
P-36	Db-39	円形ヵ	64	57	58			B-1 号掘立
P-37	Db-39	不整形	57	48	44			
P-38	Db-40	楕円形	38	32	43			
P-39	Dc-40	円形	29	27	27			
P-40	Dc-41	楕円形ヵ	34	〈31〉	29			
P-41	Dc-41 Dd-41	不整形	39	35	43			
P-42	Dc-41	円形	34	31	42			

第 77 表　ピット一覧表②

ピット番号	位置（グリッド）	形状	長径（cm）	短径（cm）	深さ（cm）	切り合い	出土遺物	備考
P-43	Db-38 Db-39	円形	32	28	28			B-1 号掘立
P-44	Dc-42	円形	36	35	34			
P-45	Dd-43	不整形	32	19	34			
P-46	Dh-52	楕円形	51	42	48			
P-47	Dh-52	円形	23	21	32			
P-48	Dg-53	楕円形	53	38	38			
P-49	Dg-53 Dh-53	不整形	43	〈34〉	75	D-34、P-50 と重複		
P-50	Dg-53	不整形	32	29	55	P-49 と重複		
P-51	Dd-43	楕円形	21	18	31			
P-52	Dc-42 Dd-42	楕円形	40	31	35			
P-53	Dd-43	楕円形	30	27	42			
P-54	Dc-42	不整形	42	38	78			
P-55	Dd-43	楕円形	26	21	57			
P-56	Db-40	楕円形	41	34	45			
P-57	Dc-44 Dd-44	円形ヵ	52	〈47〉	58			
P-58	Db-36	楕円形	43	33	68	P-59 を切る		
P-59	Db-36	円形	37	34	30	P-58 に切られる		
P-60	Da-37 Db-37	楕円形	31	26	53			
P-61	Db-37 Db-38	楕円形	30	23	53			
P-62	Dd-45	楕円形	56	51	22			
P-63	Dd-44	楕円形	61	53	18			
P-64	De-44 De-45	楕円形	50	40	21			
P-65	欠							
P-66	De-45	円形	36	34	43			
P-67	De-45	楕円形	40	32	22			
P-68	Dd-45 De-45	不整形	45	36	26			
P-69	Dd-45 De-45	円形	47	45	14		土師器	
P-70	Dh-51	円形ヵ	38	〈18〉	33	P-71 を切る		
P-71	Dh-51	楕円形ヵ	33	〈25〉	61	D-17、P-70 に切られる		
P-72	Dh-54	不整形ヵ	〈59〉	48	18	D-36 と重複	土師器坏	
P-73	Di-54	楕円形ヵ	59	〈15〉	19		土師器甕	
P-74	Dg-53	円形	24	22	52			
P-75	Dg-49	楕円形	48	36	29			
P-76	Dg-50	円形	30	27	17			
P-77	Df-50	円形	33	31	43			
P-78	Df-50	楕円形	45	30	49			
P-79	Df-49 Dg-49	楕円形	42	30	39			
P-80	Dk-57	楕円形	53	39	63			
P-81	Dj-56	楕円形	43	31	58	P-82 と重複		
P-82	Dj-56	円形ヵ	34	〈19〉	42	P-81 と重複		
P-83	Dj-56	円形	29	23	33	M-2 と重複		
P-84	Dj-56	不整形	42	30	55	M-2 と重複		
P-85	Dk-57 Dk-58	不整形	52	45	57	P-86 に切られる		
P-86	Dk-57 Dk-58	円形ヵ	36	〈20〉	30	P-85 を切る		

第 78 表　ピット一覧表③

ピット番号	位置（グリッド）	形状	長径（cm）	短径（cm）	深さ（cm）	切り合い	出土遺物	備考
P-87	Di-54	楕円形	70	58	26	H-7 と重複		
P-88	Di-54	円形	49	44	55			
P-89	Dj-57	円形	31	30	34			
P-90	Dj-56	円形	40	37	28			
P-91	Dj-56 Dj-57	楕円形	60	38	72			
P-92	Dj-57	楕円形	52	31	54			
P-93	Dh-55	円形	44	40	47			
P-94	Dd-50	楕円形	52	46	21			
P-95	Dj-57	楕円形	40	34	42			
P-96	Dc-37	円形	81	69	23		土師器坏・甕	覆土に As-B を含む
P-97	Di-57	楕円形	56	42	61			
P-98	Di-56	楕円形	54	35	47			
P-99	Di-55	円形	36	32	39			
P-100	Di-57	楕円形	46	39	36			
P-101	Dg-51	楕円形	23	20	40			
P-102	Di-57 Di-58	楕円形	42	35	33	J-2 と重複		
P-103	Dj-58	不整形	42	35	36	J-2 と重複		
P-104	Di-55	楕円形	52	42	52	M-3 と重複		
P-105	Dh-55 Dh-56	円形ヵ	32	〈24〉	38			
P-106	Dk-59 Dk-60	円形ヵ	46	〈29〉	26			
P-107	De-45	円形	35	34	38			
P-108	Dk-60	楕円形ヵ	〈42〉	37	33			
P-109	Di-57	楕円形	35	28	34			
P-110	Dr-60 Dr-61	楕円形	81	60	32			
P-111	Dr-61	楕円形	49	39	－			
P-112	Dq-62	楕円形ヵ	〈43〉	30	41	P-113 と重複		
P-113	Dq-62	不整形	60	31	41	P-112 と重複		
P-114	Dq-61 Dq-62	楕円形	30	23	44			
P-115	Dq-62	不整形	40	34	62			
P-116	Dp-62 Dq-62	円形	41	38	43			
P-117	Dp-62	不整形	33	26	43			
P-118	Dp-62 Dq-62	楕円形	27	21	44			
P-119	Dp-62	円形	34	31	61			
P-120	Eb-59	円形	40	36	29			２号柵 覆土に As-A を含む
P-121	Eb-60	円形	47	41	23			１号柵 覆土に As-A を含む
P-122	Eb-59	楕円形	33	26	28			１号柵に関連 覆土に As-A を含む
P-123	Dp-61 Dp-62	楕円形	37	30	61			
P-124	Ec-59	円形	41	40	23			１号柵
P-125	Ec-59	円形	34	33	20			１号柵
P-126	Ea-60 Eb-60	円形	36	32	19			１号柵
P-127	Eb-60	円形	35	35	19			１号柵
P-128	Ec-59	楕円形	48	41	23			１号柵
P-129	Eb-59	円形	33	31	14			２号柵
P-130	Ef-59	円形	41	35	43			
P-131	Ds-61	円形ヵ	(32)	28	38	D-65 と重複		

第 79 表　ピット一覧表④

ピット番号	位置（グリッド）	形状	長径（cm）	短径（cm）	深さ（cm）	切り合い	出土遺物	備考
P-132	Do-61 Do-62	楕円形	40	34	53	H-13 と重複		
P-133	欠							
P-134	Dx-60	不整形	45	30	38	D-77 と重複		
P-135	Dx-60	楕円形	102	70	139	D-77 を切る、D-78 に切られる	土師器甕	
P-136	Dx-60	円形	33	30	19			
P-137	欠							
P-138	Dy-60	楕円形	47	40	41	P-139 と重複	土師器甕	
P-139	Dx-60 Dy-60	円形ヵ	37	〈23〉	39	D-78、P-138 と重複		
P-140	Cw-28	楕円形	55	39	19			
P-141	Db-39	円形	40	36	36			B-1 号掘立
P-142	Cw-28	円形ヵ	26	〈22〉	36	P11 と重複	土師器甕	
P-143	Db-39	円形	(28)	(26)	16			
P-144	De-46	円形	43	43	7			
P-145	De-48	楕円形	50	42	8			
P-146	Dd-47 De-47	円形ヵ	43	〈36〉	27			
P-147	De-46	円形	40	38	11			
P-148	Dd-46 Dd-47	楕円形	24	21	54			
P-149	Cx-31	楕円形	41	28	58			
P-150	Db-38	円形	42	35	29			B-1 号掘立
P-151～243	欠							
P-244	Cu-20	楕円形	41	26	72			
P-245	Cu-21	楕円形	57	36	29			
P-246	Cu-21	円形	41	31	36			
P-247	Cu-21	円形	30	28	11			
P-248	Cu-21	楕円形	31	20	20			
P-249	Cu-21	楕円形	52	26	28	P-250 に切られる		
P-250	Cu-21	不整形	38	26	43	P-249 を切る		
P-251	Cu-21	不整形	23	17	32			
P-252	Cu-21	不整形	22	20	38			
P-253	Cu-21	円形	41	31	33	P270 と重複		
P-254	Cu-21	不整形	36	20	23			
P-255	Cu-21	楕円形	29	23	40			
P-256	Cu-21	不整形	36	34	50			
P-257･258	欠							
P-259	Cu-21	円形ヵ	33	32	26			
P-260	Cu-21	楕円形	37	22	55			
P-261	Cu-21	円形	28	25	54			
P-262	Cu-21	円形	21	18	28			
P-263	Cu-21 Cu-22	円形	23	21	38			
P-264	Cu-21 Cu-22	円形ヵ	24	18	32	P265 と重複		
P-265	Cu-21 Cu-22	不整形	31	26	42	P264 と重複		
P-266	Cu-22	不整形	25	17	39	SU-1 と重複		
P-267	Cu-22 Cu-23	楕円形	30	22	31	SU-1 を切る		
P-268	Cu-23	円形	27	24	33	SU-1 を切る		
P-269	Cu-23	円形	21	20	26	SU-1 を切る		
P-270	Cu-21	円形	26	21	37	P253 と重複		
P-271	Cu-23 Cv-23	円形	33	28	38	SU-1 を切る		

４．土　坑

土坑の出土遺物は細片が多く、形状による時期決定も難しいため、ここでは古墳時代の可能性もある土坑を含め、平安時代や中近世及び時期不明の土坑を掲載する。なおＤ－６号土坑は井戸跡として掲載してある。

Ｄ－１号土坑（第 174 図）

位置：Cx-28 グリッド。**平面形態**：隅丸長方形。**重複**：Ｈ－１号住居跡との新旧不明。**規模**：長軸 1.45 m以上、短軸 0.70 m。**深度**:24 ㎝。**主軸方位**:Ｎ -5°- W。**覆土**:ロームブロックを含む黄褐色土などが堆積する。**出土遺物**:縄文土器、土師器坏片 2 点。**時期**：出土した土師器は 7 世紀以降のものである。

Ｄ－３号土坑（第 174 図）

位置：Cx-30、Cy30 グリッド。**平面形態**：隅丸長方形。**重複**：なし。**規模**：長軸 1.88 m、短軸 0.86 m。**深度**：38 ㎝。**主軸方位**：Ｎ -1°- Ｅ。**覆土**：ロームブロックを含む褐色土ないし暗褐色土が堆積する。**出土遺物**：縄文土器、土師器杯・甕片 8 点。**時期**：出土した土師器は 7 世紀以降のものである。

Ｄ－４号土坑（第 174 図）

位置:Cy-31 グリッド。**平面形態**:隅丸長方形。**重複**:Ｄ－５号土坑に切られる。**規模**:長軸 1.48 m、短軸 1.21 m。**深度**：47 ㎝。**主軸方位**：Ｎ -2°- W。**覆土**：ロームブロックを含む褐色土ないし暗褐色土が堆積する。**出土遺物**：縄文土器、石器、土師器坏・甕片 10 点。**時期**：出土した土師器は 7 世紀代以降である。

Ｄ－５号土坑（第 174 図）

位置：Cy-31 グリッド。**平面形態**：隅丸長方形。**重複**：Ｄ－４号土坑を切る。**規模**：長軸 2.19 m、短軸 0.75 m。**深度**：56 ㎝。**主軸方位**：Ｎ -5°- W。**覆土**：ロームブロックを含む褐色土ないし暗褐色土が堆積する。**出土遺物**：縄文土器、石器、土師器坏・甕片 16 点。**時期**：出土した土師器は 6 ～ 7 世紀代のものである。

Ｄ－７号土坑（第 175 図）

位置：Cx-32、Cy-32 グリッド。**平面形態**：隅丸長方形。**重複**：なし。**規模**：長軸 1.08 m、短軸 0.51 m。**深度**：42 ㎝。**主軸方位**：Ｎ -7°- W。**出土遺物**：なし。**時期**：不明。

Ｄ－８号土坑（第 175 図）

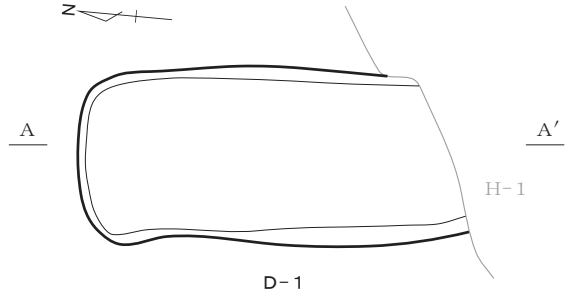
位置：Cx-31 グリッド。**平面形態**：隅丸長方形。**規模**：長軸 1.60 m、短軸 0.63 m。**深度**：35 ㎝。**主軸方位**：Ｎ -1°- Ｅ。**覆土**：ロームブロックを含む褐色土ないし黄褐色土が堆積する。**出土遺物**：なし。**時期**：不明

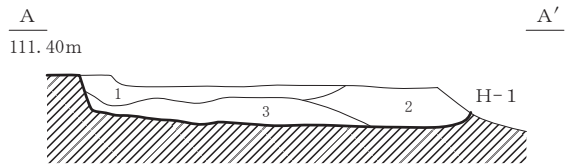
Ｄ－９号土坑（第 175 図）

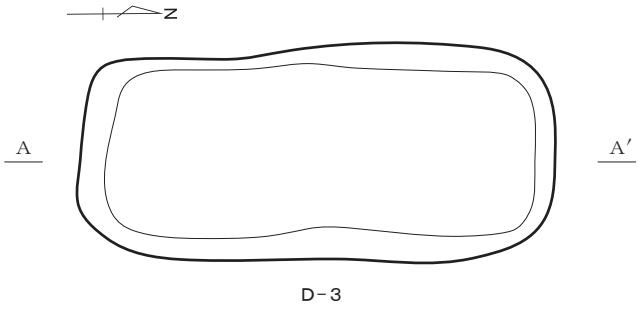
位置：Cy-33 グリッド。**平面形態**：隅丸長方形。**重複**：なし。**規模**：長軸 1.30 m、短軸 0.63 m。**深度**：44 ㎝。**主軸方位**：Ｎ -66°- Ｅ。**覆土**：ロームブロックを含む暗褐色土が主体である。**出土遺物**：土師器坏・甕片 2 点。**時期**：出土した土師器は 7 ～ 8 世紀代のものである。

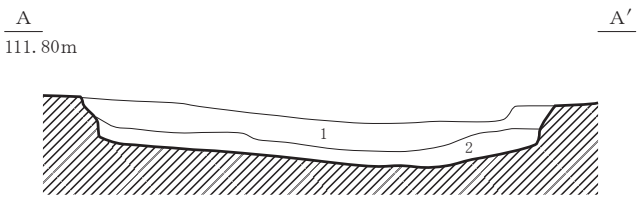
Ｄ -13 号土坑（第 175 図）

位置：Cx-30 グリッド。**平面形態**：隅丸長方形。**重複**：なし。**規模**：長軸 1.95 m、短軸 1.34 m。**深度**：38 ㎝。



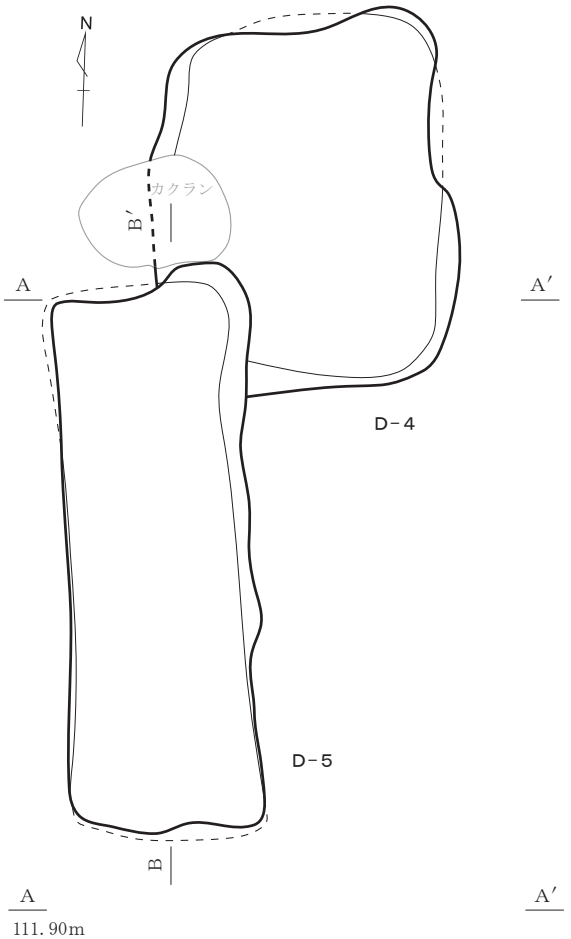


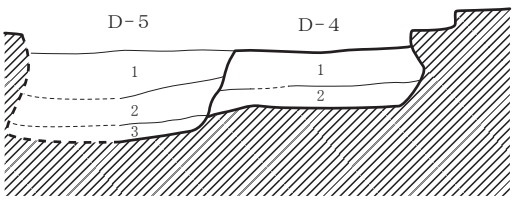


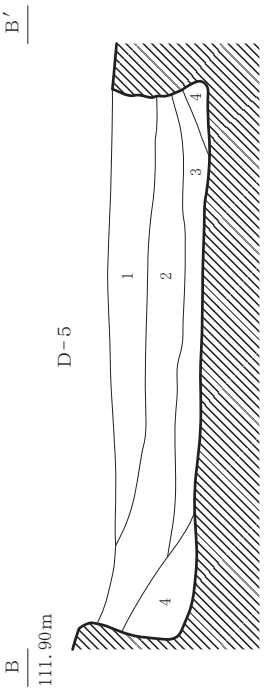


D-１土層注記
1　褐灰色土　締りあり　粘性ややあり　ローム粒子少量
2　黄褐色土　締りあり　粘性ややあり　ロームブロックφ1.0～3.0cm 中量
3　褐色土　　締りあり　粘性あり　ローム粒子少量

D-３土層注記
1　暗褐色土　締りあり　粘性弱　ロームブロックφ0.5～0.8cm 少量
2　褐色土　　締りあり　粘性弱　ロームブロックφ1.0～2.0cm 中量

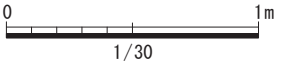




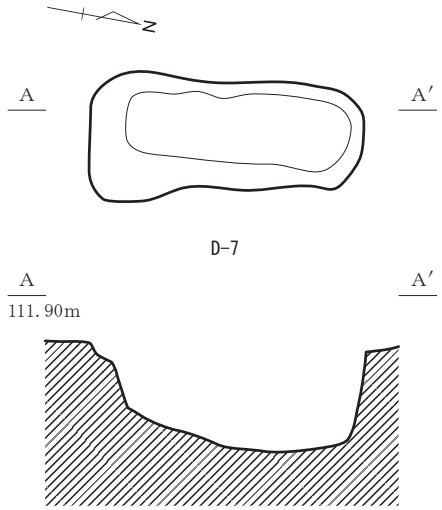


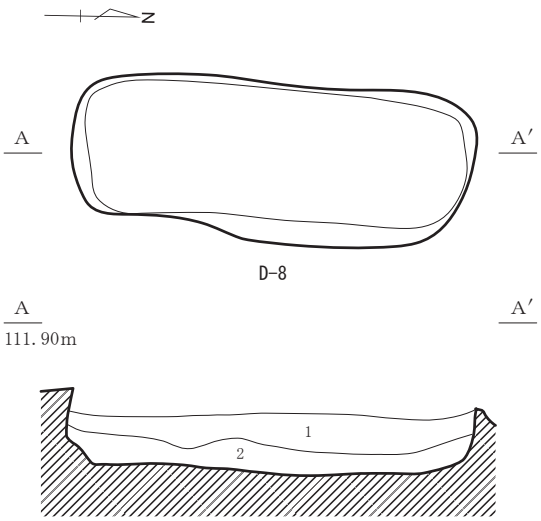
D-４土層注記
1　暗褐色土　締りあり　粘性弱　ロームブロックφ3.0～5.0cm 多量
2　褐色土　　締りあり　粘性弱　ロームブロックφ1.0～2.0cm 中量

D-５土層注記
1　暗褐色土　締りあり　粘性弱　ロームブロックφ1.0～3.0cm 中量
2　褐色土　　締りあり　粘性弱　ロームブロックφ1.0～2.0cm 多量
3　褐色土　　締りあり　粘性弱　ロームブロックφ2.0～4.0cm 中量
　　ローム粒子多量
4　褐色土　　締りあり　粘性弱　ロームブロックφ1.0～2.0cm 中量

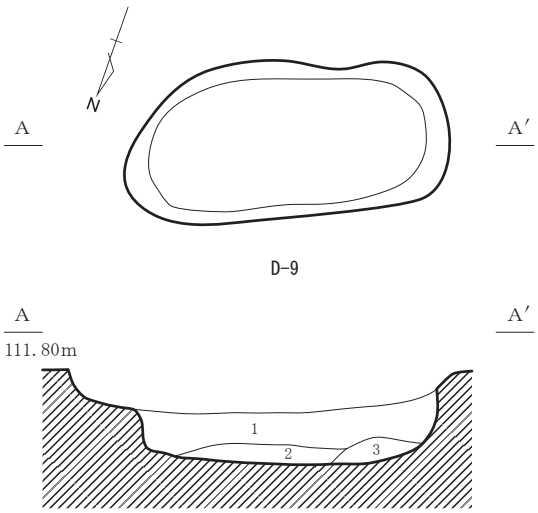


第 174 図　Ｄ－１・３・４・５号土坑遺構図

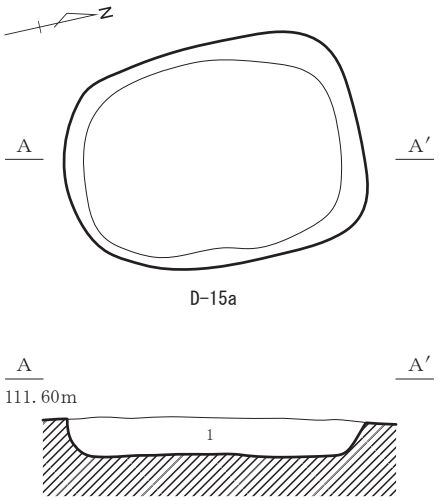




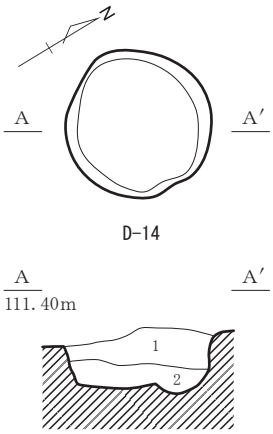
D-８土層注記
1　黄褐色土　締りあり　粘性弱　ロームブロックφ2.0～5.0cm少量
2　褐色土　　締りあり　粘性弱　ロームブロックφ1.0～2.0cm中量



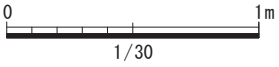
D-９土層注記
1　暗褐色土　締りあり　粘性弱　ロームブロックφ1.0～2.0cm多量
2　黒褐色土　締りあり　粘性弱　ロームブロックφ5.0～10.0cm少量
3　褐色土　　締りあり　粘性弱　ロームブロックφ0.5～0.8cm中量



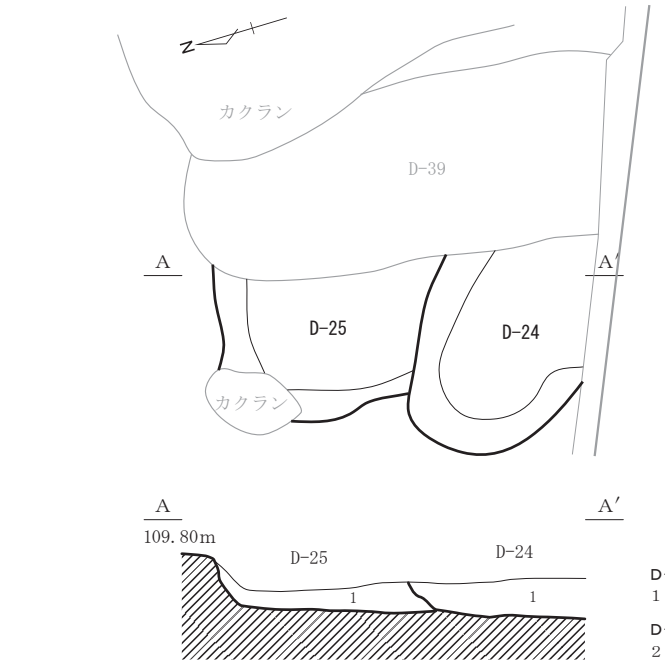
D-15a 土層注記
1　暗褐色土　締りあり　粘性ややあり　ロームブロックφ1.0～2.0cm少量



D-14 土層注記
1　黒褐色土　締りあり　粘性弱　ローム粒子微量
2　褐色土　　締りあり　粘性弱　ローム粒子少量

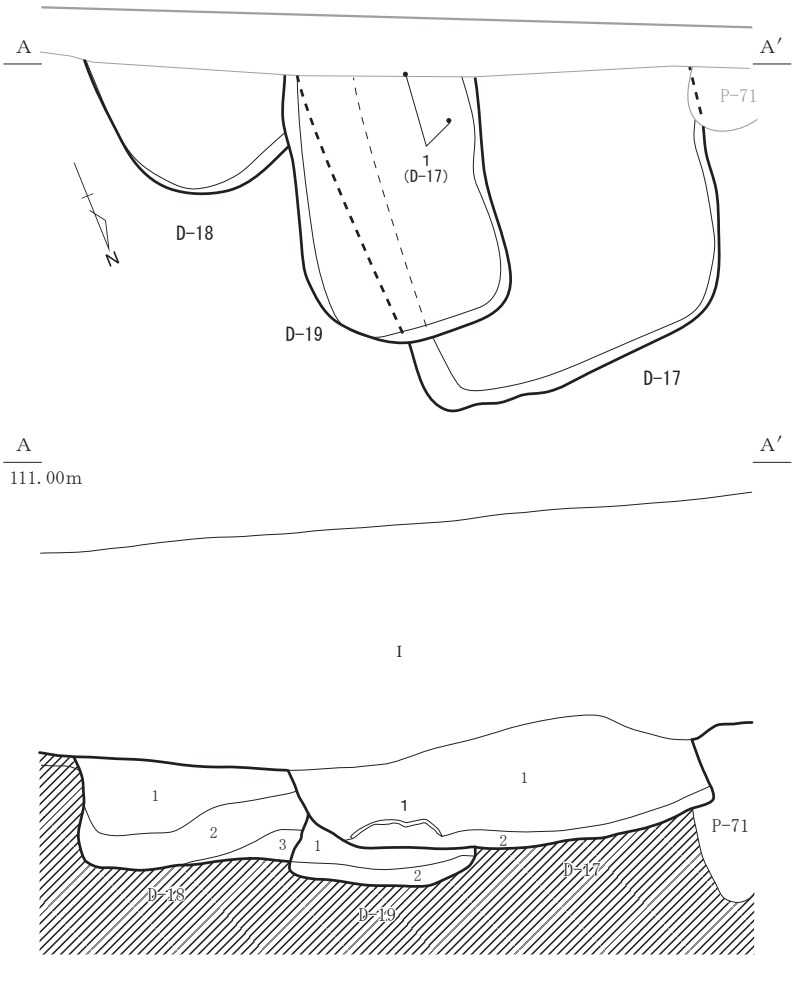


第175図　Ｄ－７・８・９・14・15a号土坑遺構図



D-24 土層注記
1　暗褐色土　締りあり　粘性ややあり　ロームブロックφ2.0～3.0cm 中量

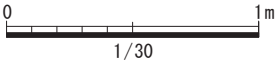
D-25 土層注記
2　暗褐色土　締りあり　粘性ややあり　ロームブロックφ1.0～3.0cm 多量



D-17 土層注記
1　灰色土　　締り弱　粘性なし　As-A
2　暗褐色土　締りあり　粘性ややあり
　　ソフトローム粒中量

D-18 土層注記
1　暗褐色土　締りあり　粘性ややあり
　　ロームブロックφ1.0～2.0cm 少量
2　暗褐色土　締りあり　粘性ややあり
　　ロームブロックφ1.0～3.0cm 中量
3　暗褐色土　締りあり　粘性ややあり
　　ソフトローム粒子多量

D-19 土層注記
1　褐色土　　締りあり　粘性ややあり
　　ロームブロックφ0.5～0.8cm 多量
2　褐色土　　締りあり　粘性ややあり
　　ロームブロックφ0.5～0.8cm 中量



第 176 図　D -17・18・19・24・25 号土坑遺構図

主軸方位：Ｎ－57°－Ｅ。**覆土**：地山に近い土で埋め戻されている。**出土遺物**：なし。**時期**：不明。

Ｄ－14 号土坑（第 175 図）

位置：Db-39 グリッド。**平面形態**：円形。**重複**：なし。**規模**：径 0.58 ｍ。**深度**：37 ㎝。**覆土**：ローム粒を含む褐色土ないし黒褐色土が堆積する。**出土遺物**：土師器甕片 1 点。**時期**：不明。

Ｄ－15a 号土坑（第 175 図）

位置：Dc-38・39 グリッド。**平面形態**：隅丸長方形。**重複**：Ｄ－15b 号土坑を切る。**規模**：長軸 1.17 ｍ、短軸 0.86 ｍ。**深度**：28 ㎝。**主軸方位**：Ｎ－0°－Ｅ。**覆土**：ロームブロックを含む暗褐色土の単層である。**出土遺物**：石器、土師器甕片 1 点。**時期**：出土した土師器は 8 世紀代のものである。

Ｄ－17 号土坑（第 176・185 図、第 80 表、PL.89）

位置：Dh-51・52 グリッド。**平面形態**：隅丸長方形。**重複**：Ｄ－18・19 号土坑、Ｐ－71 号ピットを切る。**規模**：長軸 1.23 ｍ以上、短軸 1.28 ｍ。**深度**：40 ㎝。**主軸方位**：Ｎ－11°－Ｅ。**覆土**：As-A を含む灰色土が堆積する。**出土遺物**：陶器の鍋（1）、薦編石 1 点が出土した。**時期**：近代。

Ｄ－18 号土坑（第 176 図）

位置：Dh-52、Di-52 グリッド。**平面形態**：隅丸長方形か。**重複**：Ｄ－17・19 号土坑に切られる。**規模**：長軸 0.74 ｍ以上、短軸 0.49 ｍ以上。**深度**：42 ㎝。**主軸方位**：Ｎ－4°－Ｗ。**覆土**：ロームブロックを含む暗褐色土が堆積する。**出土遺物**：なし。**時期**：不明

Ｄ－19 号土坑（第 176 図）

位置：Dh-52、Di-52 グリッド。**平面形態**：隅丸長方形。**重複**：Ｄ－17 号土坑に切られ、Ｄ－18 号土坑を切る。**規模**：長軸 1.05 ｍ以上、短軸 0.75 ｍ。**深度**：46 ㎝。**主軸方位**：Ｎ－14°－Ｅ。**覆土**：ロームブロックを含む褐色土が堆積する。**出土遺物**：なし。**時期**：不明

Ｄ－24 号土坑（第 176 図）

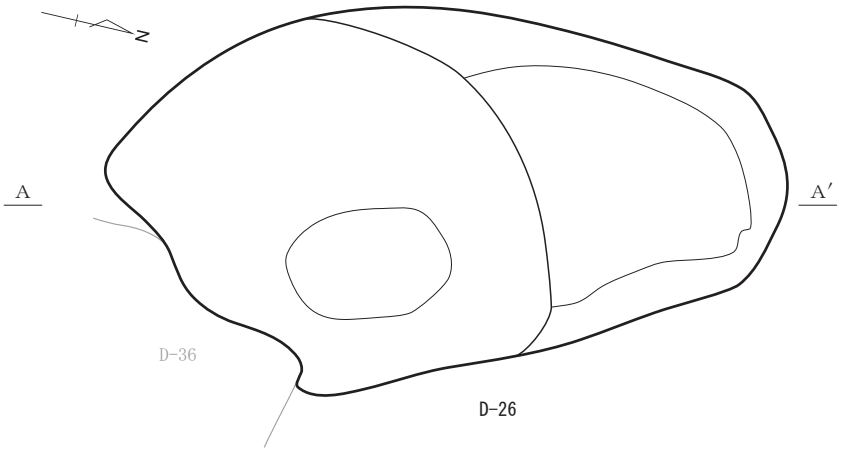
位置：Di-52・53 グリッド。**平面形態**：楕円形か。**重複**：Ｄ－25 号土坑を切る。Ｄ－39 号土坑との新旧不明。**規模**：長軸 1.02 ｍ以上、短軸 0.71 ｍ。**深度**：23 ㎝。**主軸方位**：Ｎ－37°－Ｗ。**覆土**：ロームブロックを含む暗褐色土の単層である。**出土遺物**：土師器甕片 3 点。**時期**：出土した土師器は 6 世紀後半～ 7 世紀のものである。

Ｄ－25 号土坑（第 176 図）

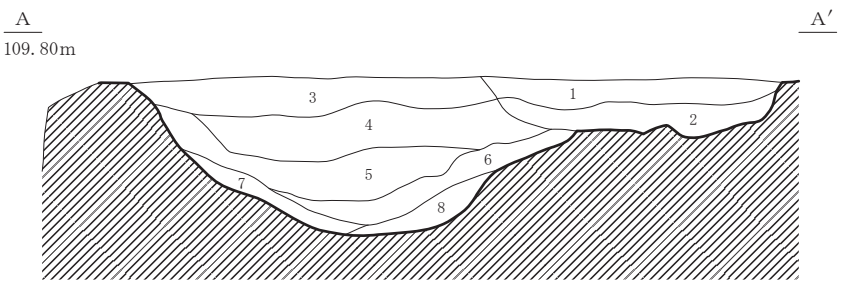
位置：Di-53 グリッド。**平面形態**：隅丸長方形か。**重複**：Ｄ－24 号土坑に切られる。Ｄ－39 号土坑との新旧不明。**規模**：長軸 0.90 ｍ以上、短軸 0.75 ｍ以上。**深度**：27 ㎝。**主軸方位**：Ｎ－7°－Ｅ。**覆土**：ロームブロックを含む暗褐色土の単層である。**出土遺物**：土師器甕片 2 点。**時期**：不明。

Ｄ－26 号土坑（第 177 図）

位置：Dg-53・54、Dh-53 グリッド。**平面形態**：楕円形だが、2 基の土坑の重複の可能性がある。**重複**：Ｄ－36 号

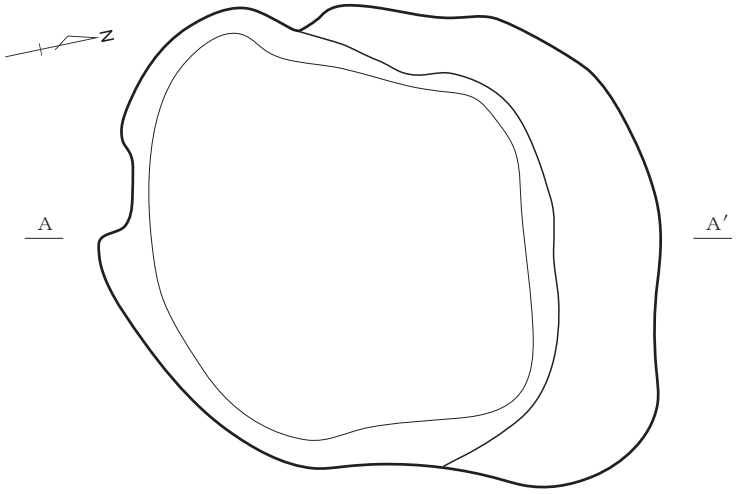


D-26

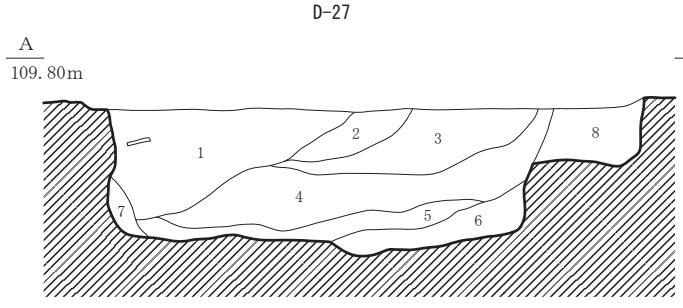


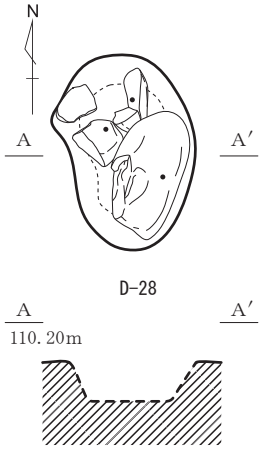
D-26 土層注記

1　褐色土　　締りあり　粘性弱
　　ソフトローム粒子中量
2　褐色土　　締りあり　粘性弱
　　ソフトローム粒子多量
3　暗褐色土　締りあり　粘性ややあり
　　ソフトローム粒子微量
4　暗褐色土　締りあり　粘性ややあり
　　ソフトローム粒少量
5　暗褐色土　締りあり　粘性ややあり
　　ソフトローム粒中量
6　暗褐色土　締りあり　粘性ややあり
　　ロームブロックφ3.0～5.0cm 中量
　　ソフトローム粒子中量
7　黄褐色土　締り強　粘性ややあり
　　ロームブロックφ5.0～8.0cm 少量
8　暗褐色土　締りあり　粘性ややあり
　　ロームブロックφ3.0～5.0cm 中量



D-27

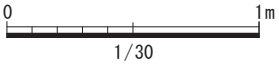




D-28

D-27 土層注記

1　暗褐色土　締りあり　粘性ややあり　As-A 少量
　　ソフトローム粒子中量
2　褐灰色土　締りなし　粘性ややなし　As-A 中量
3　褐灰色土　締りなし　粘性ややなし　As-A 多量
4　褐灰色土　締りなし　粘性ややなし　As-A 中量
5　暗褐色土　締りあり　粘性ややあり　As-A 多量
　　褐色土粒子中量
6　暗褐色土　締りあり　粘性ややあり　As-A 多量
　　ソフトローム粒子中量
7　黄褐色土　締りあり　粘性弱　As-B 中量



第 177 図　D -26・27・28 号土坑遺構図

土坑との新旧不明。**規模**：長軸 2.71 m、短軸 1.51 m。**深度**：73 ㎝。**主軸方位**：Ｎ -20°- Ｗ。**覆土**：暗褐色土を主体とするが、北側の 1･2 層の褐色土は別土坑の可能性がある。**出土遺物**:縄文土器、石器、須恵器壺片 1 点。**時期**：出土した須恵器は奈良平安時代のものである。

Ｄ -27 号土坑（第 177 図）

位置:Dh-54､Di-54 グリッド。**平面形態**:不整円形。**重複**:Ｄ -38 号土坑との新旧不明。**規模**:長軸 2.44 m､短軸 2.01 m。**深度**：66 ㎝。**主軸方位**：Ｎ -26°- Ｅ。**覆土**：As-A を含み、下層に一部に As-B が含まれる。**出土遺物**：縄文土器、土師器甕片 2 点。**時期**：出土した土師器は 7 世紀代のものであるが、As-A の存在から近世以降である。

Ｄ -28 号土坑（第 177 図）

位置：Df-49 グリッド。**平面形態**：不整楕円形。**重複**：Ｈ - ４号住居跡と重複し、本遺構が古い。**規模**：長軸 78 ㎝、短軸 52 ㎝。**深度**：(33 ㎝)。**主軸方位**：Ｎ -13°- Ｗ。**出土遺物**：縄文土器片 1 点、礫。**時期**：不明。

Ｄ -29 号土坑（第 178 図）

位置：Dg-50、Dh-50 グリッド。**平面形態**：隅丸長方形。**重複**：Ｈ - ６号住居跡を切る。Ｄ -30 号土坑との新旧不明。**規模**：長軸 2.04 m以上、短軸 0.80 m。**深度**：50 ㎝。**主軸方位**：Ｎ -13°- Ｅ。**覆土**：黒褐色土を主体とし、下層にはロームブロックが含まれる。**出土遺物**：縄文土器、土師器甕片 3 点。**時期**：出土した土師器は 6 ～ 7 世紀のものである。

Ｄ -30 号土坑（第 178 図）

位置：Dg-50 グリッド。**平面形態**：隅丸長方形。**重複**：Ｄ -29・32 号土坑との新旧不明。**規模**：長軸 1.13 m以上、短軸 0.75 m。**深度**：23 ㎝。**主軸方位**：Ｎ -22°- Ｅ。**覆土**：-。**出土遺物**：なし。**時期**：不明。

Ｄ -31 号土坑（第 178 図）

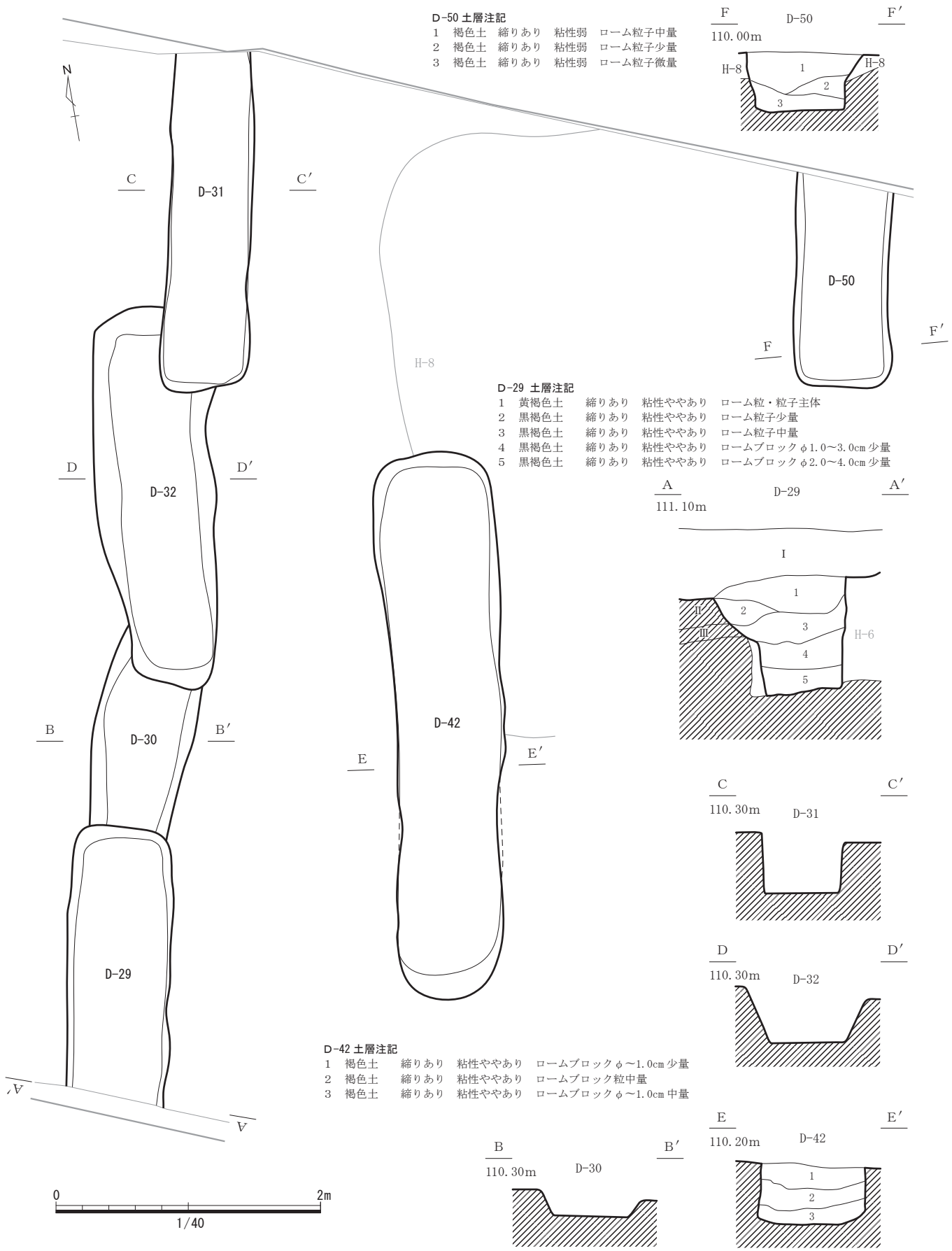
位置：Df-50・51 グリッド。**平面形態**：隅丸長方形。**重複**：Ｄ -32 号土坑との新旧不明。**規模**：長軸 2.54 m以上、短軸 0.64 m。**深度**：51 ㎝。**主軸方位**：Ｎ -14°- Ｅ。**覆土**：-。**出土遺物**：縄文土器、土師器甕片 2 点。**時期**：出土した土師器は 7 世紀代のものである。

Ｄ -32 号土坑（第 178 図）

位置：Df-50、Dg-50 グリッド。**平面形態**：隅丸長方形。**重複**：Ｄ -30・31 号土坑との新旧不明。**規模**：長軸 2.89 m、短軸 0.91 m。**深度**：49 ㎝。**主軸方位**：Ｎ -5°- Ｅ。**覆土**：-。**出土遺物**：なし。**時期**：不明。

Ｄ -33 号土坑（第 179 図）

位置:Dg-52･53､Dh-52･53 グリッド。**平面形態**:隅丸長方形。**重複**:Ｄ -34 号土坑との新旧不明。**規模**:長軸 3.80 m、短軸 0.93 m。**深度**：34 ㎝。**主軸方位**：Ｎ -18°- Ｅ。**覆土**：-。**出土遺物**：縄文土器、石器、土師器坏・甕片 10 点、須恵器坏・甕片 4 点、羽釜片 1 点。**時期**：出土した土師器は 7 世紀後半のものだが、羽釜があることから 10 世紀以降である。



第178図　D-29・30・31・32・42・50号土坑遺構図

Ｄ -34 号土坑（第 179 図）

位置：Dg-53、Dh-52・53 グリッド。**平面形態**：隅丸長方形。**重複**：Ｄ -33 号土坑との新旧不明。**規模**：長軸 2.51 m、短軸 0.81 m。**深度**：43 ㎝。**主軸方位**：Ｎ -9°- Ｅ。**覆土**：-。**出土遺物**：縄文土器、石器、土師器坏・甕 7 点、羽釜 1 点。**時期**：出土した土師器は 7 ～ 8 世紀代であるが、羽釜があることから 10 世紀以降である。

Ｄ -35 号土坑（第 179 図）

位置：Dh-53 グリッド。**平面形態**：隅丸長方形か。**重複**：なし。**規模**：長軸 1.92 m以上、短軸 0.88 m。**深度**：37 ㎝。**主軸方位**：Ｎ -16°- Ｅ。**覆土**：-。**出土遺物**：なし。**時期**：不明。

Ｄ -36 号土坑（第 179 図）

位置：Dg-53・54、Dh-53・54 グリッド。**平面形態**：隅丸長方形。**重複**：Ｄ -26 号土坑、Ｐ -72 号ピットとの新旧不明。**規模**：長軸 3.89 m、短軸 1.00 m。**深度**：40 ㎝。**主軸方位**：Ｎ -8°- Ｅ。**覆土**：-。**出土遺物**：なし。**時期**：不明。

Ｄ -37 号土坑（第 180・185 図、第 81 表、PL.89）

位置：Di-54、Dj-54 グリッド。**平面形態**：隅丸長方形。**重複**：Ｈ -7 号住居跡との新旧不明。**規模**：長軸 1.19 m、短軸 0.89 m。**深度**：39 ㎝。**主軸方位**：Ｎ -65°- Ｗ。**覆土**：-。**出土遺物**：縄文土器、土師器甕片 5 点、焙烙片 3 点、陶器碗片 1 点。**時期**：出土した土師器は 7 世紀代であるが、焙烙（1）や陶器は近代のものである。

Ｄ -38 号土坑（第 179 図）

位置：Di-53・54 グリッド。**平面形態**：隅丸長方形か。**重複**：Ｄ -27 号土坑との新旧不明。**規模**：長軸 1.88 m以上、短軸 0.85 m。**深度**：39 ㎝。**主軸方位**：Ｎ -15°- Ｅ。**覆土**：-。**出土遺物**：なし。**時期**：不明。

Ｄ -39 号土坑（第 179 図）

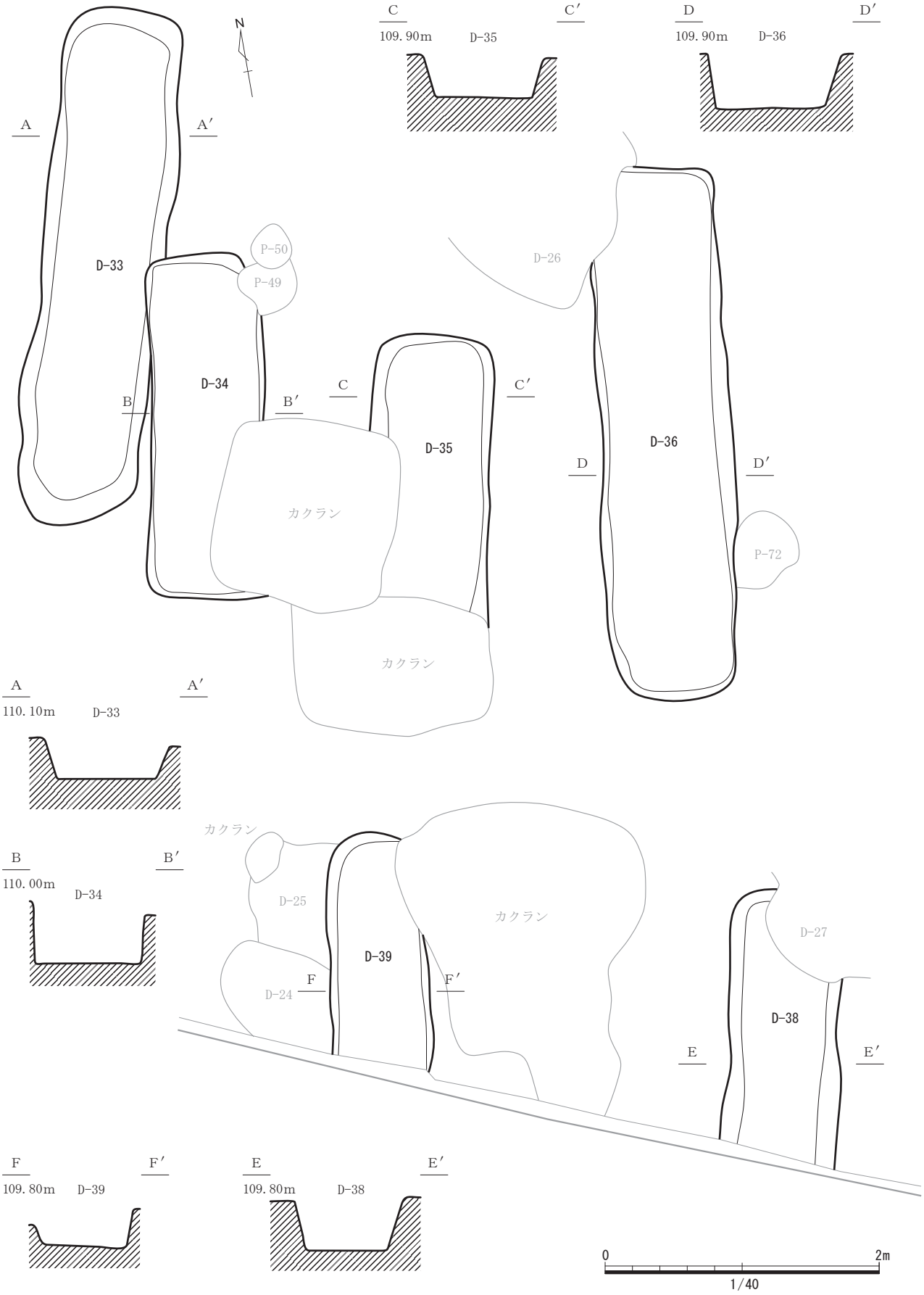
位置：Di-53 グリッド。**平面形態**：隅丸長方形か。**重複**：Ｄ -24・25 号土坑との新旧不明。**規模**：長軸 1.68 m以上、短軸 0.72 m。**深度**：42 ㎝。**主軸方位**：Ｎ -11°- Ｅ。**覆土**：-。**出土遺物**：なし。**時期**：不明。

Ｄ -40 号土坑（第 180 図）

位置：Dk-58 グリッド。**平面形態**：楕円形。**重複**：なし。**規模**：長軸 1.16 m、短軸 0.94 m。深度：72 ㎝。**主軸方位**：Ｎ -34°- Ｗ。**覆土**：As-B を含む褐灰色土を主体とする。**出土遺物**：なし。**時期**：As-B を含むことから中世の可能性が高い。

Ｄ -41 号土坑（第 180 図）

位置：Di-56、Dj-56 グリッド。**平面形態**：不整円形。**重複**：Ｍ - 2 号溝に切られる。**規模**：長軸 2.00 m、短軸 1.76 m。**深度**：45 ㎝。**覆土**：褐色土の単層である。**出土遺物**：土師器坏・甕片 2 点。**時期**：出土した土師器は 7 ～ 8 世紀代のものである。



第 179 図　Ｄ -33・34・35・36・38・39 号土坑遺構図

Ｄ－42 号土坑（第 178 図）

位置：Dg-51、Dh-51 グリッド。**平面形態**：隅丸長方形。**重複**：Ｈ－８号住居跡との新旧不明。**規模**：長軸 4.14 ｍ、短軸 0.93 ｍ。**深度**：52 ㎝。**主軸方位**：Ｎ－9°－Ｅ。**覆土**：ロームブロックを含む褐色土を主体とする。**出土遺物**：縄文土器、土師器坏・甕片 28 点、須恵器埦・甕片 4 点、円筒埴輪片（遺構外 5）1 点。**時期**：出土した土師器は 7 ～ 9 世紀代、須恵器は 9 世紀代のものである。

Ｄ－44 号土坑（第 181 図）

位置：Di-59、Dj-58・59 グリッド。**平面形態**：隅丸長方形。**重複**：Ｈ－９号住居跡を切る。**規模**：長軸 3.86 ｍ、短軸 0.90 ｍ。**深度**：57 ㎝。**主軸方位**：Ｎ－21°－Ｅ。**覆土**：暗褐色土を主体とし、下層にはロームブロックが含まれる。**出土遺物**：なし。**時期**：不明。

Ｄ－45 号土坑（第 181 図）

位置：Dk-58、Dl-58 グリッド。**平面形態**：隅丸長方形か。**重複**：Ｄ－51 号土坑を切り、Ｄ－46 号土坑に切られる。**規模**：長軸 3.53 ｍ以上、短軸 0.86 ｍ。**深度**：31 ㎝。**主軸方位**：Ｎ－14°－Ｅ。**覆土**：As-B を大量に含む褐灰色土が堆積する。**出土遺物**：土師器坏・甕片 2 点、陶器鍋片 1 点。**時期**：出土した土師器は 7 世紀代、陶器鍋は近代であるが、As-B の存在から、中世の可能性が高い。

Ｄ－46 号土坑（第 181 図）

位置：Dl-58・59 グリッド。**平面形態**：楕円形。**重複**：Ｄ－45 号を切り、Ｄ－47 号土坑との新旧不明。**規模**：長軸 1.87 ｍ、短軸 1.44 ｍ。**深度**：40 ㎝。**主軸方位**：Ｎ－74°－Ｗ。**覆土**：As-B を多く含む褐灰色土が堆積する。**出土遺物**：縄文土器、石器、土師器坏・甕片 27 点、須恵器坏片 1 点、陶磁器片 4 点。**時期**：出土した土師器は 7 世紀代であるが、陶磁器は近世～近代のものである。

Ｄ－47 号土坑（第 181 図）

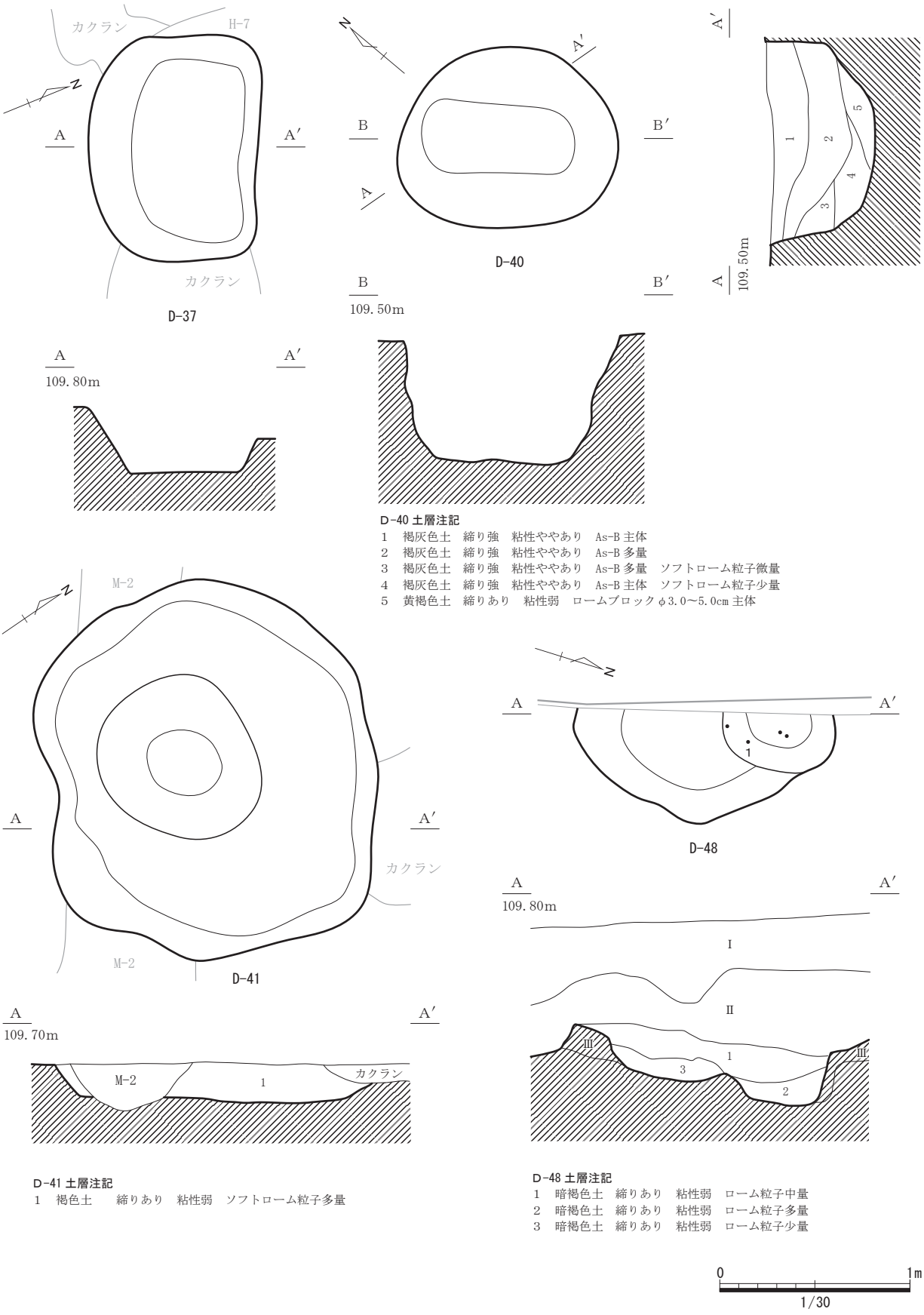
位置：Dl-59 グリッド。**平面形態**：隅丸長方形。**重複**：Ｄ－46 号土坑、Ｍ－２号溝との新旧不明。**規模**：長軸 2.80 ｍ以上、短軸 0.93 ｍ。**深度**：35 ㎝。**主軸方位**：Ｎ－13°－Ｅ。**覆土**：黒褐色土を主体とし、上層は As-B を多く含む褐灰色土が堆積する。**出土遺物**：土師器坏・甕片 5 点。**時期**：出土した土師器は 7 ～ 8 世紀代のものである。

Ｄ－48 号土坑（第 180・185 図、第 82 表、PL.88）

位置：Dn-59・60、Do-59・60 グリッド。**平面形態**：不整円形。**重複**：なし。**規模**：長軸 1.37 ｍ、短軸 0.59 ｍ以上。**深度**：45 ㎝。**覆土**：ローム粒を含む暗褐色土が堆積する。**出土遺物**：縄文土器、土師器甕片 9 点、須恵器埦 3 点、ロクロ甕 1 点、陶器鍋 1 点。**時期**：出土した須恵器（1）は 9 世紀代、ロクロ甕は 9 世紀末から 10 世紀、陶器は近世～近代のものである。

Ｄ－49 号土坑（第 182 図）

位置：Dn-59・60 グリッド。**平面形態**：楕円形。**重複**：なし。**規模**：長軸 1.38 ｍ、短軸 1.07 ｍ。**深度**：53 ㎝。**主軸方位**：Ｎ－70°－Ｅ。**覆土**：黄褐色土を主体とする。**出土遺物**：縄文土器、土師器坏・甕片 33 点、土師質鍋片 1 点、常滑甕片 1 点。**時期**：土師器は 7 世紀代だが、鍋は近世～近代のものである。



第 180 図　D -37・40・41・48 号土坑遺構図

Ｄ -50 号土坑（第 178 図）

位置:Df-52､Dg-51･52 グリッド。**平面形態**:隅丸長方形か。**重複**:Ｈ－８号住居跡を切る。**規模**:長軸 1.54 ｍ以上、短軸 0.73 ｍ。**深度**:42 ㎝。**主軸方位**:Ｎ -12°- Ｅ。**覆土**:褐色土を主体とする。**出土遺物**:縄文土器、土師器坏・甕片 5 点。**時期**：土師器は 7 世紀代のものである。

Ｄ -51 号土坑（第 181 図）

位置:Dl-58 グリッド。**平面形態**:隅丸長方形。**重複**:Ｄ -45 号土坑に切られる。**規模**:長軸 1.02 ｍ、短軸 0.73 ｍ。**深度**:83 ㎝。**主軸方位**:Ｎ -87°- Ｗ。**覆土**:下層は暗褐色土、上層は As-B を含む褐色土である。**出土遺物**:なし。**時期**:As-B を含むことから中世の可能性が高い。

Ｄ -53 号土坑（第 181 図）

位置:Dj-59･60、Dk-60 グリッド。**平面形態**:隅丸長方形か。**重複**:なし。**規模**:長軸 1.09 ｍ以上、短軸 0.92 ｍ。**深度**:42 ㎝。**主軸方位**:Ｎ -20°- Ｅ。**覆土**:-。**出土遺物**:縄文土器、土師器甕片 2 点、須恵器甕片 1 点。**時期**:出土した土師器は 6 ～ 7 世紀代のものである。

Ｄ -55 号土坑（第 181 図）

位置:Dl-59・60、Dm-59・60 グリッド。**平面形態**:隅丸長方形。**重複**:なし。**規模**:長軸 5.42 ｍ、短軸 0.91 ｍ。**深度**:32 ㎝。**主軸方位**:Ｎ -12°- Ｅ。**覆土**:-。**出土遺物**:なし。**時期**:不明。

Ｄ -70 号土坑（第 182 図）

位置:Ed-60、Ee-60 グリッド。**平面形態**:隅丸長方形。**重複**:Ｈ -12 号住居跡を切る。D-71 号土坑との新旧不明。**規模**:長軸 3.69 ｍ、短軸 0.82 ｍ。**深度**:53 ㎝。**主軸方位**:Ｎ -25°- Ｅ。**覆土**:As-B を含む褐色土ないし暗褐色土。**出土遺物**：土師器坏・甕片、須恵器坏・甕片。**時期**：出土した土師器・須恵器は 7 世紀代のものである。

Ｄ -71 号土坑（第 116・122 図、第 47 表、PL.70）

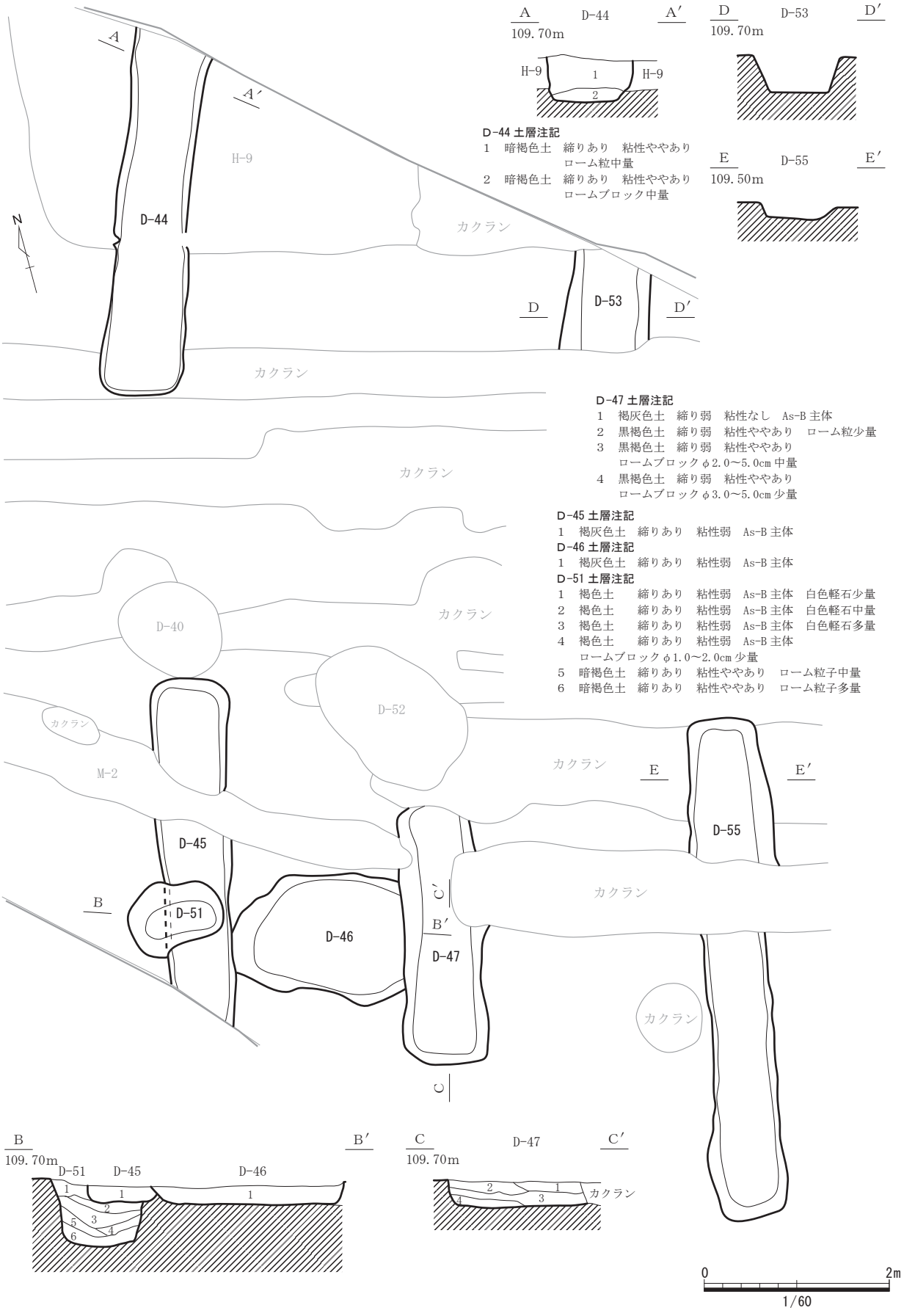
位置:Ed-60 グリッド。**平面形態**:楕円形。**重複**:Ｈ -12 号住居跡を切り、Ｄ -70 号土坑との新旧不明。**規模**:長軸 69 ㎝、短軸 58 ㎝。**深度**:22 ㎝。**主軸方位**:Ｎ -71°- Ｅ。**覆土**:礫を含む。**出土遺物**:縄文土器片、凹石が出土した。**時期**:古墳時代以降。

Ｄ -72 号土坑（第 182 図）

位置:Dx-59･60 グリッド。**平面形態**:楕円形。**重複**:なし。**規模**:長軸 1.47 ｍ以上、短軸 1.27 ｍ。**深度**:71 ㎝。**主軸方位**:Ｎ -54°- Ｅ。**覆土**:暗褐色土を主体とする。**出土遺物**:土師器甕片 1 点。**時期**:土師器は 8 世紀代。

Ｄ -76 号土坑（第 182 図）

位置:Eg-59 グリッド。**平面形態**:隅丸長方形か。**重複**:なし。**規模**:長軸 2.68 ｍ以上、短軸 0.71 ｍ。**深度**:72 ㎝。**主軸方位**:Ｎ -17°- Ｅ。**覆土**:上層にはロームブロックが含まれる。**出土遺物**:土師器甕片、須恵器甕片。**時期**:土師器は 7 ～ 8 世紀代のものである。



D-44 土層注記
1　暗褐色土　締りあり　粘性ややあり　ローム粒中量
2　暗褐色土　締りあり　粘性ややあり　ロームブロック中量

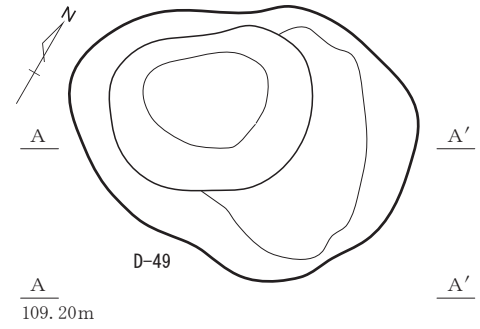
D-47 土層注記
1　褐灰色土　締り弱　粘性なし　As-B 主体
2　黒褐色土　締り弱　粘性ややあり　ローム粒少量
3　黒褐色土　締り弱　粘性ややあり　ロームブロック φ2.0～5.0cm 中量
4　黒褐色土　締り弱　粘性ややあり　ロームブロック φ3.0～5.0cm 少量

D-45 土層注記
1　褐灰色土　締りあり　粘性弱　As-B 主体

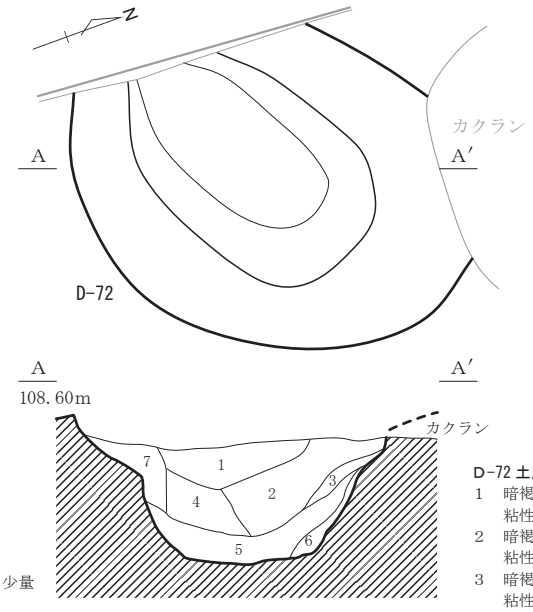
D-46 土層注記
1　褐灰色土　締りあり　粘性弱　As-B 主体

D-51 土層注記
1　褐色土　締りあり　粘性弱　As-B 主体　白色軽石少量
2　褐色土　締りあり　粘性弱　As-B 主体　白色軽石中量
3　褐色土　締りあり　粘性弱　As-B 主体　白色軽石多量
4　褐色土　締りあり　粘性弱　As-B 主体　ロームブロック φ1.0～2.0cm 少量
5　暗褐色土　締りあり　粘性ややあり　ローム粒子中量
6　暗褐色土　締りあり　粘性ややあり　ローム粒子多量

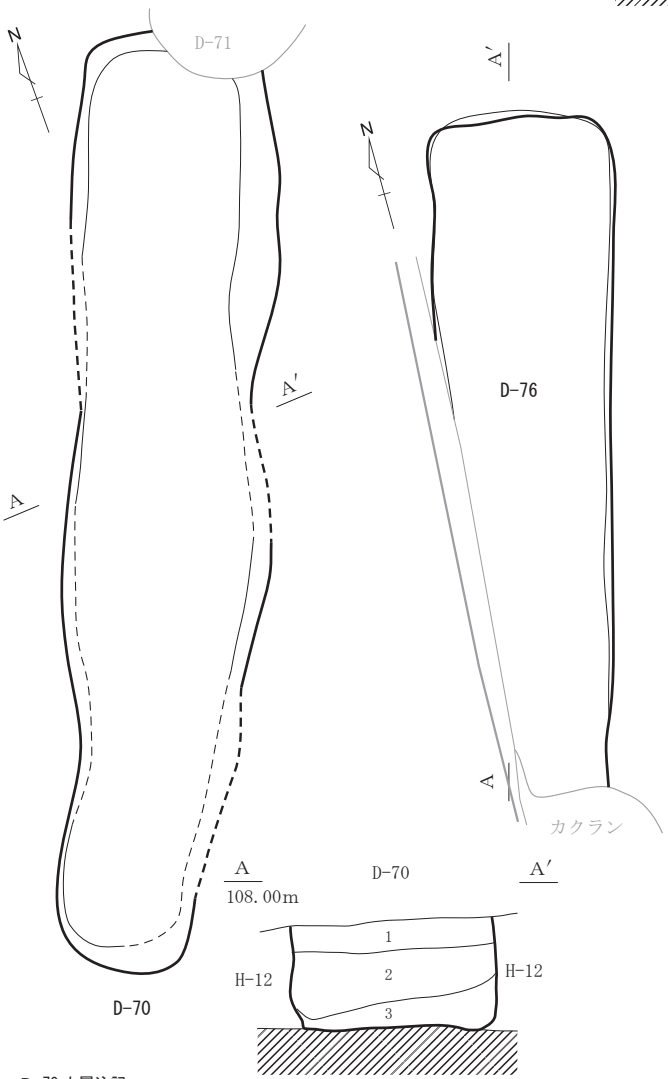
第 181 図　D -44・45・46・47・51・53・55 号土坑遺構図

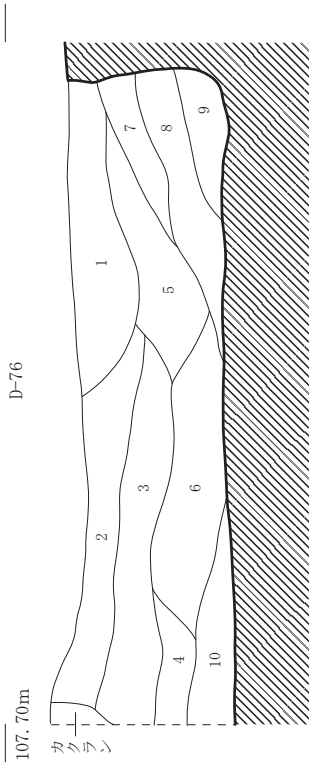


D-49 土層注記
1　褐色土　締りあり　粘性弱　ソフトローム粒子少量
2　黄褐色土　締りあり　粘性ややあり　ソフトローム粒子多量
3　黄褐色土　締りあり　粘性ややあり　ロームブロックφ5.0～10.0cm少量



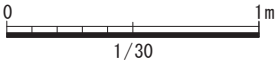
D-72 土層注記
1　暗褐色土　締りあり
粘性弱　ローム粒子中量
2　暗褐色土　締りあり
粘性弱　ローム粒中量
3　暗褐色土　締りあり
粘性弱
ロームブロック主体
4　暗褐色土　締りあり
粘性弱　ロームブロック
φ1.0～2.0cm多量
5　暗褐色土　締りあり
粘性弱
ロームブロック粒子主体
6　暗褐色土　締りあり
粘性弱
ロームブロック粒子多量
7　暗褐色土　締りあり
粘性弱　ロームブロック
φ1.0～2.0cm少量



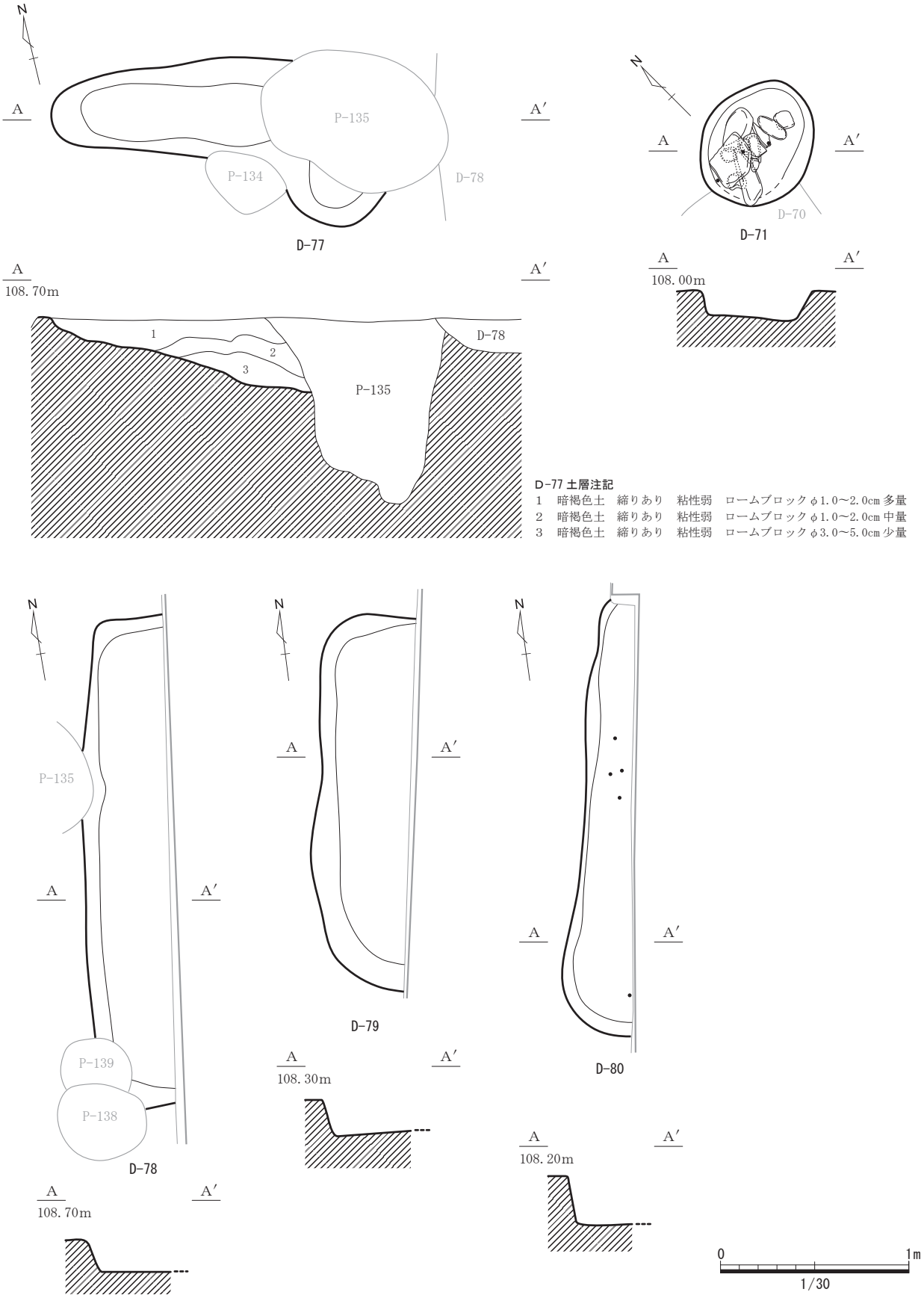


D-76 土層注記
1　黄褐色土　締りあり　粘性ややあり　ロームブロックφ1.0～3.0cm多量
2　黄褐色土　締りあり　粘性ややあり　ロームブロックφ1.0～3.0cm少量
3　暗褐色土　締りあり　粘性ややあり　ロームブロックφ2.0～5.0cm多量
4　黒褐色土　締りあり　粘性ややあり　ロームブロックφ1.0～3.0cm少量
5　暗褐色土　締りあり　粘性ややあり　ロームブロックφ2.0～5.0cm少量
6　黒褐色土　締りあり　粘性ややあり　ロームブロックφ5.0～8.0cm少量
7　黒褐色土　締りあり　粘性ややあり　ローム粒少量
8　黒褐色土　締りあり　粘性ややあり　ローム粒微量
9　黒褐色土　締りあり　粘性ややあり　ローム粒少量
10　暗褐色土　締りあり　粘性ややあり　ロームブロックφ1.0～2.0cm少量

D-70 土層注記
1　暗褐色土　締りやや弱　粘性弱　As-Bφ0.2cm中量　ロームブロックφ0.5cm少量
2　褐色土　締り・粘性弱　ロームブロックφ0.5～2.0cm中量　As-Bφ0.2cm少量　焼土φ0.5cm微量
3　褐色土　締りややあり　粘性やや弱　As-Bφ0.2cm・ロームブロックφ0.5～3.0cm・焼土φ0.5～2.0cm少量



第182図　D-49・70・72・76号土坑遺構図



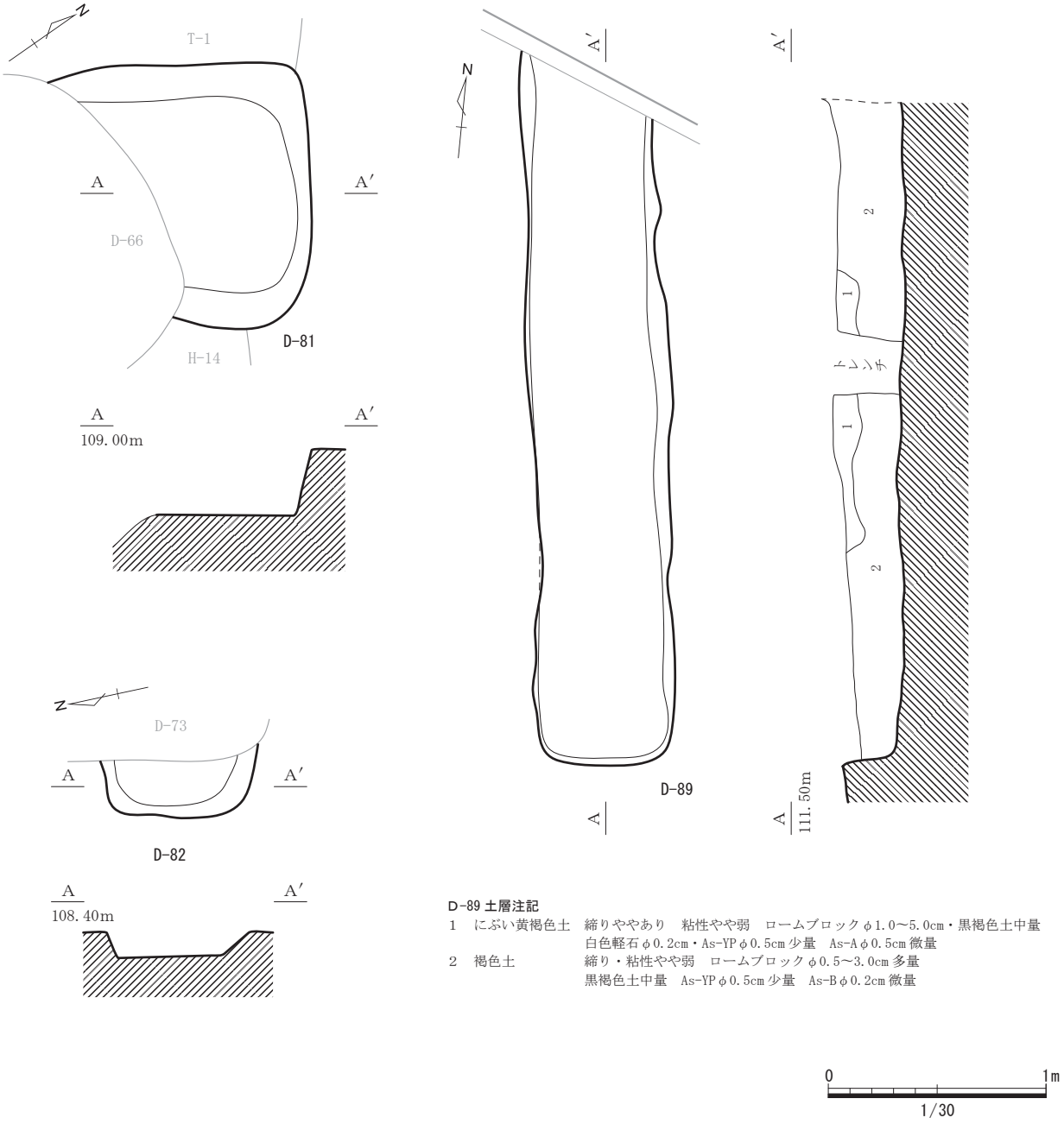
第 183 図　D -71・77・78・79・80 号土坑遺構図

Ｄ－77 号土坑（第 183 図）

位置：Dx-60 グリッド。**平面形態**：不整楕円形。**重複**：Ｐ－135 号ピットに切られる。**規模**：長軸 1.13 ｍ以上、短軸 0.51 ｍ以上。**深度**：45 ㎝。**主軸方位**：Ｎ－76°－Ｗ。**覆土**：ロームブロックを含む暗褐色土。**出土遺物**：土師器坏・甕片、薦編石 2 点。**時期**：出土した土師器は 7 世紀代のものである。

Ｄ－78 号土坑（第 183 図）

位置：Dx-60、Dy-60 グリッド。**平面形態**：隅丸長方形。**重複**：重複するピットとの新旧は不明。**規模**：長軸 2.59 ｍ、短軸 0.45 ｍ。**深度**：22 ㎝。**主軸方位**：Ｎ－10°－Ｅ。**覆土**：－。**出土遺物**：土師器片。**時期**：不明。



第 184 図　Ｄ－81・82・89 号土坑遺構図

Ｄ -79 号土坑（第 183 図）

位置:Eb-60 グリッド。**平面形態**:隅丸長方形か。**重複**:なし。**規模**:長軸 1.97 m、短軸 0.51 m以上。**深度**:23 ㎝。**主軸方位**：Ｎ -7°- Ｅ。**覆土**：-。**出土遺物**：土師器坏・甕片。**時期**：出土した土師器は 7 ～ 8 世紀代のものである。

Ｄ -80 号土坑（第 183 図）

位置:Eb-60、Ec-60 グリッド。**平面形態**:隅丸長方形か。**重複**:なし。**規模**:長軸 2.25 m以上、短軸 0.37 m以上。**深度**：42 ㎝。**主軸方位**：Ｎ -15°- Ｅ。**覆土**：-。**出土遺物**：土師器甕片。**時期**：土師器は 8 世紀代のものである。

Ｄ -81 号土坑（第 184 図）

位置：Ds-61、Dt-61 グリッド。**平面形態**：隅丸長方形か。**重複**：Ｈ -14 号住居跡、Ｔ - 1 号竪穴状土坑、Ｄ -66 号土坑との新旧不明。**規模**：長軸 1.21 m、短軸 0.92 m以上。**深度**：42 ㎝。**主軸方位**：Ｎ -6°- Ｗ。**覆土**：-。**出土遺物**：なし。**時期**：不明。

Ｄ -82 号土坑（第 184 図）

位置：Dy-60、Ea-60 グリッド。**平面形態**：隅丸長方形か。**重複**：Ｄ -73 号土坑との新旧不明。**規模**：長軸 68 ㎝、短軸 25 ㎝以上。**深度**：10 ㎝。**主軸方位**：Ｎ -13°- Ｅ。**覆土**：-。**出土遺物**：なし。**時期**：不明。

Ｄ -89 号土坑（第 184 図）

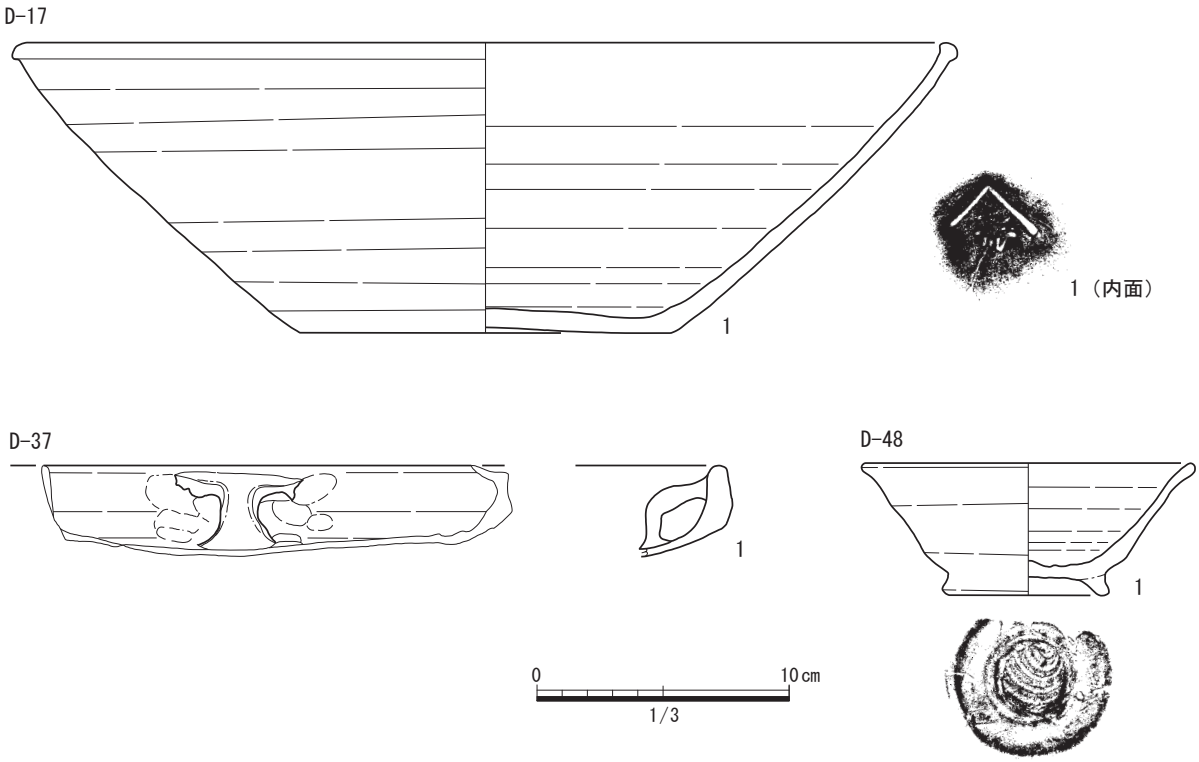
位置:Da-37 グリッド。**平面形態**:隅丸長方形か。**重複**:なし。**規模**:長軸 3.12 m以上、短軸 0.66 m。**深度**:46 ㎝。**主軸方位**：Ｎ -7°- Ｗ。**覆土**：As-B を含む褐色土が主体である。**出土遺物**：土師器坏・甕片、須恵器甕片。**時期**：出土した土師器は 7 ～ 8 世紀代のものであるが、覆土に As-B を含むため、中世の可能性が高い。

５．土坑列

1 区を南北に縦断する規格的な土坑群があり、土坑列として取り扱った（第186～188図、PL. 28・29）。Ｄ -57 ～ 60・63・65 ～ 68・73 ～ 75 号土坑の 12 基である。さらにＤ -79・80 号土坑も関連する可能性がある。各土坑は長軸 1.21 ～ 2.28 m、短軸 0.82 ～ 1.49 mの隅丸長方形を呈する。土坑同士は概ね 1.0 ～ 2.2 mの距離をおき、南北軸を揃えるように並ぶ。軸線は直線ではなく、緩やかな弧を描いている。Ｄ -67 号土坑以南ではやや形状や配列が乱れ、東西に長軸をもつ土坑もあるが、調査区外の南北ともに列が延びる可能性が高い。土坑の深さは 22 ～ 69 ㎝あり、覆土はロームブロックを大量に含むものが多い。遺物は古墳時代の混入品が多いが、ロクロ甕や灰釉陶器など、10 世紀に下るものがある。覆土に As-B が含まれないことから、平安時代の土坑列と判断される。

Ｄ -57 号土坑（第 186 図）

位置:Do-61、Dp-61 グリッド。**平面形態**:隅丸長方形。**重複**:なし。**規模**:長軸 1.82 m、短軸 1.35 m以上。**深度**:53 ㎝。**主軸方位**:Ｎ -13°- Ｅ。**覆土**:-。**出土遺物**:縄文土器、土師器甕片 4 点、須恵器甕片 1 点、ロクロ甕片 1 点。**時期**：出土した土師器・須恵器は 8 ～ 10 世紀代のものである。



第 185 図　D -17・37・48 号土坑遺物実測図

第 80 表　D -17 号土坑出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)（推定値）		残存	色調	胎土	焼成	成整形の特徴	備考（出土層位等）
1	陶器鍋	口径 底径 器高	37.4 14.7 11.5	口縁部～体部 1/3 欠損	外：黒褐 2.5Y3/1 内：黒褐 2.5Y3/1	白色粒	良好	ロクロ成形、外面焦げ、底部内面に刻印 外：ロクロナデ、体部下端回転ヘラケズリ、底部ナデ 内：ロクロナデ	底面から逆位で出土

第 81 表　D -37 号土坑出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)（推定値）		残存	色調	胎土	焼成	成整形の特徴	備考（出土層位等）
1	焙烙	口径 底径 器高	－ － －	口縁部～体部破片	外：にぶい黄褐 10YR5/3 内：橙 5YR6/6	石英、白色粒	良好	外：口縁部ヨコナデ、体部下端ヘラケズリ 内：口縁部～体部ヨコナデ、内耳周辺ユビナデ	覆土出土

第 82 表　D -48 号土坑出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)（推定値）		残存	色調	胎土	焼成	成整形の特徴	備考（出土層位等）
1	須恵器埦	口径 底径 器高	(13.2) (6.6) 5.3	口縁部～体部 1/4 欠損	外：にぶい黄橙 10YR6/4 内：にぶい黄橙 10YR6/4	チャート、白色粒	未還元	ロクロ成形、底部回転糸切り 外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	覆土出土

Ｄ -58 号土坑（第 186 図、第 83 表、PL. 28・88）

位置：Dp-61 グリッド。**平面形態**：隅丸長方形。**重複**：なし。**規模**：長軸 1. 81 ｍ、短軸 1. 05 ｍ。**深度**：69 ㎝。**主軸方位**：Ｎ -3°- Ｅ。**覆土**：ロームブロックを含む褐色土が主体となる。**出土遺物**：土師器甕片、須恵器甕片、羽釜片などが比較的多く出土した。**時期**：土師器・須恵器は 6 ～ 7 世紀代が多く、羽釜は 10 世紀代のものである。

Ｄ -59 号土坑（第 186 図、PL. 28）

位置：Dq-61 グリッド。**平面形態**：隅丸長方形。**重複**：なし。**規模**：長軸 2. 17 ｍ、短軸 1. 19 ｍ。**深度**：49 ㎝。**主軸方位**：Ｎ -5°- Ｅ。**覆土**：黒褐色土ないし黄褐色土が堆積する。**出土遺物**：土師器坏・甕片、須恵器坏・甕片。**時期**：土師器は 7 ～ 9 世紀代、須恵器は 9 ～ 10 世紀代のものである。

Ｄ -60 号土坑（第 186 図、第 84 表、PL. 29・88）

位置：Dr-31 グリッド。**平面形態**：隅丸長方形。**重複**：Ｄ -61・69 号土坑を切る。**規模**：長軸 1. 87 ｍ、短軸 1. 46 ｍ。**深度**：44 ㎝。**主軸方位**：Ｎ -7°- Ｅ。**覆土**：黒褐色土ないし褐色土が主体となる。**出土遺物**：土師器坏・甕片、須恵器坏・甕片。須恵器甕（1）を掲載した。**時期**：土師器は 6 ～ 7 世紀、須恵器は 6 ～ 8 世紀代のものである。

Ｄ -63 号土坑（第 186 図、PL. 29）

位置：Dm-61、Dm-62、Do-61 グリッド。**平面形態**：隅丸長方形か。**重複**：なし。**規模**：長軸 1. 59 ｍ、短軸 0. 46 ｍ以上。**深度**：53 ㎝。**主軸方位**：Ｎ -17°- Ｅ。**覆土**：黒褐色土ないし黄褐色土を主体とする。**出土遺物**：土師器坏・甕片、須恵器甕片。**時期**：出土した土師器は 6 ～ 7 世紀代のものである。

Ｄ -65 号土坑（第 186 図、第 85 表、PL. 28・88）

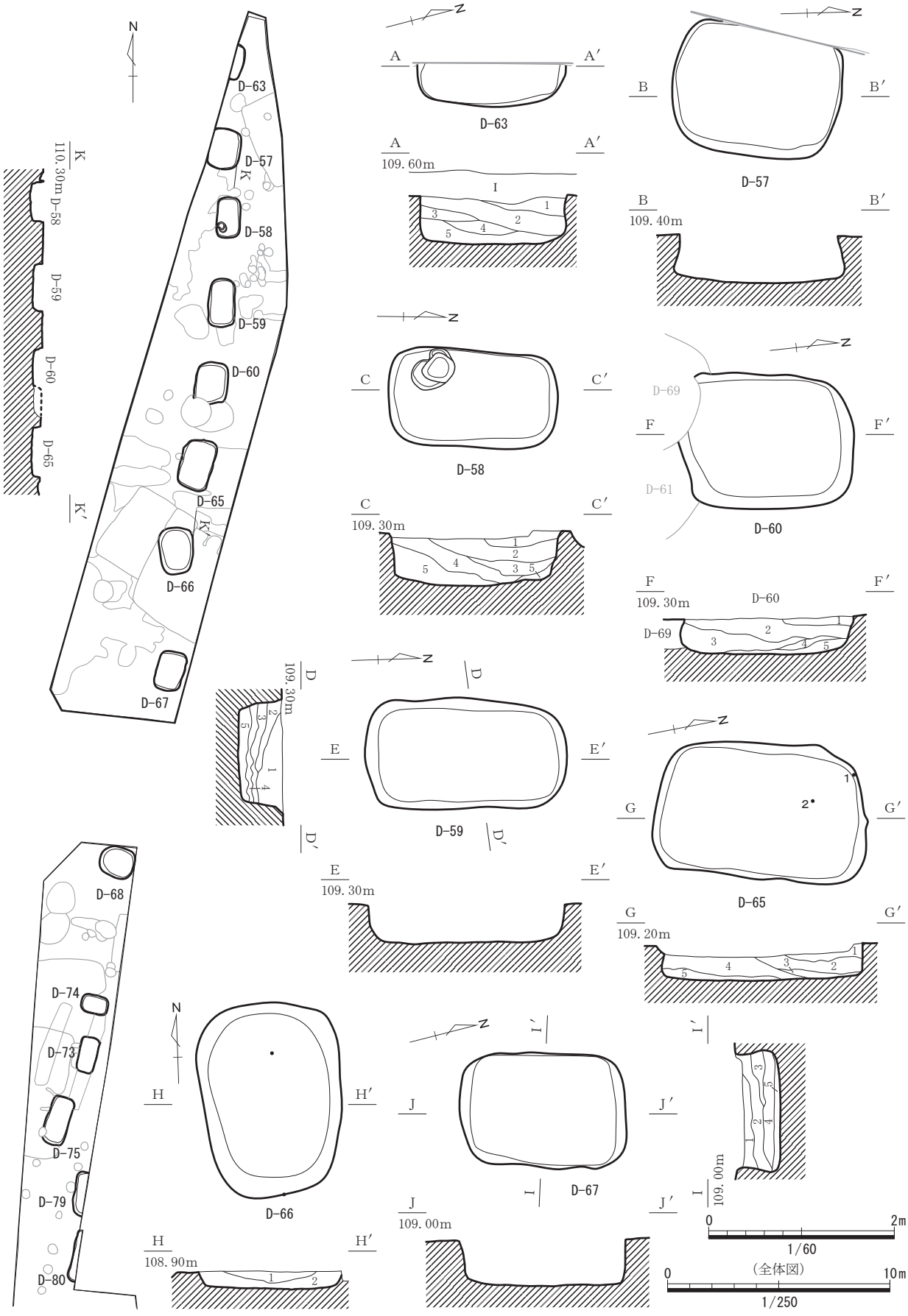
位置：Ds-61 グリッド。**平面形態**：隅丸長方形。**重複**：Ｐ -131 との新旧不明。**規模**：長軸 2. 28 ｍ、短軸 1. 49 ｍ。**深度**：41 ㎝。**主軸方位**：Ｎ -18°- Ｅ。**覆土**：ロームブロックを含む黒褐色土ないし褐色土が主体である。**出土遺物**：土師器甕片、須恵器甕（2）・瓶片、灰釉陶器碗（1）。土坑北側からまとまって出土。**時期**：土師器は 7 ～ 8 世紀代、須恵器は 6 ～ 8 世紀代、灰釉陶器は 10 世紀代のものである。

Ｄ -66 号土坑（第 186 図）

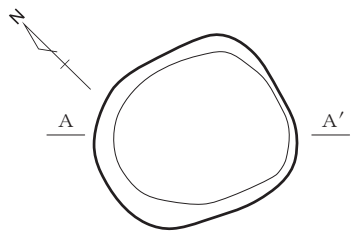
位置：Dt-61 グリッド。**平面形態**：隅丸長方形。**重複**：Ｈ -14 号住居跡を切る。Ｄ -81 号土坑との新旧不明。**規模**：長軸 2. 07 ｍ、短軸 1. 49 ｍ。**深度**：45 ㎝。**主軸方位**：Ｎ -8°- Ｗ。**覆土**：黒褐色土ないし褐色土が堆積する。**出土遺物**：土師器坏・甕片、須恵器坏・甕片、羽釜片。**時期**：土師器は 7 ～ 8 世紀、須恵器は 8 ～ 9 世紀、羽釜は 10 世紀代のものである。

Ｄ -67 号土坑（第 186 図、PL. 28・29）

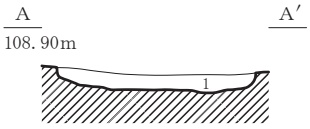
位置：Du-60・61 グリッド。**平面形態**：隅丸長方形。**重複**：なし。**規模**：長軸 1. 78 ｍ、短軸 1. 23 ｍ。**深度**：50 ㎝。**主軸方位**：Ｎ -17°- Ｅ。**覆土**：ロームブロックを含む暗褐色土を主体とする。**出土遺物**：土師器甕片、須恵器甕片、灰釉陶器皿片。**時期**：出土した土師器は 7 ～ 9 世紀、灰釉陶器は 10 世紀代のものである。

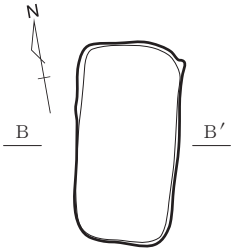


第 186 図　D -57・58・59・60・63・65・66・67 号土坑遺構図

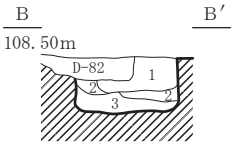


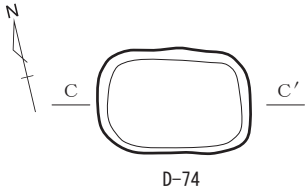
D-68



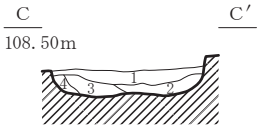


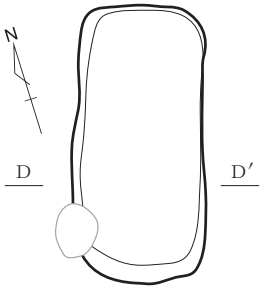
D-73



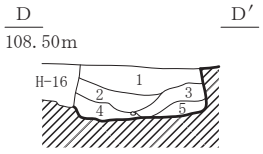


D-74





D-75



D-58 土層注記
1　褐色土　締りあり　粘性ややあり　ローム粒子少量
2　暗褐色土　締りあり　粘性弱　ローム粒子少量
3　褐色土　締りあり　粘性ややあり　ロームブロック φ3.0～5.0cm 中量　ローム粒子多量
4　褐色土　締りあり　粘性ややあり　ロームブロック φ1.0～2.0cm 多量
5　黒褐色土　締りあり　粘性弱　ローム粒子微量

D-59 土層注記
1　黄褐色土　締りあり　粘性ややあり　ローム粒多量
2　黒褐色土　締りやや弱　粘性なし　ローム粒子微量
3　黄褐色土　締りあり　粘性ややあり　ローム粒多量
4　黒褐色土　締りやや弱　粘性なし　ローム粒子微量
5　黄褐色土　締りあり　粘性ややあり　ローム粒多量

D-60 土層注記
1　黒褐色土　締りあり　粘性弱　ローム粒子少量
2　褐色土　締りあり　粘性弱　ローム粒多量
3　黒褐色土　締りあり　粘性弱　ロームブロック φ1.0～3.0cm 少量　ローム粒子多量
4　暗褐色土　締りあり　粘性ややあり　ローム粒子中量
5　黒褐色土　締りややあり　粘性弱　ローム粒子微量

D-63 土層注記
1　黒褐色土　締りあり　粘性弱　ローム粒子少量
2　黒褐色土　締りやや弱　粘性なし　ローム粒子微量
3　黄褐色土　締りあり　粘性ややあり　ローム粒多量
4　黒褐色土　締りやや弱　粘性なし　ローム粒子微量
5　黄褐色土　締りあり　粘性ややあり　ロームブロック粒子多量

D-65 土層注記
1　黒褐色土　締り弱　粘性なし　ロームブロック粒子少量
2　褐色土　締り弱　粘性なし　ロームブロック φ2.0～3.0cm 中量
3　黒褐色土　締り弱　粘性なし　ロームブロック粒子少量
4　褐色土　締りあり　粘性ややあり　ロームブロック φ2.0～4.0cm 多量
5　黄褐色土　締りあり　粘性ややあり　ロームブロック粒子多量

D-66 土層注記
1　黒褐色土　締り弱　粘性なし　ロームブロック粒子少量
2　褐色土　締り弱　粘性なし　ロームブロック φ2.0～3.0cm 中量

D-67 土層注記
1　暗褐色土　締りあり　粘性ややあり　ロームブロック φ1.0～3.0cm 少量
2　暗褐色土　締りあり　粘性ややあり　ロームブロック φ1.0～2.0cm 多量　ローム粒中量
3　暗褐色土　締りあり　粘性ややあり　ロームブロック φ5.0～10.0cm 少量
4　暗褐色土　締りあり　粘性ややあり　ロームブロック φ1.0～2.0cm 少量
5　黄褐色土　締りあり　粘性ややあり　ローム粒子多量

D-68 土層注記
1　褐色土　締りあり　粘性ややあり　ローム粒子少量

D-73 土層注記
1　暗褐色土　締りあり　粘性弱　ローム粒中量
2　黄褐色土　締り強　粘性ややあり　ロームブロック φ1.0～3.0cm 中量　ロームブロック粒少量
3　黒褐色土　締りあり　粘性弱　ローム粒中量

D-74 土層注記
1　褐色土　締りあり　粘性ややあり　ロームブロック φ1.0～2.0cm 多量
2　褐色土　締りあり　粘性ややあり　ローム粒少量
3　褐色土　締りあり　粘性ややあり　ローム粒・焼土粒中量
4　黄褐色土　締りあり　粘性弱　ローム粒主体

D-75 土層注記
1　黄褐色土　締りあり　粘性ややあり　ロームブロック φ1.0～3.0cm 多量
2　黒褐色土　締りあり　粘性ややあり　ロームブロック φ1.0～3.0cm 少量
3　暗褐色土　締りあり　粘性ややあり　ロームブロック φ2.0～5.0cm 多量
4　黒褐色土　締りあり　粘性ややあり　ロームブロック φ1.0～3.0cm 少量
5　暗褐色土　締りあり　粘性ややあり　ローム粒少量

0　2m
1/60

第 187 図　D -68・73・74・75 号土坑遺構図

Ｄ -68 号土坑（第 187 図）

位置：Dw-60、Dx-60 グリッド。**平面形態**：隅丸長方形。**重複**：なし。**規模**：長軸 1.55 ｍ、短軸 1.36 ｍ。**深度**：22 ㎝。**主軸方位**：Ｎ -69°- Ｗ。**覆土**：褐色土の単層である。**出土遺物**：なし。**時期**：不明。

Ｄ -73 号土坑（第 187 図、PL.29）

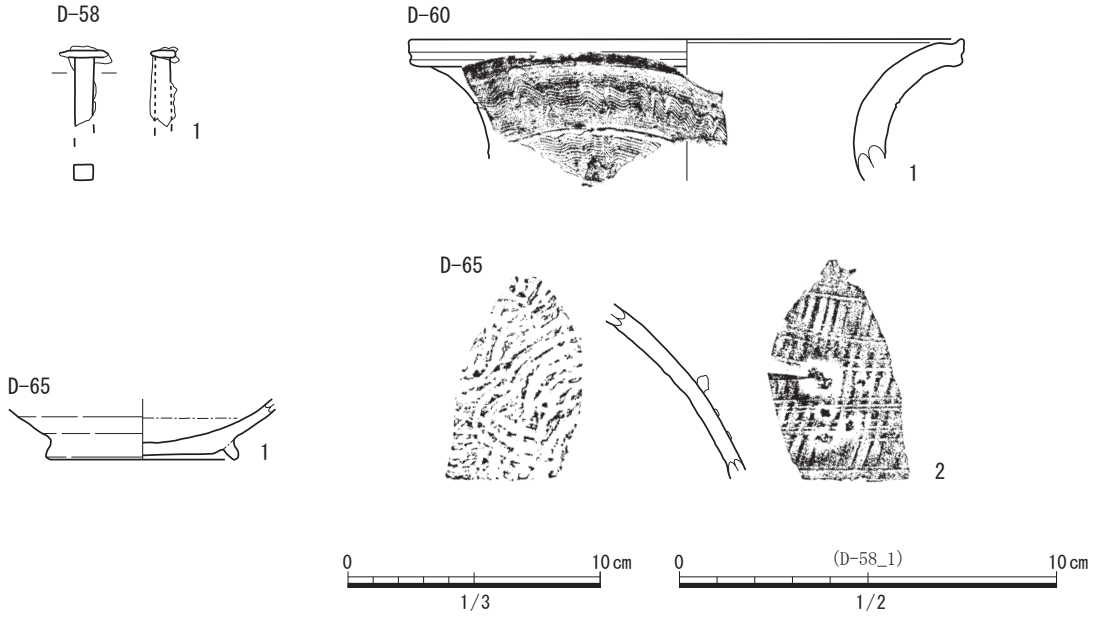
位置：Dy-60、Ea60 グリッド。**平面形態**：隅丸長方形。**重複**：Ｄ -82 号土坑に切られる。**規模**：長軸 1.60 ｍ、短軸 0.82 ｍ。**深度**：47 ㎝。**主軸方位**：Ｎ -15°- Ｅ。**覆土**：暗褐色土・黒褐色土・黄褐色土が堆積する。**出土遺物**：土師器甕片。**時期**：不明。

Ｄ -74 号土坑（第 187 図）

位置：Dy-60 グリッド。**平面形態**：隅丸長方形。**重複**：Ｈ -15 号住居跡を切る。**規模**：長軸 1.21 ｍ、短軸 0.83 ｍ。**深度**：41 ㎝。**主軸方位**：Ｎ -75°- Ｗ。**覆土**：褐色土を主体とする。**出土遺物**：なし。**時期**：不明。

Ｄ -75 号土坑（第 187 図）

位置：Ea-59・60、Eb-59 グリッド。**平面形態**：円形か。**重複**：Ｈ -16 号住居跡を切る。**規模**：長軸 2.20 ｍ、短軸 1.05 ｍ。**深度**：47 ㎝。**主軸方位**：Ｎ -20°- Ｅ。**覆土**：ロームブロックを含む黒褐色土ないし暗褐色土が主体である。**出土遺物**：土師器坏・鉢・甕片、須恵器坏片、ロクロ甕片。**時期**：土師器は 7 ～ 8 世紀、須恵器は 9 世紀、ロクロ甕は 10 世紀代のものである。



第 188 図　Ｄ -58・60・65 号土坑遺物実測図

第 83 表　D -58 号土坑出土遺物観察表

番号	器種	法量（残存値）	残存	特徴	備考（出土層位等）
1	鉄製品 釘	長さ(2.0)cm、幅0.5cm、厚さ0.4cm 重さ1.98g	下端欠損	角釘	覆土出土

第 84 表　D -60 号土坑出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)（推定値）		残存	色調	胎土	焼成	成整形の特徴	備考（出土層位等）
1	須恵器 甕	口径 底径 器高	(22.0) － －	口頸部 1/4 残存	外：灰白 2.5Y8/1 内：灰白 2.5Y8/2	石英	良好	外：口縁部ヨコナデ、頸部沈線の上下に櫛描波状文 内：口縁部ヨコナデ、頸部ユビナデ	覆土出土

第 85 表　D -65 号土坑出土遺物観察表

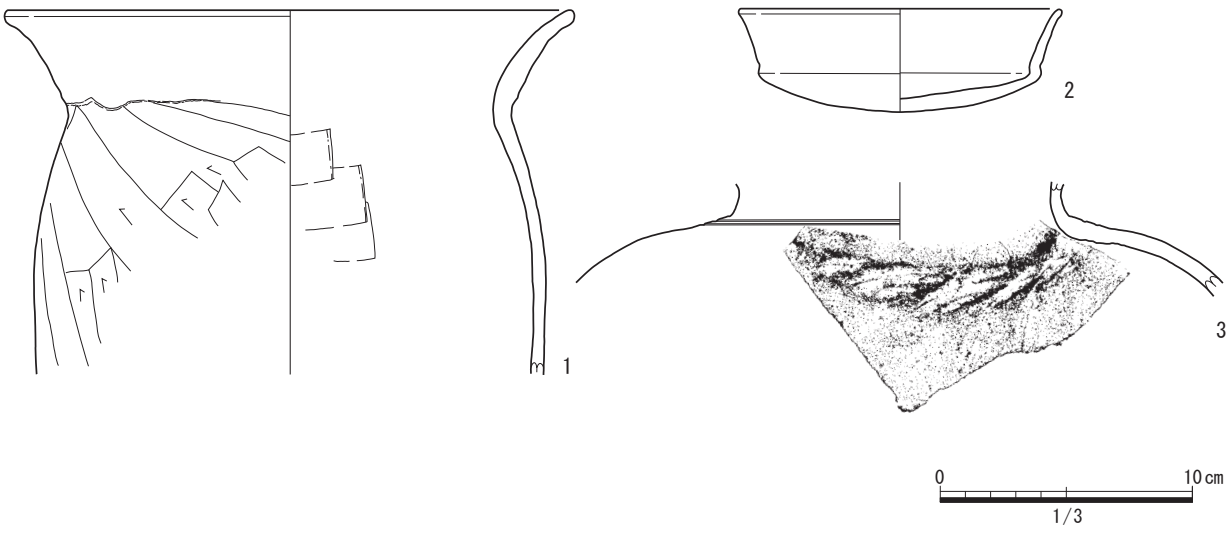
番号	器種	法量(cm)（推定値）		残存	色調	胎土	焼成	成整形の特徴	備考（出土層位等）
1	灰釉陶器 碗	口径 底径 器高	－ (7.6) －	体部～底部 1/3	外：灰白 2.5Y8/2 内：灰白 2.5Y8/2	精良、石英	良好	ロクロ成形、釉は漬け掛け 外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	覆土出土
2	須恵器 甕	口径 底径 器高	－ － －	同部破片	外：灰白 2.5Y7/1 内：黄灰 2.5Y6/1	白色粒	良好	外：胴部平行タタキ後にカキメ 内：胴部同心円文当て具	覆土出土

6．井戸跡

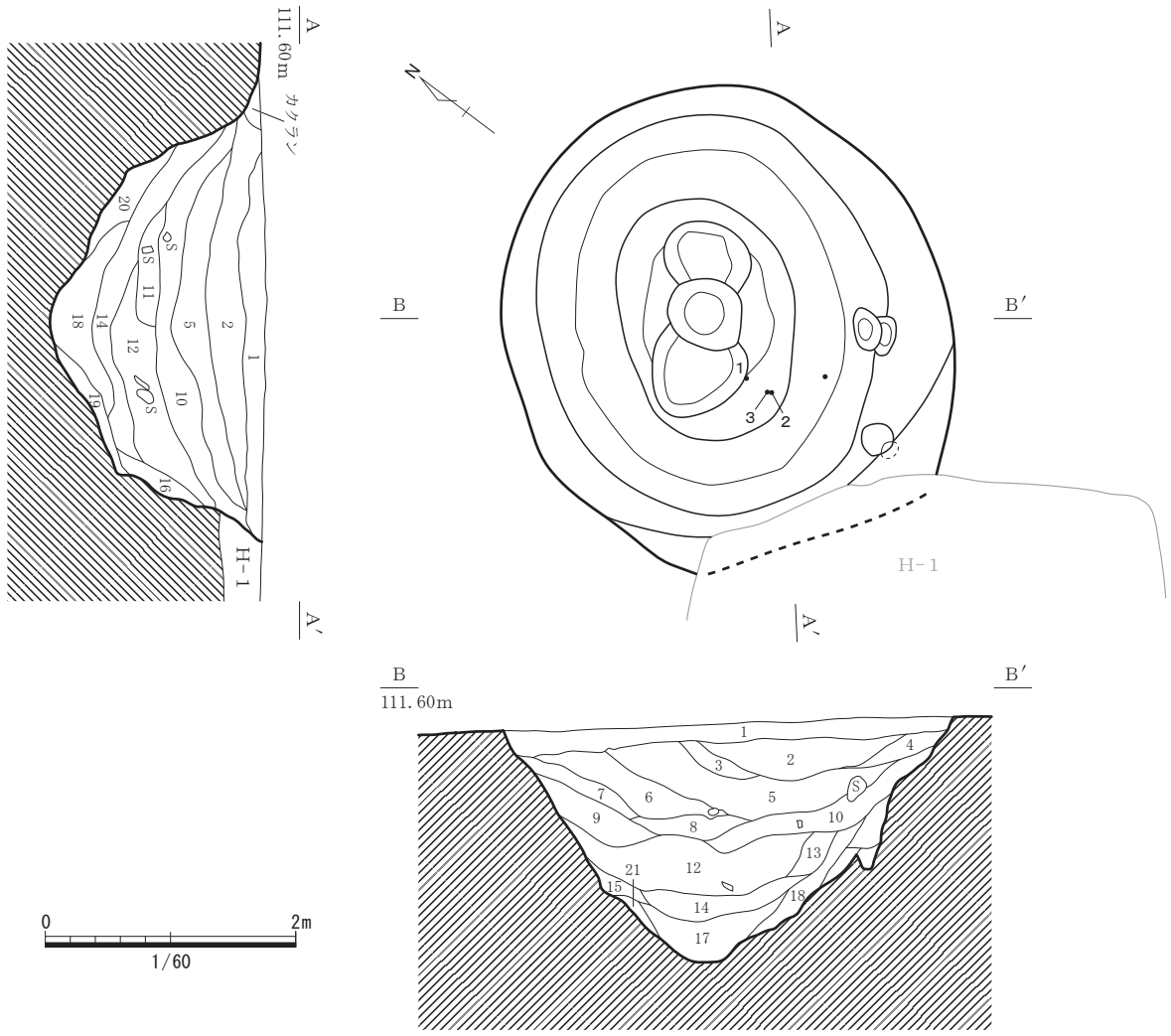
Ｄ－６号土坑は報告書作成段階で井戸跡と判断したが、混乱を避けるため、発掘調査時の土坑番号を踏襲した。

Ｄ－６号土坑（第 189・190 図、第 86・87 表、PL.26・86）

位置：Cw-29、Cx-29 グリッド。**平面形態**：円形。**重複**：Ｈ－１号住居跡を切る。**規模**：径 3.47 m。**深度**：1.98 m。**覆土**：ロームブロックを含む暗褐色土ないし黒褐色土を主体とする。**出土遺物**：縄文土器片が 21 点、土師器片 66 点、須恵器甕片 4 点、薦編石（4 ～ 19）が出土した。土師器杯（2）は土坑底面付近で出土している。**時期**：出土した土師器は坏（2）は 6 世紀後半のもので、Ｈ－１号住居跡からの混入品である。土師器坏・甕の破片には 7 ～ 8 世紀代のものがあり、奈良時代の遺構と判断される。**備考**：Ｈ－１号住居跡の埋没後に掘削されたもので、規模の大きさから井戸跡になる可能性がある。



第 189 図　Ｄ－６号土坑遺物実測図



D-６土層注記

1　暗褐色土　締りあり　粘性ややあり　ローム粒子・白色粒中量
2　暗褐色土　締りあり　粘性やや弱　ローム粒子中量
3　黄褐色土　締りあり　粘性弱　ローム粒中量
4　黄褐色土　締りあり　粘性弱　ローム粒多量
5　褐色土　締りあり　粘性ややあり　ローム粒子多量　白色粒少量
6　褐色土　締りあり　粘性ややあり　ローム粒子少量
7　褐色土　締りあり　粘性ややあり　ローム粒子中量
8　褐色土　締り強　粘性弱　ローム粒子微量
9　黄褐色土　締り強　粘性弱　ロームブロックφ1.0～2.0cm 少量　ローム粒子多量
10　黄褐色土　締り強　粘性弱　ロームブロックφ1.0～2.0cm 少量　ローム粒子中量
11　黄褐色土　締りあり　粘性ややあり　ロームブロックφ1.0～3.0cm 中量
12　暗褐色土　締り強　粘性弱　ローム粒子少量　白色粒中量　細砂多量
13　黒褐色土　締りあり　粘性あり　ローム粒子中量
14　黒褐色土　締り強　粘性強　ローム粒子少量
15　灰白色土　締りあり　粘性弱　ローム主体
16　暗褐色土　締りあり　粘性弱　ロームブロック粒子少量
17　黒褐色土　締りあり　粘性弱　白色粘質土ブロックφ3.0～5.0cm 少量　白色粘質土粒中量
18　黄橙色土　締りやや弱　粘性なし　ローム主体
19　灰黄褐色土　締りあり　粘性弱
20　黒褐色土　締り強　粘性あり　ロームブロックφ0.5～0.8cm 少量
21　暗褐色土　締りあり　粘性弱　ロームブロック粒子少量

第 190 図　Ｄ－６号土坑遺構図

第 86 表　Ｄ－６号土坑出土遺物観察表①

番号	器種	法量(cm)（推定値）		残存	色調	胎土	焼成	成整形の特徴	備考（出土層位等）
1	土師器甕	口径 底径 器高	(22.6) － －	口縁部～胴部 1/4 残存	外：橙 7.5YR6/6 内：橙 5YR6/6	チャート、石英	良好	外：口縁部ヨコナデ、胴部ナナメのヘラケズリ 内：口縁部ヨコナデ、胴部ヨコのヘラナデ	覆土
2	土師器坏	口径 底径 器高	(12.8) － 4.1	完形	外：橙 5YR6/8 内：橙 5YR6/8	精良、チャート、赤色粒	良好	外：口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ 内：口縁部～体部ヨコナデ、底部摩滅	底面付近
3	須恵器甕	口径 底径 器高	－ － －	頸部～肩部 1/4 残存	外：灰白 N7/0 内：黄灰 2.5Y6/1	石英	良好	ロクロ成形、外面に自然釉 外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	覆土

番号	器種	法量（残存値）	残存	石材	特徴	備考（出土層位等）
4	砥編石	長さ(12.29)cm、幅4.05cm、厚さ2.55cm 重さ181.71g	端部欠損	片岩	形態：棒状 端部敲打痕	覆土
5	砥編石	長さ13.79cm、幅3.60cm、厚さ2.71cm 重さ207.97g	完形	片岩	形態：棒状 端部敲打痕	覆土

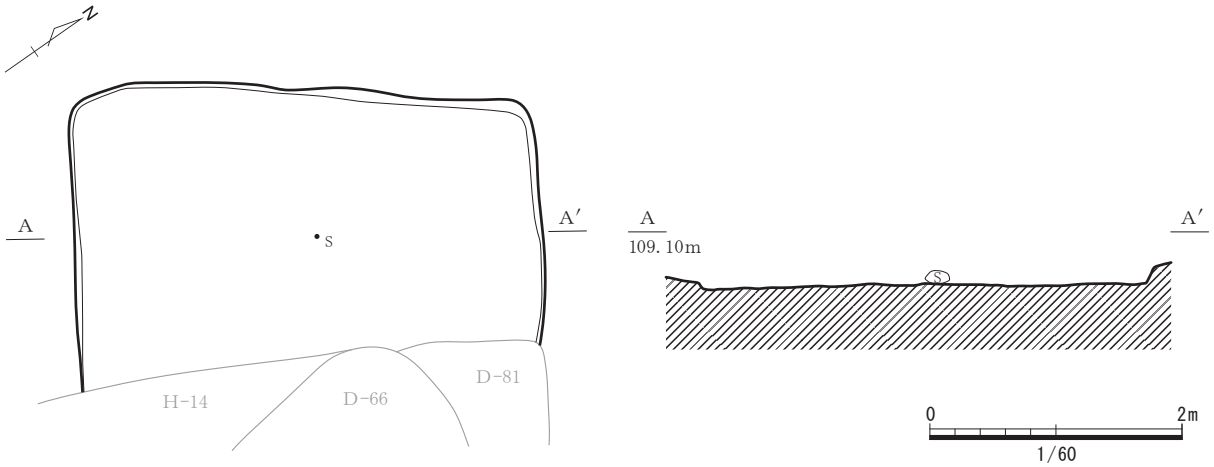
第 87 表　Ｄ－６号土坑出土遺物観察表②

番号	器種	法量（残存値）	残存	石材	特徴	備考（出土層位等）
6	菰編石	長さ14.26cm、幅3.75cm、厚さ3.40cm 重さ267.71g	完形	片岩	形態：棒状 端部敲打痕	覆土
7	菰編石	長さ(13.88)cm、幅5.94cm、厚さ3.03cm 重さ342.63g	端部欠損	片岩	形態：短冊形 端部擦痕	覆土
8	菰編石	長さ14.11cm、幅5.22cm、厚さ3.03cm 重さ265.94g	完形	片岩	形態：短冊形	覆土
9	菰編石	長さ12.59cm、幅5.21cm、厚さ3.89cm 重さ384.83g	完形	片岩	形態：楕円形	覆土
10	菰編石	長さ15.00cm、幅5.61cm、厚さ3.91cm 重さ494.86g	完形	片岩	形態：楕円形	覆土
11	菰編石	長さ15.50cm、幅5.99cm、厚さ3.47cm 重さ479.05g	完形	片岩	形態：短冊形 端部敲打痕	覆土
12	菰編石	長さ16.90cm、幅5.54cm、厚さ3.64cm 重さ529.47g	完形	片岩	形態：楕円形	覆土
13	菰編石	長さ17.19cm、幅6.10cm、厚さ2.71cm 重さ425.34g	完形	片岩	形態：短冊形	覆土
14	菰編石	長さ(16.98)cm、幅6.66cm、厚さ2.76cm 重さ463.47g	端部欠損	片岩	形態：楕円形 両側面に剥離痕	覆土
15	菰編石	長さ(16.90)cm、幅(5.85)cm、厚さ3.42cm 重さ424.49g	端部欠損	片岩	形態：楕円形	覆土
16	菰編石	長さ20.35cm、幅5.80cm、厚さ2.49cm 重さ517.18g	完形	緑色岩類	形態：楕円形 両側面に擦痕	覆土
17	菰編石	長さ11.90cm、幅6.58cm、厚さ3.22cm 重さ418.83g	完形	片岩	形態：短冊形	覆土
18	菰編石	長さ11.01cm、幅7.95cm、厚さ2.51cm 重さ398.37g	完形	片岩	形態：短冊形	覆土
19	菰編石	長さ15.06cm、幅8.27cm、厚さ2.38cm 重さ480.59g	完形	片岩	形態：短冊形 両側面に剥離痕	覆土

７．竪穴状遺構

Ｔ－１号竪穴状遺構（第 191 図）

位置：Ds-60・61、Dt-60・61 グリッド。**平面形態**：方形か。**重複**：Ｈ-14 号住居跡、Ｄ-66・81 号土坑との新旧不明。**規模**：長軸 3.70 ｍ、短軸 2.31 ｍ以上。**深度**：23 ㎝。**主軸方位**：Ｎ-33°- Ｅ。**覆土**：-。**出土遺物**：縄文土器片。**時期**：竪穴住居跡の確証がなく、目立った遺物も出土しないことから、時期不明の竪穴状遺構として扱った。

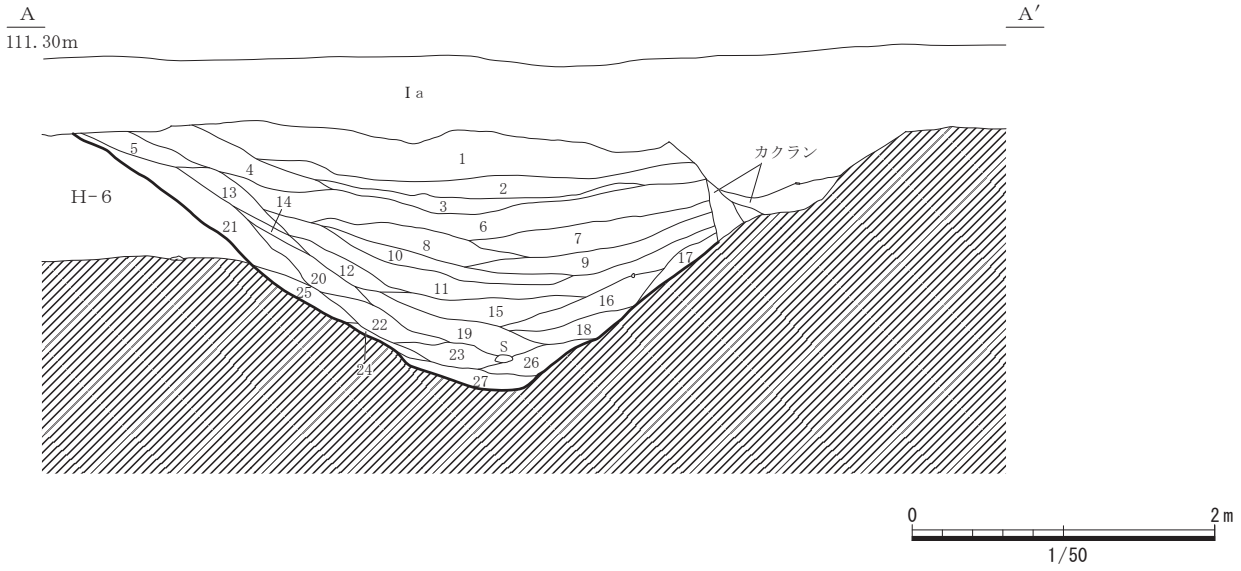


第 191 図　Ｔ－１号竪穴状遺構遺構図

８．溝

Ｍ－１号溝（第 192・193・195 図、第 88 表、PL. 32・88・89）

位置：De-44～46、Df-44～49、Dg-47～49 グリッド。**平面形態**：Ｌ字に曲がるコーナー部分を検出。北辺では 22.0 ｍにわたって直線的に延びる。**重複**：Ｈ－４・６号住居跡を切る。**規模**：溝の上端幅は調査区南壁で 5.47 ｍ、下端幅は 0.36 ｍである。。**深度**：薬研堀状を呈し、深さは調査区南壁で 1.66 ｍである。北辺の底面は東へ向かって緩やかに下る。**主軸方位**：Ｎ -12°- Ｅ。**覆土**：下層には As-B を含む暗褐色土が部分的に堆積し、中層はロームブロックを多く含む埋め戻し土、上層には As-A の一次堆積が確認される。**出土遺物**：縄文土器、土師器鉢・甕片、須恵器埦（1）・甕片、羽釜（2）、肥前大皿（3）が出土。**時期**：土師器・須恵器・羽釜は 7 ～ 10 世紀、肥前大皿は 17 世紀代のものである。中世遺物が乏しいが、As-B・As-A の堆積状況から、中世に掘削され、近世まで存続したと判断され、中世の館跡が想定される。



第 192 図　Ｍ－１号溝遺構図①

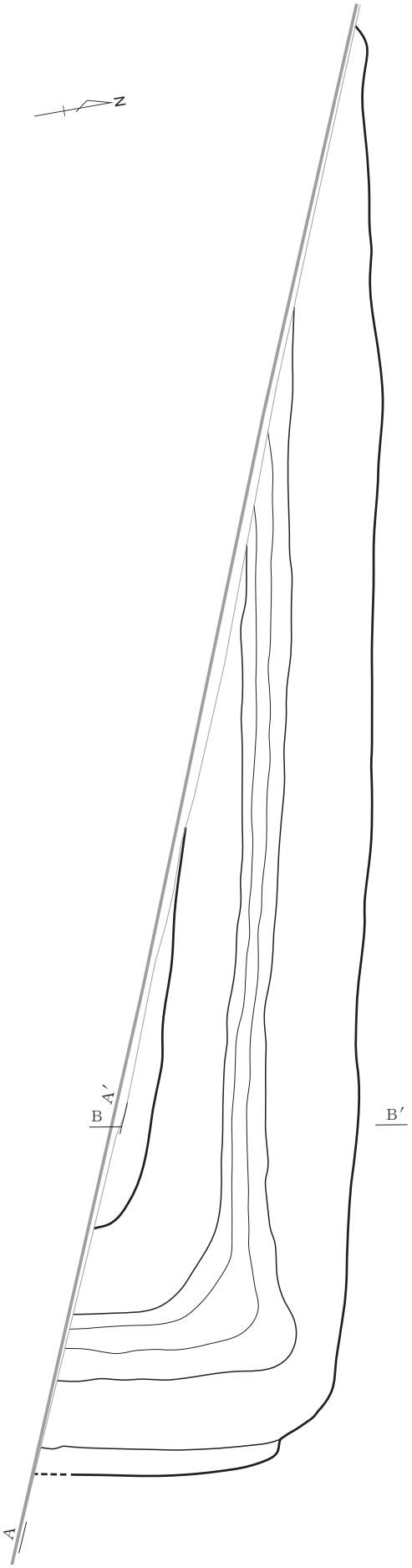
Ｍ－２・３号溝（第 194 図）

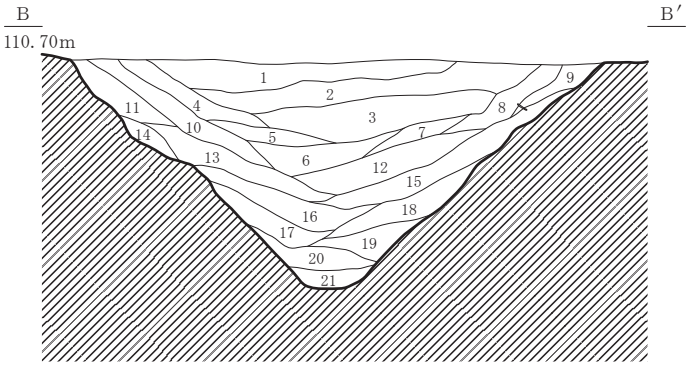
位置：Dh-55、Di-55、Dj-55・56、DK-56～58、Dl-58・59 グリッド。**平面形態**：東西のＭ－２号溝と南北のＭ－３号溝は同一の溝と考えられる。Ｍ－２東端は途切れる。**重複**：Ｍ－２号溝がＤ -41 号土坑を切る。**規模**：上端幅 52～103 ㎝、下端幅 10～45 ㎝。**深度**：27 ㎝。**主軸方位**：Ｍ－３号溝がＮ -9°- Ｅ。**覆土**：褐灰色土。**出土遺物**：なし。**時期**：不明。

９．埋没谷・隧道状遺構

埋没谷（第 196 図、PL. 31）

位置：２区西端、３区東端。Cu-19 ～ 26、Cv-22 ～ 27、Cw-24 ～ 26 グリッド。**平面形態**：北北東－南南西方向に走行する。谷頭は南南西側に位置すると推測され、北北東側は段丘崖につながる。横断面は緩い弧状を呈する（確認面：As-YP 層上面）。**重複**：中央から東斜面でＳＵ -1、西斜面で灰黄褐色土を覆土とするピット群と重複する。**規模**：幅 25 ｍ、比高差 1.8 ｍ。**主軸方位**：Ｎ -19°- Ｅ。**覆土**：表土下には、谷の西半にまとまった As-A 一次堆積層（Ⅱ層）、中央に As-B 混入土層（Ⅲ層）が見られる。その下には黒色土（Ⅳａ層）、暗褐色～黒褐色土（Ⅳｂ）、明るい暗褐色土（Ⅳｃ層）、締りのある暗褐色土（Ⅴ層）が凹状に埋没する。以下には As-YP 漸移層（Ⅵ層）、As-Yp 一次堆積層（Ⅶ層）、明褐色ローム層（Ⅷ層）の堆積が確認された。**出土遺物**：Ⅳ層で土師器片が、Ⅴ層



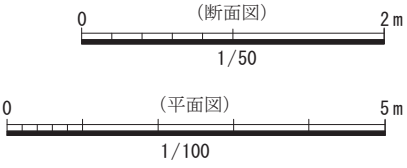


M-1 B断面土層注記

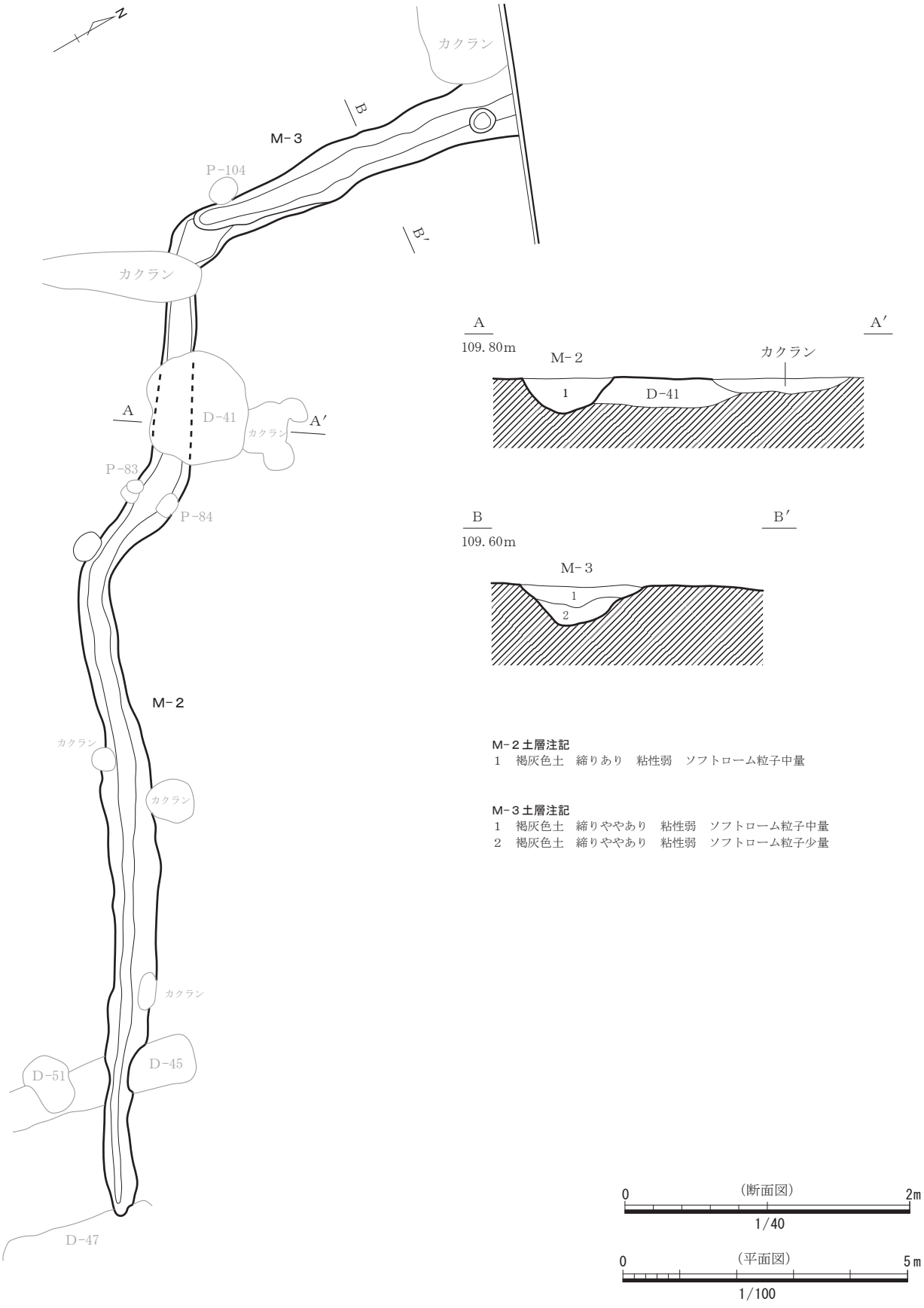
1 灰白色土 締りなし 粘性なし As-A
2 黄橙色土 締りあり 粘性弱 ソフトローム主体
3 黄橙色土 締り強 粘性弱 ソフトローム主体
4 黄橙色土 締りあり 粘性弱 ソフトローム主体
5 黄橙色土 締りややあり 粘性弱 ソフトローム主体
6 黄橙色土 締りあり 粘性弱 ソフトローム主体
7 褐色土 締りあり 粘性弱 ソフトローム主体
8 暗褐色土 締りあり 粘性弱 ローム粒子多量
9 暗褐色土 締りあり 粘性弱 ローム粒子中量
10 褐色土 締りあり 粘性ややあり ローム粒子中量
11 暗褐色土 締り弱 粘性弱 ローム粒子少量
12 褐色土 締りあり 粘性弱 ローム粒子多量
13 褐色土 締り弱 粘性弱 ローム粒子中量
14 黄褐色土 締り弱 粘性弱 ローム粒子多量
15 褐色土 締りやや弱 粘性弱 ローム粒・As-B 少量
16 黄褐色土 締りあり 粘性ややあり ローム粒子多量
17 黒褐色土 締りあり 粘性ややあり ローム粒子中量
18 褐色土 締り強 粘性弱 ローム粒子少量
19 暗褐色土 締り強 粘性ややあり ローム粒中量
20 暗褐色土 締り非常に強 粘性ややあり As-B 主体 ローム粒中量
21 暗褐色土 締り非常に強 粘性ややあり As-B 主体 白色粘質土粒中量

M-1 A断面土層注記

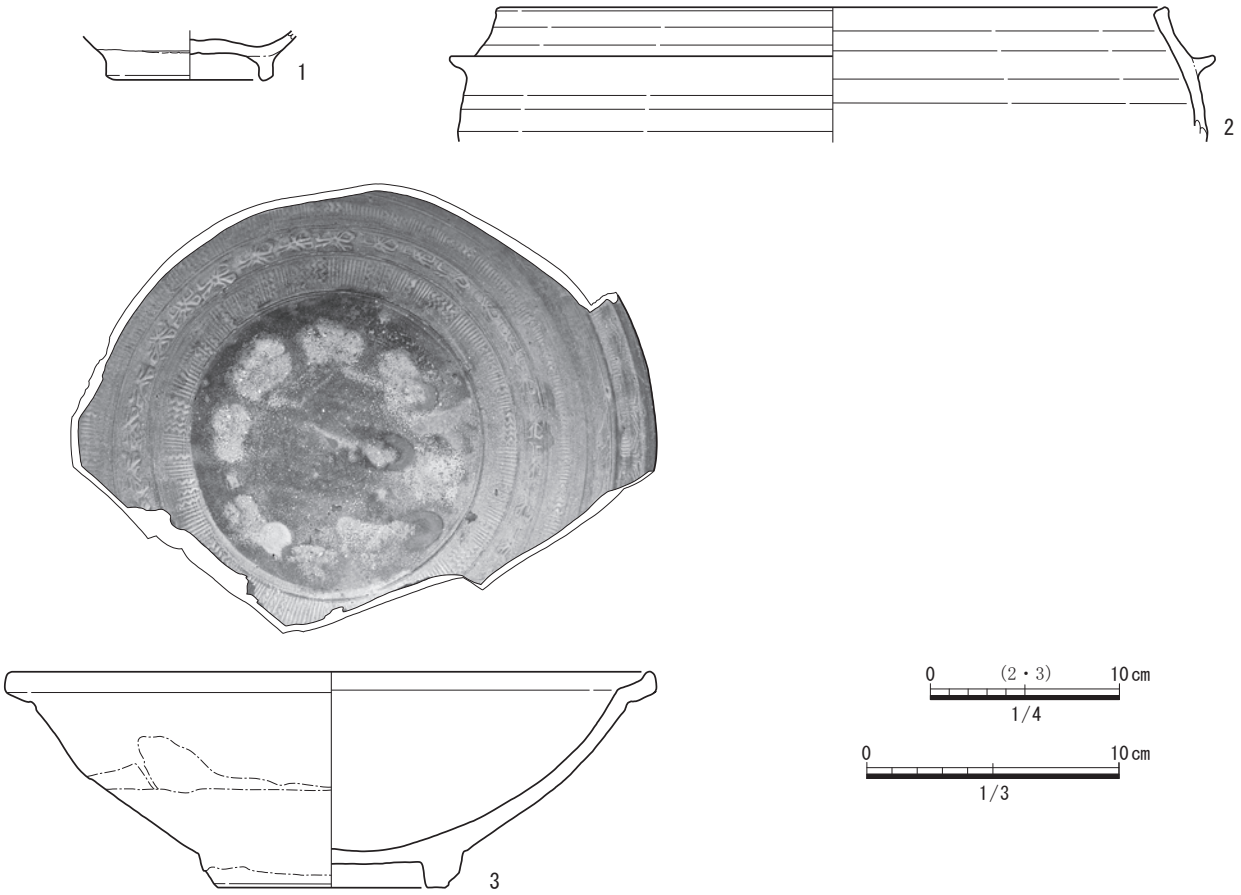
1 白色土 締り弱 粘性なし As-A 純層 二次堆積 下位に灰（ピンク）層あり
2 白色土 締り弱 粘性なし As-A 純層 一次堆積 下位に灰（ピンク）層あり
3 灰黄褐色土 締りあり 粘性あり ローム粒子多量 褐色粘質土主体
4 黄褐色土 締りあり 粘性弱 ローム主体
5 黄褐色土 締りあり 粘性弱 ローム主体
6 黄褐色土 締りあり 粘性弱 ローム主体
7 黄褐色土 締りあり 粘性弱 ローム主体
8 黄褐色土 締りあり 粘性弱 ローム主体
9 黄褐色土 締りあり 粘性弱 ローム主体
10 黄褐色土 締りあり 粘性弱 ローム主体
11 黄褐色土 締りあり 粘性弱 ローム主体
12 黄褐色土 締りあり 粘性弱 ローム主体
13 黄褐色土 締りあり 粘性弱 ローム主体
14 黄褐色土 締りあり 粘性弱 ローム主体
15 黄褐色土 締りあり 粘性弱 ローム主体
16 暗褐色土 締りあり 粘性ややあり ローム粒φ1.0～5.0cm 少量
17 暗褐色土 締りあり 粘性ややあり ローム粒主体
18 暗褐色土 締りあり 粘性ややあり ロームブロックφ3.0～5.0cm 中量
19 暗褐色土 締りあり 粘性ややあり 黒色土粒多中量
20 黒褐色土 締りややあり 粘性ややあり ローム粒子多量
21 黒褐色土 締りややあり 粘性ややあり ローム粒子少量
22 暗褐色土 締りあり 粘性ややあり ロームブロックφ1.0～3.0cm 多量
23 黒褐色土 締りあり 粘性強 ローム粒少量
24 黄褐色土 締りあり 粘性ややあり ローム粒多量
25 黄褐色土 締りあり 粘性ややあり ロームブロックφ1.0～2.0cm 中量
26 黒褐色土 締りあり 粘性強 ローム粒中量
27 灰黄褐色土 締りあり 粘性強 細砂・ローム粒子多量



第193図 M－1号溝遺構図②



第 194 図　Ｍ－２・３号溝遺構図



第 195 図　M－１号溝遺物実測図

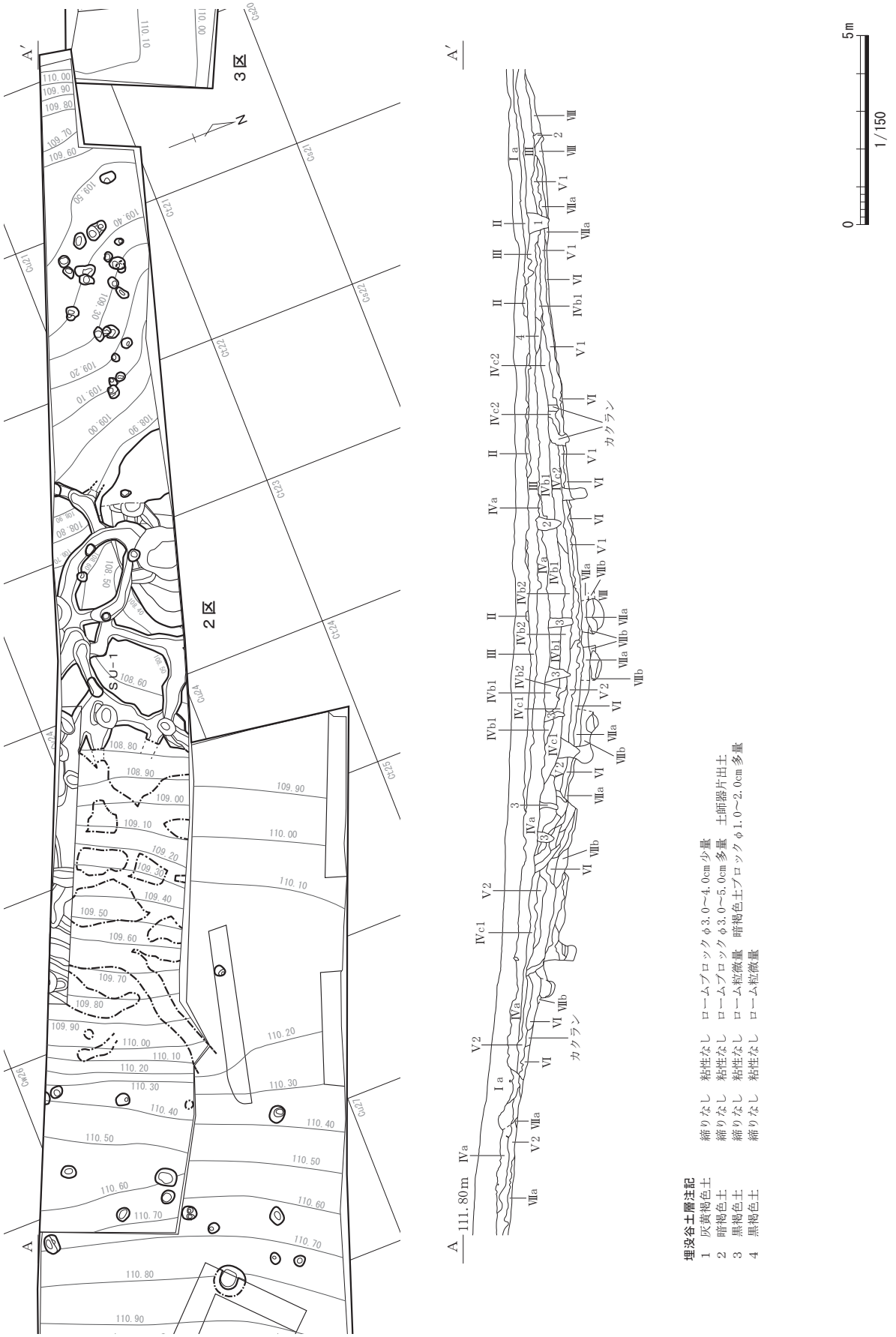
第 88 表　M－１号溝出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)（推定値）		残存	色調	胎土	焼成	成整形の特徴	備考（出土層位等）
1	須恵器 埦	口径 底径 器高	－ (6.6) －	体部～底部残存	外：浅黄 2.5Y7/3 内：浅黄 2.5Y7/3	片岩、チャート	未還元	ロクロ成形、底部回転糸切り摩滅 外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	覆土出土
2	羽釜	口径 底径 器高	(35.5) － －	口縁部～胴部破片	外：灰黄 2.5Y7/2 内：灰黄 2.5Y7/2	石英、白色粒	普通	ロクロ成形 外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	覆土出土
3	肥前 大皿	口径 底径 器高	(34.4) 12.0 11.4	口縁部～体部 3/4 欠損	胎土：にぶい赤褐 5YR5/3 化粧土：灰白 5Y7/2	緻密、石英	良好	外：体部下半錆釉 内：象嵌で唐草文を施す（三島手）	覆土出土

で縄文土器片（縄文時代中期～後期）がわずかに出土した。**時期**：出土遺物からⅤ層が縄文時代、Ⅳ層が古墳時代～平安時代に埋没したことが予想される。中世以降のⅢ層下でも谷は若干窪んでいたようである。

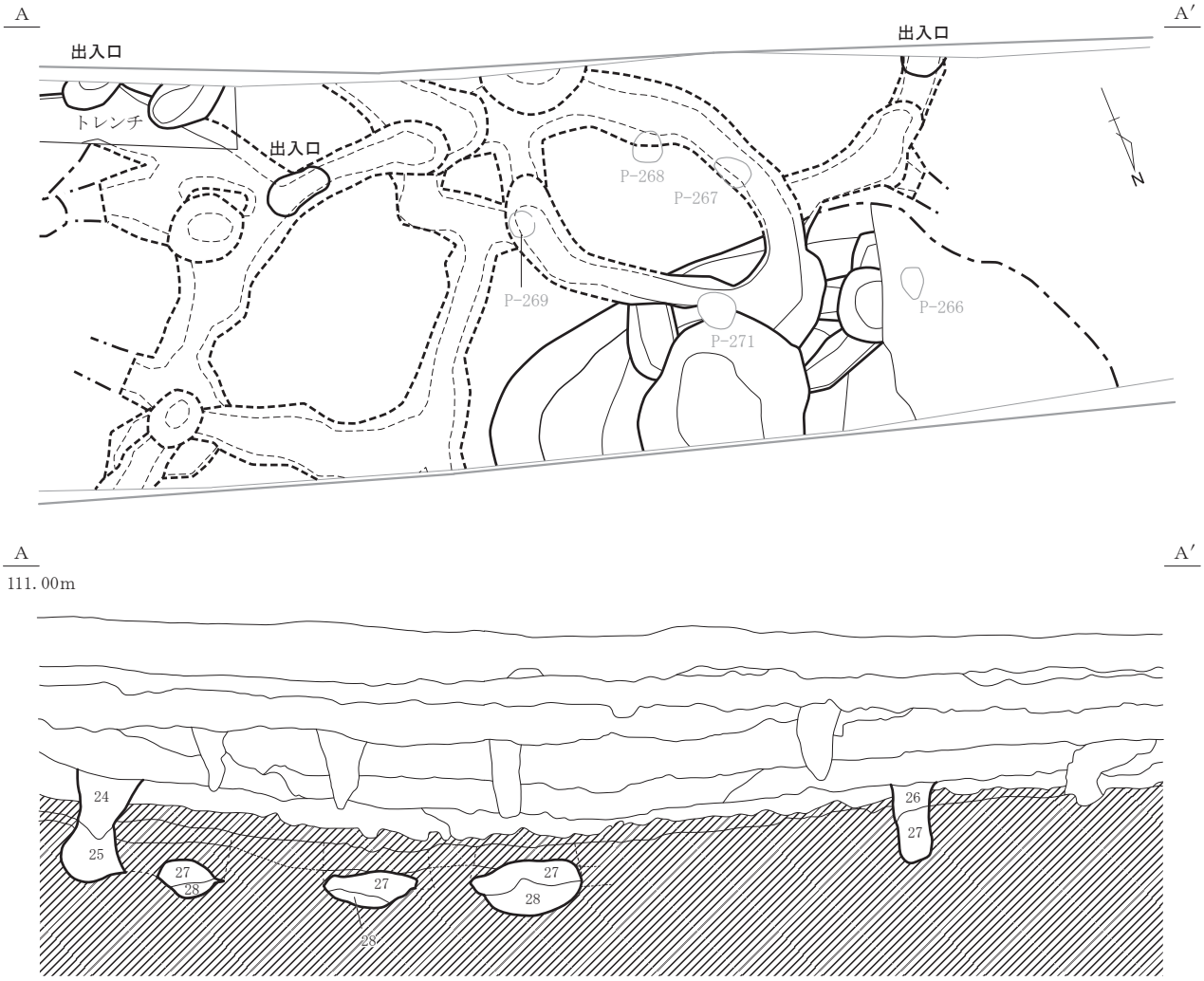
ＳＵ－１号隧道状遺構（第 197・198 図、PL.30・31）

位置：２区西端。Cu-22 ～ 24、Cv-22 ～ 26、Cw-24・25 グリッド。埋没谷の中央から東斜面を占める。**平面形態**：湾曲する隧道が網目状に入組み、一部の交点で浅い掘り込みが見受けられる。残存する隧道の天井は断ち割りながら調査を進めた（図破線部分）。工程との兼ね合いで東斜面部分の掘削調査は叶なわず、調査区南壁際のトレンチと確認状況の記録（図一点鎖線部分）に留めた。隧道の掘削は、締りの弱い As-YP 一次堆積層下位の粗い軽石層が狙われていたようで、掘削深度が谷地形の傾斜に沿う。出入口に想定される小穴（長軸 56 × 32 ㎝）が散見された。隧道群北西側や調査区南壁の一部では隧道が崩落した状態が窺われる。**重複**：Ｐ -266 ～ 269・271 と重複し、本遺構が古い。**規模**：隧道の幅 32 ～ 65cm、高さ 31 ～ 65 ㎝を計る。**覆土**：As-YP 軽石を多く含む締り



第 196 図　埋没谷遺構図

第 197 図　ＳＵ－１号隧道状遺構遺構図①



ＳＵ－１土層注記

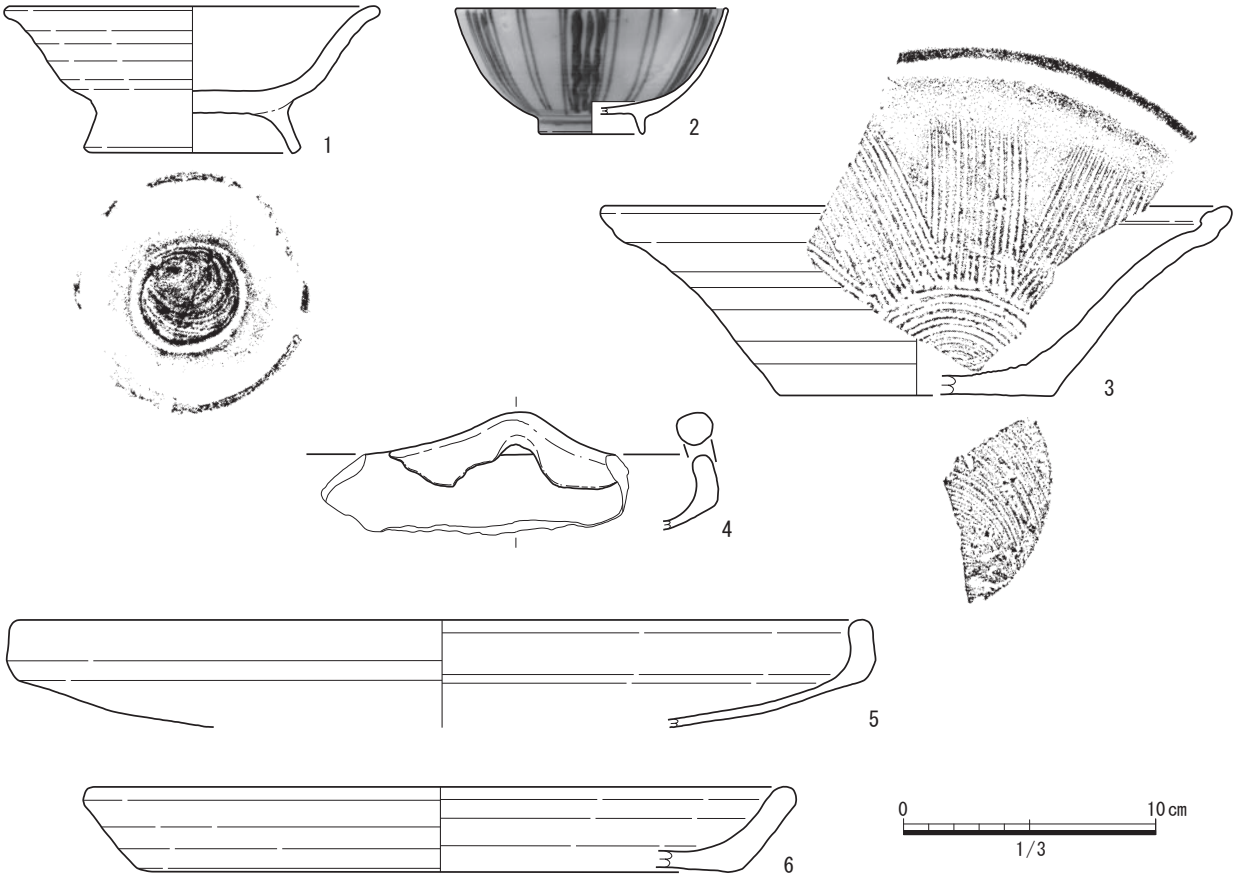
1	灰黄褐色土	締り弱　粘性なし　ローム粒多量　炭化物微量
2	黄褐色土	締り弱　粘性なし　ローム粒多量　ロームブロックφ5.0～10.0cm大量
3	暗褐色土	締り弱　粘性なし　ローム粒多量
4	黄褐色土	締り弱　粘性なし　ローム粒微量　黒褐色土ブロックφ2.0～4.0cm多量
5	灰黄褐色土	締り弱　粘性なし　ローム粒多量
6	黄褐色土	締り弱　粘性なし　ロームブロック主体
7	灰黄褐色土	締り弱　粘性なし　ローム粒少量
8	黒褐色土	締り弱　粘性なし　ローム粒多量
9	暗褐色土	締り弱　粘性なし　ローム粒多量　黒褐色土ブロックφ2.0～4.0cm少量
10	黄褐色土	締り弱　粘性なし　ロームブロック主体
11	灰黄褐色土	締り弱　粘性なし　ローム粒多量　ロームブロックφ4.0～5.0cm多量
12	灰黄褐色土	締り弱　粘性なし　ローム粒多量　黒褐色土ブロックφ2.0～4.0cm多量
13	灰黄褐色土	締りややあり　粘性なし　ローム粒多量
14	黒色土	締り弱　粘性なし　ローム粒多量
15	明褐色土	締りややあり　粘性なし　ローム粒少量
16	灰黄褐色土	締りややあり　粘性なし　ローム粒多量　褐色土ブロックφ2.0～3.0cm多量
17	明褐色土	締りややあり　粘性なし　ローム粒少量
18	黒褐色土	締り弱　粘性なし　ローム粒少量
19	灰黄褐色土	締り弱　粘性なし　ローム粒少量
20	黒褐色土	締り弱　粘性なし　ローム粒微量
21	黒褐色土	締りややあり　粘性なし　ローム粒多量
22	暗褐色土	締り弱　粘性なし
23	灰黄褐色土	締りなし　粘性なし　ローム粒多量
24	暗褐色土	締りややあり　粘性なし　ローム粒多量　褐色土ブロックφ2.0～3.0cm多量
25	黒褐色土	締りややあり　粘性なし　ローム粒大量
26	灰黄褐色土	締りややあり　粘性なし　ローム粒多量
27	黒色土	締り弱　粘性なし　ローム粒大量
28	明黄褐色土	締りややあり　粘性なし　ローム粒多量

第198図　ＳＵ－１号隧道状遺構遺構図②

の弱い黒色土ないしⅧ層由来の明褐色土で埋没する。**出土遺物**：出土量はわずかで、縄文土器や土師器の細片が検出された程度である。**時期**：埋没谷との層準から古墳時代～平安時代に想定される。**備考**：遺構の形状からアナグマの巣跡に比定される。

10. 遺構外出土遺物

2 区のカクランからは、須恵器埦（1）のほか、近世の資料が得られた（第 199 図、第 89 表、PL88・90）。肥前磁器碗（2）、瀬戸錆釉擂鉢（3）、焙烙（4 ～ 6）などがある。As-A が介在するＤ -17・27 号土坑、Ｍ -1 号溝上層との関連が窺われる。



第 199 図　奈良時代以降遺構外遺物実測図

第 89 表　奈良時代以降遺構外出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)（推定値）		残存	色調	胎土	焼成	成整形の特徴	備考（出土層位等）
1	須恵器埦	口径 底径 器高	(14.9) (8.6) 5.8	口縁部～体部 1/2 欠損	外：にぶい黄 2.5Y6/4 内：にぶい黄 2.5Y6/4	チャート、白色粒	未還元	ロクロ成形、底部回転糸切り 外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	2 区カクラン出土
2	肥前磁器碗	口径 底径 器高	(10.8) (4.2) 5.0	口縁部～底部 1/2	外：灰白 N8/0 内：灰白 N8/0	緻密	良好	透明釉 外：縞文の染付 内：	2 区カクラン出土
3	瀬戸擂鉢	口径 底径 器高	(25.0) (10.9) 7.5	口縁部～底部 1/2	外：暗褐 7.5YR3/4 内：暗褐 7.5YR3/4	白色粒	良好	底部回転糸切り、内外面錆釉 外：体部回転ヘラケズリ 内：櫛歯 14 本	2 区カクラン出土
4	焙烙	口径 底径 器高	－ － －	口縁部～体部破片	外：黒褐 5YR2/1 内：にぶい赤褐 5YR5/4	石英、白色粒	良好	外：口縁部ヨコナデ 内：口縁部ヨコナデ 外面煤付着	2 区カクラン出土
5	焙烙	口径 底径 器高	(34.2) － －	口縁部～体部 2/3 残存	外：黒褐 7.5YR3/2 内：にぶい褐 7.5YR5/4	石英、白色粒	良好	外：口縁部ヨコナデ 内：口縁部～体部ヨコナデ 外面煤付着	2 区カクラン出土
6	焙烙	口径 底径 器高	(28.3) (24.0) 3.4	口縁部～体部 1/4 残存	外：にぶい褐 7.5YR5/4 内：にぶい褐 7.5YR5/4	石英	良好	外：口縁部ヨコナデ 内：口縁部～体部ヨコナデ	2 区カクラン出土

第７節　自然科学分析

１．テフラ分析

早田　勉（㈱火山灰考古学研究所）

１．はじめに

関東地方北西部に位置する群馬県域には、赤城、榛名、浅間など北関東地方とその周辺に分布する火山のほか、中部地方や中国地方、さらには九州地方など遠方に位置する火山から噴出したテフラ（火山砕屑物，いわゆる火山灰）が数多く降灰している。とくに、後期更新世後半以降に降灰したそれらの多くについては、層相や年代さらに岩石記載的特徴がテフラ・カタログ（町田・新井，1992，2003，2011，早田，1996）などに収録されており、わが国の第四紀研究を特徴づける火山灰編年学の手法によって、考古遺跡においても遺物包含層や遺構の詳しい層位解明や年代推定ができるようになっている。

そこで、層位や年代が不明な石器が検出された藤岡市三ツ木東原Ｃ遺跡の発掘調査区においても、地質調査を行ってテフラ層を含む土層の層序を記載するとともに、高純度で採取した試料を対象に、実験室内でテフラ分析（テフラ検出分析・火山ガラス比分析・火山ガラスの屈折率測定）を実施して、すでに年代が明らかにされている指標テフラの検出同定を行い、土層の層序や石器検出層準の層位や年代を明らかにすることになった。

２．調査地点の土層層序

土層断面観察の対象となった地点は、7 トレンチ北壁、1 トレンチ拡張部南壁、4 トレンチ南方壁、2b トレンチ北壁の４地点である。各地点における層序を次に記す。

（１）7 トレンチ北壁

東部深掘トレンチでは、下位より緑灰色粘土層（層厚 21cm 以上）、灰色粘土層（層厚 16cm）、やや緑色がかった灰色粘土層（層厚 12cm）、灰色粘土層（層厚 36cm）、上部に灰色粘質土で充填されたクラックが発達する暗褐色粘質土（層厚 35cm）、やや褐色がかった灰色粘質土（層厚４cm）、成層したテフラ層（層厚 15cm）が認められる（第 200 図）。

このうち、成層したテフラ層は、下部の白色細粒軽石混じりで風化がやや進んだ灰黄色粗粒火山灰層（層厚５cm，軽石の最大径２mm）と、上部の橙色粗粒軽石層（層厚 10cm，軽石の最大径８mm，石質岩片の最大径２mm）からなる。このテフラ層は、層相から、浅間火山から約 2.9 ～ 2.4 万年前の間に噴出した浅間板鼻褐色軽石群（As-BP Group，新井，1962，町田・新井，1992，2003，2011，早田，2016）のうち、最下部の室田軽石（As-MP，森山，1971，早田，1990，関口ほか，2011 など）に由来する可能性が高い。

（２）1 トレンチ拡張部南壁

１トレンチ拡張部南壁では、下位より上部に灰色粘質土で充填されたクラックが発達する暗褐色粘質土（層厚 22cm 以上）、灰色粘質土（層厚２cm）、やや風化した黄白色細粒火山灰層（レンズ状，最大層厚１cm）、褐色がかった灰色粘質土（層厚３cm）、成層したテフラ層（層厚 12cm 以上）が認められる（第 200 図）。このうち、成層したテフラ層は、下部の風化が進んだ灰色粗粒火山灰層（層厚４cm）と、上部の橙色粗粒軽石層（層厚８cm 以上，軽石の最大径７mm，石質岩片の最大径２mm）からなる。このテフラ層も層相から As-MP に同定される。

（３）4 トレンチ南壁

４トレンチ南方では、7 トレンチ北壁や 1 トレンチ拡張部南壁で認められた As-MP の上位に、下位より暗灰褐色土（層厚 25cm）、粒径が揃った黄灰色粗粒火山灰層（ブロック状，最大層厚３cm）、褐色土（層厚３cm）、黒灰色

粗粒火山灰を多く含む橙色細粒軽石層（層厚６cm，軽石の最大径３mm）、炭化物混じり暗灰色土（層厚４cm）、軽石に富む黄橙色軽石層（ブロック状，最大層厚６cm，軽石の最大径４mm，石質岩片の最大径２mm）、褐色土（層厚 10cm 以上）が認められる（第200図）。これらのうち、黄灰色粗粒火山灰層、黒灰色粗粒火山灰を多く含む橙色細粒軽石層、軽石に富む黄橙色軽石層の３層は、層位や層相から、As-MPより上位のAs-BP Group構成層と考えられる。

（４）2b トレンチ北壁

2b トレンチ北壁では、下位より暗灰褐色粘質土（層厚 13cm 以上）、褐色がかった灰色粘質土（層厚４cm）、成層したテフラ層（層厚 18cm）、暗灰褐色土（層厚 16cm）、橙色軽石に富む灰色褐色土（ブロック状，最大層厚 10cm，軽石の最大径４mm）、褐色砂質土（層厚４cm）、炭化物混じり暗灰褐色土（層厚３cm）、黄橙色軽石にロム褐色土（ブロック状，最大層厚13cm，軽石の最大径４mm）、砂混じり黄褐色土（層厚 12cm）、やや灰色がかった褐色土（層厚 13cm）、黄白色粗粒火山灰を多く含むやや灰色がかった褐色土（層厚 12cm）、黄白色粗粒火山灰を多く含むやや黄色がかった褐色土（層厚７cm）、粗粒の黄色軽石に富むやや黄色がかった黄色土（ブロック状，最大層厚３cm，軽石の最大径９mm）、やや黄色がかった褐色土（層厚 10cm）、表土（層厚 22cm）が認められる（第200図）。

このうち、成層したテフラ層は、下位より風化がやや進んだ黄色粗粒火山灰層（層厚４cm）、風化がやや進んだ黄白色粗粒火山灰層（層厚３cm）、逆級化構造をもつ黄橙色粗粒軽石層（層厚 11cm，軽石の最大径 12mm，石質岩片の最大径２mm）からなる。このテフラ層も、その層相から As-MP に同定される。

今回の発掘調査では、最上部付近の粗粒の黄色軽石に富むやや黄色がかった黄色土ブロックの直下の、黄白色粗粒火山灰を多く含むやや黄色がかった褐色土から石器が検出されている。

３．テフラ検出分析

（１）分析試料と分析方法

７トレンチ北壁、１トレンチ拡張部南壁、2b トレンチ北壁の３地点において採取された試料のうち、18 点を対象に、テフラ粒子の量や特徴を定性的に把握するテフラ検出分析を実施した。分析の手順は次の通りである。

１）試料 10g ずつを電子天秤で秤量。

２）超音波洗浄により泥分を除去。

３）恒温乾燥器を用いて 80℃で乾燥。

４）実体顕微鏡下でテフラ粒子の量や特徴を観察。

（２）分析結果

テフラ検出分析の結果を第 90 表に示す。７トレンチ北壁では、試料７以上の試料から無色透明のバブル型ガラスが検出された。試料７および試料５での検出量はごくわずかであるが、試料３ではやや多い傾向にある。磁鉄鉱など不透明鉱物以外の重鉱物（以下、重鉱物とする）には、試料９以上で斜方輝石、単斜輝石、角閃石が認められた。一方、試料９より下位から火山ガラスは検出されず、試料 11 以下の重鉱物も、角閃石や斜方輝石がわずかずつ認められる程度で、とくに特徴的なテフラの降灰層準が認められない。この地点で認められた無色透明のバブル型ガラスは、１トレンチ拡張部南壁の試料１に多く含まれている。この試料には、ほかに無色透明の繊維束状軽石型ガラスも認められる。重鉱物は、角閃石や斜方輝石がわずかに認められる程度である。

2b トレンチ北壁では、いずれの試料でも火山ガラスを認めることができた。その多くは、淡灰色や無色透明の中間型である。この火山ガラスは試料３や試料２でやや多い。試料７には、ほかに、灰白色や白色のスポンジ状軽石型も認められる。いずれにおいても、重鉱物には斜方輝石や単斜輝石が認められる。

４．火山ガラス比分析

（１）分析試料と分析方法

テフラ検出分析対象試料のうち、石器の層位がわかる 2b トレンチ北壁と、1 トレンチ拡張部南壁の試料を対象に、火山ガラスの形態別（一部色調別）含有率、さらに軽鉱物および重鉱物の含有率を求める火山ガラス比分析を行った。分析の手順は次の通りである。

１）テフラ検出分析済みの対象試料について、分析篩により 1/4mm-1/8mm と 1/8-1/16mm の粒子を篩別。

２）1/4mm-1/8mm の 250 粒子を偏光顕微鏡で観察して、火山ガラス（形態色調別）、軽鉱物、重鉱物の含有率を求める。

３）偏光顕微鏡下で 1/4-1/8mm の 250 粒子を観察し、火山ガラスの形態別（一部色調別）の含有率、また軽鉱物や重鉱物の含有率を求める。

（２）分析結果

火山ガラス比分析の結果を、ダイヤグラムにして第 201 図に、また分析結果の内訳を第 91 表に示す。1 トレンチ拡張部南壁の試料１には、火山ガラスが 48.0％と高率で含まれている。火山ガラスには、含有率が高い順に無色透明バブル型（43.6％）、繊維束状軽石型（3.2％）、中間型（1.2％）が認められる。軽鉱物と重鉱物の含有率はそれぞれ 29.2％と 6.0％である。

2b トレンチ北壁では、試料３や試料２で火山ガラスの含有率が高い傾向にある（10.0％，10.4％）。含有率が高い順に、前者には中間型（7.2％）、繊維束状軽石型（1.6％）、スポンジ状軽石型（1.2％）、後者にも中間型（6.0％）、繊維束状軽石型（2.4％）、スポンジ状軽石型（2.0％）が含まれている。軽鉱物と重鉱物の含有率もそれぞれ 59.6％と 23.2％、60.4％と 21.6％で。よく似た傾向にある。

これらより上位の試料１における火山ガラスの含有率はさほど高くない（4.4％）。ただ、認められる火山ガラスは、やはり中間型（3.2％）、繊維束状軽石型（1.2％）、スポンジ状軽石型（0.4％）である。軽鉱物と重鉱物の含有率は 74.8％と 14.0％で、軽鉱物の含有率が高い。

５．屈折率測定

（１）測定試料と測定方法

石器包含層から採取された 2b トレンチ北壁の試料２に含まれる火山ガラスについて、温度変化型屈折率測定法（壇原，1993）によって火山ガラスの屈折率測定を実施した。測定対象は、篩別により得られた 1/8-1/16mm 粒子中の火山ガラスである。

（２）測定結果

屈折率測定の結果を第 92 表に示す。2b トレンチ北壁の試料２に含まれる火山ガラス（32 粒子）の屈折率（n）は、1.500-1.504 である。

６．考察

1 トレンチ拡張部南壁において、As-MP の下位に認められたやや風化した黄白色細粒火山灰層は、層位や岩相、さらに無色透明のバブル型ガラスを多く含むことから、約 3 ～ 2.8 万年前に南九州地方の姶良カルデラから噴出した姶良 Tn 火山灰（AT，町田・新井，1976，1992，2003，2011）に同定される。したがって、7 トレンチ北壁におけるテフラ検出分析で検出された無色透明のバブル型ガラスも、AT に由来すると考えられる。この地点では、比較的下位からも AT 由来の火山ガラスが検出されているが、これは、AT 降灰後にもクラックの形成が継続され

たことなどによる攪乱の影響と考えられる。

また、As-MP の上位に認められた軽石質の３層のテフラ層は、As-MP より上位の As-BP Group 構成層と考えられる。早田（2016）は、安中市松井田町横川の露頭の調査分析の結果をもとに、As-MP より上位に松井田１～11（Mt1 ～ 11）の 11 層のテフラが存在していることを明らかにして、As-MP を含め渋川方面に追跡した結果を報告している。これらのテフラと、本遺跡で認められたテフラとの詳細な対応関係に関しては、今後の横川－藤岡間でのテフラ層序学的調査に期待したい。

2b トレンチ北壁における試料３で採取された、やや灰色がかった褐色土に多く含まれる黄白色粗粒火山灰は、その層位や中間型ガラスを比較的多く含むことから、約２万年前前後に浅間火山から噴出した浅間大窪沢第軽石群（As-Ok Group，中沢ほか，1984，町田･新井，1992，2003，2011 早田，1996，2016）に由来すると考えられる。また、その上位の土層中に濃集した粗粒の黄色軽石は、その層位や岩相などから、約 1.5 ～ 1.65 年前に浅間火山から噴出した浅間板鼻黄色軽石（As-YP，新井，1962，町田・新井，1992，2003，2011 など）に由来すると考えられる。

テフラ検出分析、火山ガラス比分析、そして火山ガラスの屈折率測定の対象になった 2b トレンチ北壁の試料２に含まれる火山ガラスは、その層位、形態、色調、屈折率特性、さらに前後のテフラの産状を合わせると、As-Ok Group に由来するものが多いと推定される。ただし、一見、遺物包含層より上位にあるように見える As-YP は軽石の濃集ブロックで、明確な As-YP の一次堆積層ではないことを考慮すると、発掘調査で検出された石器は、As-YP の濃集ブロック混じりの土層、つまりより上位の土層中から検出された可能性が十分に考えられる。

７．まとめ

藤岡市三ツ木東原Ｃ遺跡において地質調査を行って土層やテフラを観察するとともに、高純度で採取した試料を対象にテフラ分析（テフラ検出分析・火山ガラス比分析・火山ガラスの屈折率測定）を実施した。その結果、下位より姶良 Tn 火山灰（AT，約３～ 2.8 万年前）、室田軽石（As-MP）など浅間板鼻褐色軽石群（As-BP Group，約 2.9 ～ 2.4 万年前）のうちの４層、浅間大窪沢軽石群（As-Ok Group，約２万年前前後）、浅間板鼻黄色軽石（As-YP，約 1.5 ～ 1.65 万年前）などを検出できた。今回の発掘調査によってローム層中から検出された石器については、少なくとも As-Ok Group より上位で、さらに As-YP より上位の土層から検出された可能性が十分にある。

文献

新井房夫（1962）関東盆地北西部地域の第四紀編年．群馬大学紀要自然科学編，10，p.1-79.

新井房夫(1993) 温度一定型屈折率測定法.日本第四紀学会編「第四紀試料分析法２」,東京大学出版会,p.136-149.

壇原　徹(1993) 温度変化型屈折率測定法.日本第四紀学会編「第四紀試料分析法２」,東京大学出版会,p.149-158.

町田　洋・新井房夫（1976）広域に分布する火山灰－姶良Tn火山灰の発見とその意義－.科学,46,p.339-347.

町田　洋・新井房夫（1992）「火山灰アトラス」．東京大学出版会，276p.

町田　洋・新井房夫（2003）「新編火山灰アトラス」．東京大学出版会，336p.

町田　洋・新井房夫（2011）「新編火山灰アトラス（第２刷）」．東京大学出版会，336p.

森山昭雄(1971) 榛名火山東･南山麓の地形－とくに軽石流の地形について－.地理学報告,No.36･37,p.107-116.

中沢英俊･新井房夫･遠藤邦彦(1984)　浅間火山,黒斑～前掛期のテフラ層序.日本第四紀学会講演要旨集,no.14,p.69-70.

関口博幸・早田　勉・下岡順直（2011）群馬の旧石器編年のための基礎的研究－関東地方北西部における石器群の出土層位、テフラ層序、数値年代の整理と検討－．群馬県埋蔵文化財調査事業団研究紀要，29，p.1-20.

第 90 表　テフラ検出分析結果

地点	試料	軽石・スコリア			火山ガラス			重鉱物
		量	色調	最大径	量	形態	色調	(不透明鉱物以外)
7トレンチ北壁	3				*	bw	無色透明	opx, cpx, am
	5				(*)	bw	無色透明	opx, cpx, am
	7				(*)	bw	無色透明	opx, cpx, am
	9							opx, cpx, am
	11							(am, opx)
	13							(am, opx)
	15							(am, opx)
	17							(am, opx)
	19							(am, opx)
	21							(am, opx)
	23							(am, opx)
	25							(am, opx)
1トレンチ拡張部南壁	1				***	bw>pm(fb)	無色透明	(am, opx)
2bトレンチ北壁	1				(*)	md	淡灰	opx,, cpx
	2				*	md	淡灰, 無色透明	opx, cpx
	3				*	md	淡灰, 無色透明	opx, cpx
	5				(*)	md	淡灰	opx, cpx
	7				*	pm(sp), md	灰白, 白, 無色透明	opx, cpx

****:とくに多い, ***:多い, **:中程度, *:少ない, (*):とくに少ない. 最大径の単位:mm.

bw:バブル型, md:中間型, pm:軽石型, sc:スコリア型, opx:斜方輝石, cpx:単斜輝石, am:角閃石. 重鉱物の():量が少ないことを示す.

第 91 表　火山ガラス比分析結果

地点	試料	火山ガラス						軽鉱物	重鉱物	その他	合計
		bw(cl)	bw(pb)	bw(br)	md	pm(sp)	pm(fb)				
2bトレンチ北壁	1	0	0	0	8	1	3	187	35	16	250
	2	0	0	0	15	5	6	151	54	19	250
	3	0	0	0	18	3	4	149	58	18	250
	5	1	0	0	2	6	2	84	131	24	250
	7	0	0	0	6	9	1	106	119	9	250
1トレンチ拡張部南壁	1	109	0	0	3	0	8	73	15	42	250

bw:バブル型, md:中間型, pm:軽石型, sc:スコリア型, cl:無色透明, pb:淡褐色, br:褐色, sp:スポンジ状, fb:繊維束状. 数字は粒子数.

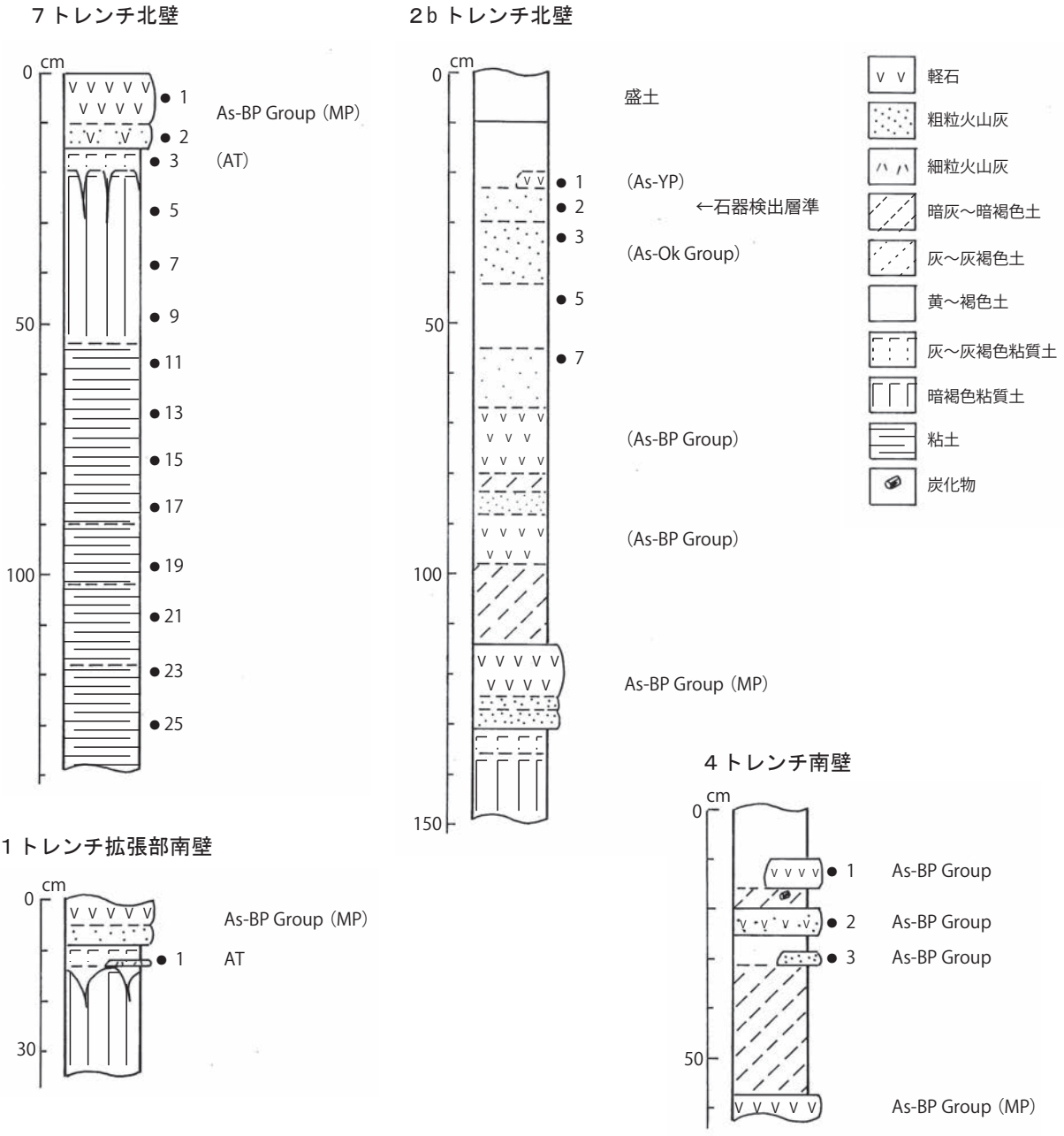
第 92 表　屈折率測定結果

地点・試料・テフラ	火山ガラス		文献
	屈折率(n)	測定点数	
三ツ木東原C遺跡・2bトレンチ北壁・試料2	1.500–1.504	32	本報告
関東平野北西部の後期更新世後半以降の代表的ガラス質指標テフラ			
浅間A(As–A, 1783年)	1.507–1.512		1)
浅間B(As–B, 1108年)	1.524–1.532		1)
榛名二ツ岳伊香保(Hr–FP, 6世紀中葉)	1.501–1.504		1)
榛名二ツ岳渋川(Hr–FA, 6世紀初頭)	1.500–1.502		1)
	1.498–1.505		2)
浅間C(As–C, 3世紀後半)	1.514–1.520		1)
浅間D軽石(As–D, 約4,500年前*1)	1.513–1.516		1)
鬼界アカホヤ(K–Ah, 約7,300年前)	1.506–1.513		1)
浅間藤岡軽石(As–Fo, 約8,200年前*1)	1.508–1.516		3), 4)
浅間総社(As–Sj, 約1.0～1.1万年前*1)	1.501–1.518		4)
浅間板鼻黄色(As–YP, 約1.5～1.65万年前)	1.501–1.505		1)
浅間大窪沢2(As–Ok2, 約2万年前)	1.502–1.504		1)
浅間大窪沢1(As–Ok1, 約2万年前)	1.500–1.502		1)
浅間板鼻褐色(群)(As–BP Group, 約2.4～2.9万年前) 上部:	1.515–1.520		1)
中部:	1.508–1.511		1)
下部:	1.505–1.515		1)
姶良Tn(AT, 約3万年前)	1.499–1.500		1)

*1:放射性炭素年代. 1):町田・新井(1992, 2011), 2):早田(2014), 3):早田(1996), 4):早田(未公表資料).

本報告・2):温度変化型屈折率法(壇原, 1993). 1)・3)・4):温度一定型屈折率測定法(新井, 1972, 1993).

早田　勉（1990）群馬の自然と風土．群馬県史編さん室編「群馬県史通史編１　原始古代１」，p. 37-129.
早田　勉（1996）関東地方～東北地方南部の示標テフラの諸特徴－とくに御岳第１テフラより上位のテフラについて－．名古屋大学加速器質量分析計業績報告書，７，p. 256-267.
早田　勉（2014）渋川市有馬寺畑遺跡におけるテフラ分析.渋川市教育委員会編「有馬寺畑遺跡」,p. 197-211.
早田　勉（2016）浅間板鼻褐色軽石群（As-BP Group）の層序と前橋泥流堆積物の層位．岩宿博物館・岩宿フォーラム実行委員会編「ナイフ形石器文化の発達期と変革期－浅間板鼻褐色軽石群降灰期の石器群」,p. 6-14.



第 200 図　土層柱状図

写真１　2bトレンチ北壁・試料２（透過光）
中央右下：繊維束状軽石型ガラス.

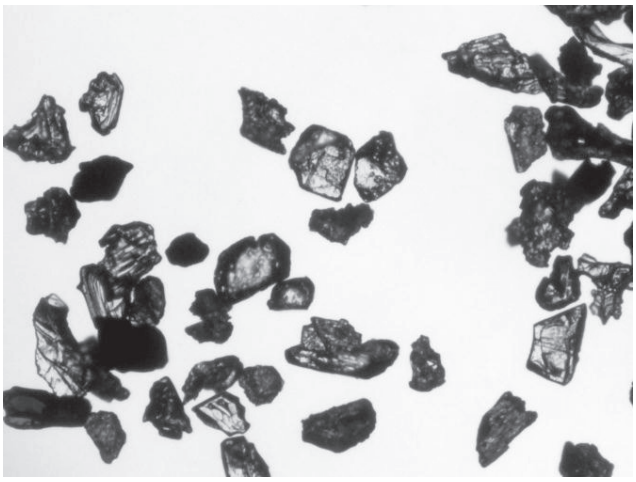


写真２　2bトレンチ北壁・試料３（透過光）
中央右上・中央左下など：中間型ガラス.

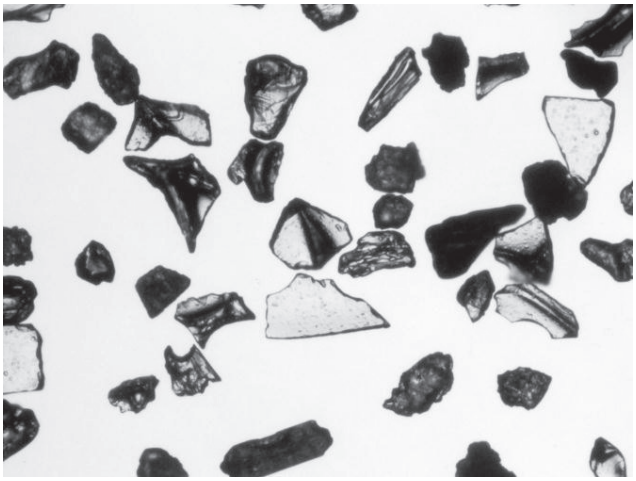


写真３　1トレンチ拡張部南壁・試料１（透過光）
中央など多数：無色透明バブル型ガラス.

0.2mm

第 201 図　テフラ分析写真

第Ⅴ章　上落合七輿遺跡

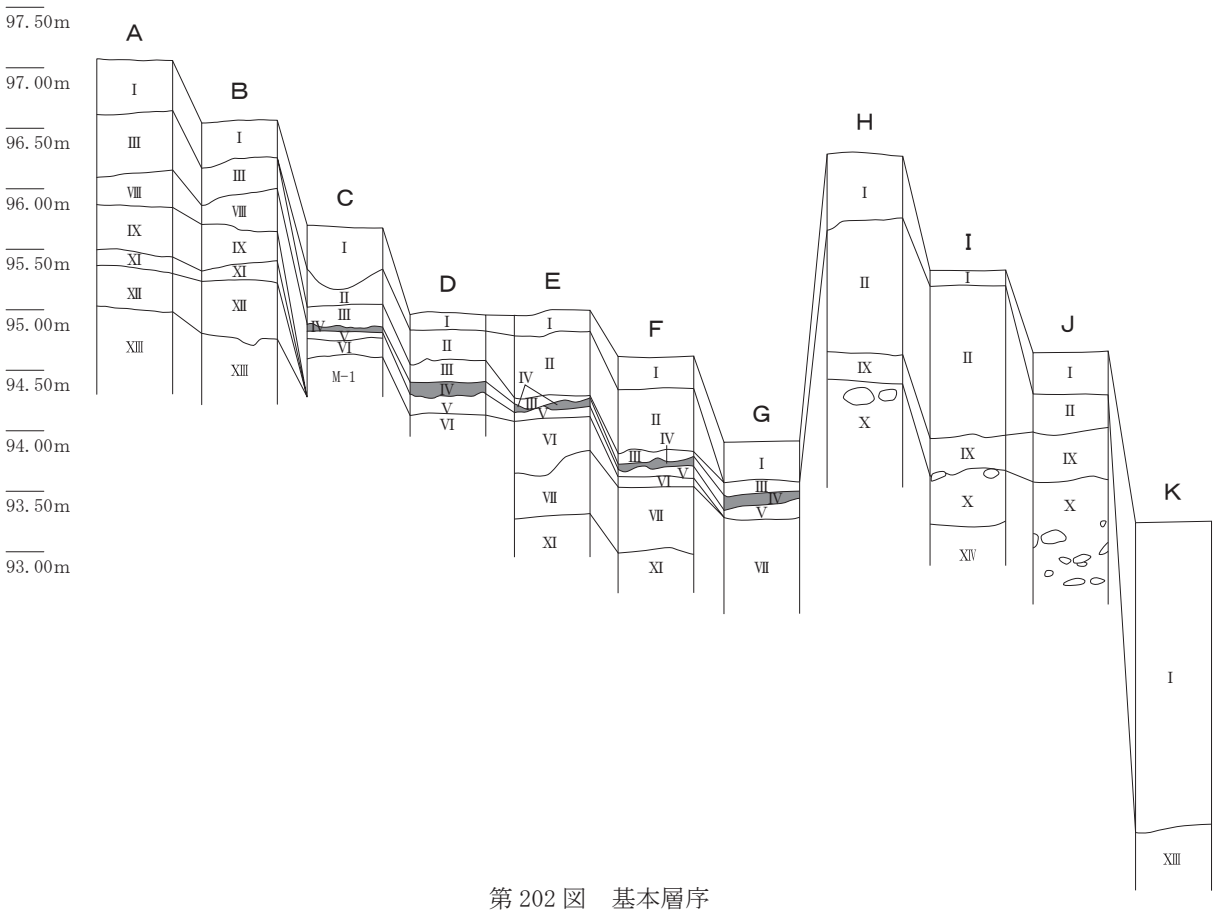
第１節　調査の概要

上落合七輿遺跡は鏑川右岸の河岸段丘上に位置する。この河岸段丘は上位段丘面（藤岡Ⅰ面)、中位段丘面（藤岡Ⅱ面)、下位段丘面(藤岡Ⅲ面)に分類され本遺跡は中位段丘面に立地する。今回の調査では縄文時代･古墳時代･平安時代・中世に帰属する遺構（竪穴住居跡４軒・柵列４条・溝２条・土坑８基・ピット 143 基)、遺物が確認された。遺構の多くは１区南端および２区における微高地上に占地する。水田は１区北側から２区南端部にかかる谷地において確認された。縄文時代については遺物の出土が認められたものの遺構の確認には至らなかった。

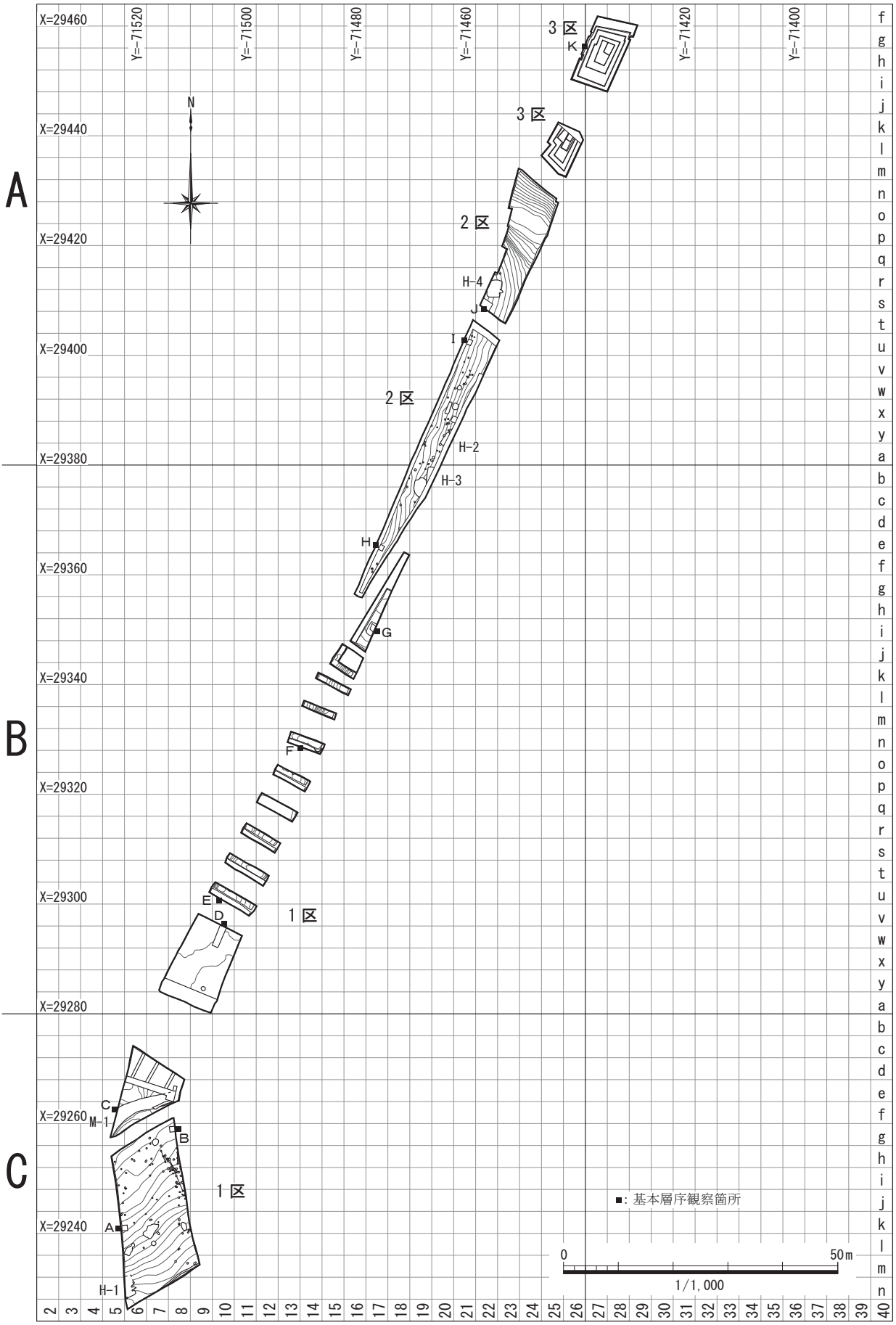
第２節　基本層序

11 箇所で基本層序の確認を行った。１区北半から２区南端部にかけて確認された谷地では As-B（1108 年降下）の一次堆積層が確認された。各層位における内容は以下のとおりである。

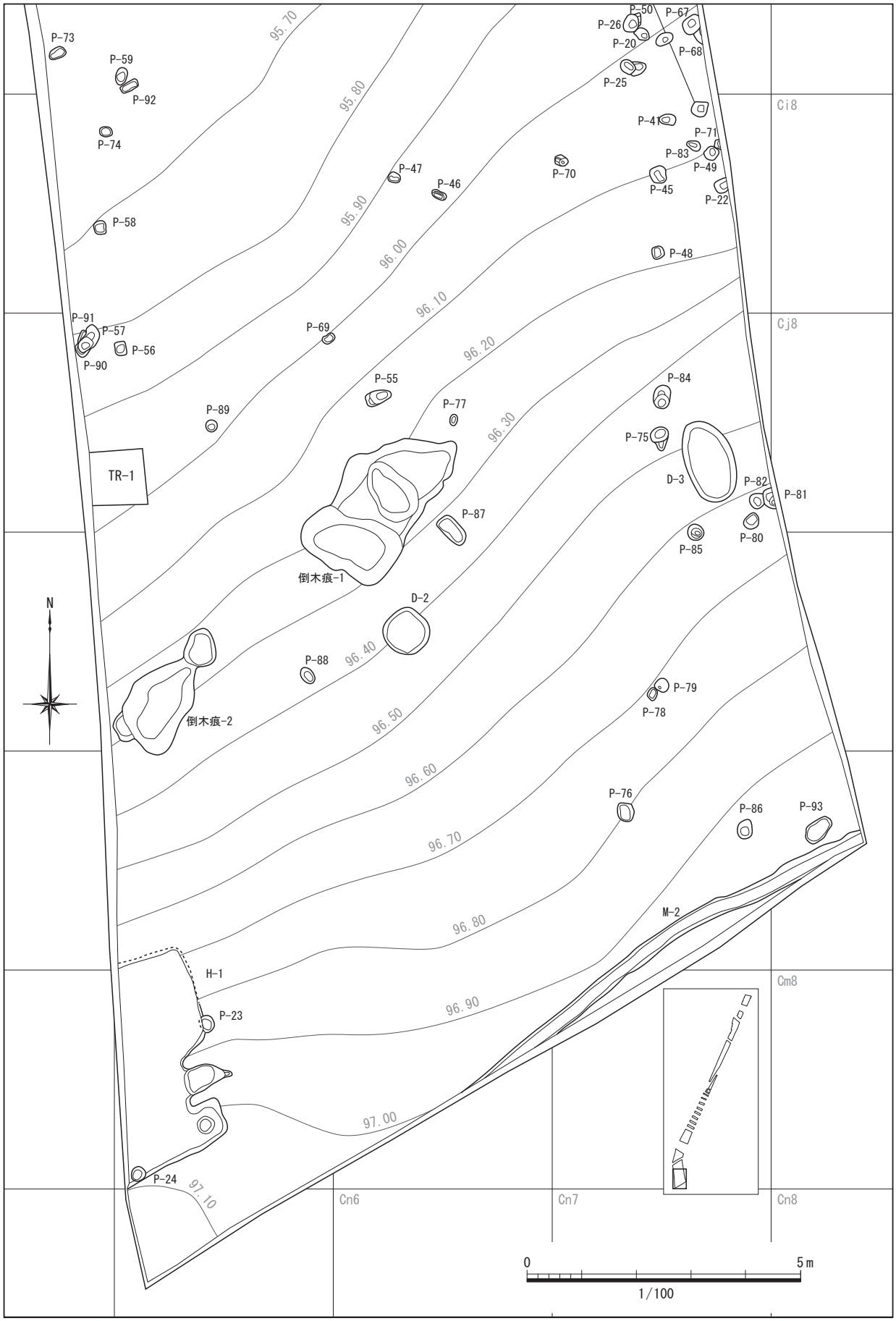
Ⅰ層は黒褐色土で現代の耕作土である。Ⅱ層は褐灰色土で As-A（1783 年降下）を多量に含む。Ⅲ層は As-B を大量に含む黒褐色土である。Ⅳ層は As-B 一次堆積層である。Ⅴ層は粘性の強い黒褐色土で水田耕作土である。自然化学分析の結果プラントオパールが検出されている（第６節)。Ⅵ層は褐灰色粘質土である。Ⅶ層は黒褐色粘質土で黄橙色土ブロックを多量に含む。Ⅴ～Ⅶ層は谷地部のみで認められた層位である。Ⅷ層は黒褐色土で撹拌された As-YP を小量含む。Ⅸ層はにぶい黄褐色土で As-YP を多量に含む。Ⅹ層は砂礫層で大きさが 10 ㎝以上の河原石を含む。Ⅺ層は灰黄褐色粘質土で鉄分の沈着が認められた。Ⅻ層はにぶい黄橙色砂質土である。ⅩⅢ層は白色粘質土で黒褐色土ブロックを少量含む。ⅩⅣ層は白色粘質土である。



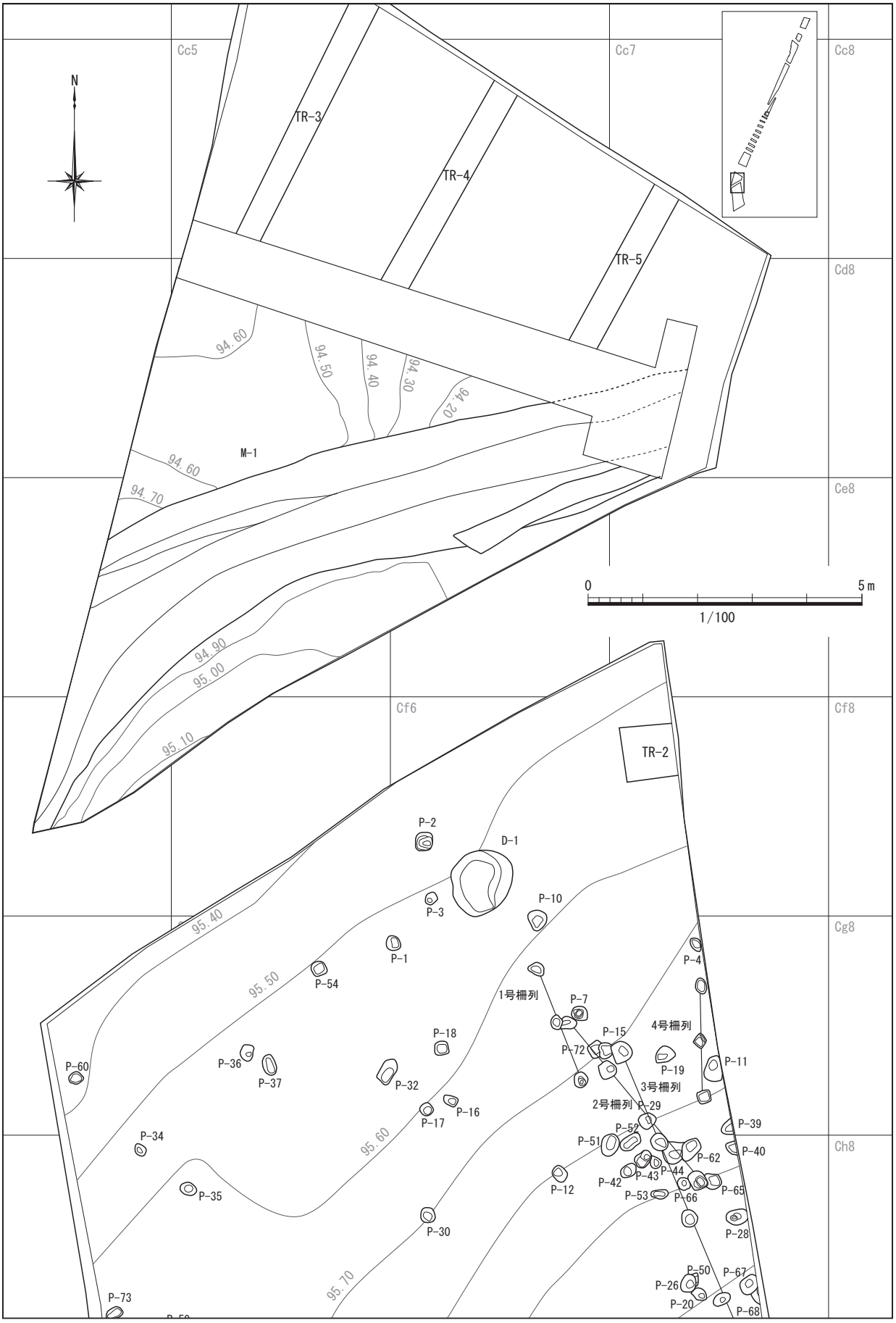
第 202 図　基本層序



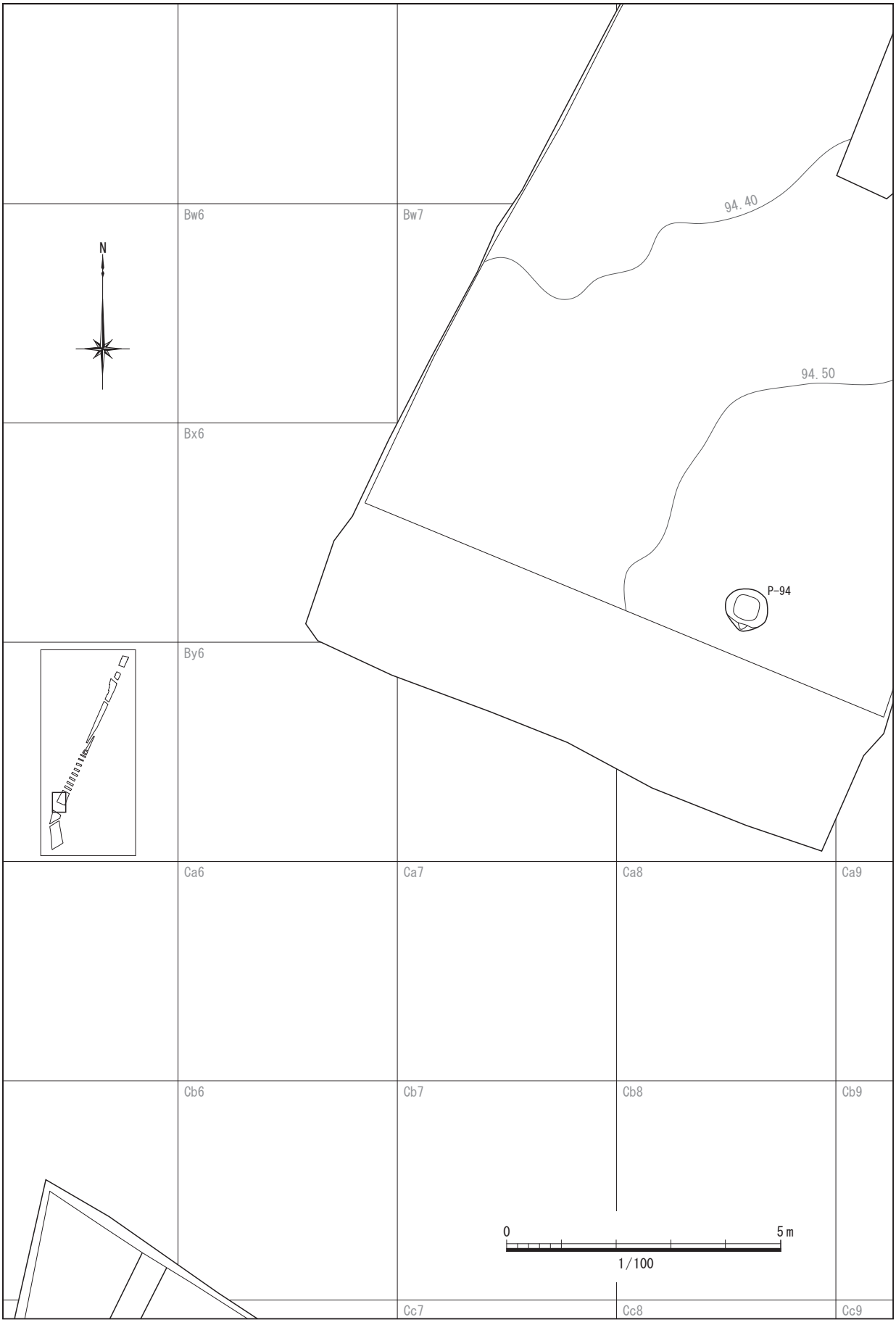
第 203 図　調査区全体図



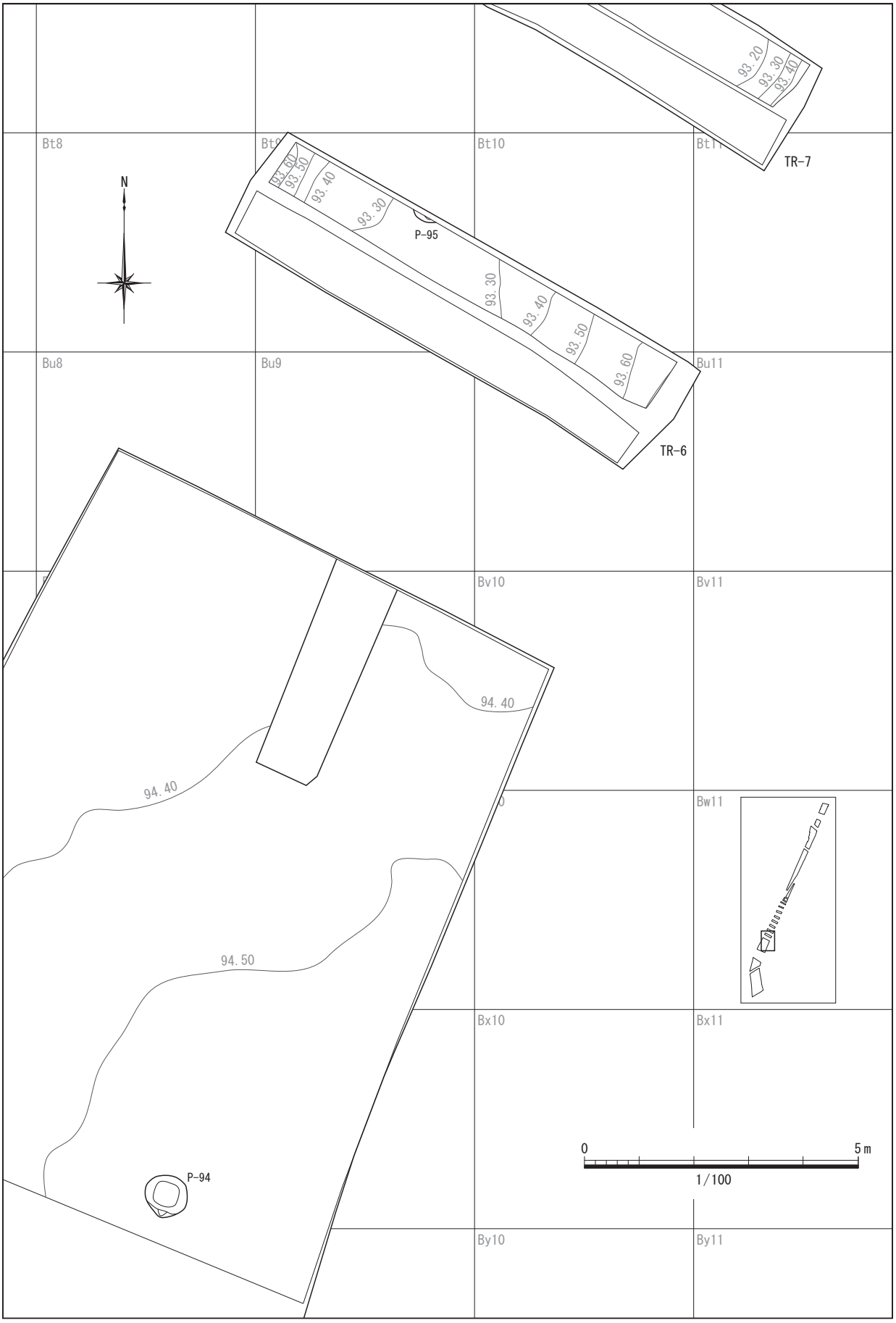
第 204 図　遺構位置図①



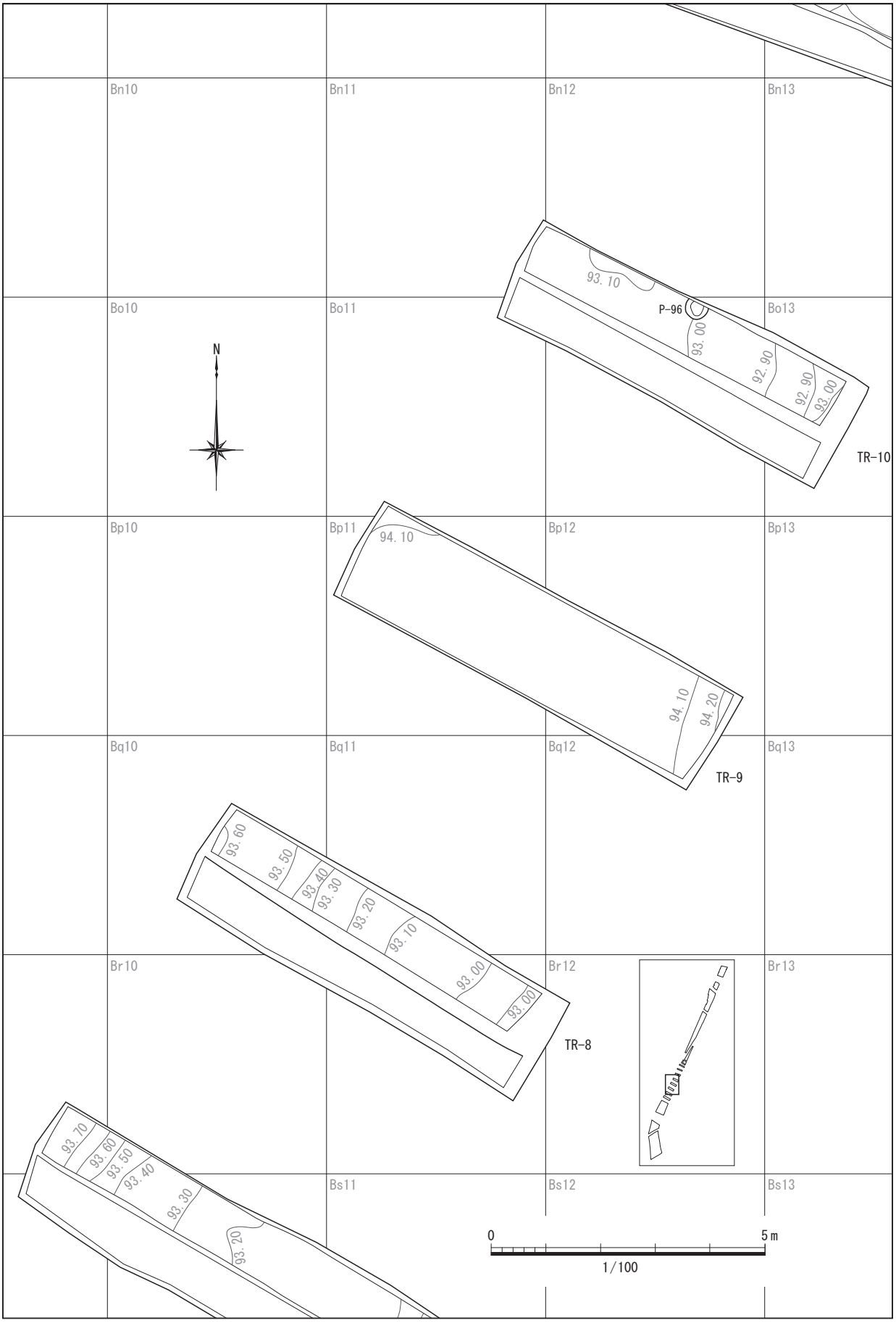
第 205 図　遺構位置図②



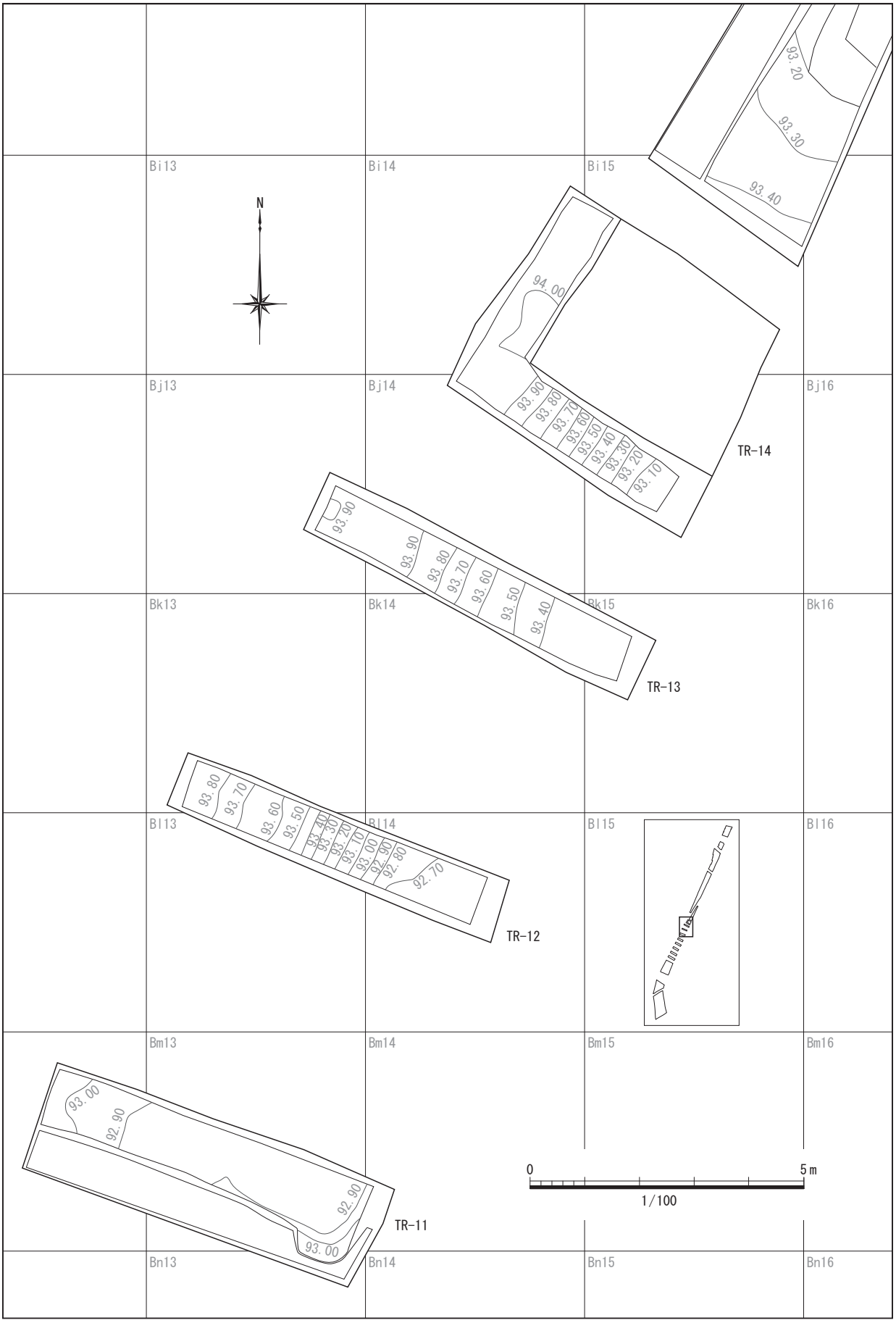
第 206 図　遺構位置図③



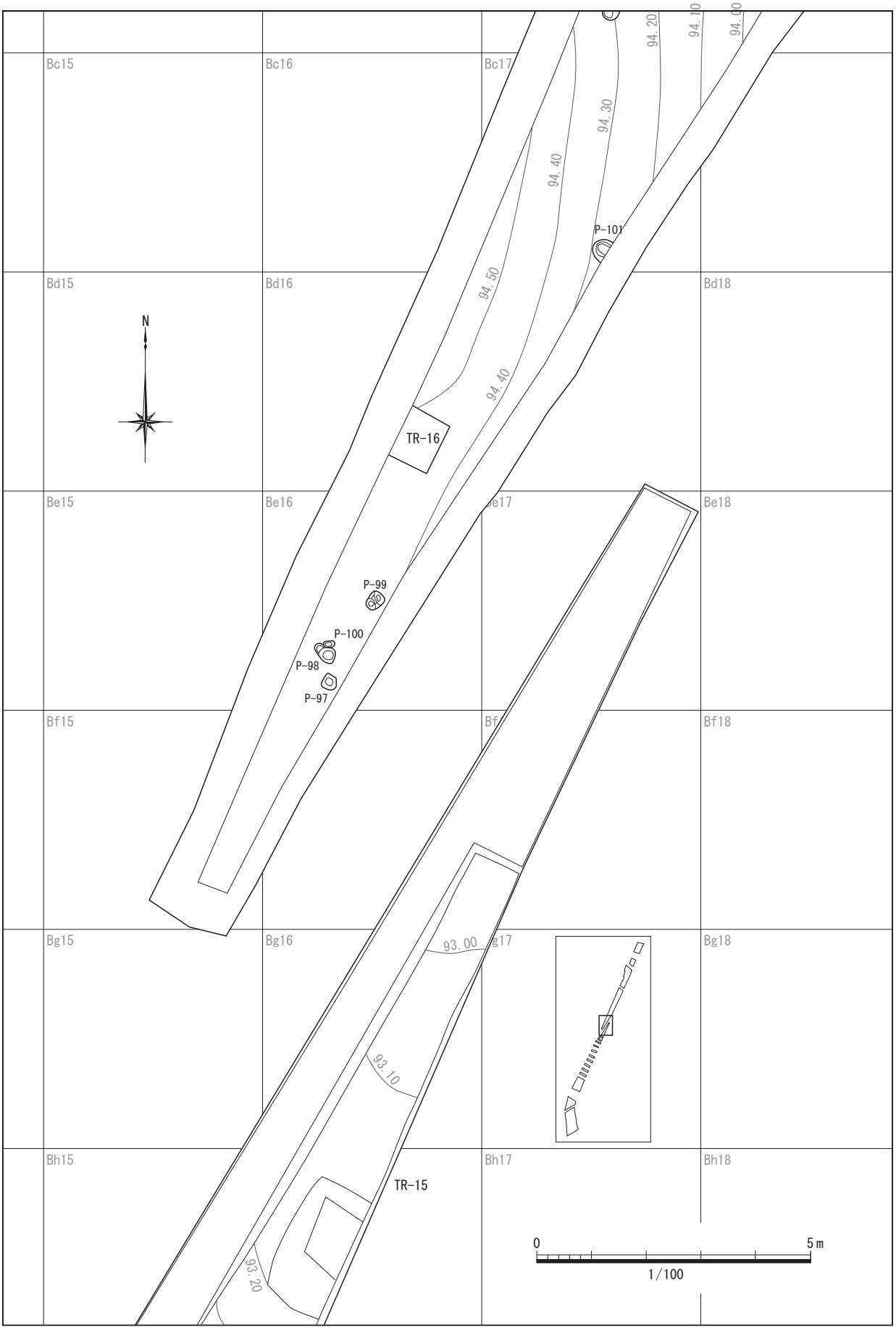
第 207 図　遺構位置図④



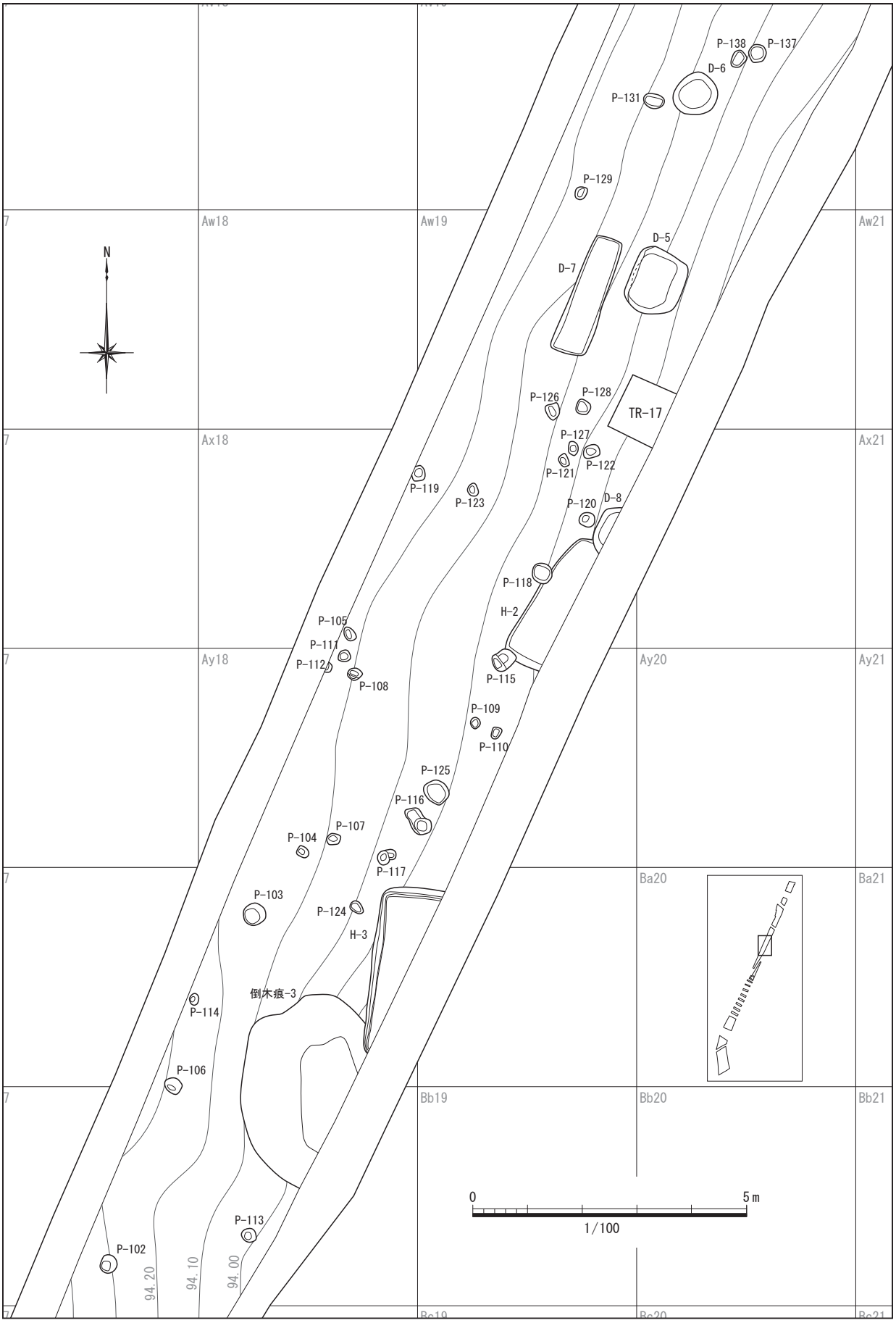
第 208 図　遺構位置図⑤



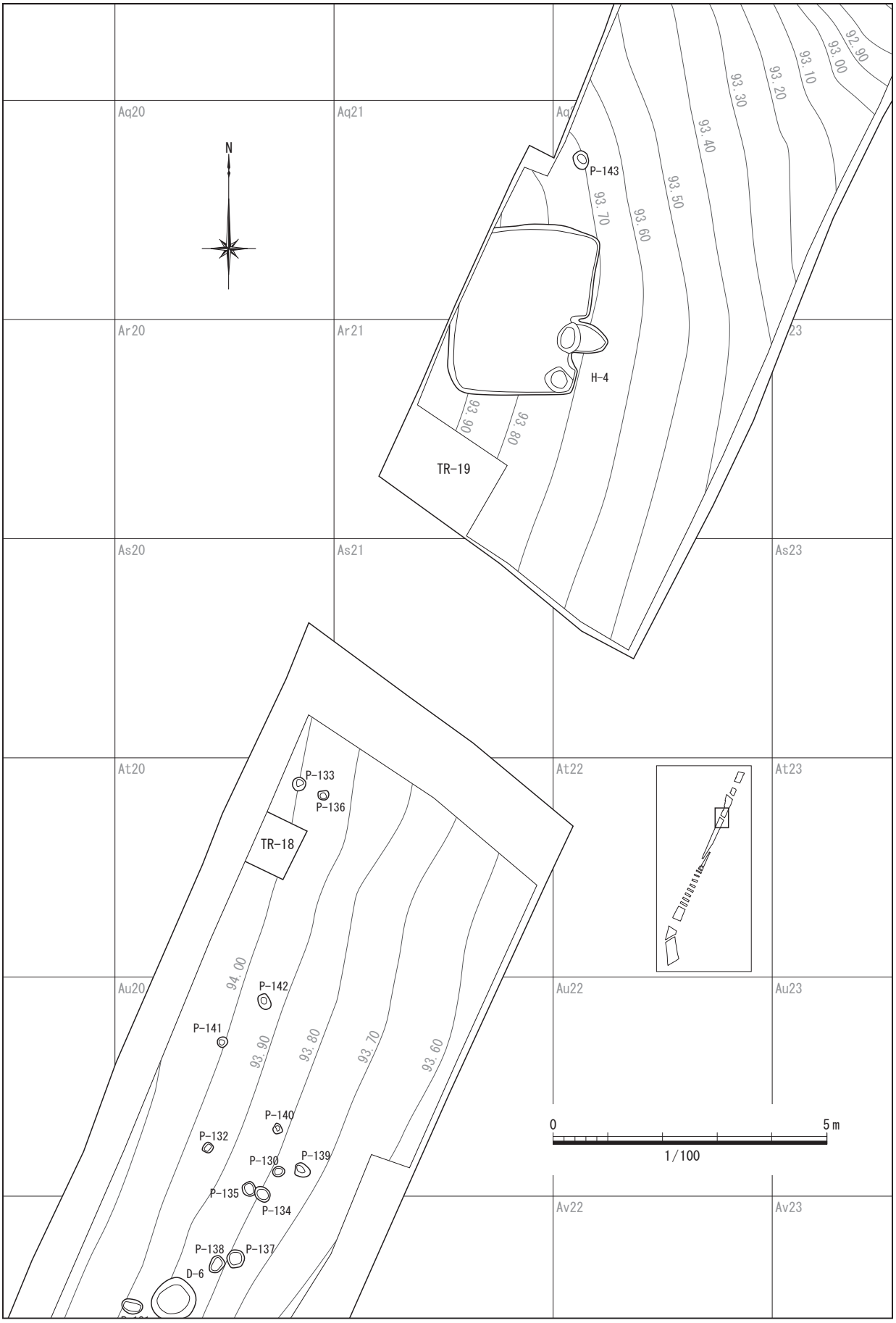
第 209 図　遺構位置図⑥



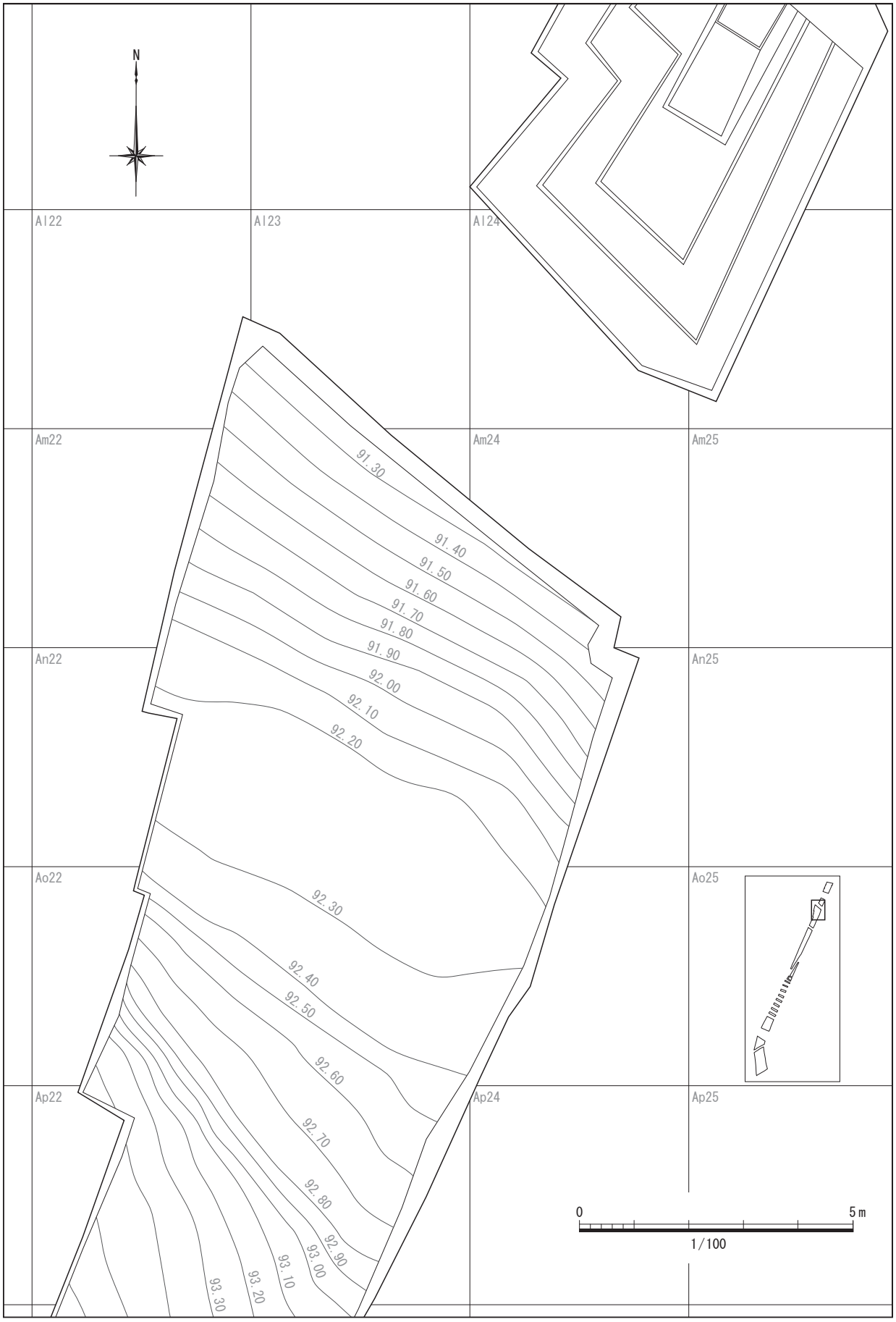
第 210 図　遺構位置図⑦



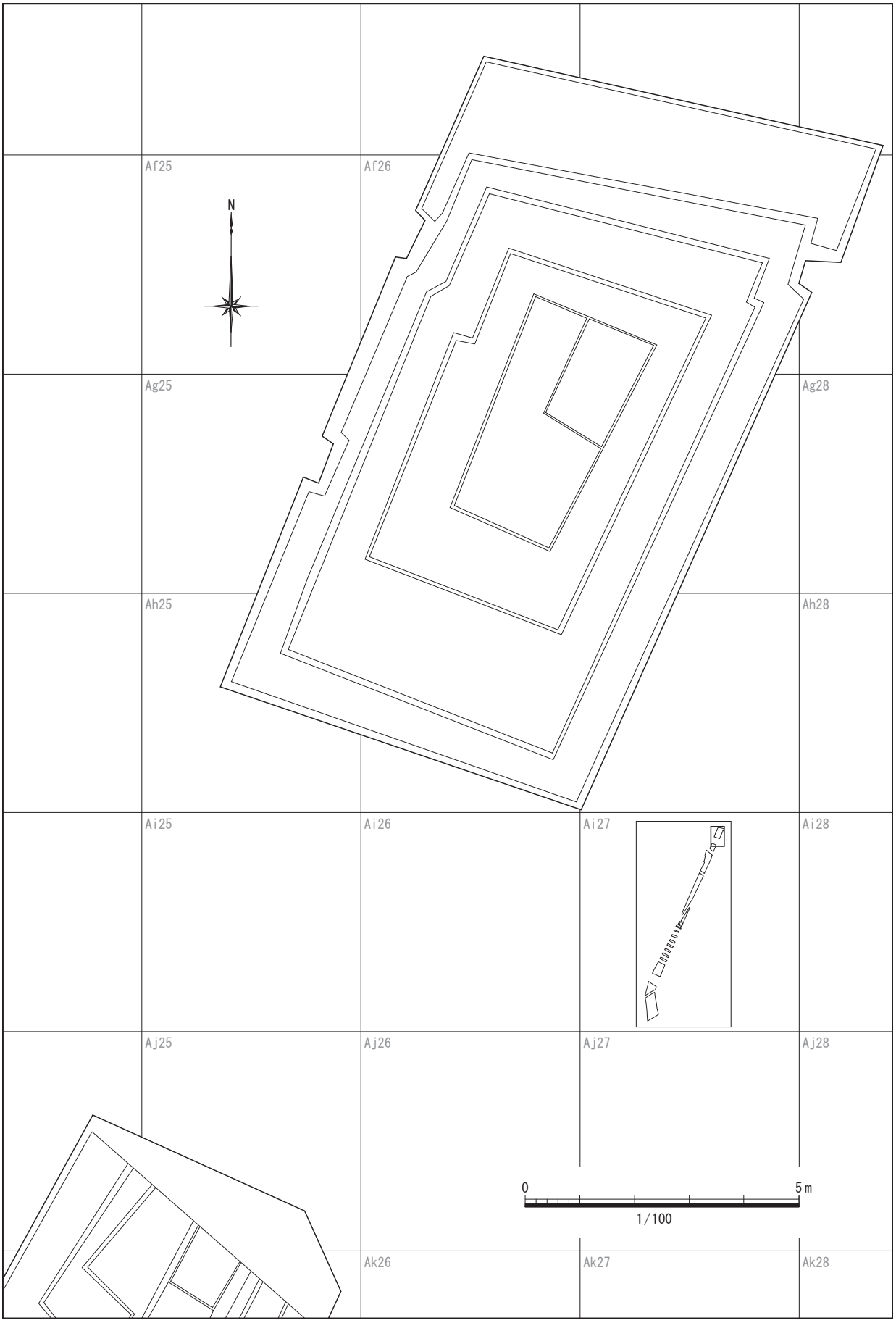
第 211 図　遺構位置図⑧



第 212 図　遺構位置図⑨



第 213 図　遺構位置図⑩



第 214 図　遺構位置図⑪

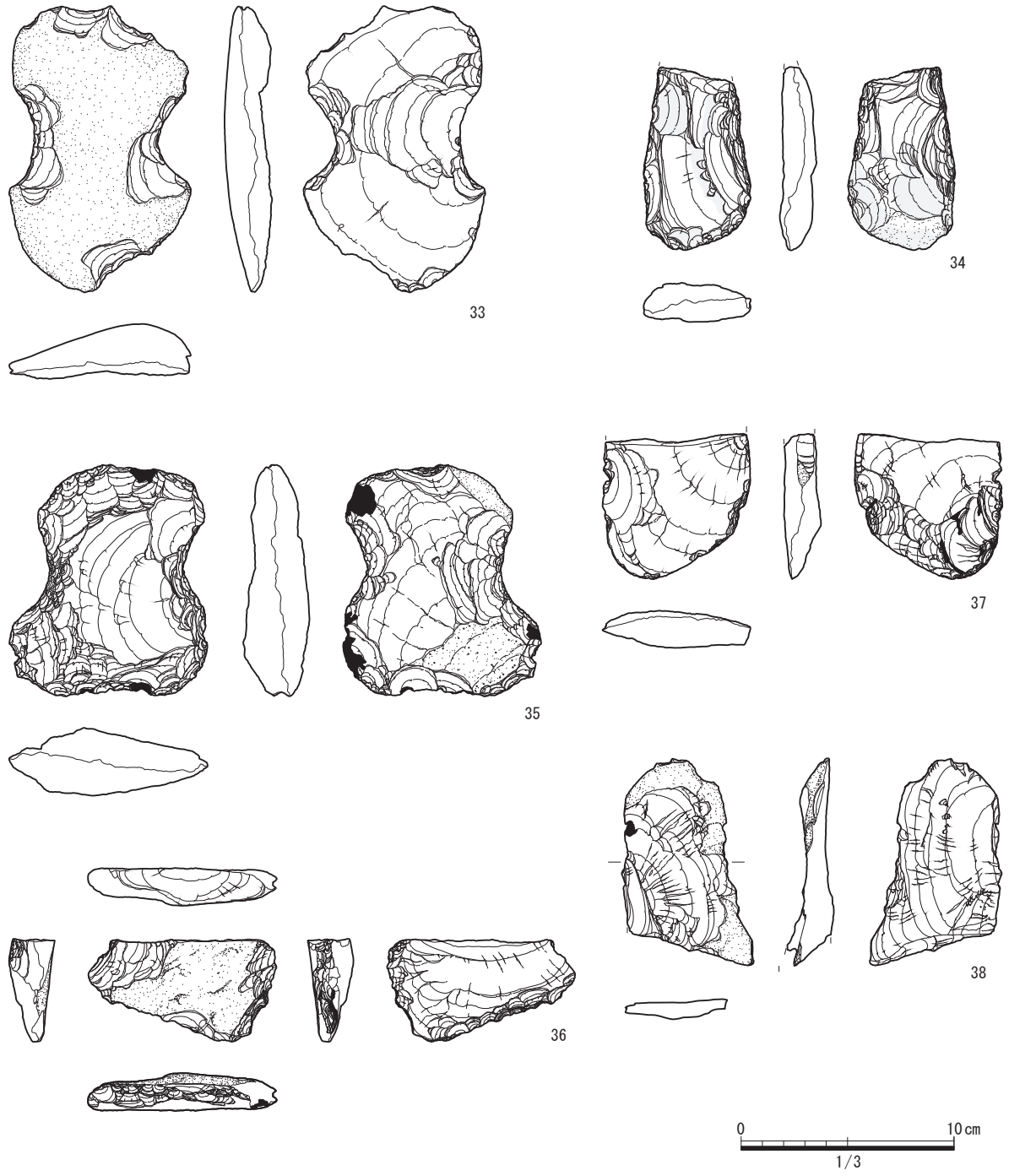
第３節　縄文時代

１．遺構外出土遺物

遺構の検出には至らなかったものの、縄文時代の土器・石器が他の時期の遺構埋没土中から出土している（第215・216図、第93・94表、PL.91・92）。帰属時期は縄文時代後期初頭～前葉を主体としている。１は前期前葉の関山Ⅰ式の深鉢である。２は前期中葉に帰属すると考えられる深鉢である。３・４は前期後葉の諸磯ｂ式の深

第215図　縄文時代遺構外遺物実測図①

鉢である。５～ 10 は中期後葉の加曽利ＥⅢ式の深鉢片である。出土点数は後期初頭～前葉に次いで多い。11 ～ 14 は称名寺Ⅰ式、15 ～ 26 は称名寺Ⅱ式、27 ～ 29 は堀之内１式、30 は堀之内２式の深鉢である。11・16・17・22・25・26 は倒木痕－３（第 211 図）からの出土である。31 は晩期中葉に帰属する深鉢の口縁部片である。32 は中期～後期に帰属すると考えられる小型の深鉢底部片である。33 ～ 35・37 は打製石斧で、33・35 は分銅型である。36 は削器、38 は二次加工のある剥片である。石材は 33・35 が安山岩、その他は黒色頁岩である。



第 216 図　縄文時代遺構外遺物実測図②

第 93 表　縄文時代遺構外出土遺物観察表①

番号	器種	法量（cm）（推定値）		残存	色調	胎土	焼成	成整形の特徴	備考（出土層位等）
1	縄文土器 深鉢	口径 底径 器高	－ － －	口縁部破片	橙 7.5YR6/6 にぶい褐 7.5YR5/4	繊維、褐色粒	普通	内面ナデ。外面円形貼付文、沈線文。	H－4 前期前葉 関山Ⅰ式
2	縄文土器 深鉢	口径 底径 器高	－ － －	胴部破片	にぶい褐 7.5YR5/4 にぶい褐 7.5YR5/4	繊維、白色粒、褐色粒	普通	内面横位ナデ。外面残存範囲において無文。	P -19 前期中葉
3	縄文土器 深鉢	口径 底径 器高	－ － －	胴部破片	にぶい黄橙 10YR6/4 にぶい黄橙 10YR6/4	白色粒、褐色粒	普通	内面横位ナデ。外面キザミを伴う浮線文、C字状爪形文。	D－4 前期後葉 諸磯ｂ式
4	縄文土器 深鉢	口径 底径 器高	－ － －	胴部破片	灰黄褐 10YR4/2 灰褐 7.5YR5/2	白色粒、褐色粒	普通	内面ナデ。外面半裁竹管状工具による平行沈線。	M－1 前期後葉 諸磯ｂ式
5	縄文土器 深鉢	口径 底径 器高	－ － －	胴部破片	にぶい黄橙 10YR6/4 にぶい黄橙 10YR6/3	白色粒、チャート、褐色粒	普通	内面横位ナデ。外面弧状の沈線を伴う磨消縄文。単節縄文ＲＬ、口唇部のみ横位回転、他の部位は縦位回転押捺。	D－4 中期後葉 加曽利ＥⅢ式
6	縄文土器 深鉢	口径 底径 器高	－ － －	胴部破片	橙 7.5YR6/6 橙 7.5YR6/6	白色粒、チャート	普通	内面ナデ。外面縦位沈線文を伴う磨消縄文。縦位回転押捺による単節縄文ＲＬ。	２区南 中期後葉 加曽利ＥⅢ式
7	縄文土器 深鉢	口径 底径 器高	－ － －	胴部破片	灰褐 7.5YR5/2 にぶい橙 7.5YR6/4	白色粒、褐色粒	普通	内面ナデ。外面縦位沈線文を伴う磨消縄文。縦位回転押捺による単節縄文ＲＬ。	TR11 中期後葉 加曽利ＥⅢ式
8	縄文土器 深鉢	口径 底径 器高	－ － －	胴部破片	褐灰 7.5YR5/1 灰褐 7.5YR5/3	白色粒、チャート	普通	内面ナデ。外面縦位沈線文を伴う磨消縄文。縦位回転押捺による単節縄文ＬＲ。	TR10 中期後葉 加曽利ＥⅢ式
9	縄文土器 深鉢	口径 底径 器高	－ － －	胴部破片	にぶい黄橙 10YR7/4 明黄褐 10YR6/6	白色粒、チャート、褐色粒	普通	内面ナデ。外面縦位回転押捺による単節縄文ＲＬ。	TR10 中期後葉 加曽利ＥⅢ式
10	縄文土器 深鉢	口径 底径 器高	－ － －	胴部破片	明赤褐 5YR5/6 明赤褐 5YR5/6	白色粒、チャート、片岩	普通	内面ナデ。外面擦痕、縦位隆帯。	２区 中期後葉 加曽利ＥⅢ式
11	縄文土器 深鉢	口径 底径 器高	－ － －	口縁部破片	赤褐 5YR4/6 赤褐 5YR4/6	白色粒、チャート、片岩	普通	内・外面ナデ。平口縁。外面口縁部下位、横位および斜位の鎖状隆帯。	後期初頭 称名寺Ⅰ式
12	縄文土器 深鉢	口径 底径 器高	－ － －	口縁部破片	橙 7.5YR6/6 にぶい黄褐 10YR5/3	白色粒、チャート、片岩	普通	内面ナデ。平口縁。外面口縁部下位、押捺を伴う横位隆帯。	覆土一括 後期初頭 称名寺Ⅰ式
13	縄文土器 深鉢	口径 底径 器高	－ － －	胴部破片	明赤褐 5Y R 5/6 明赤褐 5Y R 5/6	白色粒、チャート、片岩	普通	内・外面ナデ。外面沈線文、単節縄文ＬＲ。	覆土一括 後期初頭 称名寺Ⅰ式
14	縄文土器 深鉢	口径 底径 器高	－ － －	胴部破片	橙 5YR6/6 灰褐 5YR4/2	白色粒、チャート	普通	内・外面ともナデ。外面沈線文、および単節ＬＲによる充填縄文。	TR10 後期初頭 称名寺Ⅰ式
15	縄文土器 深鉢	口径 底径 器高	－ － －	口縁部破片	にぶい褐 7.5YR5/4 にぶい褐 7.5YR5/4	白色粒	普通	内・外面とも横位ナデ。外面口縁部、横位沈線文。	２区 後期初頭 称名寺Ⅱ式
16	縄文土器 深鉢	口径 底径 器高	－ － －	口縁部破片	褐灰 10YR5/1 灰黄褐 10YR6/2	白色粒、褐色粒	普通	内・外面ともに横位ナデ。やや肥厚し内・外面に稜をもつ口唇部。口唇部直下に横位沈線１条。	２区 後期初頭 称名寺Ⅱ式
17	縄文土器 深鉢	口径 底径 器高	－ － －	口縁部破片	橙 7.5YR6/6 にぶい橙 7.5YR6/4	白色粒、褐色粒	普通	内・外面ともに横位ナデ。やや肥厚し内・外面に弱い稜をもつ口唇部。口唇部直下に横位沈線１条、正円に近い列点文。	２区南 後期初頭 称名寺Ⅱ式
18	縄文土器 深鉢	口径 底径 器高	－ － －	口縁部破片	明赤褐 5YR5/6 明赤褐 5YR5/6	白色粒、褐色粒	普通	内・外面とも横位ナデ。平口縁。外面口縁部下位、押捺を伴う横位隆帯。	２区 後期初頭 称名寺Ⅱ式
19	縄文土器 深鉢	口径 底径 器高	－ － －	胴部破片	明赤褐 5YR5/6 明赤褐 5YR5/6	白色粒、褐色粒、片岩	普通	内・外面とも横位ナデ。外面口縁部下位、押捺を伴う横位隆帯。	２区南 後期初頭 称名寺Ⅱ式
20	縄文土器 深鉢	口径 底径 器高	－ － －	胴部破片	明赤褐 5YR5/6 明赤褐 5YR5/6	白色粒、チャート	普通	内面横位ナデ。外面微隆起線による渦巻状文。	TR 7 後期初頭 称名寺Ⅱ式
21	縄文土器 深鉢	口径 底径 器高	－ － －	胴部破片	橙 7.5YR6/6 橙 7.5YR6/6	白色粒	普通	内面ナデ。外面沈線文、列点文。	H－4 後期初頭 称名寺Ⅱ式
22	縄文土器 深鉢	口径 底径 器高	－ － －	胴部破片	明赤褐 2.5YR5/6 明赤褐 2.5YR5/6	白色粒、チャート、片岩	普通	内面ナデ。沈線文。外面沈線文および充填列点文。	覆土一括 後期初頭 称名寺Ⅱ式
23	縄文土器 深鉢	口径 底径 器高	－ － －	胴部破片	橙 5YR6/6 明赤褐 5YR5/6	白色粒、片岩	普通	内面横位ナデ。外面縦位ナデ、縦位沈線文。	２区南表採 後期初頭 称名寺Ⅱ式
24	縄文土器 深鉢	口径 底径 器高	－ － －	胴部破片	にぶい褐 7.5YR5/3 にぶい橙 7.5YR6/4	白色粒、片岩	普通	内面ナデ。外面縦位ナデ、縦位沈線文。	２区南 後期初頭 称名寺Ⅱ式
25	縄文土器 深鉢	口径 底径 器高	－ － －	胴部破片	橙 7.5YR6/6 橙 5YR	白色粒、チャート、片岩	普通	内・外面ナデ。外面沈線文。	覆土一括 後期初頭 称名寺Ⅱ式
26	縄文土器 深鉢	口径 底径 器高	－ － －	口縁部破片	にぶい赤褐 5YR5/4 明赤褐 5YR5/6	白色粒、チャート、片岩	普通	内・外面ナデ。外面畝状をなす無数の横位調整痕。	覆土一括 後期初頭 称名寺Ⅱ式
27	縄文土器 深鉢	口径 底径 器高	－ － －	口縁部破片	にぶい橙 7.5YR7/3 にぶい橙 7.5YR7/3	白色粒、チャート	普通	内･外面とも横位ナデ。内屈する口縁。外面口縁部､凹文､重弧文、および間に円形刺突文を伴う横位沈線２条。	TR10 後期前葉 堀之内Ⅰ式

第 94 表　縄文時代遺構外出土遺物観察表②

番号	器種	法量（cm）（推定値）		残存	色調	胎土	焼成	成整形の特徴	備考（出土層位等）
28	縄文土器深鉢	口径 底径 器高	－ － －	胴部破片	にぶい橙 7.5YR7/4 にぶい橙 7.5YR7/4	白色粒、チャート、褐色粒	普通	内・外面とも横位ナデ。内屈する口縁。外面口縁部、横位沈線１条。	TR 9 後期前葉 堀之内１式
29	縄文土器深鉢	口径 底径 器高	－ － －	胴部破片	橙 5YR6/6 にぶい橙 7.5YR6/4	白色粒、褐色粒	普通	内面ナデ。外面隆帯による円形貼付文を伴う渦巻状文。	２区南表採 後期前葉 堀之内１式
30	縄文土器深鉢	口径 底径 器高	－ － －	胴部破片	にぶい褐 7.5YR6/3 にぶい橙 7.5YR7/4	白色粒、褐色粒	良好	内・外面とも横位ナデ。外面沈線による幾何学文、単節ＬＲによる充填縄文。	１区 後期前葉 堀之内２式
31	縄文土器深鉢	口径 底径 器高	－ － －	口縁部破片	にぶい橙 7.5YR6/4 にぶい橙 7.5YR6/4	白色粒	普通	内・外面とも横位ナデ。外面横位浮線文。	Ｈ－４ 晩期中葉
32	縄文土器深鉢	口径 底径 器高	－ － －	底部破片	灰褐 7.5YR6/2 褐灰 7.5YR4/1	白色粒、褐色粒	普通	内・外面ともナデ。外面残存範囲において無文。	TR 9 中期～後期

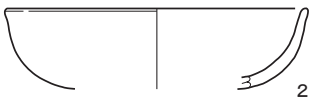
番号	器種	法量（残存値）	残存	石材	特徴	備考（出土層位等）
33	打製石斧	長さ 13.46 cm、幅 8.53 cm、厚さ 2.23 cm 重さ 264.99g	完形	安山岩	剥片素材。分銅形の打製石斧。未成品の可能性がある。	D-49 出土
34	打製石斧	長さ 8.59 cm、幅 5.03 cm、厚さ 1.72 cm 重さ 80.96g	一部欠損	黒色頁岩	剥片素材。撥形の打製石斧。基部側が欠損している。全体的に磨耗している。	P-115 出土
35	打製石斧	長さ 10.89 cm、幅 9.3 cm、厚さ 3.11 cm 重さ 323.93g	完形	安山岩	剥片素材。分銅形の打製石斧。	
36	削器	長さ 4.8 cm、幅 8.83 cm、厚さ 2.14 cm 重さ 84.52g	完形	黒色頁岩	剥片素材。表裏側縁に急角度の連続的な二次加工が施される。	
37	打製石斧	長さ 6.83 cm、幅 6.94 cm、厚さ 1.73 cm 重さ 91.46g	上部欠損	黒色頁岩	剥片素材。表裏側縁に急角度の連続的な二次加工が施される。平面形状が弧状に加工されているため石斧の未成品とした。	
38	二次加工のある剥片	長さ 9.71 cm、幅 6.2 cm、厚さ 1.33 cm 重さ 76.46g	完形	黒色頁岩	剥片素材。素材腹面側の末端部に急角度の連続的な二次加工が施される。	

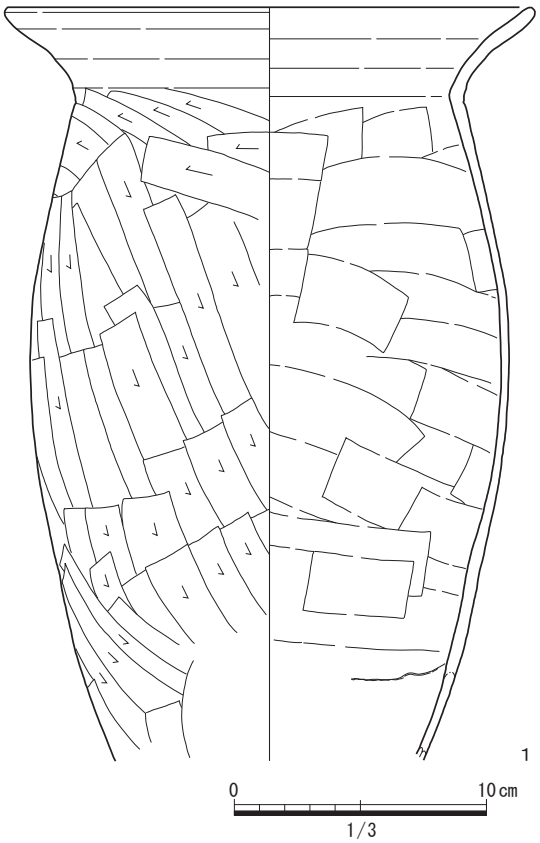
第４節　古墳時代

１．竪穴住居跡

Ｈ－１号住居跡（第 217・218 図、第 95 表、PL. 39・93）

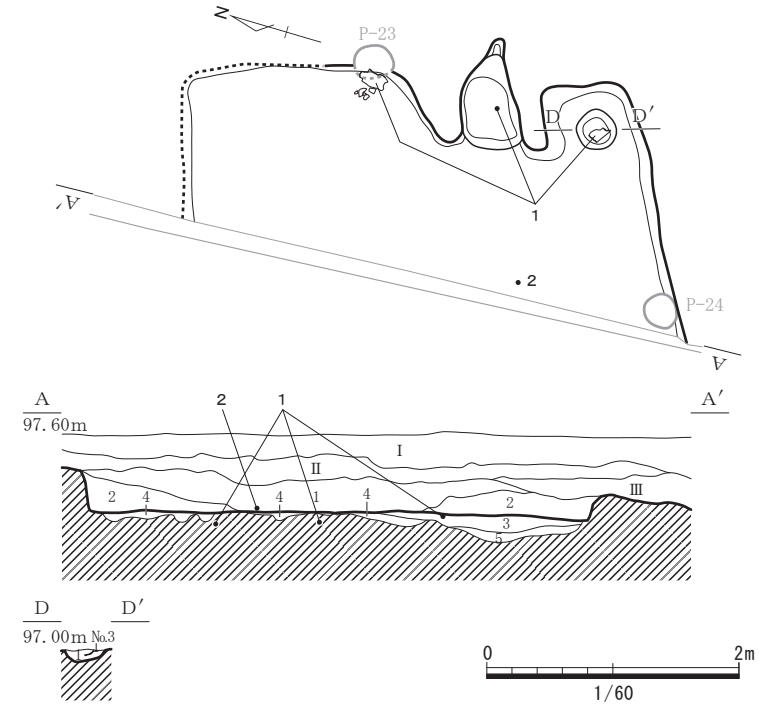
位置：１区。C1-5・Cm-5 グリッド。**平面形態**：方形基調。**重複**：Ｐ 23・24 と重複するが、切り合い関係は不詳である。**規模**：〈3.90〉ｍ×〈2.45〉ｍ。**深度**：0.36 ｍ。**主軸方位**：Ｎ－70°－Ｅ。**カマド**：東壁やや南寄りに付設されていた。白色軽石粒・黒褐色土の混じる灰黄褐色土を構築材として用いていた。規模は最大長 1.00 ｍ、カマド内側における最大幅は 0.41 ｍである。**柱穴**：確認されなかった。**壁周溝**：確認されなかった。**貯蔵穴・土坑**：南東コーナーで貯蔵穴と考えられる浅い土坑を確認した。平面形状は不整形、断面形状はレンズ状を呈する。規模は 0.31 × 0.30 ｍ、深さ 0.07 ｍである。**床面の状態**：概ね平坦である。黄褐色土と黒褐色土による貼り床が確認された。**遺構埋没状態**：自然埋没と考えられる。**出土遺物**：出土量は少ないが埋没土中から土師器（坏・甕）、須恵器（甕）、粘土塊





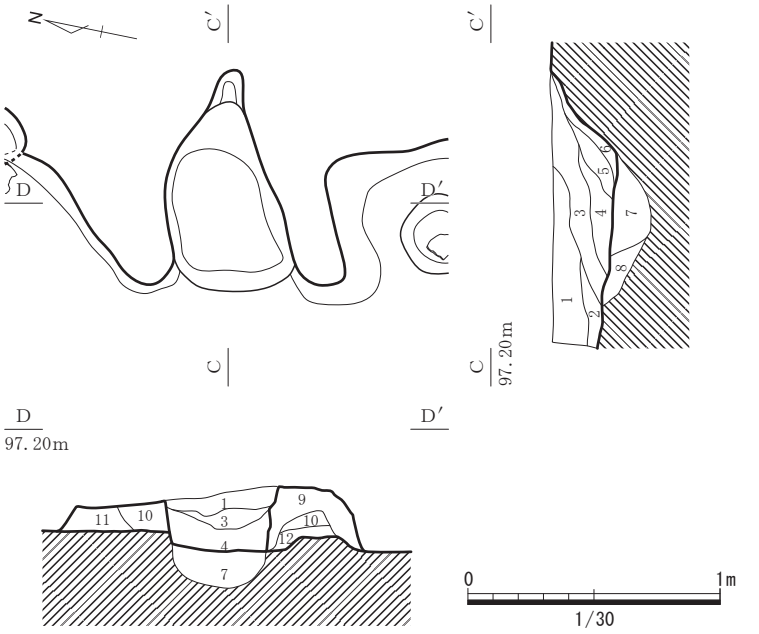
第 217 図　Ｈ－１号住居跡遺物実測図

が出土した。**時期**：出土遺物から古墳時代後期（6 世紀後半）と考えられる。



A－A′
1　暗褐色土　締り・粘性ややあり。ローム粒中量、焼土・As-YP 少量、炭化物微量。
2　暗褐色土　締り・粘性ややあり。As-YP 少量、ローム粒微量。
3　暗褐色土　締り・粘性やや弱い。ローム粒・ロームブロックφ 1.0 ～ 5.0cm 中量、白色軽石φ 0.2cm 少量、As-YP φ 0.5cm 微量。
4　黄褐色土　締りやや弱く粘性ややあり。ローム粒・ロームブロックφ 5.0 ～ 10.0cm 多量、黒褐色土・As-YP φ 0.5cm 少量、白色軽石φ 0.2cm 微量。
5　暗褐色土　締り弱く粘性やや弱い。黒褐色土多量、ローム粒・ロームブロックφ 1.0 ～ 4.0cm・As-YP φ 0.5 ～ 2.0cm 中量、白色軽石φ 0.2cm 微量。

D－D′（貯蔵穴）
1　暗褐色土　しまりややあり粘性ややある。ローム粒・ロームブロックφ 0.5 ～ 2.0cm 中量。



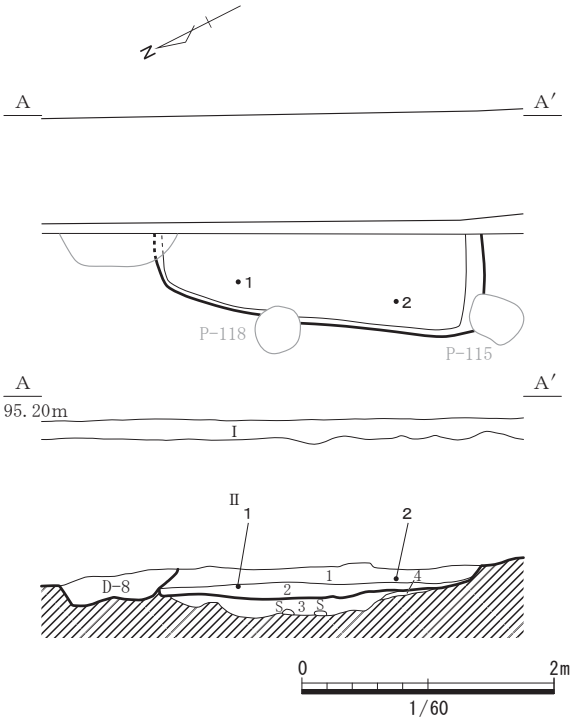
B－B′・C－C′（カマド）
1　暗褐色土　締り・粘性ややあり。ローム粒・白色粒少量。
2　暗褐色土　締り・粘性ややあり。ローム粒・焼土少量。
3　黄褐色土　締りやや弱く粘性ややあり。ローム粒・ロームブロック主体。焼土少量。
4　黄褐色土　締り弱く粘性弱い。ロームと暗褐色土の混土層。焼土少量。
5　暗褐色土　締り・粘性やや弱い。ローム粒・焼土中量、炭化物微量。
6　暗褐色土　締りややあり粘性やや弱い。ローム粒・ロームブロックφ 1.0 ～ 3.0cm・焼土粒中量。
7　暗褐色土　締りやや弱く粘性あり。ローム粒・ロームブロックφ 1.0 ～ 3.0cm 多量、焼土粒少量。暗褐色土とロームの混土層。
8　灰黄褐色土　締りややあり粘性あり。ローム粒・ロームブロックφ 1.0cm・焼土粒中量、炭化物少量。
9　暗褐色土　締り・粘性ややあり。ローム粒・ロームブロックφ 0.5cm 少量、礫φ 1.0 ～ 3.0cm 微量。
10　灰黄褐色土　締りややあり粘性やや弱い。ローム粒・焼土粒中量、ロームブロックφ 0.5 ～ 2.0cm 少量、炭化物微量。
11　暗褐色土　締り・粘性やや弱い。ローム粒・ロームブロックφ 0.5 ～ 1.0cm 中量、白色軽石φ 0.5cm・焼土・黒褐色土少量。
12　黄褐色土　締り・粘性ややあり。ローム粒・ロームブロック主体。焼土粒微量。

第 218 図　H－1 号住居跡遺構図

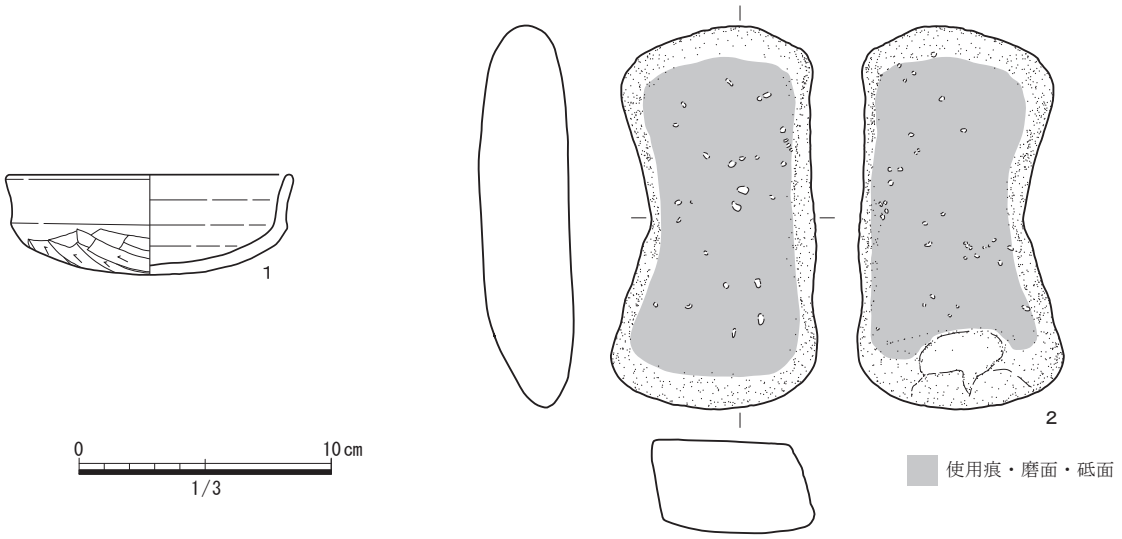
第 95 表　H－1 号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	法量（cm）（推定値）		残存	色調	胎土	焼成	成整形の特徴	備考（出土層位等）
1	土師器甕	口径 底径 器高	(21.0) － －	口縁部～胴部 1/2 残存	外：にぶい褐 7.5YR5/4 内：灰黄褐 10YR4/2	チャート、石英	良好	外：口縁部ヨコナデ、胴部ナナメのヘラケズリ 内：口縁部ヨコナデ、胴部ナナメのヘラナデ	床面・カマド・貯蔵穴
2	土師器坏	口径 底径 器高	(12.0) － －	口縁部～体部 1/4 残存	外：橙 5YR6/6 内：橙 5YR6/6	石英、白色粒	良好	外：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ（摩滅） 内：口縁部～体部ヨコナデ	床面

Ｈ－２号住居跡（第 219 図、第 96 表、PL. 40・93）**位置**：２区。Ax･Ay-19 グリッド。**平面形態**：方形基調。**重複**：Ｐ 115・118 と重複し、切り合い関係は本遺構の方が旧い。**規模**：〈2. 63〉ｍ×〈0. 81〉ｍ。**深度**：0. 26ｍ。**主軸方位**：Ｎ -31°- Ｅ。**カマド**：調査区外と想定される。**柱穴**：確認されなかった。**壁周溝**：確認されなかった。**貯蔵穴・土坑**：確認されなかった。**床面の状態**：概ね平坦である。褐灰色土を主体とする貼り床が確認された。**遺構埋没状態**：自然埋没と考えられる。**出土遺物**：全体の出土量は少ないが、覆土中から磨石（２）の他、床面直上から土師器の坏（１）が出土した。**時期**：出土遺物から古墳時代後期（６世紀後半）と考えられる。



1　褐灰色土　締り・粘性ややあり。灰黄色土φ 0.5 ～ 2.0cm・白色粒中量。
2　褐灰色土　締り・粘性ややあり。褐灰色土φ 0.5 ～ 2.0cm・灰白粒中量、焼土・黄橙色粒微量。
3　褐灰色土　締りあり粘性ややあり。褐灰色土φ 0.5 ～ 1.0c 多量、灰白粒・橙色粒微量。
4　褐灰色土　締り・粘性あり。灰黄色土φ 0.5 ～ 3.0cm 多量、褐灰色土少量、黄橙色粒微量。



第 219 図　Ｈ－２号住居跡遺構図・遺物実測図

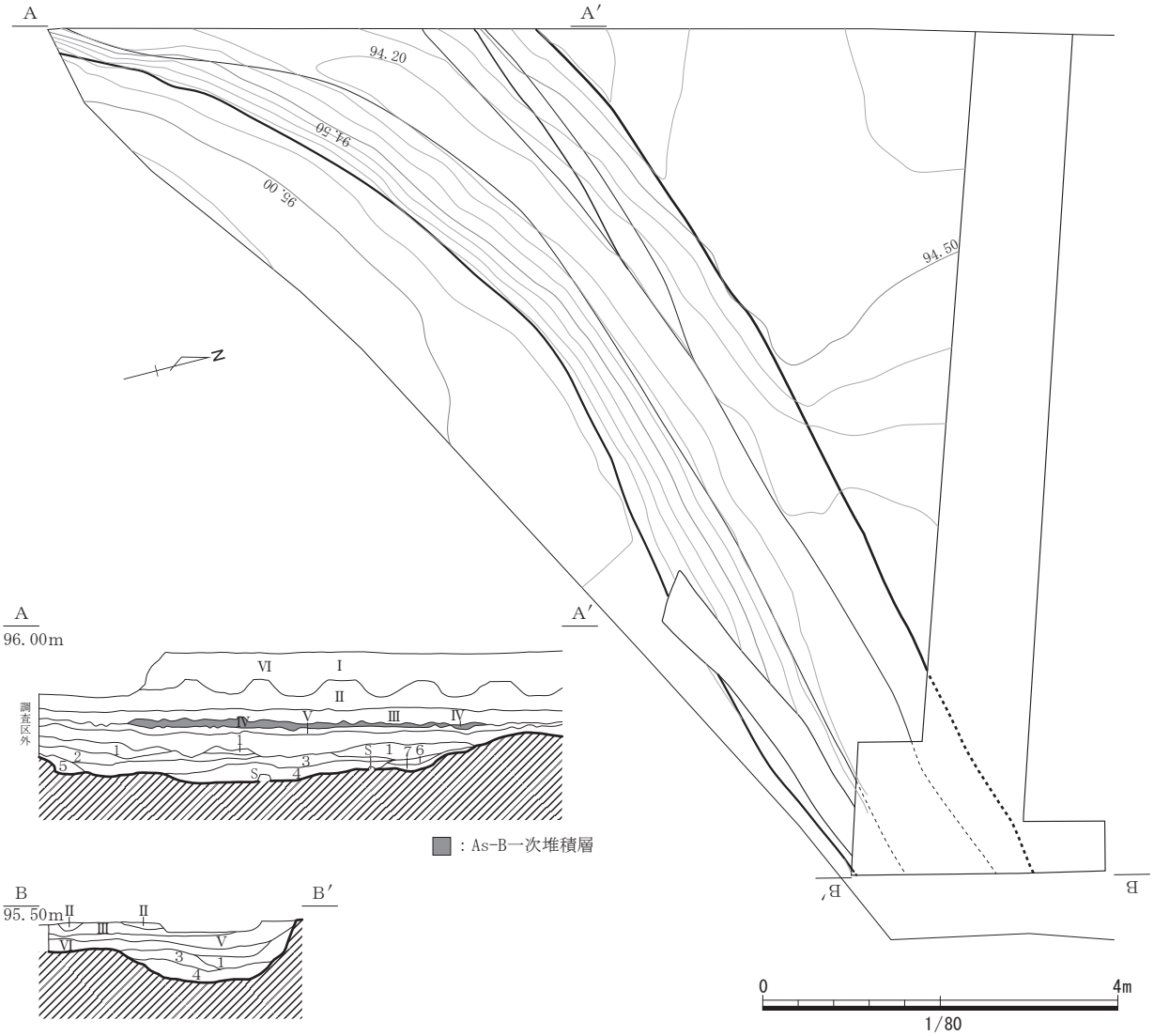
第 96 表　Ｈ－２号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	法量（cm）（推定値）		残存	色調	胎土	焼成	成整形の特徴	備考（出土層位等）
1	土師器 坏	口径 底径 器高	11.4 － 4.0	完形	外：橙 7.5YR6/6 内：明赤褐 5YR5/8	チャート、石英、赤色粒	良好	外：口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ 内：口縁部～体部ヨコナデ、底部ヘラナデ 底部外面に黒斑	床面
番号	器種	法量（残存値）				残存	石材	特徴	備考（出土層位等）
2	磨石	長さ15.2cm、幅8.19cm、厚さ3.71 重さ847.41g				完形	閃緑岩	礫素材。表裏に磨痕がみられる。	覆土

２．溝

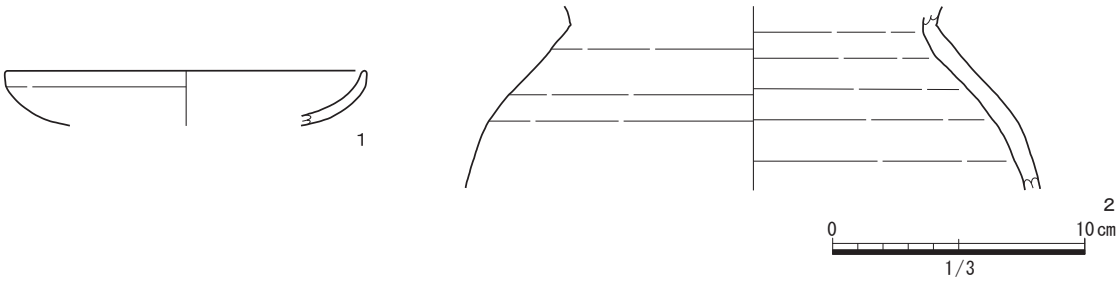
Ｍ－１号溝（第 220・221 図、第 97 表、PL.40・41・93）

位置：１区。Cd6・7、Ce4 ～ 7、Cf4 グリッド。**検出状態**：１区北側から２区南端部の谷地にて確認された水田跡により被覆されていた。東西方向に弧状に走行し、東側および西側は調査区外に範囲が及ぶ。**断面形態**：弧状を呈する。**規模**：上端幅 1.76 ～ 2.48 m、下端幅 0.52 ～ 0.80 m、深さ 0.48 ～ 0.64 m。**底面の標高**：94.20 m。おおむね平坦である。**走行方向**：Ｎ－ 72°－Ｅの方向に走行し、調査区南西部で南西方向に緩やかに弧状に湾曲する。**遺構埋没状態**：自然埋没と考えられる。埋没土の上位には As-B 一次堆積層に被覆された水田土が堆積していた。**遺物**：小量であるが埋没土中より土師器坏、須恵器甕が出土した。また、底面付近からは 15 ～ 20 ㎝ほどの礫が数点出土している。**時期**：6 世紀前半。



Ａ－Ａ′・Ｂ－Ｂ′
1　褐灰色土　締り非常に強く粘性強い。黄色粒少量。
2　暗褐色土　締り非常に強く粘性強い。黄色土ブロックφ 2.0 ～ 4.0㎝多量。
3　褐灰色土　締り非常に強く粘性強い。灰色粘質土主体　地山（白色粘質土）粒中量、黄色粒少量。
4　灰黄褐色土　締りあり粘性弱い。粗砂・シルト・小礫がラミナ状に堆積する。
5　褐灰色土　締り非常に強く粘性強い。灰色粘質土主体。地山（白色粘質土）ブロックφ 1.0 ～ 2.0㎝少量
6　褐灰色土　締り非常に強く粘性強い。灰色粘質土主体。地山（白色粘質土）を粒子状に中量。
7　灰色土　　締り非常に強く粘性強い。灰色粘質土主体。地山（白色粘質土）を粒子状に中量。

第 220 図　Ｍ－１号溝遺構図



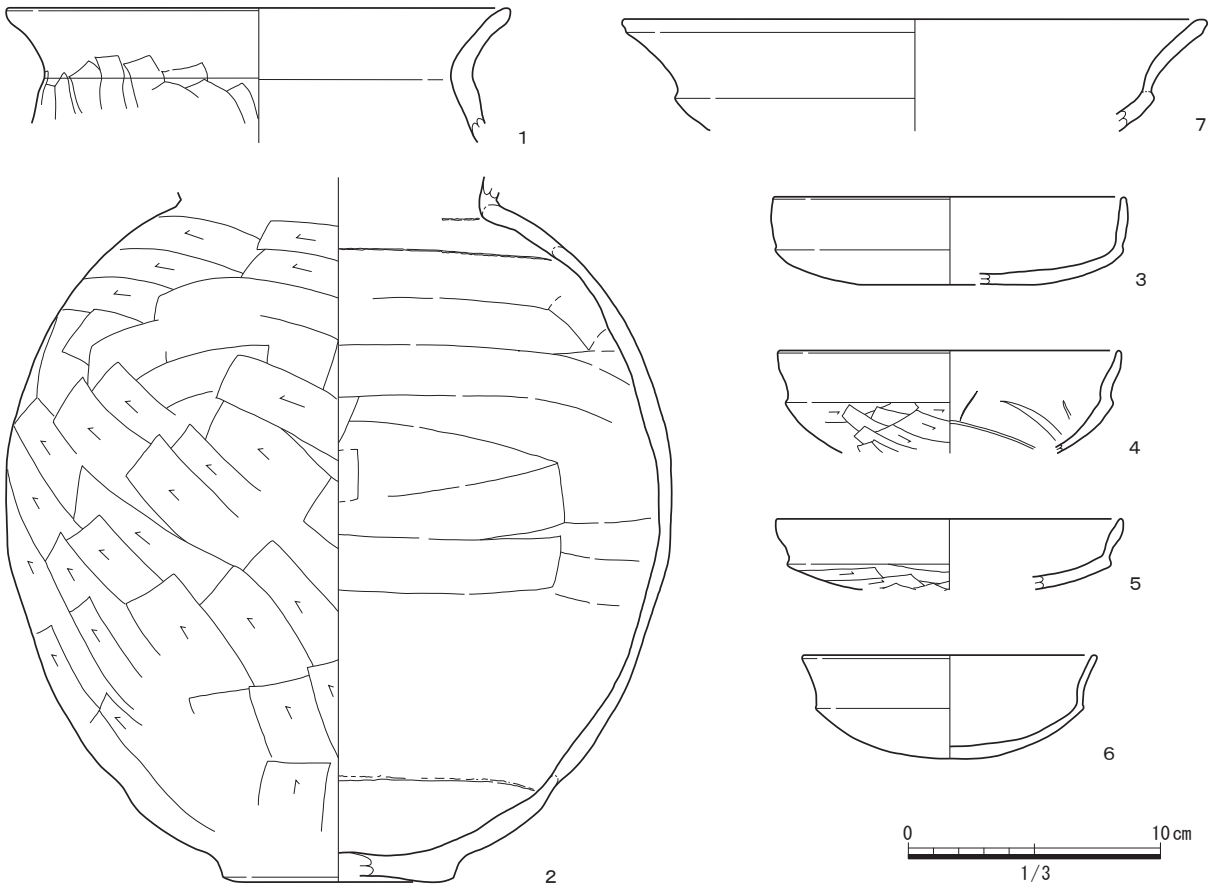
第 221 図　M－１号溝遺物実測図

第 97 表　M－１号溝出土遺物観察表

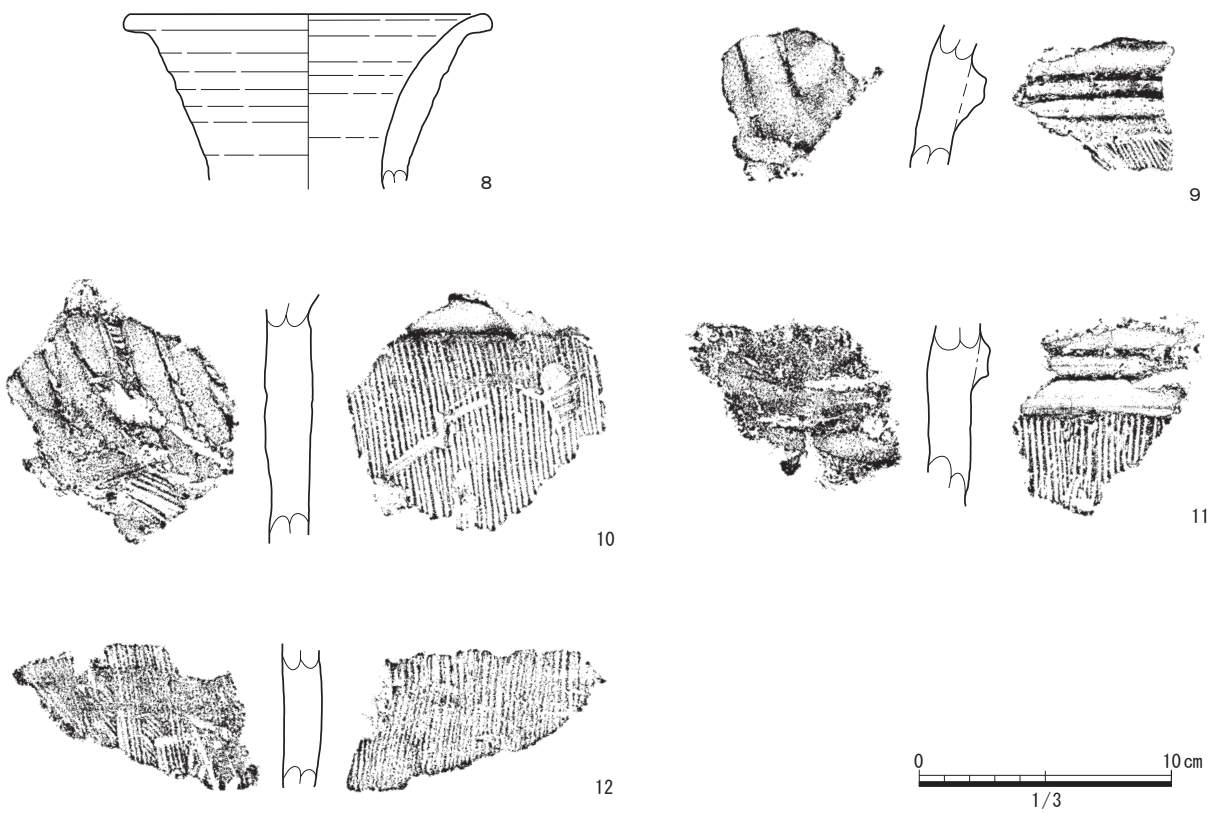
番号	器種	法量（cm）（指定値）		残存	色調	胎土	焼成	成整形の特徴	備考
1	須恵器 壺	口径 底径 器高	－ － －	頸部～肩部 1/5 残存	外：灰N 5/0 内：灰N 4/0	大粒の石英、片岩	良好	ロクロ成形 外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	覆土一括
2	土師器 坏	口径 底径 器高	(14.4) － －	口縁部～体部 1/5 残存	外：橙 7.5YR6/6 内：橙 7.5YR6/6	石英、角閃石、白色粒	良好	外：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ（摩滅） 内：口縁部～体部ヨコナデ	覆土一括

３．遺構外出土遺物

遺構外より出土した土師器７点、須恵器１点、円筒埴輪４点を図示した（第 222・223 図、第 98 表、PL. 93・95)。出土した土器の多くは１区北側から２区南端部に位置する谷地からの出土である。出土した土器の帰属時期は今回の調査で確認された竪穴住居跡と一致しており当該集落に伴う土器であったことが推測される。



第 222 図　古墳時代遺構外遺物実測図①



第 223 図　古墳時代遺構外遺物実測図②

第 98 表　古墳時代遺構外出土遺物観察表

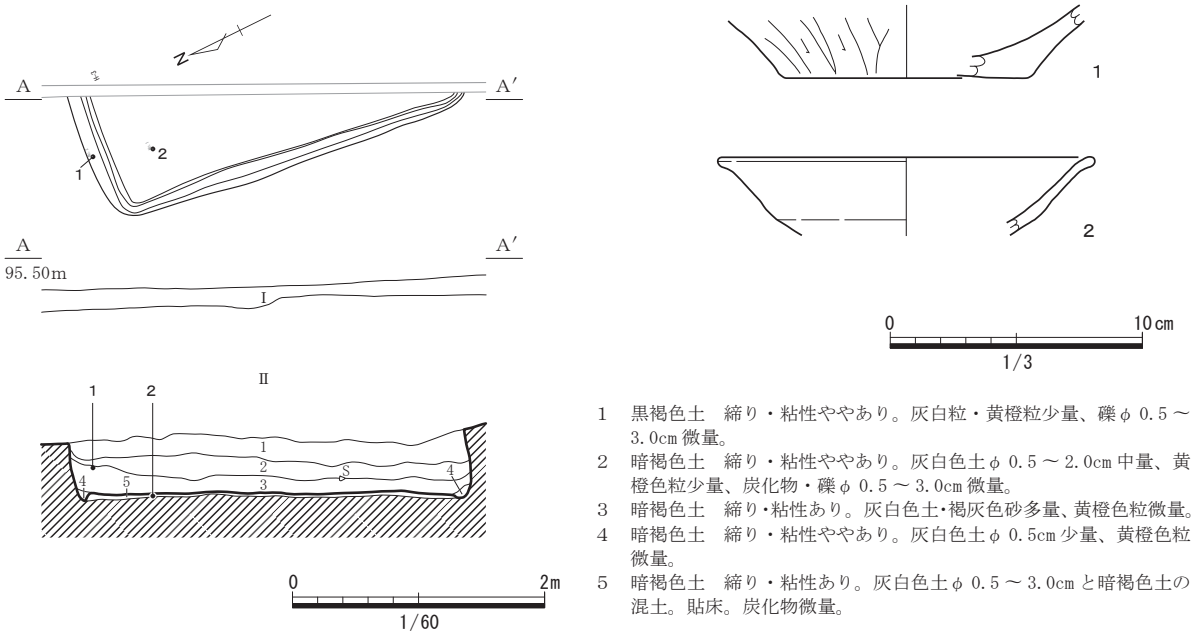
番号	器種	法量（cm）（推定値）		残存	色調	胎土	焼成	成整形の特徴	備考
1	土師器甕	口径 底径 器高	(20.0) － －	口縁部～頸部 1/4 残存	外：にぶい橙 10YR7/4 内：にぶい橙 10YR7/4	石英、赤色粒	良好	外：口縁部ヨコナデ、胴部タテのヘラケズリ 内：口縁部ヨコナデ、胴部ヨコのヘラナデ	2 区南表採
2	土師器甕	口径 底径 器高	－ (9.2) －	頸部～底部 1/2 残存	外：橙 7.5YR7/6 内：橙 7.5YR7/6	片岩、石英、赤色粒	良好	外：胴部ナナメ・タテのヘラケズリ 内：頸部指頭痕、胴部ヨコのヘラナデ	1 区 11 トレンチ
3	土師器坏	口径 底径 器高	(14.0) － 3.5	口縁部～底部 1/4 残存	外：橙 5YR7/6 内：橙 5YR7/6	チャート、褐色粒	良好	外：口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ（摩滅） 内：口縁部ヨコナデ、体部～底部摩滅	1 区 7 トレンチ
4	土師器坏	口径 底径 器高	(13.6) － －	口縁部～体部 1/5 残存	外：褐灰 10YR4/1 内：黒褐 10YR3/1	褐色粒	良好	外：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ 内：口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ	1 区 7 トレンチ
5	土師器坏	口径 底径 器高	(13.8) － －	口縁部～体部 1/5	外：褐灰 10YR4/1 内：にぶい黄褐 10YR4/3	角閃石、白色粒	良好	外：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ 内：口縁部～体部ヨコナデ	1 区 8 トレンチ
6	土師器坏	口径 底径 器高	(11.7) － 4.1	口縁部～体部 1/2 欠損	外：橙 2.5YR6/8 内：橙 5YR6/8	石英、白色粒	良好	外：口縁部ヨコナデ、体部摩滅 内：摩滅	2 区南表採
7	土師器高坏	口径 底径 器高	(23.2) － －	坏部口縁部～体部破片	外：にぶい橙 7.5YR6/4 内：灰褐 7.5YR4/2	石英、赤色粒	良好	外：口縁部ヨコナデ、体部摩滅 内：口縁部～体部ヨコナデ	1 区 11 トレンチ
8	須恵器壺	口径 底径 器高	－ (14.6) －	口縁部 1/3 残存	外：にぶい黄橙 10YR6/4 内：にぶい黄褐 10YR5/5	片岩、チャート、石英	良好	外：ロクロ整形 内：ロクロ整形	2 区
9	円筒埴輪	口径 底径 器高	－ － －	胴部破片	外：明赤褐 2.5YR5/6 内：明赤褐 2.5YR5/6	片岩、チャート、石英	良好	外：タテのハケメ、凸帯部ヨコナデ 内：タテのナデ	1 区
10	円筒埴輪	口径 底径 器高	－ － －	胴部破片	外：明赤褐 2.5YR5/6 内：明赤褐 2.5YR5/6	大粒の片岩、チャート、石英	良好	外：タテのハケメ 内：ナナメのハケメ後にタテのナデ	2 区北
11	円筒埴輪	口径 底径 器高	－ － －	胴部破片	外：明赤褐 5YR5/6 内：明赤褐 2.5YR5/6	大粒の片岩、チャート、石英	良好	外：タテのハケメ、凸帯部ヨコナデ 内：ヨコのナデ	2 区南表採
12	円筒埴輪	口径 底径 器高	－ － －	胴部破片	外：明赤褐 5YR5/6 内：明赤褐 5YR5/6	大粒の片岩、チャート、石英	良好	外：タテのハケメ 内：タテのハケメ後にヨコの弱いナデ	2 区南表採

第５節　平安時代以降

１．竪穴住居跡

Ｈ－３号住居跡（第 224 図、第 99 表、PL. 42・93）

位置：２区。Ba-18・19 グリッド。**平面形態**：方形基調。**重複**：倒木痕－３と重複するが、切り合い関係は本遺構の方が新しい。**規模**：〈2. 09〉m×〈0. 76〉m。**深度**：0. 47 m。**主軸方位**：Ｎ－7°－Ｅ。**カマド**：調査区外と想定される。**柱穴**：確認されなかった。**壁周溝**：調査範囲においては全周していた。**貯蔵穴・土坑**：確認されなかった。**床面の状態**：概ね平坦である。灰白色土と暗褐色土による貼り床が確認された。**遺構埋没状態**：自然埋没と考えられる。**出土遺物**：出土量は少ないが埋没土中から土師器（坏・甕）、須恵器（坏）が出土した。**時期**：出土遺物から、平安時代（９世紀後半）と考えられる。



第 224 図　Ｈ－３号住居跡遺構図・遺物実測図

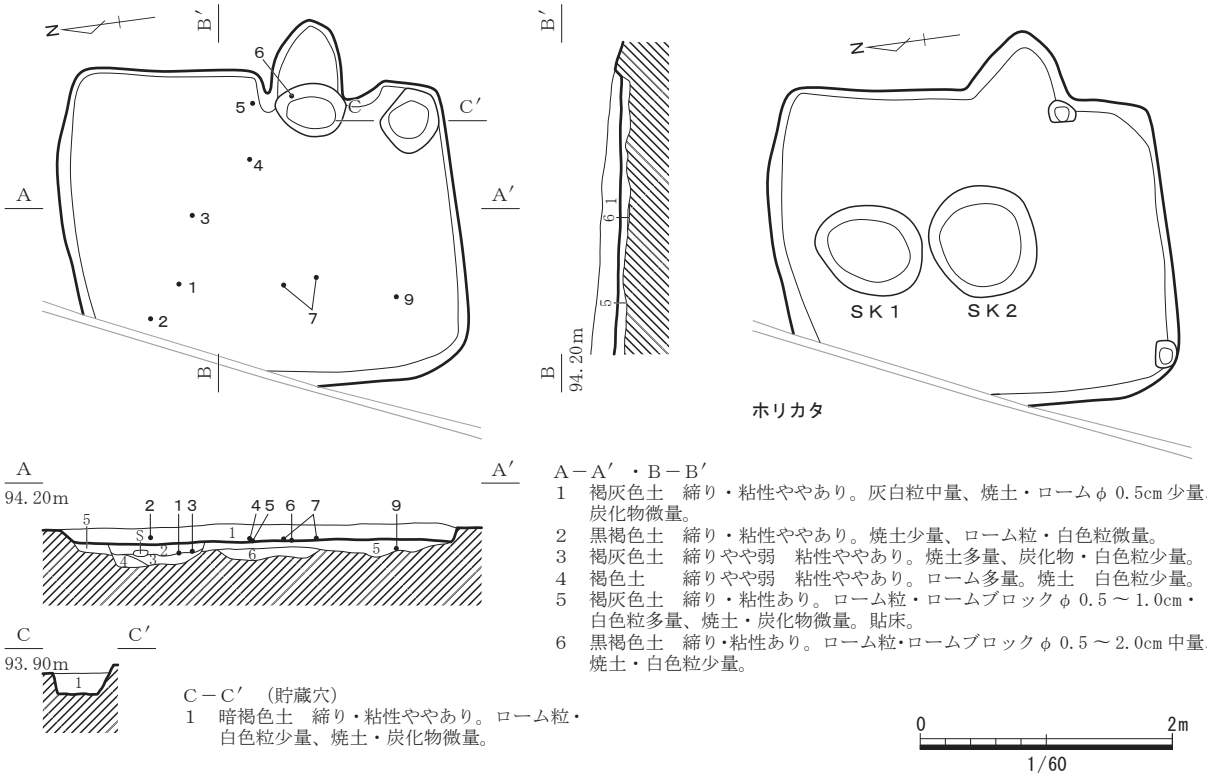
第 99 表　Ｈ－３号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	法量（cm）（推定値）		残存	色調	胎土	焼成	成整形の特徴	備考（出土層位）
1	土師器甕	口径 底径 器高	－ (10. 2) －	底部 1/4 残存	外：にぶい黄褐 10YR5/3 内：橙 5YR6/6	片岩、チャート	良好	外：胴部タテのヘラケズリ、底部ヘラケズリ後にナデ 内：胴部から底部ヘラナデ	覆土
2	須恵器坏	口径 底径 器高	(15. 0) － －	口縁部破片	外：灰黄 2. 5YR6/2 内：灰黄 2. 5YR6/2	石英、白色粒	未還元	ロクロ成形 外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	覆土

Ｈ－４号住居跡（第 225・226 図、第 100 表、PL. 42・43・94）

位置：２区。Aq-21・22、Ar21・22 グリッド。**平面形態**：隅丸長方形を呈する。**重複**：認められなかった。**規模**：〈3. 09〉m×〈2. 66〉m。**深度**：0. 26 m。**主軸方位**：Ｎ－88°－Ｗ。**カマド**：東壁やや南寄りに付設されていた。構築材として黄褐色土を主体に用いていた。規模は最大長 0. 92 m、カマド内側における最大幅は 0. 48 mである。左袖脇から須恵器の高台付碗が出土した。**柱穴**：確認されなかった。**壁周溝**：確認されなかった。**貯蔵穴・土坑**：貯蔵穴が南東コーナーで貯蔵穴と考えられる浅い土坑状の掘込みを確認した。平面形状は不整形、断面形状は逆台

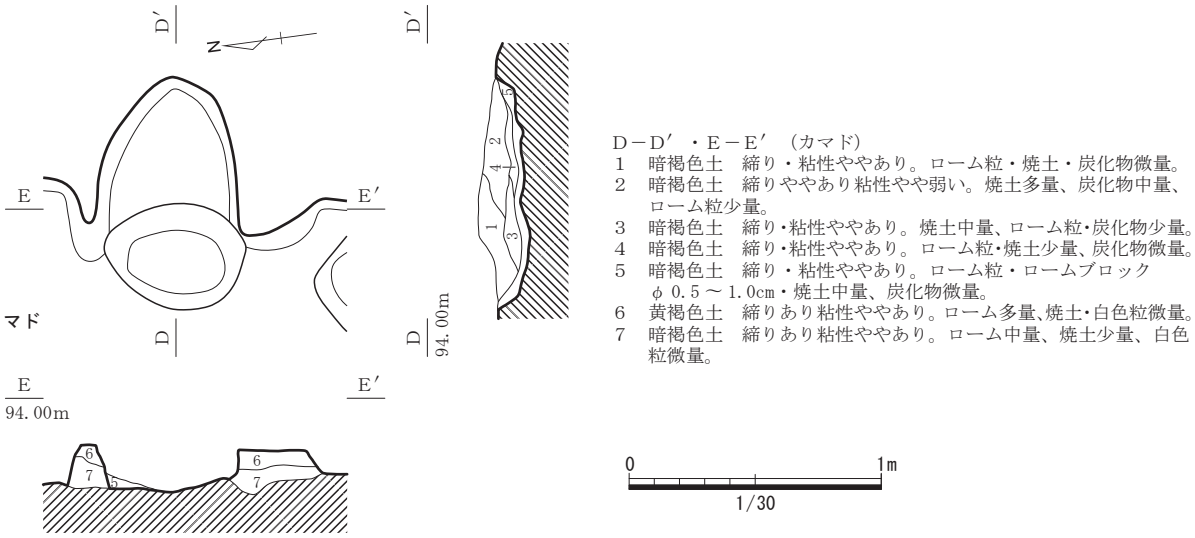
形である。規模は 0.48 m× 0.1 m、深さ 0.18 mである。中央やや北寄りの床下から土坑２基が検出された。ＳＫ１の平面形状は不整形、断面形状は逆台形である。規模は 0.85 m× 0.70 m、深さ 0.19 mである。ＳＫ２は平面形状・断面形状ともに不整形である。規模は 0.90 m× 0.82 m、深さ 0.10 mである。**床面の状態**：概ね平坦である。黄褐色土を含む褐灰色土による貼り床が確認された。**遺構埋没状態**：自然埋没と考えられる。**出土遺物**：覆土中から土師器（坏・甕）、須恵器（坏・高台付埦・甕）、羽釜が出土した。**時期**：出土遺物から平安時代（９世紀後半）と考えられる。



A－A′ ・B－B′
1　褐灰色土　締り・粘性ややあり。灰白粒中量、焼土・ローム φ 0.5cm 少量、炭化物微量。
2　黒褐色土　締り・粘性ややあり。焼土少量、ローム粒・白色粒微量。
3　褐灰色土　締りやや弱　粘性ややあり。焼土多量、炭化物・白色粒少量。
4　褐色土　　締りやや弱　粘性ややあり。ローム多量。焼土　白色粒少量。
5　褐灰色土　締り・粘性あり。ローム粒・ロームブロック φ 0.5 ～ 1.0cm・白色粒多量、焼土・炭化物微量。貼床。
6　黒褐色土　締り・粘性あり。ローム粒・ロームブロック φ 0.5 ～ 2.0cm 中量、焼土・白色粒少量。

C－C′ （貯蔵穴）
1　暗褐色土　締り・粘性ややあり。ローム粒・白色粒少量、焼土・炭化物微量。

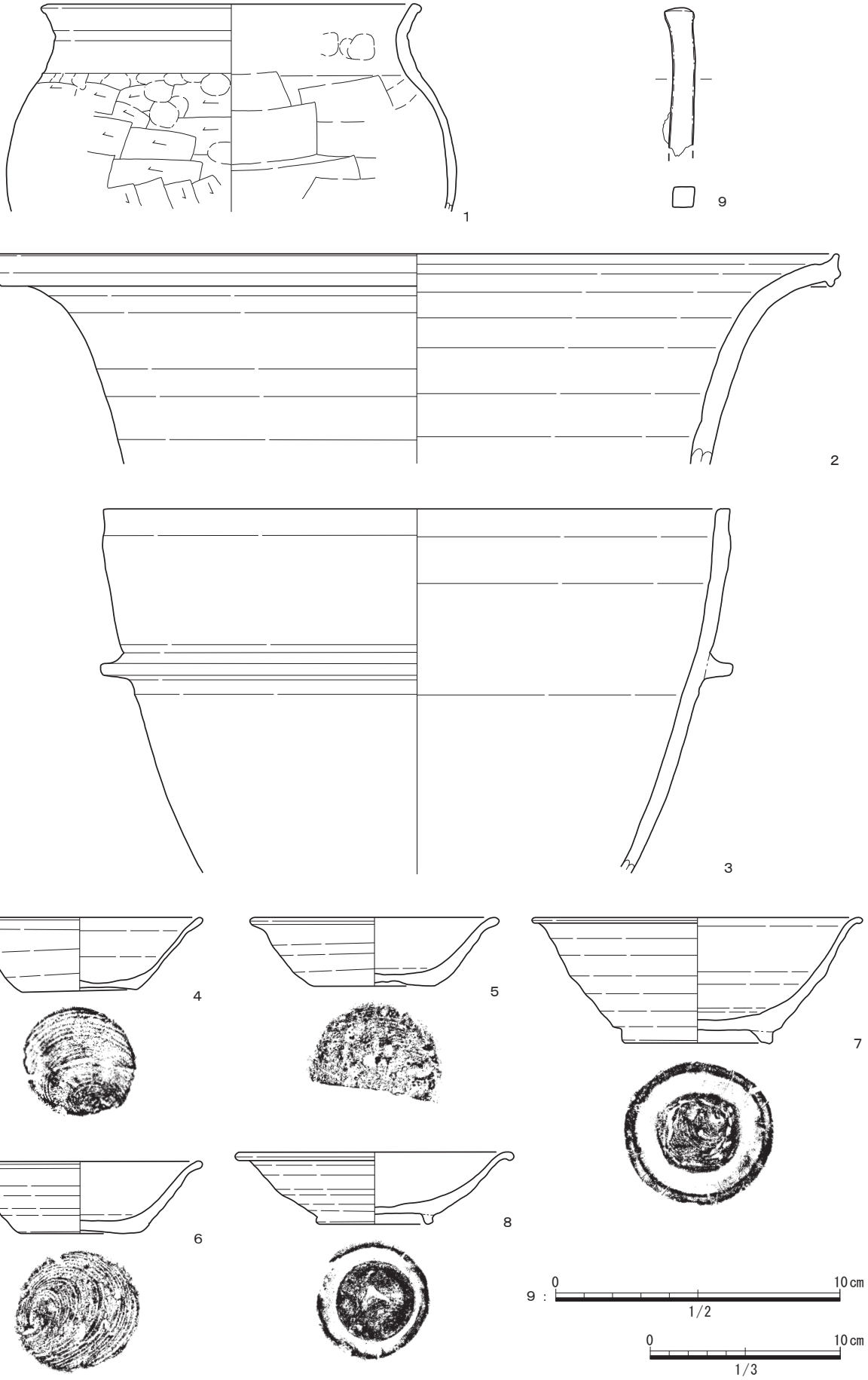
0　2m
1/60



D－D′ ・E－E′ （カマド）
1　暗褐色土　締り・粘性ややあり。ローム粒・焼土・炭化物微量。
2　暗褐色土　締りややあり粘性やや弱い。焼土多量、炭化物中量、ローム粒少量。
3　暗褐色土　締り・粘性ややあり。焼土中量、ローム粒・炭化物少量。
4　暗褐色土　締り・粘性ややあり。ローム粒・焼土少量、炭化物微量。
5　暗褐色土　締り・粘性ややあり。ローム粒・ロームブロック φ 0.5 ～ 1.0cm・焼土中量、炭化物微量。
6　黄褐色土　締りあり粘性ややあり。ローム多量、焼土・白色粒微量。
7　暗褐色土　締りあり粘性ややあり。ローム中量、焼土少量、白色粒微量。

0　1m
1/30

第 225 図　Ｈ－４号住居跡遺構図



第 226 図　H－4 号住居跡遺物実測図

第 100 表　H－４号住居跡出土遺物観察表

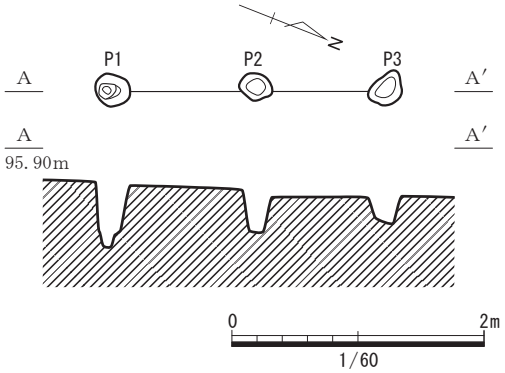
番号	器種	法量（cm）（推定値）		残存	色調	胎土	焼成	成整形の特徴	備考（出土層位等）
1	土師器甕	口径 底径 器高	(20.0) － －	口縁部～胴部 1/3 残存	外：にぶい赤褐 5YR4/4 内：赤褐 5YR4/6	チャート、白色粒、赤色粒	良好	外：口頸部ヨコナデ・指頭痕、胴部ヨコのヘラケズリ 内：口頸部ヨコナデ・指頭痕、胴部ヨコのヘラナデ	
2	須恵器甕	口径 底径 器高	(44.4) － －	口頸部 1/8 残存	外：灰黄褐 10YR5/2 内：灰白 5Y7/1	石英、白色粒	普通	ロクロ成形 外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	
3	羽釜	口径 底径 器高	(33.0) － －	口縁部～胴部 1/6 残存	外：浅黄 2.5Y7/3 内：にぶい黄橙 10YR6/4	チャート、白色粒	良好	ロクロ成形 外：ロクロナデ、口縁部指頭痕 内：ロクロナデ	
4	須恵器坏	口径 底径 器高	(13.0) 6.0 4.0	口縁部～体部 1/3 欠損	外：灰黄 2.5Y7/2 内：黄灰 2.5Y5/1	チャート、石英	未還元	ロクロ成形、底部回転糸切り 外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	
5	須恵器坏	口径 底径 器高	(13.2) 6.4 3.6	口縁部～底部 1/2 残存	外：灰 N6/0 内：黄灰 2.5Y6/1	チャート、白色粒	普通	ロクロ成形、底部回転糸切り 外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	
6	須恵器坏	口径 底径 器高	(13.0) 6.6 3.8	口縁部～体部 1/3 欠損	外：灰 5Y6/1 内：灰 5Y6/1	チャート、白色粒	良好	ロクロ成形、底部回転糸切り 外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	
7	須恵器埦	口径 底径 器高	(17.4) 7.9 6.6	口縁部～体部 2/3 欠損	外：にぶい黄橙 10YR6/4 内：にぶい黄橙 10YR6/3	片岩、チャート、赤色粒	未還元	ロクロ成形、底部回転糸切り 外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	
8	須恵器埦	口径 底径 器高	(14.7) 6.1 3.8	口縁部～体部 3/4 欠損	外：灰黄 2.5YR6/2 内：灰黄 2.5YR6/2	大粒の片岩、チャート、白色粒	未還元	ロクロ成形、底部回転糸切り 外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	

番号	器種	法量（cm・g）／特徴	備考（出土層位等）
9	鉄製品 釘	長さ（5.20）cm、幅 0.85 cm、厚さ 0.70 cm、重さ（16.38）g／下端欠損。角釘。	

２．柵列

１号柵列（第 227 図）

位置：１区。Cg-6 グリッド。**重複**：２号柵列と重複し、切り合い関係および本遺構は覆土中に As-B を含むのに対して２号柵列は含まないことから本遺構が新しい。**規模・柱間距離**：３基の柱穴から構成される。全長 2.22 m。柱間距離は P1 － P2 が 1.14 m、P2 － P3 が 1.08 mである。各ピットの規模は P1 が 0.27 × 0.26・深さ 0.54 m、P2 が 0.26 × 0.21・深さ 0.33 m、P3 が 0.29 × 0.22・深さ 0.21 mである。**主軸方位**：N－ 22°－W。**遺構埋没状態**：自然埋没と想定される。**柱穴の形状**：平面形は円形基調であるがやや不整形。断面形は逆台形を基調とする。P1 は北側に中段を有する。**遺物**：出土しなかった。**時期**：覆土中から遺物が出土しなかったため詳細な帰属時期は不明であるが、埋没土に As-B を含むことから As-B 降下以降に帰属するものと考えられる。

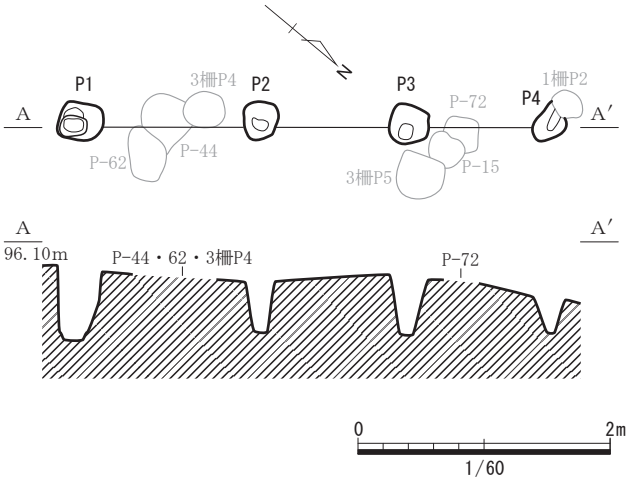


第 227 図　１号柵列遺構図

２号柵列（第 228 図）

位置：１区。Cg-6・Cg-7・Ch-7 グリッド。**重複**：１号柵列と重複し、切り合い関係および本遺構は覆土中に As-B を含まないのに対して１号柵列は含むことから本遺構が新しい。３号柵列および他のピットに関しては直接切り合い関係にないので新旧関係は不明である。**規模・柱間距離**：４基の柱穴から構成される。全長 3.78 m。柱間距離は P1 － P2 が 1.44 m、P2 － P3 が 1.20 m、P3 － P4 が 1.14 mである。各ピットの規模は P1 が 0.34 × 0.29・深さ 0.58 m、P2 が 0.30 × 0.26・深さ 0.42 m、P3 が 0.31 × 0.31・深さ 0.44 m、P4 が〈0.30〉× 0.24・深さ 0.30

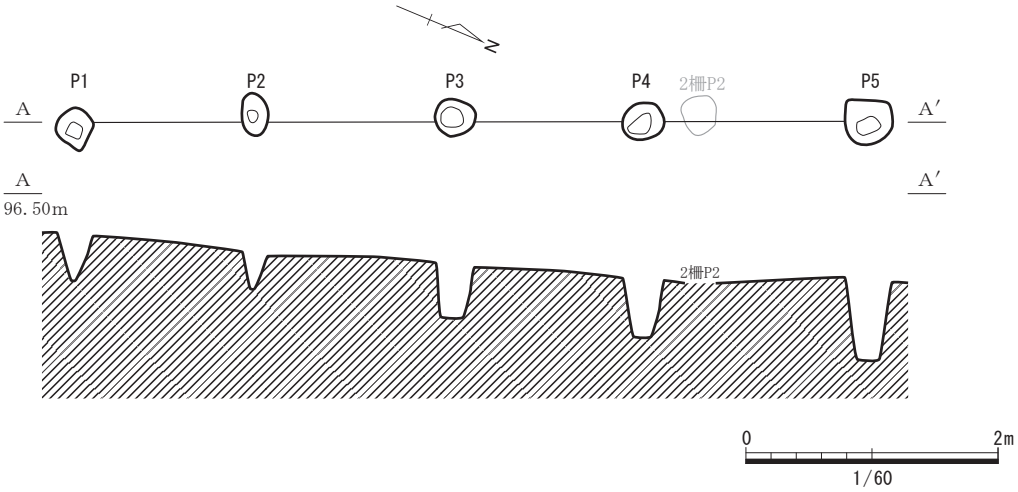
mである。**主軸方位**：N－40°－W。**遺構埋没状態**：自然埋没と想定される。**柱穴の形状**：平面形はP1～P3がやや不整形な隅丸長方形、P4が不整形である。断面形は逆台形を基調とする。**遺物**：P3の覆土中より土師器甕片が出土した。**時期**：遺物の出土量が少ないため詳細な帰属時期は不明であるが、埋没土にAs-Bを含まないことからAs-B降下以前に帰属するものと考えられる。



第228図　２号柵列遺構図

３号柵列（第229図）

位置：１区。Cg-7・Ch-7・Ci-7グリッド。**重複**：２号柵列と重複するが、直接的な切り合い関係になく新旧関係は不明である。**規模・柱間距離**：５基の柱穴から構成される。全長6.24 m。柱間距離はP1－P2が1.38 m、P2－P3が1.56 m、P3－P4が1.50 m、P4－P5が1.80 mである。各ピットの規模はP1が0.28×0.27・深さ0.36 m、P2が0.34×0.21・深さ0.30 m、P3が0.32×0.29・深さ0.45 m、P4が0.32×0.29・深さ0.48 m、P5が0.37×0.35・深さ0.65 mである。**主軸方位**：N－40°－W。**遺構埋没状態**：自然埋没と想定される。**柱穴の形状**：平面形は円形基調であるがやや不整形である。断面形は逆台形を基調とする。**遺物**:P1から土師器坏片が出土した。**時期**:遺物の出土が少なかったため詳細な帰属時期は不明であるが、埋没土にAs-Bを含まないことからAs-B降下前に帰属するものと考えられる。

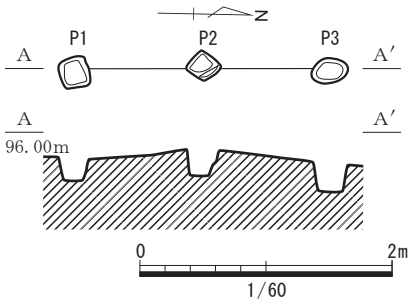


第229図　３号柵列遺構図

４号柵列（第230図）

位置：１区。Cg-7グリッド。**重複**：重複は認められなかった。検出された箇所が調査区際であったことから調査区外に範囲が延びる可能性も想定される。**規模・柱間距離**：検出した範囲では３基の柱穴から構成される。全長2.04 m。柱間距離はP1－P2が1.02 m、P2－P3が1.02 mである。各ピットの規模はP1が0.24×0.23・深さ0.18 m、P2が0.21×0.20・深さ0.20 m、P3が0.29×0.20・深さ0.24 mである。**主軸方位**:N－1°－E。

遺構埋没状態：自然埋没と想定される。**柱穴の形状**：平面形はP1・P2が隅丸方形､P3が楕円形を呈する。断面形は逆台形を基調とする。P2は東壁に段を有する。**遺物**：出土しなかった。**時期**：覆土中から遺物が出土しなかったため詳細な帰属時期は不明であるが、埋没土にAs-Bを含むことからAs-B降下以降に帰属するものと考えられる。

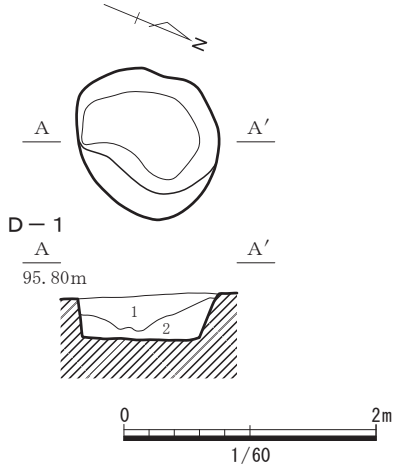


第230図　４号柵列遺構図

３．土坑

Ｄ－１号土坑（第231図）

位置：１区。Cf-6グリッド。**平面形態**：楕円形を呈する。**断面形態**:逆台形状を呈する。**重複**:認められなかった。**規模**:1.23×1.08ｍ、深さ0.38ｍ。**長軸方位**：Ｎ－45°－Ｅ。**遺構埋没状態**：自然埋没と考えられる。**遺物**：出土しなかった。**時期**：覆土中から遺物が出土しなかったため詳細な帰属時期は不明であるが、埋没土にAs-Bを含むことからAs-B降下以降に帰属するものと考えられる。

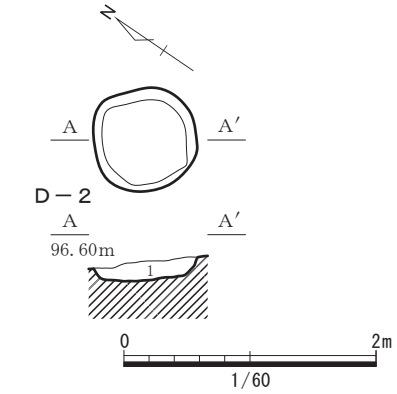


1　暗褐色土　締り・粘性ややあり。As-B軽石粒少量。
2　暗褐色土　締り・粘性ややあり。ローム粒・灰黄色粘土少量、白色粒微量。

第231図　Ｄ－１号土坑遺構図

Ｄ－２号土坑（第232図、PL.44）

位置：１区。Ck-6グリッド。**平面形態**：隅丸方形状を呈する。**断面形態**:逆台形状を呈する。**重複**:認められなかった。規模:0.80×0.80ｍ、深さ0.20ｍ。**長軸方位**：―。**遺構埋没状態**:人為埋没と考えられる。**遺物**：出土しなかった。**時期**：遺物が出土しなかったため詳細な帰属時期は不明であるが、埋没土にAs-Bを含むことからAs-B降下以降に帰属するものと考えられる。



1　黒褐色土　締り・粘性ややあり。ローム粒・ロームブロックφ0.5～1.0cm多量､As-B中量､As-YP微量。

第232図　Ｄ－２号土坑遺構図

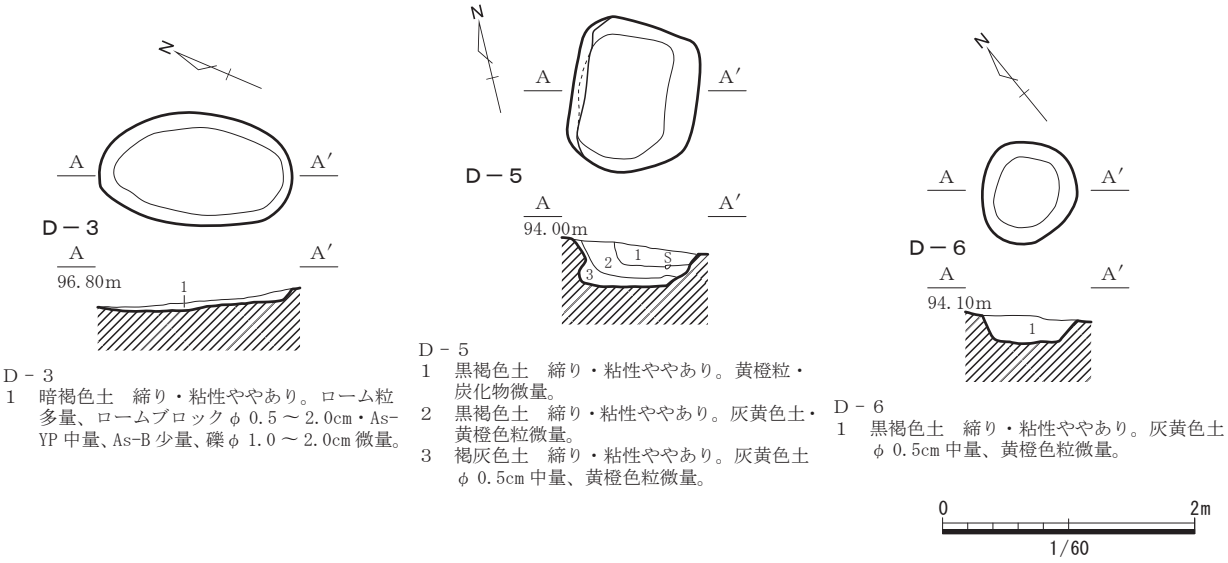
Ｄ－３号土坑（第233図）

位置：１区。Cj-7グリッド。**平面形態**：長楕円形を呈する。**断面形態**:レンズ状を呈する。**重複**:認められなかった。**規模**:1.52×0.90ｍ、深さ0.20ｍ。**長軸方位**：Ｎ－22°－Ｗ。**遺構埋没状態**：人為的と考えられる。**遺物**：出土しなかった。**時期**:遺物が出土しなかったため詳細な帰属時期は不明であるが、埋没土にAs-Bを含むことからAs-B降下以降に帰属するものと考えられる。

Ｄ－４号土坑：倒木痕－３に変更。

Ｄ－５号土坑（第 233 図）

位置：２区。Aw-19・20 グリッド。**平面形態**：不整形を呈する。**断面形態**：不整形を呈する。**重複**：認められなかった。**規模**：1.22 × 0.99 m、深さ 0.40 m。**長軸方位**：Ｎ－ 24°－Ｅ。**遺構埋没状態**：自然埋没と考えられる。**遺物**：僅少ながら覆土中から縄文土器片（深鉢）、土師器片（甕）が出土した。**時期**：出土遺物が乏しいため詳細な帰属時期は不明であるが、埋没土に As-B を含まないことから As-B 降下以前に帰属するものと考えられる。



D－3
1　暗褐色土　締り・粘性ややあり。ローム粒多量、ロームブロックφ 0.5 ～ 2.0cm・As-YP 中量、As-B 少量、礫φ 1.0 ～ 2.0cm 微量。

D－5
1　黒褐色土　締り・粘性ややあり。黄橙粒・炭化物微量。
2　黒褐色土　締り・粘性ややあり。灰黄色土・黄橙色粒微量。
3　褐灰色土　締り・粘性ややあり。灰黄色土φ 0.5cm 中量、黄橙色粒微量。

D－6
1　黒褐色土　締り・粘性ややあり。灰黄色土φ 0.5cm 中量、黄橙色粒微量。

第 233 図　Ｄ－３・５・６号土坑遺構図

Ｄ－６号土坑（第 233 図、PL. 44）

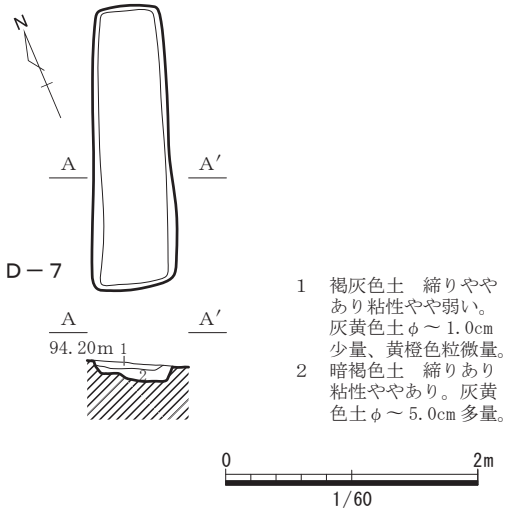
位置：２区。Av-20 グリッド。**平面形態**：楕円形を呈する。**断面形態**：レンズ状を呈する。**重複**：認められなかった。**規模**：0.80 × 0.74 m、深さ 0.25 m。**長軸方位**：Ｎ－ 46°－Ｅ。**遺構埋没状態**：自然埋没と考えられる。**遺物**：僅少ながら覆土中から土師器片（甕）が出土した。**時期**：出土遺物が乏しいため詳細な帰属時期は不明であるが、埋没土に As-B を含まないことから As-B 降下以前に帰属するものと考えられる。

Ｄ－７号土坑（第 234 図、PL. 44）

位置：２区。Aw-19 グリッド。**平面形態**：隅丸長方形を呈する。**断面形態**：不整形を呈する。**重複**：認められなかった。**規模**：2.25 × 0.69 m、深さ 0.18 m。**長軸方位**：Ｎ－ 22°－Ｅ。**遺構埋没状態**：自然埋没と考えられる。**遺物**：出土しなかった。**時期**：遺物が出土しなかったため詳細な帰属時期は不明であるが、埋没土に As-B を含まないことから As-B 降下以前に帰属するものと考えられる。－

Ｄ－８号土坑（第 235 図）

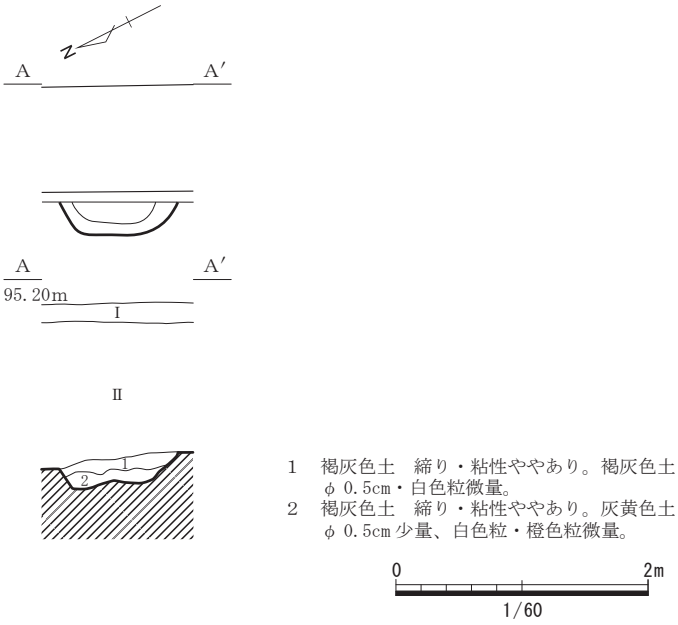
位置：２区。Ax-19 グリッド。**平面形態**：円形を基調としているものと考えられる。**断面形態**：逆台形を呈する。**重複**：Ｈ－２号住居跡と重複し、切り合い関係から本遺構が新し



1　褐灰色土　締りややあり粘性やや弱い。灰黄色土φ～ 1.0cm 少量、黄橙色粒微量。
2　暗褐色土　締りあり粘性ややあり。灰黄色土φ～ 5.0cm 多量。

第 234 図　Ｄ－７号土坑遺構図

い。。**規模**:0.93 ×〈0.27〉m、深さ 0.30 m。**長軸方位**：－。**遺構埋没状態**：自然埋没と考えられる。**遺物**:出土しなかった。**時期**:遺物が出土しなかったため詳細な帰属時期は不明であるが、埋没土に As-B を含まないことから As-B 降下以前に帰属するものと考えられる。

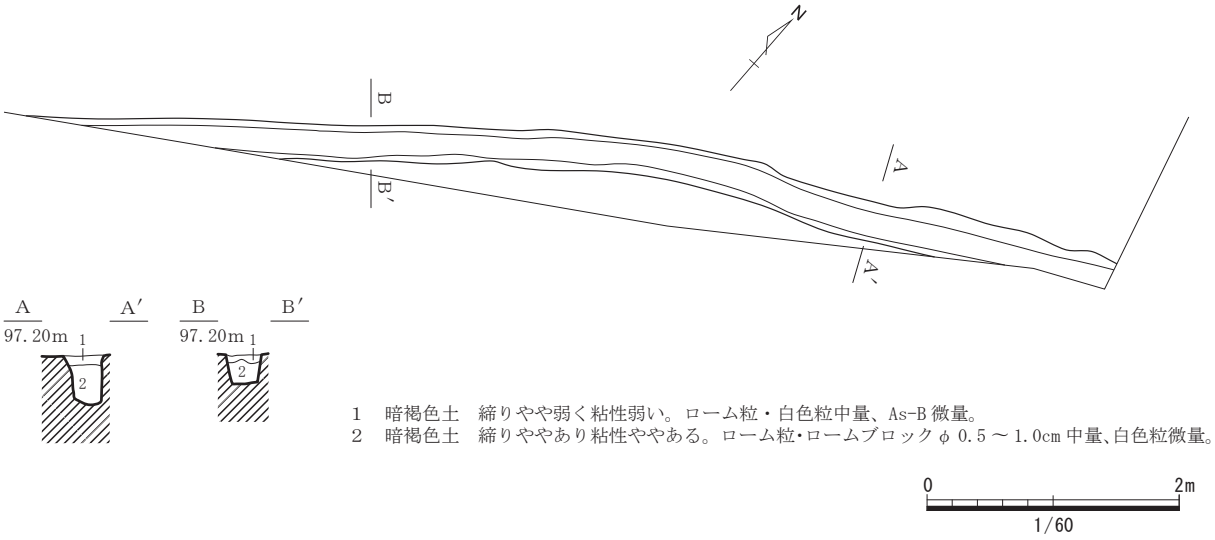


第 235 図　Ｄ－８号土坑遺構図

４．溝

Ｍ－２号溝（第 236 図）

位置：１区。Cl-7・8、Cm-6・7 グリッド。**検出状態**：北東～南西方向にやや蛇行しながら走行し、両端部は調査区外へ延びる。遺構の重複は認められなかった。**断面形態**：逆台形を呈する。**規模**：上端幅 0.25 ～ 0.37 m、下端幅 0.16 ～ 0.19 m、深さ 0.41 m。**底面の標高**：96.490 ～ 96.707 m。**走行方向**：Ｎ－ 58° －Ｅ。**遺構埋没状態**：自然埋没と考えられる。**遺物**：出土しなかった。**時期**：遺物が出土しなかったため詳細な帰属時期は不明であるが、埋没土に As-B を含むことから As-B 降下以降に帰属するものと考えられる。



第 236 図　Ｍ－２号溝遺構図

５．ピット

今回の調査において 143 基のピット（１～４号柵列を含む）が確認された。ピットは埋没土の含有物に差が認められ、As-A を含むもの、As-B を含むもの、両者を含まないものに分類される。これらのピットは帰属時期を問わず１区・２区の微高地上に集中する傾向が看取される。掘立柱建物跡の確認には至らなかったが、１区北側において４条の柵列（１～４号柵列）が検出された（第Ⅵ章第５節２）。遺物の出土は乏しかったものの、P65 からは鉄滓が１点出土している（第 237 図、第 104 表）。各ピットの計測値については第101～103表に示した。

第 101 表　ピット一覧表①

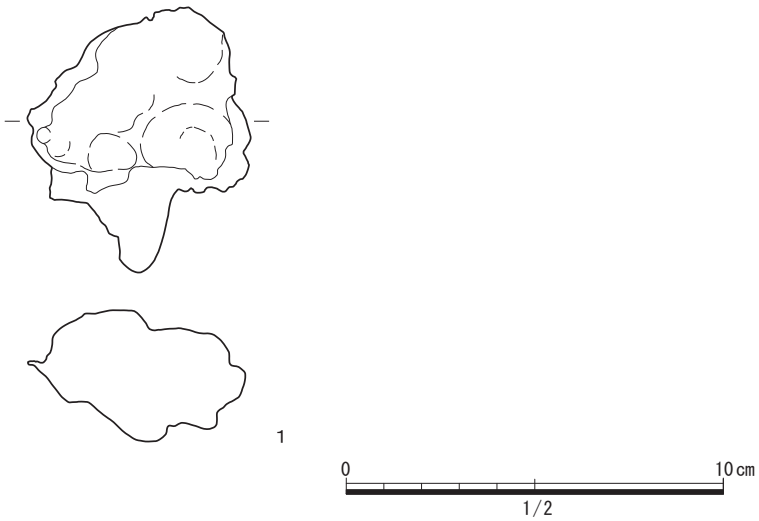
ピット番号	位置	形状	規模（cm）			切り合い	出土遺物	備考
			長径	短径	深さ			
P-1	Cg5・6	円形	28	25	19			
P-2	Cf6	隅丸方形	33	30	38			
P-3	Cf6	不整形	23	19	39			覆土に As-B を含む
P-4	Cg7	楕円形	27	18	19			
P-5	４号柵列 P3 に変更。							
P-6	１号柵列 P2 に変更。							
P-7	Cg6	隅丸方形	29	25	37			
P-8	４号柵列 P2 に変更。							
P-9	１号柵列 P3 に変更。							
P-10	Cf・Cg6	不整形	37	34	27			
P-11	Cg7	不整形	47	33	73			覆土に As-A を含む
P-12	Ch6	円形	29	23	27			覆土に As-B を含む
P-13	１号柵列 P1 に変更。							
P-14	２号柵列 P3 に変更。							
P-15	Cg6・7	円形	29	22	28	P-38・72 と重複し新旧不明。		
P-16	Cg6	不整形	26	17	15			
P-17	Cg6	円形	22	22	12			
P-18	Cg6	隅丸方形	25	25	25			
P-19	Cg7	不整形	37	29	30		縄文土器	
P-20	３号柵列 P2 に変更。							
P-21	３号柵列 P1 に変更。							
P-22	Ci7	隅丸方形	24	〈23〉	35			覆土に As-A を含む
P-23	Cm5	円形	31	〈21〉	11	H-1 と重複。		
P-24	Cm5	円形	26	25	50	H-1 と重複。		
P-25	Ch7	楕円形	27	22	36			
P-26	Ch7	楕円形	32	27	59	P-27･50と重複しP-27より古くP-50とは新旧不明。		
P-27	Ch7	楕円形	27	21	28	P-26 と重複し新しい。		
P-28	Ch7	楕円形	〈38〉	27	45			
P-29	２号柵列 P2 に変更。							
P-30	Ch6	円形	29	27	18			
P-31	４号柵列 P1 に変更。							
P-32	Cg5・6	不整形	46	27	27			
P-33	３号柵列 P3 に変更。							
P-34	Ch4	楕円形	24	19	21			
P-35	Ch5	楕円形	30	22	47			
P-36	Cg5	不整形	29	23	30			
P-37	Cg5	楕円形	37	23	34			
P-38	３号柵列 P5 に変更。							
P-39	Cg7	不整形	26	〈21〉	53			
P-40	Ch7	不整形	24	〈18〉	31			
P-41	Ci7	楕円形	30	19	31			覆土に As-B を含む
P-42	Ch7	楕円形	32	21	23			
P-43	Ch7	楕円形	34	26	44	P-44 と重複し新旧は不明。		
P-44	Ch7	円形	23	20	24	P-43 と重複し新旧は不明。		
P-45	Ci7	不整形	32	29	33			
P-46	Ci6	楕円形	28	14	20			
P-47	Ci6	楕円形	22	18	11			
P-48	Ci7	隅丸方形	22	22	23			
P-49	Ci7	不整形	25	22	37			
P-50	Ch7	隅丸方形	22	〈7〉	31	P-26 と重複し新旧は不明。		
P-51	Ch6・7 Cg6・7	楕円形	41	31	42			
P-52	Cg・Ch7	楕円形	41	24	30			

第 102 表　ピット一覧表②

ピット番号	位置	形状	規模（cm）			切り合い	出土遺物	備考
			長径	短径	深さ			
P-53	Ch7	不整形	31	16	21			
P-54	Cg5	隅丸方形	26	25	30			
P-55	Cj6	不整形	47	25	45			
P-56	Cj4・5	隅丸方形	25	20	30			覆土に As-A を含む
P-57	Cj4	不整形	49	28	55	P-90・91 と重複し最も新しい。		
P-58	Ci4	円形	25	22	27		縄文土器	
P-59	Ch5	楕円形	32	19	20			覆土に As-B を含む
P-60	Cg4	円形	25	23	15			覆土に As-B を含む
P-61	3 号柵列 P4 に変更。							
P-62	Ch7	不整形	44	29	44	P-43 と重複し古い。	羽口	
P-63	Ch7	円形	40	〈37〉	39	P-61･62 と重複し P-62 より新しく P-61 は不明。		
P-64	2 号柵列 P1 に変更。							
P-65	Ch7	不整形	28	〈23〉	34	2 柵 P1 と重複し古い。	鉄滓	
P-66	Ch7	円形	23	19	43	2 柵 P1 と重複し古い。		
P-67	Ch7	円形	〈34〉	(31)	51	P-68 と重複し古い。		
P-68	Ch7	円形	40	〈14〉	30	P-67 と重複し新しい。		
P-69	Cj5・6	不整形	23	16	12			
P-70	Ci7	楕円形	24	19	32			
P-71	Ci7	不整形	15	〈11〉	28			覆土に As-B を含む
P-72	Cg6	隅丸方形	27	〈19〉	22	P-15 と重複し新旧不明。		
P-73	Ch4	楕円形	31	20	31			
P-74	Ci4	楕円形	22	18	8			覆土に As-B を含む
P-75	Cj7	楕円形	33	26	27			
P-76	Cl7	隅丸方形	33	30	20			覆土に As-B を含む
P-77	Cj6	楕円形	20	13	14			
P-78	Ck7	不整形	20	17	18			覆土に As-B を含む
P-79	Ck7	円形	25	25	58		縄文土器	覆土に As-B を含む
P-80	Cj7	円形	29	25	54			
P-81	Cj7・8	円形ヵ	38	〈19〉	52	P-82 と重複し古い。		覆土に As-B を含む
P-82	Cj7	円形ヵ	27	〈27〉	55	P-81 と重複し新しい。		
P-83	Ci7	不整形	25	17	28			
P-84	Cj7	楕円形	42	30	31			
P-85	Ck・Cj7	円形	30	28	55			
P-86	Cl7	楕円形	36	27	47			覆土に As-B を含む
P-87	Cj・Ck6	楕円形	61	31	24			
P-88	Ck5	楕円形	32	21	17			
P-89	Cj5	円形	21	20	30			
P-90	Cj4	隅丸方形	26	〈16〉	19	P-57 と重複し古い。		
P-91	Cj4	隅丸方形	25	〈8〉	27	P-57 と重複し古い。		
P-92	Ch5	隅丸方形	34	16	18			
P-93	Cl8	不整形	56	35	17			覆土に As-B を含む
P-94	Bx8	円形	80	78	32		土師器甕	覆土に As-B を含む
P-95	Bt9	円形	44	〈9〉	16			
P-96	Bn・Bo12	円形	42	〈29〉	18		土師器坏・甕	
P-97	Be16	不整形	26	26	25			
P-98	Be16	不整形	43	27	19			
P-99	Be16	不整形	34	27	29			
P-100	Be16	楕円形	20	11	15			
P-101	Bc17	円形	42	〈28〉	28			
P-102	Bb17	円形	33	28	40			
P-103	Ba18	円形	41	40	49			
P-104	Ay18	円形	22	18	20			
P-105	Ax18	楕円形	26	18	25			
P-106	Ba・Bb17	不整形	31	26	31			
P-107	Ay18	不整形	26	20	32		縄文土器	
P-108	Ay18	楕円形	27	22	32		土師器小片	
P-109	Ay19	円形	20	17	16			
P-110	Ay19	不整形	21	17	25			
P-111	Ax・Ay18	円形	23	20	24			
P-112	Ay18	円形ヵ	18	〈10〉	12			
P-113	Bb18	円形	28	24	26			
P-114	Ba17・18	楕円形	21	16	19			
P-115	Ax・Ay19	不整形	43	34	27	H- 2 と重複し新しい。	打製石斧、土師器小片	
P-116	Ay18・19	不整形	53	34	23			
P-117	Ay18	不整形	35	25	30			
P-118	Ax19	円形	37	35	33	H- 2 と重複し新しい。		

第 103 表　ピット一覧表③

ピット番号	位置	形状	規模（cm）			切り合い	出土遺物	備考
			長径	短径	深さ			
P-119	Ax18・19	円形	27	24	13			
P-120	Ax19	円形	28	25	35			
P-121	Ax19	楕円形	22	16	30			
P-122	Ax19	楕円形	30	23	26			
P-123	Ax19	楕円形	23	18	19			
P-124	Ba18	楕円形	27	19	38			
P-125	Ay19	円形	44	40	41		縄文土器・土師器小片	
P-126	Aw19	不整形	29	25	28			
P-127	Ax19	楕円形	26	17	21			
P-128	Aw19	円形	25	25	24			
P-129	Av19	楕円形	23	21	19			
P-130	Au20	楕円形	22	19	14			
P-131	Av20	楕円形	38	26	19			
P-132	Au20	円形	17	17	16			
P-133	At20	円形	24	23	30			
P-134	Au・Av20	楕円形	31	24	16	P-135 と重複し新しい。		
P-135	Au20	円形	26	24	22	P-134 と重複し古い。		
P-136	At20	円形	20	18	23			
P-137	Av20	円形	34	30	35			
P-138	Av20	不整形	32	24	19			
P-139	Au20	不整形	30	24	36			
P-140	Au20	不整形	18	16	21			
P-141	Au20	円形	19	18	23		土師器甕	
P-142	Au20	楕円形	28	20	24			
P-143	Aq22	楕円形	34	26	38			



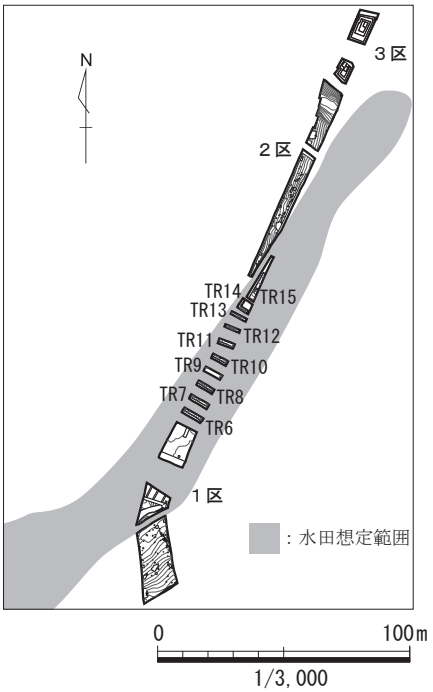
第 237 図　P -65 号ピット遺物実測図

第 104 表　P－ 65 号ピット出土遺物観察表

番号	器 種	法量（cm・ g）／特徴	備考（出土層位等）
1	鉄滓	長さ 7.0、幅 5.8、厚さ 3.4、重さ 135.05 ／磁着あり。	覆土一括

6．水田跡

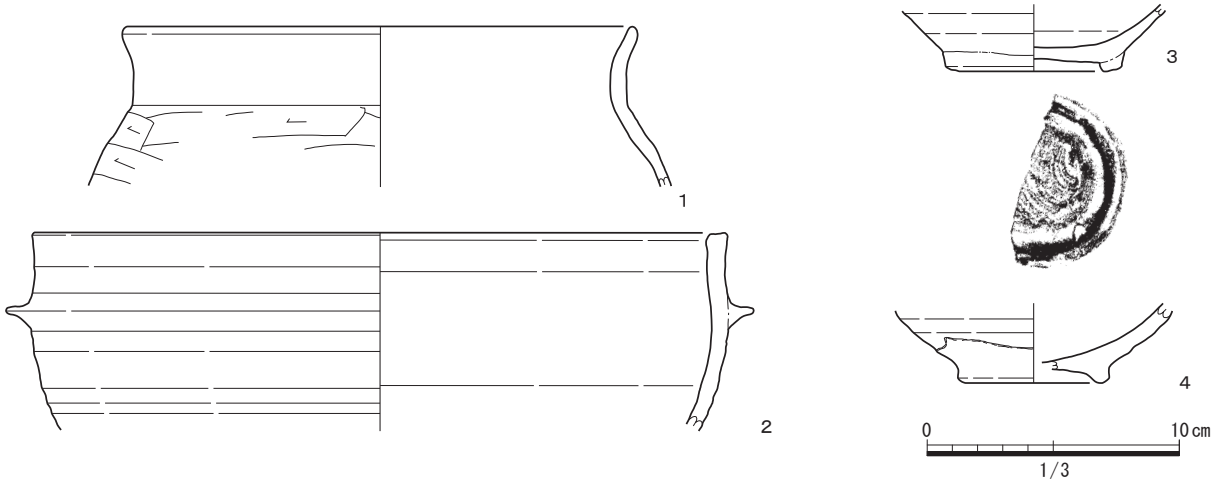
1区北側から2区南端部に位置する谷地部においては水田跡の可能性が想定された（第238図、PL.44）。そこで、15号トレンチにおいて植物珪酸体分析を行った結果、基本層序Ⅴ層より6,000個／gの植物珪酸体が検出された。通常、1g当り5,000個以上の密度で植物珪酸体が検出された場合に稲作が行われていた可能性が高いとされている（第Ⅴ章第6節）。今回の調査では畦畔などの遺構は検出されていないが、当地において稲作が行われていた可能性は極めて高いと考えられる。水田跡の帰属時期についてはⅤ層を被覆するⅣ層がAs-B一次堆積層であることから平安時代と考えられる。なお、調査区周辺は現在も谷地状の地形を呈しており水田として利用されている。



第238図　水田範囲想定図

7．遺構外出土遺物

遺構外より出土した土師器1点、須恵器2点、羽釜1点を図示した（第239図、第105表、PL.95）。1～3は表採資料、4は11号トレンチから出土したものである。



第239図　平安時代遺構外遺物実測図

第105表　平安時代遺構外出土遺物観察表

番号	器種	法量（cm）（推定値）		残存	色調	胎土	焼成	成整形の特徴	備考（出土層位等）
1	土師器甕	口径 底径 器高	(20.4) － －	口縁部～肩部1/4残存	外：にぶい赤褐5YR5/4 内：にぶい赤褐5YR5/4	チャート、石英	良好	外：口縁部ヨコナデ・輪積み痕、胴部ヨコのヘラケズリ 内：口縁部ヨコナデ、胴部ヨコのヘラナデ	2区南表採
2	羽釜	口径 底径 器高	(27.6) － －	口縁部～胴部1/8残存	外：灰黄2.5Y7/2 内：にぶい黄2.5Y6/3	片岩、チャート	良好	ロクロ成形、外面煤付着 外：ロクロナデ、口縁部指頭痕 内：ロクロナデ	2区南表採
3	須恵器塊	口径 底径 器高	－ (7.0) －	体部～底部1/2残存	外：灰黄褐10YR5/2 内：にぶい黄橙10YR6/3	チャート、石英	未還元	ロクロ成形、底部回転糸切り 外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	2区南表採
4	須恵器塊	口径 底径 器高	－ (6.0) －	体部～底部1/4残存	外：灰白7.5Y7/1 内：灰白7.5Y7/1	白色粒	やや未還元	ロクロ成形、底部切り離し不明（摩滅） 外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	1区11トレンチ

第６節　自然科学分析

１．テフラ・重軽鉱物・珪藻・植物珪酸体分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

藤岡市上落合に所在する上落合七輿遺跡は、藤岡台地の西縁を北に向かって流下する鮎川と関東山地北部から蛇行しながら流下する鏑川とに西側と東側を区切られた低位段丘（群馬県，1993）の分布する地域に位置する。詳細にみれば調査地では砂礫層とその上位に堆積する低地堆積物が確認されていることから低位段丘下の狭小な沖積低地に位置するとみることができる。今回の発掘調査では、溝状遺構（Ｍ-1 号溝、以下同）が確認され、また水田跡と考えられる土層も複数の層位にわたって検出されている。

本分析調査では、土層中に堆積するテフラを確認することにより、層序対比を行い、珪藻分析によって堆積環境を推定し、植物珪酸体分析により水田跡の可能性を検討する。また、遺構下に認められた粘土層の鉱物組成を明らかにすることにより、土器や埴輪の原材料となった可能性のある藤岡粘土層に係る資料を作成する。

1. 試料

分析の対象とした試料は、当社技師 2 名が発掘調査現場に伺い、調査区内で作成された溝状遺構西面と同東面およびトレンチ 15 の 3 箇所の断面から採取した。以下に各地点について述べる。

(1) 溝状遺構西面

溝状遺構の検出された調査区では、調査区西面と東面の 2 箇所で遺構の覆土層断面が確認されている。これらのうち、西面では、覆土層の上位に 2 枚の降下軽石層と判断される堆積層が比較的明瞭に確認された。この降下軽石層は、現地調査時に観察した層相から、上方が浅間火山の江戸時代のテフラである浅間 A テフラ（As-A：新井，1979）、下方が浅間火山の平安時代のテフラである浅間 B テフラ（As-B：新井，1979）に対比される可能性があると判断した。試料は、上方のテフラから T1 ～ T3、下方のテフラから T4 ～ T6、テフラ層の下位で T7 の 7 点を採取した。採取層位を第 240 図に示す。

T1 は厚さ 5cm ほどの軽石のやや濃集する土層であり、降下軽石層が堆積後に若干の土壌化を受けた層位と考えられる。T2 は、検出された畝を埋積する土層であり、軽石の散在が認められる。T3 は畝間に堆積した軽石の濃集するブロックであり、T4 は軽石の散在する降下軽石層直上の土層である。T6 は、厚さ 5cm ほどの降下軽石層であり、下部は径 1.5 ～ 1.0cm を主体とする粗粒軽石層、上部は径 0.5 ～ 1.0cm を主体とする細粒軽石層からなる。なお、T5 は軽石層の最上部に厚さ 2cm 程度でブロック状に堆積する細粒火山灰である。T7 は降下軽石層の基底から 30cm ほど下位に認められた厚さ 5cm 前後のシルト塊である。

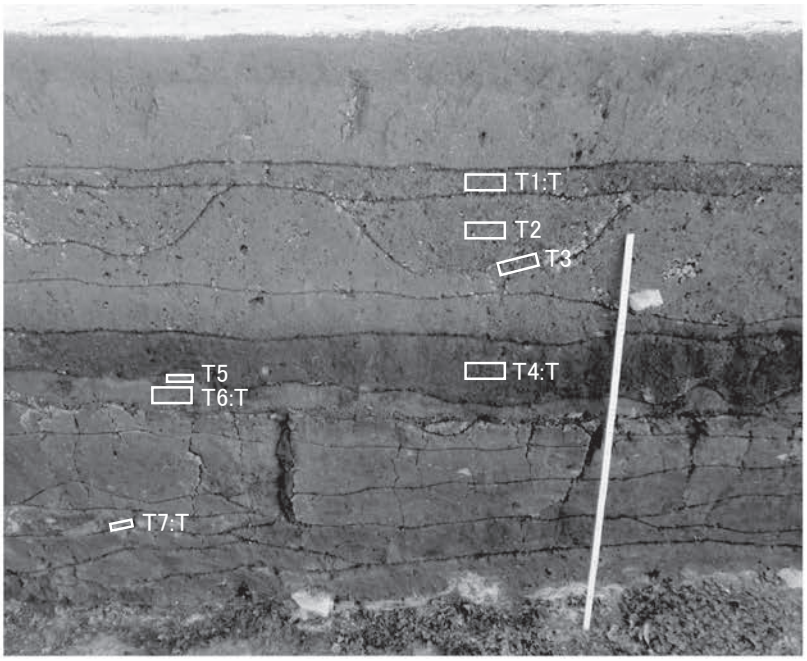
本地点では、軽石の含有が認められた T1、T4、降下軽石層である T6、細粒火山灰の可能性があると考えられた T7 の計 4 点を対象にテフラの検出同定を行う。

(2) 溝状遺構東面

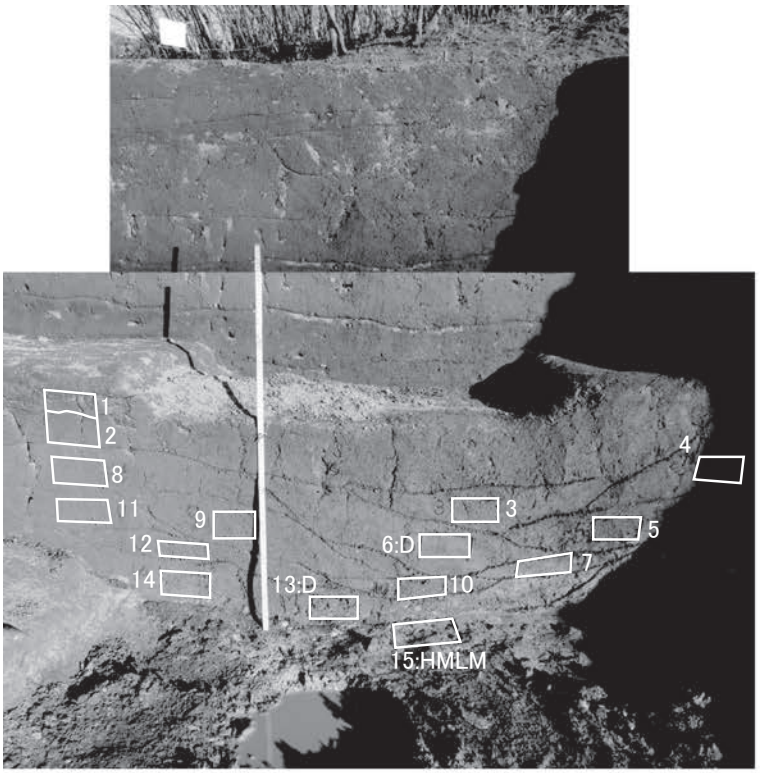
現地表面下 20cm ほどの層位に、As-A の降下堆積層が確認されている。また、西面で確認された As-B の降下堆積層は、東面では不明瞭であるが、覆土層最上位よりも上位の土層中に認められている。

試料は、発掘調査所見により分層された遺構覆土層各層につき 1 点ずつ、試料番号 1 ～ 15 までの計 15 点を採取した。覆土層断面と各試料採取位置を第 240 図に示す。なお、試料番号 15 は溝状遺構の覆土層ではなく、遺構基底直下の粘土層から採取している。

本地点では、溝状遺構覆土最下部の試料番号 13 と、覆土中部の試料番号 6 の 2 点を対象として、珪藻分析を行う。さらに、試料番号 15 を対象として重軽鉱物分析を行う。



T1 ～ T7: 試料番号　T: テフラ分析　スケールは 1m



1 ～ 15: 試料番号　D: 珪藻分析　スケールは 1m

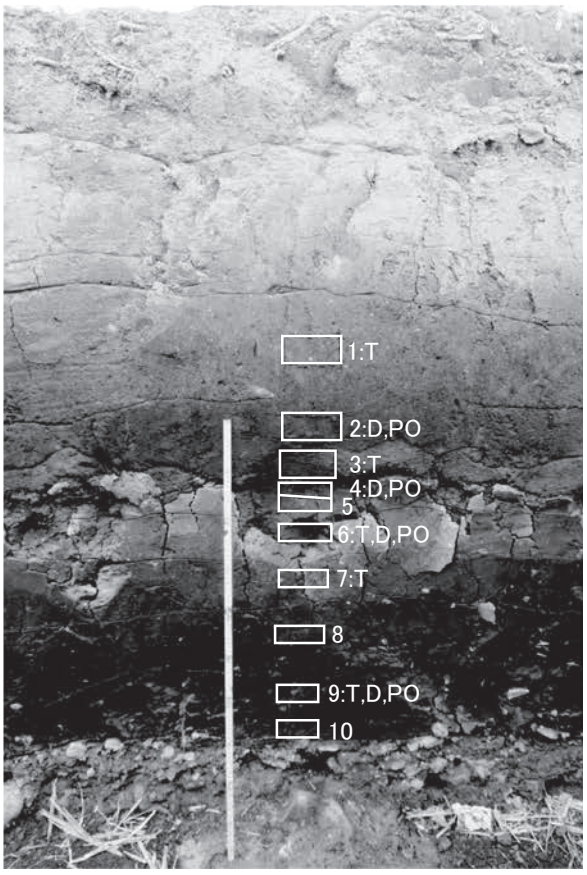
第 240 図　溝状遺構の試料採取位置（上：西面、下：東面）

(3) トレンチ 15

砂礫層の上位に形成された土層断面が確認されており、発掘調査所見により、水田跡である可能性のある土層が指摘されている。

試料は、発掘調査所見により分層された各層から 1 点ずつ、上位より試料番号 1 ～ 10 までの計 10 点が採取されている。これらのうち、試料番号 1 は軽石がやや多く含まれる土層であり、試料番号 3 は As-B と考えられる降下軽石層である。また、試料番号 10 は砂礫層直上の土層から採取している。なお、発掘調査所見では、試料番号 2 と試料番号 4、5 の層位は水田跡と想定されている。

本地点では、試料番号 1、3、6、7、9 の 5 点を対象としてテフラの検出同定を行い、層序対比の指標を得るとともに、試料番号 2、4、6、9 の 4 点を対象として珪藻分析および植物珪酸体分析を行うことにより、土層の形成環境を推定し、水田跡の可能性の検討を行う。



1 ～ 10: 試料番号　T: テフラ分析　D: 珪藻分析
PO: 植物珪酸体分析　スケールは 1m

第 241 図　トレンチ 15 の試料採取位置

2. 分析方法

(1) テフラの検出同定

試料約 20 g を蒸発皿に取り、水を加え泥水にした状態で超音波洗浄装置により粒子を分散し、上澄みを流し去る。この操作を繰り返すことにより得られた砂分を乾燥させた後、実体顕微鏡下にて観察する。観察は、テフラの本質物質であるスコリア・火山ガラス・軽石を対象とし、その特徴や含有量の多少を定性的に調べる。火山ガラスについては、その形態によりバブル型と中間型、軽石型に分類する。各型の形態は、バブル型は薄手平板

状あるいは泡のつぎ目をなす部分であるＹ字状の高まりを持つもの、中間型は表面に気泡の少ない厚手平板状あるいは塊状のもの､軽石型は表面に小気泡を非常に多く持つ塊状および気泡の長く延びた繊維束状のものとする。

(2) 重軽鉱物分析

試料約 40g に水を加え超音波洗浄装置により分散、250 メッシュの分析篩を用いて水洗し、粒径 1/16㎜以下の粒子を除去する。乾燥の後、篩別し、得られた粒径 1/4㎜-1/8㎜の砂分をポリタングステン酸ナトリウム（比重約 2.96 に調整）により重液分離、重鉱物と軽鉱物を偏光顕微鏡下にてそれぞれ 250 粒に達するまで同定する。重鉱物同定の際、不透明な粒については、斜め上方からの落射光下で黒色金属光沢を呈するもののみを「不透明鉱物」とする。「不透明鉱物」以外の不透明粒および変質等で同定の不可能な粒子は「その他」とする。軽鉱物は、火山ガラスと石英と長石および「その他」に分類する。火山ガラスは、上述したテフラの検出同定と同様の形態分類を行う。「その他」は、変質等で同定の不可能な粒子や未分解粘土粒などを含む。

(3) 珪藻分析

湿重約 5g をビーカーに計り取り、過酸化水素水と塩酸を加えて試料の泥化と有機物の分解・漂白を行う。次に、分散剤を加えた後、蒸留水を満たし放置する。その後、上澄み液中に浮遊した粘土分を除去し、珪藻殻の濃縮を行う。この操作を 4 ～ 5 回繰り返す。次に、自然沈降法による砂質分の除去を行い、検鏡し易い濃度に希釈し、カバーガラス上に滴下して乾燥させる。乾燥した試料上に封入剤のプリュウラックスを滴下し、スライドガラスに貼り付け永久プレパラートを作製する。

検鏡は、油浸 600 倍または 1000 倍で行い、メカニカルステージを用い任意に出現する珪藻化石が 200 個体以上になるまで同定・計数した。なお、原則として、珪藻殻が半分以上破損したものについては、誤同定を避けるため同定・計数は行わない。200 個体が産出した後は、示準種等の重要な種類の見落としがないように、全体を精査し、含まれる種群すべてが把握できるように努める。

珪藻の同定と種の生態性については、Horst Lange-Bertalot(2000)、Hustedt(1930-1966)、Krammer and Lange-Bertalot(1985 ～ 1991)、Desikachiary(1987) などを参考にする。群集解析にあたり個々の産出化石は、まず塩分濃度に対する適応性により、海水生、海水～汽水生、汽水生、淡水生に生態分類し、さらにその中の淡水生種は、塩分、pH、水の流動性の 3 適応性についても生態分類し表に示した。

堆積環境の変遷を考察するために珪藻化石が 100 個体以上産出した試料について珪藻化石群集変遷図を作成した。出現率は化石総数を基数とした百分率で表し、基本的に 1% 以上（産出種数により変更）の産出率を示す分類群についてのみ表示した（図中の●印は、総数が 100 個体以上産出した試料のうち 1% 未満の種を示し、+ 印は総数 100 個体未満の場合の産出を示す）。表示する分類群は、分析試料全体で産出率の合計が 1% 以上の分類群である。また、図中には、海水生・汽水生・淡水生種の相対頻度と淡水生種を基数とした塩分・pH・流水の相対頻度について図示した。

塩分に対する適応性とは、淡水中の塩類濃度の違いにより区分したもので、ある程度の塩分が含まれた方がよく生育する種類は好塩性種とし、少量の塩分が含まれていても生育できるものを不定性種、塩分が存在する水中では生育できないものを嫌塩性種として区分している。これは、主に水域の化学的な特性を知る手がかりとなるが、単に塩類濃度が高いか低いかといったことが分かるだけでなく、塩類濃度が高い水域というのは概して閉鎖水域である場合が多いことから、景観を推定する上でも重要な要素である。

pH に対する適応性とは、アルカリ性の水域に特徴的に認められる種群を好アルカリ性種、逆に酸性水域に生育する種群を好酸性種、中性の水域に生育する種を不定性種としている。これも、単に水の酸性・アルカリ性のいずれかがわかるだけでなく、酸性の場合は湿地であることが多いなど、間接的には水域の状況を考察する上で

必要不可欠である。

流水に対する適応性とは、流れのある水域の基物（岩石・大型の藻類・水生植物など）に付着生育する種群であり、特に常時、流れのあるような水域でなければ生育出来ない種群を好流水性種、逆に流れのない水域に生育する種群を好止水性種として区分している。流水不定は、どちらにでも生育できる可能性もあるが、それらの大半は止水域に多い種群である。なお、好流水性種と流水不定性種の多くは付着性種であるが、好止水性種には水塊中を浮遊生活する浮遊性種も存在する。浮遊性種は、池沼あるいは湖沼の環境を指標する。

なお、淡水生種の中には、水中から出て陸域の乾いた環境下でも生育する種群が存在し、これらを陸生珪藻と呼んで、水中で生育する種群と区分している。陸生珪藻は、陸域の乾いた環境を指標することから、古環境を推定する上で極めて重要な種群である。

(4) 植物珪酸体分析

各試料について過酸化水素水・塩酸処理、沈定法、重液分離法（ポリタングステン酸ナトリウム，比重 2.5）の順に物理･化学処理を行い、植物珪酸体を分離･濃集する。これをカバーガラス上に滴下･乾燥させる。乾燥後、プリュウラックスで封入してプレパラートを作製する。400 倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部（葉身と葉鞘）の葉部短細胞に由来した植物珪酸体（以下、短細胞珪酸体と呼ぶ）および葉身機動細胞に由来した植物珪酸体（以下、機動細胞珪酸体と呼ぶ）を、近藤 (2010) の分類を参考に同定し、計数する。分析の際には、分析試料の乾燥重量、プレパラート作成に用いた分析残渣量を正確に計量し、乾土 1g あたりの植物珪酸体含量（同定した数を乾土 1g あたりの個数に換算）を求める。

結果は、植物珪酸体含量の一覧表で示す。その際、100 個 /g 未満は「<100」で表示する。各分類群の含量は 10 の位で丸め (100 単位にする)、合計は各分類群の丸めない数字を合計した後に丸めている。また、各分類群の植物珪酸体含量とその層位的変化を図示する。

3. 結果

(1) テフラの検出同定

結果を第 106 表に示す。以下に地点ごとに述べる。

1) 溝状遺構西面

軽石が、試料番号 T1、T4、T6 に多量含まれる。軽石の最大径は、試料番号 T1 では 6.0㎜、試料番号 T4 では 4.5㎜、試料番号 T6 では 8.0㎜ である。軽石の特徴は、試料番号 T1 では灰白色で発泡やや良好のものが多く、次いで灰白色で発泡良好なものが多く、極めて微量の灰褐色で発泡やや不良の軽石も含まれる。試料番号 T4 と T6 の軽石は、同様の特徴を示し、灰褐色で発泡やや不良のものと同色で発泡やや良好のものが多く、極めて微量の灰白色で発泡やや不良のものも含まれる。以上 3 点の試料の軽石には、いずれも斜方輝石や単斜輝石の斑晶が包有されている。スコリアは、試料番号 T4 と T6 に極めて微量含まれる。最大径は 2㎜ 前後であり、暗褐色を呈し、発泡は不良である。火山ガラスはいずれの試料にも認められない。なお、軽石を多量に含む 3 点の試料の砂分には、新鮮な斜長石の鉱物片や斜方輝石の鉱物片が多量に含まれ、さらに試料番号 T4 と T6 には、暗灰色を呈する角礫状の火山岩片も中量程度含まれる。

試料番号 T7 には、スコリア、火山ガラス、軽石のいずれも認められない。砂分を構成する砕屑物は、斜長石や石英および輝石類などの鉱物片である。

2) トレンチ 15

軽石が、試料番号 3 に多量、試料番号 1 に中量、試料番号 6 と 7 に極めて微量含まれる。試料番号 1 と 3 の軽

第 106 表　テフラ分析結果

地点名	試料番号	スコリア			火山ガラス	軽石		
		量	色調・発泡度	最大粒径	量	量	色調・発泡度	最大粒径
溝状遺構西面	T1	－			－	＋＋＋＋	GW・sg>GW・g>>GBr・sb	6.0
	T4	(+)	DBr・b	1.7	－	＋＋＋＋	GBr・sb,GBr・sg>>GW・sb	4.5
	T6	(+)	DBr・b	2.8	－	＋＋＋＋	GBr・sb,GBr・sg>>GW・sb	8.0
	T7	－			－	－		
トレンチ15	1	(+)	DBr・b	1.6	－	＋＋＋	GBr・sb,GBr・sg>>GW・sb	5.0
	3	(+)	DBr・b	1.7	－	＋＋＋＋	GBr・sb,GBr・sg>>GW・sb	6.0
	6	－			－	(+)	W・b	2.5
	7	－			－	(+)	W・b	1.7
	9	－			－	－		

凡例　－:含まれない. (+):きわめて微量. ＋:微量. ＋＋:少量. ＋＋＋:中量. ＋＋＋＋:多量.
DBr:暗褐色. GBr:灰褐色. GW:灰白色. W:白色.
g:良好. sg:やや良好. sb:やや不良. b:不良. 最大粒径はmm.

石は同様の特徴を示し、最大径は 5 ～ 6㎜、色調や発泡度は上述した溝状遺構西面の試料番号 T4 や T6 の軽石と同様である。一方、試料番号 6 と 7 の軽石は、最大径 2㎜ 前後、白色を呈し発泡は不良である。スコリアは、試料番号 1 と 3 に極めて微量認められ、最大径は 1.6 ～ 1.7㎜ 程度、色調や発泡度は上述した溝状遺構西面の試料番号 T4 や T6 と同様である。火山ガラスは、いずれの試料にも認められない。

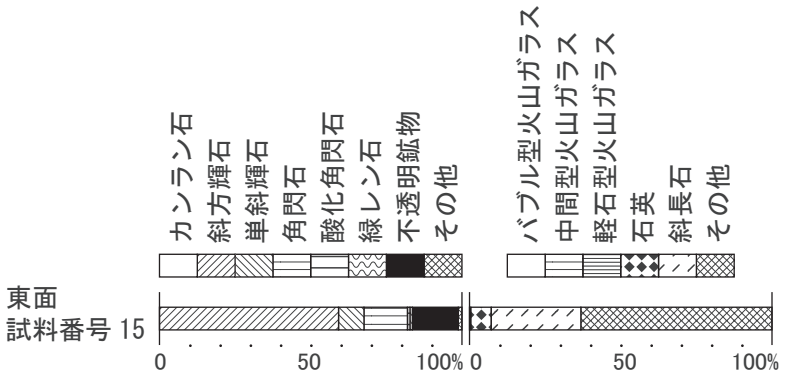
なお、試料番号 1 と 3 には軽石やスコリア以外に、溝状遺構西面試料番号 T4 と T6 の砂分と同様の鉱物片および岩石片が多く含まれる。また、試料番号 6 には、極めて微量ではあるが、角閃石の鉱物片も認められた。

(2) 重軽鉱物分析

結果を第 107 表、第 242 図に示す。重鉱物組成は、斜方輝石が多く、約 70% を占め、他に 10 数 % 程度の単斜輝石と角閃石および不透明鉱物を伴い、極めて微量の緑レン石も含む。軽鉱物組成は、風化変質粒や未分解粘土粒とされる「その他」を除けば、斜長石が多く、少量の石英を伴う組成である。火山ガラスは、軽石型が極めて微量認められた。

第 107 表　溝状遺構直下粘土層の重軽鉱物分析結果

試料名	カンラン石	斜方輝石	単斜輝石	角閃石	酸化角閃石	緑レン石	不透明鉱物	その他	合計	バブル型火山ガラス	中間型火山ガラス	軽石型火山ガラス	石英	斜長石	その他	合計
溝状遺構東面試料番号15	0	148	21	36	2	2	38	3	250	0	0	1	17	74	158	250



第 242 図　溝状遺構直下粘土層重軽鉱物組成

(3) 珪藻分析

結果を第 108 表、第 243 図に示す。分析した 6 試料のうち、溝状遺構東面の試料番号 6、13 およびトレンチ 15 の試料番号 2、4、6 の 5 試料からは 100 個体以上産出したが、トレンチ 15 の試料番号 9 からの産出数は非常に少なかった。以下、地点ごとに結果を記す。

1) 溝状遺構東面

試料番号 5 からは 200 個体以上産出した。完形の殻が多いが、一部の殻は破損しているため、保存状態は、普通～不良である。産出した分類群は、淡水生種のみで構成される。本試料の淡水生の群集の特徴について、生態性（珪藻の 3 つの適応性：水中の塩分・pH・流水に対する適応性）を整理してみた場合、以下のような傾向が認められる。まず、塩分に対する適応性は、貧塩不定性種が優占する。次に、pH に対する適応性は、アルカリ性種が優占する。流水に対する適応性は、流水性種が優占する。また、本試料は水生珪藻が優占し、陸生珪藻は極低率にしか産出しない。特徴的に産出した種は、淡水性種で流水性種の *Meridion circulare var. constrictum*、*Planothidium lanceolatum*、流水性不定性種の *Fragilaria ulna*、*Gomphonema parvulum* 等である。

試料番号 6 からは 162 個体産出した。保存状態は、壊れた殻が多く、一部の殻に溶解の痕跡が認められるため、不良～極不良である。産出した分類群は、淡水生種を主にして、淡水～汽水生種を伴う種群で構成される。本試料の淡水生の群集の特徴について、生態性を整理してみた場合、以下のような傾向が認められる。まず、塩分に対する適応性は、貧塩不定性種が優占する。次に、pH に対する適応性は、アルカリ性種が優占する。流水に対する適応性は、流水不定性種が優占するが、流水性種も低率に産出する。また、本試料は水生珪藻が優占し、陸生珪藻は低率にしか産出しない。特徴的に産出した種は、淡水～汽水生種の *Rhopalodia gibberula*、流水性不定性種の *Gomphonema parvulum*、*Rhopalodia gibba* 等である。

2) トレンチ 15

試料番号 2 からは 200 個体以上産出した。保存状態は、壊れた殻が多く、一部の殻に溶解の痕跡が認められるため、不良～極不良である。産出した分類群は、淡水生種を主にして、淡水～汽水生種を伴う種群で構成される。本試料の淡水生の群集の特徴について、生態性を整理してみた場合、以下のような傾向が認められる。まず、塩分に対する適応性は、貧塩不定性種が優占する。次に、pH に対する適応性は、アルカリ性種が優占する。流水に対する適応性は、流水不定性種が優占するが、流水性種も低率に産出する。また、本試料は水生珪藻が優占し、陸生珪藻は低率にしか産出しない。特徴的に産出した種は、淡水～汽水生種の *Rhopalodia gibberula*、淡水生種で流水性種の *Navicula elginensis* var. *neglecta*、流水性不定性種の *Encyonema silesiacum*、*Eunotia*

第 108 表　珪藻分析結果

種類	生態性			環境	溝状遺構 東面		トレンチ15			
	塩分	pH	流水	指標種	6	13	2	4	6	9
Rhopalodia gibberula (Ehr.) Mueller	Ogh-Meh	al-il	ind	U	–	13	7	3	3	–
Achnanthes spp.	Ogh-unk	unk	unk		8	–	–	–	–	–
Amphora montana Krasske	Ogh-ind	ind	ind	RA	–	1	–	–	–	–
Amphora ovalis var. *affinis* (Kuetz.) Van Heurck	Ogh-ind	al-il	ind	T	–	2	–	–	–	–
Amphora spp.	Ogh-unk	unk	unk		–	1	–	–	–	–
Caloneis bacillum (Grun.) Cleve	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	3	–	–	–	–	–
Caloneis silicula (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	al-il	ind	O	1	–	–	–	–	–
Caloneis spp.	Ogh-unk	unk	unk		1	–	–	–	–	–
Cymbella cistula (Ehr.) Kirchner	Ogh-ind	al-il	l-ph	O,T	–	–	–	–	1	–
Cymbella tumida (Breb. ex Kuetz.) Van Heurck	Ogh-ind	al-il	ind	T	–	1	–	–	–	–
Cymbella spp.	Ogh-unk	unk	unk		–	8	3	–	–	–
Diploneis parma Cleve	Ogh-ind	ind	ind	O	–	1	–	–	–	–
Diploneis yatukaensis Horikawa et Okuno	Ogh-ind	ind	l-ph	RI	–	1	–	–	1	1
Diploneis spp.	Ogh-unk	unk	unk		–	2	–	–	3	1
Encyonema silesiacum (Bleisch in Rabenh.) D.G.Mann	Ogh-ind	ind	ind	T	–	1	17	–	3	–
Eunotia implicata Noepel & Lange-Bertalot	Ogh-hob	ac-il	ind	O	–	1	–	–	–	–
Eunotia lunaris (Ehr.) Grunow	Ogh-hob	ac-il	l-ph	O	1	–	8	–	–	–
Eunotia pectinalis (Dillwyn) Rabenhorst	Ogh-hob	ac-il	ind	O,T	–	2	–	–	1	–
Eunotia pectinalis var. *minor* (Kuetz.) Rabenhorst	Ogh-hob	ac-il	ind	O	2	4	18	3	3	–
Eunotia spp.	Ogh-unk	unk	unk		5	–	10	8	–	–
Fragilaria ulna (Nitzsch) Lange-Bertalot	Ogh-ind	al-il	ind	O,U	30	8	–	3	5	–
Fragilaria spp.	Ogh-unk	unk	unk		4	10	–	10	8	–
Frustulia vulgaris (Thwaites) De Toni	Ogh-ind	al-il	ind	U	–	–	8	–	–	–
Frustulia spp.	Ogh-unk	unk	unk		–	–	3	–	–	–
Gomphonema acuminatum Ehrenberg	Ogh-ind	ind	l-ph	O	1	–	–	–	–	–
Gomphonema parvulum (Kuetz.) Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind	U	26	21	45	27	29	4
Gomphonema spp.	Ogh-unk	unk	unk		–	5	–	8	–	–
Hantzschia amphioxys (Ehr.) Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	RA,U	2	3	3	12	–	–
Luticola mutica (Kuetz.)D.G.Mann	Ogh-ind	al-il	ind	RA,S	–	–	2	–	–	–
Melosira varians C.Agardh	Ogh-hil	al-bi	r-ph	K,U	9	–	2	–	–	–
Meridion circulare var. *constrictum* (Ralfs) Van Heurck	Ogh-ind	al-il	r-bi	K,T	61	–	–	4	2	–
Meridion spp.	Ogh-unk	unk	unk		–	–	–	4	–	–
Navicula confervacea (Kuetz.) Grunow	Ogh-ind	al-bi	ind	RB,S	–	–	3	–	–	–
Navicula elginensis var. *neglecta* (Krass.) Patrick	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	–	3	8	9	1	–
Navicula spp.	Ogh-unk	unk	unk		–	–	2	–	–	–
Neidium ampliatum (Ehr.) Krammer	Ogh-ind	ind	l-ph	O	–	–	1	–	–	–
Neidium spp.	Ogh-unk	unk	unk		–	–	–	–	–	1
Nitzschia amphibia Grunow	Ogh-ind	al-bi	ind	S	–	7	2	–	1	–
Nitzschia brevissima Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	RB,U	–	–	3	–	–	–
Nitzschia spp.	Ogh-unk	unk	unk		–	3	–	–	–	–
Pinnularia acrosphaeria W.Smith	Ogh-ind	al-il	l-ph	N,O,U	1	3	8	5	7	–
Pinnularia borealis Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	RA	1	2	–	–	–	–
Pinnularia brebissonii (Kuetz.) Rabenhorst	Ogh-ind	ind	ind	U	–	–	–	–	–	1
Pinnularia brevicostata Cleve	Ogh-ind	ac-il	ind	O	1	3	–	–	2	–
Pinnularia gibba Ehrenberg	Ogh-ind	ac-il	ind	O	–	–	3	–	–	–
Pinnularia microstauron (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	ac-il	ind	S	4	2	–	–	–	–
Pinnularia subcapitata Gregory	Ogh-ind	ac-il	ind	RB,S	–	2	–	–	–	–
Pinnularia viridis (Nitz.) Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	O	–	8	7	–	3	–
Pinnularia spp.	Ogh-unk	unk	unk		4	13	8	4	11	2
Placoneis elginensis (Greg.) Cox	Ogh-ind	al-il	ind	O,U	–	1	–	–	–	–
Planothidium lanceolatum (Breb. ex Kuetz.) Lange-Bertalot	Ogh-ind	ind	r-ph	K,T	29	2	–	–	–	1
Rhopalodia gibba (Ehr.) Mueller	Ogh-ind	al-il	ind	O,U	2	21	28	3	15	–
Rhopalodia spp.	Ogh-unk	unk	unk		–	3	–	–	–	–
Sellaphora pupula (Kuetz.) Mereschkowsky	Ogh-ind	ind	ind	S,U	2	–	3	–	3	4
Sellaphora spp.	Ogh-unk	unk	unk		–	–	–	–	3	–
Stauroneis acuta W.Smith	Ogh-ind	al-il	l-ph	O	–	–	1	–	2	–
Stauroneis phoenicenteron (Nitz.) Ehrenberg	Ogh-ind	ind	l-ph	N,O,U	–	3	3	–	–	–
Stauroneis spp.	Ogh-unk	unk	unk		3	1	7	–	4	2
海水生種					0	0	0	0	0	0
海水～汽水生種					0	0	0	0	0	0
汽水生種					0	0	0	0	0	0
淡水～汽水生種					0	13	7	3	3	0
淡水生種					201	149	206	100	108	17
珪藻化石総数					201	162	213	103	111	17

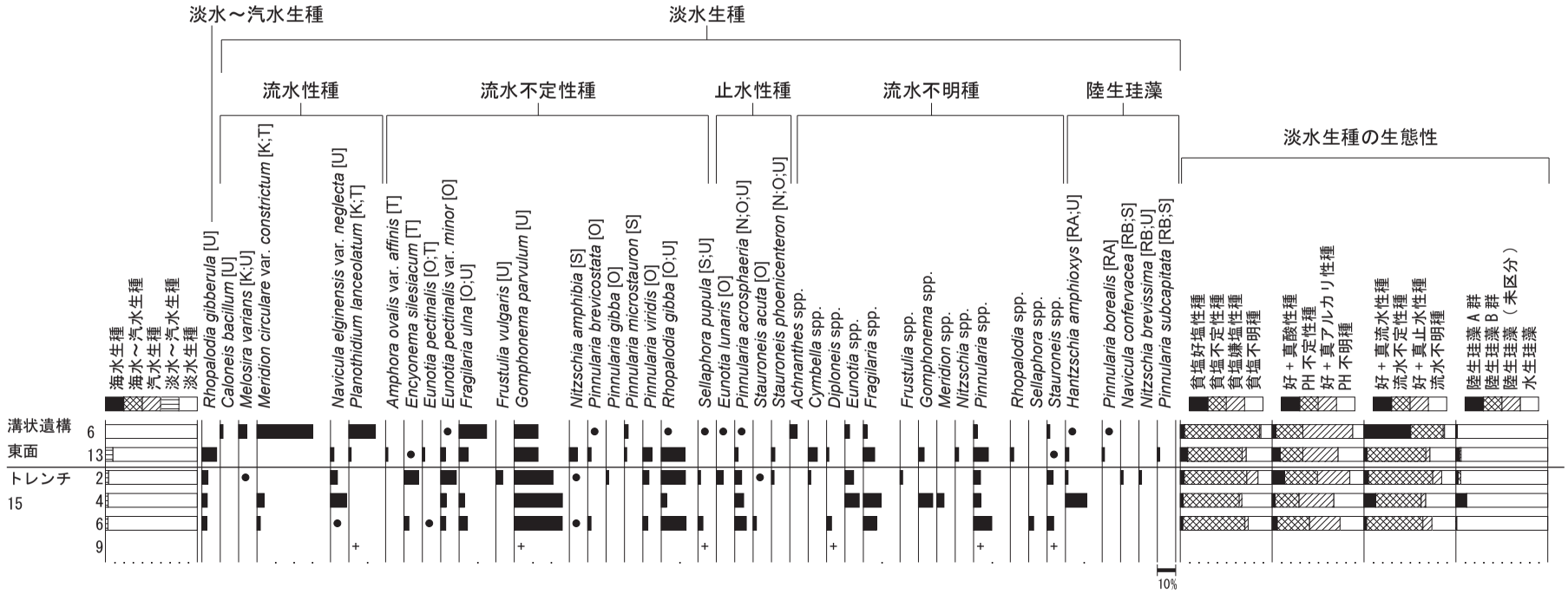
凡例

塩分:塩分濃度に対する適応性　pH:水素イオン濃度に対する適応性　流水:流水に対する適応性

Euh　:海水生種　al-bi:真アルカリ性種　l-bi:真止水性種
Euh-Meh:海水生種-汽水生種　al-il:好アルカリ性種　l-ph:好止水性種
Meh　:汽水生種　ind　:pH不定性種　ind :流水不定性種
Ogh-Meh:淡水生種-汽水生種　ac-il:好酸性種　r-ph:好流水性種
Ogh-hil:貧塩好塩性種　ac-bi:真酸性種　r-bi:真流水性種
Ogh-ind:貧塩不定性種　unk　:pH不明種　unk :流水不明種
Ogh-hob:貧塩嫌塩性種
Ogh-unk:貧塩不明種

環境指標種

A:外洋指標種　B:内湾指標種　C1:海水藻場指標種　C2:汽水藻場指標種
D1:海水砂質干潟指標種　D2:汽水砂質干潟指標種
E1:海水泥質干潟指標種　E2:汽水泥質干潟指標種　F:淡水底生種群(以上は小杉,1988)
G:淡水浮遊生種群　H:河口浮遊性種群　J:上流性河川指標種　K:中～下流性河川指標種
L:最下流性河川指標種群　M:湖沼浮遊性種　N:湖沼沼沢湿地指標種　O:沼沢湿地付着生種
P:高層湿原指標種群　Q:陸域指標種群(以上は安藤,1990)
S:好汚濁性種　U:広適応性種　T:好清水性種(以上はAsai and Watanabe,1995)
R:陸生珪藻(RA:A群, RB:B群, RI:未区分、伊藤・堀内,1991)



海水－汽水－淡水生種産出率・各種産出率・完形殻産出率は全体基数、淡水生種の生態性の比率は淡水生種の合計を基数として百分率で算出した。
いずれも100個体以上検出された試料について示す。なお、●は1%未満、＋は100個体未満の試料について検出した種類を示す。

環境指標種
A:外洋指標種 B:内湾指標種 C1:海洋藻場指標種 C2:汽水藻場指標種 D1:海水砂質干潟指標種 D2:汽水砂質干潟指標種 E1:海水泥質干潟指標種
E2:汽水泥質干潟指標種 F:淡水底生種群(以上は小杉,1988) G:淡水浮遊生種群 H:河口浮遊性種群 J:上流性河川指標種 K:中～下流性河川指標種
L:最下流性河川指標種群 M:湖沼浮遊性種 N:湖沼沼沢湿地指標種 O:沼沢湿地付着生種 P:高層湿原指標種群 Q:陸域指標種群(以上は安藤,1990)
S:好汚濁性種 T:好清水性種 U:広適応性種(以上はAsai & Watanabe,1995) RI:陸生珪藻（RA:A群,RB:B群;伊藤・堀内,1991）

第 243 図　主要珪藻化石群集の層位分布

pectinalis var. *minor*、*Gomphonema parvulum*、*Rhopalodia gibba*、止水性種の*Pinnularia acrosphaeria* 等である。

試料番号 4 からは 100 個体産出した。保存状態は、壊れた殻が多く、一部の殻に溶解の痕跡が認められるため、不良～極不良である。産出した分類群は、淡水生種を主にして、淡水～汽水生種を伴う種群で構成される。本試料の淡水生の群集の特徴について、生態性を整理してみた場合、以下のような傾向が認められる。まず、塩分に対する適応性は、貧塩不定性種が優占する。次に、pH に対する適応性は、アルカリ性種が優占する。流水に対する適応性は、流水不定性種が優占するが、流水性種も産出する。また、本試料は水生珪藻が優占する。特徴的に産出した種は、淡水～汽水生種の*Rhopalodia gibberula*、淡水生種で流水性種の*Navicula elginensis* var. *neglecta*、流水性不定性種の*Gomphonema parvulum*、*Rhopalodia gibba*、止水性種の*Pinnularia acrosphaeria*、流水不明種の*Eunotia* spp.、*Fragilaria* spp.、*Gomphonema* spp.、*Fragilaria* spp.、陸生珪藻の*Hantzschia amphioxys* 等である。

試料番号 5 からは 111 個体産出した。保存状態は、壊れた殻が多く、一部の殻に溶解の痕跡が認められるため、不良～極不良である。産出した分類群は、淡水生種を主にして、淡水～汽水生種を伴う種群で構成される。本試料の淡水生の群集の特徴について、生態性を整理してみた場合、以下のような傾向が認められる。まず、塩分に対する適応性は、貧塩不定性種が優占する。次に、pH に対する適応性は、アルカリ性種が優占する。次に、流水に対する適応性は、流水不定性種が優占するが、流水性種も低率に産出する。また、本試料は水生珪藻が優占する。特徴的に産出した種は、淡水～汽水生種の*Rhopalodia gibberula*、淡水生種で流水性種の*Navicula elginensis* var. *neglecta*、流水性不定性種の*Gomphonema parvulum*、*Rhopalodia gibba*、流水不明種の*Fragilaria* spp.、*Pinnularia* spp. 等である。

試料番号 9 からは 17 個体産出した。保存状態は、壊れた殻が多く、一部の殻に溶解の痕跡が認められるため、不良～極不良である。産出した分類群は、淡水生種のみで構成される。産出した種は、流水性不定性種の*Gomphonema parvulum*、*Sellaphora pupula* 等である。

(4) 植物珪酸体分析

結果を第 109 表、第 244 図に示す。各試料からは植物珪酸体が検出されるものの、保存状態が悪く、表面に多数の小孔（溶食痕）が認められる。

トレンチ 15 の試料のうち、試料番号 9 は植物珪酸体含量が 33,800 個 /g であり、試料番号 2 に次いで少ない。検出される分類群はクマザサ属やメダケ属を含むタケ亜科、ヨシ属、ススキ属、イチゴツナギ亜科などであり、この中ではヨシ属の産出が目立つ。

試料番号 6 と 4 は、植物珪酸体含量が 69,100 個 /g および 64,300 個 /g であり、共に多い。試料番号 9 で見られた分類群と共に、栽培植物であるイネ属も産出する。イネ属の含量は、短細胞珪酸体が共に 1,500 個 /g、機動細胞珪酸体が 6,900 個 /g および 6,500 個 /g である。特に機動細胞珪酸体は他の分類群と比較しても産出が目立つ。また葉部の短細胞列も検出される。また栽培種を含む分類群であるキビ連やコムギ連も産出する。他の分類群では、いずれもタケ亜科の産出が目立つが、試料番号 4 ではヨシ属の含量も多い。

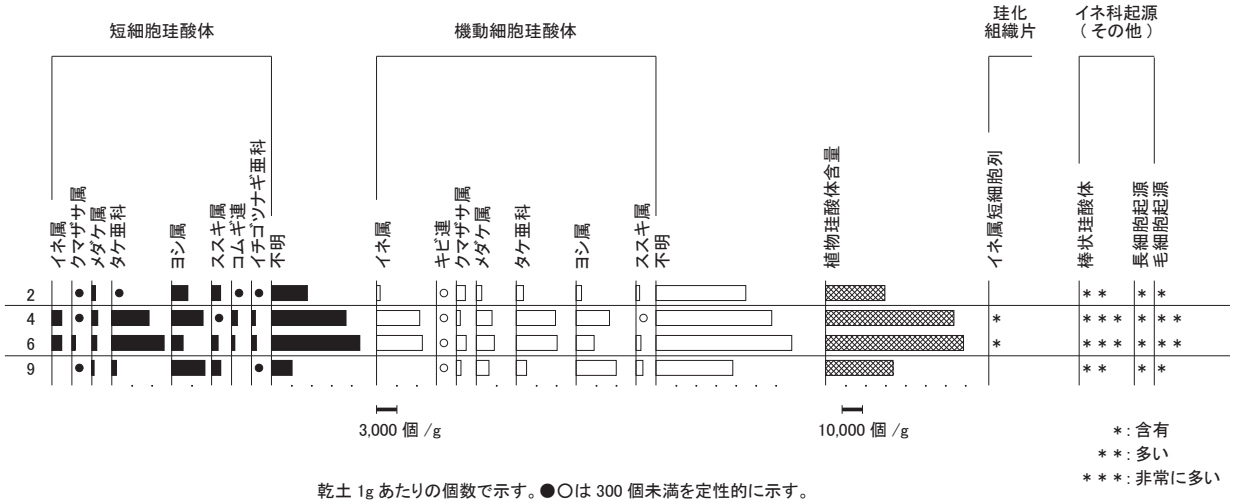
試料番号 2 の植物珪酸体含量は 29,700 個 /g であり、4 点の中で最も少ない。試料番号 6 や 4 と同様な分類群が検出されるものの、含量は概して少ない。イネ属は機動細胞珪酸体のみが産出し、その含量は 500 個 /g 程度である。キビ連やコムギ連も産出するが、いずれも 300 個 /g 程度である。また検出された分類群の中では、タケ亜科やヨシ属の産出が目立つ。

なお、各試料からはイネ科起源（棒状珪酸体，長細胞起源，毛細胞起源）も検出される。

第 109 表　植物珪酸体含量

分類群	トレンチ15			
	2	4	6	9
イネ科葉部短細胞珪酸体				
イネ属	−	1,500	1,500	−
クマザサ属	300	300	500	200
メダケ属	500	900	700	300
タケ亜科	300	5,600	7,900	700
ヨシ属	2,400	4,700	1,700	5,000
ススキ属	1,400	300	1,000	1,400
コムギ連	300	900	500	−
イチゴツナギ亜科	300	600	700	200
不明	5,400	11,200	13,300	3,100
イネ科葉身機動細胞珪酸体				
イネ属	500	6,500	6,900	−
キビ連	300	300	200	200
クマザサ属	1,400	600	1,500	700
メダケ属	800	2,400	2,700	1,900
タケ亜科	1,100	5,900	6,100	1,600
ヨシ属	800	5,000	2,700	6,000
ススキ属	500	300	700	1,000
不明	13,500	17,400	20,400	11,500
合　計				
イネ科葉部短細胞珪酸体	10,800	26,000	27,800	10,900
イネ科葉身機動細胞珪酸体	18,900	38,300	41,300	22,900
植物珪酸体含量	29,700	64,300	69,100	33,800
珪化組織片				
イネ属短細胞列	−	＊	＊	−
イネ科起源(その他)				
棒状珪酸体	＊＊	＊＊＊	＊＊＊	＊＊
長細胞起源	＊	＊	＊	＊
毛細胞起源	＊	＊＊	＊＊	＊

含量は、10の位で丸めている(100単位にする)
合計は各分類群の丸めない数字を合計した後に丸めている
<100:100個/g未満
ー:未検出,＊:含有,＊＊:多い,＊＊＊:非常に多い



第 244 図　トレンチ 15 における植物珪酸体含量の層位的変化

4. 考察

(1) テフラの同定と層序対比

1) 溝状遺構の年代

溝状遺構西面で認められた降下軽石層である試料番号 T6 は、軽石の色調や発泡度、微量のスコリアを含むこと、包有する斑晶鉱物そして角礫状の岩石片を伴うことなどから、As-B の降下軽石層に同定される。試料番号 T4 の軽石は、T6 の軽石と同様の特徴であることと As-B 降下軽石層の直上であることから、As-B の軽石が撹乱再堆積して土壌中に混在したものと考えられる。

試料番号 T1 の軽石は、その色調や発泡度および As-B より上位であることから、As-A に由来すると考えられる。前述したように、試料番号 T1 の採取された土層は、降下軽石層が若干の土壌化を受けたのみであり、As-A の降下堆積層準をほぼ示していると考えられる。一方、試料番号 T7 を採取したシルト層は、テフラ層ではないと判断されることから、特に層序対比の指標とはならない。

以上に述べたテフラの産状から、溝状遺構の年代については、As-B の噴出した天仁元年 (AD1108 年) より確実に古いことは確認できた。しかし、今回の分析では、溝状遺構との層位関係のわかる土層から、古墳時代に噴出した榛名火山のテフラである榛名二ツ岳渋川テフラや榛名二ツ岳伊香保テフラ (Hr-FA・Hr-FP: 新井 , 1979; 早田 , 1989) に由来する砕屑物を認めることができなかったことにより、溝状遺構とこれら古墳時代のテフラとの前後関係は不明である。

2) トレンチ 15 の層序対比

トレンチ 15 では、試料番号 1 と 3 から軽石が検出されたが、両試料の軽石は特徴が同様であり、かつその特徴は溝状遺構西面で確認された As-B の軽石と同様であることから、試料番号 1 の軽石は試料番号 3 の撹乱再堆積によるものであり、試料番号 3 は As-B の降下堆積層準にほぼ近いと考えられる。また、このことから、トレンチ 15 における As-A の降下堆積層準は、試料番号 1 よりもさらに上位にあることが推定される。

試料番号 3 より下位の土層については、As-B 降下以前の土層に対比される。試料番号 6 と 7 からは、As-B とは異なる特徴の軽石が検出されたが、その色調や発泡度および試料番号 6 では角閃石の鉱物片も伴うことなどから、この軽石は上述した古墳時代の榛名火山のテフラに由来すると考えられる。ただし、軽石の産状は撹乱再堆積して土壌中に混在する状態であり、検出された層位がテフラの降灰層準であるとは判断できない。

(2) 粘土層について

溝状遺構直下の粘土層は、鮎川および鏑川の氾濫堆積物に由来し、それを構成する砕屑物の供給源は調査地背後の低位段丘や鮎川右岸の藤岡台地などであろう。重鉱物組成で多くを占める斜方輝石や角閃石および軽鉱物組成で多くを占める斜長石などは、調査地の地質学的背景を考慮すれば、周辺の台地表層を覆ういわゆるローム層の主要な母材となっている火山噴出物に由来すると考えられる。さらに、重鉱物組成において極めて微量検出された緑レン石は、河川上流域の関東山地に分布する三波川変成岩に由来する可能性が高いと考えられる。

今後、藤岡市域で出土する土器や埴輪の原材料を検討する際には、今回の分析で得られた重鉱物組成および軽鉱物組成も参考資料になり得ると考えられる。

(3) 溝状遺構内の環境

試料番号 13 から特徴的に産出した珪藻化石の種は、淡水～汽水生種の *Rhopalodia gibberula*、流水性不定性種の *Gomphonema parvulum*、*Rhopalodia gibba* 等である。これらのうち、淡水～汽水生種の *Rhopalodia gibberula* は群馬県で発掘された古代水田から多産し、本種の多産は、当時の水田の水に塩類が豊富に含まれていたことを示していると考えられている (田中 , 1978)。また、Cholnoky(1968) によれば、本種は高 pH の水域を

好むとしている。本種は、基本的には淡水生種と考えられるため、海域には生育できないと思われるが、塩分に対しては他の種群にくらべて耐性が高いため、沿岸部の海水の影響がおよんで塩分濃度が高くなる後背湿地をはじめとして湿地や河岸などで水が停滞することの比較的多い場所（淀み）などの水中の塩類濃度が高い水域に特徴的に認められる。一方、流水不定性種の *Gomphonema parvulum* は、流水に対して不定なだけでなく、塩分濃度やpHに対しても不定であり、極めて高い適応能力を持つ種であり、さまざまな水域に認められる。そのため、Asai and Watanabe(1995)は、広域適応種としている。ただし、経験的には、流水域に多産することが多いことから、以前は流水性種に含められていた種である。流水不定性種の *Rhopalodia gibba* は、貧塩不定、好アルカリ性、流水不定種であり、沼沢地から湿地等に比較的広範に認められる種である。

以上、溝状遺構基底直上の試料番号13では、湿地～沼沢地で生育する種が複数種産出し、やや塩濃度の高い水域でも生育できる種も産出するため、溝底は基本的に湿地性の閉鎖的水域であったと考えられる。ただ、流水性種も低率に産出することから、流水の影響も多少受けていた可能性が考えられる。

溝状遺構覆土中部の試料番号6から特徴的に産出した種は、淡水生種で流水性種の *Meridion circulare* var. *constrictum*、*Planothidium lanceolatum*、流水性不定性種の *Fragilaria ulna*、*Gomphonema parvulum* 等である。淡水生種で流水性種の *Meridion circulare* var. *constrictum*、*Planothidium lanceolatum* は、河川等の流水域に生育する種であり、中～下流河川指標種群と呼ばれる（安藤,1990）。流水不定性種の *Fragilaria ulna* は、貧塩不定性、好アルカリ性および流水不定であり、広域頒布種の一種で広範のさまざまな水域から比較的高率に見出される。

以上、試料番号6からは、流水性種が特徴的に産出することから、覆土層中部の堆積時には、溝状遺構内は流水域であったと考えられる。

上述したように、溝状遺構の機能時（溝底が見えるような状況）の溝内は閉鎖的な湿地状態にあったと考えられ、溝が埋没する段階では流水環境下で埋積が進んだものと考えられる。

(4) 土層の形成環境と水田跡の検討

砂礫層に近い土層下部の試料番号9から産出した珪藻化石の分類群は、淡水生種のみで構成される。産出した種は、流水性不定性種の *Gomphonema parvulum*、*Sellaphora pupula* 等である。流水不定性種の *Sellaphora pupula* は、塩分に対する適応性、pHに対する適応性、流水に対する適応性はいずれも不定性であり、かなり広範な水域に認められることから広域頒布種と呼ばれる。また、汚濁した水域に特徴的に認められることから好汚濁性種にも位置付けられている（Asai and Watanabe,1995）。ただ、本層からは珪藻化石は産出数が非常に少なかったため、珪藻化石の生態性や群集の生育特性による、直接的な堆積環境の推定は困難である。経験的には、堆積後に好気的環境下で大気に曝されると、短期間に分解消失することがわかっている。また、珪藻化石を構成するシリカ鉱物は、温度が高いほど、流速が早いほど、水素イオン濃度指数が高いほど溶解度が大きくなり溶けやすいことが実験により推定されている。本試料の場合も、もともと珪藻化石が取り込まれにくい環境であったか、取り込まれたほとんどの珪藻化石は堆積後に分解・消失した可能性が高い。

一方、試料番号9から検出された植物珪酸体の分類群からは、この層位が形成された頃にはクマザサ属やメダケ属を含むタケ亜科、ヨシ属、ススキ属、イチゴツナギ亜科などのイネ科が生育していたと考えられる。特に、湿潤な場所に生育するヨシ属の産出が目立つことを考慮すれば、湿地のような場所であった可能性が想定される。ただし、珪藻化石の産状を考慮すれば、乾くようなことも有り、好気的な環境にもなっていた可能性も否定できない。

水田跡の土層である可能性が指摘されている試料番号2、4、6は産出種に多少の差異はあるものの、珪藻

化石の産状はほぼ同様の傾向を示す。試料番号2から特徴的に産出した種は、淡水～汽水生種の*Rhopalodia gibberula*、淡水生種で流水性種の*Navicula elginensis* var. *neglecta*、流水性不定性種の*Encyonema silesiacum*、*Eunotia pectinalis* var. *minor*、*Gomphonema parvulum*、*Rhopalodia gibba*、止水性種の*Pinnularia acrosphaeria*等である。試料番号4からは、淡水～汽水生種の*Rhopalodia gibberula*、淡水生種で流水性種の*Navicula elginensis* var. *neglecta*、流水性不定性種の*Gomphonema parvulum*、*Rhopalodia gibba*、止水性種の*Pinnularia acrosphaeria*、流水不明種の*Eunotia* spp.、*Fragilaria* spp.、*Gomphonema* spp.、*Fragilaria* spp.、陸生珪藻の*Hantzschia amphioxys*等が産出した。試料番号6からは、淡水～汽水生種の*Rhopalodia gibberula*、淡水生種で流水性種の*Navicula elginensis* var. *neglecta*、流水性不定性種の*Gomphonema parvulum*、*Rhopalodia gibba*、流水不明種の*Fragilaria* spp.、*Pinnularia* spp. 等が産出した。

特徴的に産出した種の生態性について述べると、流水性種の*Navicula elginensis* var.*neglecta*は、河川や溝等の定常的な水の流れがある水域の基物（礫、水草、大型の藻類）に付着生育する種である。流水不定性種の*Encyonema silesiacum*は、沼沢地から湿地等の水域に広く生育する種である。流水不定性種の*Eunotia pectinalis* var.*minor* は、普通の水域にも認められるが湿地に多産する種とされる（埼玉県教育委員会,1962)。止水性種の*Pinnularia acrosphaeria*は、湿地や池沼、湖の沿岸部に見られるとされる(Patrick and Reimer,1966)が、通常、湿地に爆発的に発生することが多い種である。流水不明種の*Eunotia* spp.、*Fragilaria* spp.、*Gomphonema* spp.、*Fragilaria* spp. はそれぞれ数種類で構成されるが、いずれの属も湿地に最も特徴的に認められ、主要な構成種になる属である。また、*Hantzschia amphioxys*等の陸生珪藻は、水中や水底の環境以外のたとえばコケを含めた陸上植物の表面や岩石の表面、土壌の表層部など大気に接触した環境に生活する一群（小杉,1986）である。特に、本試料から産出した陸生珪藻は、離水した場所の中で乾燥に耐えうることのできる群集とされる（伊藤・堀内,1989;1991)。

以上、試料番号2、4、6の各層からは、湿地～沼沢地に生育する種が複数種産出したこと、流水性種が低率に産出したことおよびやや塩濃度の高い水域でも生育できる種も産出したことから、試料番号2、4、6各層堆積時の環境は、流水の影響のある湿地～沼沢地で、水質的にはやや塩濃度の高まる水域であったと考えられる。

植物珪酸体分析では、試料番号6と試料番号4からは栽培植物であるイネ属の植物珪酸体が産出した。安定した稲作が行われた水田跡の土壌では、栽培されていたイネ属の植物珪酸体が土壌中に蓄積され、植物珪酸体含量（植物珪酸体密度）が高くなる。水田跡（稲作跡）の検証や探査を行う場合、一般にイネの植物珪酸体（機動細胞由来）が試料1g当り5,000個以上の密度で検出された場合に、そこで稲作が行われた可能性が高いと判断されている（杉山,2000)。これらの土層での機動細胞珪酸体の含量は6,000個/gを超えており、前述した事例よりも多い。また試料番号4では湿潤な場所に生育するヨシ属の産出も多い。また珪藻化石の産状を考慮すれば、いずれの土層にも流水の影響が示唆される。この産状を見る限り、As-Bの降灰以前から湿潤な場所で稲作が行われ、As-B降灰直前にも引き続き水田耕作が営まれていたと考えられる。当該期の調査区内や周辺の稲作については、今後さらに調査区内の遺構や微地形の分布を含めて検討する必要があろう。

試料番号2は、As-B降灰後に形成された土層であり、As-Bが混在する。検出された植物珪酸体の含量は他の試料と比較して最も少ない。珪藻化石の産状を考慮すれば、下位と同様な堆積環境であったことが想定される。また試料番号6や4と同様な分類群が検出されており、タケ亜科やヨシ属の産出が目立つ。そのため、As-B降灰後も同様なイネ科が生育し、ヨシ属が生育する湿地も存在したと思われる。なお、イネ属も産出したものの、機動細胞珪酸体のみが僅かに産出したに過ぎない。この産状を見る限り、As-B降灰後は調査地点で稲作が行われていたとしても、耕作期間が短いことや収穫後のイネ属の植物体が土層へ還元されなかったことなどにより、

土層にイネ属の植物珪酸体が蓄積しにくかったと考えられる。

試料番号９は、砂礫層に近い土層であり、湿潤な場所に生育するヨシ属の産出が目立ち、イネ属は認められなかった。このことから稲作の痕跡は認められない。

なおAs-B下の土層およびAs-B降灰後に形成された土層からは、栽培種を含む分類群であるキビ連やコムギ連も産出した。これらが栽培種に由来するものであれば、周辺での栽培がうかがえる。

引用文献

安藤一男,1990,淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用.東北地理,42,73-88.

新井房夫,1979,関東地方北西部の縄文時代以降の指標テフラ層.考古学ジャーナル,157,41-52.

Asai Kazumi&Watanabe Toshiharu,1995,Statistic Classification of Epilithic Diatom Species into Three Ecological Groups relating to Organic Water Pollution(2)Saprophilous and saproxenous taxa.Diatom,10,35－47.

Cholnoky, B. J., 1968, Die Oekologie der Diatomeen in Binnengewassern. p. 699.

Desikachiary, T. V., 1987, Atlas of Diatoms. Marine Diatoms of the Indian Ocean. Madras science foundation,1-13, Plates,401-621.

群馬県,1993,1/50,000土地分類基本調査(地形分類図)　高崎.

Hustedt, F., 1930, Die Kieselalgen Deutschlands, Oesterreichs und der Schweiz. under Berucksichtigung der ubrigen Lander Europas Sowie der angrenzenden Meeresgebiete. in Dr. Rabenhorsts Kryptogamen Flora von Deutschland, Oesterreichs unt der Schweiz, 7, Leipzig, Part 1, 920p.

Hustedt, F., 1937-1938, Systematische unt okologische Untersuchungen mit die Diatomeen-Flora von Java, Bali und Sumatra. Ⅰ～Ⅲ. Arch. Hydrobiol. Suppl., 15, 131-809p, 1-155p, 274-349p.

Hustedt, F., 1959, Die Kieselalgen Deutschlands, Oesterreichs und der Schweiz. under Berucksichtigung der ubrigen Lander Europas Sowie der angrenzenden Meeresgebiete. in Dr. Rabenhorsts Kryptogamen Flora von Deutschland, Oesterreichs unt der Schweiz, 7, Leipzig, Part 2, 845p.

Hustedt, F., 1961-1966, Die Kieselalgen Deutschlands, Oesterreichs und der Schweiz. under Berucksichtigung der ubrigen Lander Europas Sowie der angrenzenden Meeres-gebiete. in Dr. Rabenhorsts Kryptogamen Flora von Deutschland, Oesterreichs unt der Schweiz, 7, Leipzig, Part 3, 816p.

伊藤良永・堀内誠示,1989,古環境解析からみた陸生珪藻の検討－陸生珪藻の細分－.日本珪藻学会第10回大会講演要旨集,17.

伊藤良永・堀内誠示,1991,陸生珪藻の現在に於ける分布と古環境解析への応用.日本珪藻学誌,6,23-44.

近藤錬三,2010,プラント・オパール図譜.北海道大学出版会,387p.

小杉正人,1986,陸生珪藻による古環境の解析とその意義－わが国への導入とその展望－. 植生史研究,1,9-44.

小杉正人,1988,珪藻の環境指標種群の設定と古環境復原への応用. 第四紀研究,27,1-20.

Krammer, K. & Lange-Bertalot H., 1985, Naviculaceae. Bibliothyca Diatomologica, vol. 9,p.250.

Krammer, K. & Lange-Bertalot H., 1986, Bacillariophyceae, Susswasser flora von Mitteleuropa, 2(1) :876p.

Krammer, K. & Lange-Bertalot H., 1988, Bacillariophyceae, Susswasser flora von Mitteleuropa 2(2): 596p.

Krammer, K. & Lange-Bertalot H., 1990, Bacillariophyceae, Susswasser flora von Mitteleuropa 2(3): 576p.

Krammer, K. & Lange-Bertalot H., 1991a, Bacillariophyceae, Susswasser flora von Mitteleuropa 2(4): 437p.

Lange-Bertalot, H., Witowski, A., Metzeltin, D.,2000,ICONOGRAPHIA DIATOMOLOGICA Annotated diatom micrographs. Diatom Flora of Marine Coasts ,1,925p.

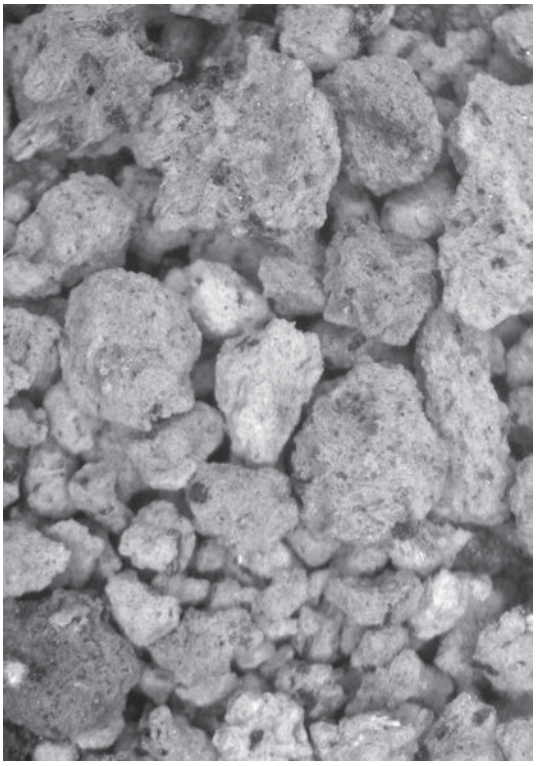
Patrick, R. and Reimer, C. W., 1966, The diatoms of the United States exclusive of Alaska and Hawaii. Vol. 1, 688p. Monographs of Acad. Nat. Sci. Philadelphia 13.

埼玉県教育委員会,1962, 埼玉県植物誌. 埼玉県教育科学振興会, 289-313.

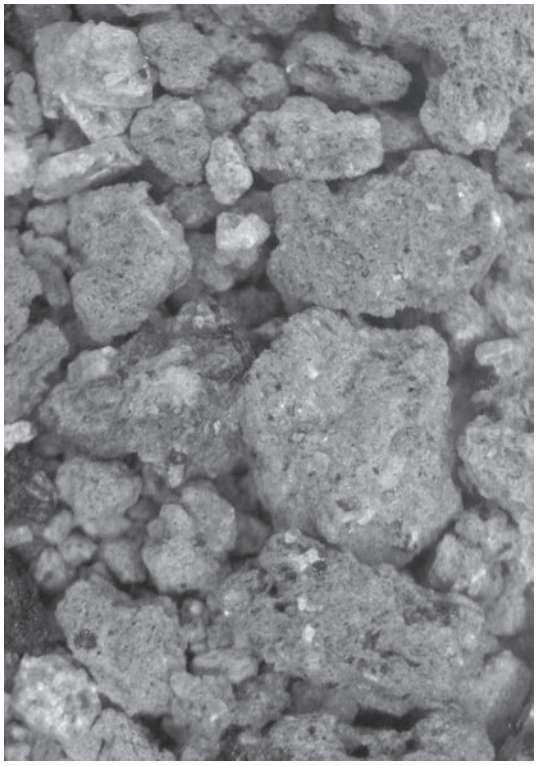
早田　勉,1989,六世紀における榛名火山の二回の噴火とその災害.第四紀研究,27,297-312.

杉山真二,2000,植物珪酸体(プラント・オパール).辻　誠一郎(編著)考古学と自然科学3　考古学と植物学,同成社,189-213.

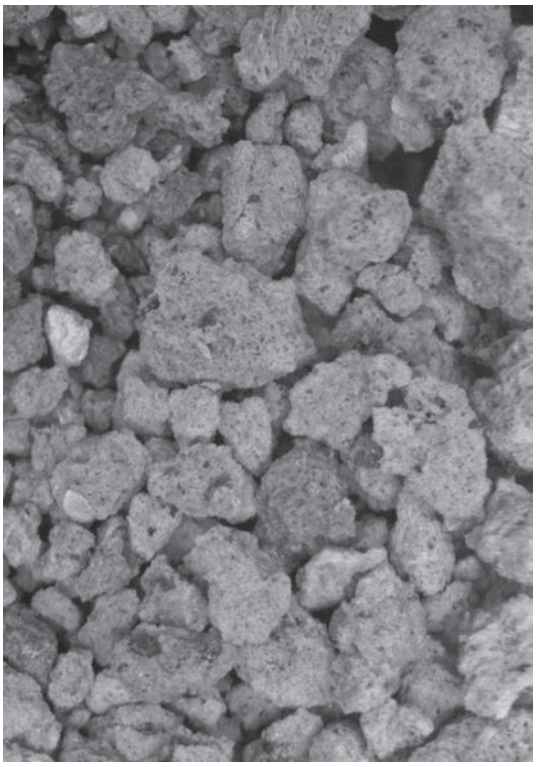
田中宏之・中島啓治・吉田武雄・服部幸雄・木崎喜雄,1978,片品川流域の温泉の珪藻フローラ.(社)群馬県温泉協会学術調査研究報告, 1-18.



1. As-Aの軽石(溝状遺構西面;T1)

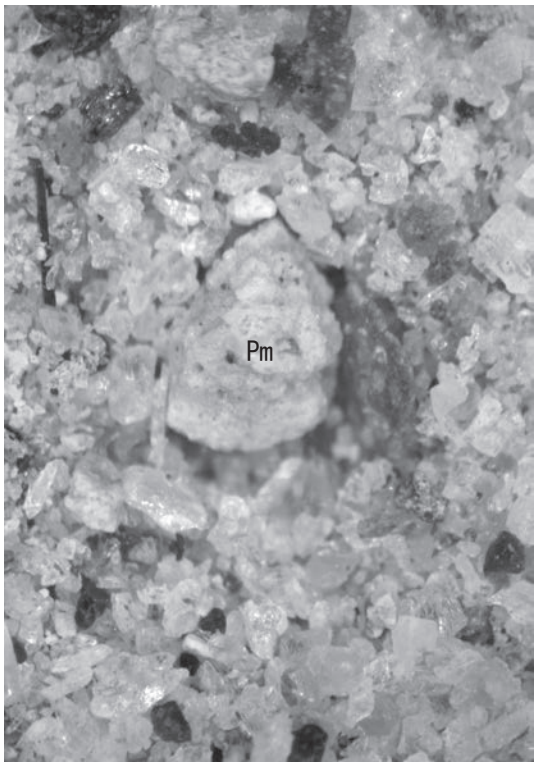


2. As-Bの軽石(溝状遺構西面;T6)



3. As-Bの軽石(トレンチ15;3)

Pm:軽石.

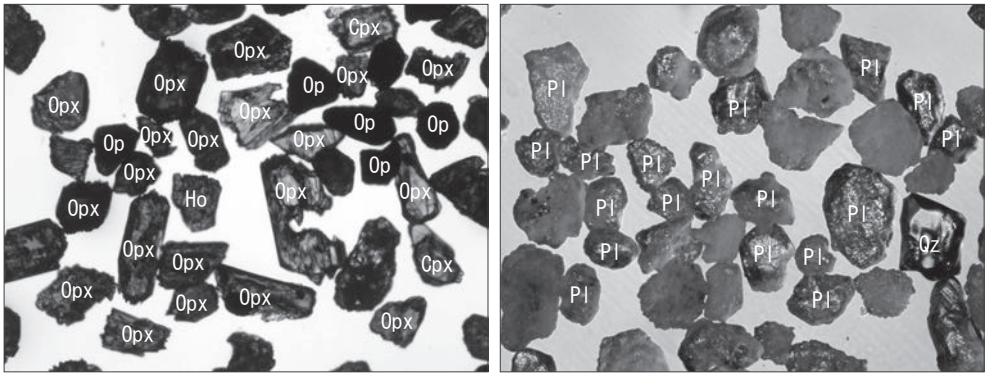


4. Hr-FPの軽石(トレンチ15;6)

2.0mm　2.0mm

1-3　4

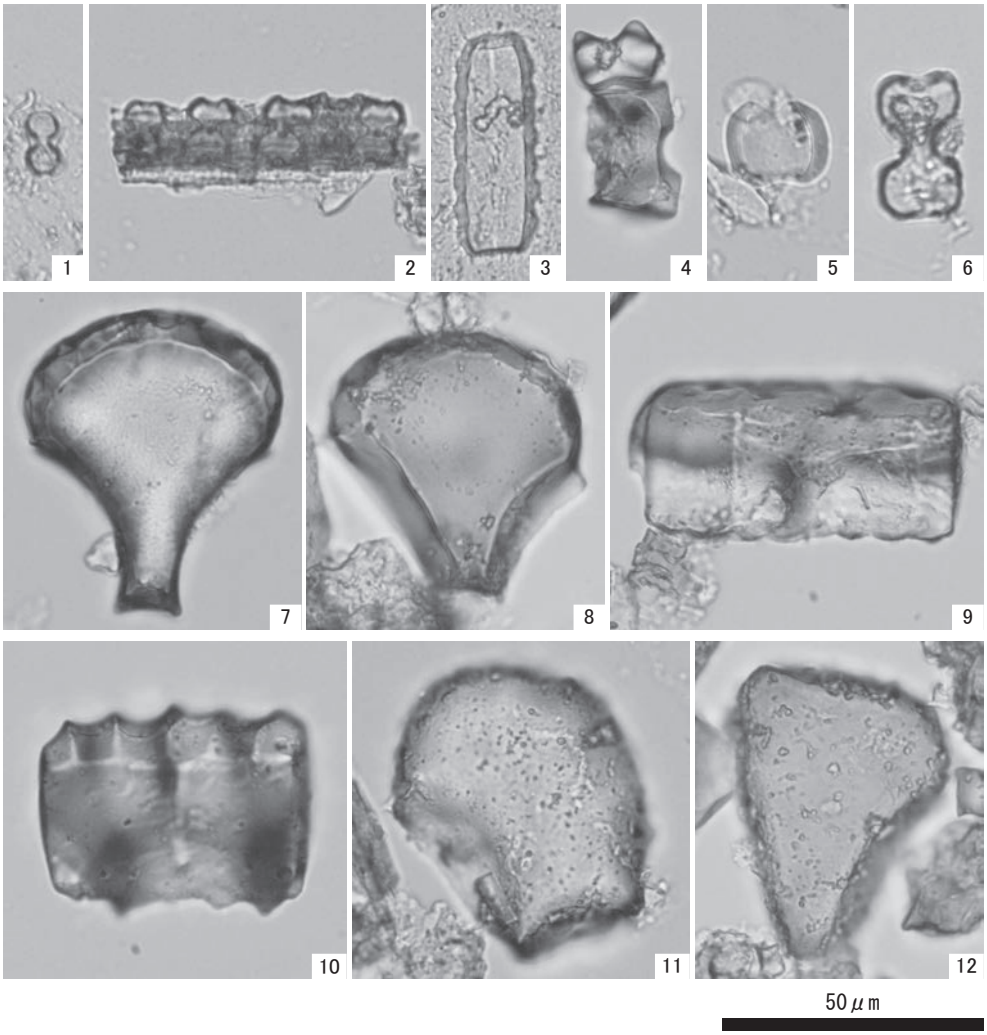
第245図　テフラ



1. 重鉱物(溝状遺構東面;15)　　2. 軽鉱物(溝状遺構東面;15)

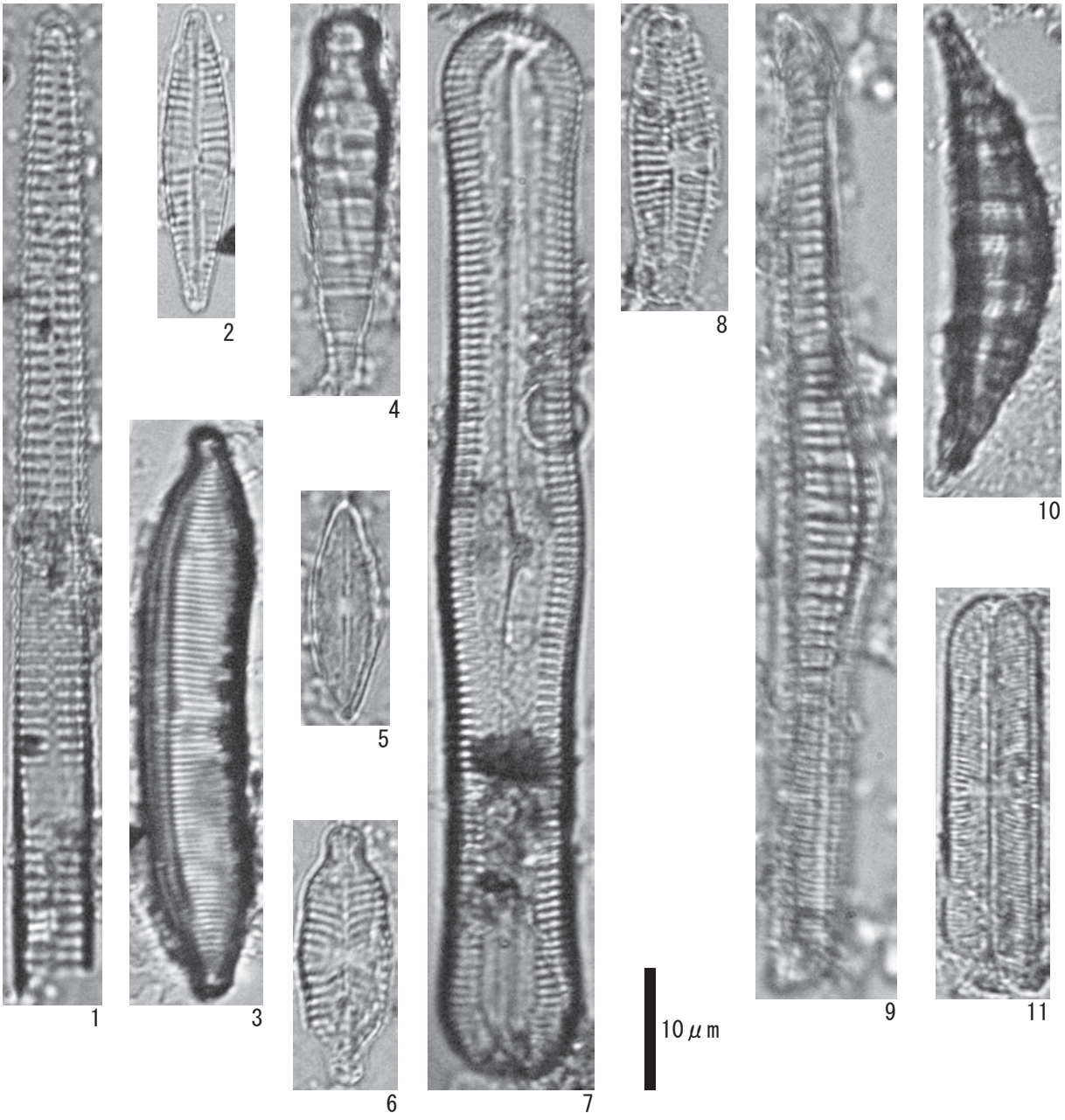
Opx:斜方輝石. Cpx:単斜輝石. Ho:角閃石. Op:不透明鉱物. Qz:石英. Pl:斜長石.

第 246 図　重軽鉱物



1. イネ属短細胞珪酸体(トレンチ15;4)
2. イネ属短細胞列(トレンチ15;6)
3. コムギ連短細胞珪酸体(トレンチ15;4)
4. クマザサ属短細胞珪酸体(トレンチ15;6)
5. ヨシ属短細胞珪酸体(トレンチ15;9)
6. ススキ属短細胞珪酸体(トレンチ15;6)
7. イネ属機動細胞珪酸体(トレンチ15;2)
8. イネ属機動細胞珪酸体(トレンチ15;4)
9. キビ連機動細胞珪酸体(トレンチ15;4)
10. メダケ属機動細胞珪酸体(トレンチ15;9)
11. ヨシ属機動細胞珪酸体(トレンチ15;9)
12. ススキ属機動細胞珪酸体(トレンチ15;6)

第 247 図　植物珪酸体



1. *Fragilaria ulna* (Nitzsch) Lange-Bertalot (溝状遺構東面;6)
2. *Gomphonema parvulum* (Kuetz.) Kuetzing (トレンチ15;2)
3. *Hantzschia amphioxys* (Ehr.) Grunow (トレンチ15;4)
4. *Meridion circulare* var. *constrictum* (Ralfs) Van Heurck (溝状遺構東面;6)
5. *Navicula confervacea* (Kuetz.) Grunow (トレンチ15;2)
6. *Navicula elginensis* var. *neglecta* (Krass.) Patrick (トレンチ15;4)
7. *Pinnularia acrosphaeria* W.Smith (トレンチ15;2)
8. *Planothidium lanceolatum* (Breb. ex Kuetz.) Lange-Bertalot (トレンチ15;9)
9. *Rhopalodia gibba* (Ehr.) Mueller (トレンチ15;2)
10. *Rhopalodia gibberula* (Ehr.) Mueller (溝状遺構東面;13)
11. *Sellaphora pupula* (Kuetz.) Mereschkowsky (トレンチ15;9)

第 248 図　珪藻化石

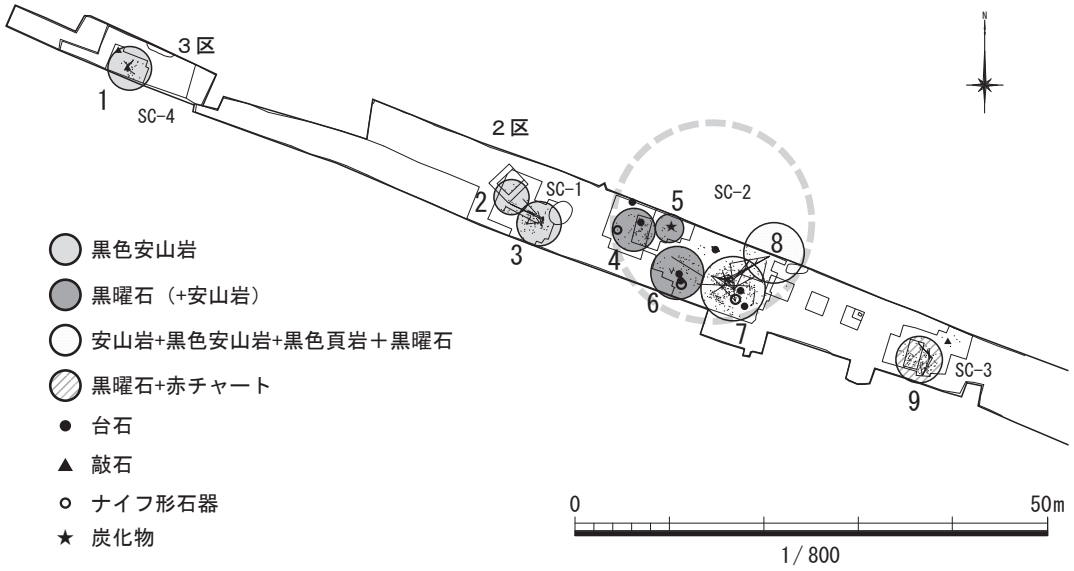
第Ⅵ章　総　括

1. 旧石器時代

2 区～ 3 区において、AT 層下位暗色帯（ⅩⅢ層）から 4 箇所の石器集中地点（SC-1 ～ 4）が確認され、9 つのブロックに細分された（第 249 図）。ブロック間での石器の接合関係は 2・3 ブロック間、6・7・8 ブロック間で確認されたが、異なる石器集中地点間の接合はみられなかった。これら 4 箇所の石器集中地点は、位置関係や石材組成の違いから、個別に形成されたものと考えられる。そのなかでも、SC-2 は石器の出土点数が多く、ブロックが連結する配置がみられ、まとまったブロック群を形成している。出土位置を記録した石器は計 652 点あり、内訳はナイフ形石器が 3 点、石斧 1 点、石刃 2 点、二次加工のある剥片 2 点、使用痕のある剥片 5 点、石核 7 点、敲石 5 点、台石 8 点、剥片・チップ 614 点などがある。ナイフ形石器及び台石はいずれも SC-2 の 4・6・7 ブロックからの出土である。

石材の組成は大きく四分され、石器集中地点ごとに異なる。1 ～ 3 ブロックは黒色安山岩が大部分を占め、黒曜石を保有しない。硬質頁岩がわずかにみられ、2 ブロックではチャートが混じる。1 ブロック（SC-4）は、石材の 83%を黒色安山岩が占め、石斧刃部や石核が出土した。敲石が 2 点ある。同様の石材組成を示す 2・3 ブロックより剥片の大きさが 1 ㎝以上大きい特徴がある。2・3 ブロック（SC-1）は、それぞれ黒色安山岩が 72%、95%を占める。2・3 ブロック間での接合があり、同一時期のものである。石核・敲石・台石は出土していない。3 ブロック内での接合が多く、チップの比率も高いことから、3 ブロックが主たる作業の場であったと考えられる。

4 ～ 6 ブロック（SC-2）は黒曜石が主体で、とくに母岩 OB1 ～ 3 を多く消費する。4・6 ブロックはナイフ形石器と台石を保有する。5 ブロックでは安山岩が混じる。7・8 ブロック（SC-2）は安山岩・黒色安山岩・黒色頁岩



第 249 図　ブロックの配置

が約 28%ずつあり、黒曜石が混じる。黒曜石は母岩 Ob4 を多く消費する。4・5・7 ブロックでは少量だが瑪瑙もみられる。SC-2（4 ～ 8 ブロック）は、石材組成の違いにより 4・5・6 ブロックと 7・8 ブロックに二分されるものの、6・7 ブロック間で接合関係（BAn1、Ob2）があるほか、多くの母岩（An6・7、BAn1、BSh1・3・4、Ob1 ～ 4）を共同消費していることから、同時期に形成されたブロック群と判断される。総体的には 4･6･7･8 ブロックが環状となる配置がみられ、直径 21 m規模の環状ブロック群を想定することができる。7 ブロックは安山岩・黒色安山岩・黒色頁岩・黒曜石の全ての母岩を消費しており、SC-2 の石器出土点数の 63%を占める。接合資料の多くも 7 ブロックが基点となっている。長さ 5 ㎝以上の大型の剥片は SC-2 の 25 点中の 14 点が 7 ブロックにあり、石核・敲石・台石も保有する。7 ブロックが SC-2 における石器製作の中核的な場であったと考えられる。SC-1・3・4 で少量出土する硬質頁岩は SC-2 では確認されず、SC-2 だけに瑪瑙が出土するなど、SC-2 の石材は SC-1・3・4 と大きく異なっている。

9 ブロック（SC-3）は黒曜石を主体とする。黒曜石の剥片のサイズは 4 ～ 8 ブロックの平均値より 5 ㎜ほど大きく、石核 2 点も出土した。全ブロック中で唯一の赤チャートが出土し、硬質頁岩もわずかにみられる。

以上のように、石器集中地点 SC-1 ～ 4 は、各地点ごとに石材組成が異なり、地点間の接合関係もみられないことから、個別に形成されたブロック群と考えられた。SC-2 には環状ブロック群が想定され、SC-1・3 も南側へブロックが広がる可能性があり、複数のブロック群が近接しながらも重複せずに形成された状況が窺われる。本遺跡の東に隣接する三ツ木東原Ｂ遺跡では直径 16 m程度の環状ブロック群が、南東側に位置する白石北原遺跡では推定径 28 mの環状ブロック群が検出されている。鏑川の上位段丘面東端に位置する本遺跡周辺は、眺望の良さや鏑川流域を経路とする広域移動における中継地としての利便性から、旧石器時代に盛んに利用されたと考えられる。SC-2 に想定された環状ブロック群は、黒曜石を主体的に消費する 4・6 ブロックと、安山岩・黒色安山岩・黒色頁岩・黒曜石の四種を消費する 7・8 ブロックとで環状部が構成される。特に安山岩・黒色安山岩・黒色頁岩は 7 ブロックで集中消費される。環状ブロック群が石材組成の異なるブロックから構成される状況は三ツ木東原Ｂ遺跡でもみられ、SC-2 においても複数の単位集団が存在した可能性が指摘される。中央広場が想定される中心部は石器の分布が散漫であるが、4 ブロックに内接する 5 ブロックでは炭化物が検出され、中心部寄りに火を使用する場があった可能性も想定される。

本遺跡の石器集中地点は、本遺跡に隣接する三ツ木東原Ｂ遺跡や白石北原遺跡と同様の黒色安山岩を主体とする SC-1・4 がある一方で、黒曜石を主体とする SC-3、黒色安山岩と黒曜石を利用する SC-2 など、異なる石材組成のブロック群がみられた。ブロック群間の母岩の非共通性や接合関係の無さから、各ブロック群は同時併存ではなく、時期を前後して形成されたものと考えられる。同じ鏑川流域に属する甘楽町の白倉・天引地区の環状ブロック群においても、黒色安山岩あるいは黒曜石を主体とするブロック群に大別される状況が認められる。このように、鏑川流域の環状ブロック群は、遠隔地石材である信州産黒曜石の有無が顕著であり、鏑川流域を移動経路とする集団の方向性の違いが、その石材組成に表れていると想定される。

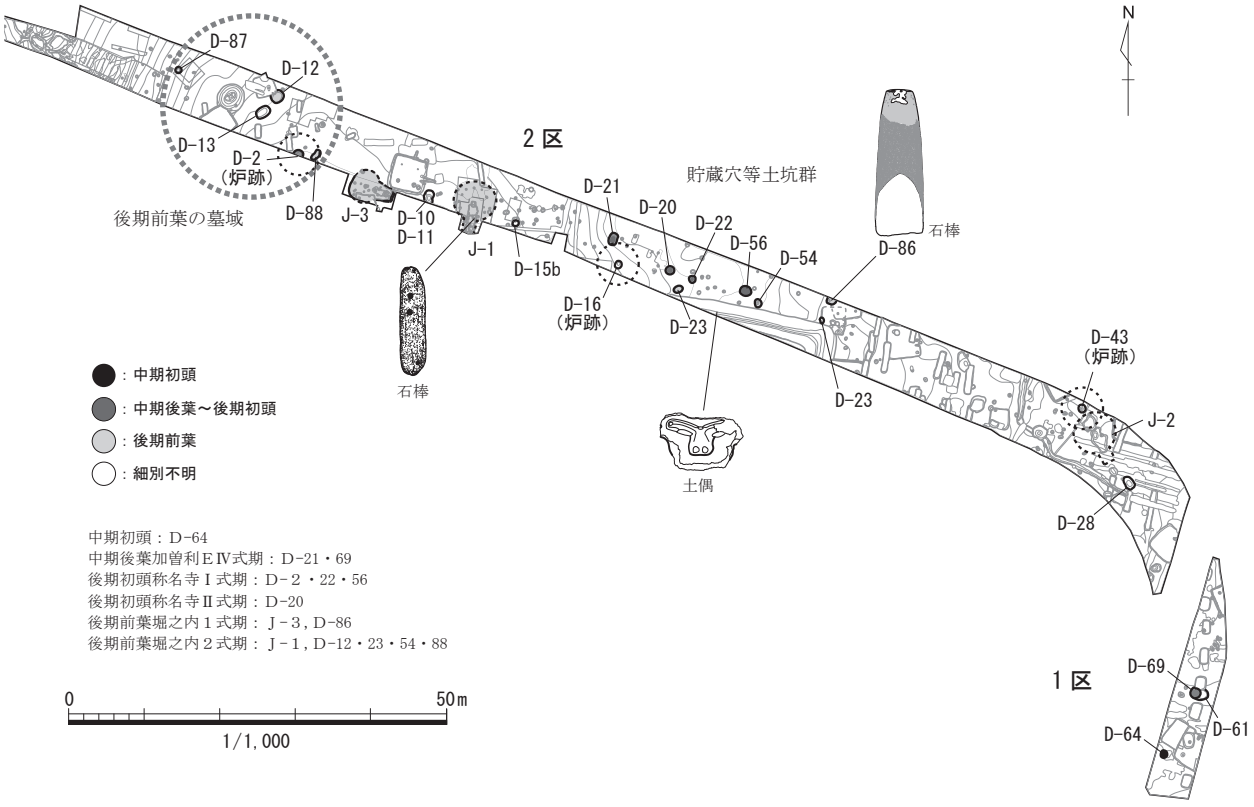
2. 縄文時代

縄文時代の遺構は、河岸段丘上位面にあたる三ツ木東原Ｃ遺跡の１・２区で中期初頭の土坑１基や中期後葉～後期前葉の住居跡３軒および土坑 19 基を調査した。また、河岸段丘中位面に位置する上落合七輿遺跡では、遺構こそ検出されなかったものの、中期後葉～後期前葉を主体とする縄文土器片が出土している。これらには中期後葉～後期初頭と後期前葉の間に主な画期がみられるようであり、周辺の事例を踏まえ（第４図）、時期ごとの状況を整理していきたい（第 250 図）。

中期初頭は三ツ木東原Ｃ遺跡東側の１区において土坑（Ｄ-64 号土坑）が単独で確認された。周辺では僅かな遺物が検出される程度であり、小規模な活動痕跡とみなされる。本土坑には北信系の土器が共伴しており注目される。なお、前期後葉や中期前葉～中葉の土坑が東約 80 ｍの三ツ木東原Ｂ遺跡や南東約 100 ｍの三ツ木東原遺跡および南南東約 150 ｍの白石北原遺跡に散見され、河岸段丘上位面でも東側において拡散的で小規模な営みがなされたようである。

中期後葉～後期初頭の遺構は、指標となる出土遺物が少ないことから検討の余地を残すものの、三ツ木東原Ｃ遺跡のＤ－２・16・43 が挙げられる。これらは被熱痕を有することから削平された住居に伴う炉跡に想定され、上位面北辺の広い範囲において住居が継起的に点在していたと想定される。他の土坑は各細別時期のものが東半に散在し、上位面北東側の三ツ木東原Ｂ遺跡でも同様の状況が調査されている。なお、白石北原遺跡では中期中葉勝坂式末期～後期初頭称名寺Ⅱ式期の拠点的な集落が形成されており、本事例はその縁辺的な位置づけがなされる。また、河岸段丘中位面の上落合七輿遺跡で出土した遺物は、西側約 100 ｍに位置する上落合上野遺跡の集落跡に関連すると考えられる。上落合上野遺跡では中位面の縁辺に中期後葉加曽利ＥⅢ式～後期初頭称名寺Ⅱ式期の住居跡が検出されており、比高差約 20 ｍを擁する上位面・中位面それぞれに同時期の集落が展開していた状況が見い出される。

後期前葉には、柄鏡形敷石住居跡のＪ－１・３号住居跡が、標高が最も高くなる三ツ木東原Ｃ遺跡２区の中央やや北西側で検出されている。また、Ｊ－２号住居跡が２区南東側にあるものの、詳細は不明である。住居跡には時期差が認められ（Ｊ－１号住居跡：堀之内２式期、Ｊ－３号住居跡：堀之内１式期）、後期前葉をとおした持続性が窺われる。土坑は２区の中央と北西側にまとまる。２区中央は平面円形・楕円形の土坑が目立ち、袋状



第 250 図　縄文時代の主要遺構（三ツ木東原Ｃ遺跡）

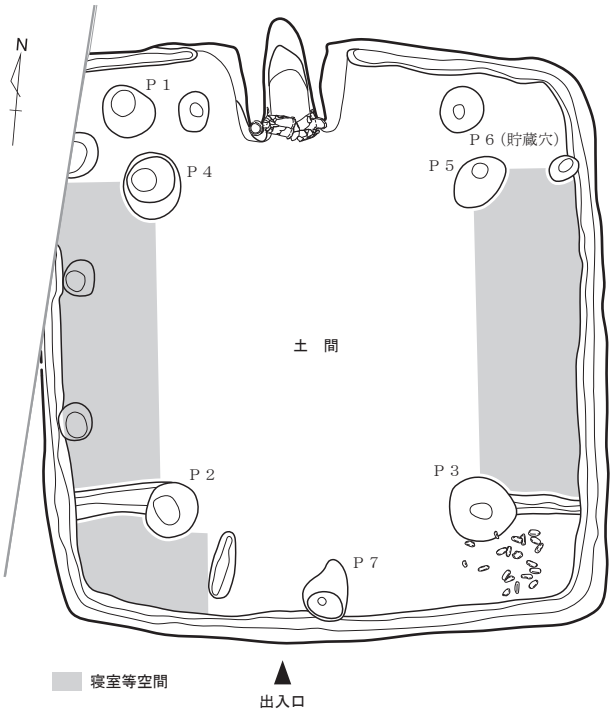
を呈するD -15b・86 が貯蔵穴に比定されることから、貯蔵施設域としての使用が想定される。くわえて、堀之内１式期のD -86 号土坑から石棒が検出され、中世の堀からではあるが後期前葉に比定される土偶の頭部が出土するなど、石棒を包蔵する住居跡（Ｊ－１号住居跡）と同様に呪術的な性格が垣間見られる。一方、谷を背とする２区北西側では、平面が長楕円形・楕円形の土坑が目立ち、そのうちのD -12・88 が１個体の土器を割ってその破片を遺体の上に敷き並べる土器片被葬の土坑墓に想定される。両土坑とも堀之内２式期に帰属し、該期には墓域を形成していたことが予想される。居住域の外側にあたる狭い傾斜地に墓域が分離する状況が捉えられ、後・晩期に通有な墓域の分化が本遺跡でも顕在している。さらに、前出の白石北原遺跡は後期初頭称名寺Ⅱ式期に収束しており、集落が上位面北縁へ移行する動向が見て取れる。崖下の中位面における該期の遺構は貯蔵穴のみであり（上落合上野遺跡D -17 ～ 19 号土坑）、眼下に広がる中位面の用益をも見据えた居住域の選地が推察される。ともすれば、三ツ木東原Ｃ遺跡Ｊ－１・３号住居跡で多出した漁網用の石錘は中位面や隣接する下位面での使用を反映している可能性がある。

3. 古墳時代

古墳時代の遺構は、三ツ木東原Ｃ遺跡で竪穴住居跡 14 軒、上落合七輿遺跡で竪穴住居跡２軒と溝１条を検出した。竪穴住居跡の時期は６世紀後半～７世紀前半で、重複せずに散在して分布する。円筒埴輪の破片が点在するものの、古墳は検出されていない。皇子塚古墳や平井地区１号古墳からなる古墳群と時期を同じくする集落と考えられる。

Ｈ－ 12 号住居跡の空間利用について

今回の調査で間仕切り溝を有する住居跡が確認された。住居の掘り方を精査した結果、当初確認されなかった間仕切り溝や補助柱を検出することができた。間仕切り溝は、住居内の仕切り壁を設置する際に掘られた溝で、出入口が確認できる例が多いことが指摘されている。このため、住居内の土間や寝室を区分けすることが可能とされている。ここでは出土遺物の分布とからめて住居内の空間利用



第251図　H-12号住居跡空間利用図

第110表　藤岡市内の間仕切り住居一覧表

遺跡名	遺　構	時　期	カマド	形　態
上落合岡遺跡	Ｈ－３号住居	６世紀前半	西壁	主柱穴４本、間仕切り１、カマドに直交した北西入口
	Ｈ－48号住居	６世紀前半	—	主柱穴？、間仕切り１、南東隅に柱穴、入口南側
	Ｈ－77号住居	７世紀前半	—	主柱穴４本、間仕切り２
本郷下海戸遺跡	Ｈ－３号住居	６世紀後半	東壁	主柱穴４本、間仕切り３、南西隅に柱穴、カマドに直交した南東入口

を検討してみる。

住居の構造を詳しくみると、住居は６世紀後半に作られたもので、平面は正方形を呈し、長軸 6.69 m、短軸 6.3 mの大きさで、北壁中央にカマドが付設されている。主柱穴は４本（Ｐ２～Ｐ５）で、Ｐ２・３に間仕切り溝が付設される。また、Ｐ２東側に長さ 0.75 mの単独の溝が確認されている。補助的な柱穴は、住居西側の壁に沿って３本の柱穴が確認されている。また、Ｐ４からカマド左側にかけて２本の柱穴、Ｐ５の東壁沿いに柱穴１本が確認されている。入口に想定される場所は、カマドの反対にあるＰ７付近である。次に、出土遺物の分布をみると、Ｐ６の貯蔵穴周辺に土器類が分布し、Ｐ３から住居南東隅の一角に菰網石が集中している。

これらの状況から住居内の空間利用を復元すると、住居の入口は南壁の中央にある。寝室空間は住居西側では南壁からＰ４までの幅１m、長さ５m程、住居東側ではＰ３からＰ５までの幅１m、長さ 3.8 m程と推定される。Ｐ３から住居南東隅の１m四方の空間は菰網石の集中等から道具置き場の可能性が推定される。また、住居の中央部分、幅約 2.5 m、長さ約 3.5 m程が土間空間と推定される。

このような形態は、筆者の分類（志村 2018）によればⅠ類１Ａに分類され、間仕切り溝のある住居では一般的な形態と言える。参考として、管見によれば藤岡市内で間仕切り溝を有する住居は４例あり、このうち３例が本遺跡の北側に占地する上落合岡遺跡である。

七輿山古墳外堤等の再検討について

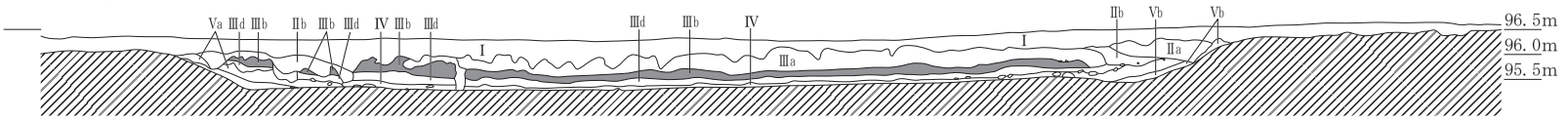
七輿山古墳は６世紀代の古墳としては、東日本最大の規模を有する前方後円墳である。この古墳は、藤岡市教育委員会により、1989 年から 1991 年にわたり３回の範囲確認調査が実施された。また、並行して古墳の測量図及び地籍図の作成も実施されている。調査の結果、測量図から全長 145 m、墳丘は３段築成の前方後円墳で、内堀・内堤・外堀・外堤を備える二重周溝で、前方部の外堤では三重目の区画溝が確認されている。中でも中堤については、古墳主軸線状の前方部で南北 14 m、東西９mの方形状の造り出し、古墳南西隅でも南北 14 m、東西 16 mの方形状の造り出しが付設されている特徴がある。特に、外堤南西隅は複雑な構造を有し、２段築成の可能性が指摘されている。その後、2018 年に実施された早稲田大学による地中レーダー探査により、範囲確認調査による古墳主軸線上の前方部中堤の造り出し、中堤南西隅の造り出しが再確認されている。また、後円部に羨道部が長い初期横穴式石室、後円部後方の中堤の造り出し、前方部中堤の北西隅に突出する造り出し（？）が新たに確認されている。以上が、これまでに判明している調査の概略である。

今回の調査で、七輿山古墳の外堤に関係すると思われる自然地形や遺構が確認されたため、上述した調査結果を参考にしながら再検討を行うものである。なお､ここに掲載する図面は『七輿山古墳　範囲確認調査報告書Ⅶ』の第 14 図七輿山古墳全体図をもとに一部改変したものである。

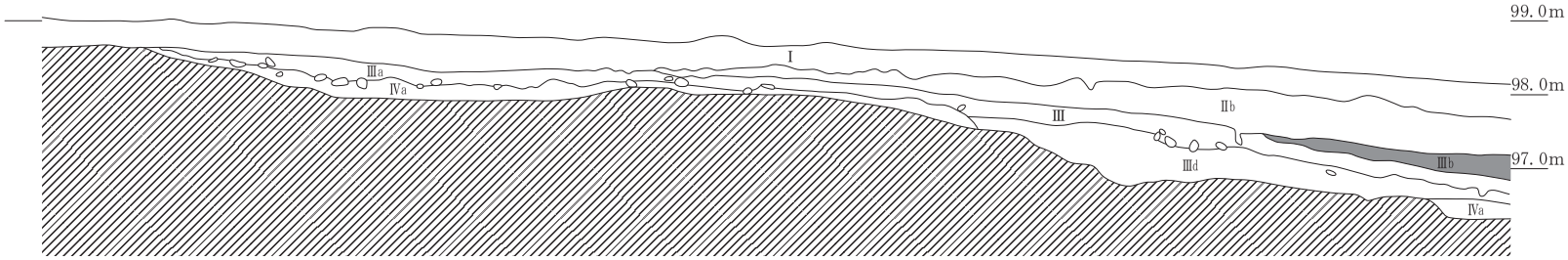
最初に､三ツ木東原Ｃ遺跡で確認された埋没谷（２区西端。Cu-21 ～ 26､Cv-22 ～ 28､Cw-24 ～ 28 グリッド）は、鏑川と鮎川に形成された河岸段丘の上位面にあたり、北方向に小規模な開折谷を形成している。この部分が七輿山古墳の外堤南西隅にあたる。なお、谷最下部のⅤ層は出土遺物から縄文時代中期～後期、Ⅳ層は古墳時代～平安時代の年代が与えられている。このことは七輿山古墳造営時、古墳南西部の斜面は谷地状に開折されていたことになり、中堤・外堀・外堤は馬蹄形を描くことができず、自然地形に沿った形で中堤南西隅を段丘傾斜面に並行した形に屈曲せざるを得なかったと推定される。また、谷筋からの流水を処理することも含めて造り出しを設けたと推定される。

次に、藤岡市教育委員会による範囲確認調査のトレンチ土層断面（第 252 図）をみてみよう。前方部に設定された３Ａトレンチでは、前方部外堀の底面が標高 95.3 m、前方部南西に設定された４Ａトレンチでは、前方部外堀の底面が標高 95.9 mと極端な比高はなく概ね平坦であるが、４Ｂトレンチの北側の外堀底面は標高 98 mと

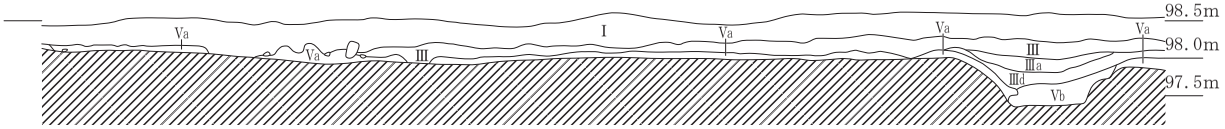
七輿山古墳　３Ａトレンチ



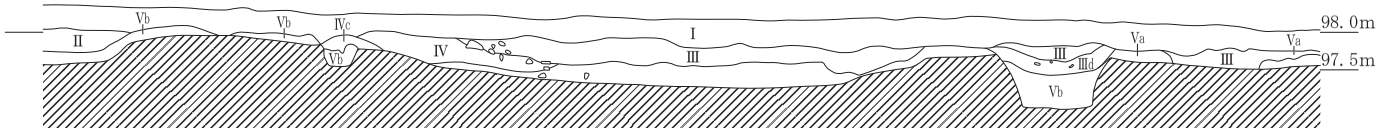
七輿山古墳　４Ｂトレンチ



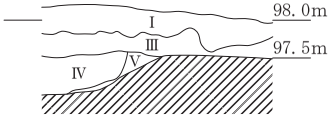
七輿山古墳　６Ａトレンチ



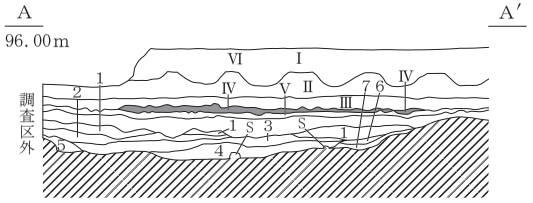
七輿山古墳　７Ａトレンチ



七輿山古墳　15トレンチ



上落合七輿遺跡　M-1号溝



：As-B一次堆積層

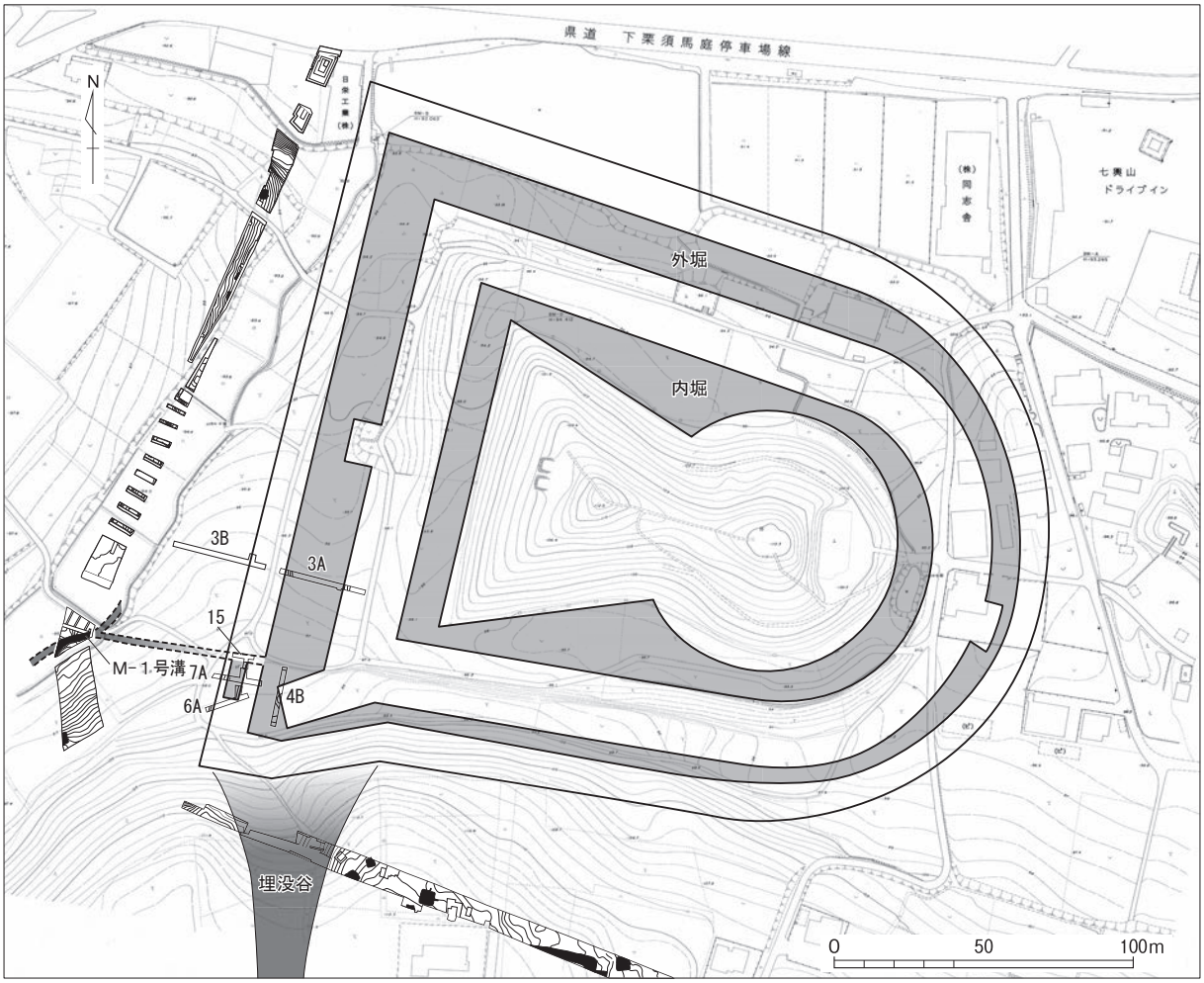
七輿山古墳　３Ａトレンチ

0　6m

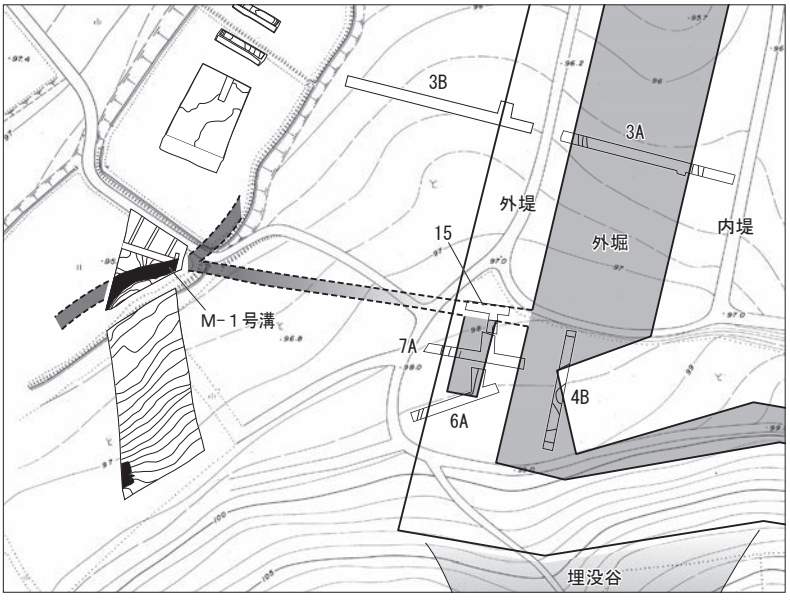
1/150

0　4m

1/100



第 253 図　七輿山古墳 兆域模式図



第 254 図　七輿山古墳 外堤拡大図

約２m高くなっている。ところが、南側の外堀底面は標高 96.35 mと前方部外堀の底面より 1.65 mほど低いため、外堀南側の水や開折谷からの水を一時的に溜める構造にしたと推定される。６Ａ・７Ａ・15 トレンチでは、外堤の中に南北に延びる葺石が 12 mほど確認されている。葺石は 15 トレンチ内で収束していることから、外堤の一部が開いていたことが窺える（第 254 図）。また、この葺石から西側は幅５m、長さ 12 mほどの長方形を呈したくぼ地となり、底面の標高は 97 mを測る。この部分は、『七輿山古墳範囲確認調査報告書Ⅶ』の中で「七輿山古墳前方部南西隅の外堤帯は二段築成の可能性が高い。」と述べられているところである。しかしながら、今回の上落合七輿遺跡の調査から検出されたＭ－１号溝の覆土の在り方をみると、七輿山古墳のトレンチ土層と類似性があることから、この溝が七輿山古墳の外堤の一部を開けていることに関連すると推定される。Ｍ－１号溝は、鏑川と鮎川に形成された河岸段丘の中位面にあたり、七輿山古墳西側の開折谷に沿って走行すると推定され、枝分かれして七輿山古墳の外堤南西隅方向に延びて、６Ａ・７Ａ・15トレンチで確認されている葺石が切れた部分に繋がると推定される。このことが外堀及び外堤内にある長方形のくぼ地からの水処理を担っていたと推定される。

以上のことから、七輿山古墳の中堤南西隅の造り出しは、大きくは自然地形を利用した結果と言える。また、この造り出しにより外堀・外堤が相似形に造られる。特に、外堤内には、南北に走行する葺石があり、葺石が終息する場所は外堤の一部が開いていた個所と想定される。この部分の用途は通路及び外堀の排水機能と推定される。排水面を考慮すると上落合七輿遺跡のＭ－１号溝が接続している可能性があるが、外堤の区画溝が確認されていることから、直接の接続は三重目の溝までとしたい。これらをまとめたのが、第 253 図の七輿山古墳兆域模式図である。

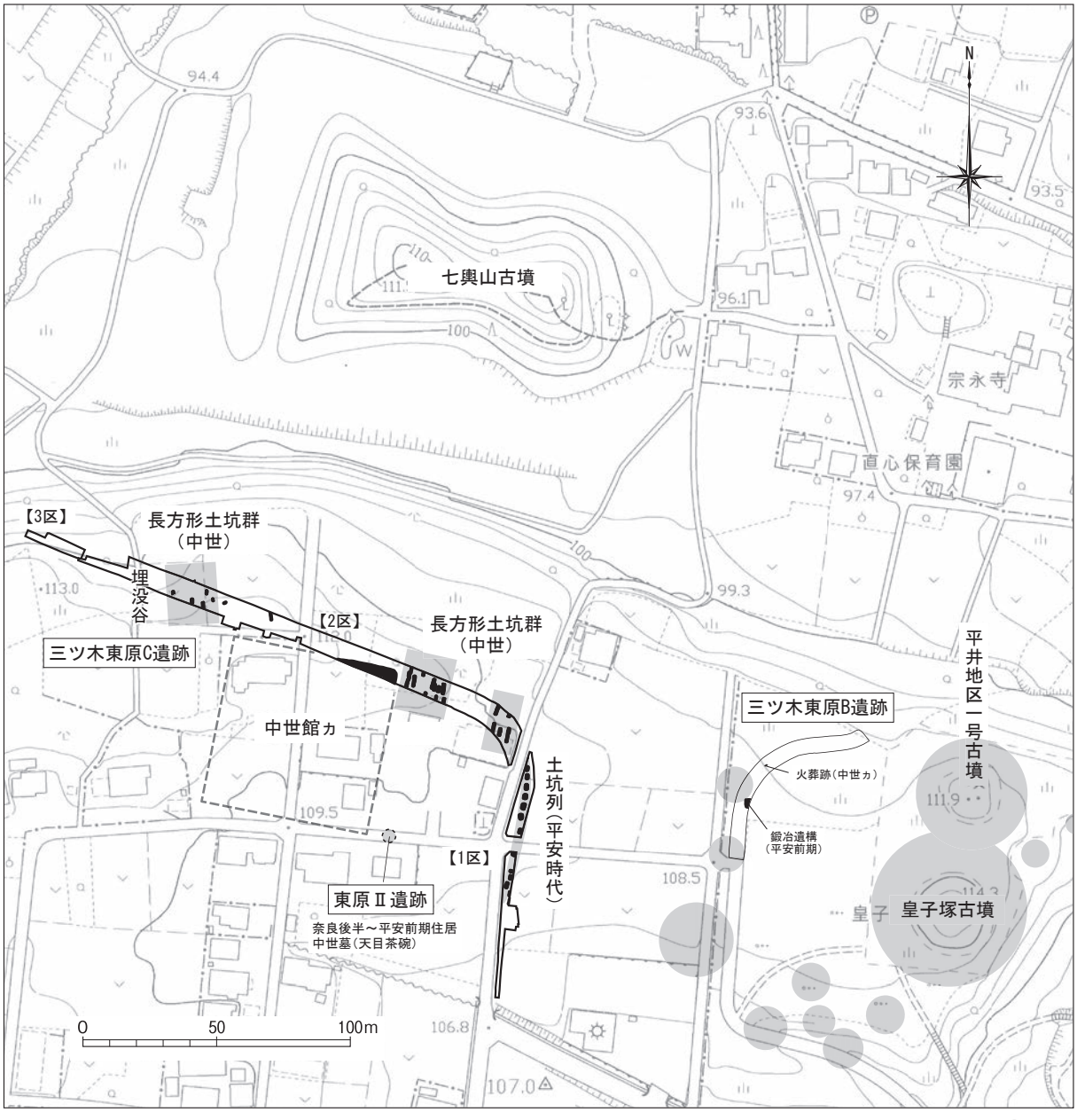
4. 奈良・平安時代

三ツ木東原Ｃ遺跡・上落合七輿遺跡の奈良時代の様相は判然としないが、三ツ木東原Ｃ遺跡に隣接する東原Ⅱ遺跡で８世紀後半の竪穴住居跡があるほか、三ツ木東原Ｃ遺跡の２区では、径 3.47 m、深さ 1.98 mを測るＤ－６号土坑があり、規模の大きさから井戸跡と考えられる。出土遺物に８世紀代のものがある。この時期、段丘崖下に広がる上落合岡遺跡では、竪穴住居跡のほかに、布掘を含む掘立柱建物が複数存在するなど集落形成が活発になることから、２区の大型井戸跡は、これに連動した遺構である可能性がある。

平安時代の９世紀後半になると、三ツ木東原Ｃ遺跡・上落合七輿遺跡ともに遺構・遺物の広がりが確認される。この時期の主な遺構は、三ツ木東原Ｃ遺跡２区の竪穴住居跡３軒と１区の土坑列、上落合七輿遺跡の１・２区で竪穴住居跡２軒が確認された。三ツ木東原Ｃ遺跡の竪穴住居跡はＨ－４号住居跡で唯一全容が分かるが、９世紀後半の小規模な住居跡で、中央南寄りに炉跡がある。東隣りの三ツ木東原Ｂ遺跡では、同時期で規模・方位が一致する竪穴住居跡から鍛冶遺構が検出されているが、Ｈ－４号住居跡では鍛冶に関わる遺物は出土していない。２区西側の埋没谷までの間に住居跡が散在しながら、10 世紀にかけて存続するようである。上落合七輿遺跡では、水田跡の検出された低地に面して２軒の竪穴住居跡があり、存続時期は三ツ木東原Ｃ遺跡と同じである。

一方で、三ツ木東原Ｃ遺跡の１区には調査区を南北に縦断する土坑列がある。規格的な土坑が軸を揃えて並んでおり、土坑の規模は長軸 2.1 m×短軸 1.2 mが標準である。土坑の覆土はブロック土を大量に含む人為的な埋没土である。Ｄ-58・60・65 号土坑の断面をみると、土坑の南側から北側へ規則的に埋め戻されており、北方位を意識していたことが分かる。覆土に As-B の混入がなく、少量ではあるが 10 世紀代のロクロ甕、羽釜、灰釉陶器が出土することから、10 世紀を主体とした遺構と判断される。この土坑列は、皇子塚古墳や平井地区１号古墳を含む群集墳の西側外縁部にあたり、列の北側延長線上には七輿山古墳の後円部がある。このような古墳を意識した配列や土坑の形状から、土坑について現時点では土坑墓となる可能性を考えておきたい。血縁などで結び

ついた家族墓のような墓が、繰り返し営まれた結果として土坑列が形成されたと捉えられる。平安時代の竪穴住居跡は土坑列の西側に分布し、東側は墓域や三ツ木東原Ｂ遺跡Ｈ－２a 号住居跡のような鍛冶遺構が存在する非居住的空間であったと考えられる。土坑列は、隣接する土坑同士が概ね 2.0 ｍの距離をあけており、前代の墓を認識するためにも、土坑上に封土があった可能性が高い。2 区で多数みられる中世の長方形土坑が、この土坑列に重複してこないことも、封土が存在したことを示している。想定される封土は最大で径 3.8 ｍほどである。七輿山古墳を意識した配列が正しければ、土坑は北側から順次造られたと考えられ、それは南側の土坑ほど規格が崩れ、軸が不揃いになる傾向に表れている。後代になるほど当初の造墓意識が薄れてきたためであろう。副葬品と思しき遺物は出土していないが、Ｄ -65 号土坑では土坑北端の上層から灰釉陶器の破片が出土している。この灰釉陶器片は故意に打ち欠いた痕跡があり、鏡や白磁の破砕片を副葬する事例と同様に、魔除けとして置かれた可能性がある（狭川 2001）。Ｄ -58 号土坑からは鉄釘が出土し、木棺の存在が想定される。被葬者像についてこ



第 255 図　平安時代～中世の主要遺構（三ツ木東原Ｃ遺跡）

こでは明らかにできないが、周辺集落の動態や墓制のあり方を通じて検討すべき課題である。

5. 中世以降

As-B の降下後、中世になると三ツ木東原Ｃ遺跡の 2 区に幅 5.5 ｍ、深さ 1.6 ｍの薬研堀のＭ－１号溝が出現し、方形区画が想定される。この区画は現在の地割りや中世の土坑群との位置関係を参考にすると一辺 50 ｍ程度の規模が想定されるが、断定はできない。現状では中世館跡の堀を想定している。2 区は段丘崖が大きく曲がる地点に近いため眺望が良い立地にあり、また 2 区～ 3 区にかけて存在した埋没谷の地形を外周に取り込む形で館跡を構築したと考えられる。堀は覆土最下層の一部に As-B が含まれ、As-A で最終埋没することから中世～近世まで存続したことが分かる。遺物は 17 世紀代の肥前大皿が出土したものの、中世遺物に乏しく堀の掘削時期は明らかではない。方形区画の北側は中世の遺構がない空閑地であるが、北東側には 2 群、北西側には 1 群の長方形土坑群が存在する。北東側の長方形土坑は概ね幅 70 ～ 90 ㎝、長さはおよそ 2.8 ｍ、4.0 ｍ、5.4 ｍに三分される。深さは最も深いもので 69 ㎝である。東西の 2 群に分かれており、それぞれの東西幅は東側が 7.0 ｍ、西側が 16.0 ｍで、区画性をもって土坑が並んでいる。長軸方位は堀Ｍ－１の方位と揃っている。これに対し北西側の長方形土坑は東西幅 8.5 ｍの区画の中に散在する。幅は 80 ㎝以下が多く、長さが 2.0 ｍと短く、深さは最大で 56 ㎝である。長軸方位は堀の方位と若干異なり、ほぼ真北を向いている。時期を示す明確な遺物に欠けるが、いずれの土坑群も覆土に As-B を含むものが存在することから、中世の土坑群と考えられる。土坑群は、遺跡周辺が古墳～平安時代にかけて墓域が継続したこと、推定される館跡の南東にあたる東原Ⅱ遺跡で天目茶碗を出土した中世墓が検出されていることを重視すれば、土坑墓群になる可能性がある。また堀の区画内の調査が進み、瓦や仏具など仏教的な遺物が出土すれば、館跡ではなく中世の寺院となる可能性も残しておきたい。なお上落合七輿遺跡は、自然科学分析によれば、As-B の降下後も引き続き水田が耕作されていたことが指摘されている。

近世の遺構は三ツ木東原Ｃ遺跡で土坑が検出されたほか、中世の堀Ｍ－１も存続していた。近世～近代の土坑（Ｄ -17・27・37 など）はＭ－１の東側に分布している。

引用・参考文献

岩宿博物館・岩宿フォーラム実行委員会 2020『北関東地方の環状ブロック群』予稿集

群馬県藤岡市教育委員会 1995『藤岡北山Ｂ遺跡』

群馬県藤岡市教育委員会 2003『D49 上落合上野遺跡』

群馬県藤岡市教育委員会 2004『上落合岡遺跡』

群馬県藤岡市教育委員会 2008『三ツ木東原遺跡』

群馬県藤岡市教育委員会 2012『白石北原遺跡（旧石器時代編）』

群馬県藤岡市教育委員会 2015『白石北原遺跡（縄文時代編 1）』

群馬県藤岡市教育委員会 2021『F48 三ツ木東原Ｂ遺跡』

群馬県埋蔵文化財調査事業団 1994『白倉下原遺跡・天引向原遺跡Ⅰ－旧石器時代編』

群馬県埋蔵文化財調査事業団 1994『天引狐崎遺跡Ⅰ－旧石器時代編』

狭川真一 2001「古代の墳墓（2）－平安時代前期」『ちくしの散歩』57 号　筑紫野市教育委員会

志村哲 1990『七輿山古墳　範囲確認調査報告書Ⅴ』藤岡市教育委員会

志村哲 1991『七輿山古墳　範囲確認調査報告書Ⅵ』藤岡市教育委員会

志村哲 1992『七輿山古墳　範囲確認調査報告書Ⅶ』藤岡市教育委員会

志村哲・伊藤順一ほか　2018「間仕切り溝のある住居について」『高野冨士山遺跡』有限会社毛野考古学研究所

城倉正祥 2020『群馬県藤岡市七輿山古墳の測量･GPR調査』早稲田大学東アジア都城･シルクロード考古学研究所

徳江秀夫 2010『七輿山古墳』群馬県教育委員会

藤岡市 1993『藤岡市史 資料編 原始・古代・中世』

写　真　図　版

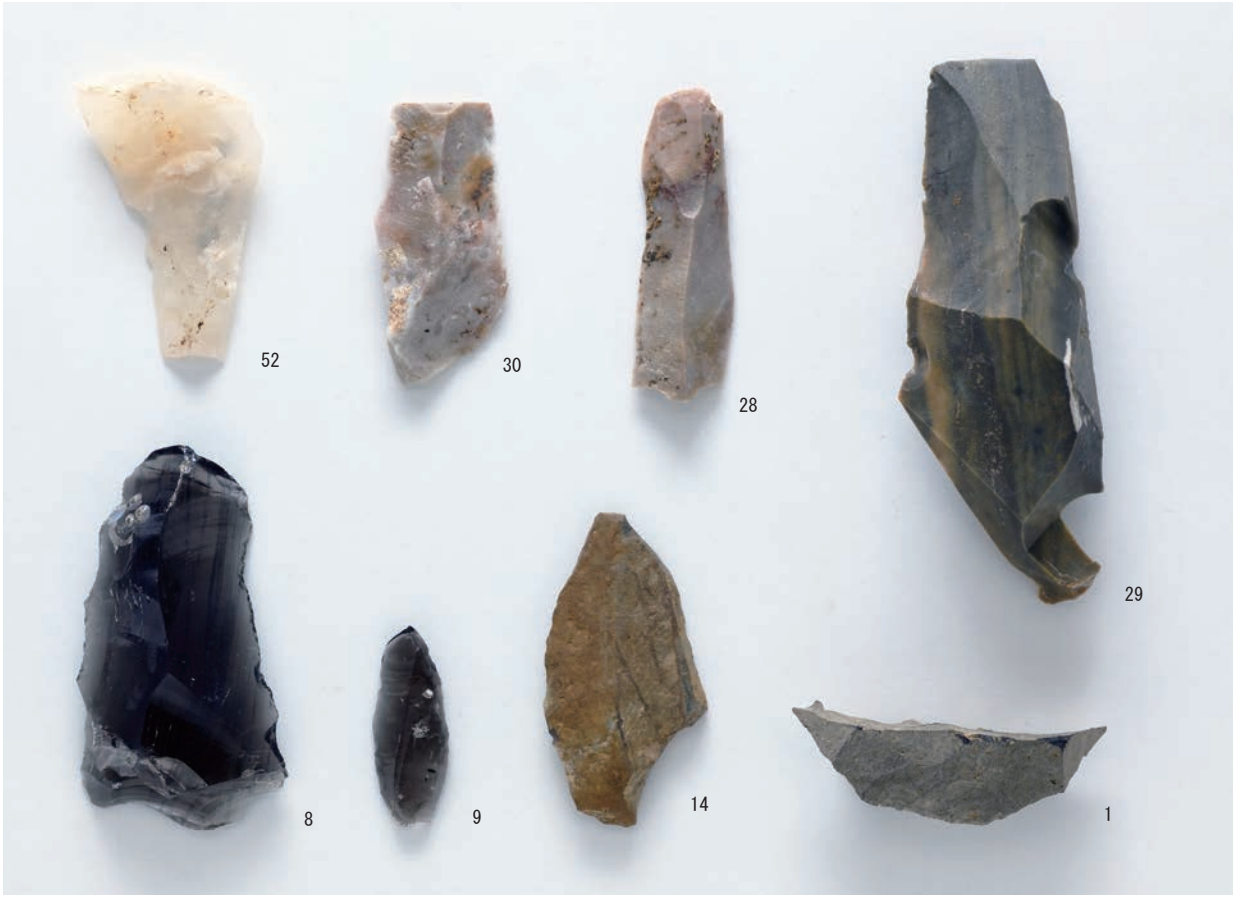
三ツ木東原Ｃ遺跡　遺構写真(PL. 1 ～32)
遺物写真(PL. 45～90)
上落合七輿遺跡　遺構写真(PL. 33～44)
遺物写真(PL. 91～95)

調査区全景（西から、旧石器時代の調査）

調査区遠景（西から、縄文時代以降の調査）

旧石器時代調査区近景（西から、SC-1・2・3）

旧石器時代調査区南壁断面及び石器出土状況（北から、SC-3）



出土石器

出土石器

出土石器

石器接合資料

Ｊ－１号住居跡全景（南東から）

Ｊ－１号住居跡炉跡全景（東から）

Ｊ－３号住居跡全景（東から）

ＳＣ－１石器出土状況（北から）

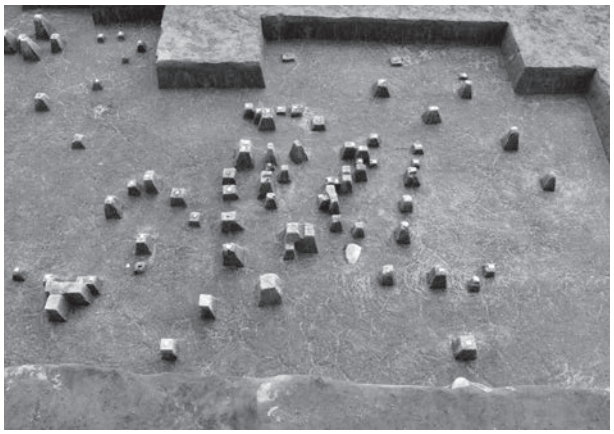
ＳＣ－１北壁断面（南から）

ＳＣ－１石器出土状況（北西から、３ブロック）

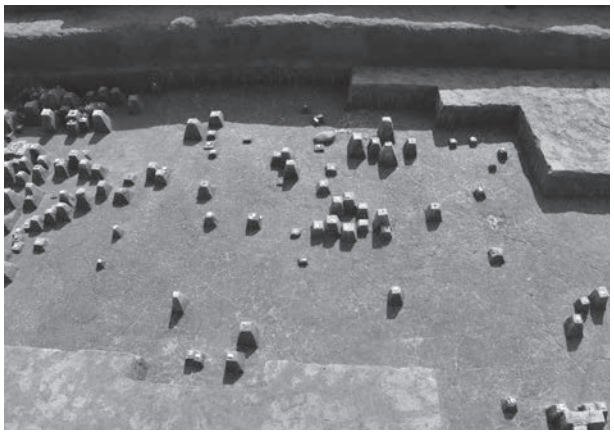
ＳＣ－１石器出土状況（北西から）

ＳＣ－１石器出土状況（北西から）

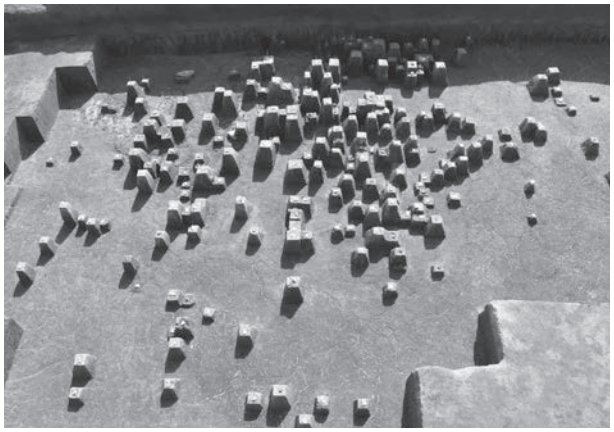
ＳＣ－２石器出土状況（西から）



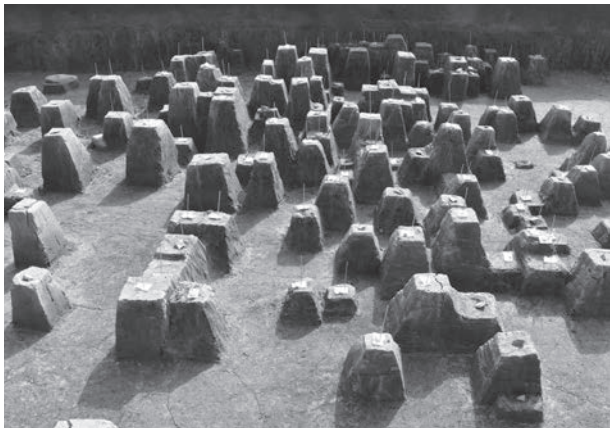
ＳＣ－２石器出土状況（北から、４ブロック）



ＳＣ－２石器出土状況（北から、６ブロック）



ＳＣ－２石器出土状況（北から、７・８ブロック）



ＳＣ－２石器出土状況（北から、７ブロック）

ＳＣ－２石器出土状況（南から、４・５ブロック）

ＳＣ－２炭化物出土状況（東から、５ブロック）

ＳＣ－２台石出土状況（南から、No.357）

ＳＣ－２台石出土状況（東から、４ブロック、No.356）

ＳＣ-２台石出土状況(南東から、６ブロック、No.354･355)

ＳＣ－２台石出土状況（東から、７ブロックNo.360）

ＳＣ－２台石出土状況（西から、７ブロックNo.359）

ＳＣ－２石器出土状況（北西から、５ブロックNo.051）

ＳＣ－３石器出土状況（北から、９ブロック）

ＳＣ－３石器出土状況（北西から、９ブロック）

ＳＣ－３石器出土状況（北から）

ＳＣ－３石器出土状況（北から）

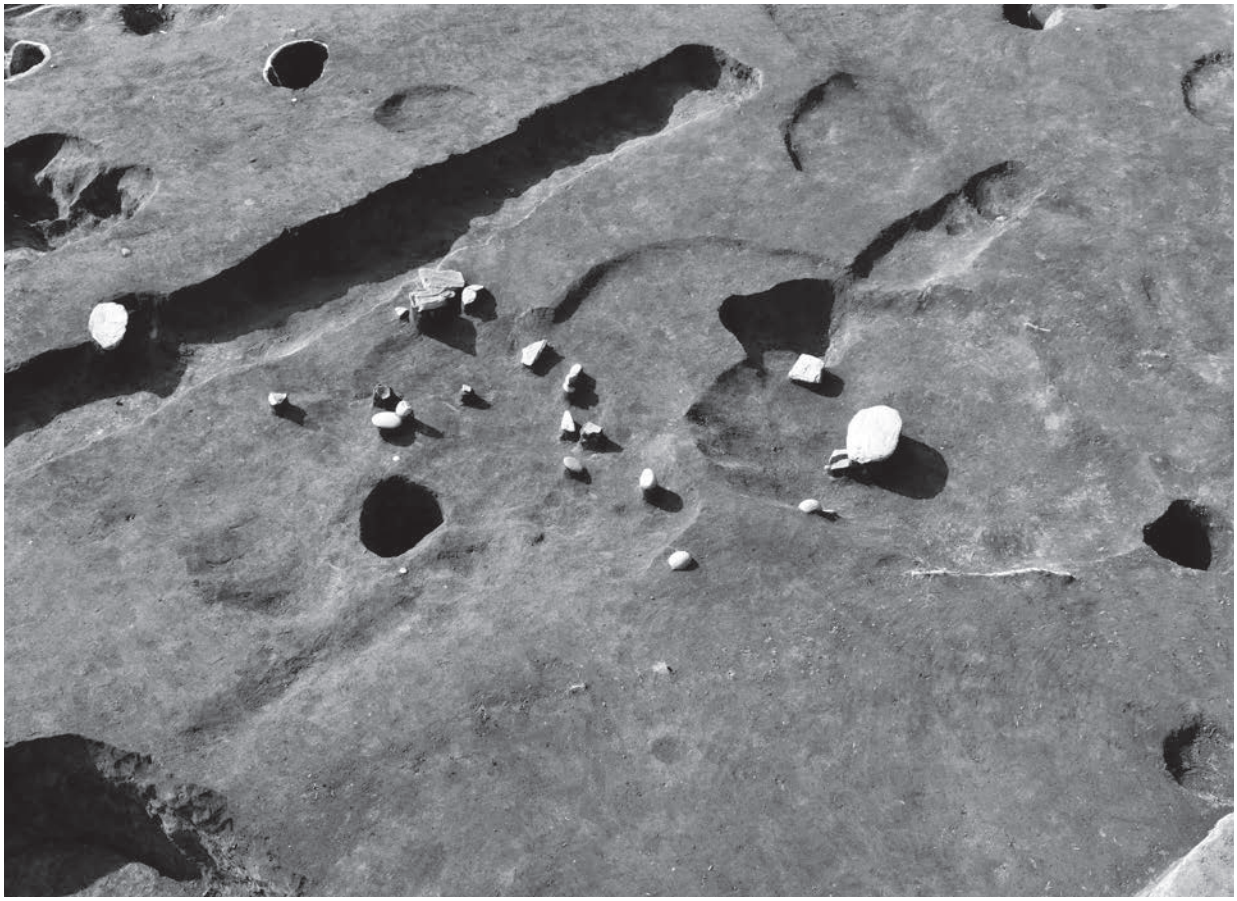
ＳＣ－３石器出土状況（北から）

ＳＣ－４石器出土状況（北から、１ブロック）

２a トレンチ石器出土状況（南から）

Ｊ－１号住居跡全景（西から）

Ｊ－１号住居跡掘り方全景（北から）



Ｊ－２号住居跡全景（北東から）

Ｊ－２号住居跡炉跡検出状況（西から）

Ｊ－３号住居跡全景（北東から）

Ｊ－３号住居跡上層遺物出土状況（北から）

Ｊ－３号住居跡中層遺物出土状況（東から）

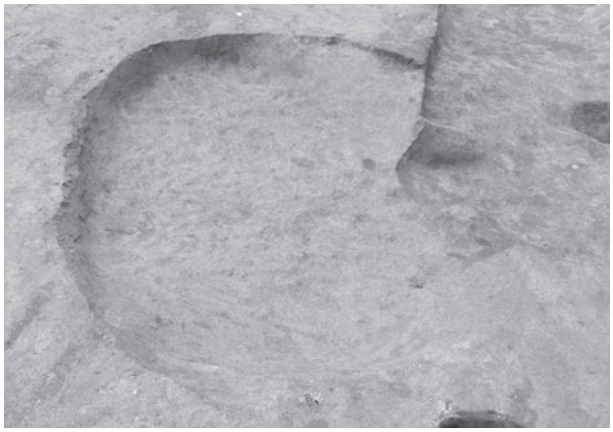
Ｊ－３号住居跡下層遺物出土状況（東から）

Ｊ－３号住居跡掘り方全景（東から）

Ｄ－２号土坑全景（北から）

Ｄ－１６号土坑全景（東から）

Ｄ－４３号土坑全景（南から）

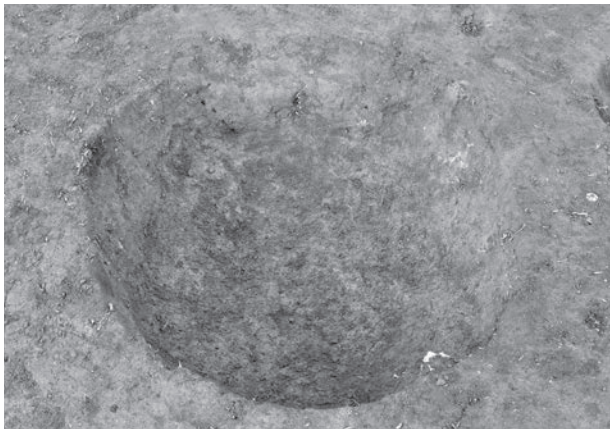

Ｄ－１２号土坑全景（北東から）

Ｄ－１２号土坑遺物出土状況（北西から）

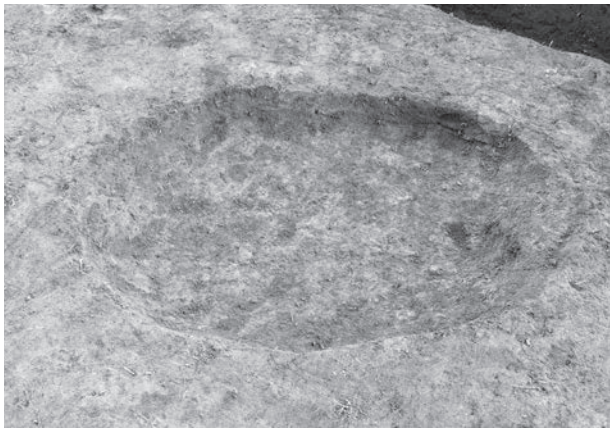
Ｄ－１５ｂ号土坑全景（北西から）

Ｄ－２０号土坑遺物出土状況（西から）

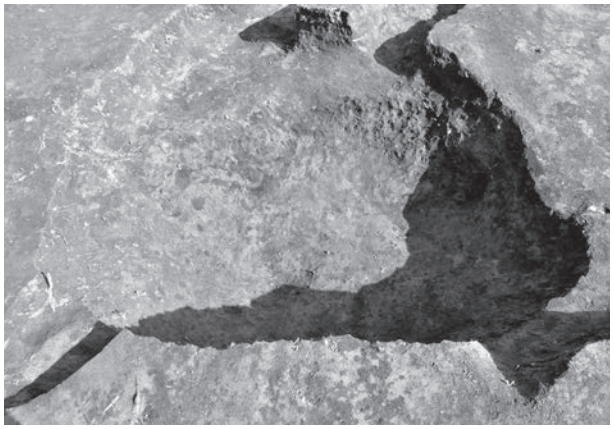
Ｄ－２１号土坑遺物出土状況（東から）


Ｄ－２２号土坑全景（南から）

Ｄ－２２号土坑遺物出土状況（東から）

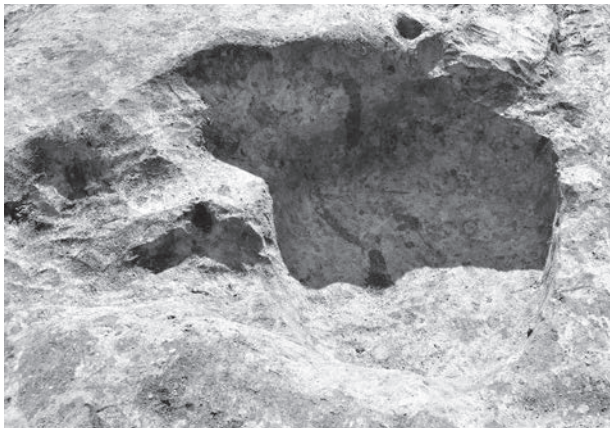

Ｄ－２３号土坑全景（北西から）

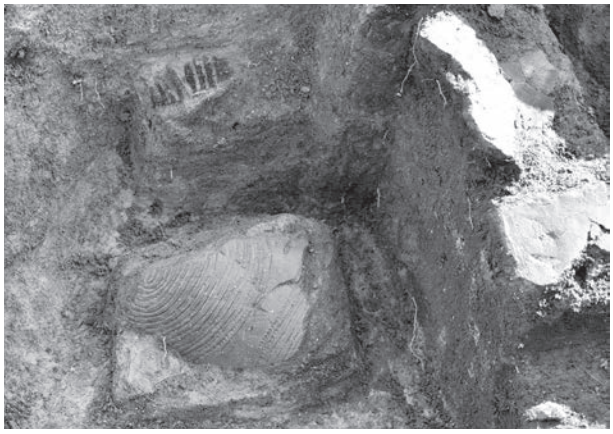
Ｄ－２３号土坑遺物出土状況（北西から）


Ｄ－５２号土坑全景（西から）

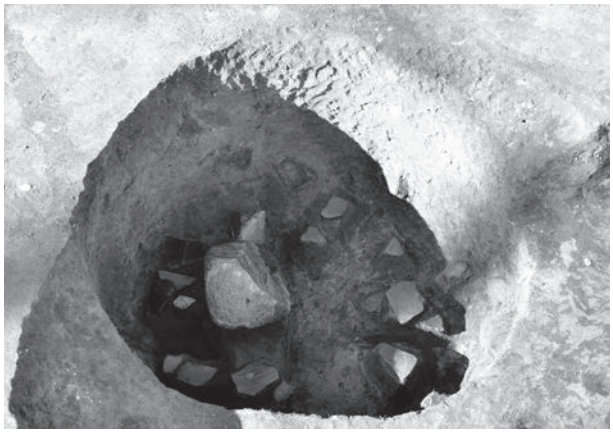
Ｄ－５４号土坑全景（東から）

Ｄ－５６号土坑遺物出土状況（西から）


Ｄ－６４号土坑全景（北から）



Ｄ－６４号土坑遺物出土状況（北から）



Ｄ－６９号土坑遺物出土状況（東から）

Ｄ－８６号土坑全景（南から）

Ｄ－８８号土坑全景（南東から）

Ｄ－８６号土坑遺物出土状況（南から）

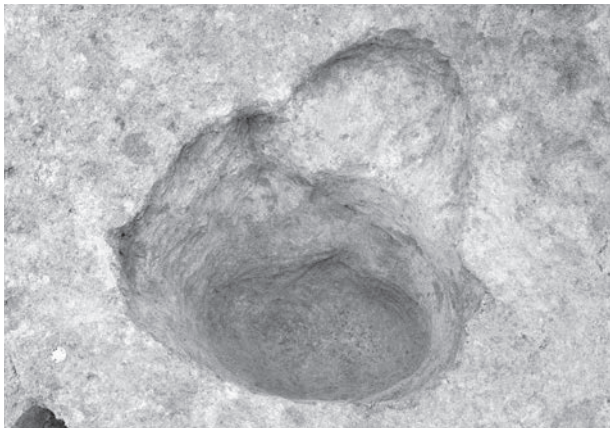
Ｈ－１号住居跡全景（北西から）

Ｈ－３号住居跡全景（西から）

Ｈ－３号住居跡遺物出土状況（西から）

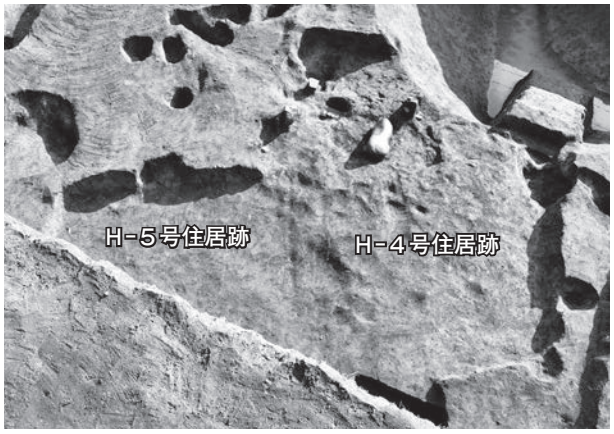
Ｈ－３号住居跡カマド遺物出土状況（西から）

Ｈ－３号住居跡旧カマド遺物出土状況（東から）



Ｈ－３号住居跡貯蔵穴全景（西から）

Ｈ－３号住居跡掘り方全景（西から）



Ｈ－５号住居跡全景（北から）

Ｈ－６号住居跡全景（北から）

Ｈ－６号住居跡遺物出土状況（北西から）

Ｈ－７号住居跡遺物出土状況（南東から）

Ｈ－７号住居跡遺物出土状況（北から）

Ｈ－８号住居跡全景（西から）

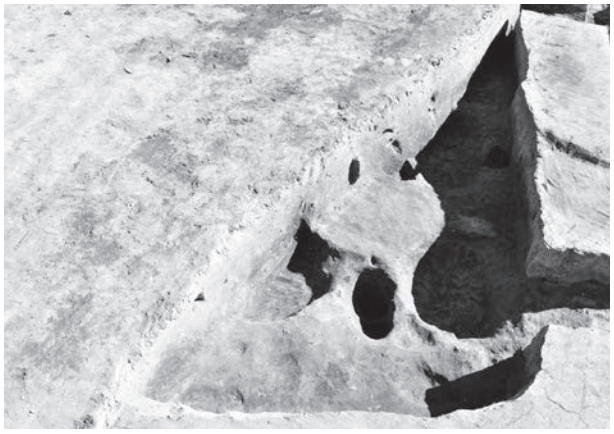
Ｈ－８号住居跡カマド全景（西から）

Ｈ－８ｂ号住居跡全景（西から）

Ｈ－８号住居跡Ｄ－２・３全景（南から）

Ｈ－８号住居跡掘り方全景（西から）

Ｈ－９号住居跡遺物出土状況（北から）

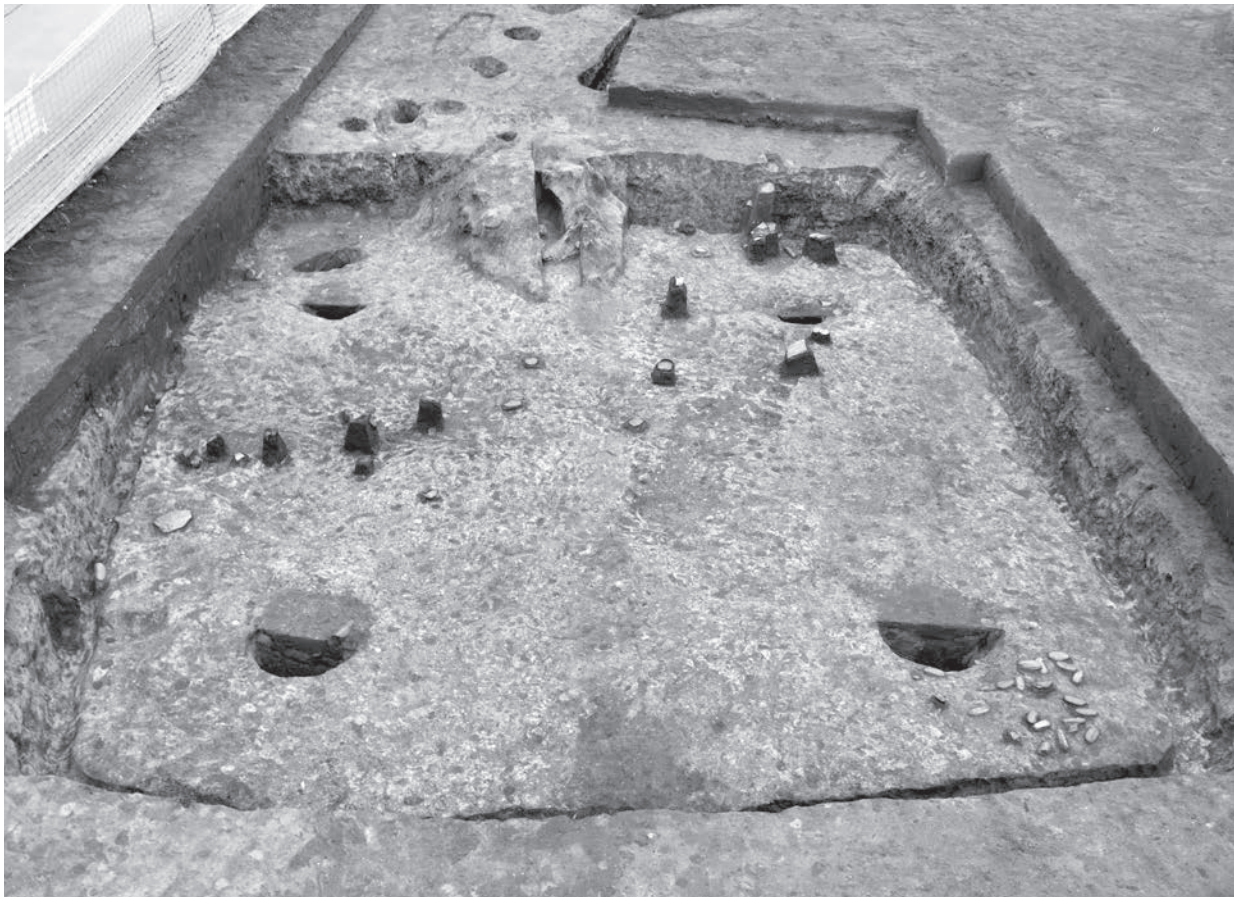


Ｈ－９号住居跡掘り方全景（西から）

Ｈ－１０号住居跡遺物出土状況（北西から）

Ｈ－１１号住居跡全景（南東から）

Ｈ－１２号住居跡全景（南東から）



Ｈ－１２号住居跡遺物出土状況（南から）

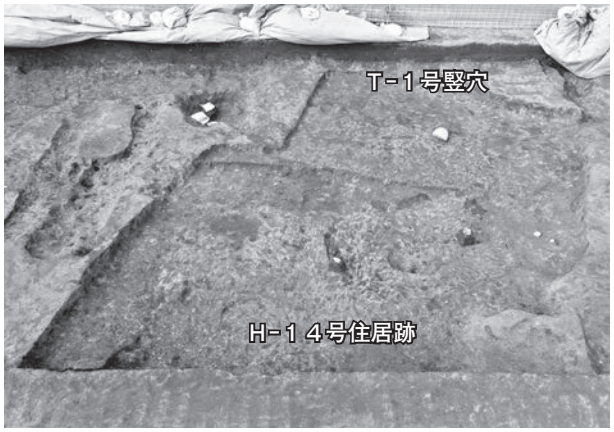
Ｈ－１２号住居跡カマド遺物出土状況（南から）

Ｈ－１２号住居跡掘り方全景（南から）

Ｈ－１２号住居跡遺物出土状況（北西から）

Ｈ－１２号住居跡カマド全景（南から）

Ｈ－１２号住居跡Ｐ－５遺物出土状況（南から）



Ｈ－１４号住居跡全景（東から）

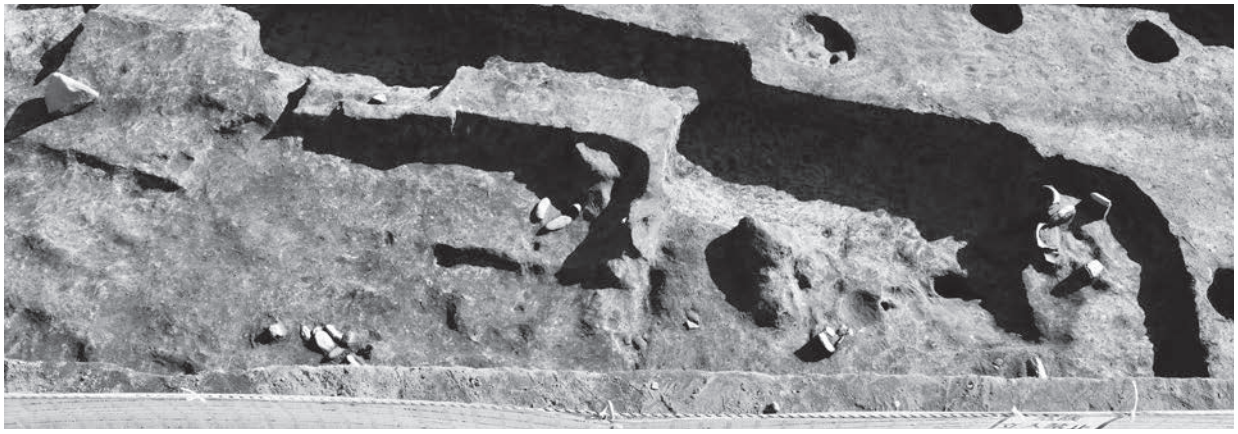
Ｈ－１３号住居跡全景（東から）

Ｈ－１４号住居跡遺物出土状況（南から）

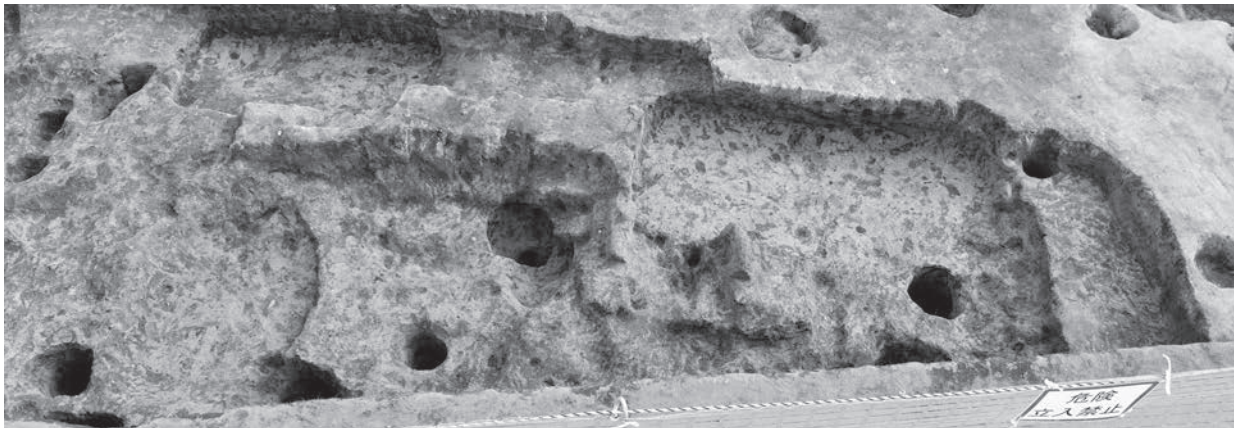
Ｈ－１５号住居跡Ｐ－２根石出土状況（北から）

Ｈ－１５号住居跡掘り方全景（北から）

Ｈ－１５号住居跡遺物出土状況（東から）



Ｈ－１６号住居跡全景（西から）

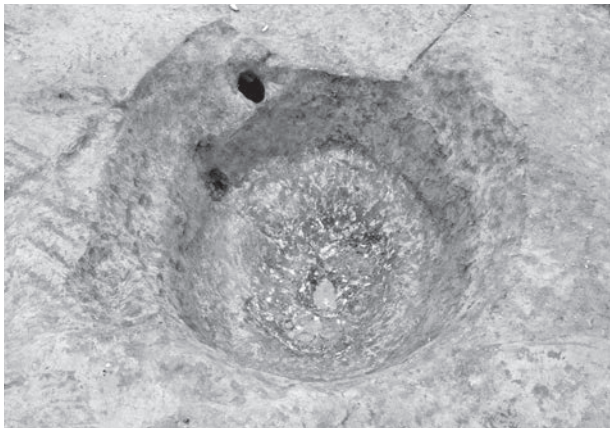


Ｈ－１６号住居跡掘り方全景（西から）

Ｈ－１６号住居跡掘り方遺物出土状況（南東から）

Ｈ－１９号住居跡全景（北から）

Ｄ－６号土坑土層断面（南から）



Ｄ－６号土坑全景（北から）

Ｈ－２号住居跡全景（北から）

Ｈ－４号住居跡全景（北から）

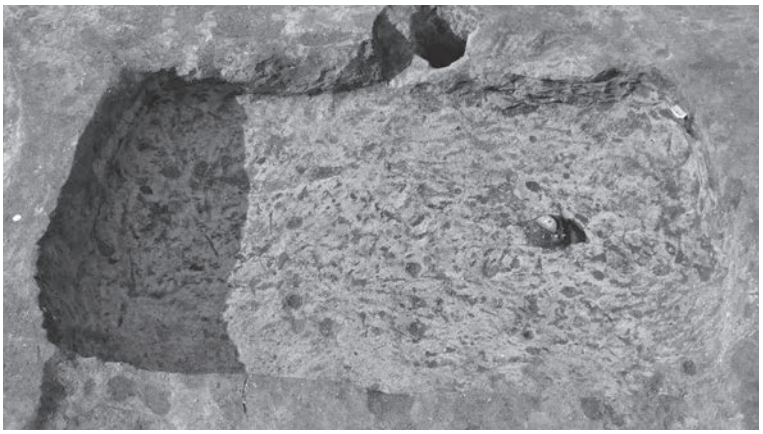
Ｈ－４号住居跡遺物出土状況（西から）

Ｈ－４号住居跡炉跡全景（北から）

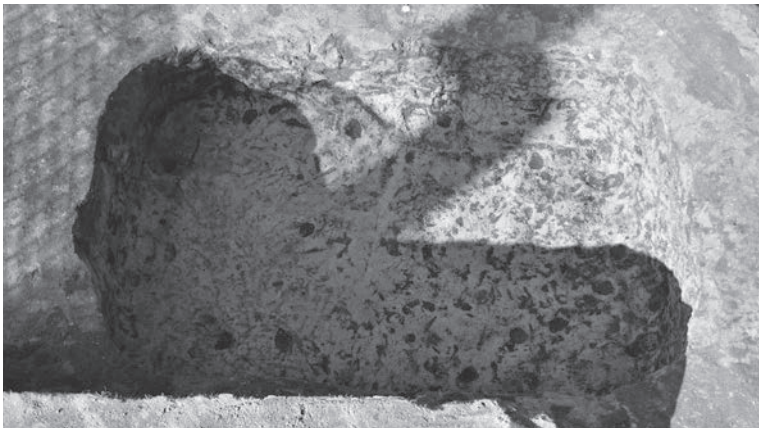
土坑列全景（空撮、上が北）

土坑列Ｄ－５８号土坑全景（東から）

土坑列Ｄ－５９号土坑全景（東から）

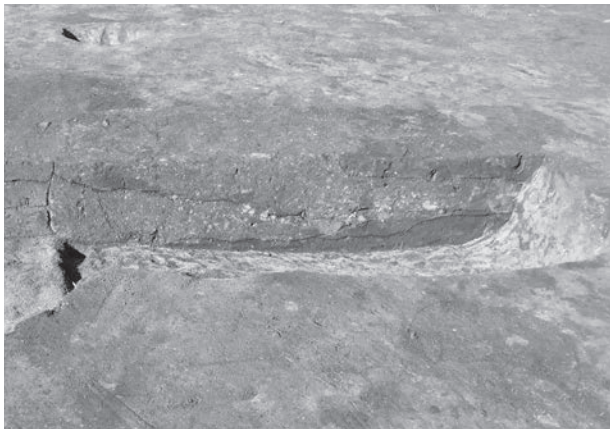


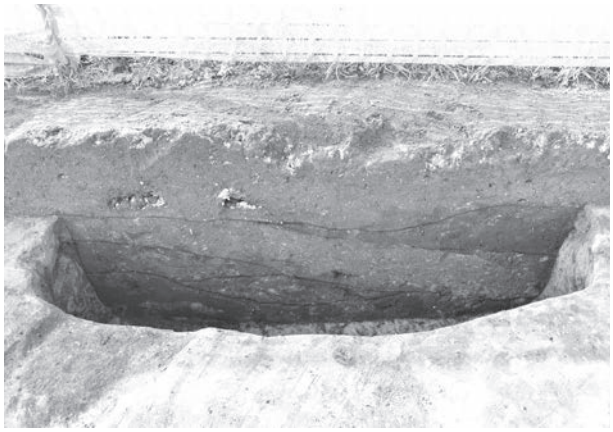
土坑列Ｄ－６５号土坑全景（東から）



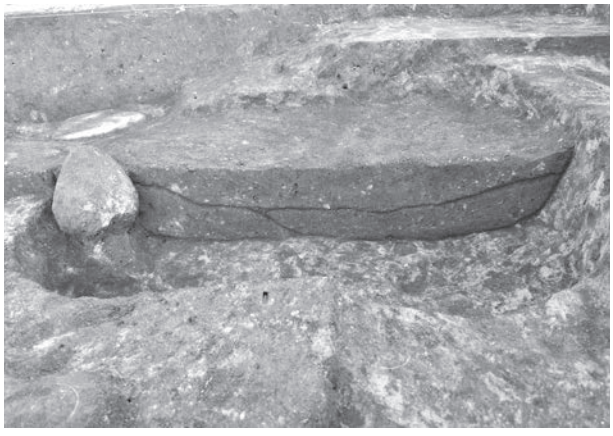
土坑列Ｄ－６７号土坑全景（東から）

土坑列全景（北から）


土坑列Ｄ－６０号土坑土層断面（東から）


土坑列Ｄ－６３号土坑土層断面（東から）

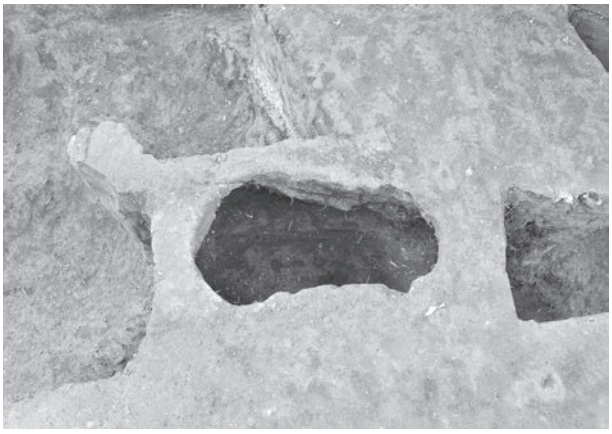
土坑列Ｄ－６７号土坑土層断面（南から）


土坑列Ｄ－７３号土坑土層断面（南から）

ＳＵ－１号隧道状遺構全景（東から）

ＳＵ－１号隧道状遺構全景（北から）

ＳＵ－１号隧道状遺構近景（西から）


ＳＵ－１号隧道状遺構出入り口（北から）

ＳＵ－１号隧道状遺構土層断面（北から）

ＳＵ－１号隧道状遺構土層断面（北から）

埋没谷及びＳＵ－１号隧道状遺構全景（北東から）

Ｍ－１号溝全景（東から）

Ｍ－１号溝全景（西から）

Ｍ－１号溝土層断面（北から）

Ｍ－１号溝土層断面（東から）

調査区全景（南西から）

１・２区全景（北から）

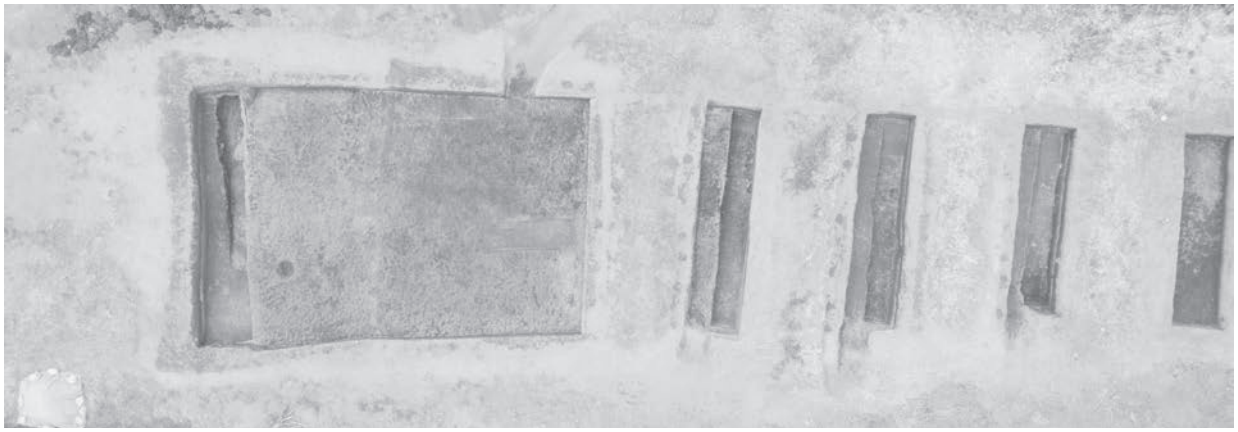
１・２区遠景（南から）

１区南側全景（北から）

１区南側遠景（北東から）

１区南側遠景（西から）

１区北側～２区南側全景（東から）



１区北側水田跡全景（東から）

２区全景（東から）

２区南側全景（東から）

２・３区遠景（西から）

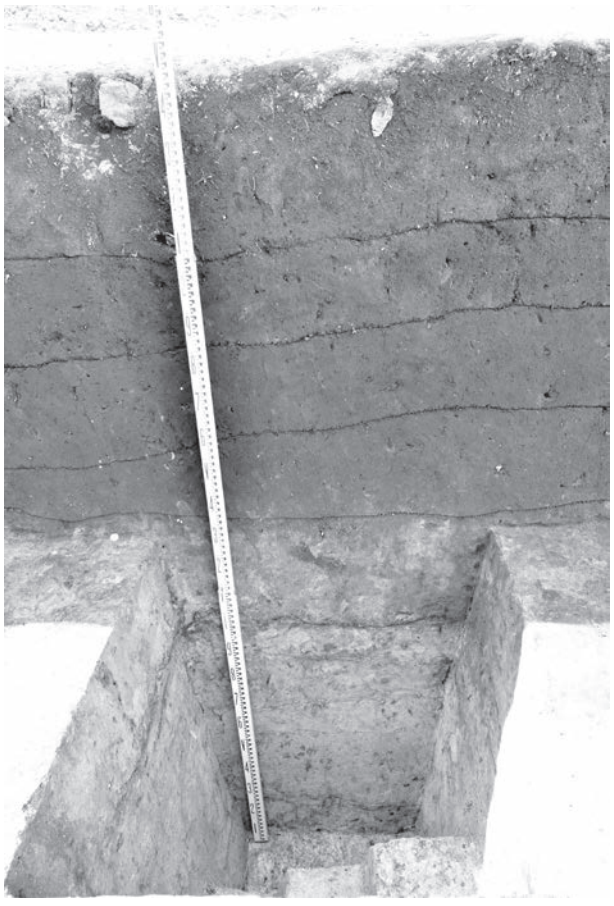
２区北側～３区全景（南東から）

３区北側全景（西から）

１区６号トレンチ全景（南西から）

１区１０号トレンチ全景（南西から）

１区１１号トレンチ遺物出土状況（北から）

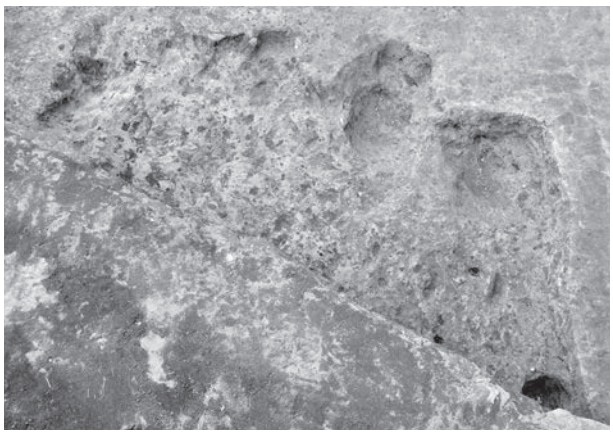


１区５号トレンチ断面（東から）

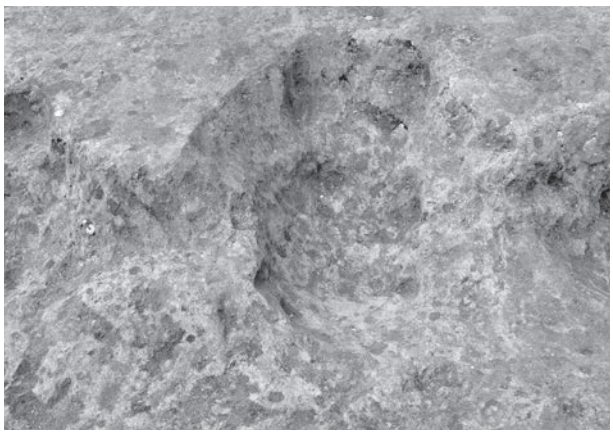
２区１８号トレンチ断面（東から）

Ｈ－１号住居跡全景（西から）

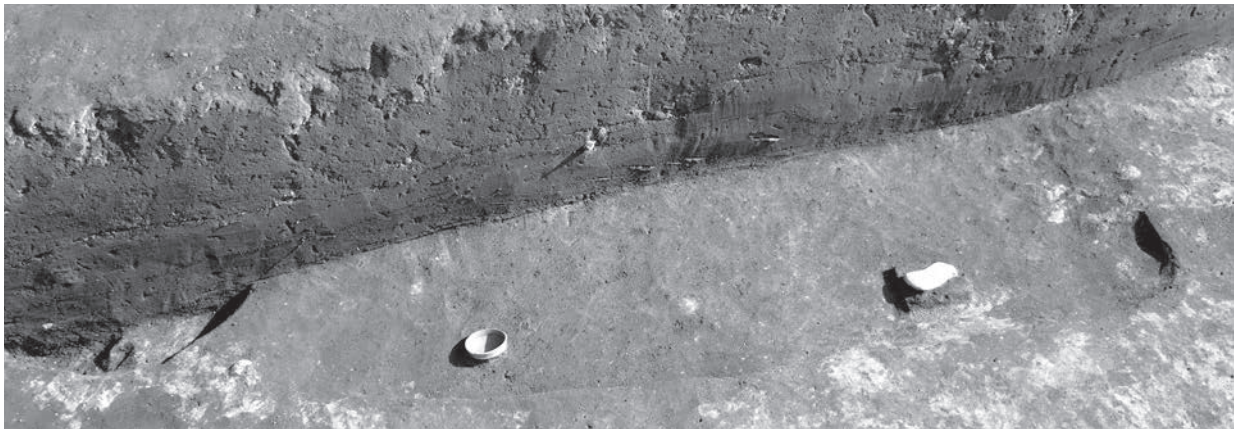
Ｈ－１号住居跡カマド遺物出土状況（西から）



Ｈ－１号住居跡掘り方全景（西から）



Ｈ－１号住居跡カマド掘り方全景（西から）



Ｈ－２号住居跡遺物出土状況（西から）

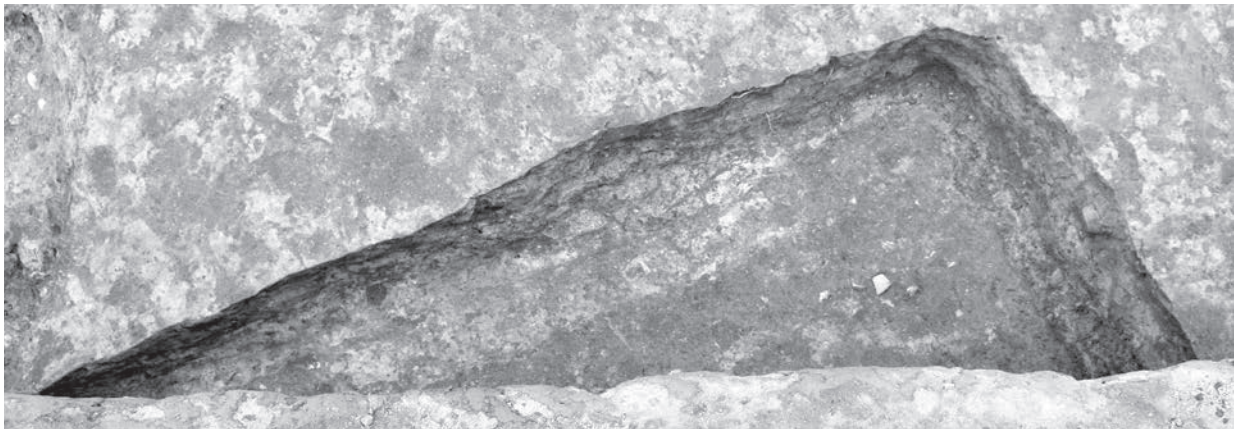
Ｈ－２号住居跡掘り方全景（西から）

Ｍ－１号溝全景（南西から）

Ｍ－１号溝全景（北西から）

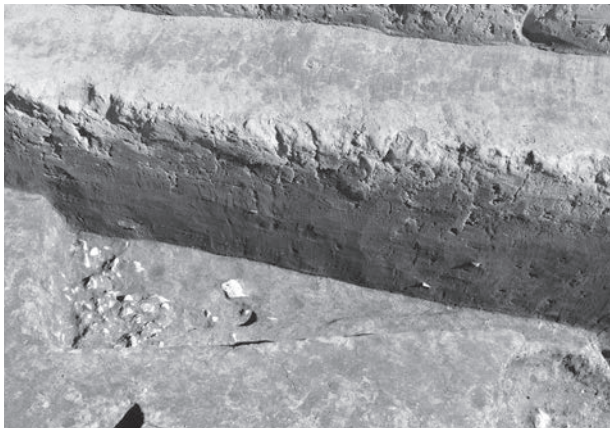
Ｍ－１号溝断面（東から）

Ｍ－１号溝断面（西から）



Ｈ－３号住居跡全景（東から）

Ｈ－３号住居跡断面（北西から）

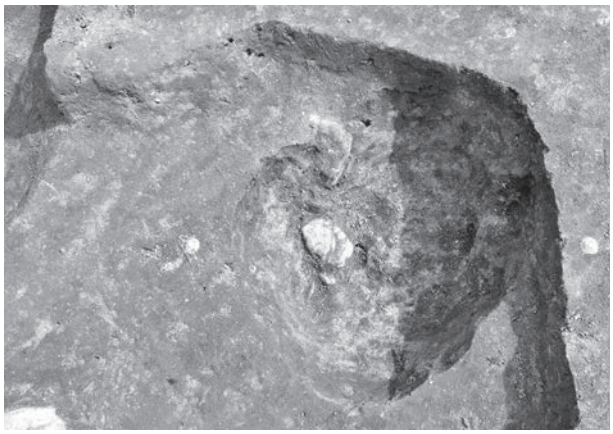


Ｈ－３号住居跡掘り方全景（西から）

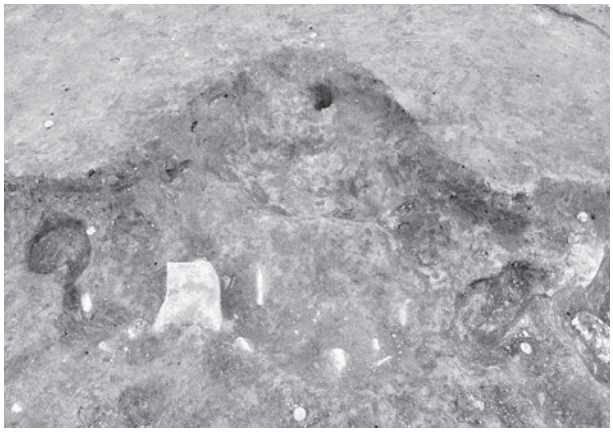
Ｈ－４号住居跡遺物出土状況（西から）

Ｈ－４号住居跡全景（西から）

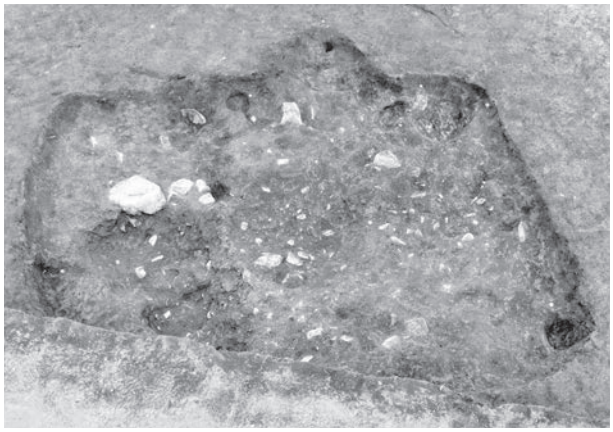
Ｈ－４号住居跡カマド全景（西から）



Ｈ－４号住居跡貯蔵穴全景（西から）



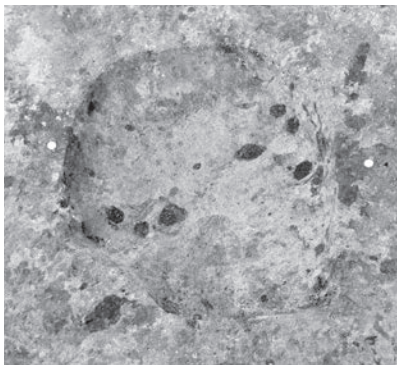
Ｈ－４号住居跡カマド掘り方全景（西から）



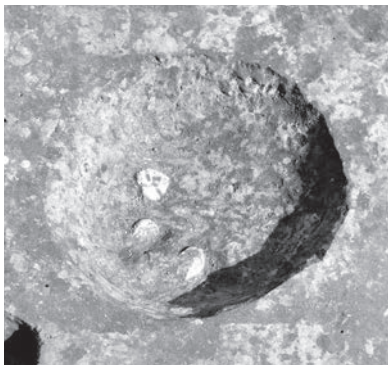
Ｈ－４号住居跡掘り方全景（西から）

１区水田跡全景（南東から）

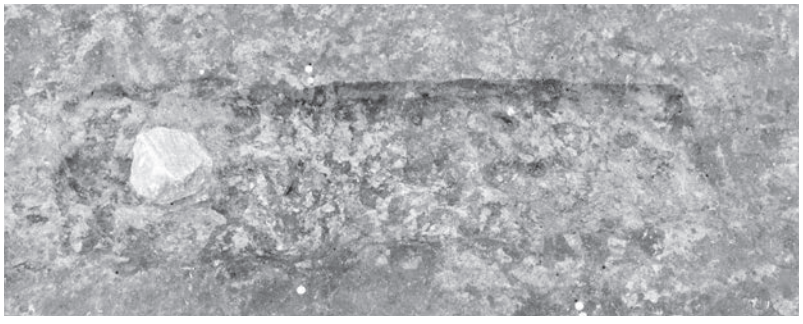
１区水田跡断面（南から）



Ｄ－２号土坑全景（西から）



Ｄ－６号土坑全景（南から）

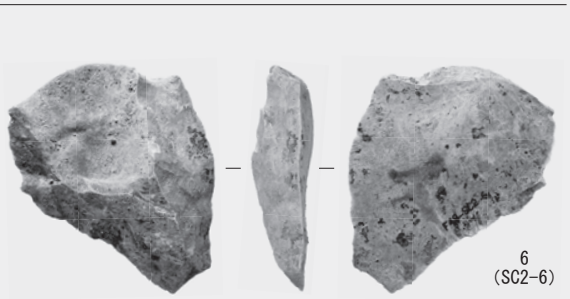


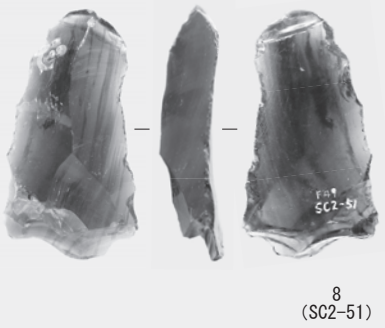
Ｄ－７号土坑全景（東から）

１区ピット列全景（北西から）

１ブロック

３ブロック

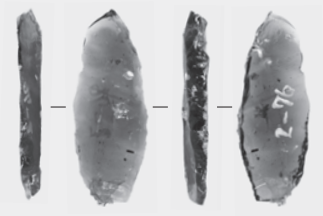




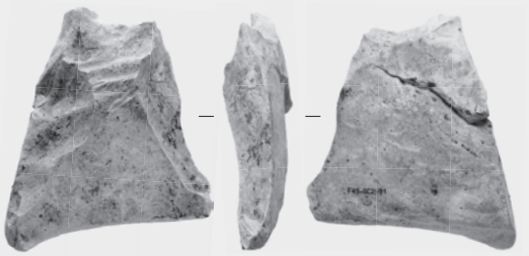
５ブロック

４ブロック

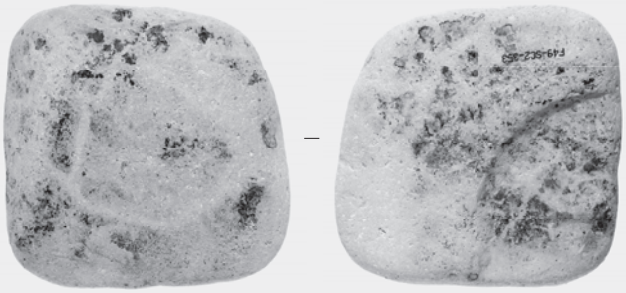
１・３・４・５ブロック出土石器



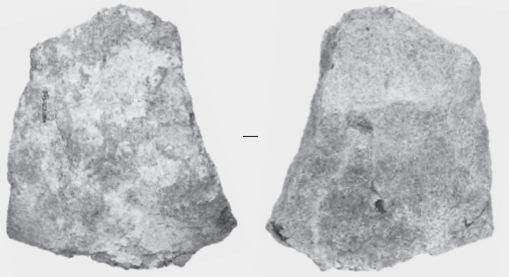
9
(SC2-76)



10
(SC2-91)



11
(SC2-353)

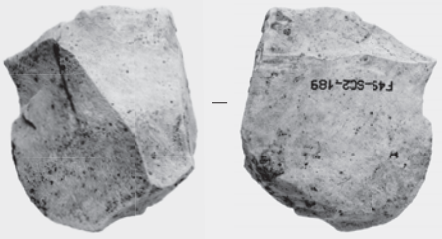


12
(SC2-354)

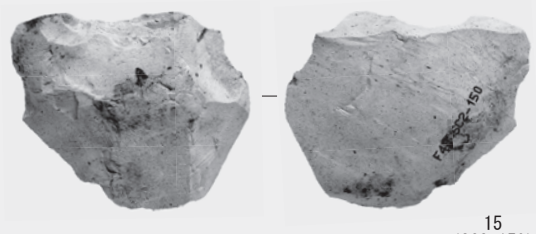
13
(SC2-355)

6ブロック

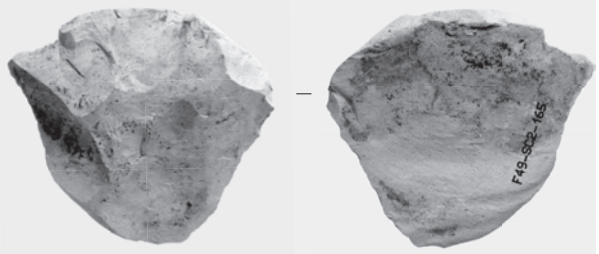
14
(SC2-262)



17
(SC2-189)



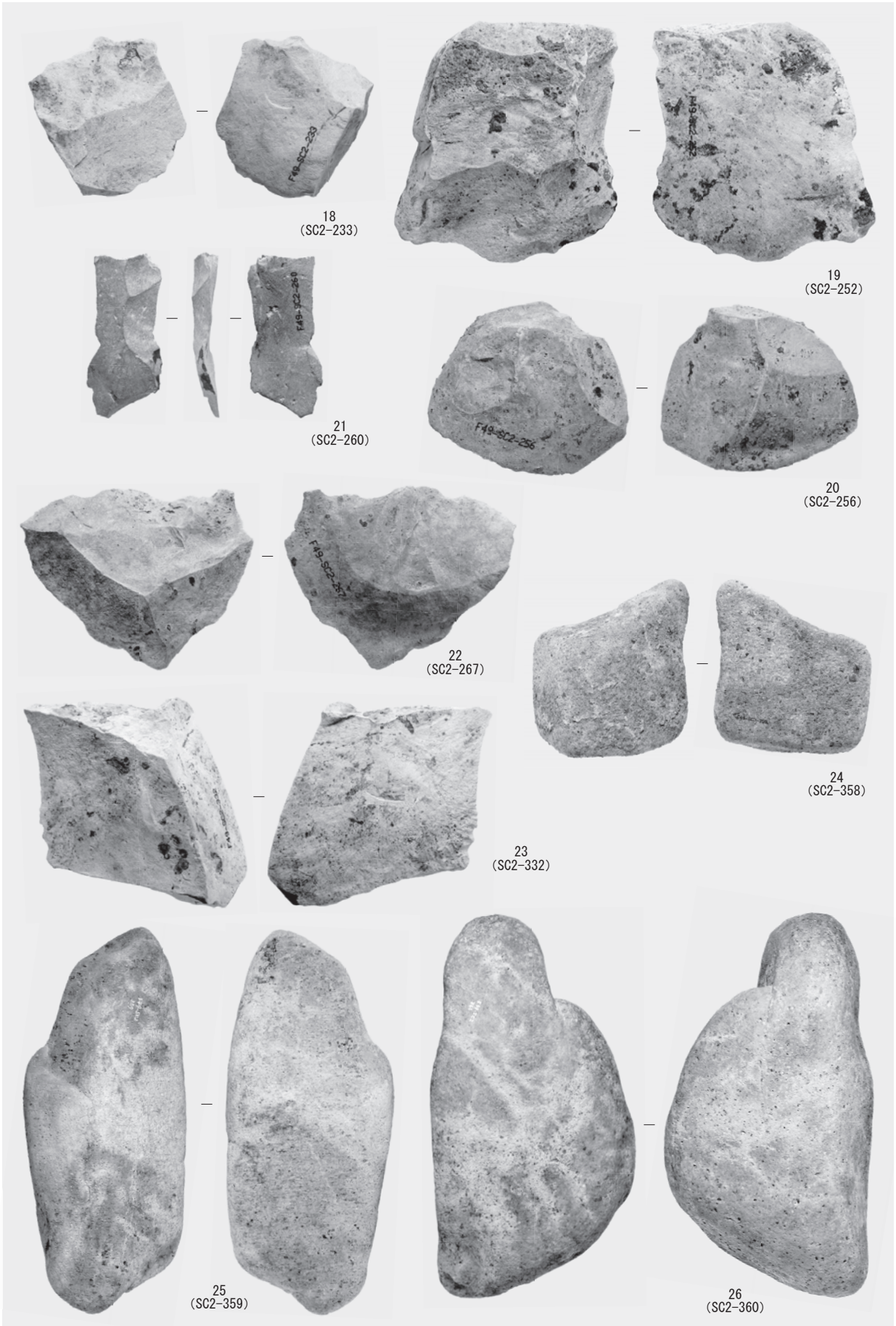
15
(SC2-150)



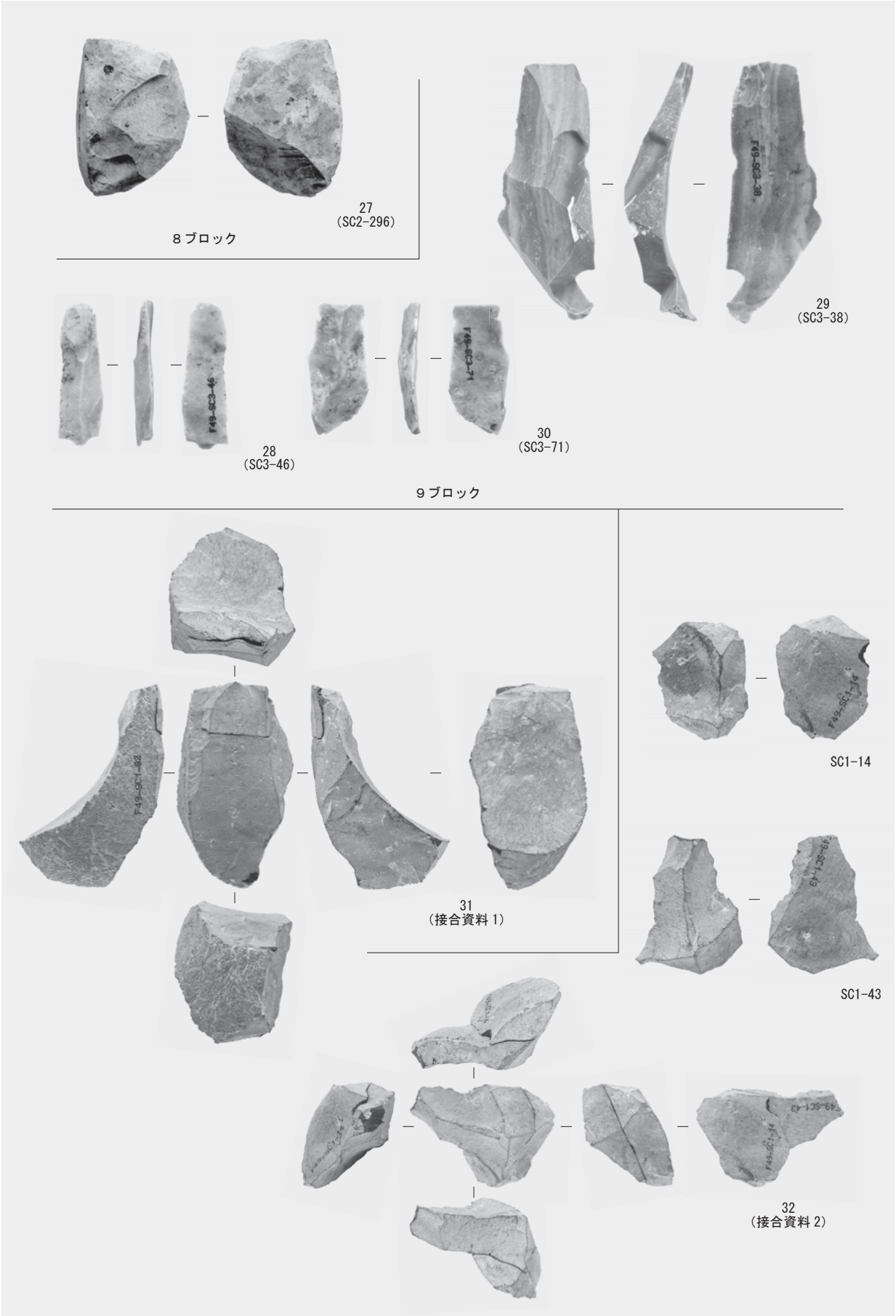
16
(SC2-165)

7ブロック

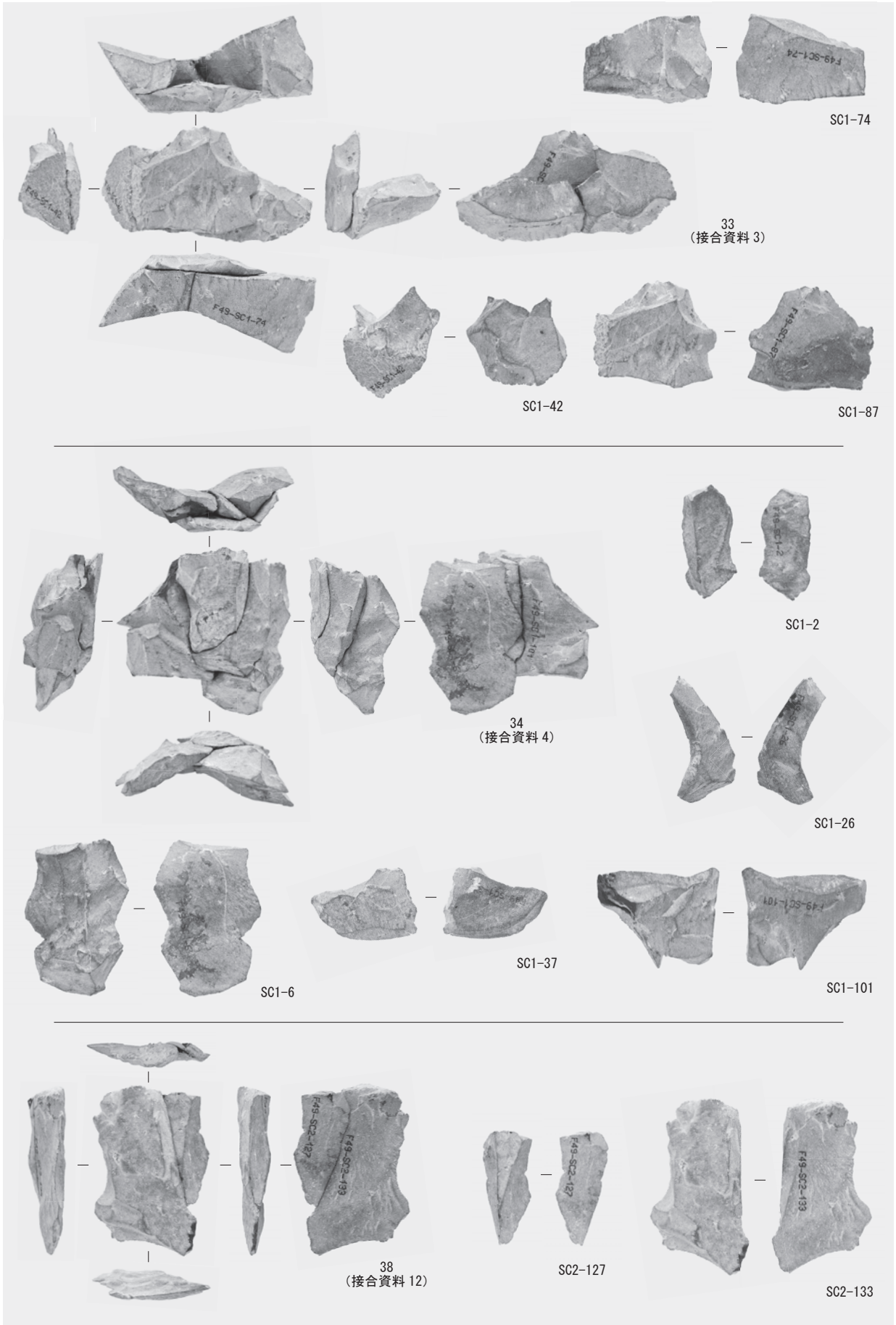
６・７ブロック出土石器


F49-SC2-233
18
(SC2-233)
19
(SC2-252)
F49-SC2-260
21
(SC2-260)
F49-SC2-256
20
(SC2-256)
F49-SC2-267
22
(SC2-267)
24
(SC2-358)
23
(SC2-332)
25
(SC2-359)
26
(SC2-360)

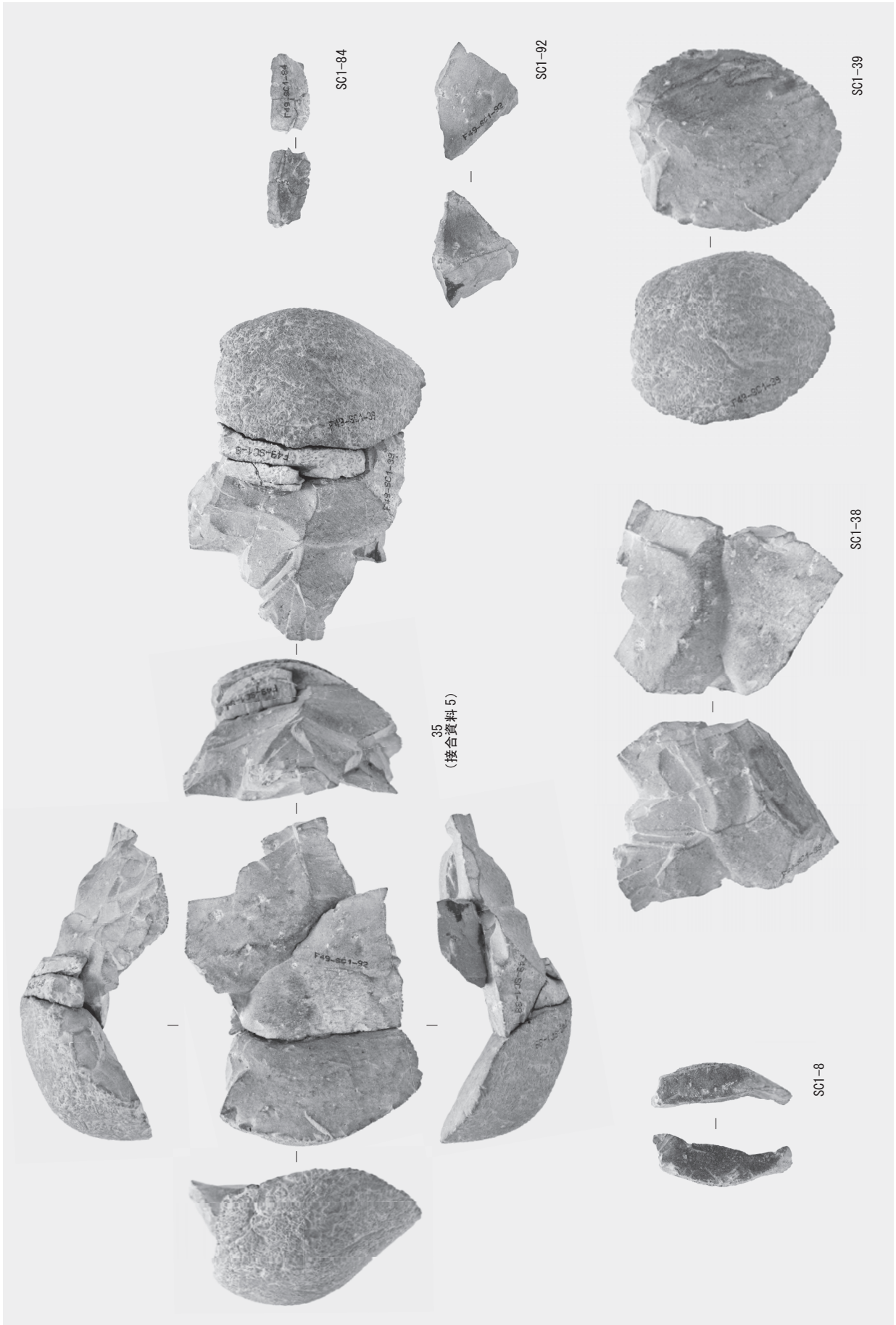
７ブロック出土石器



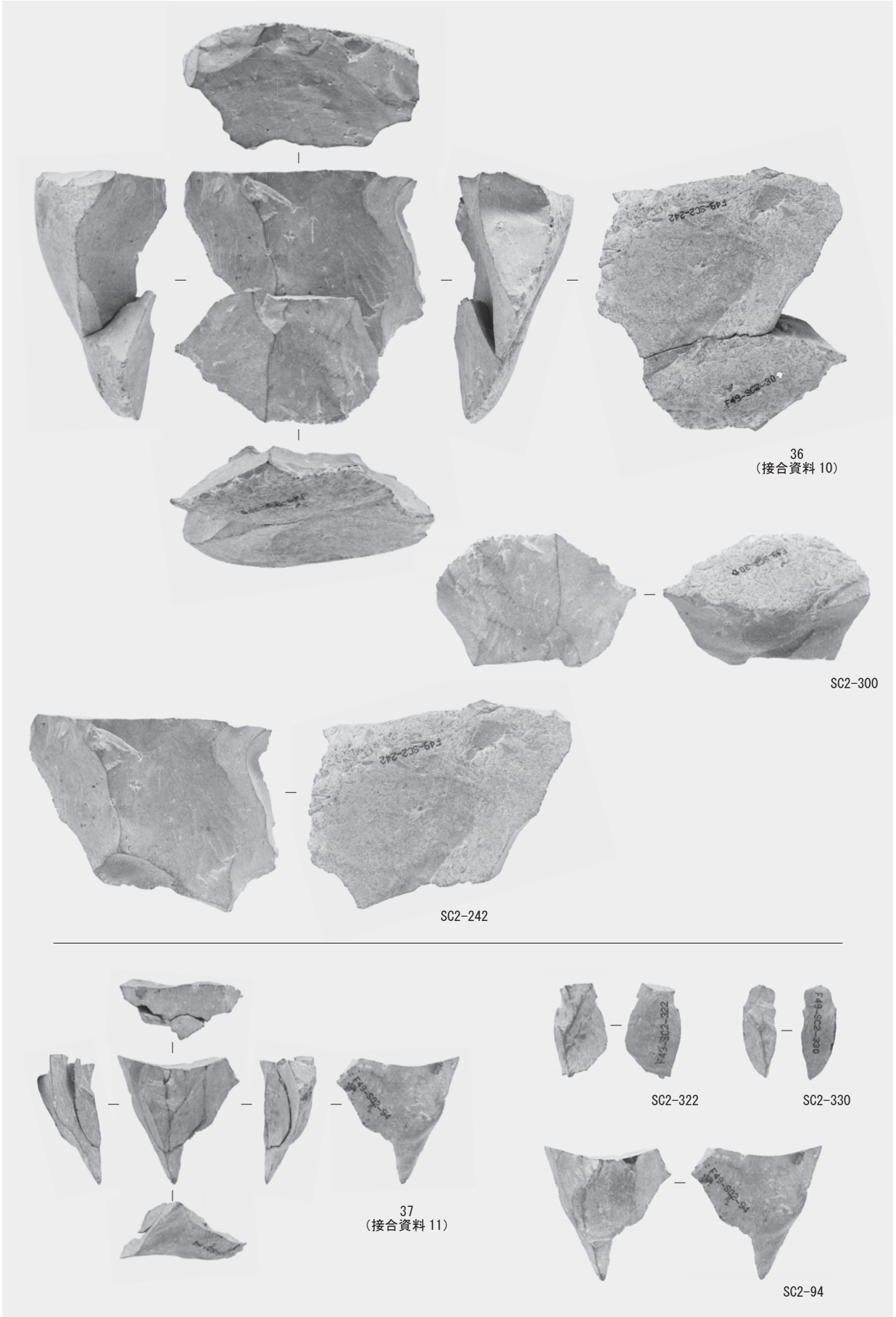
８・９ブロック出土石器、接合資料１・２


SC1-74
33
（接合資料 3）
SC1-42
SC1-87
SC1-2
34
（接合資料 4）
SC1-26
SC1-6
SC1-37
SC1-101
38
（接合資料 12）
SC2-127
SC2-133

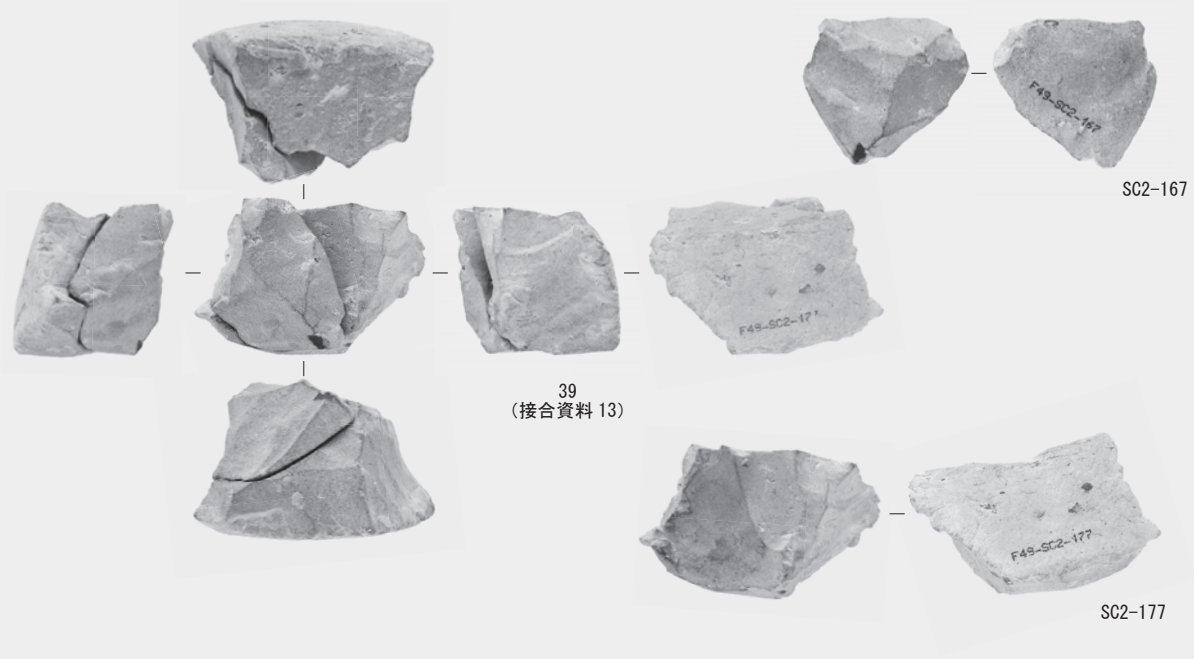
接合資料 3・4・12



接合資料 5



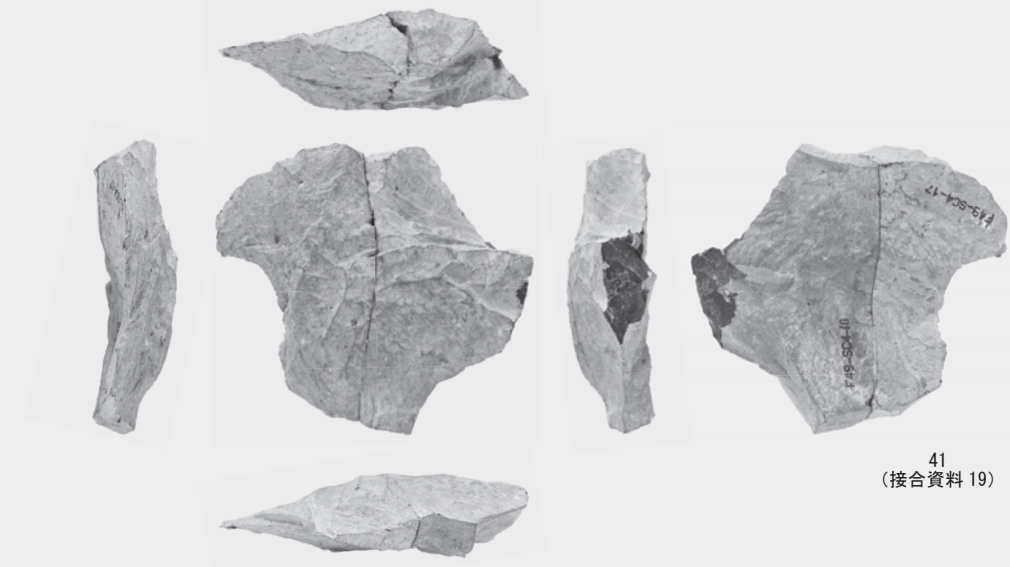
接合資料 10・11



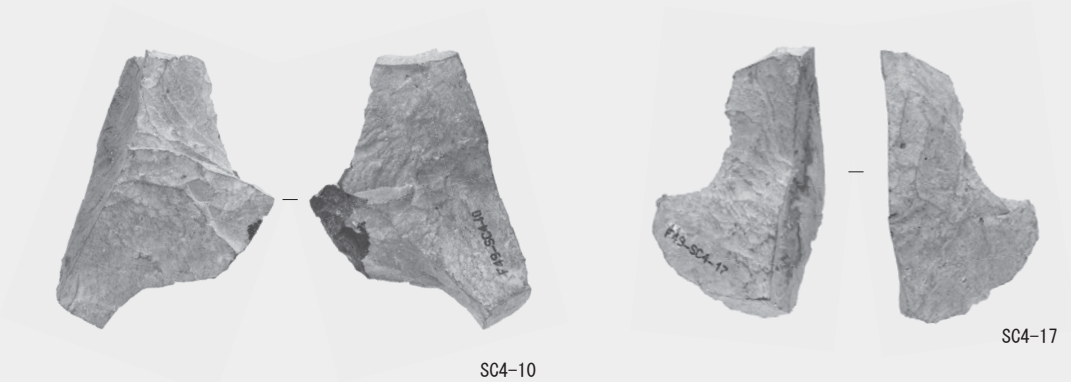
SC2-167

39
（接合資料 13）

SC2-177



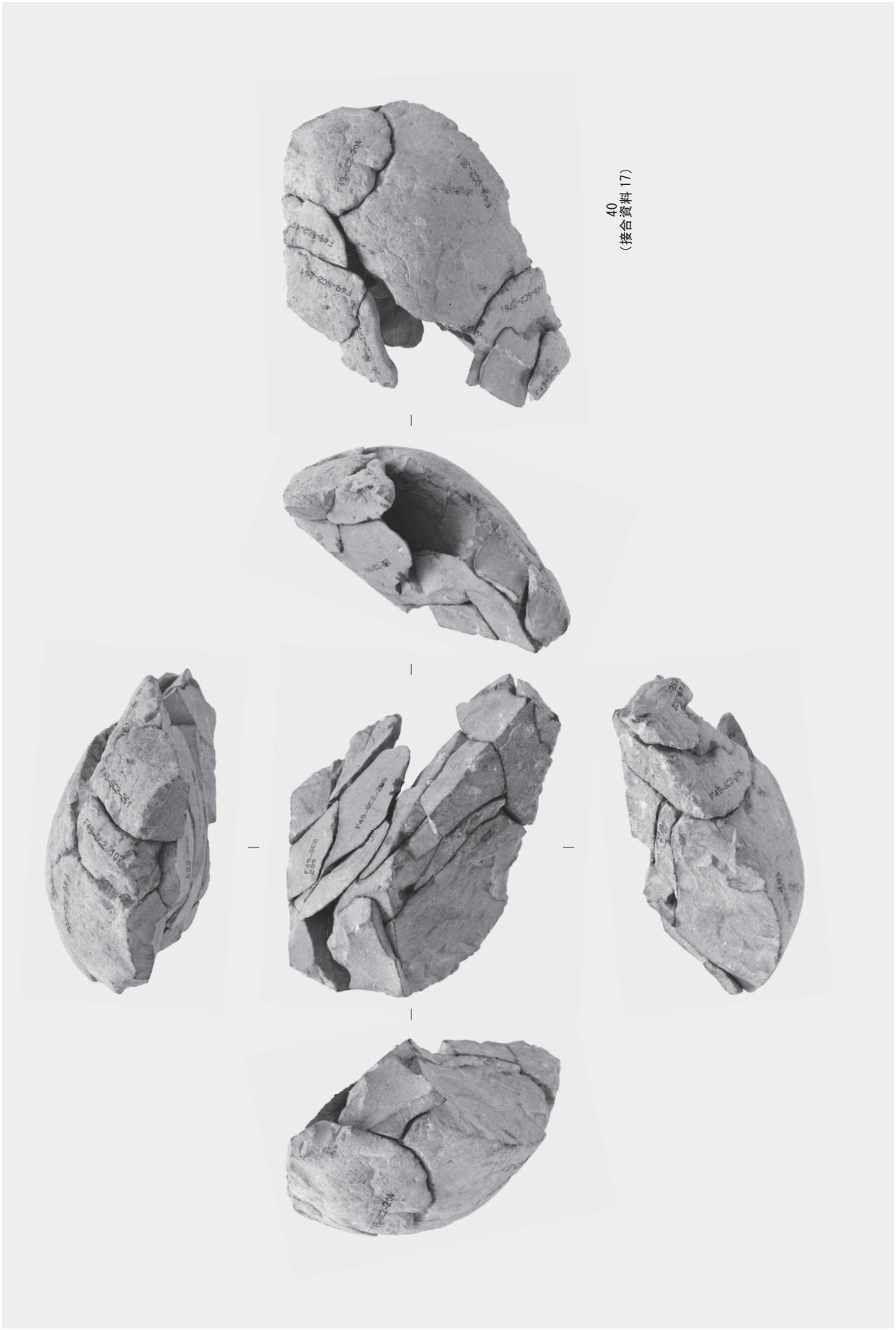
41
（接合資料 19）



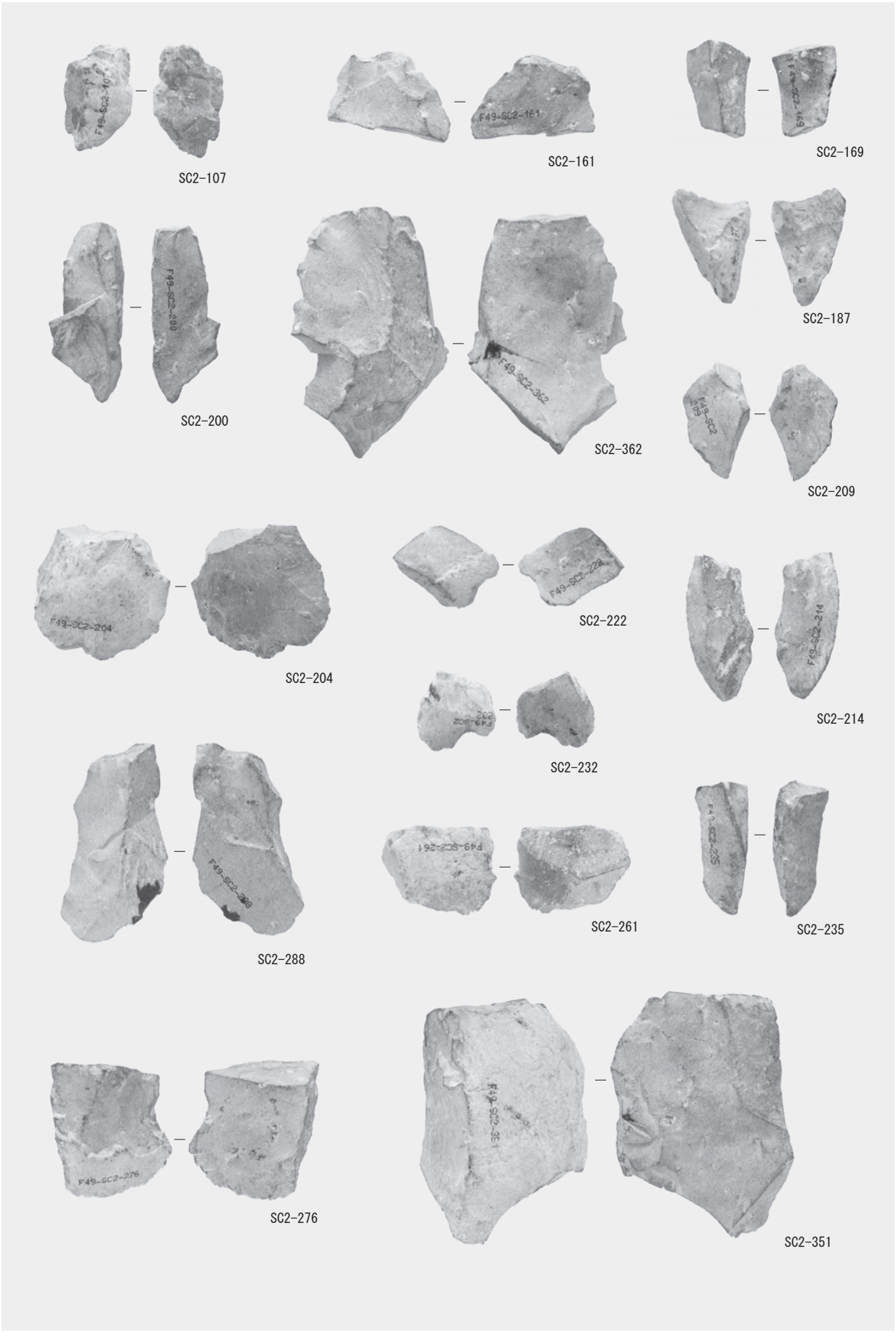
SC4-10

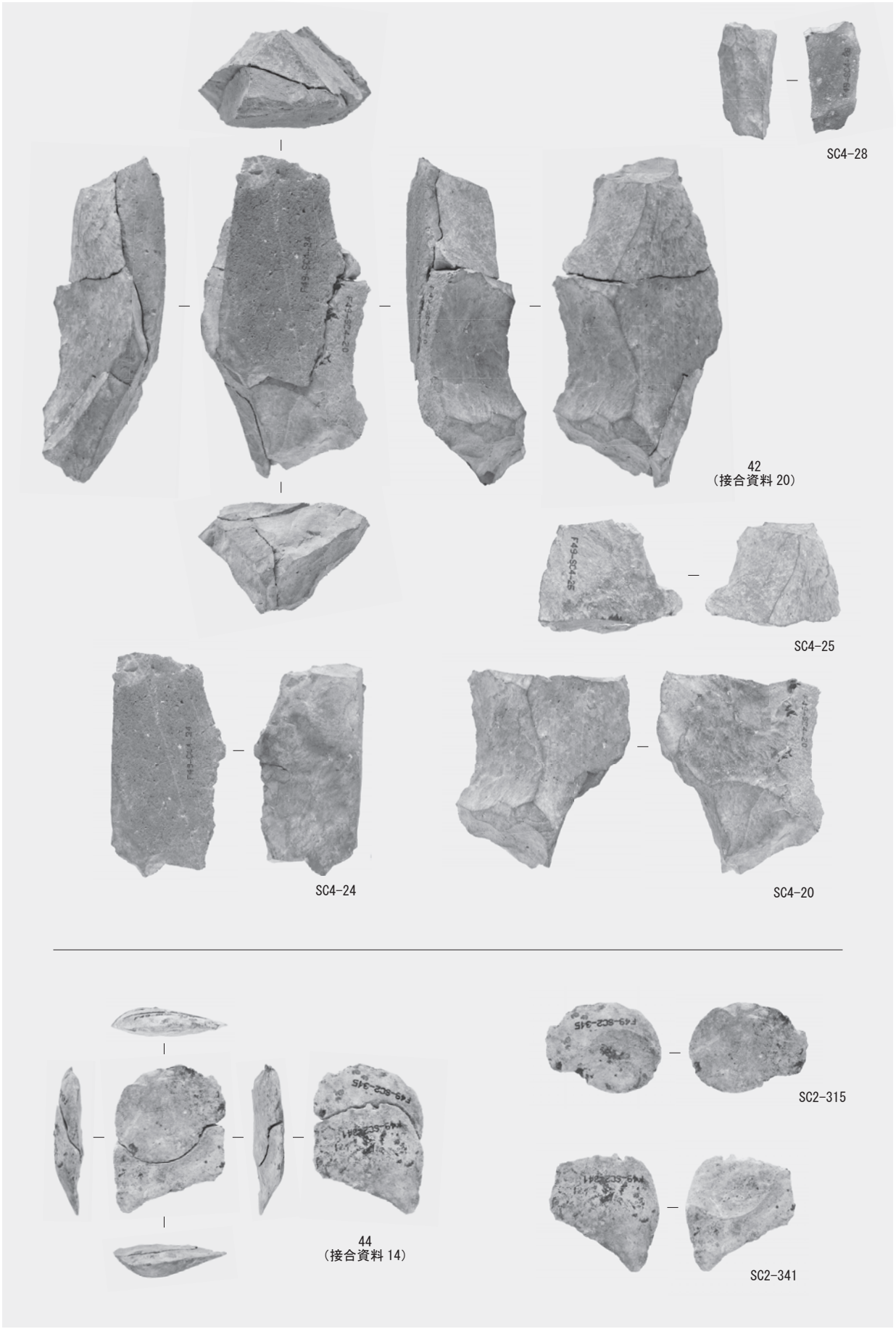
SC4-17

接合資料 13・19

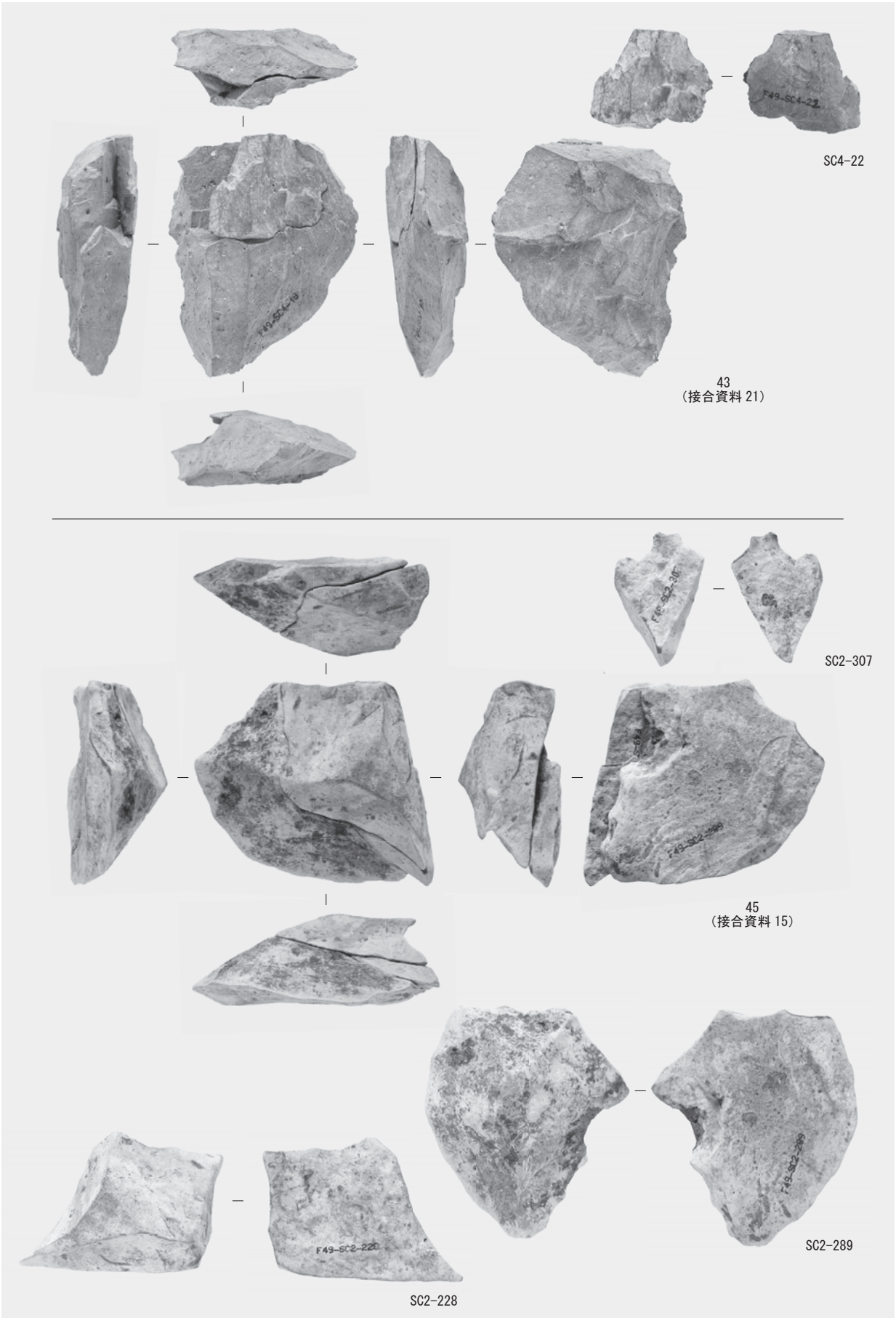


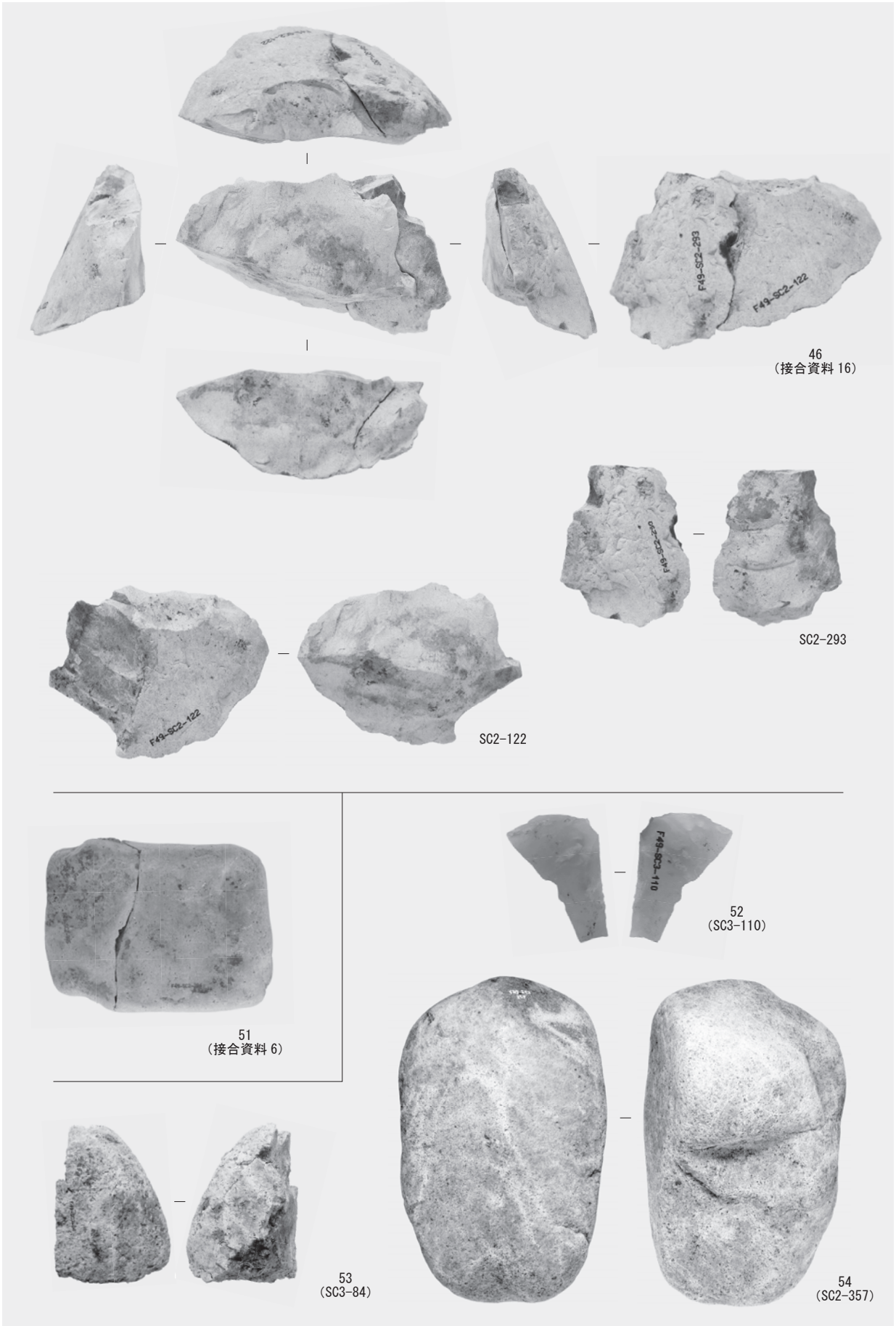
接合資料 17


SC2-107
SC2-161
SC2-169
SC2-200
SC2-362
SC2-187
SC2-209
SC2-204
SC2-222
SC2-214
SC2-232
SC2-288
SC2-261
SC2-235
SC2-276
SC2-351

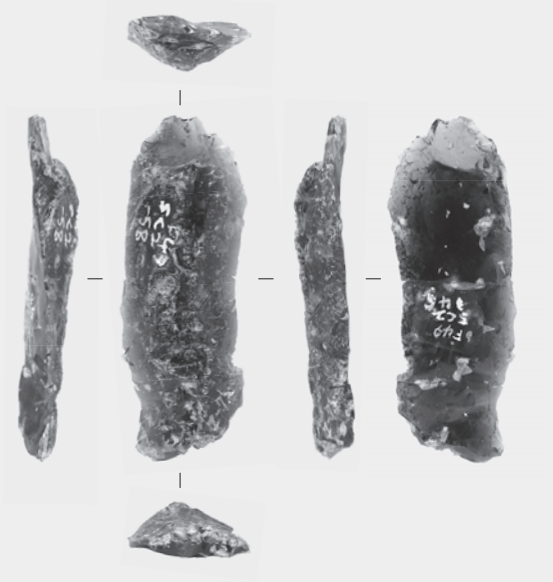


接合資料 14・20

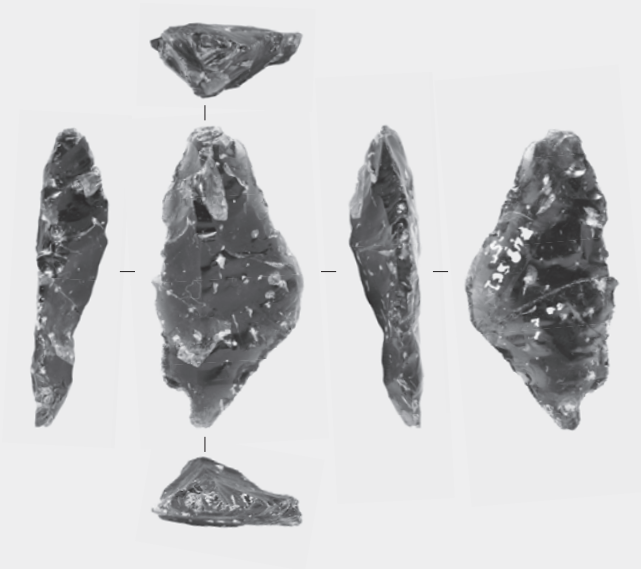

SC4-22
43
（接合資料 21）
SC2-307
45
（接合資料 15）
SC2-289
SC2-228



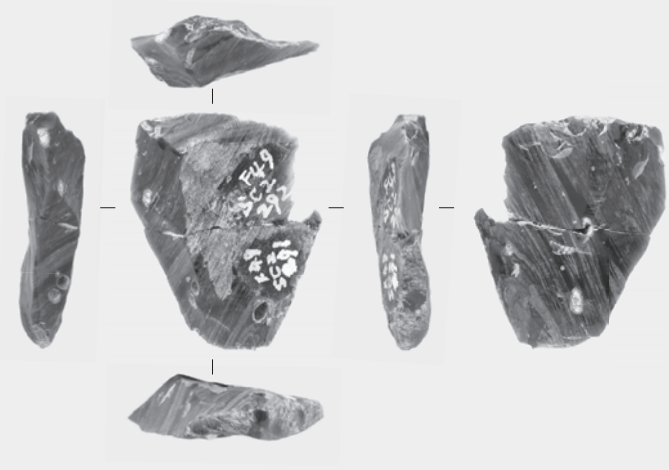
接合資料 6・16、ブロック外出土石器



47
（接合資料 7）

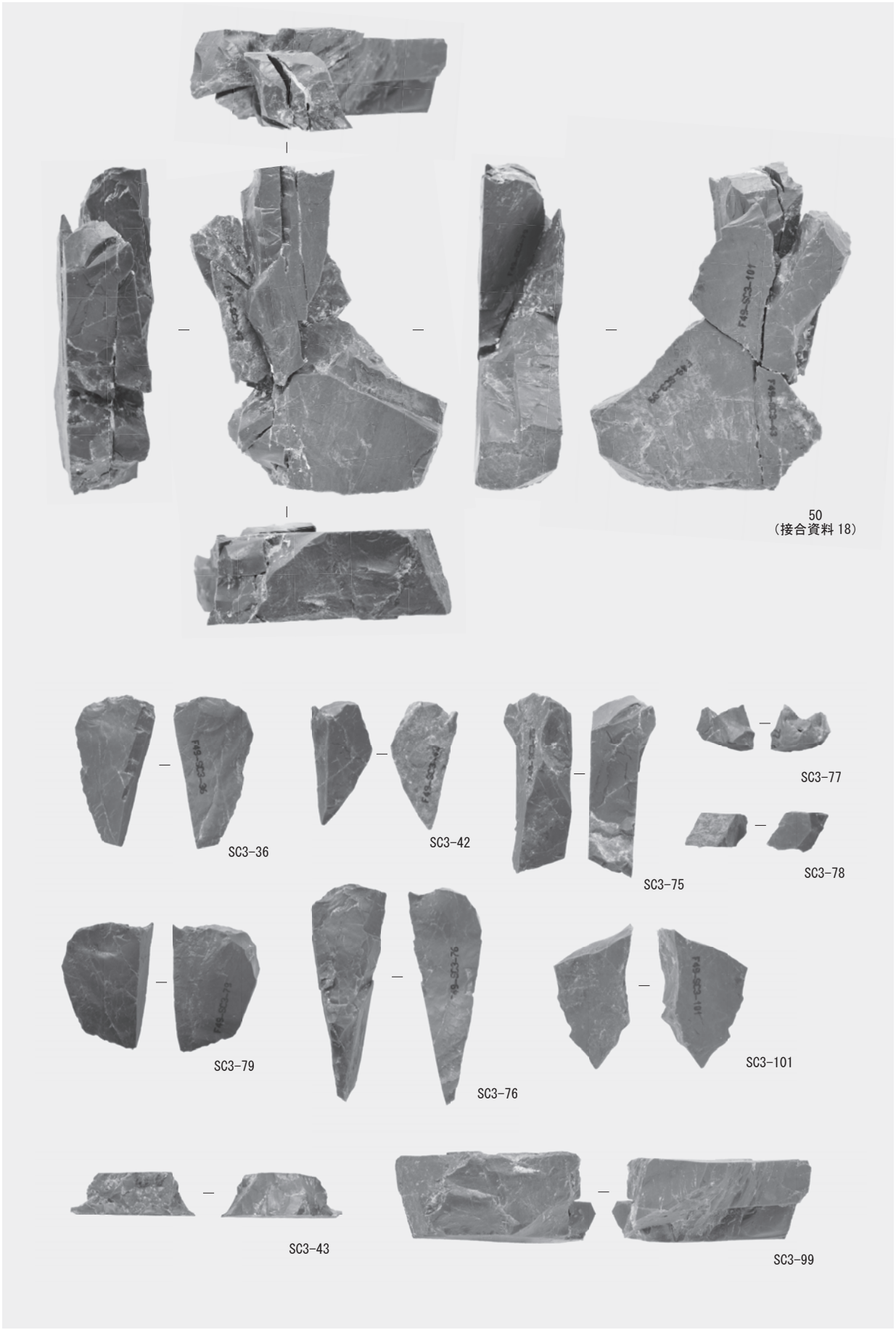


48
（接合資料 8）

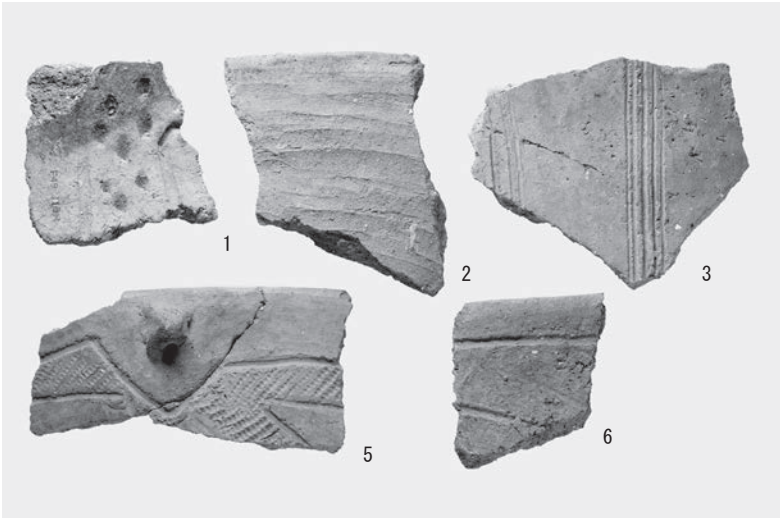


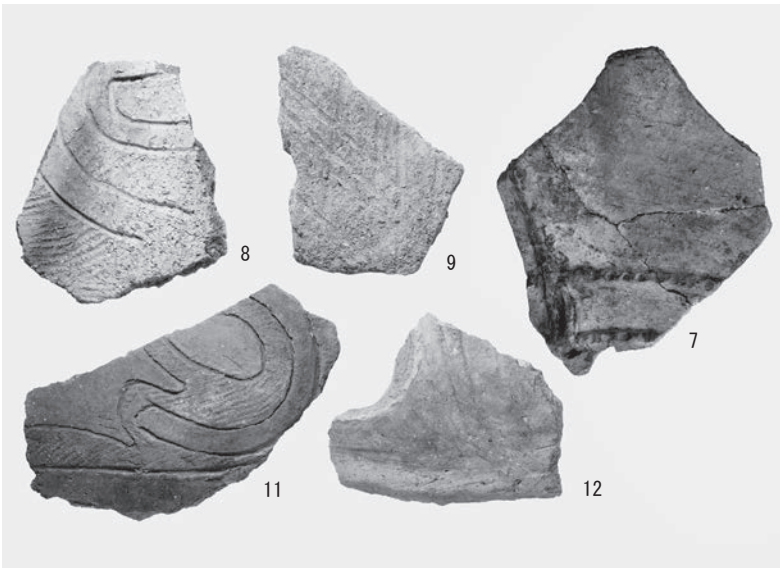
49
（接合資料 9）

接合資料 7・8・9

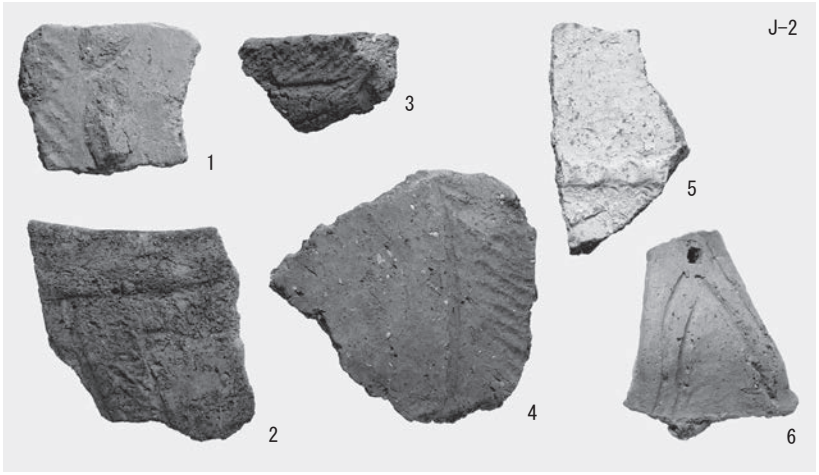

50
（接合資料 18）
SC3-36
SC3-42
SC3-75
SC3-77
SC3-78
SC3-79
SC3-76
SC3-101
SC3-43
SC3-99

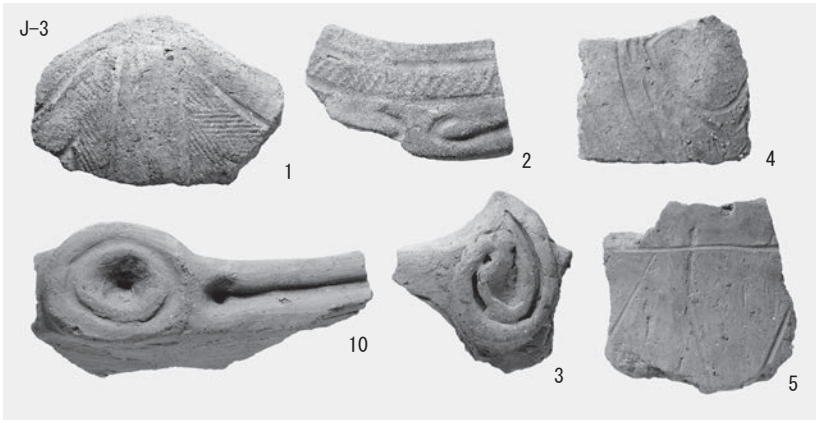
接合資料 18

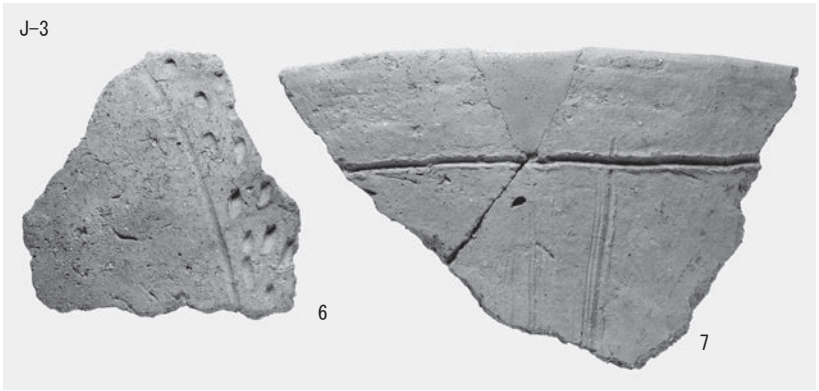




Ｊ－１号住居跡出土遺物

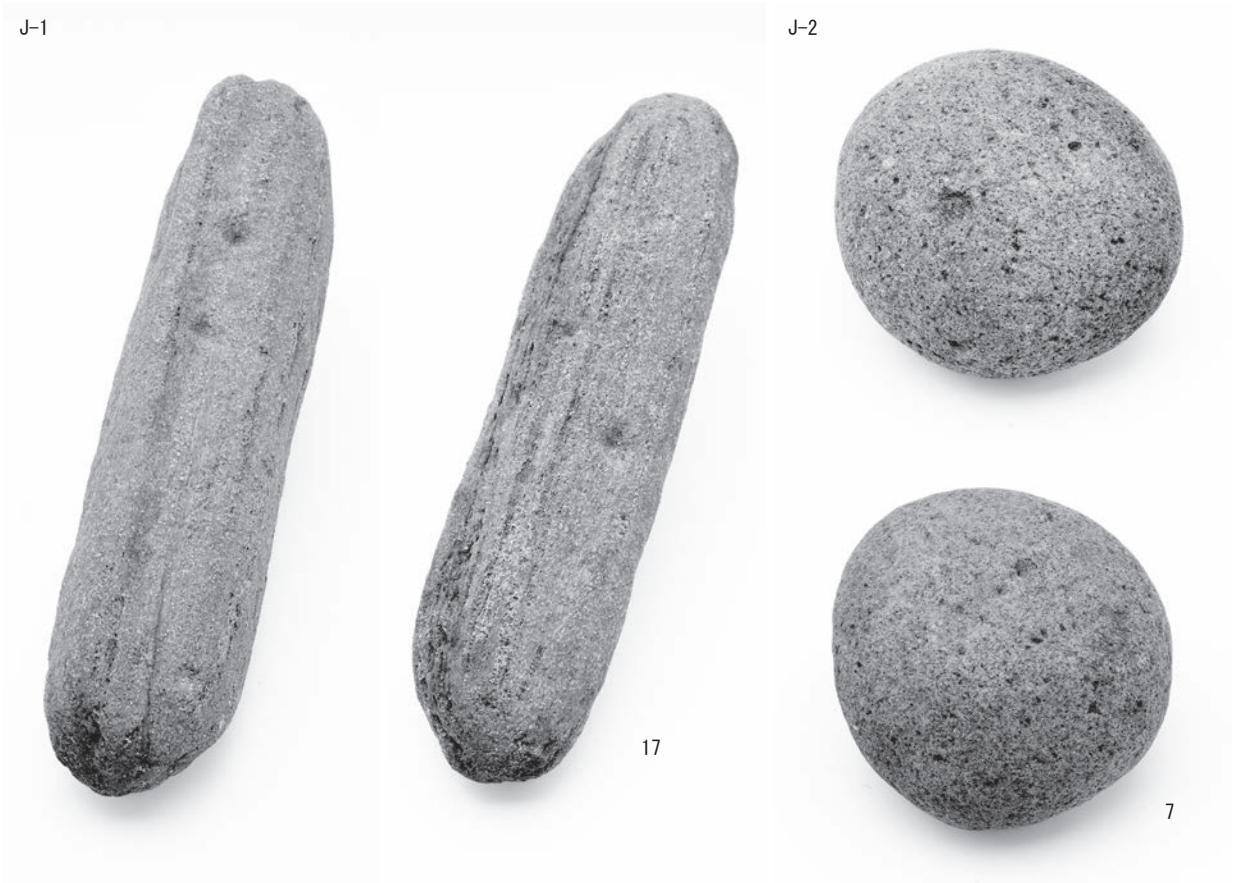




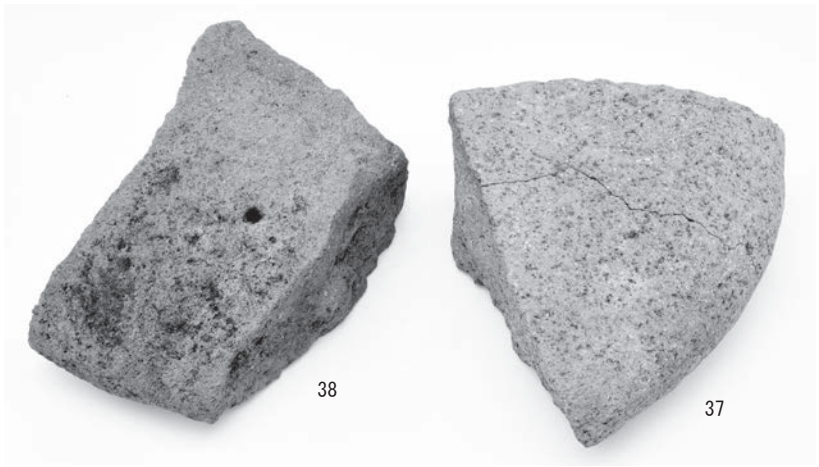


Ｊ－２・３号住居跡出土遺物

Ｊ－３号住居跡出土遺物



Ｊ－１・２号住居跡出土遺物



Ｊ－３号住居跡出土遺物

D-12

1

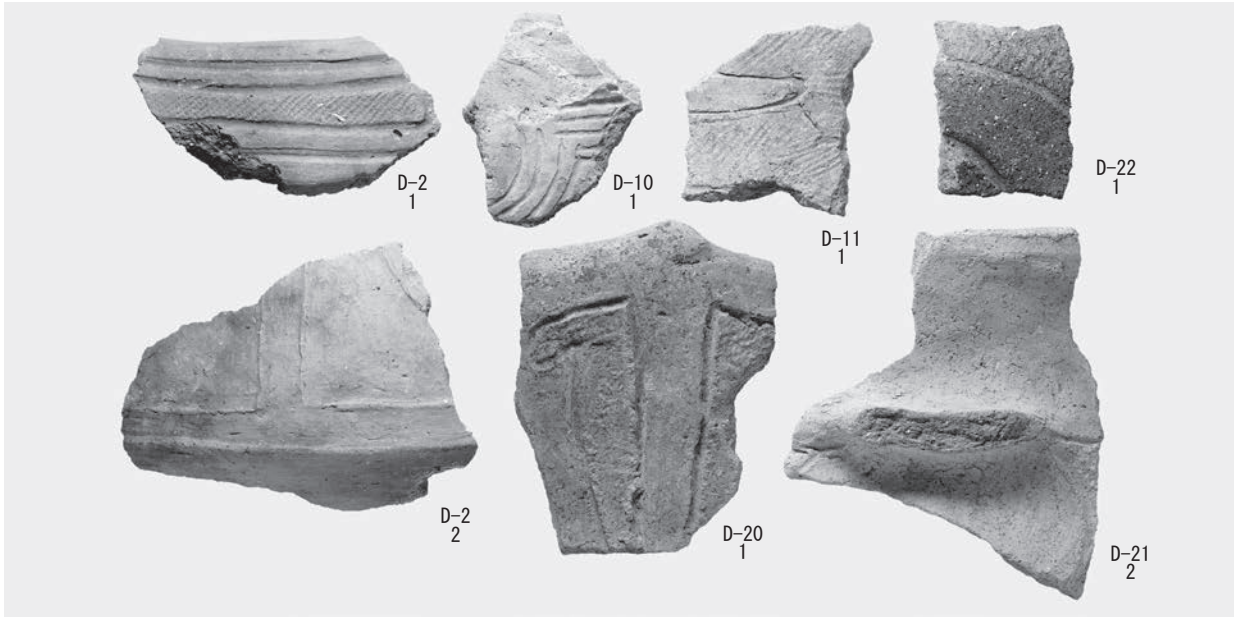
D-20

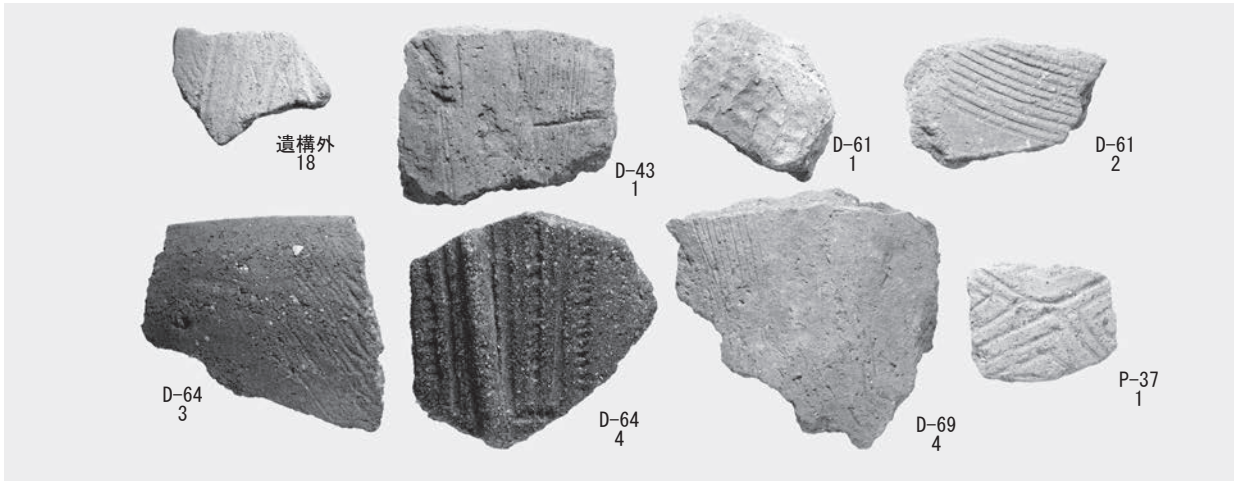
2

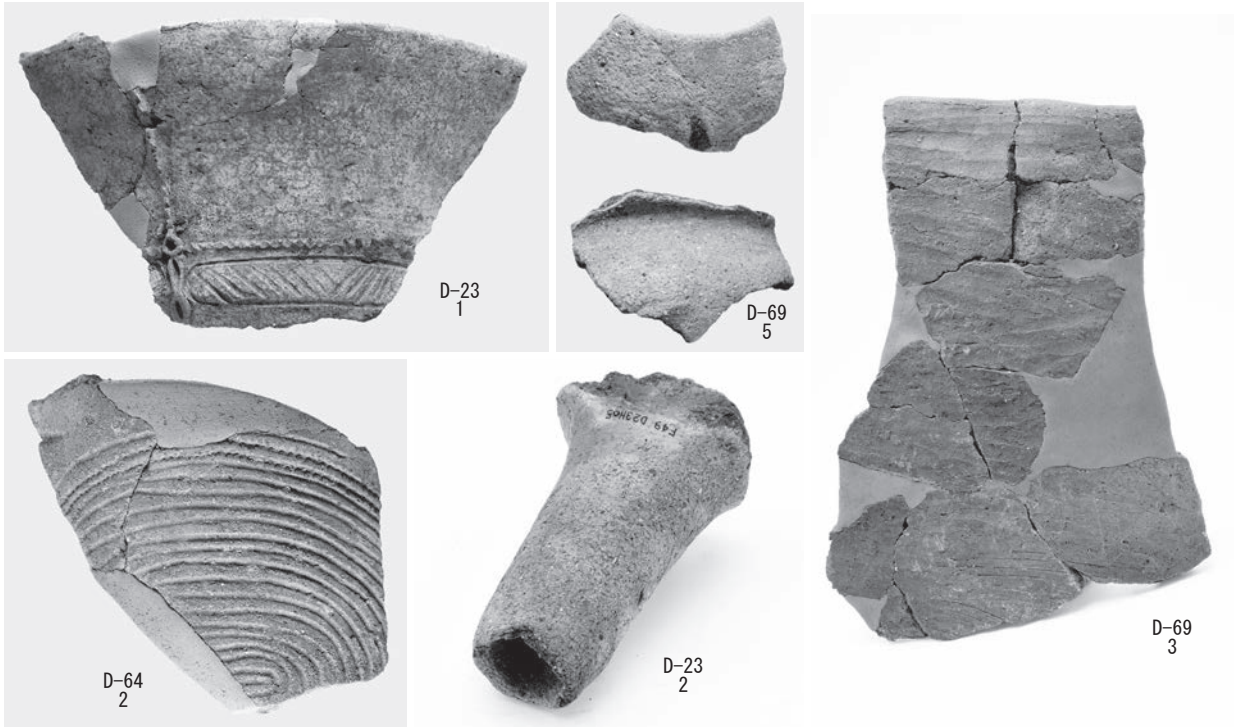
D-20

2の同一個体片

D -12・20 号土坑出土遺物





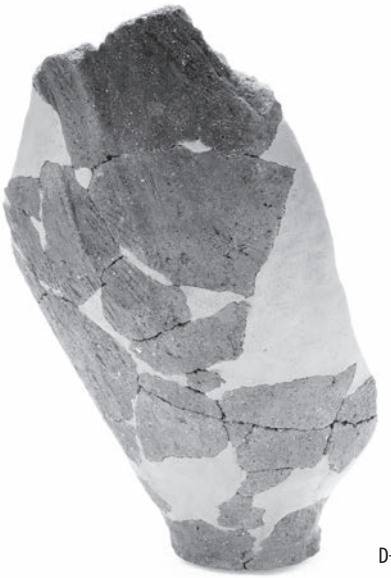


Ｄ－２・10・11・20・21・22・23・43・61・64・69 号土坑、Ｐ -37 号ピット、遺構外出土遺物

D-69
1

D-64
1

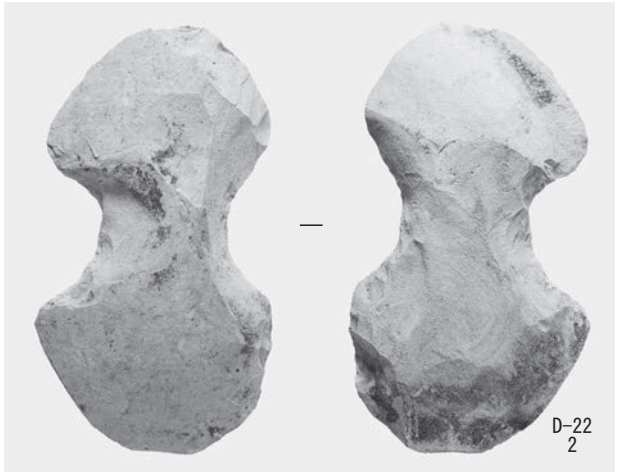
D-86
1



D-69
2

D-88
1

D -64・69・86・88 号土坑出土遺物


D–22
2

D–20
3

D–22
3

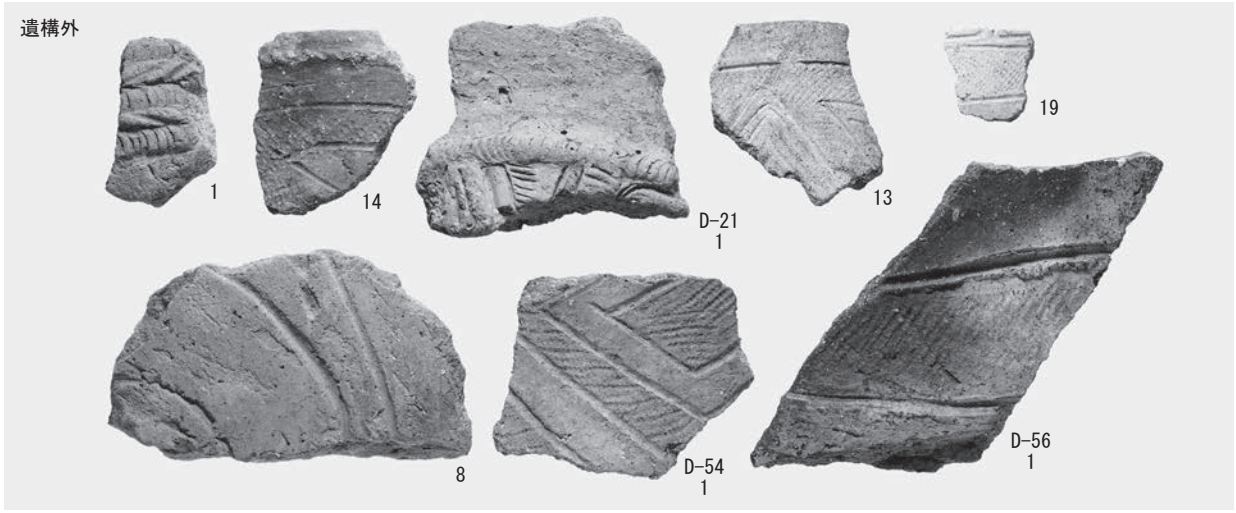
D–22
4

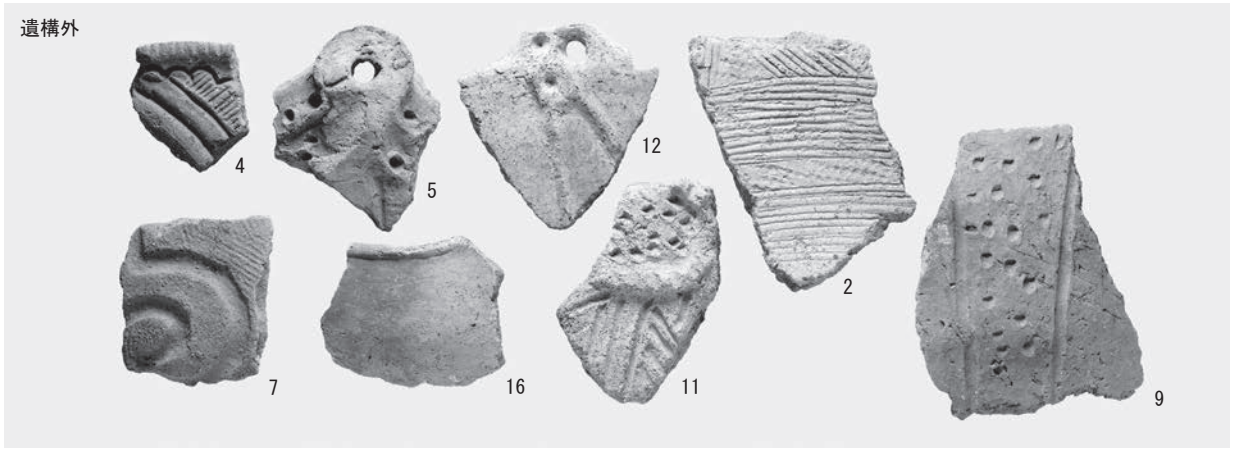
D–22
5

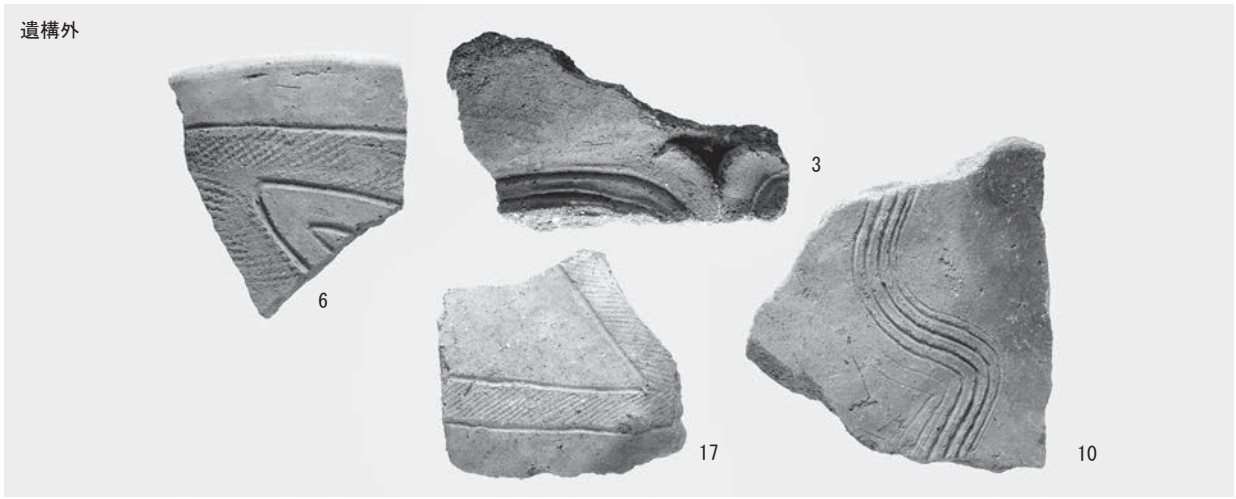
D–22
6

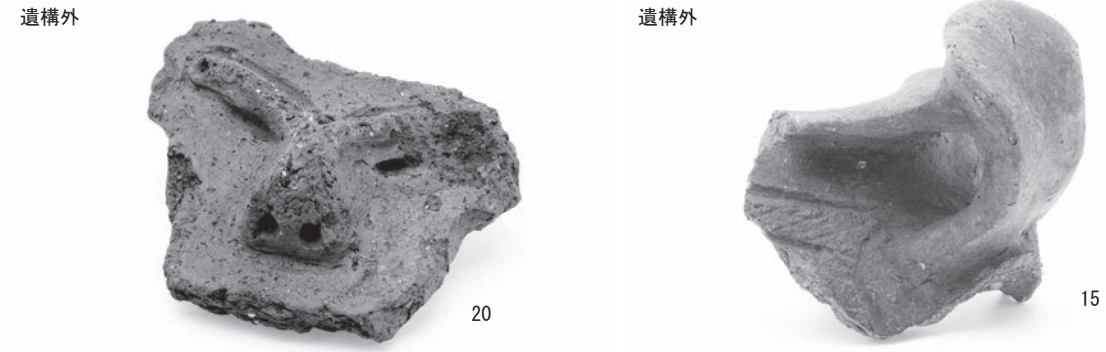
D–86
2

D –20・22・86 号土坑出土遺物



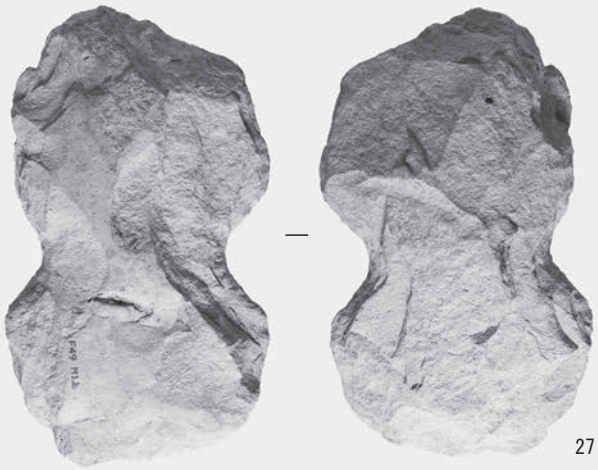




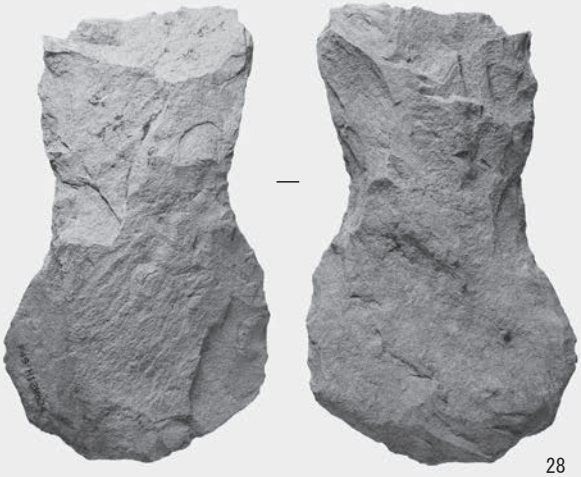


D -21・54・56 号土坑出土遺物、遺構外出土遺物

26



27

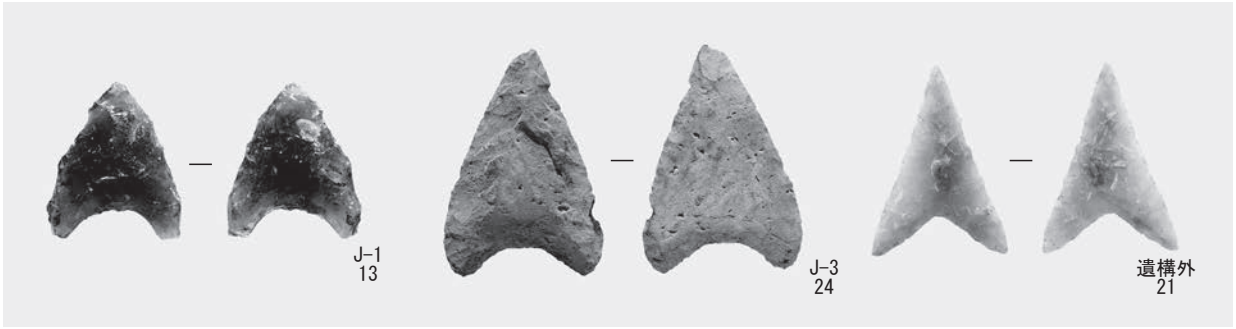


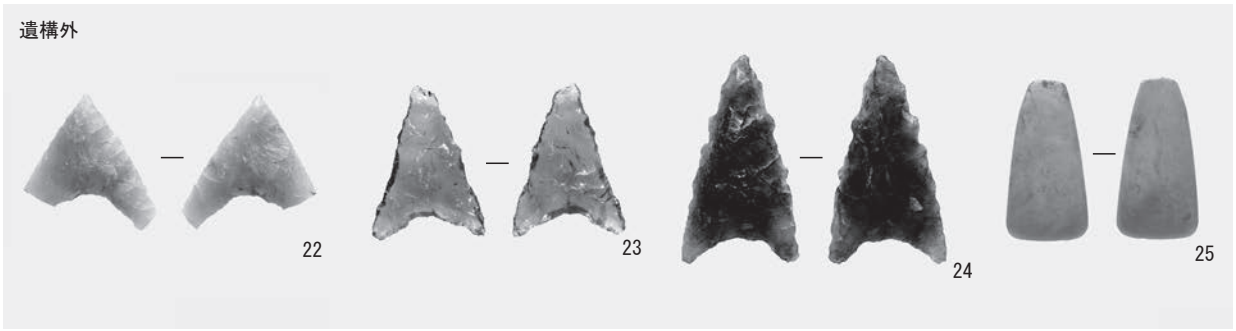
28

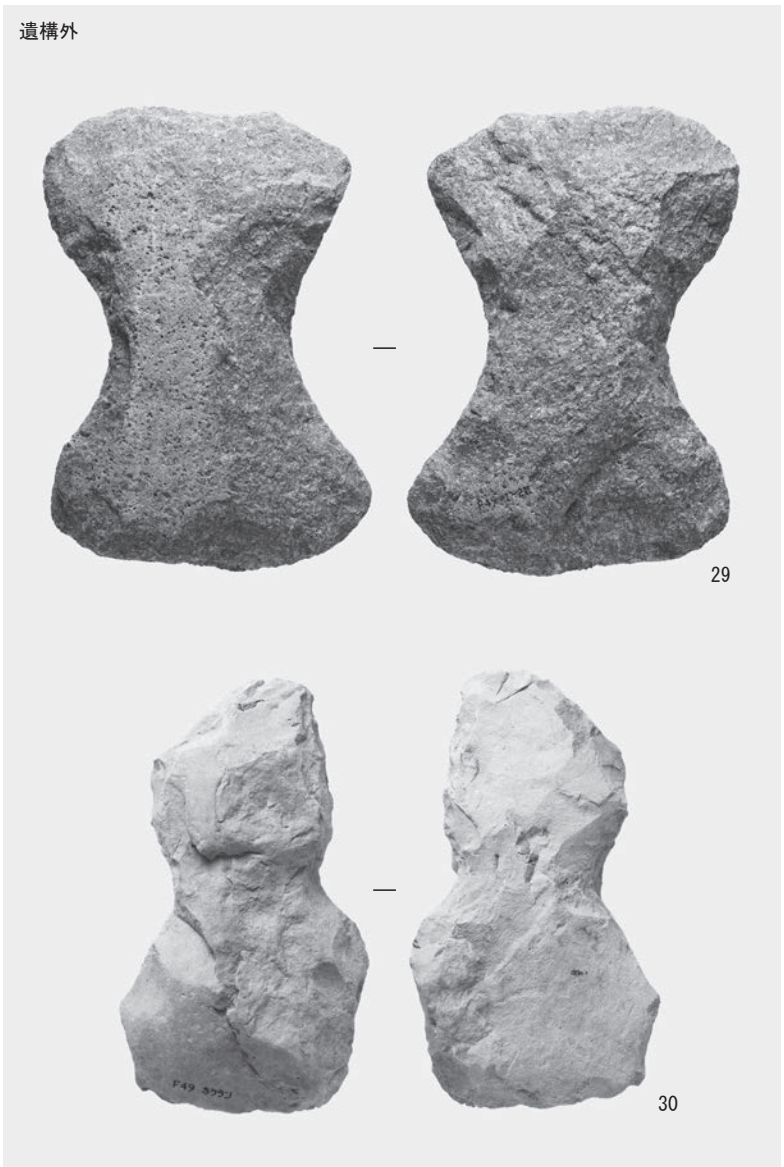
33

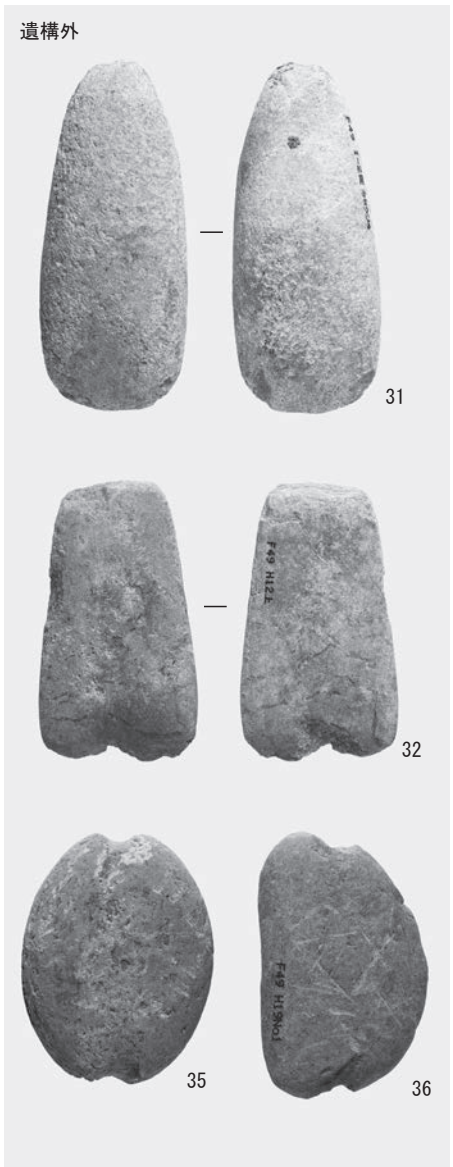
34

遺構外出土遺物









Ｊ－１・３号住居跡出土遺物、遺構外出土遺物

H-1
1

H-3
1

H-3
2

H-3
6

Ｈ－１・３号住居跡出土遺物

H-3
3

H-3
4

H-3
5

H-3
9

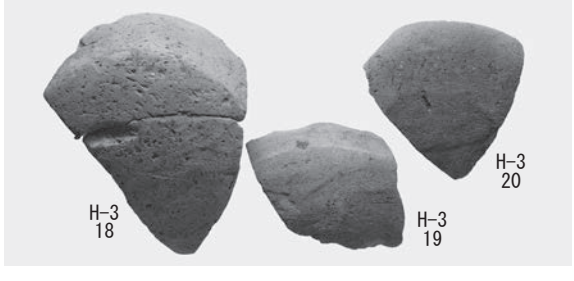
H-3
7

H-3
8

H-1
2

H-6
5

H-5
1


H-3
18

H-3
19

H-3
20

Ｈ－１・３・５・６号住居跡出土遺物

10

11

12

21

22

13

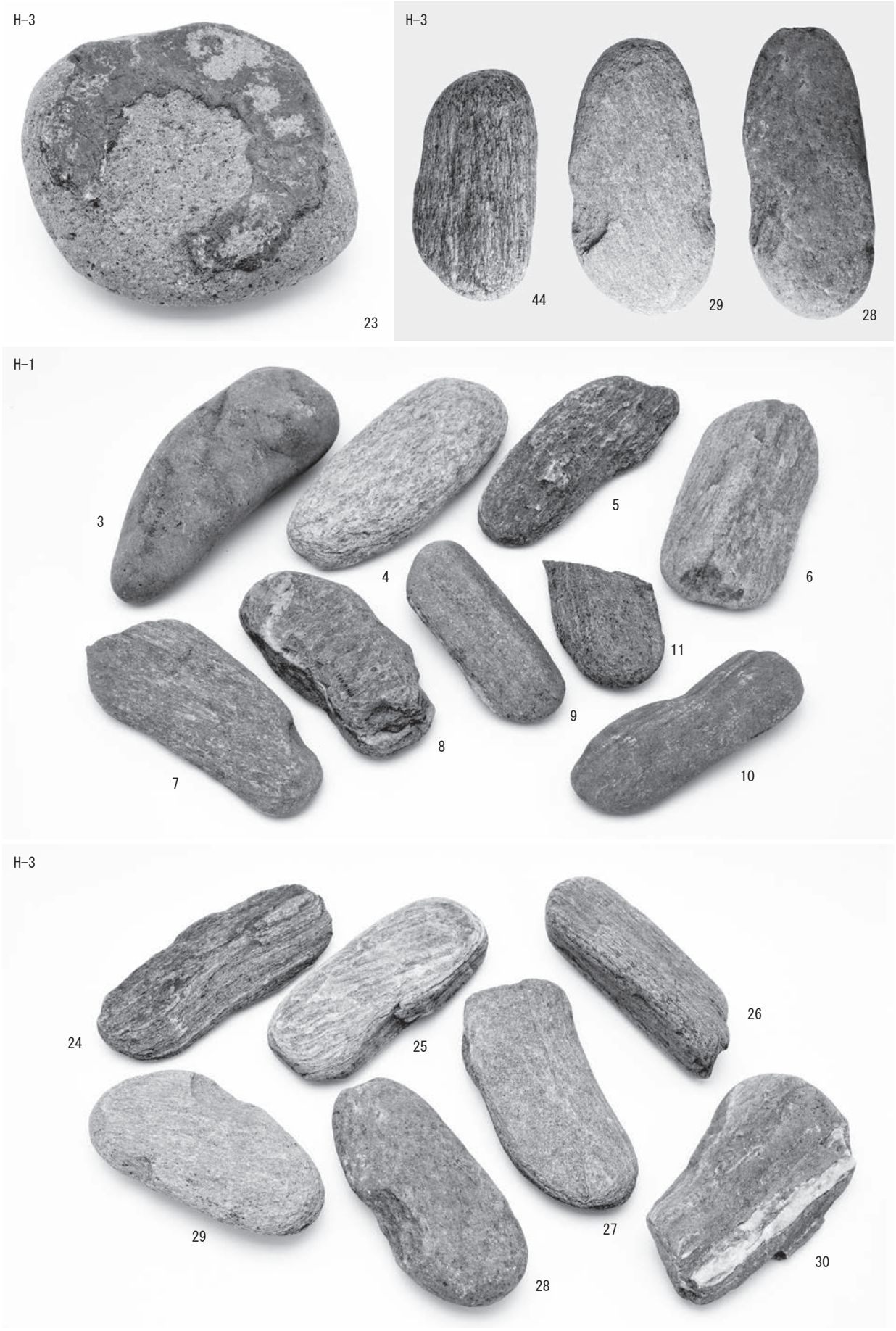
16

14

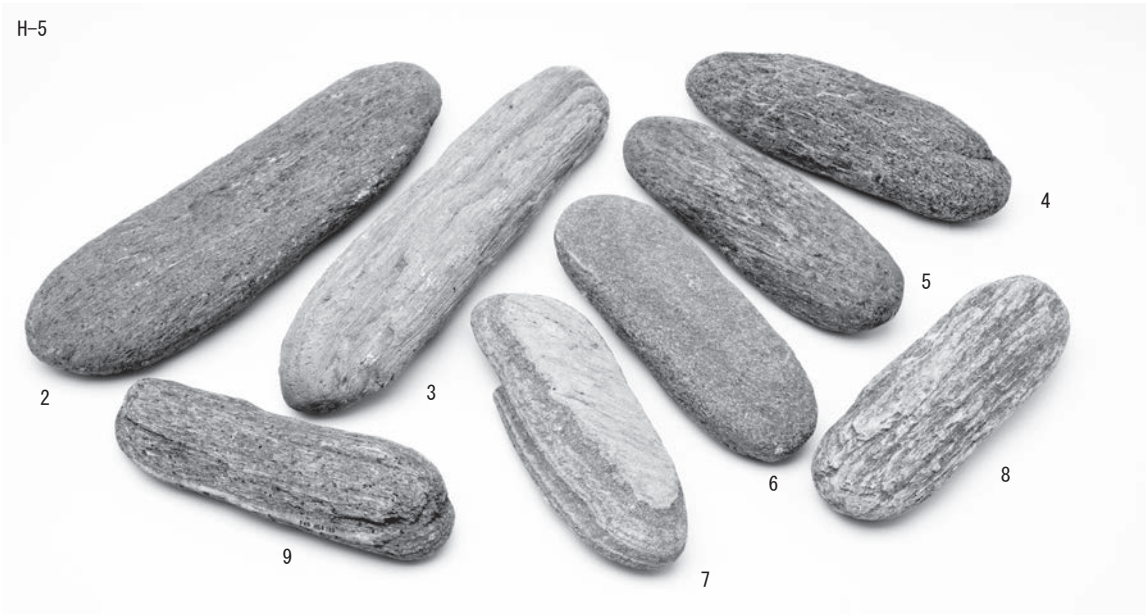
15

17

H－３号住居跡出土遺物

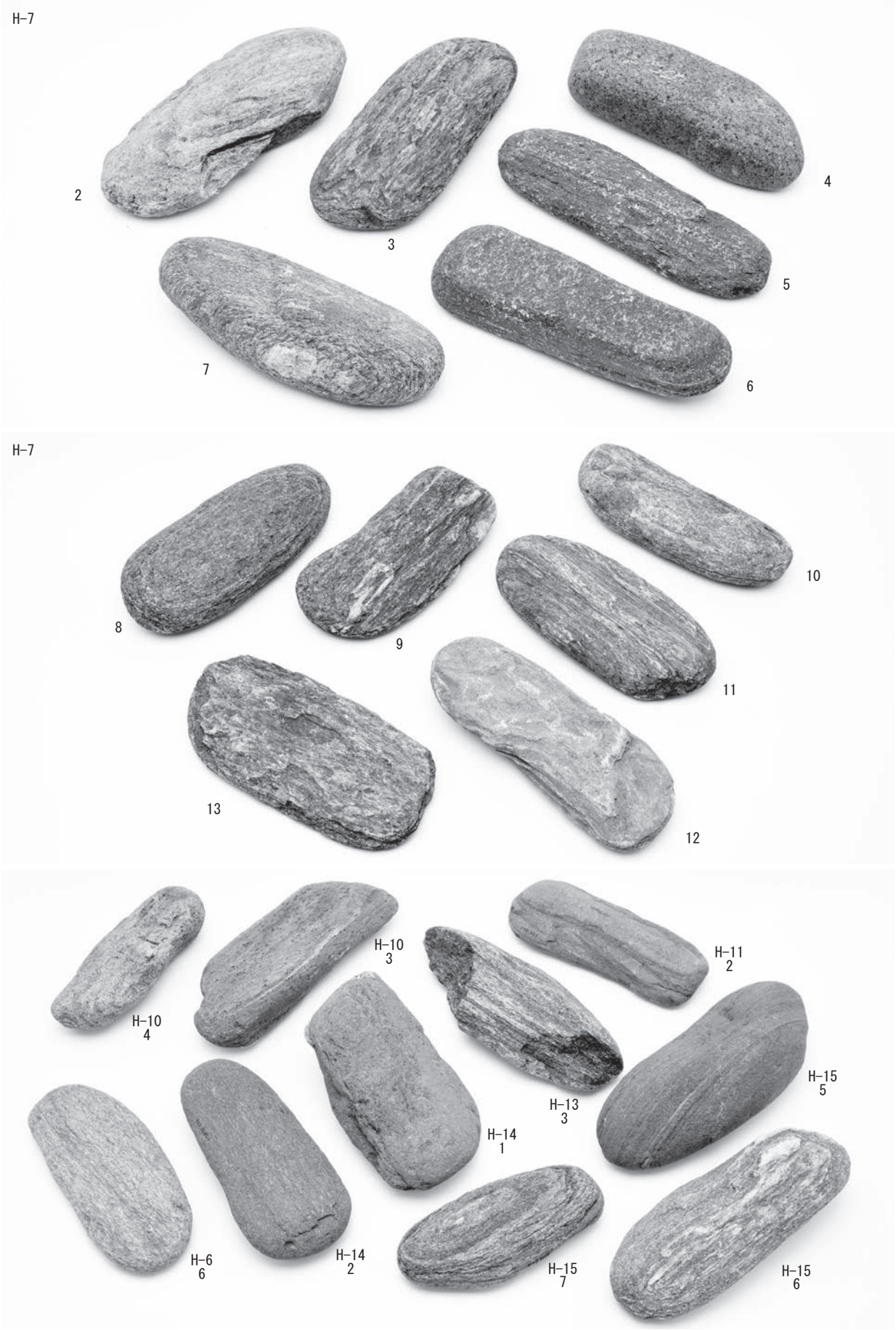


Ｈ－１・３号住居跡出土遺物



Ｈ－３・５号住居跡出土遺物

Ｈ－５・６号住居跡出土遺物



Ｈ－６・７・10・11・13・14・15 号住居跡出土遺物

H-6
3

H-6
4

H-7
1

H-8
2

H-8
1

H-8
5

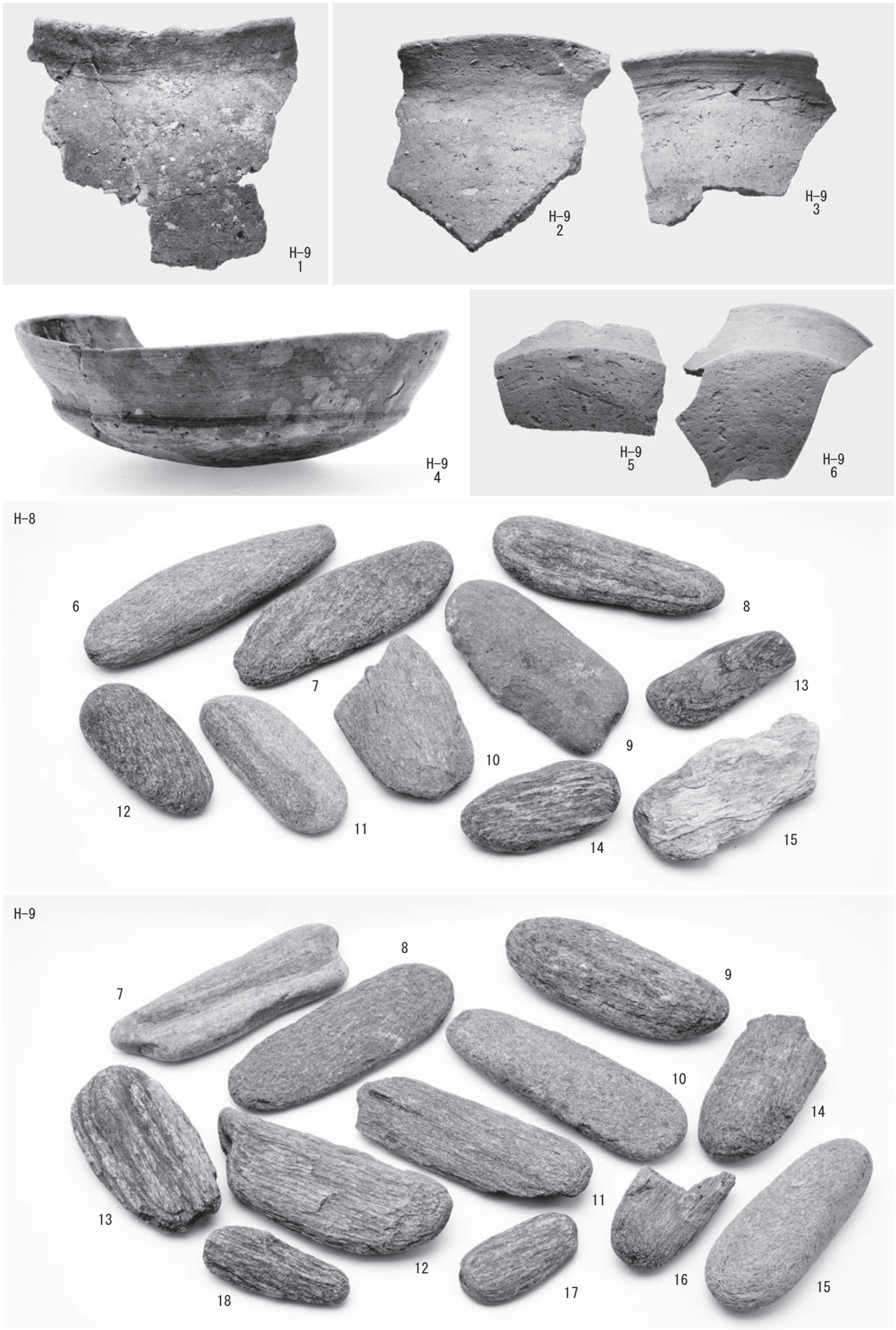
H-7
2

H-8
9

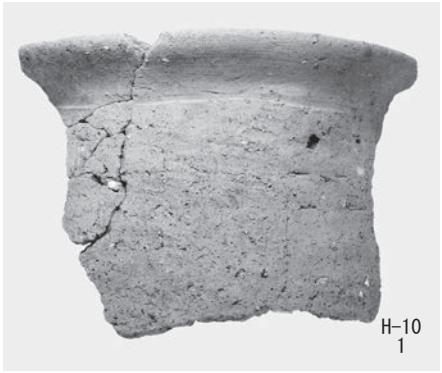
H-8
3

H-8
4

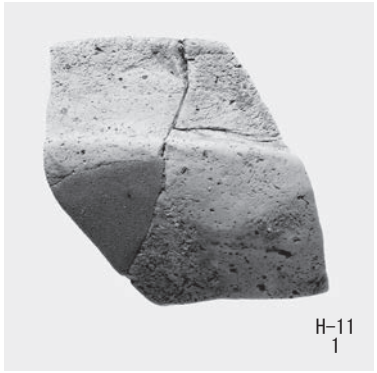
Ｈ－６・７・８号住居跡出土遺物



Ｈ－８・９号住居跡出土遺物


H-10
1

H-10
2


H-11
1

H-12
1

H-12
2

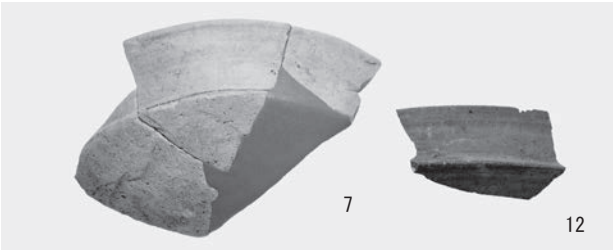
H-12
5

H-12
6

H -10・11・12 号住居跡出土遺物

3

4



7

12

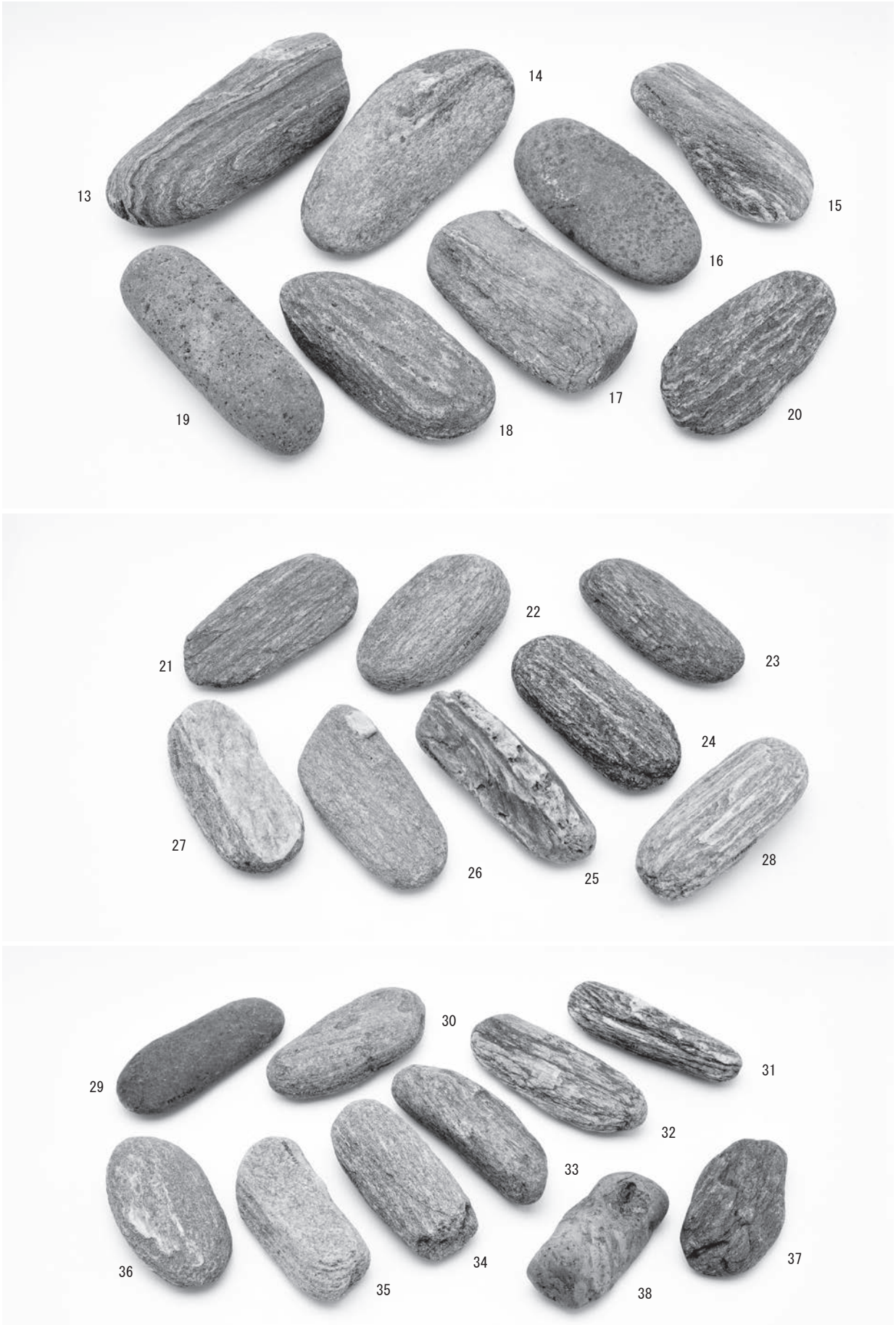
8

9

10

11

H -12 号住居跡出土遺物



H -12 号住居跡出土遺物

H-13
1

H-13
2

H-15
2

H-15
1

H-15
3

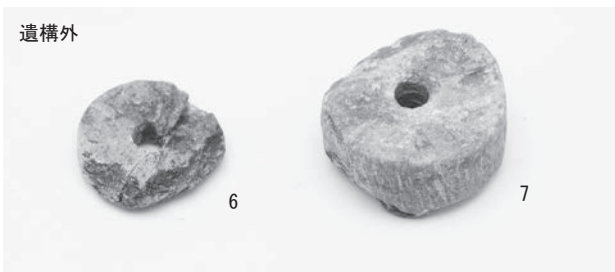
H-15
4

H-16
1

H-16
2

H-16
3

H -13・15・16 号住居跡出土遺物

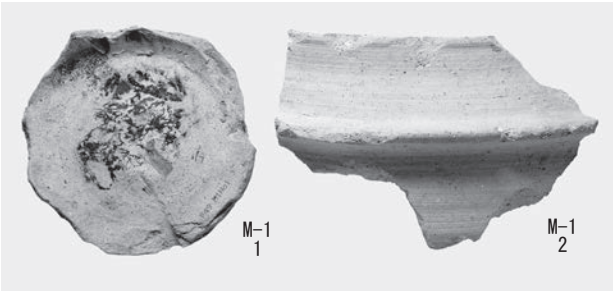


H -16 号住居跡出土遺物、遺構外出土遺物

Ｄ－６号土坑出土遺物

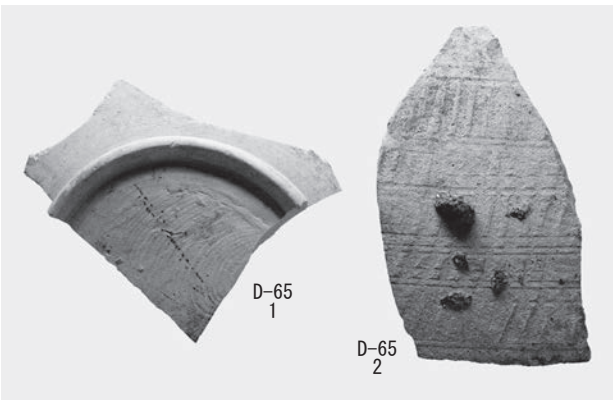
Ｈ－４・19 号住居跡出土遺物

H-4
8


M-1
1

M-1
2

H-4
12

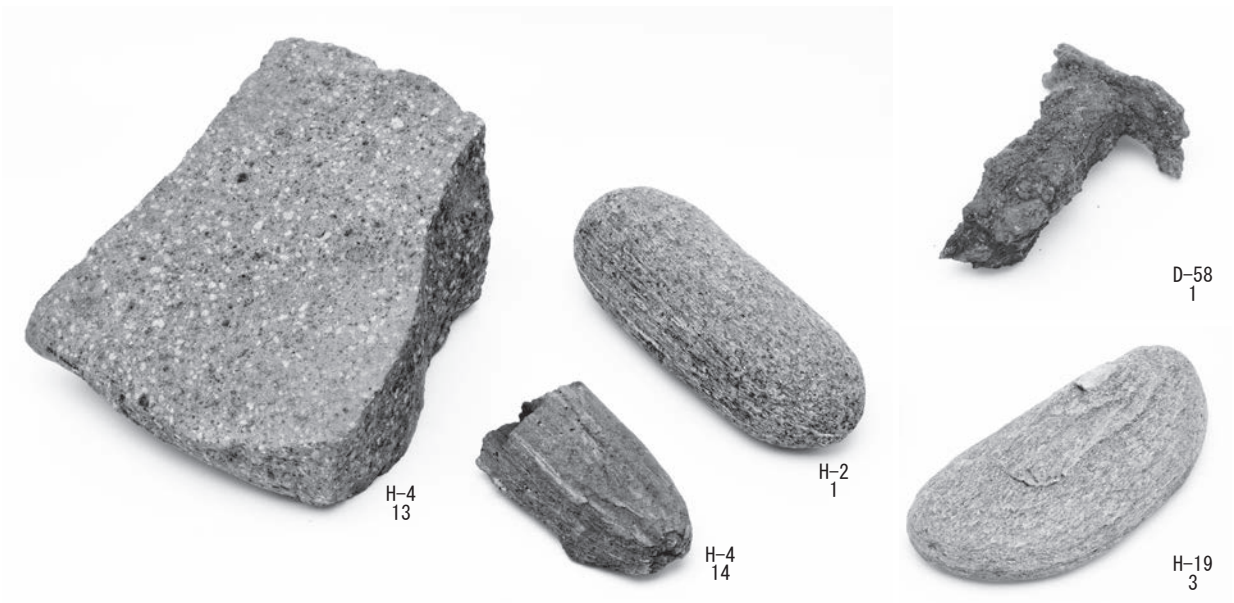

D-65
1

D-65
2

D-48
1

D-60
1

遺構外
1


H-4
13

H-2
1

D-58
1

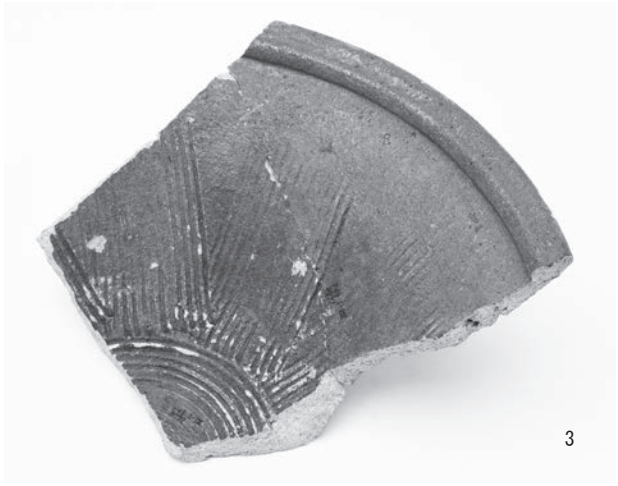
H-4
14

H-19
3

Ｈ－２・４・19 号住居跡出土遺物、Ｄ -48・58・60・65 号土坑出土遺物、Ｍ－１号溝出土遺物、遺構外出土遺物

Ｄ -17・37 号土坑出土遺物、Ｍ－ １号溝出土遺物

2



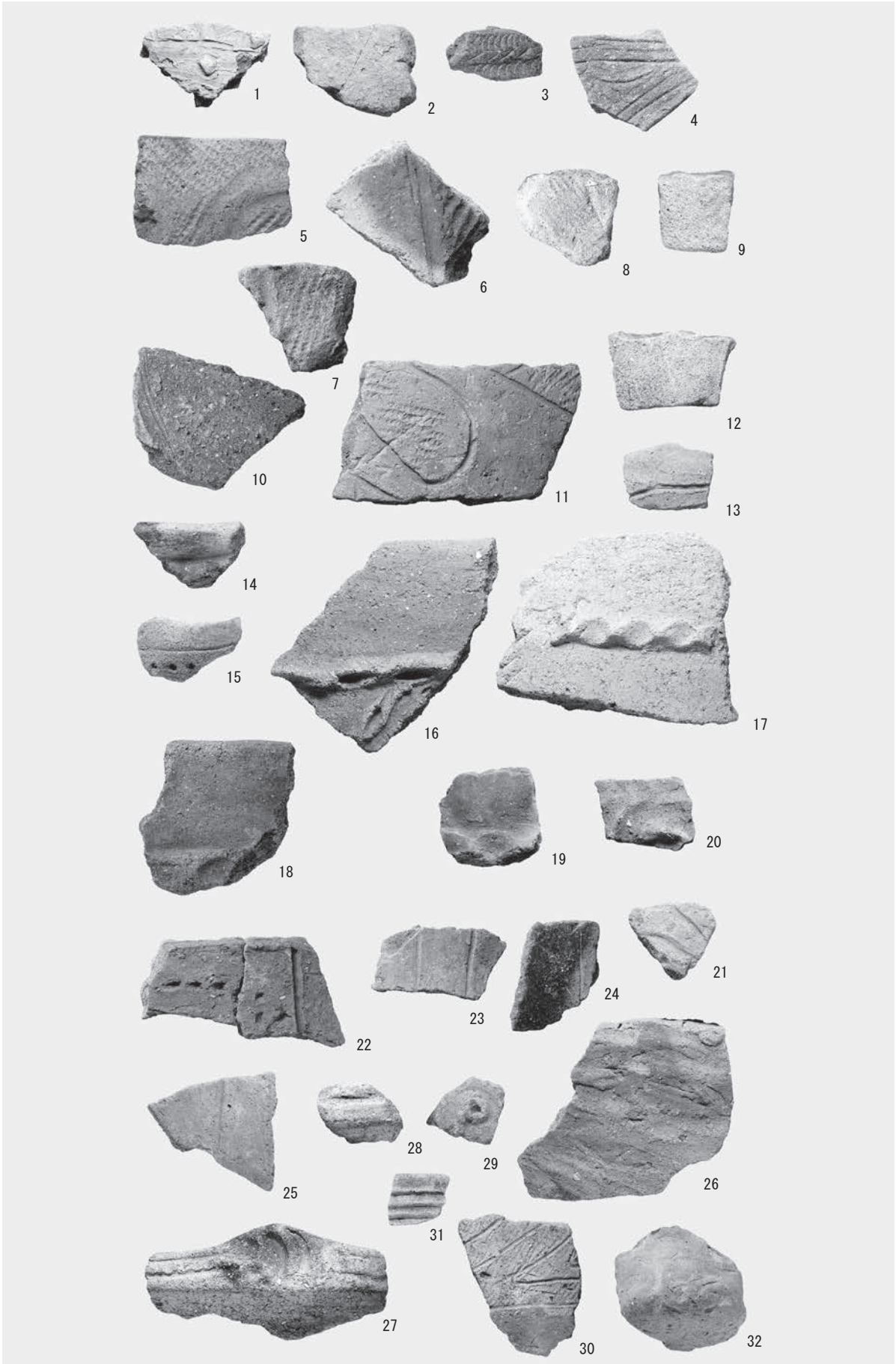
3

6

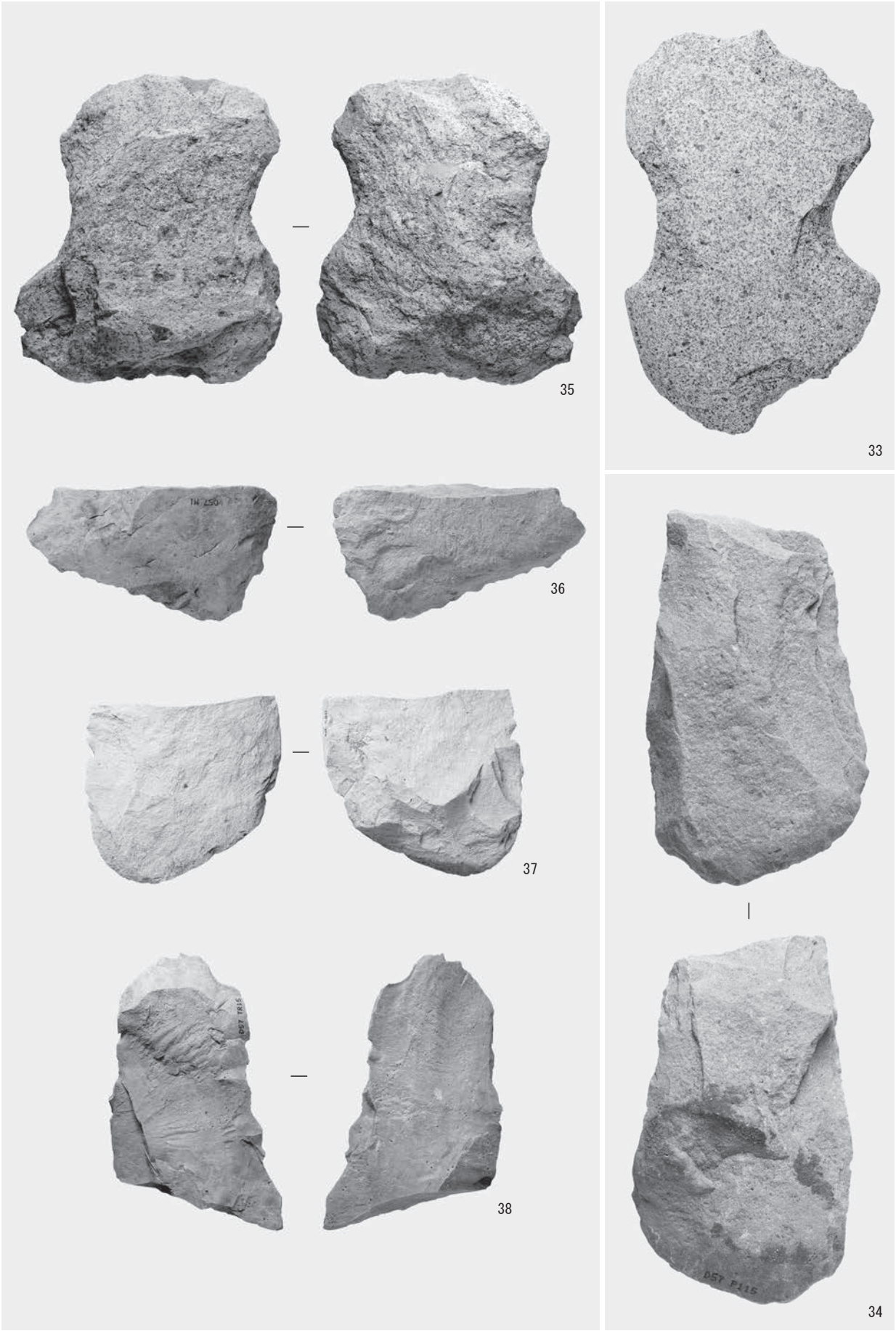
4

5

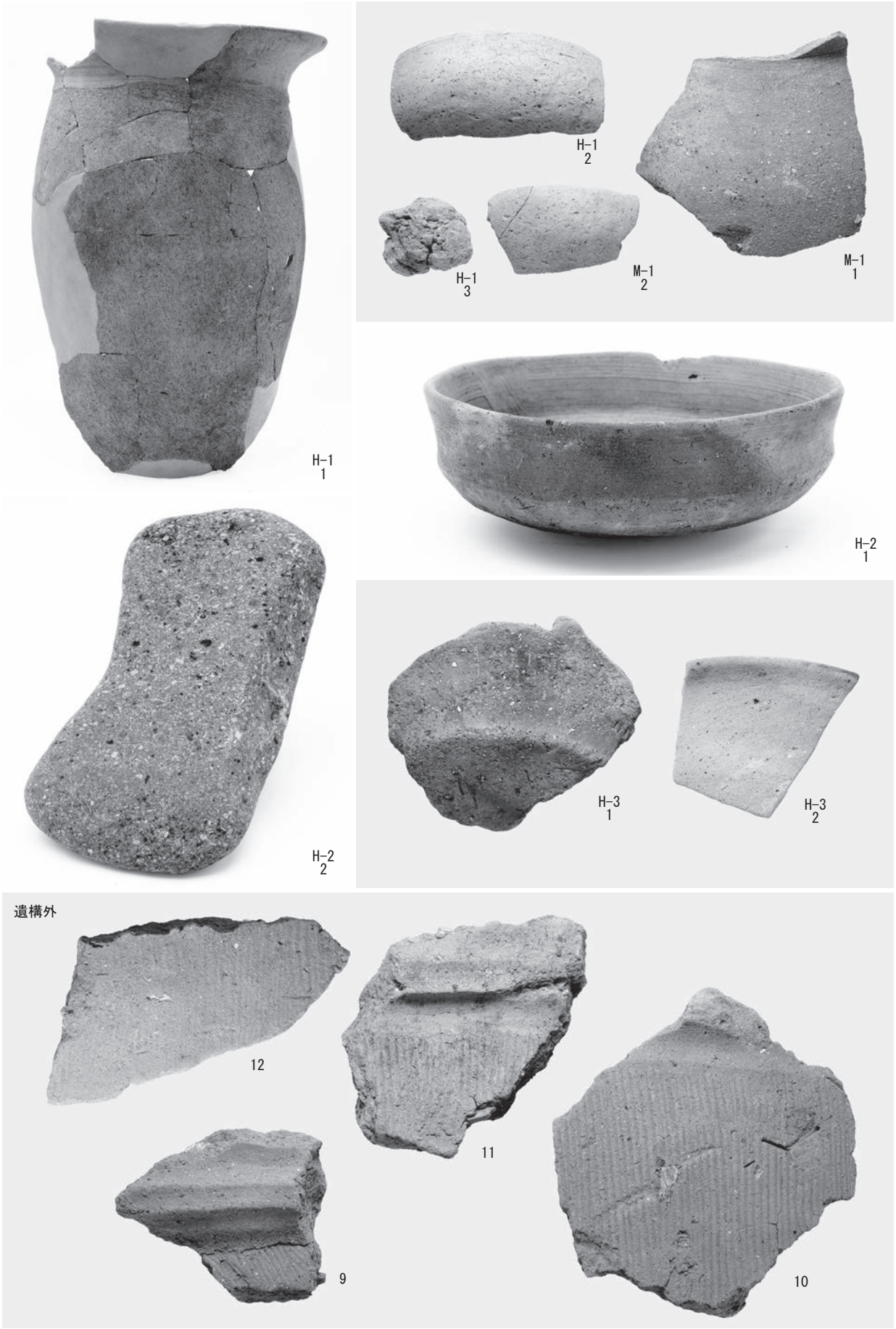
遺構外出土遺物


1
2
3
4
5
6
8
9
7
12
10
11
13
14
15
16
17
18
19
20
21
24
23
22
25
28
29
26
31
27
30
32

遺構外出土遺物



遺構外出土遺物



Ｈ－１・２・３号住居跡出土遺物、Ｍ－１号溝出土遺物、遺構外出土遺物

H-4
1

H-4
2

H-4
3

P-65
1

H-4
9

H-4
4

H-4
5

H-4
6

H-4
7

H-4
8

Ｈ－４号住居跡出土遺物、Ｐ-65 号ピット出土遺物

古墳時代

3

7

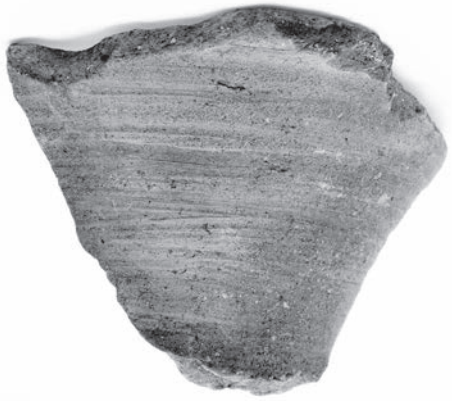
4

5

1

2

6

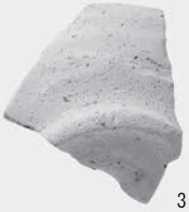

8

平安時代

1

2

4


3

遺構外出土遺物

報告書抄録

フ リ ガ ナ	みつぎひがしはらしーいせき　　かみおちあいななこしいせき
書　　名	Ｆ 49 三ツ木東原Ｃ遺跡　　Ｄ 57 上落合七輿遺跡
副 書 名	毛野国白石丘陵公園外周道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査
巻　　次	
シ リ ー ズ 名	
シリーズ番号	
編 著 者 名	井上勉　常深尚　髙橋清文　志村哲　山本千春　和久裕昭　春里桃子
編 集 機 関	有限会社 毛野考古学研究所 〒 379-2146　群馬県前橋市公田町 1002 番地１　　℡ 027-265-1804
発 行 機 関	群馬県藤岡市教育委員会
発 行 年 月 日	令和３年２月２６日

所収遺跡（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード		位置		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡	北緯	東経			
三ツ木東原Ｃ遺跡（みつぎひがしはらしーいせき）	群馬県藤岡市（ぐんまけんふじおかし） 白石・三ツ木（しろいし・みつぎ）	10209	Ｆ 49	36° 15′ 38″	139° 02′ 23″	20180619 ～ 20190228	2,331 ㎡	公園外周 道路建設
上落合七輿遺跡（かみおちあいななこしいせき）	群馬県藤岡市（ぐんまけんふじおかし） 上落合（かみおちあい）	10209	Ｄ 57	36° 15′ 40″	139° 02′ 16″	20180619 ～ 20190228	1.820 ㎡	公園外周 道路建設

所収遺跡	種　別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項
三ツ木東原Ｃ遺跡	集　落	旧石器時代	石器集中地点	４基	石器（ナイフ形石器・石核・敲石・台石）	AT 層下の暗色帯から後期旧石器時代前半の石器集中地点４箇所を検出し、うち１箇所では環状ブロック群が想定された。 ほかに、縄文時代後期の敷石住居跡、古墳時代後期６世紀後半以降の竪穴住居跡や土坑、平安時代の竪穴住居跡や土坑列、中世の溝を検出した。
	集　落	縄文時代	竪穴住居跡 土坑	３軒 21 基	縄文土器・土偶・石棒・石鏃・石斧・凹石・石皿・石錘	
	集　落	古墳時代	竪穴住居跡	14 軒	土師器・須恵器・円筒埴輪・土錘・臼玉・菰編石	
	集　落	奈良平安時代	竪穴住居跡 掘立柱建物跡 土坑（土坑列含む） 井戸跡 隧道状遺構	３軒 １棟 ３条 64 基 １基 １基	土師器・須恵器・灰釉陶器・羽釜・鷹編石・鉄釘	
	集　落	中近世 時期不明	柵 溝 竪穴状遺構 溝 ピット	２条 １条 １基 ２条 171 基	肥前、瀬戸、焙烙	
上落合七輿遺跡	集　落	縄文時代			縄文土器・石斧・削器	縄文時代の遺物散布。古墳時代後期６世紀前半の溝が検出され、七輿山古墳と関連が想定された。ほかに古墳時代後期や平安時代の竪穴住居跡、平安時代末の水田跡を検出した。
	集　落	古墳時代	竪穴住居跡 溝	２軒 １条	土師器・須恵器・円筒埴輪・磨石	
	集　落 生　産	平安時代以降	竪穴住居跡 土坑 ピット 水田跡	２軒 ７基 143 基 １面	土師器・須恵器・羽釜・鉄釘・鉄滓	

F 49　三ツ木東原C遺跡
D 57　上落合七輿遺跡

－毛野国白石丘陵公園外周道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査－

令和３年２月 25 日印刷
令和３年２月 26 日発行

編　集／有限会社毛野考古学研究所
発　行／群馬県藤岡市教育委員会
印　刷／朝日印刷工業株式会社